

沢 町 遺 跡

—余市二期地区道宮畑地帯総合土地改良事業余市町第1号幹線農道
町道沢町美園線舗装改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1989

北海道余市町教育委員会



余市町沢町遺跡空中写真



(1)遺跡遠景 (時田山より遺跡を望む)



(2)遺跡遠景 (南西より撮影)



(3)発掘風景 (東より撮影)



(1)南北セクション (G-22~21ライン北側)



(2)南北セクション (G-22~21ライン南側)



(1)SH-1 検出状況 (南東より撮影)



(1)SH-1 遺物出土状況 (南東側主柱穴周辺)



(3)SH-2 カマド検出状況 (中央より北西壁を撮影)



(1)SH-2 検出状況 (南西より撮影)



(2)SH-2 検出状況 (南東より撮影)



(3)SH-2 遺物出土状況 (カマド周辺、南側)



(1)SH-2 遺物出土状況 (南西壁側)



(2)SH-3 検出状況 (左下はGP-1、南東より撮影)



(3)SH-3 遺物出土状況 (南東壁際)



(1)SH-4 検出状況 (南東より撮影)



(2)SH-4 遺物出土状況 (南東壁際ピット内)



(3)SH-4 カマド検出状況 (中央より西壁を撮影)



(1)墓塚A群分布状況（北より撮影）



(2)墓塚A群分布状況（中央はSH-3）



(1)GP-1 石偶出土状況 (東より撮影)



(2)GP-7 検出状況 (北西より撮影)



(3)GP-13 礫出土状況 (南東より撮影)



(1)GP-15玉出土状況



(2)GP-20供献土器出土状況



(3)GP-20検出状況 (南西より撮影)



(4)GP-41遺物出土状況 (西より撮影)



(1)GP-42検出状況(北より撮影)



(2)GP-45石偶出土状況(SH-3より西へ撮影)



(3)GP-63勾玉出土状況(南西より撮影)



(1)GP-62腕輪、玉出土状況（北東より撮影）



(2)GP-62腕輪、玉出土状況（西より撮影）



(3)GP-70玉出土状況（西より撮影）



(1)GP-73土層断面(東より撮影)



(2)GP-73玉、握石出土状況(東より撮影)



(3)GP-80検出状況(北東より撮影)



(1)GP-84遺物出土状況(東より撮影)



(2)GP-143検出状況(北西より撮影)





沢町遺跡出土の玉類



GP1



GP45



104



102



103



98



100



99



101



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



右



左

沢町遺跡墓域出土の腕輪(GP-62)

序

近年、道内各地で行なわれております埋蔵文化財緊急発掘調査において、数多くの貴重な資料が出土し、話題を集めているところであります。

後志管内におきましても、小樽市の蘭島川改修事業、小樽市・余市町・仁木町の3市町にまたがる広域農道事業に関連した発掘調査に着手しており、木製品を中心に多数の遺物を出土し注目を集めております。

当余市町におきましては、50箇所の埋蔵文化財包蔵地が存在し、国指定の史跡フゴッペ洞窟からは鉄器・石器等の貴重な考古学的資料や壁画が発見され、古代の謎の解明に多少なりとも役立てていただいたものと思っております。

本調査は、道営畑地帯総合土地改良事業（余市二期地区）の実施に伴い、このルートにかかる沢町遺跡を発掘調査したものであります。

本遺跡の特徴的な出土品を幾つか上げますと、朱漆塗りの腕輪・櫛、143点の飾玉、大谷地式・堂林式・大洞BC式・上ノ国式・擦文式等の土器があり、全体として約11万点に及ぶ出土品と、縄文時代晩期の墓塚163基、擦文時代前期の住居址4軒、縄文時代晩期の土壇1基、野外炉5ヵ所等があり、貴重な資料として注目を集め大きな成果をあげております。

このような成果をあげることができましたのも、原因者であります北海道後志支庁の文化財に対するご理解とご協力によるものであり、ここに厚く感謝し、お礼を申し上げます。

また、文化庁、北海道教育庁、北海道埋蔵文化財センター、北海道開拓記念館、北海道大学等、関係機関の皆様には多くのご指導ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本町における沢町遺跡発掘調査の集大成として本書が刊行されることにより学問・教育の場で利用されるとともに、余市町の歴史・文化理解の一助として広くご活用いただければ幸いと存じます。

平成元年3月

余市町教育委員会
教育長職務代行者

教育次長 古川 義一

本文目次

序	xx	第6章 遺構外出土の遺物	117
第1章 調査概要	1	第1節 土器	117
第1節 発掘調査に至る経緯	1	第2節 石器	126
第2節 調査要項	1	第7章 表面採集遺物	146
第3節 調査体制	1	第1節 米坂コレクション	146
第4節 作業分担	2	第2節 土野コレクション	154
第5節 謝辞	3	第8章 分析	156
第2章 調査状況	7	第1節 沢町遺跡幕塚伴出炭化物の 放射性炭素年代測定結果報告	156
第1節 発掘調査の経過	7	第2節 余市町の遺跡出土須恵器の 蛍光X線分析	157
第2節 発掘調査の方法	8	第3節 余市町沢町遺跡出土のヒスイ 製玉類の産地分析	160
第3章 遺跡概要	10	第4節 沢町遺跡出土の動物遺体	175
第1節 遺跡の位置と周辺の環境	10	第5節 沢町遺跡の遺物包含層および 擦文住居床面から産出した花 粉・胞子について	177
第2節 余市沢町遺跡周辺の地形・地質 及び堆積構造	13	第6節 沢町遺跡出土の炭化植物種子 について	182
第4章 出土遺物の分類	25	第9章 結語	185
第1節 土器	25	付編 一覧表	189
第2節 石器	25		
第5章 検出遺構とその出土遺物	29		
第1節 検出遺構の概要	29		
第2節 住居址	29		
第3節 幕塚	49		
第4節 溝状遺構	115		
第5節 土城	115		
第6節 地床	115		

挿図目次

Fig. 1	余市町沢町遺跡の位置……………	5	Fig. 29	沢町遺跡 G P-1・2・8~10・ 12・18・19検出状況 (A群) ……	50
Fig. 2	沢町遺跡Grid配置図及び発掘調査区 ……	6	Fig. 30	沢町遺跡 G P-20・21・23・25・28・ 42検出状況 (A群) ……	51
Fig. 3	沢町遺跡の発掘区域と周辺の地形……………	8	Fig. 31	沢町遺跡 G P-45・50・54・59~68 検出状況 (A群) ……	52
Fig. 4	余市町西部地区遺跡分布図……………	11	Fig. 32	沢町遺跡 G P-69~74検出状況 (A群) ……	53
Fig. 5	遺跡発掘区における模式柱状図……………	15	Fig. 33	沢町遺跡 G P-75~79検出状況 (A群) ……	54
Fig. 6	余市沢町遺跡の土壌断面……………	16	Fig. 34	沢町遺跡 G P-80~83・87・163 検出状況 (A群) ……	55
Fig. 7	余市沢町遺跡発掘区における各層 の粒度分布……………	18	Fig. 35	沢町遺跡 G P-3~6・16・22・29 検出状況 (B群) ……	56
Fig. 8	余市沢町遺跡における各層 の中央粒径……………	19	Fig. 36	沢町遺跡 G P-30~37・40検出 状況 (C群) ……	56
Fig. 9	余市沢町遺跡 V層中の礫の粒径分布……………	19	Fig. 37	沢町遺跡 G P-7・13・17・38・39・ 41・43・44・46~49検出状況 (D群) ……	57
Fig. 10	余市沢町遺跡 V層中の礫の堆積構造……………	19	Fig. 38	沢町遺跡 G P-51~53・57検出 状況 (D群) ……	58
Fig. 11	沢町遺跡主要南北セクション……………	21	Fig. 39	沢町遺跡 G P-55・56・58・84~86・ 88~90検出状況 (D群) ……	59
Fig. 12	沢町遺跡主要東西セクション……………	23	Fig. 40	沢町遺跡 G P-91~98・100・102・136 検出状況 (D群) ……	60
Fig. 13	沢町遺跡遺構配置図……………	28	Fig. 41	沢町遺跡 G P-106~114検出状況 (D群) ……	61
Fig. 14	沢町遺跡 SH-1 検出状況……………	30	Fig. 42	沢町遺跡 G P-115~121・124・129・ 130検出状況 (D群) ……	62
Fig. 15	沢町遺跡 SH-1 出土の土器……………	32	Fig. 43	沢町遺跡 G P-122・123・125~127・ 137・138・145・148・151検出状況 (D群) ……	63
Fig. 16	沢町遺跡 SH-1 出土の土器……………	33			
Fig. 17	沢町遺跡 SH-1 出土の土器・ 紡錘車・石器……………	34			
Fig. 18	沢町遺跡 SH-2 検出状況……………	35			
Fig. 19	沢町遺跡 SH-2 出土の土器……………	36			
Fig. 20	沢町遺跡 SH-2 出土の土器・石器……………	38			
Fig. 21	沢町遺跡 SH-3 検出状況……………	39			
Fig. 22	沢町遺跡 SH-3 出土の土器……………	40			
Fig. 23	沢町遺跡 SH-3 出土の土器・石器……………	41			
Fig. 24	沢町遺跡 SH-4 検出状況……………	43			
Fig. 25	沢町遺跡 SH-4 出土の土器……………	45			
Fig. 26	沢町遺跡 SH-4 出土の土器……………	46			
Fig. 27	沢町遺跡 SH-4 出土の土器……………	47			
Fig. 28	沢町遺跡 SH-4 出土の土器・石器……………	48			

Fig. 44 沢町遺跡 G P-131~135・139~141・ 147検出状況(E群) ……………64	Fig. 61 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-26・29・34) ……………81
Fig. 45 沢町遺跡 G P-142~144・146・149・ 150・154~156検出状況(E群) ……………65	Fig. 62 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-37~40・42・43・47・48・50~53) ……82
Fig. 46 沢町遺跡 G P-99・101・103~105・ 128検出状況(F群) ……………66	Fig. 63 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-55・56・60・61・69) ……………83
Fig. 47 沢町遺跡 G P-153・157~161 検出状況(G群) ……………67	Fig. 64 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-70・72) ……………84
Fig. 48 沢町遺跡 G P-24・152検出状況 (群外) ……………68	Fig. 65 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-73~75・79) ……………85
Fig. 49 沢町遺跡溝状遺構検出状況……………69	Fig. 66 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-80・85) ……………86
Fig. 50 沢町遺跡 U P-1 検出状況……………70	Fig. 67 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-86・90・92・94~98) ……………87
Fig. 51 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-6・13・14・34・41・53・56) ………71	Fig. 68 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-99~101)……………88
Fig. 52 沢町遺跡墓城出土の土器(G P-20) ……72	Fig. 69 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-102・106・110)……………89
Fig. 53 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-60・61・72・73・78) ……………73	Fig. 70 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-111・112・114)……………90
Fig. 54 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-62) ……………74	Fig. 71 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-116~118・120・121・124・130・ 131)……………91
Fig. 55 沢町遺跡墓城出土の土器(G P-79・ 80・84・86・91・94・95・98・101・107・109) ……75	Fig. 72 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-133・134・138~140・142~145・ 147・148) ……………92
Fig. 56 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-111・122・127・131・140・141) ……76	Fig. 73 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-149~153・155~157) ……………93
Fig. 57 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-142・143・149)……………77	Fig. 74 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-158・160) ……………94
Fig. 58 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-150・152・157~159・161・163) ……78	
Fig. 59 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-3・5・6) ……………79	
Fig. 60 沢町遺跡墓城出土の土器 (G P-7・13・17・20) ……………80	

Fig.75 沢町遺跡墓城 (GP-161) 及び溝状遺構出土の土器……………95	Fig.87 沢町遺跡遺構外出土のⅣ～Ⅵ群土器 (1～24)……………118
Fig.76 沢町遺跡墓城出土の遺物 (GP-1・7・12～15・17・23・25・29・31・ 34・42・43・45・48・49・51・53)……………96	Fig.88 沢町遺跡遺構外出土のⅤ・Ⅵ群土器 (25～43)……………119
Fig.77 沢町遺跡墓城出土の遺物 (GP-54・57・60・62・63・70)……97	Fig.89 沢町遺跡遺構外出土のⅣ・Ⅴ群土器 (44～71)……………120
Fig.78 沢町遺跡墓城出土の遺物 (GP-73・76・78～80・84・86・ 92・96・100・102・103・106・108・ 110・114・117・118・122)……………98	Fig.90 沢町遺跡遺構外出土のⅤ群土器 (72～86)……………121
Fig.79 沢町遺跡墓城 (GP-140・141・ 143・159・161) 及び溝状遺構 出土の遺物……………99	Fig.91 沢町遺跡遺構外出土のⅤ・Ⅵ群土器 (87～115)……………122
Fig.80 沢町遺跡墓城出土の凹石・握石・石斧 (GP-5・7・13・39・42・48)……………100	Fig.92 沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器 (116～146)……………123
Fig.81 沢町遺跡墓城出土の握石・石製品・ 敲石 (GP-51・53・56～58・60 62・64・70)……………101	Fig.93 沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器 (147～181)……………124
Fig.82 沢町遺跡墓城出土の敲石・石斧・砥石 (GP-72)……………102	Fig.94 沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器 (182～209)……………125
Fig.83 沢町遺跡墓城出土の握石・岩偶・ 敲石・凹石 (GP-73～77)……………103	Fig.95 沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器 (210～232)……………126
Fig.84 沢町遺跡墓城出土の敲石・握石 石斧・凹石 (GP-80・81・94・ 101・106・112)……………104	Fig.96 沢町遺跡遺構外出土のⅠ群石器 (1～61)……………127
Fig.85 沢町遺跡墓城出土の砥石・握石 (GP-121)……………105	Fig.97 沢町遺跡遺構外出土のⅠ群石器 (62～132)……………128
Fig.86 沢町遺跡墓城 (GP-132・134・140・ 149・153・161・162) 及び溝状遺構 出土の握石・凹石・石斧・敲石……………106	Fig.98 沢町遺跡遺構外出土のⅠ群石器 (133～190)……………129
	Fig.99 沢町遺跡遺構外出土のⅠ・Ⅱ群石器 (191～228)……………130
	Fig.100 沢町遺跡遺構外出土のⅡ群石器 (229～260)……………131
	Fig.101 沢町遺跡遺構外出土のⅡ群石器 (261～292)……………132

Fig. 102 沢町遺跡遺構外出土のⅡ群石器 (293~314)	133	Fig. 118 沢町遺跡出土のⅢ群石器 (米坂コレクション 208~224)	151
Fig. 103 沢町遺跡遺構外出土のⅢ群石器 (315~334)	134	Fig. 119 沢町遺跡出土のⅢ群石器 (米坂コレクション 225~238)	152
Fig. 104 沢町遺跡遺構外出土のⅢ群石器 (335~340)	135	Fig. 120 沢町遺跡コ土のⅢ・Ⅳ群石器と玉 (米坂コレクション 239~247・256)	153
Fig. 105 沢町遺跡遺構外出土のⅢ・Ⅳ群石器 (341~350)	136	Fig. 121 沢町遺跡出土のⅤ群石器 (米坂コレクション 248~255)	153
Fig. 106 沢町遺跡遺構外出土のⅤ群石器 (1~26)	137	Fig. 122 沢町遺跡出土のⅠ・Ⅱ群石器 (土野コレクション 1~6)	154
Fig. 107 沢町遺跡遺構外出土のⅤ・Ⅵ群石器 (27~39)	138	Fig. 123 沢町遺跡出土のⅤ・Ⅵ群石器 (土野コレクション 7~19)	155
Fig. 108 沢町遺跡遺構外出土のⅦ群石器 (40~50)	139	Fig. 124 Fe 因子の対応	158
Fig. 109 沢町遺跡遺構外出土のⅦ群石器 (51~57)	140	Fig. 125 K 因子の対応	158
Fig. 110 沢町遺跡遺構外出土のⅦ群石器 (58~67)	141	Fig. 126 Ca 因子の対応	158
Fig. 111 沢町遺跡遺構外出土のⅦ・Ⅸ・Ⅹ群 石器 (68~75)	142	Fig. 127 Rb-Sr 分布図	158
Fig. 112 沢町遺跡遺構外出土のⅩ・Ⅸ群 石器と握石 (76~88)	143	Fig. 128 沢町遺跡出土のヒスイ製玉類の 原石産地とヒスイの原産地	161
Fig. 113 沢町遺跡遺構外出土の土製品・ 石製品・異形石器 (89~108)	144	Fig. 129 沢町遺跡出土のヒスイ製玉No19の 蛍光X線スペクトル	162
Fig. 114 沢町遺跡出土のⅠ群石器 (米坂コレクション 1~82)	147	Fig. 130 糸魚川産ヒスイ原石の蛍光X線 スペクトル	162
Fig. 115 沢町遺跡出土のⅠ群石器 (米坂コレクション 83~146)	148	Fig. 131 日高産ヒスイ原石の蛍光X線 スペクトル	162
Fig. 116 沢町遺跡出土のⅠ群石器 (米坂コレクション 147~170)	149	Fig. 132 ヒスイ原石の元素比值Zr/Sr対Sr/Fe の分布および分布範囲	165
Fig. 117 沢町遺跡出土のⅠ~Ⅲ群石器 (米坂コレクション 171~207)	150	Fig. 133 沢町遺跡出土のヒスイ製玉類遺物 Zr/Sr対Sr/Feの分布、および ヒスイ原石の分布範囲	166
		Fig. 134 ヒスイ原石の元素比值Ca/r対 Sr/Feの分布および分布範囲	168

Fig. 135 沢町遺跡出土のヒスイ製玉類遺物の Ca/γ対Sr/Feの分布、 およびヒスイ原石の分布範囲……………	168	Tab. 4 沢町遺跡出土の焼骨の内容……………	176
Fig. 136 沢町遺跡出土ヒスイ玉スペクトル (1~4)……………	169	Tab. 5 沢町遺跡から産出した花粉・胞子数…	181
Fig. 137 沢町遺跡出土ヒスイ玉スペクトル (5~8)……………	170	Tab. 6 沢町遺跡出土炭化植物 (擦文前期住居址)……………	182
Fig. 138 沢町遺跡出土ヒスイ玉スペクトル (9~12)……………	171	Tab. 7 沢町遺跡出土炭化植物 (縄文晩期墓城内)……………	183
Fig. 139 沢町遺跡出土ヒスイ玉スペクトル (13~16)……………	172	Tab. 8 沢町遺跡検出住居址一覽 (SH-1~4)……………	191
Fig. 140 沢町遺跡出土ヒスイ玉スペクトル (17~20)……………	173	Tab. 9 沢町遺跡検出墓塚一覽 (GP-1~163)……………	191
Fig. 141 日高ヒスイ原石スペクトル (21~22)……………	174	Tab. 10 沢町遺跡検出溝状遺構一覽……………	193
		Tab. 11 沢町遺跡検出土塚一覽(U P-1)……………	193
		Tab. 12 沢町遺跡住居址出土石器一覽……………	194
		Tab. 13 沢町遺跡墓塚及び溝状遺構出土 剥片石器一覽……………	194
		Tab. 14 沢町遺跡墓塚及び溝状遺構出土 礫石器一覽……………	195
		Tab. 15 沢町遺跡墓塚出土の土製品・ 石製品一覽……………	195
		Tab. 16 沢町遺跡遺構外出土剥片石器一覽……………	196
		Tab. 17 沢町遺跡遺構外出土礫石器一覽……………	202
		Tab. 18 沢町遺跡遺構外出土の土製品・ 石製品・異形石器一覽……………	203
		Tab. 19 沢町遺跡出土の石器 (米坂コレクション)一覽……………	204
		Tab. 20 沢町遺跡出土の石器 (土野コレクション)一覽……………	208
		Tab. 21 沢町遺跡住居址出土遺物一覽……………	209
		Tab. 22 沢町遺跡墓塚出土遺物一覽……………	209
		Tab. 23 沢町遺跡溝状遺構・U P・F P・ 出土遺物一覽……………	214
		Tab. 24 沢町遺跡遺構外出土遺物一覽……………	215
Tab. 1 順序表……………	14		
Tab. 2 ヒスイ製遺物の原石産地の判定 基準(1)・(2)……………	164		
Tab. 3 余市町沢町遺跡出土のヒスイ製 玉類の元素分析値の比量と比重……………	166		

表目次

写真図版目次

PL. 1	余市町沢町遺跡空中写真…………… i	PL. 24	SH-1 遺物出土状況…………… 233
PL. 2	遺跡遠景および発掘風景…………… ii	PL. 25	SH-1 遺物出土状況…………… 234
PL. 3	主要セクション…………… iii	PL. 26	SH-1 遺物出土状況 SH-2 遺構検出状況…………… 235
PL. 4	SH-1 遺構・遺物検出状況 SH-2 カマド検出状況…………… iv	PL. 27	SH-2 遺構・遺物検出状況…………… 236
PL. 5	SH-2 遺構・遺物検出状況…………… v	PL. 28	SH-2 カマド及び遺物検出状況…………… 237
PL. 6	SH-2 遺物出土状況 SH-3 遺構・遺物検出状況…………… vi	PL. 29	SH-2 遺物出土状況…………… 238
PL. 7	SH-4 遺構・遺物および カマド検出状況…………… vii	PL. 30	SH-3 遺構・遺物検出状況…………… 239
PL. 8	墓塚A群分布状況…………… viii	PL. 31	SH-4 遺構および遺物検出状況…………… 240
PL. 9	GP-1・GP-7・GP-13 検出状況…………… ix	PL. 32	SH-4 遺物出土状況 カマド検出状況…………… 241
PL. 10	GP-15・GP-20・GP-41 検出状況…………… x	PL. 33	墓塚A群分布状況…………… 242
PL. 11	GP-42・GP-45・GP-63 遺物出土状況…………… xi	PL. 34	墓塚A群分布状況…………… 243
PL. 12	GP-62・GP-70遺物出土状況…………… xii	PL. 35	遺物出土状況、発掘調査状況…………… 244
PL. 13	GP-73・GP-80検出状況…………… xiii	PL. 36	C-16Ⅱ層勾玉出土状況 G-25Ⅱ層管玉出土状況…………… 245
PL. 14	GP-84・GP-143遺物出土状況…………… xiv	PL. 37	GP-1 検出状況…………… 246
PL. 15	沢町遺跡墓塚出土の徳利型土器 (GP-20)…………… xv	PL. 38	GP-3・GP-4 検出状況…………… 247
PL. 16	沢町遺跡出土の玉類…………… xvi	PL. 39	GP-5・GP-6 検出状況…………… 248
PL. 17	沢町遺跡出土の石偶・異形石器…………… xvii	PL. 40	GP-3・4・5・6 検出状況 GP-14遺物出土状況…………… 249
PL. 18	沢町遺跡出土の翡翠の玉…………… xviii	PL. 41	GP-7 遺構・遺物検出状況…………… 250
PL. 19	沢町遺跡墓塚出土の腕輪(GP-62)…………… xix	PL. 42	GP-13遺構・玉検出状況…………… 251
PL. 20	沢町遺跡遺址…………… 229	PL. 43	GP-15玉出土状況 GP-41遺物出土状況…………… 252
PL. 21	発掘調査状況…………… 230	PL. 44	GP-20遺構および徳利型土器 検出状況…………… 253
PL. 22	発掘調査風景…………… 231	PL. 45	GP-23遺構および玉検出状況…………… 254
PL. 23	SH-1 遺構検出状況…………… 232	PL. 46	GP-42検出状況 GP-45石偶出土状況…………… 255

PL.47	GP-43玉出土状況		PL.65	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-7・8・13・17・20・ 26・29・34) ……………	274
	GP-48遺物出土状況……………	256			
PL.48	GP-56遺物出土状況		PL.66	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-37~40・42・43・47・ 48・50~53・55・56) ……………	275
	GP-57玉出土状況……………	257			
PL.49	GP-163遺物出土状況		PL.67	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-60・61・69・70・72) ……………	276
	GP-60玉および土器出土状況……………	258			
PL.50	GP-62腕輪・玉出土状況……………	259	PL.68	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-72・73~75・79・80) ……………	277
PL.51	GP-62検出状況				
	GP-63勾玉出土状況……………	260	PL.69	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-80・85・86・90・ 92・94~97) ……………	278
PL.52	GP-70玉出土状況				
	GP-72石斧・砥石出土状況……………	261	PL.70	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-98~102・104・106)……………	279
PL.53	GP-73遺構および玉・握石 検出状況……………	262	PL.71	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-110~112・114)……………	280
PL.54	GP-76検出状況				
	GP-80検出状況……………	263	PL.72	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-114・116~118・120・121・ 124・130・131~134・138)……………	281
PL.55	GP-84遺物出土状況				
	GP-86遺物出土状況……………	264	PL.73	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-139・140・142~145・ 147~149・151~153・155~157)……………	282
PL.56	GP-107遺物出土状況……………	265			
PL.57	GP-143検出状況		PL.74	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-157・158・160・161) ……………	283
	UP-1礫出土状況……………	266			
PL.58	溝状遺構検出状況……………	267	PL.75	沢町遺跡墓壇・溝状遺構・ 遺構外出土の土器……………	284
PL.59	沢町遺跡SH-1出土の遺物……………	268			
PL.60	沢町遺跡SH-2・3出土の遺物……………	269	PL.76	沢町遺跡墓壇出土の石偶・玉・ 石器(GP-1~57) ……………	285
PL.61	沢町遺跡SH-4出土の遺物……………	270			
PL.62	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-13~80) ……………	271			
PL.63	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-84~163) ……………	272			
PL.64	沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-3・5~7) ……………	273			

PL.77 沢町遺跡墓塚出土の腕輪・玉・石器 (GP-62~73) ……………	286	PL.94 沢町遺跡出土のⅡ～Ⅳ群石器 (米坂コレクション) ……………	303
PL.78 沢町遺跡墓塚・溝状遺構・遺構外出土の遺物……………	287	PL.95 沢町遺跡出土の石斧・石棒 (248~255 米坂コレクション・7~19 土野コレクション) ……………	304
PL.79 沢町遺跡墓塚出土の遺物 (GP-5~70) ……………	288	PL.96 沢町遺跡より産出した主な花粉・胞子……………	305
PL.80 沢町遺跡墓塚出土の遺物 (GP-72~81) ……………	289	PL.97 沢町遺跡出土の種子……………	306
PL.81 沢町遺跡墓塚・溝状遺構出土の礫石器……………	290	PL.98 沢町遺跡出土の底部有孔土器と特殊土器破片……………	307
PL.82 沢町遺跡遺構外出土のⅣ・Ⅴ群土器……………	291		
PL.83 沢町遺跡遺構外出土のⅤ・Ⅵ群土器……………	292		
PL.84 沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器……………	293		
PL.85 沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器……………	294		
PL.86 沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器……………	295		
PL.87 沢町遺跡遺構外出土のⅠ群石器……………	296		
PL.88 沢町遺跡遺構外出土のⅡ群石器……………	297		
PL.89 沢町遺跡遺構外出土のⅢ・Ⅳ群石器……………	298		
PL.90 沢町遺跡遺構外出土のⅤ・Ⅵ群石器……………	299		
PL.91 沢町遺跡遺構外出土のⅦ・Ⅸ・Ⅹ群石器……………	300		
PL.92 沢町遺跡遺構外出土のⅦ・Ⅺ群石器と握石……………	301		
PL.93 沢町遺跡出土のⅠ群石器 (米坂コレクション) ……………	302		

第1章 調査概要

第1節 発掘調査にいたる経緯

本町農業は都市近郊型農業で果樹（りんご・ぶどう）・野菜を主体とした農業形態であるが、畑地帯は水田地帯に比して低生産的であるため、給合的農業基盤整備を施し生産性の向上を計り、営農近代化に資することが重要課題となった。

これにより、昭和57年度に道営畑地帯総合土地改良事業に着手したところ余市二期地区1号幹線農道予定地に分布する埋蔵文化財包蔵地の取扱いが問題となった。

当該遺跡は、本町西部地区ヌッチ川右岸丘陵上に位置し、縄文時代後期の遺物が多数出土していることから、町教育委員会は町農林課を通じ、道営畑地帯総合土地改良事業の実施主体である北海道後志支庁から事業の詳細を聴取したところ、当該地区の除外及びルート変更は整備計画上不可能との判断により、文化財保護法に基づく手続きを取り進めることになった。

昭和61年5月、北海道後志支庁より上記事業に伴う協議書が町教育委員会に提出される。町教育委員会は、これを受けて北海道教育庁へ進達・協議し、同年8月、北海道教育庁社会教育部文化課による事前調査が実施されたところ記録保存のための発掘調査を要す旨の通知を受けた。

これにより、昭和63年6月から余市町教育委員会が当該遺跡の調査にあたることとなった。

(小林)

第2節 調査要項

本書は「余市二期地区道営畑地帯総合土地改良事業」に伴って実施された余市町第1号幹線農道町道沢町美園線舗装改良工事にあたって、事前に行なわれた沢町遺跡の発掘調査報告書である。

調査原因者は北海道後志支庁農業振興部耕地課であり、発掘調査ならびに遺物整理作業は余市町教育委員会が主体となり実施した。

沢町遺跡の今回の発掘区の地番は以下のとおりである。

余市町沢町162番地・202番地・203番地・204番地

発掘調査面積は4,000㎡、発掘期間は1988年6月15日～同年11月14日、遺物整理等は1988年11月15日～1989年3月25日に亘って実施した。

第3節 調査体制

発掘調査ならびに整理作業は以下の者があつた。また、作業員として余市町在住の方々の御

助力を得た。氏名を記して感謝申し上げる次第である。

調査担当者 宮 宏明（日本考古学協会員）

調査スタッフ 熊崎農夫博・鎌田 望・畠山義之・青木 誠

事務員 佐々木啓子

作業員 平野政秋・西村則夫・菅原宏文・本郷保寛・千葉幸治・山下哲史・千葉信司
米谷登志子・山口路子・富塚美保子・飯坂英子・鈴木敏美・長谷洋子・湯田幸子
見上圭子・下間るり子・畠山香代子・前田貞子・扇谷陽子・今 銀子・荒井栄子
尾崎ヨシエ・泉沢由美子・斉藤麻紀・坪井茂子・富本郁子・菊池悦子・中西昭子
星 登美江・池崎るみ子・畑澤理佳・長野さち子（順不同）

第4節 作業分担

本書の編集は宮 宏明が、執筆は下記の各位が分担した。尚、文末には文責者を記した。

松田 義章・岡村 聡	第3章第2節	木越 邦彦	第8章第1節
三辻 利一	第8章第2節	藁科 哲男・東村 武信	第8章第3節
西本 豊弘	第8章第4節	山田 悟郎	第8章第5節
吉崎 昌一	第8章第6節	小林 広勝	第1章第1節
佐藤 利雄	第3章第1節	熊崎農夫博	第5章第1節
鎌田 望	第2章	宮 宏明	上記以外の各章各節

主な作業分担は、以下のとおりである。

遺跡の写真撮影（宮 宏明）

室内での遺物の写真撮影・現像・焼付（佐藤雅彦）

石器実測・トレース（長谷川ゆかり・佐藤美奈子・西村則夫・鎌田 望）

土器実測・トレース（平野政秋・斉藤麻紀・泉沢由美子・熊崎農夫博）

土器拓影（荒井栄子・山口路子・米谷登志子）

拓影土器の断面実測・トレース（米谷登志子・西村則夫・宮 宏明）

土器接合・復原（菅原宏文・本郷保寛・千葉幸治・荒井栄子・宮 宏明）

遺物の集計（西村則夫・熊崎農夫博・本郷保寛）

遺物の計測・計量（米谷登志子）

表の作成（平野政秋・西村則夫・米谷登志子）

遺物の水洗・注記（荒井栄子・佐々木啓子・山口路子・泉沢由美子・斉藤麻紀）

遺跡・遺物の科学的分析ならびに同定については下記の方々に依頼した。

石器石質の肉眼鑑定	加藤孝幸氏・岡村 聡氏
地形・地質と層序区分	松田義章氏・岡村 聡氏
花粉分析	山田悟郎氏
須恵器及び縄文土器の胎土分析による産地同定	三辻利一氏
墓域伴出の炭化物の放射性炭素年代測定	木越邦彦氏
植物遺存体の同定	吉崎昌一氏・椿坂恭代氏
動物遺存体の同定	西本豊弘氏
ヒスイ玉の産地同定	藁科哲男氏・東村武信氏
縄文土器の鑑定	大沼忠春氏
擦文土器の鑑定	岡田淳子氏

第5節 謝 辞

発掘調査の推進と本書の作成にあたっては、以下の機関と各位より多大の御指導・御助力を賜りました。記して感謝申し上げる次第です。（順不同）

北海道教育庁文化課、北海道埋蔵文化財センター、後志支庁農業振興部耕地課

竹田 輝雄（北海道教育庁文化課）	五十嵐八枝子（北海道大学理学部）
森田 知忠（　　　　　　）	吉崎 昌一（北海道大学文学部）
木村 尚俊（　　　　　　）	横山 英介（北海道大学埋蔵文化財調査室）
畑 宏明（　　　　　　）	椿坂 恭代（　　　　　　）
工藤 研治（　　　　　　）	岡村 聡（北海道教育大学）
中村 福彦（北海道埋蔵文化財センター）	河野 本道（駒沢大学北海道教養部）
大沼 忠春（　　　　　　）	藤村 久和（北海学園大学）
越田賢一郎（　　　　　　）	岡田 淳子（北海道東海大学国際文化学部）
種市 幸生（　　　　　　）	東村 武信（京都大学原子炉実験所）
高橋 和樹（　　　　　　）	藁科 哲男（　　　　　　）
長沼 孝（　　　　　　）	木越 邦彦（学習院大学理学部）
田才 雅彦（　　　　　　）	三辻 利一（奈良教育大学）
葛西 智義（　　　　　　）	宮良 高弘（札幌大学）
田口 尚（　　　　　　）	藤井 正雄（大正大学文学部）

前田 正憲 (北海道埋蔵文化財センター)	坂詰 秀一 (立正大学文学部)
中田 裕香 ()	大島 直行 (札幌医科大学)
森 秀之 ()	SIMON KANER (ケンブリッジ大学考古学部)
谷島 由貴 ()	西本 豊弘 (国立歴史民俗博物館考古研究部)
工藤 義衛 ()	峰山 巖 (北海道文化財保護協会副会長)
野村 崇 (北海道開拓記念館)	佐藤 利雄 (日本民俗学会々員)
中田 幹雄 ()	久保 武夫 (北海道文化財保護協会理事)
山田 悟郎 ()	青木 延広 ()
宮村 博文 (北海道後志支庁耕地課)	松田 義章 (小樽市立銭函中学校)
伊川 啓二 ()	大島 秀俊 (小樽市教育委員会)
佐藤 靖弘 ()	長谷川 徹 ()
阿部 省吾 (余市町長)	石神 敏 (小樽市立博物館)
近藤 勉 (余市町農林課)	内山 真澄 (寿都町教育委員会)
水門 博美 (余市町教育委員会前教育長)	杉浦 重信 (富良野市教育委員会)
古川 義一 ()	矢吹 俊男 (倶知安町教育委員会)
鈴木 治 ()	鈴木 正語 (木古内町教育委員会)
佐々木功治 ()	佐藤 訓敏 (帯広市教育委員会)
小林 広勝 ()	加藤 孝幸 (ジオサイエンス)
細山 俊樹 ()	瀬川 拓郎 (旭川市教育委員会)
藤城 議 (余市町在住、旧土地所有者)	大野 亨 (八戸市博物館)
土野 茂 ()	寺崎 康史 (今金町教育委員会) (宮)



Fig. 1 余市町沢町遺跡の位置

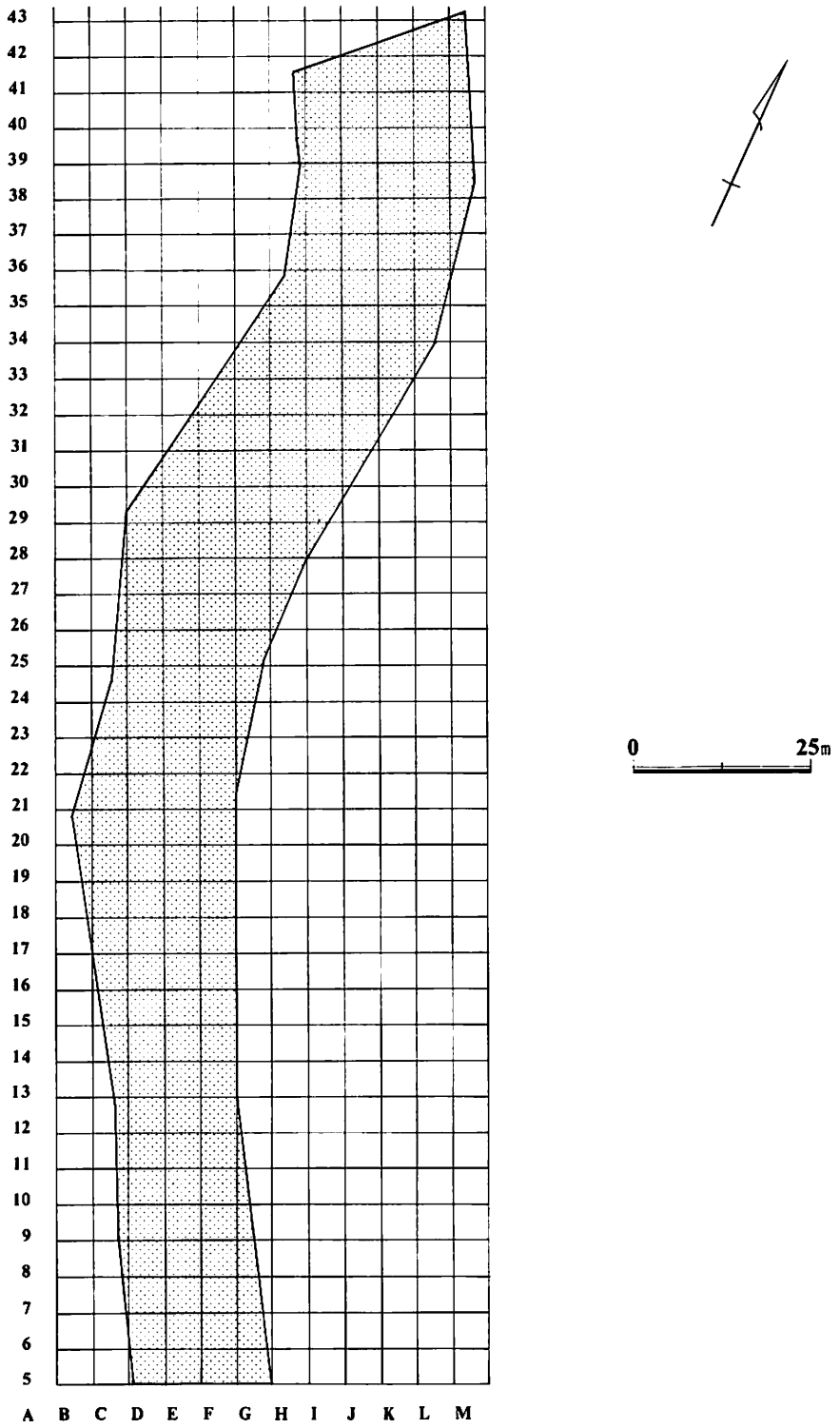


Fig. 2 沢町遺跡Grid配置図及び発掘調査区

第2章 調査状況

第1節 発掘調査の経過

調査に先立ち、6月15日から18日まで調査範囲の草刈りを行なう。これと同時に杭打ちを開始し、22日までに現道部分を除き発掘区のグリッド設定を終えた。残りの部分については調査の進行状況に応じて適宜杭を打っていった。

6月20日より調査を開始した。まず、発掘区南側部分を集中的に調査した。発掘区域を東西に横切る私道の南側部分と発掘区南端部の包含層に遺物の散布を確認、22日にはE13・14グリッドから墓塚が検出された。また、発掘区南端部のE5～7、F5～7グリッドにまたがって擦文1号住居址(SH-1)が確認され、7月上旬までこの掘り上げを行なった。7月1日からは水洗・注記作業も並行して行なっていった。発掘区域も私道の北側へと拡がり、6日にはE18・19、F17～19グリッドにまたがって擦文2号住居址(SH-2)が確認され、9月5日まで精査を行なった。19・20日にはその北西より墓塚群(墓塚B群)が確認された。一方、私道の南側では6・7日、E14・15グリッドに2基の墓塚が確認され、GP-1からは黒曜石製の石偶が出土した。この区域では更に調査が続けられた。

8月からは発掘区域を南側部分から北側部分へと拡げていった。8月5日、発掘区北側のF25・26グリッドで確認された長細い墓塚(GP-7)から、握りやすく半球状に加工された礫が出土した。また、私道の南側部分では次々と墓塚が見つかり、特に8月8日から10日のあいだに朱塗りの供献土器を伴出したGP-20をはじめとして12基の墓塚が確認された。(墓塚A群)それらの墓塚の中からもGP-7で検出された礫と同様のものを1～2個伴っているものがいくつかあったため「握石」と呼称し、以後、墓塚に伴出するこのタイプの礫に注意して調査を進めた。16日、この墓塚群のあいだのE15グリッドに擦文3号住居址(SH-3)が確認された。一辺3メートルほどの小型住居址である。9月7日までこの掘り上げを行なった。下旬には、墓塚B群より北西のD22・23、E22・23グリッドに10基の円形墓塚(墓塚C群)が確認された。23日には墓塚A群とSH-1のあいだのE11・12、F10～12、G11・12グリッドにまたがって擦文4号住居址(SH-4)が確認され、9月下旬まで精査を行なった。

GP-7の検出された周辺では9月に入り次々と墓塚が検出され、中旬までに24基の墓塚(墓塚D群)が確認された。しかし、道路工事の都合により発掘区南側の調査終了が急がれたため、中旬より墓塚A群の調査を集中的に行なった。14日にはD16・17グリッドにGP-62が確認され、16日には塚底部より朱塗りの木製腕輪2点と翡翠玉9点が検出された。また、21日にはD15・16、E15・16グリッドにまたがって、壁に柱穴のある大型の墓塚GP-80が確認され、28日までに9点の玉が検出された。30日にはGP-87を掘り上げ、発掘区南側部分の遺構確認、実測、写真撮

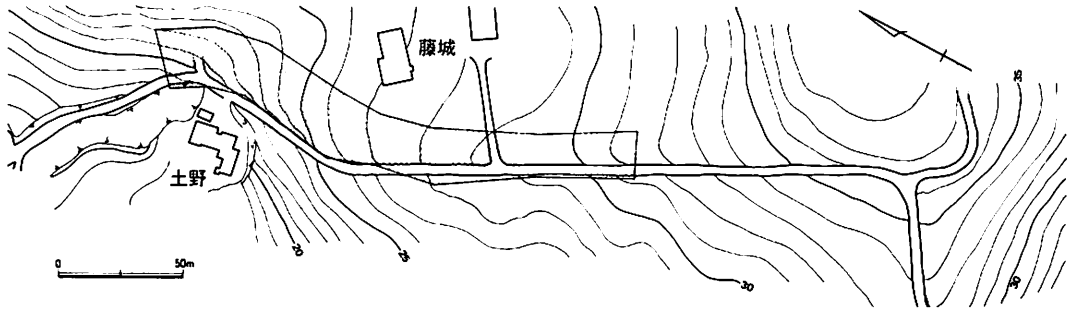


Fig. 3 沢町遺跡の発掘区域と周辺の地形

影等を終了した。この墓塚A群で確認された墓塚は47基にのぼった。

10月に入ると調査の中心は発掘区北側の広い区域へと移行していった。斜面の西側部分では5・6日にF31グリッドから5基、20日にはG31・32グリッドから1基と計6基の墓塚(墓塚F群)が確認された。いずれも凝灰質砂岩の基盤層に掘られた墓塚である。また、墓塚F群より南側の区域では10月1日以来、相次いで墓塚が検出された。しかし、7日以後は雨のため作業が遅れていった。終日作業中止の日が5日間、作業途中での中止が5日間にもなった。この区域からは65基の墓塚(墓塚D群)が確認されたが、5基はその一部が発掘区域外にあったために完掘できなかった。E25、F25グリッドではそれぞれ地床炉が、F27・28グリッドでは溝状遺構が検出された。31日にE29、F29グリッドを掘り上げ、この区域での調査を終了した。

10月下旬から調査を進めていた斜面東側では、10月23日に13基の墓塚が確認されて以来、11月5日までに21基の墓塚(墓塚E群)が確認された。斜面の下の部分でも並行して調査を行ない、この部分では2ヶ所の地床炉と7基の墓塚(墓塚G群)が確認された。しかし、10月末から天候は極度に悪化し、11月に入ると連日の降雪を見た。終日作業中止は5日間、作業途中での中止(午後から作業を含む)は4日間にもなった。この斜面の下の部分の調査では積雪と泥濘に悩まされたが、作業可能な日には全員を投入して調査を進めていった。14日、L35およびK36、L36グリッドのG P161・162を掘り上げ、沢町遺跡の発掘調査を終了した。

第2節 発掘調査の方法

グリッドの設定は、町道沢町美園線東側の石杭L25とL24を見通すラインを長軸の基準として5m×5mのメッシュを組み1グリッドとした。各グリッドは南東から北西の長軸に対しては1から42までの算用数字を、南西から北東への短軸にはAからMのアルファベットを表示、南西の杭を基準にグリッド名を「A1、A2……」と表示した。

遺物の記録は、遺構外のものについては層位別にグリッド一括で取り上げ、主要な遺物につい

ては適宜、縮尺 $\frac{1}{50}$ の図面に出土位置・層位・レベル等を記録した。遺構及び遺構に伴う遺物については縮尺 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{5}$ 、 $\frac{1}{10}$ 、 $\frac{1}{20}$ で図面化して記録した。

土層の色調確認は日本色研事業株式会社の『新版 標準土色帖』を使用した。写真撮影については遺跡遠景、調査風景、遺構、主要出土遺物、セクションなどをモノクロームフィルムおよびカラーリバーサルフィルムにそれぞれ収めた。

遺構の名称については以下のように表示し使用した。

擦文住居址 SH、墓塚 GP、土塚 UP、地床炉 FP (鎌田)

第3章 遺跡概要

第1節 遺跡の位置と周辺環境

佐藤利雄(日本民俗学会々員)

沢町遺跡は、北海道余市郡余市町沢町に所在する。余市町は北海道の西部、積丹半島東側基部に位置し、西はシリバ岬(295.8m)、東に畚部(ふごっぺ)岬によって北に開く小湾を形成している。市街地は湾の中央部に突出するモイレ岬(最高標高点68m)より続く丘陵によって、西部・東部に分けられ、それぞれの地域の主流河川流域に西部は旧市街、東部は新市街として発展を遂げている。

本遺跡は西部地区に属し、ヌッチ川河口右岸を先端として南に延びるヌッチ丘陵の台地上に存在する。この丘陵の先端は、今は崖となっているが、松浦武四郎の『蝦夷日誌』に〈ノッ(ヌウチ川と云、橋有)、訳て沙(すな)の岬の事なり一〉とある、ヌッチの語源の一説とされている岬である。この崖は往時はずっと海岸に突き出ており、砂浜ももっと広がっていたので、沙(すな)の岬といわれたものであろう。現況の崖は、昭和初期に近くの高浜埋立の埋土として採取された時に出来たものである。余市町への交通は、JR函館本線の余市駅下車と、国道5号線運行の私営バスを利用して余市駅前下車する方法がある。

遺跡所在丘陵の最高標高点は113.8m(通称時田山)であるが、遺跡はその山裾が小沢(ベンコ沢)によって断たれる処よりややゆるやかに続く、海岸線(河口)より直線最短で約1,800mの距離に有り、標高約30m~35mの緩傾斜の台地上である。この丘陵に沿って流れているヌッチ川は、赤井川火山の活動等の影響を受けて、ほぼ南北に走って生じた断層谷を流路として発達したものである。

西部地区の平地は、縄文海進の時期には海水が浸入して溺れ谷となって人海が形成されていた。この海進の最盛期には現平地をくまどる海拔高度は約10mの等高線とほぼ一致するといわれている。モイレ丘陵は小樽系層に属する上部凝灰質砂岩(凝灰質砂岩、凝灰岩)が、流域平地は氾濫源堆積層(砂、礫、粘土)がその成因を成している。

ヌッチ川は天狗岳(872.2m)の溪谷にその源を発している。河口より上流へ9950mを二級河川、それに続く1500mを普通河川とし、上流水源に達する無管理流路を合せてその延長は約13kmである。その流域の河谷平地及びデルタ地帯には、水田・果樹地・畑地の肥沃な耕地を作り出している。流路は水源から谷裾を左岸し右岸し、時にはその流れを変えながら現状に至っている。遺跡に通じる平地(旧字名中島)はそ菜・果樹の適地であるが、一時期は本流が貫流したこともあり今にその跡を残している。明治初期には丘陵裾に本流が移っていたが、その後人為的に流路の変更がなされたのである。

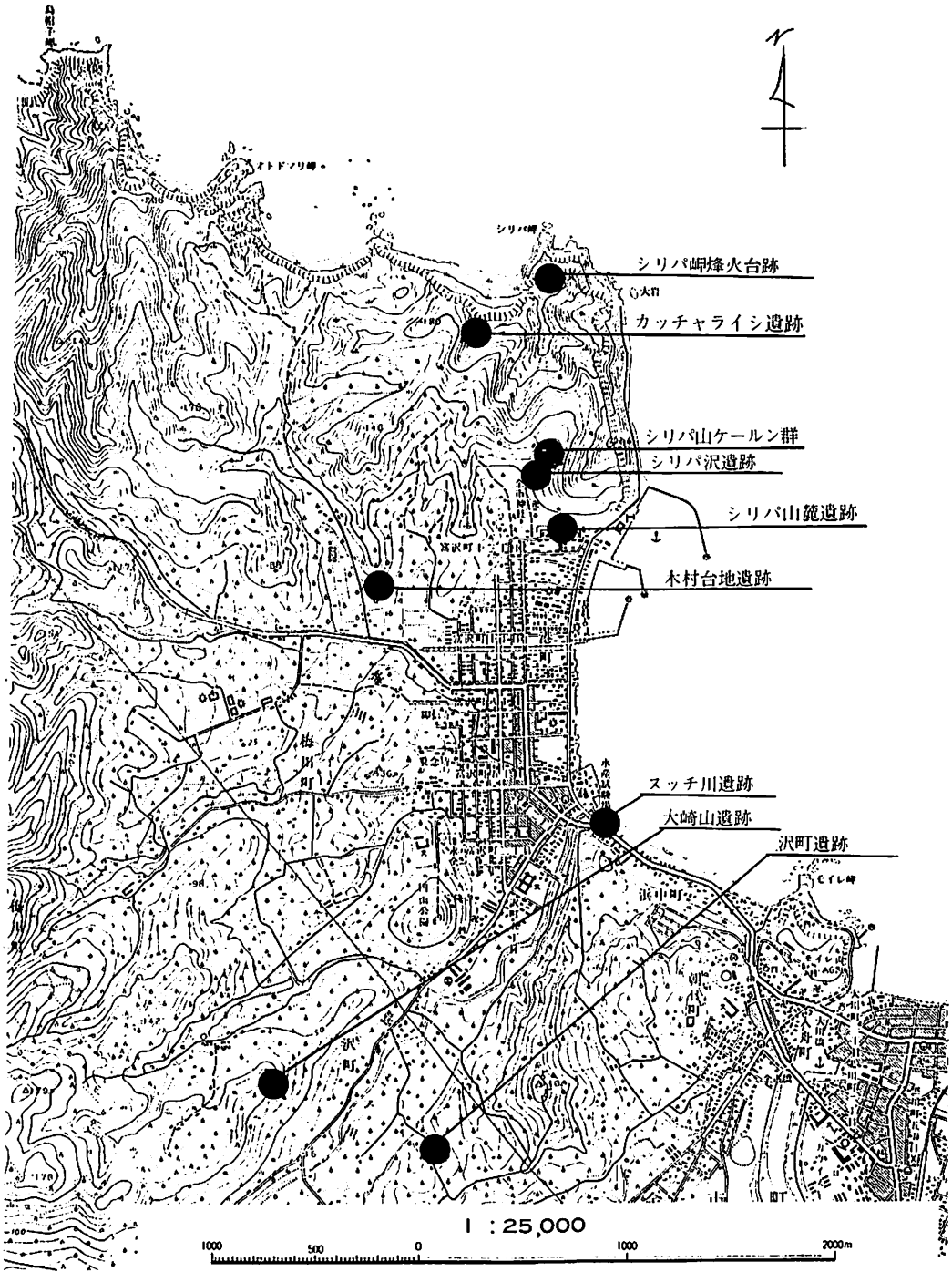


Fig. 4 余市町西部地区遺跡分布図

ヌッチ川の現河口は、昭和31年4月着工の切替工事によって開かれたものである。以前は丘陵先端部近くから海岸線に平行に曲折北流して湾に注いでいたが、洪水対策として曲部より海岸まで約130mを直線に切替えたものである。

遺跡に通じる主道の道々は、その昔、地元の場所請負人によって開かれた稲穂峠を越えて岩内に通じる主要通路であった。この地域に何時頃から人が住み着いたかは定かではないが、古くはアイヌが河辺近くに住居し、ヌッチ川に遡行する鮭鱒を獲っていたことが伝わっている。

和人の入地については、ヨイチ場所請負人であった林家文書に、安政6年(1859)4月(旧暦)にヨイチ場所ヌッチ沢に御手作場が設けられて農夫が入植したと記録されている。御手作場は官営の開墾場であるが、当時蝦夷地勸農の拠点としての御手作場が作られたのには、それだけの条件がこの地にあったのであろうことが知れる。

ヌッチ川の河口附近から遺跡周辺に至る地域は、古くからヌッチ沢と呼ばれ、そのデルタ平地は中島と呼んでいた。昭和30年の字名地番改正までは小字として、ヌッチ沢、ヌッチ、中島、ヌッチ川東付、ヌッチ沢南付などの地名表記が使用されていた。このことなどから、御手作場の場所をこの地域に推定しているのである。

明治期に入って、この辺一帯の土地の多くは当時のニシン漁業経営の資本家の所有するところとなっていた。その後ニシン漁業の衰退で所有者も著しく変わりながら、現所有者に移っている。遺跡所在の所有者が当時りんご園であったこの土地を入手されたのは昭和4年であったが、他に商業を営んでいたのをこれを管理人に委ねて経営管理に当らせた。

藤田健次氏(明治36年11月2日生)は、昭和4年から昭和20年まで管理人として住居された方で、その期間中の遺跡周辺の状況を次のように語られた。「管理する畑地は5町9反7畝であった。栽培のりんごは1号・7号と呼ばれた古い品種が多かった。プラオでりんご園や畑地を馬耕すると、土器のかけらや黒曜石の矢じりなどがよく出て来た。首飾りの玉も出たし青い石で出来た勾玉も出て拾ったことがあった。昭和5・6年の頃のことと思うが、旧制余市中学校(現余市高等学校)の生徒が教師に引率されてよく遺物を拾い集めに来たものだった。そのたびに結構な量を持って行ったことを覚えている。町の青年にも集めに来る者が居て、ここだけでなく附近の畑も歩き廻っていたことを記憶している」と。

西部地区には数ヶ所の遺跡が所在するので、その位置は図示した。このうち「シリバ山麓遺跡」は十腰内式土器の出土が主であり、異形の土器や石器も伴出しているが、発掘調査報告書は未発表である(1973年6月発掘調査)。

第2節 余市沢町遺跡周辺地域の地形・地質および堆積構造

松田 義章 (小樽市立銭函中学校) ・岡村 聡 (北海道教育大学)

1. はじめに

余市沢町遺跡は、余市町市街中心地 JR 余市駅より西北西方向に約 2 km、ヌッチ川沿いの東側標高 25～31m の丘陵部緩斜面上に住置する。

今回、本遺跡およびその周辺地域の地形、地質を調査し、特に本遺跡発掘区に分布する堆積物について堆積学的検討を加えた。以下に、その結果得られた知見について報告する。

本論をまとめるにあたり、北海道立地下資源調査所、山岸宏光博士には、積丹半島全般の地質について有益な助言を賜った。ここに記して深く感謝する次第である。

2. 余市沢町遺跡周辺の地形・地質概説

(1) 地 形

余市町周辺地域の地形は、海岸部において、北西部の白岩・豊浜に海岸段丘とそれに伴う急峻な海食崖が発達している。一方東部の余市から畚部に至る海岸沿いには小規模な砂丘を伴う砂浜が広がっている。なお、内陸部の余市川およびヌッチ川流域周辺には、これらの河川による氾濫原が分布している。

さらに、本遺跡発掘地域には認められないが、近隣の余市登川地域周辺から小樽地域に至る標高 20m 以上の段丘面および丘陵緩斜面上には古赤色土と思われる赤色土 (7.5R ⅔～10R ⅔) が分布している。

本遺跡分布地域一帯は緩斜面を有する丘陵状の地形であり、これは本地域の地質、すなわち本地域を構成する新第三紀層がゆるやかに褶曲しているという地質構造を反映しているものと思われるが、近隣の山地地形にみられる緩斜面は、最終氷期において形成された周氷河地形である可能性もある。

(2) 地 質

余市地域は、西南北海道積丹半島の基部東岸に位置している。本地域は、グリーンタフ地域東北日本北方延長部の北限付近にあたり、その周辺には、主に海底火山活動の産物であるデイサイト質～安山岩質の Volcaniclastic Rocks および溶岩類などの Volcanic Rocks が広く分布している。

なお、本地域を含む積丹半島基部地域の地質は、ほぼ共通して次のような特徴がみられる。

すなわち、先第三系の石英閃緑岩等の花崗岩類や粘板岩を主とする基盤岩を不整合に覆って、新第三紀中新世下部とみられる地層から鮮新世までの地層が広く分布している。さらに、これらの上を第四期更新世の Flat lava が覆っている。

特に、新第三紀の地層には、上に述べた Volcaniclastic Rocks および Volcanic Rocks

地質系統		西南北海道標準層序 主として中新世 長尾・佐々(1934)	積丹半島基部東側地域 (本地域周辺) 主として齊藤他(1970)に基づく		
新 生 代	第 四 紀	完新世	沖積統 <small>氾濫原 上位氾濫原 高位沖積層群</small>	沖積層 崖錐堆積物・扇状地堆積物	
		更新世	段丘礫層群	段丘堆積物 丸山火山碎屑岩 丸山安山岩 毛無山安山岩 湯内岳安山岩 シリバ岬石英安山岩 赤井川安山岩 大江石英安山岩	
			石倉噴出物層		新期火山岩層
	新 第 三 紀	鮮新世	瀬棚統	余市層	
		中新世	黒松内統	俱知安層群	蘭島層
			八雲統		バンノ沢層
			訓縫統	古平層群	小沢層
					大和層
	福山統	茅沼層群	国富層		
			稲穂層		
ヤチナイ層					
辰五郎沢層					
ペーペナイ層					
先第三紀			?		

Tab.1 層序表

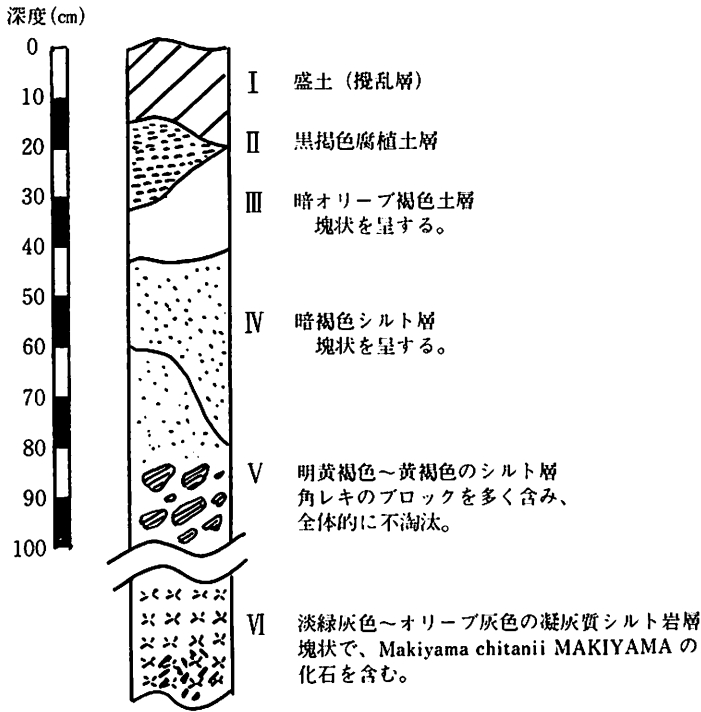


Fig. 5 遺跡発掘区における模式柱状図

が多く、砂岩・泥岩等の正規の碎屑性堆積岩はわずかに認められるにすぎない。このことが、黒松内低地帯以南の西南北海道中・南部の地質と大きく異なる点でもある。

さらに、本地域周辺の新第三紀層は、下位より、茅沼層群、古平層群、俱知安層群および余市層に大別されており、これらの地層の時代や他地域との対比の概要はTab.1の層序表の通りである。

これによれば、茅沼層群から俱知安層群はほぼ中新世とされ、余市層は鮮新世

とされている。

3. 遺跡発掘区の構成地質

(1) 土層区分および各層の記載

本遺跡分布地域一帯の地質は、周辺他地域と比べて碎屑性堆積岩層がやや広く分布している。これらは、下位より、中新世の俱知安層のものと思われるシルト岩、硬質頁岩、砂岩、安山岩質火山角礫岩、浮石質凝灰岩および鮮新世の余市層のものと思われる砂岩、デイサイト質火山角礫岩。更新世から完新世に至る段丘堆積物ならびに崖錐性堆積物等によって構成されている。

上に述べた基盤地質の層序をふまえ、本遺跡発掘区に分布するシルト層等について土層区分を行い、これに従って下位から順に各層の層相、構成物等を記載し、検討を加えた。

本発掘区に分布する堆積物層はほとんど塊状(massive)であるが、これらは色調および構成粒子を異にする5つの層に区別することができる。これらを下位からV層、IV層、III層、II層およびI層とした。なお、本発掘区隣接地域において行われた試錐によりV層の下位にさらに基盤のシルト岩層が確認されたので、これも加えてVI層とした。

本遺跡発掘区における模式柱状図をFig.5に、また土壌断面図をFig.6に示す。

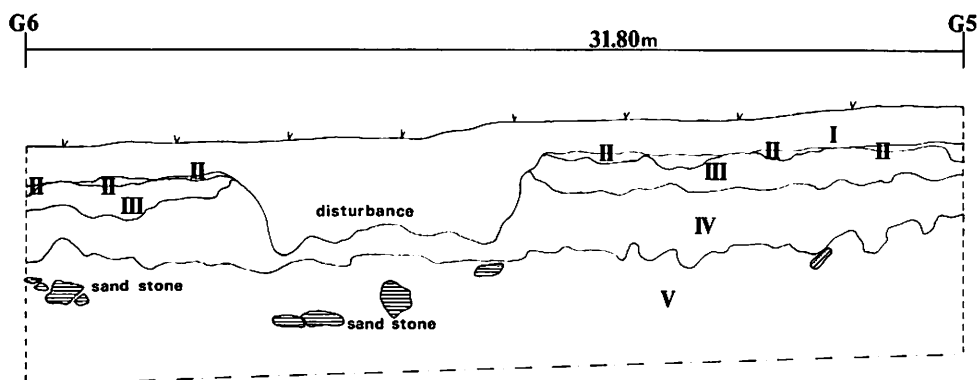


Fig. 6 余市沢町遺跡の土壌断面 (G5～G6 Grid)

VI層 ; 淡緑灰色～オリーブ灰色 (10Y 5/2) を呈する凝灰質のシルト岩層。層厚および下限は不明。本層中には、Makiyama chitanii (MAKIYAMA) の化石が普遍的に認められ、また時に植物化石の破片等も含まれる。本層は、その岩相および周辺地域の地質構造上等から倶知安層に相当するものと思われる。

なお、VI層については、本発掘区において確認されたものではなく、近隣区域の試錐調査において、本発掘区V層相当層に対比される堆積物層の低位6～8mに不透水層として認められたものである。

V層 ; 暗黄褐色～黄褐色 (2.5Y 5/2～10YR 5/2) の含角礫シルト層。層厚は5～6m。

この層は、軽石凝灰岩質砂岩ないし凝灰質なシルト岩の亜角礫や角礫を含み全体的に不淘汰である。このような産状からすれば、このシルト層は、角礫の量比が卓越し、マトリックスが少ない部分が認められることから礫支持礫層 (clast-supported conglomerate) 的な様相を呈している。なお、本層中に含まれる角礫は、全体的に覆瓦構造 (Imbrication structure) のような堆積構造を示している。一方、一部の角礫は変質して粘土化し、クサレ礫となっている。

さらに、本層マトリックス部の構成粒子を鏡鏡すると次のような特徴が認められる。

すなわち、鏡下において認められる構成物 (鉱物等) の量比は、

岩片 (Rock fragment) ≫ 斜長石 (Pl) ≫ 石英 (Qz) ≫ 単斜輝石 (Cpx) ≫ 斜方輝石 (Opx)

と、なっている。この他、稀に角閃石 (Hor) が認められる。このうち岩片は、灰黄色の mudstone であることが多いが、特に赤褐色のスコリア状の岩片をも含む。

IV層 ; 暗褐色 (2.5Y 5/2) のシルト層。層厚は20～40cm。本層は側方的な変異が大きく層厚も膨縮する等、局部的に大きく変化している。層相は全体的に塊状 (massive) であり、遺物類は含まれない。

鏡下における構成物 (鉱物等) の量比は、Rf ≫ Pl ≫ Cpx ≫ Qz である。

すなわち、構成粒子は、ほとんど灰黄色のmudstoneの岩片よりなり、鉱物粒、特に有色鉱物に乏しい。

Ⅲ層； 暗オリーブ褐色(2.5Y 5/2)を呈する、下位のⅣ層と上位のⅡ層との漸移層。層厚は10～20cm。本層の層相は塊状(massive)を呈する。なお、この層は縄文中期から縄文晩期の遺物包含層でもある。

鏡下においては、ほとんど岩片のみが認められる。岩片は主に灰黄色のmudstoneであるが、時に、黄褐色の火山ガラスやスコリア状の形態を示すものも認められる。形状もやや角ばったものが多い。鏡下で識別される鉱物としては、時に、Opx, Cpx, 等が認められるにすぎない。

Ⅱ層； 黒褐色(10Y R 5/2)を呈する腐植土層。層厚は0～20cm。本層は側方変化が著しく層厚も局部的に膨縮し、レンズ状に尖滅するか楔状に尖滅している部分が認められる。このため、この層を全く欠いてⅢ層上に直接Ⅰ層が累積している箇所も認められる。また、本発掘区内においては、明らかに人為的は削剝を受けて、この層を欠いている部分も認められる。

鏡下においては、ほとんどが黄褐色の岩片のみが認められるが、一部赤褐色や灰黄色のものも認められる。また、時にHorが、稀にQzやCox等の鉱物粒が認められる。

Ⅰ層； 黒褐的(10Y R 5/2)の耕作土(盛土)。層厚15～20cm。

本層は耕作によって攪乱を受けている土壌からなり、本層より下位層に包含されていた縄文中期～擦文期の遺物を含む等二次的な構成物を多く含んでいる。

鏡下において、黒褐色ないし黄褐色の岩片が多く認められる。鉱物の量比は少ないがQzが普遍的に認められる他、稀にHor, Cpx等も認められる。

(2) 粒度組成の検討

本遺跡発掘区に分布する各層を構成する堆積物について、その粒度分布等の検討を行った。

主に、細粒の堆積物について、風乾の後、予めNa OH (1N) および H₂O₂ (約30%)を用いて薬品処理し、電気定温乾燥器で110℃の温度に保って約24時間乾燥させた後デシケータに入れて室温まで冷やしてから、篩分け法および沈降法(ピペット法)で分析した。

この結果に基づいて、phi (φ) (= -log₂ d) scaleを用いた粒径加積曲線を描き粒径分布を表した。(Fig. 7)

これによれば、細粒堆積物の量比が相対的に多いのは、Ⅲ層、Ⅳ層、Ⅴ層であること。さらに、Ⅳ層およびⅤ層の粒径分布がやや広く不淘汰である等の特徴がうかがえる。

次に、このデータをもとに、各層の中央粒径を求めた。その結果をFig.8に示す。(ただし、Ⅴ層については、マトリックス部のみのデータである。)

これによれば、各層の中央粒径は次のようになっている。

Ⅰ層； φ = 2.40

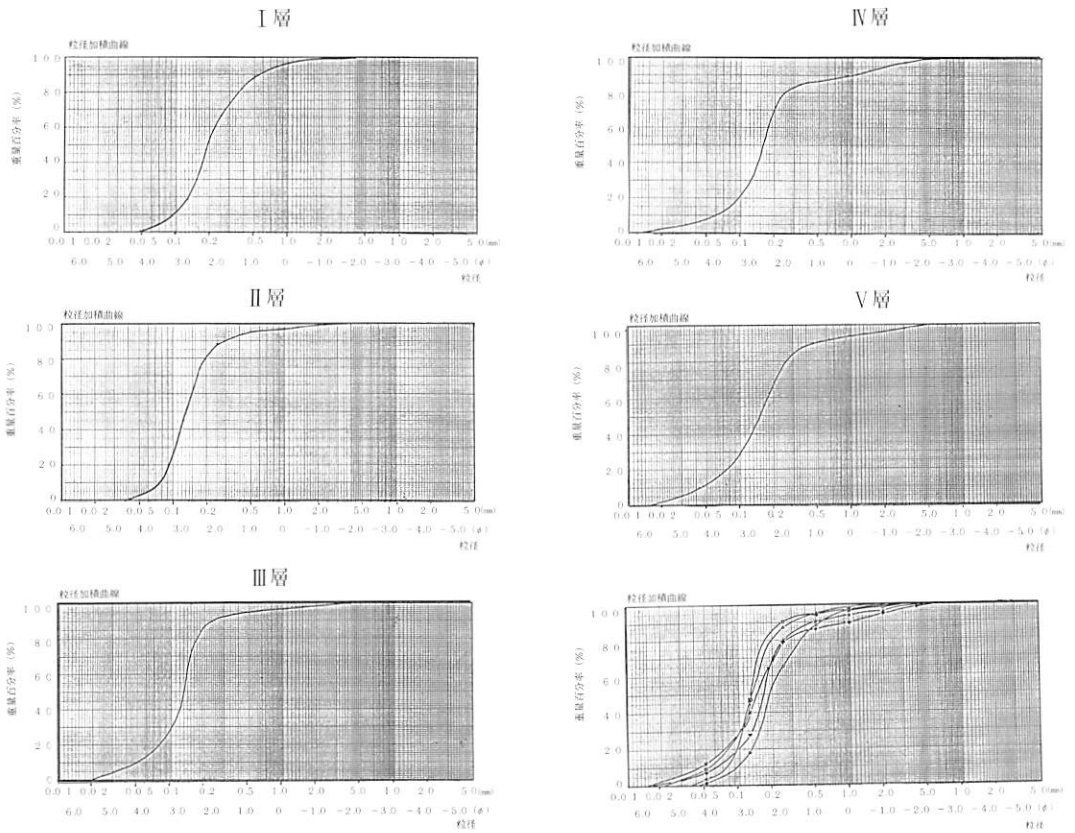


Fig. 7 余市沢町遺跡発掘区における各層の粒度分布 ○I層 △II層 □III層 ▼IV層 ×V層

- II層 ; $\phi = 2.94$
- III層 ; $\phi = 2.94$
- IV層 ; $\phi = 2.64$
- V層 ; $\phi = 2.74$

なお、V層については、I層～IV層とは異なって局部的に礫を多く含むので、上記のマトリックス部の検討と併せて、礫部分の検討をも行った。

すなわち、方形枠内の各礫の粒径（長径）を計測し、検討を加えた。

その結果得られたデータを個数百分率で表した。（Fig. 9）

これによれば、礫径の分布は、 $\phi = -5 \sim \phi = -6$ あたりを極値としているものの不淘汰な産状を反映して、巨礫 (boulder) ～中礫 (coarse pebble) に至るまで広く分散している傾向がうかがえる。

(3) 堆積構造の検討—特にV層について—

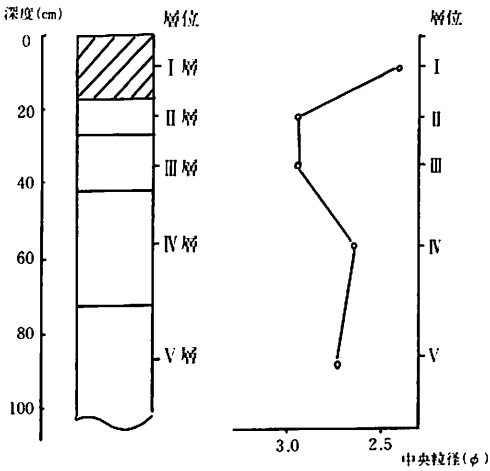


Fig. 8 余市沢町遺跡における各層の中央粒徑 (ただしV層についてはマトリックス部のデータ)

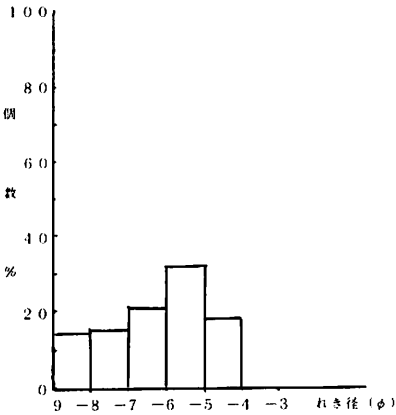


Fig. 9 余市沢町遺跡V層中の礫の粒徑分布

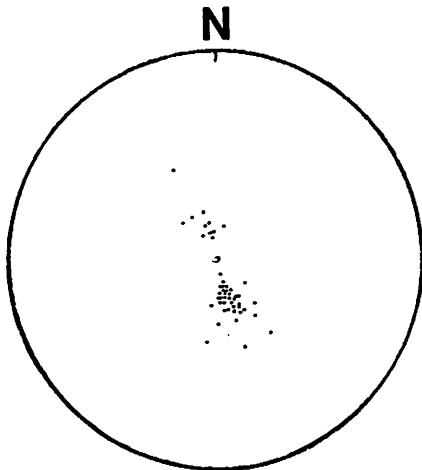


Fig. 10 余市沢町遺跡V層中の礫の堆積構造 (礫の配列方向の面の極のステレオ投影)

I層からVI層に至る各層の特徴については、上記(1)で記載した通りであるがV層については、多くの角礫を含んでいる点で他層と特徴を異にしている。

この角礫は覆瓦構造のような堆積構造を呈して配列している。

なお、この角礫は軽石を含む凝灰質砂岩ないし凝灰質のシルト岩からなり、これらの岩片中には特徴的なlaminaが認められることが多い。また、V層の産状を細かく観察すると、下部の角礫は岩質が均一塊状でありlamina等の内部構造の認められない凝灰質のシルト岩であることが多いのに対して、上部に含まれている角礫は軽石を含む凝灰質砂岩であり、この中には明瞭なlaminaが認められる等、垂直的に見ると構成礫種に若干の相違がある。なお、V層上部に含まれる角礫は覆瓦構造を呈するように配列しているが、下部に含まれる角礫は、水平に近い構造で配列、堆積している。

そこで、V層における礫の堆積構造をさらに明らかにするために、V層上部に含まれる礫のファブリック (fabric) について検討を加えた。

すなわち、V層中において水平的な広がりをもっと考えられる個々の礫について、礫の長軸(a軸)と中軸(b軸)の方向を測定した。なお、扁平な形状のものについては礫の最大投影面(a-b)の走向傾斜を測定し、その最大投影面(a-b面)の極をシュミットネットに投影し、これを、ポイントダイヤグラムで表した。(Fig.10)

これによれば、N64°E15°W~N82°E30°W付近に投影面の極が集中しており、次いで、N70°E16°E~N74°E28°E付近にもやや集中している傾向がうかがえる。

一方、礫の形状は、扁平ないし長柱状の亜角礫ないし角礫であることが多く、これらの礫中に認

められる lamia 等の内部構造の方向は、先に述べた覆瓦構造の配列方向とほぼ平行であることが特徴的である。

このことは、この角礫が源岩供給地から、ほとんど転動することなしに常に一定方向から供給、運搬されたことを示している。すなわち、角礫の源岩供給地から余り遠くない地域に、主として滑動によって角礫が運搬され本層が堆積したものと思われる。

なお、本発掘区の北側隣接斜面には、本層中の角礫とほぼ同種の岩種からなる新第三紀層（俱知安層群および余市層）がやや広く分布し、またそれらの露頭も数多く認められる。

これらのことを総合すると、V層は崖錐性堆積物ないし地すべり堆積物である可能性が強い。

この地すべり堆積物によって形成された緩斜面上を立地環境として本遺跡が広く発達した。

参考文献

- ALLEN, J. R. L., (1982) *Sedimentary Structures - their character and physical basis.*
Vol. I・II, Elsevier,
- 長谷川潔・小山内熙(1978) 国富-定山溪地域の地質と鉱床. 地下資源調査所研究報告, 第5号 北海道立地下資源調査所
長谷川潔・八幡正弘(1986) 新生代東北本州弧地質資料集・第1巻その2. 島弧横断ルートNo2. 宝文館
猪木幸男・垣見俊弘(1954) 5万分の1 地質図幅・小樽西部・同説明書. 北海道開発庁
LINDHOLM, R., (1987) *A Practical Approach to Sedimentology.* Allen & Unwin.
松田義章・藤田郁男(1987) 北海道余市モイレ岬の地質. 日本地質学会第94会学術大会講演要旨P214. 日本地質学会
松田義章(1988) 蘭島遺跡B地点およびチブタシナイ遺跡の地質. 蘭島遺跡・チブタシナイ遺跡調査概報P79-91. 小樽市教育委員会
READING, H. G., (1978) *Sedimentary Environment and Facies (2nd, ed.)* Blackwell.
REINECK, H. E. & SINGS, I. B., (1980) *Depositional Sedimentary Environments*
Springer-Verlag.
- 斉藤昌之他(1970) 昭和44年度広域調査報告書・国富地域 通商産業省
TUCKER, M., ed. (1988) *Techniques in Sedimentology* Blackwell.
WALKER, R. G., (1984) *Facies Models (2nd ed.)* Geological Association of Canada.
YAMAGISHI, H., (1981). *Geology of the Shakotan Peninsula, Hokkaido, Japan.*
Report of the Geological Survey of Hokkaido, No. 52, P1-29, Geological
Survey of Hokkaido.
- YAMAGISHI, H., (1985) *Landslide and Debris Flows in Hokkaido, Japan.*
Proc. IVth International Conference and Field Workshop on landslides.
P481-484,

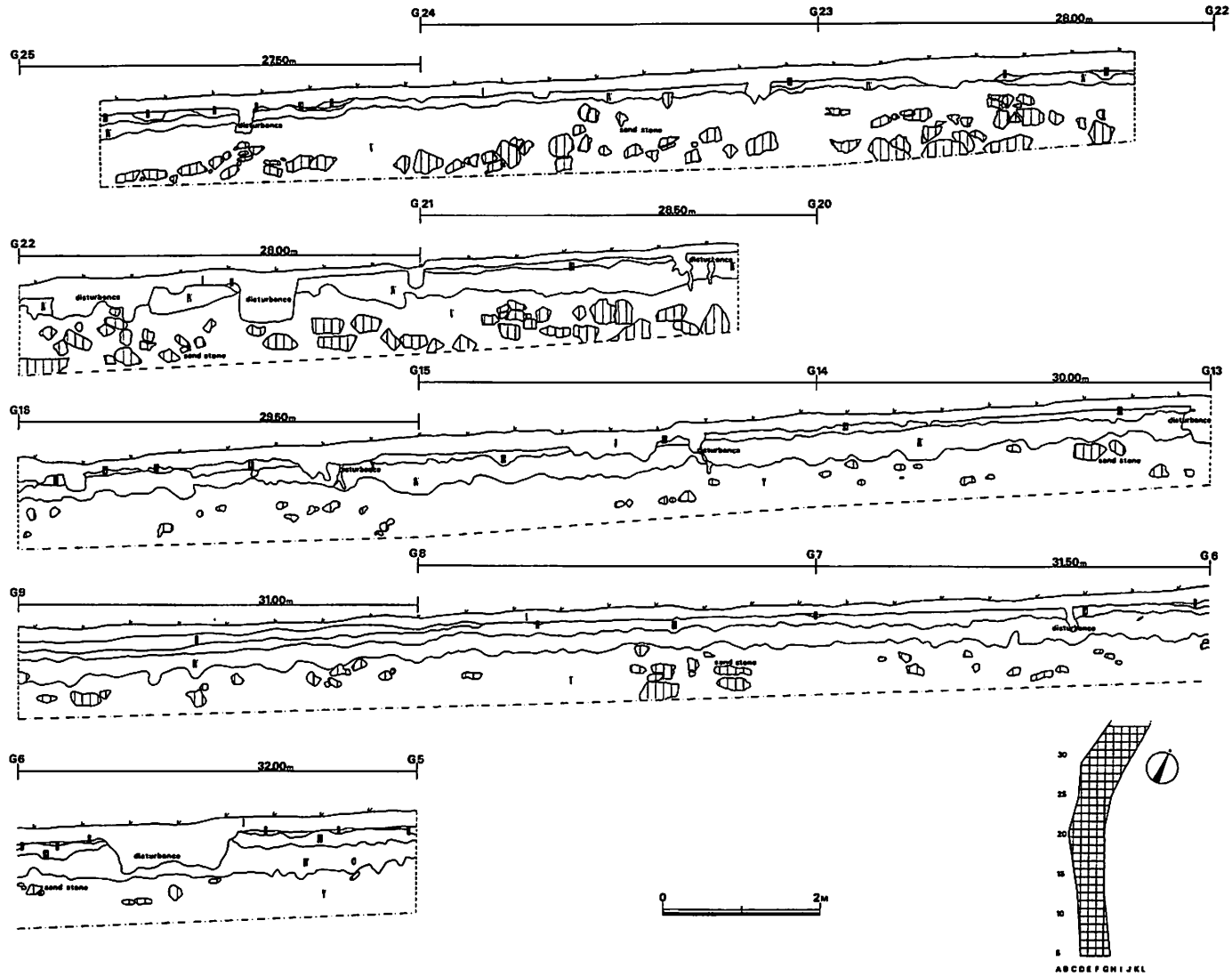


Fig.11 沢町遺跡主要南北セクション

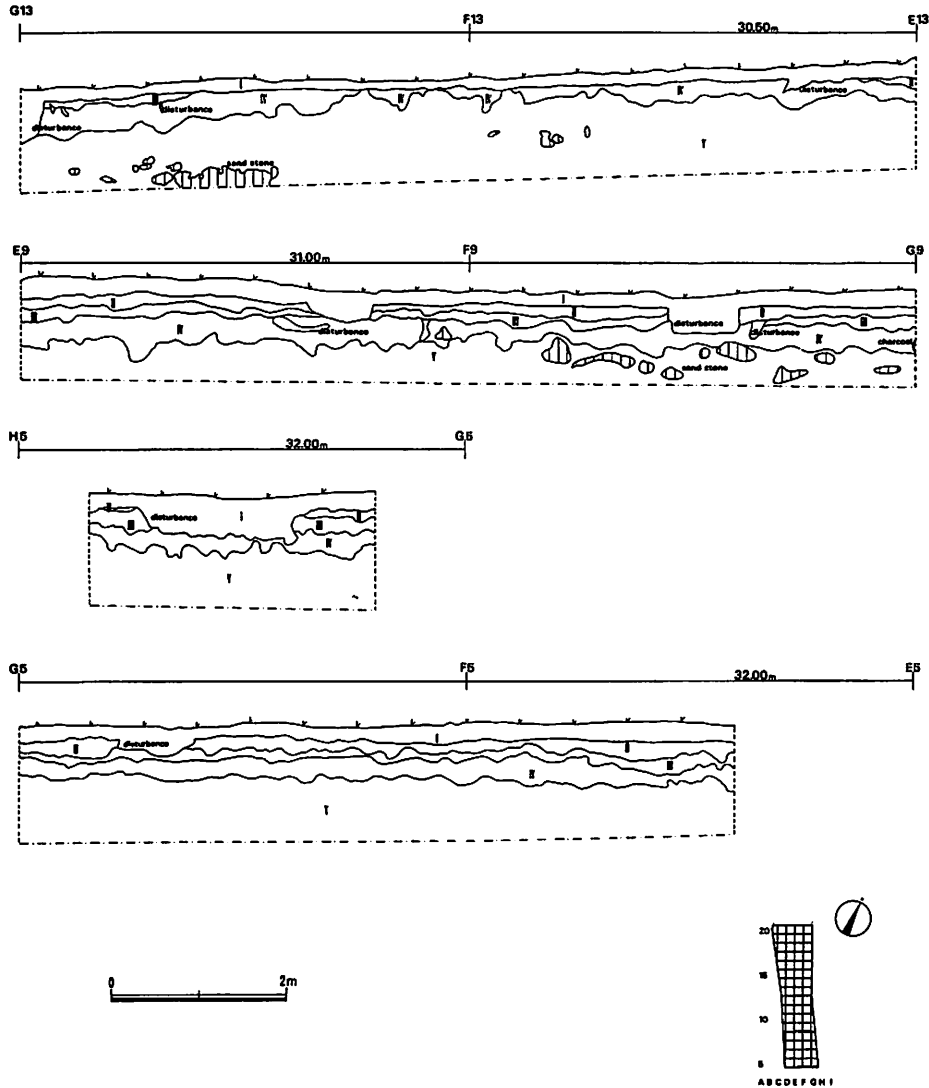


Fig.12 沢町遺跡主要東西セクション

第4章 出土遺物の分類

第1節 土 器

沢町遺跡から出土した土器は縄文時代中期～擦文時代前期に亘るものである。土器型式については帰属が明確ではないものが少なからずあり、細分を避けた。尚、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ群は今回の調査では出土していない。以下、分類ごとに略述する。

- 〈Ⅰ群〉 縄文時代草創期に属する土器群
- 〈Ⅱ群〉 縄文時代早期に属する土器群
- 〈Ⅲ群〉 縄文時代前期に属する土器群
- 〈Ⅳ群〉 縄文時代中期に属する土器群
 - a類 円筒土器上層式に相当するもの、サイベ沢Ⅶ式等
 - b類 北筒式土器の流れをくむもの、トコロ6類あるいは小島の沢Ⅰ式・伊達山式等
- 〈Ⅴ群〉 縄文時代後期に属する土器群
 - a類 大谷地貝塚第2貝層出土の大谷地式等貼付帯が文様の主体となっているもの
 - b類 曲線による沈線文を多用するもの、入江式・涌元式・大津7群・ニセコ式等
 - c類 突瘤文を主体とし沈線文等が加わるもの、堂林式
- 〈Ⅵ群〉 縄文時代晩期に属する土器群
 - a類 三叉文・弧線文・波状文等が主体となるもの、大洞B式あるいは大洞B C式に並行
 - b類 爪形文・刺突文・沈線文等が多用されるもの、大洞B C式あるいは大洞C₂式に並行
- 〈Ⅶ群〉 続縄文期に属する土器群
- 〈Ⅷ群〉 擦文時代に属する土器群
 - a類 横走沈線文・段状沈線文等が主体となるもの、土師器あるいは土師質土器多し
 - b類 須恵器、SH-1 近くから出土した坏1点が今回の調査における唯一のものである

第2節 石 器

本遺跡出土の石器は、ほとんどが縄文時代後期・晩期のものであり、検出遺構の時期や出土遺物の時期別割合から推察すれば、後期のものは非常に少数である。尚、石核・剝片・礫ほかの分類は除いた。以下、分類別に略述する。

- 〈Ⅰ群〉 石鏃・石槍（あるいはナイフ）類

a類 石鏃

- a₁ 三角形, a₂ 基部がコンケイブするもの, a₃ 有茎
 a₄ 柳葉形・木葉形, a₅ 菱形
 a₆ 五角形あるいは、それに近い形状を呈するもの

b類 石槍あるいはナイフ

- b₁ 有茎, b₂ 柳葉形・木葉形, b₃ 菱形（基部が明瞭ではないもの）

〈II群〉 石錐

a類 棒状のもの

b類 刺突部を作出しているもの

〈III群〉 石匙・削器類

a類 石匙（つまみ付ナイフ）

- a₁ 縦型, a₂ 横型

b類 ナイフ

c類 削器（サイド・スクレイパー）

- c₁ 両面調整のもの, c₂ 片面調整のもの

d類 ノッチド・スクレイパー

- d₁ 抉入部が一側縁にのみあるもの, d₂ 抉入部が両側縁にあるもの

〈IV群〉 搔器

a類 エンド・スクレイパー

b類 ラウンド・スクレイパー

〈V群〉 石斧・石鑿

a類 石斧

- a₁ 磨製, a₂ 局部磨製, a₃ 打製

b類 石鑿

- b₁ 小型のもの, b₂ 細長い形状を呈するもの, b₃ いわゆる丸鑿

〈VI群〉 石棒・石刀

a類 石棒

b類 石刀

〈VII群〉 敲石・凹石

a類 敲石

- a₁ 棒状礫等の先端部に敲打痕の認められるもの
 a₂ 円礫あるいは球状礫の周縁部に敲打痕の認められるもの

b類 凹石

〈VIII群〉 石皿

〈Ⅸ群〉 石冠・擦石類

- a類 石冠（いわゆる北海道式石冠で定形化した把握部をもつもの）
- b類 扁平打製石器
- c類 擦石
 - c₁ 角柱状の自然礫の稜線に擦痕を有するもの、
 - c₂ 礫面に擦痕を有するもの
 - c₃ 石鋸

〈Ⅹ群〉 砥石

- a類 板状の素材を利用しているもの（板状砥石）
 - a₁ 一面にのみ研磨面が認められるもの
 - a₂ 表裏二面に研磨面が認められるもの
- b類 棒状の素材を利用しているもの（棒状砥石）
 - b₁ 一ないし二面に研磨面が認められるもの、
 - b₂ 四面砥石
- c類 矢柄研磨器

〈Ⅺ群〉 石錘

- a類 扁平な礫を素材とし、作出されたもの
 - a₁ 4ヵ所に打ち欠きを有するもの
 - a₂ 長軸の両端に打ち欠きを有するもの
 - a₃ 短軸の両端に打ち欠きを有するもの
- b類 円礫等を素材とし有溝あるいは有孔のもの

上記以外の握石・岩偶・石偶・異形石器・玉等は本文中でそれぞれ説明を加えた。 （宮）

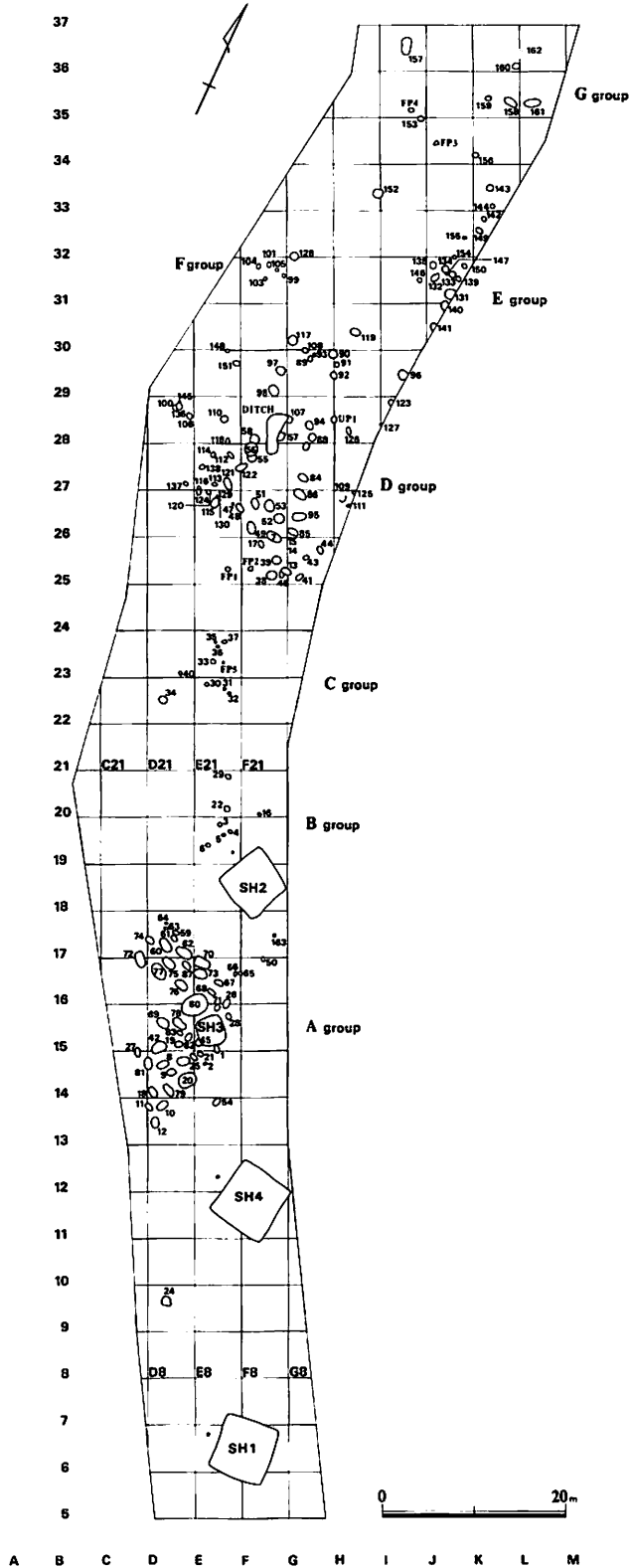


Fig. 13 沢町遺跡遺構配置図

第5章 検出遺構とその出土遺物

第1節 検出遺構の概要

Fig. 13に示したように今回の発掘調査区からは擦文前期の住居址 4軒 (SH-1~4)、縄文晩期前葉の墓塚163基 (GP-1~163) 溝状遺構 1カ所 (DITCH)・土塚 (UP-1)・地床炉 4 (FP-1~4) が検出された。以下、順に各節で詳述する。 (宮)

第2節 住居址

SH-1 E5・6・7、F5・6・7グリッドにかけて位置する。西側壁 5.9m、北側壁 5.4m、東側壁 6.1m、南側壁 6.0mで、平面形は隅丸方形を呈する。壁高は、確認面より生活面まで35~40cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がるが、南側壁は崩落の為、やや外傾している。床面は、南東方向に黄褐色土を10cm程度貼り、ほぼ水平にして生活面としている。

カマドは、西側壁中央に位置し、焚き口の両袖に大ぶりで扁平な割り石を配し、小礫と暗褐色粘土で構築している。焚き口は、幅約40cm、加熱の為、明赤褐色を呈し、良く締まっている。火床は楕円形で、5cm程窪んでいる。煙道、煙出しも良好な状態で検出され、トンネル式であることが判明した。カマドの隅から煙出しまで約2mである。

煙道は、高さ約10cm、焚き口から 1.3m程の長さで、煙出しの方に徐々に下がっており、雨水の流入を防いだものと思われる。煙出しは、はじめ壁面より70cm西に、直径10cm程の穴をあけたが、この穴とカマドとは繋がっておらず、穴はあけたものの使用しなかったものと思われる。使用された穴は、壁面より 1.9m西、確認面より 5m下で検出され、直径約25cm、深さ約45cmで、煙道より5cm程深くなっている。

主柱穴は、壁面より1~1.5m内側のほぼ対角線上に、4個確認された。直径約20cm、深さ38~44cmで、壁は角が立ち、ほぼ垂直に立ち上がる。その他ピットは、東側、南側の壁面に直径10~15cm、深さ6~13cmのものが5個と、壁際の床面 (特に北側壁隅) に直径10~60cm、深さ8~22cmのものが多数検出され、副柱穴と思われるものがある。

焼土は、カマド部分のみで、地床炉は検出されなかった。又、遺物は、カマド周辺と東側壁付近の床面で多数出土した。

土層は、1層 黒褐色土 (細粒、硬質)、2a層 黒色土 (所謂 黒ボク)、2b層 黒褐色土 (細粒)、3層 黒褐色土+黄褐色土 (掘り上げ土の流れ込み)、4層 黄褐色土 (貼り床) である。カマド部分の土層は、a層 にぶい黄褐色土、b層 黒褐色土、c層 黄褐色土 (ソフト・ローム)、d層 黒色土+炭化物、e層 黒色土である。

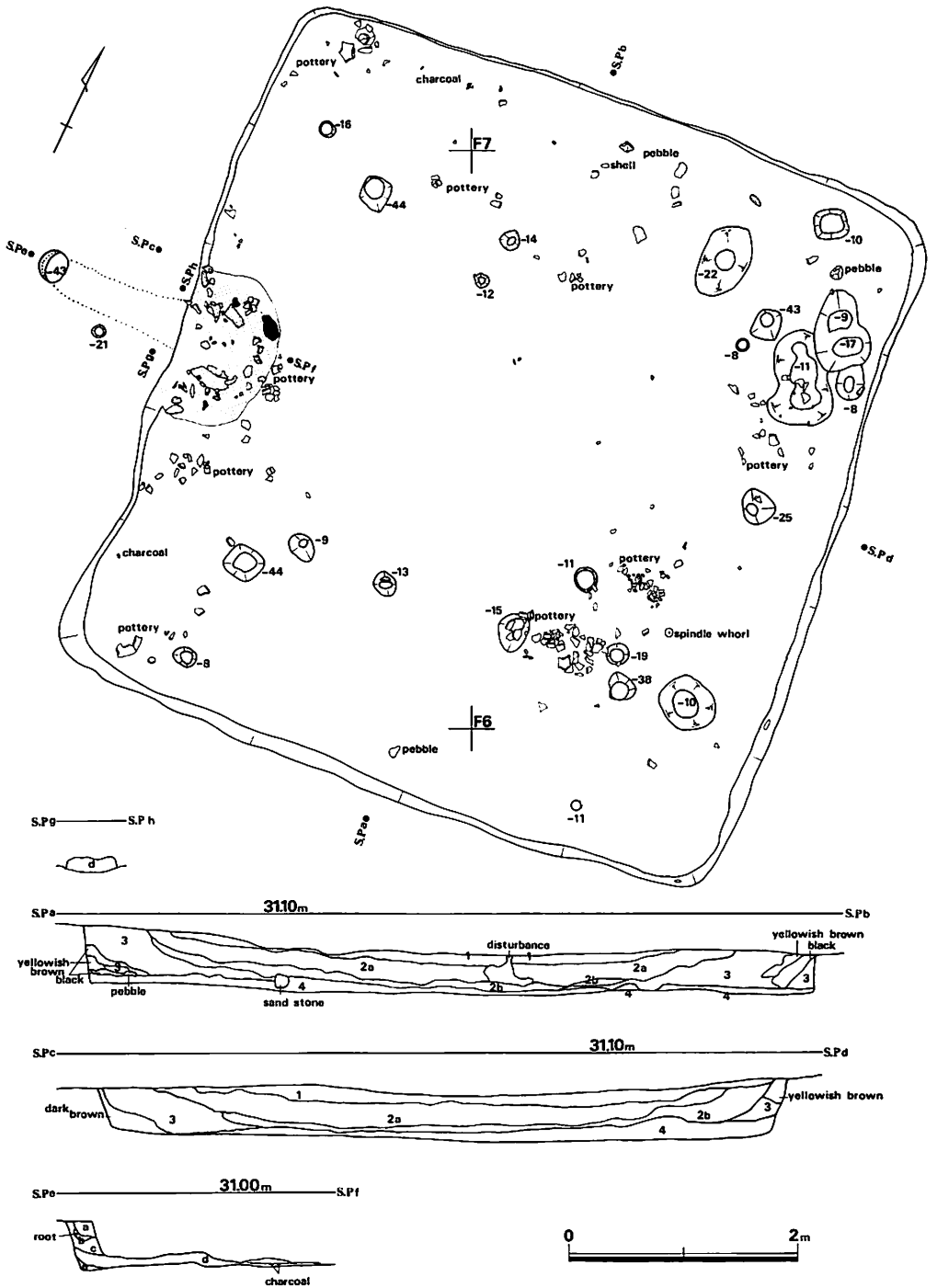


Fig. 14 沢町遺跡SH-1 検出状況

出土遺物 1は坏。輪積み成形で、体部はやや内湾し、口唇部は立つ。体部は横方向のヘラミガキで、内面は横方向のヘラケズリの後、ヘラミガキを行なう。内面と口唇部の一部に黒色処理を施し、外面と底部の一部に赤色顔料が残る。器高 5.3cm、口径11cm（現存）、底部 6.5cmで、2層より出土。

2も坏。輪積み成形で、口唇部はやや内湾し、体部下位に不連続の段を有する。内外面とも横ナデで、口縁部の一部に赤色顔料が残る。器高 6.8cm、口径16.1cm、底径 9.5cm、床面出土。

3は深鉢で、口唇部を欠く。輪積み成形で、口縁部横ナデ、頸部に6本の横走沈線を回らす。胴部は沈線下に縦の柁目整形痕を残すが、中央は柁目整形後縦方向のヘラミガキを施す。内面は、頸部横ナデ、下位に横方向の粗い柁目整形を施す。器高27cm（現存）、口径21cm（復原）、底径 8cm、胴部径14cmで、床面より出土。

4は深鉢の胴部～底部。輪積み成形で、胴部は縦の柁目整形、内面は幅 2mmの粗い柁目整形である。器高11cm（現存）、底径 7.5cmで、2層より出土。

5も深鉢の胴部～底部であるが、輪積み痕が明瞭である。胴部は縦方向の柁目整形、内面は横方向の柁目整形である。器高17.3cm（現存）、底径 8.5cmで、3層とカマドより出土。

6は深鉢の口縁部～胴部。輪積み成形で、口縁部横ナデ、頸部に5本の横走沈線を回らす。胴部は縦方向の柁目整形で、内面は、口唇部横ナデ、胴部横方向の柁目整形である。器高13cm（現存）、口径23cmで、カマドより出土。

7は漏斗型土器である。器高 3.5cm、上部口径 5.1cm、下部口径 0.5cmで、ヘラケズリ痕を明瞭に残す。形状は漏斗に以ており、用途は不明だが、液体を移すことも可能かと思われる。覆土より出土。

8は壺。輪積み成形で、口縁部は外反し、2本の横走沈線を回らす。口唇部に凹線があり、頸部に段状沈線を回らす。調整は横方向の柁目整形である。胴部は丸みを帯びて外へ張り、柁目整形後入念なヘラミガキを施す。器高28cm、口径19.8cm、底部 8cm、胴部径28cmで、床面出土。

9も壺で、8より小型である。輪積み成形で、口縁部は直立し、口唇部はやや外反する。頸部に螺旋状に2本の沈線が走る。口縁部横ナデ、胴部は縦横に幾度も柁目整形を行っている。内面は、口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリである。底部を欠く。器高17.5cm（現存）、口径15cm（復原）、胴部径20.2cmで、床面より出土。

10は壺の胴部～底部。輪積み成形で、胴部は縦横に柁目整形を施し、丁寧に調整している。内面は胴部下位に若干柁目整形痕が残る。器高 5.3cm（現存）、底径 8.8cmで、床面より出土。

11は須恵器の坏である。SH-1の西側、現道部分より出土し、ほぼ同時期のもので、SH-1と関りの深いものであると考えられる。ロクロ成形で、底部と体部の境は丸みを持ち、体部～口唇部は外傾する。高台は高くなく、わずかに外方へ張る。内外底部に粘土の継目が渦巻状に残る。体部は横ナデ、内面は横ナデで、底部内面は円状のナデが施される。器高 5.4cm、口径11.5cm（推定）、高台径 6.6cm、胎土は砂粒を含むが良質で、焼成は良好。くすんだ灰赤色を呈する。

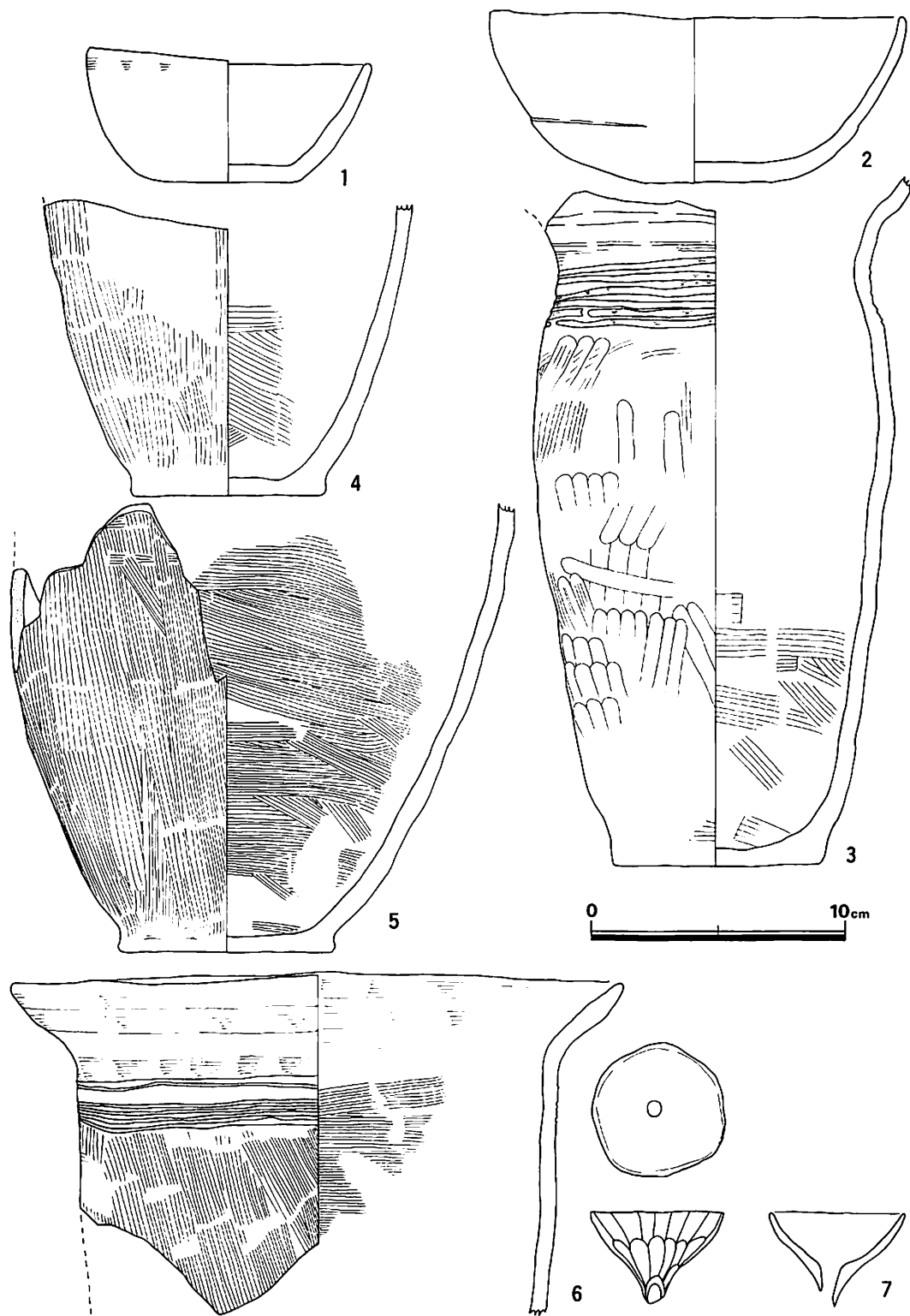


Fig.15 沢町遺跡SH-1出土の土器

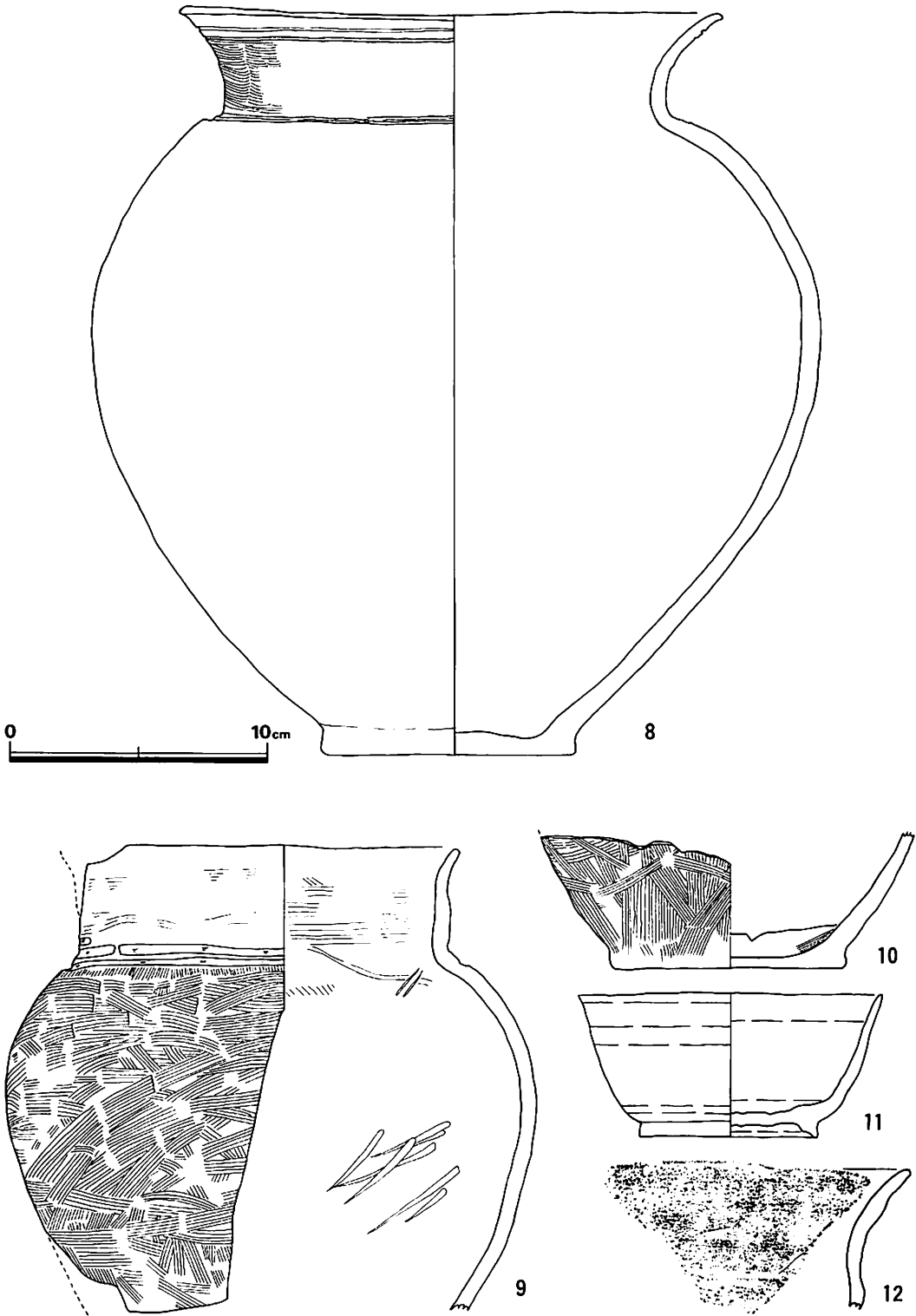


Fig. 16 沢町遺跡SH-1出土の土器

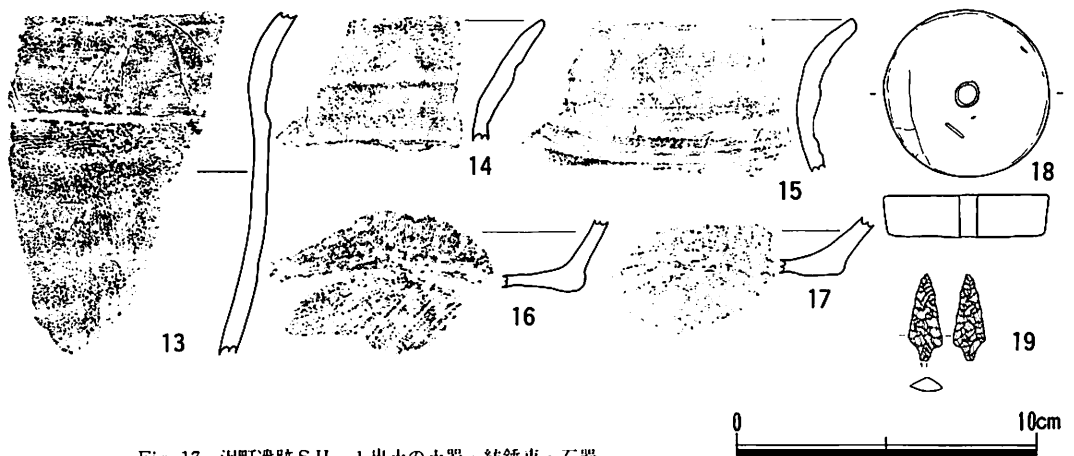


Fig. 17 沢町遺跡SH-1出土の土器・紡錘車・石器

- 12～17は全て破片である。12は深鉢の口縁部。頸部に段を有し、横ナデを施す。床面出土。
- 13は深鉢の口縁部～胴部。輪積み成形で、頸部に段状沈線を回らす。口縁部横ナデ、胴部縦方向の柁目整形。内面は頸部横ナデ、胴部横方向の柁目整形である。床面より出土。
- 14も深鉢の口縁部。段状沈線を有する。調整は横ナデで、外面に炭素が付着する。カマド出土。
- 15は壺の口縁部。中央がやや脹らむ。頸部に段状沈線を有し、横ナデを施す。カマド出土。
- 16は深鉢の胴部下位～底部。胴部縦方向の柁目整形、内面横方向の柁目整形である。底部は薄く、底部外面に平行なヘラケズリ痕が5本残る。2層より出土。
- 17も深鉢の底部である。16同様、底部外面に平行なヘラケズリ痕が6本残る。1層より出土。
- 18は紡錘車。径（上面）5.5cm、（下面）5.4cm、厚さ1.3cm、孔径（上面）0.9×0.7cm、（下面）0.7×0.6cmで、一部に赤色顔料が残る。2層より出土。土器は全てⅧ群である。
- 19は石鏃である。I群a₃類で、基部をわずかに欠いている。覆土中1層より出土。

SH-2 E 18・19、F 17・18・19グリッドにかけて位置する。北西側壁 5.4m、北東側壁 5.4m、南東側壁 5.1m、南西側壁 5.4mで、平面形はやや不整な隅丸方形を呈する。南東側壁南側に、長さ約70cm、幅10cmのテラス状の段がある。壁高は、確認面より生活面まで約45cmで、壁は崩落の為、やや外傾して立ち上がる。床は、20cm程度暗褐色土（明黄褐色粘土混じり）を貼り、ほぼ水平にして生活面としている。

カマドは、北西側壁中央に位置し、大ぶりで扁平な角礫1個、それよりやや小ぶりで扁平な自然石2個と灰黄色粘土で構築している。焚き口は、幅約50cmで、加熱により明赤褐色を呈し、良く締まっている。火床は楕円形で、3～4cm窪んでいる。煙道、煙出しも良好な状態で検出され、SH-1同様トンネル式であることが確認された。カマドの隅から煙出しまで約2.1mである。

煙道は、高さ約20cm、焚き口から1.3m程の長さで、壁面より60cmの所で行き違いが見られ、カマド側と煙出し側の両方から掘ったものと考えられる。煙出しの方に徐々に下がって掘られて

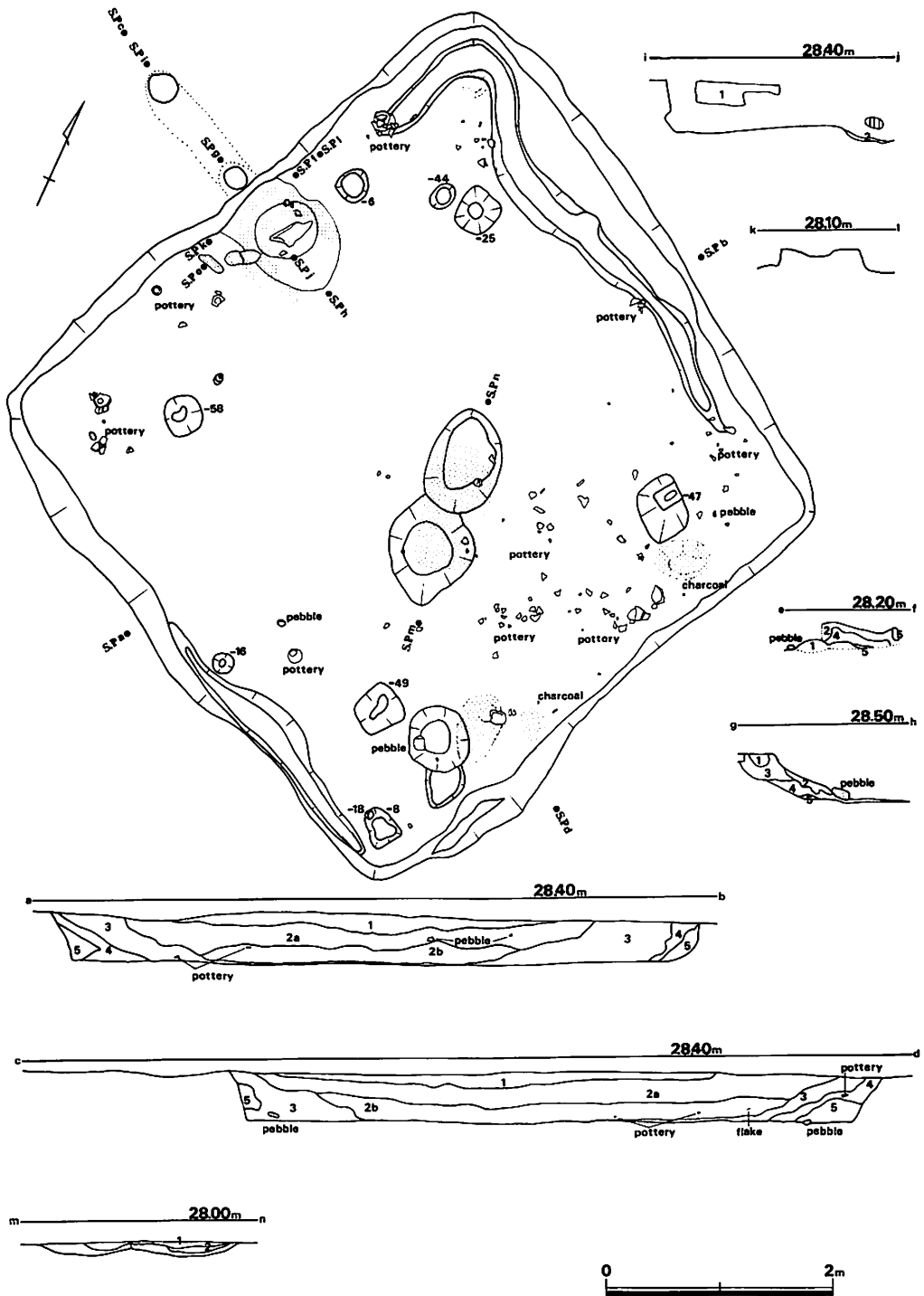


Fig. 18 沢町遺跡SH-2 検出状況

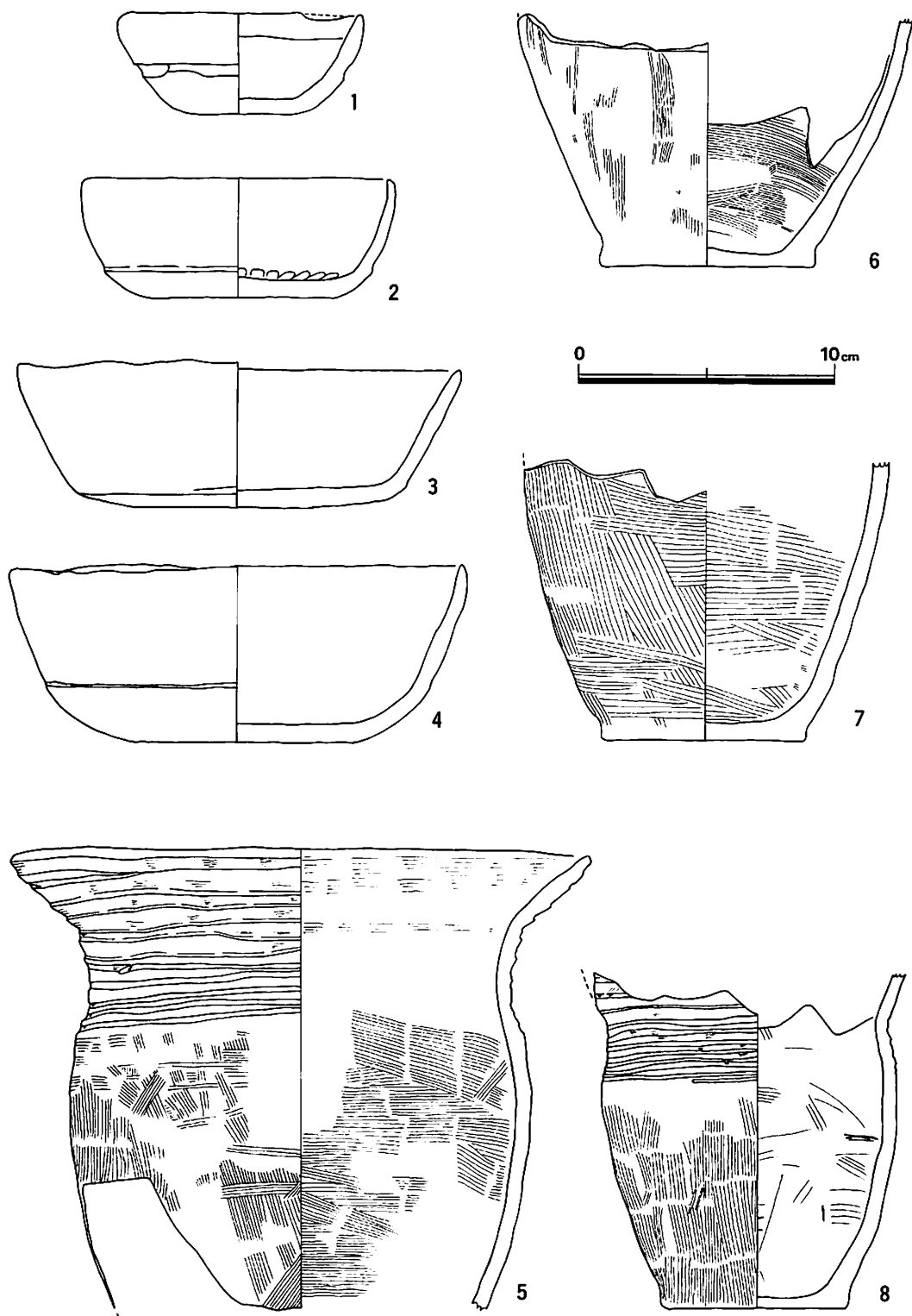


Fig. 19 沢町遺跡SH-2出土の土器

いるので、SH-1と同様、雨水の流入を防いだものと考えられる。煙出しは、壁面より 1.1m 北西にあり、直径約25cm、深さ45cmで、煙道より 2～3 cm深くなっている。奥壁は、底から15cm位の所で内湾し、斜に立ち上がる。

主柱穴は、壁面より 1～1.5m 内側のほぼ対角線上に、4 個確認された。直径20～40cm、深さ44～58cmで、壁は角が立ち、ほぼ垂直に立ち上がる。北東側のピットは掘り直したものと思われる。その他、北側と南側隅に集中して、直径10～50cm、深さ6～25cmのピットが8 個検出され、幅柱穴と思われるものもある。確認面の煙道部分にも、直径約20cm、深さ10cmのピットが検出されたが、性格は不明である。

南西側壁際に長さ約 2.5m、幅10～40cm、深さ約 8 cm、北東側壁際から北西壁際にかけて、長さ約 5 m、幅10～40cm、深さ約 8 cmの 2 本の溝が検出され、土止めの板を差し込んだものと考えられる。

住居中央に90×60cm、深さ10cmと、90×80cm、深さ 5 cmの地床炉が検出され、北側の方が明赤褐色を呈し、良く締まっているので、長期間使用されたものと思われる。他に、南東側壁際に 3 ヶ所、北側壁隅に 1 ヶ所、径20～30cmの焼土が確認された。又、遺物は、床面の壁側から多数出土した。

土層は、1層 黒褐色腐植土、2 a 層 黒色土（所謂 黒ボク）、2 b 層 黒色土（細粒）、3層 暗褐色土+黄褐色粘土（Ⅳ層）、（竪穴の掘り上げ土）、4層 黒褐色土（粘性あり）、5層 黄褐色粘土（Ⅳ層、壁の崩落）である。カマド部分の土層は、1層 黒色土、2層 灰黄色粘土、3層 暗赤灰色土（炭化物、焼土混じり）、4層 暗赤褐色土（粘質、焼土混じり）、5層 明赤褐色土（焼土）であり、煙道部分は、1層 黄褐色粘土（Ⅳ層）、2層 焼土、である。

出土遺物 1 は環。輪積み成形で、底部～体部は外傾し、口唇部は内湾する。体部中央に 5mm 幅の横走沈線を回らす。内面は横のヘラケズリの後ヘラミガキを丁寧に施す。内外面とも、一部に赤色顔料が残る。器高 4 cm、口径 9.4cm、底部 4.5cmで、床面より出土。

2 も環で、輪積み成形である。体部はやや外傾し、口唇部は内湾する。体部下位に段を有する。外面は横方向のヘラミガキ、内面は、体部に横方向のヘラミガキ、底部に放射状のヘラミガキが見られ、黒色処理されている。外面の口唇部及び底部に炭素が付着している。器高 4.6cm、口径 11.5cm、底径 7.5cmで、床面より出土。

3 も環で、輪積み成形である。体部は外傾し、口唇部はやや立つ。体部下位に不連続の段を有する。内面は横方向のヘラミガキで、黒色処理されている。外面はヘラミガキで、一部に赤色顔料が残る。器高 5.6cm、口径17cm、底径11cmで、床面より出土。

4 も環で、3 よりも大形である。輪積み成形で、体部はやや外傾し、口唇部は立つ。体部下位に段を有する。外面は横方向のヘラミガキで、炭素が付着する。内面は、体部に横方向のヘラミガキ、底部に若干放射状ヘラミガキが施され、黒色処理されている。器高 6.7cm、口径17.5cm、底径 9 cmで、床面より出土。

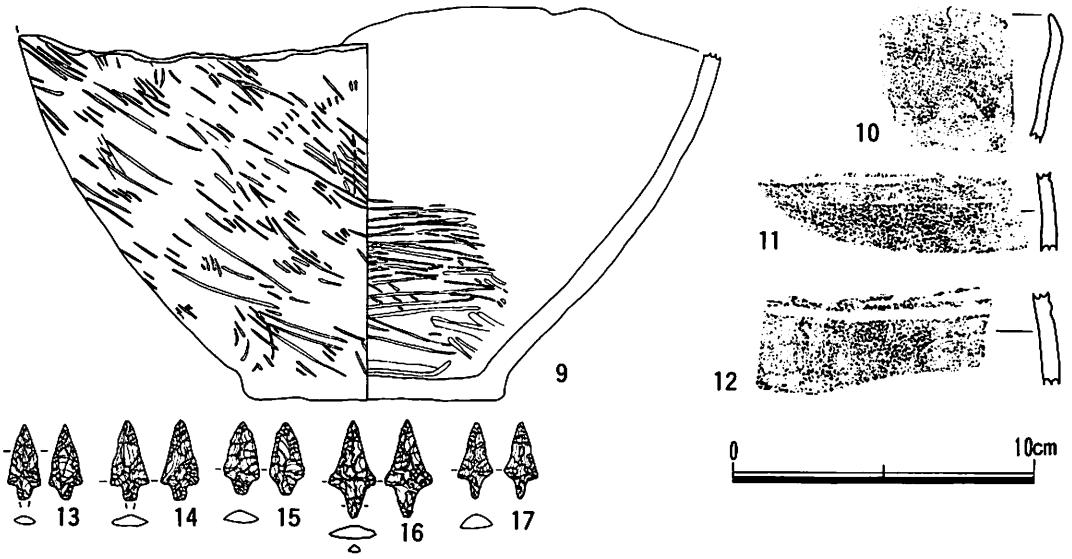


Fig.20 沢町遺跡SH-2出土の土器・石器

5は深鉢の口縁部～胴部で、底部を欠く。輪積み成形痕が明瞭である。口唇部直下に横走沈線、口縁部～頸部は、柁目を有するヘラ状工具で段状沈線を回らす。胴部は縦横の柁目整形、内面は横方向の柁目整形である。器高17.5cm(現存)、口径22.5cm(復原)、胴部径17.5cm(復原)で、床面と2層より出土。

6は深鉢の胴部～底部である。輪積み成形で、底部はやや外に張る。胴部は縦方向の柁目整形である。内面は横方向の柁目整形で、炭化物が付着する。器高9.8cm(現存)、底径8.2cm、胴部径15cm(現存)で、床面より出土。

7も深鉢の胴部～底部で、輪積み成形痕が明瞭である。胴部は1.5mm幅の縦の柁目整形、下位に横方向の柁目整形を施すが、粗雑である。内面は横方向の柁目整形で、内外面に炭化物が付着している。器高10.7cm(現存)、底径7.8cm、胴部径14cm(現存)で、床面より出土。

8は小型の深鉢で、口縁部を欠く。輪積み成形で、頸部に柁目を有するヘラ状工具による段状沈線を回らす。胴部は縦の柁目整形で、一部に赤色顔料が残る。内面は粗雑な柁目整形、ヘラケズリが見られる。器高12.8cm(現存)、底径7cm、胴部径11.3cmで、4の上に重なった形で出土した。

9は壺の胴部～底部。輪積み成形痕が明瞭である。胴部は斜方向のヘラケズリ、内面は横方向のヘラケズリである。器高12cm(現存)、底径8.5cm、胴部径24cm(現存)で、床面より出土。

10～12はいずれも破片で、床面よりの出土である。10は坏の口唇部～腰部。輪積み成形で、器壁は薄く、口唇部は内湾する。内外面とも横方向の入念なヘラミガキを施す。内面と外面の一部に赤色顔料が残る。

11・12は共に深鉢の頸部～胴部。頸部に横走沈線を有し、胴部は縦の柁目整形、内面は横の柁

口整形である。以上の土器は全てⅧ群である。

13~17は、いずれもⅠ群 a₃ 類石器である。覆土中より出土した。

SH-3 SH-2の南西、E15グリッドに位置する。北西側壁 2.6m、北東側壁 2.6m、南東側壁 2.4m、南西側壁 2.5mで、かなり小型の住居址である。平面形は、不整な隅丸方形で、GP-1とGP-45を切って構築されている。壁高は、確認面より生活面まで20~25cmで、壁はやや外傾して立ち上がる。床は10cm程度オリブ褐色土+黒色土を貼り、ほぼ水平にしている。

中央よりやや北に、100×55cm、深さ5cm程の地床炉が検出された。南西側壁近くにも60×20cmの焼土が検出されたが、カマドは確認されなかった。

ピットは、直径5~40cm、深さ4~19cmのものが多数検出されたが、支柱穴と思われるものは確認されなかった。覆土中より多数の礫、土器、剥片が出土したが、大部分は後世に廃棄されたものと思われる。

土層は、1層 黒色土(細粒)、2層 黒色土(極細粒)、3層 オリブ褐色土+黒色土である。

出土遺物 1は大型の坏で、輪積み成形痕が明瞭である。器壁は薄く、体部はやや外傾し、口唇部は立つ。体部下位に明瞭な段を有する。外面は横のヘラミガキで、一部に赤色顔料が残る。内面は横のヘラミガキで、黒色処理されている。底部外面に炭素が付着する。器高 5.8cm、口径

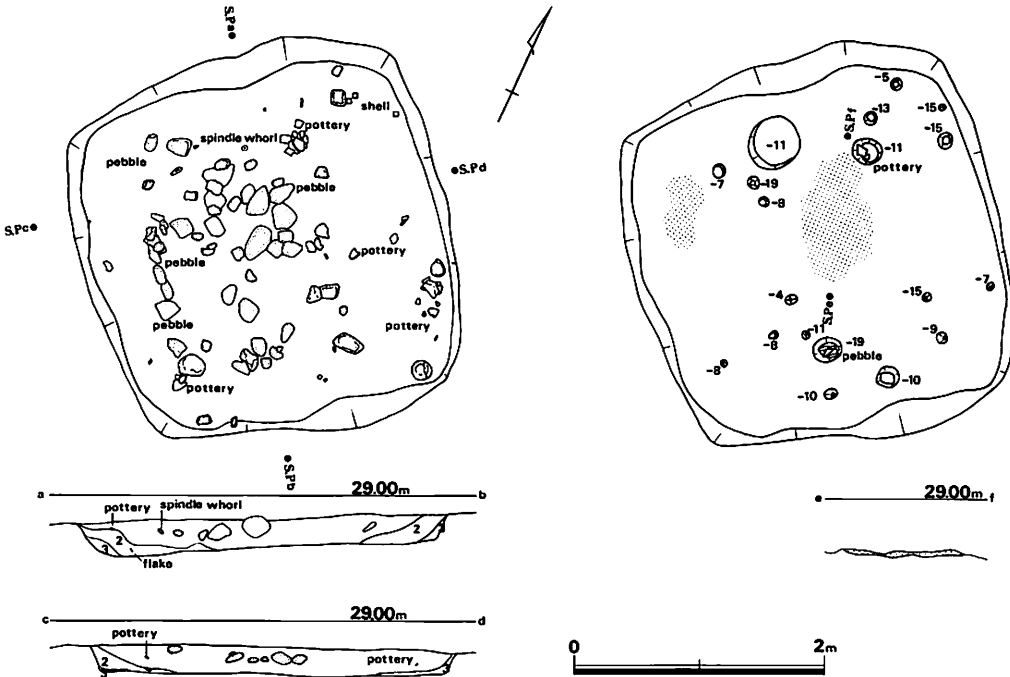


Fig. 21 沢町遺跡SH-3 検出状況

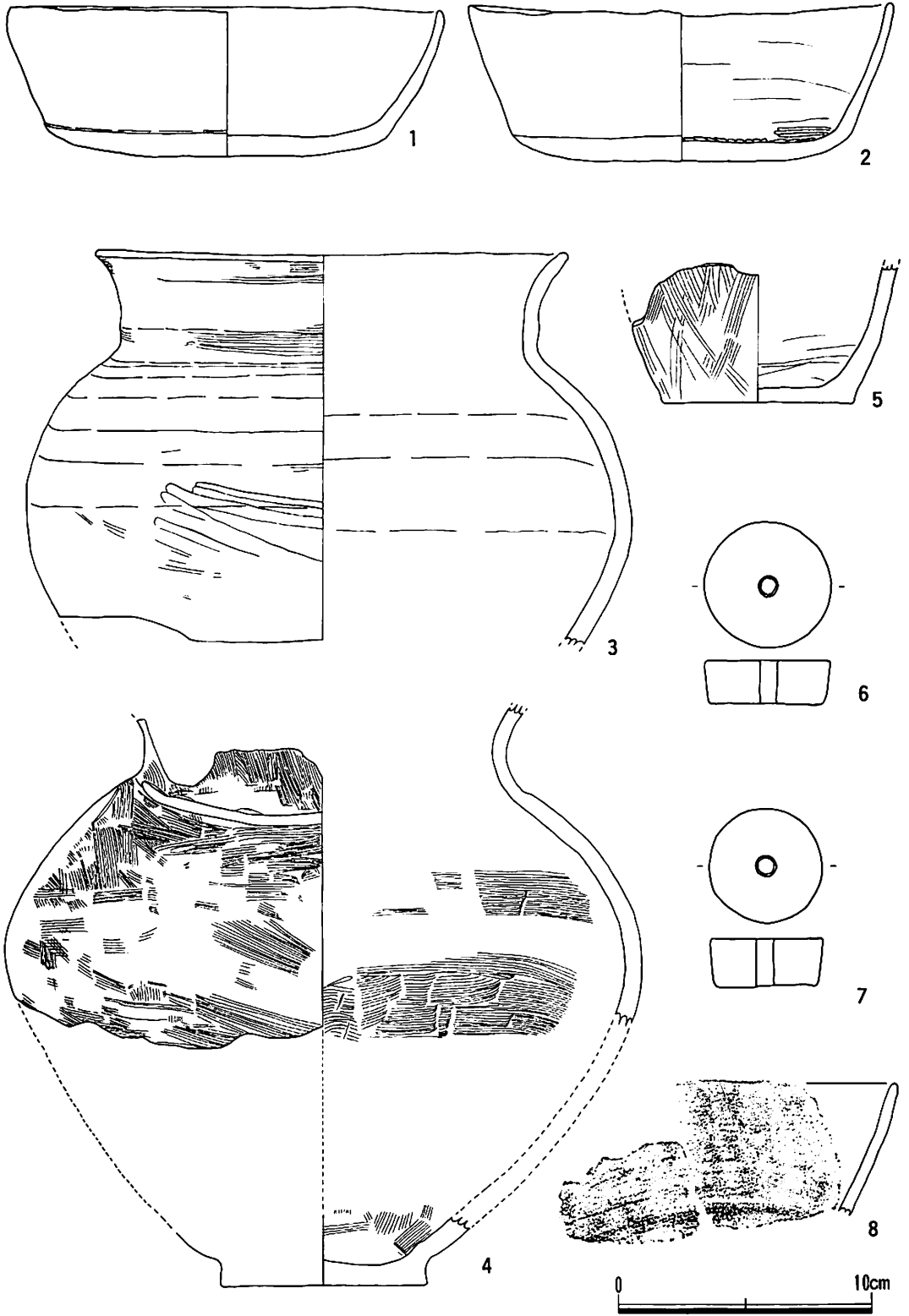


Fig. 22 沢町遺跡SH-3出土の土器

17cm、底径11.5cm、ほぼ完形で、南側壁際の床面より出土。

2も大型の坏で、輪積み成形である。器壁は薄く、体部は外傾し、下位に不明瞭な段を有する。外面は横のヘラミガキで、一部に赤色顔料が残り、炭素が付着する。内面は、横方向のヘラケズリ後、ヘラミガキで、底部に放射状のヘラミガキを丁寧に施す。器高 5.9cm、口径16.5cm、底径10cmで、床面より出土。

3は壺の口縁部～胴部で、底部を欠く。輪積み成形痕が明瞭に残るが、整形は粗い。口縁部は外反し、頸部に段状沈線を回らす。調整は横ナデである。胴部は、丸みを帯びて脹らみ、斜方向

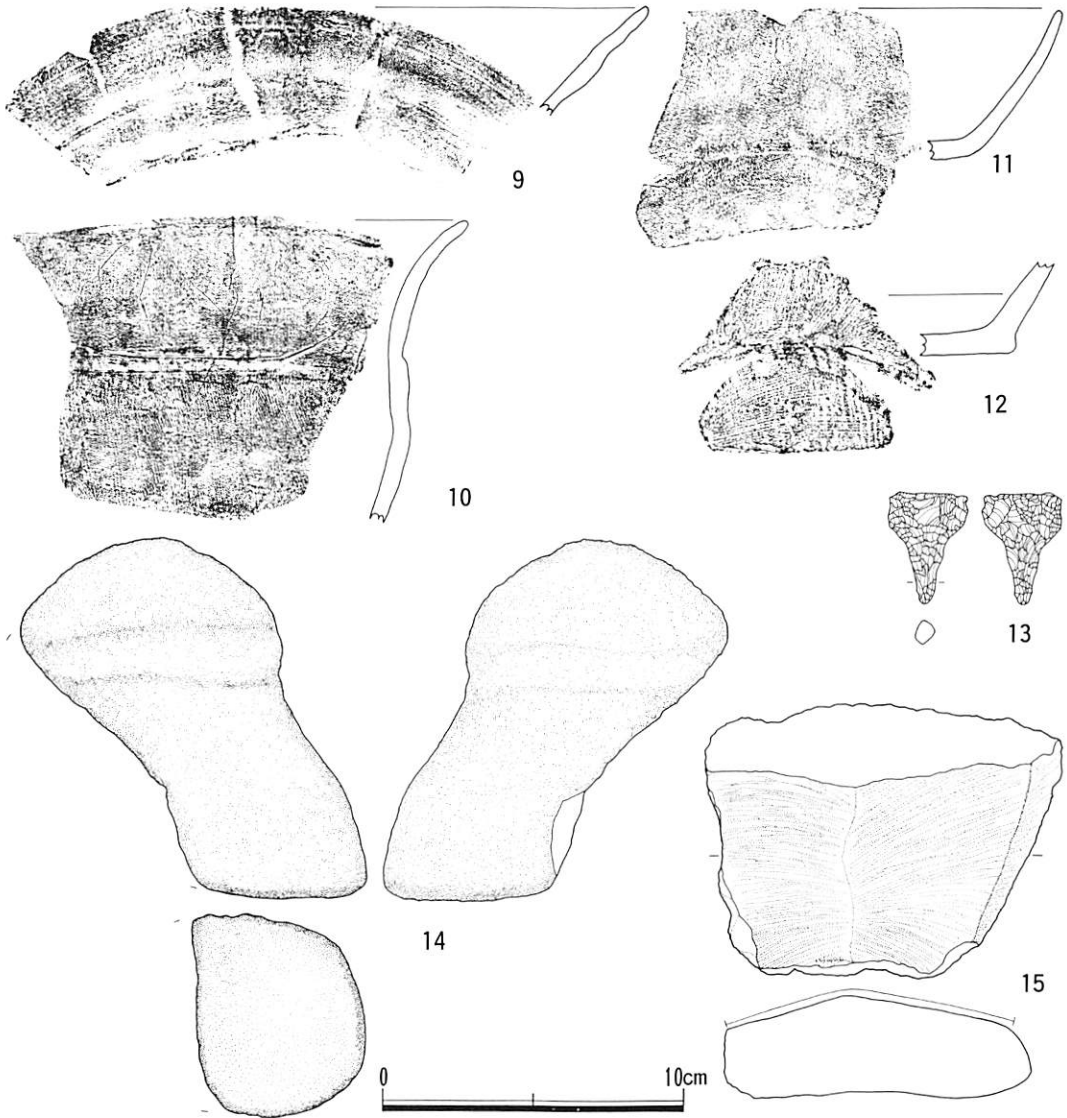


Fig. 23 沢町遺跡SH-3出土の土器・石器

の柁目整形後、入念な横方向のヘラミガキを施す。一部に赤色顔料が残る。内面は、ヘラ状工具による横ナデが見られる。器高15cm（現存）、口径18.5cm、胴部径23.5cmで、床面より出土。

4も壺であるが、口唇部と胴部下位を欠く。輪積み成形で、口縁部は外反し、頸部に不連続の段状沈線を有する。縦方向の柁目整形痕が明瞭に残る。胴部は丸みを帯びて脹らみ、縦横の柁目整形を施す。内面は、横の柁目整形である。器高21cm（復原）、底径8cm、胴部径25cmで、覆土より出土。

5は深鉢の胴部～底部。輪積み成形で、外面は縦方向の柁目整形を幾度も施す。内面は横方向のヘラケズリが見られ、一部に赤色顔料が残り、炭化物も付着している。器高5.5cm（現存）、底径7.3cmで、覆土より出土。

6は紡錘車。径（上面）5cm、（下面）4.8cm、厚さ1.7cm、孔径0.7cmで、一部に赤色顔料が残る。覆土中1層より出土。

7も紡錘車で、径（上面）4.5cm、（下面）4.1cm、厚さ1.9cm、孔径0.7cmで、6同様、一部に赤色顔料が残る。覆土より出土。

8～12は、いずれも破片である。8は坏の口唇部～体部。輪積み成形で、口唇部は丸くなり、体部下位に段を有する。内外面とも横のヘラミガキを丁寧に施し、黒色処理されている。覆土より出土。

9は深鉢の口縁部。輪積み成形痕が明瞭である。口唇部はやや丸みを帯びる。外面は横ナデ後、縦方向の柁目整形で、炭素が付着する。内面は、横ナデである。床面と覆土中より出土。

10は深鉢の口縁部～胴部である。輪積み成形で、口縁部は横ナデ、頸部に明瞭な段状沈線が走る。胴部は縦方向の柁目整形である。内面は、口縁部横ナデ、胴部横方向の柁目整形で、一部に赤色顔料が残る。覆土より出土。

11は坏の口唇部～底部。輪積み成形で、体部はやや外傾する。内外面ともヘラケズリ後、ヘラミガキを施す。内面は黒色処理されている。覆土より出土。

12は深鉢の胴部～底部。胴部は縦方向の柁目整形で、底部にも縦横に柁目整形を施す。内面は横方向の柁目整形である。覆土より出土。以上の土器は全てⅢ群である。

13～15は石器で、13はⅡ群b類、14はⅢ群a類、15はⅣ群a類である。

SH-4 SH-1とSH-2のほぼ中間で、E11・12、F10・11・12、G11グリッドにかけて位置する。西側壁6.4m、北側壁6.1m、東側壁6.3m、南側壁6.5mで、大形の住居址である。平面形は、不整な隅丸方形を呈する。壁高は、確認面より生活面まで35～45cmで、壁はやや外傾して立ち上がる。床は20cm程黄褐色土を貼り、ほぼ水平にして生活面としている。

カマドは、西側壁中央に位置し、暗黄褐色粘土で構築している。焚き口は、幅約50cm、加熱の為、明赤褐色を呈し、良く締まっている。火床は楕円形で、10cm程窪んでおり、長期間又は、頻繁に利用されたと思われる。煙道、煙出しも、良好な状態で検出され、SH-1、2同様トンネル

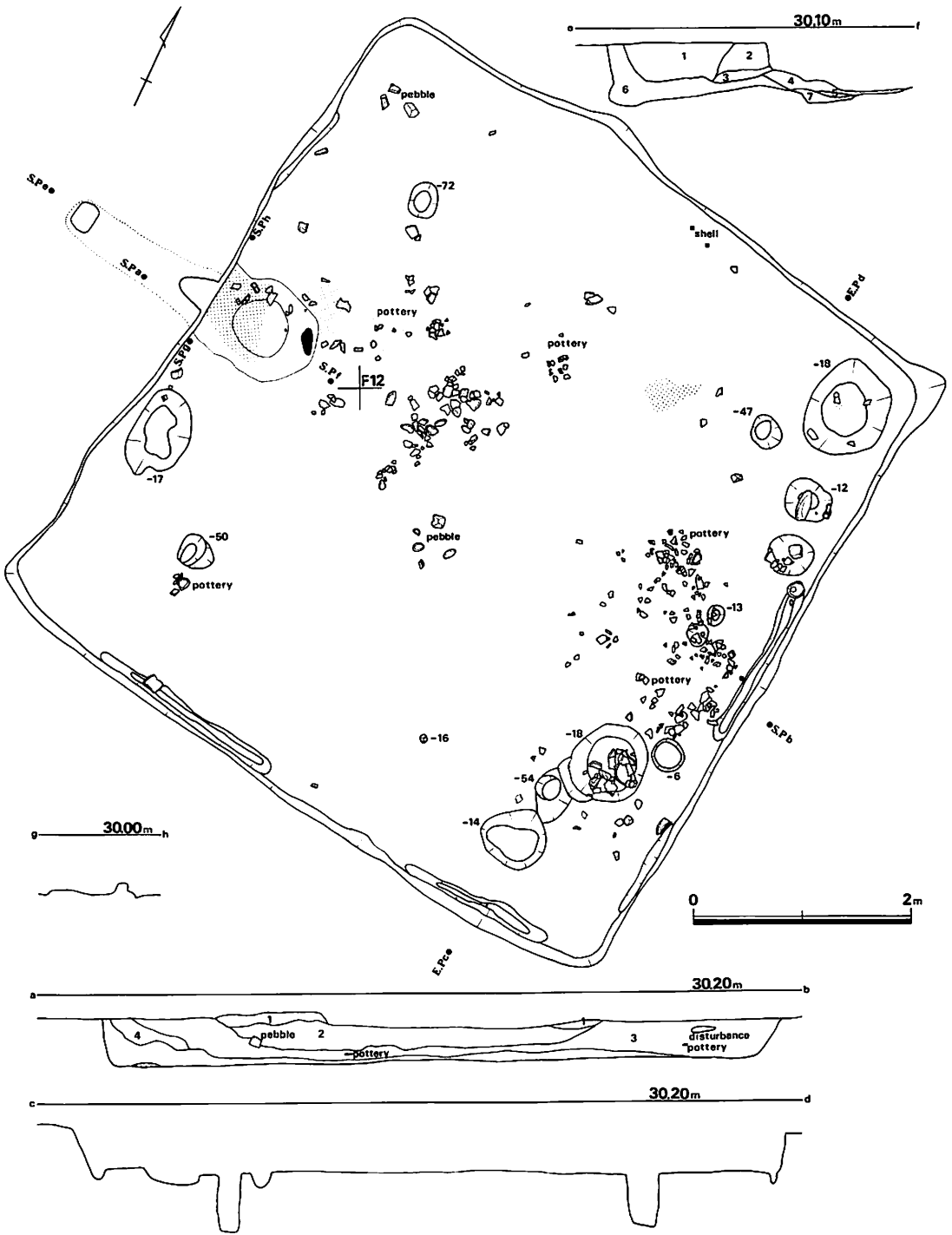


Fig.24 沢町遺跡SH-4 検出状況

式であることが確認された。カマドの隅から煙出しまで約 2.1m である。

煙道は、高さ約15cm、焚き口から 1.5m 程の長さで、煙出しの方に徐々に下がっており、SH-1、2同様、雨水の流入を防いだものと考えられる。煙出しは、壁面より 1.3m 西で、25×20cm の隅丸方形を呈する。確認面から深さ約55cm、煙道より 5 cm程深くなっている。奥壁は、底から約15cmの所で内湾し、斜に立ち上がる。

主柱穴は、壁面より 1～1.2m 内側のほぼ対角線上に、4 個確認された。直径20～30cmで、深さ47～72cm、壁は角が立ち、ほぼ垂直に立つ。南側の 2 個については、壁の崩落が見られた。その他に、西側壁に80×50cm、深さ17cmのピット 1 個と、東側壁際に直径10～80cm、深さ 6～18cm のピットが 7 個検出された。

各々の壁際に、長さ 1～2 m、深さ約 8 cm の溝が走り、SH-2同様、土止めの板を差し込んだものと考えられる。

焼土は、カマド付近と、中央よりやや北側で検出されたが、地床炉は確認されなかった。又、遺物は、中央と東側部分で多数出土したが、中央の礫群は、後世の廃棄と見られる。

土層は、1層 黄灰色土（近代～現代の堆積層と見られる。）、2層 黄褐色粘土（IV～V層近代の入植時における埋土と見られる。）、3層 黒色土（遺物の大半が出土。）、4層 黒褐色土（細粒）、5層 黒褐色土+IV層である。カマド部分は、1層 明黄褐色土、2層 暗赤褐色土、3層 明黄褐色土（軟質、1の崩落）、4層 暗黄褐色粘土、5層 暗赤色土（焼土混じり）、6層 黒色土（炭化物混じり）、7層 焼土である。

出土遺物 1は坏。輪積み成形で、体部はやや外傾し、口唇部は立つ。体部下位に不連続の段を有する。外面は、ヘラミガキで、底部に一部赤色顔料が残る。内面は、横のヘラミガキで、黒色処理される。器高 5.5cm、口径12.5cm（復原）、底部 7.5cmで、床面より出土。

2は深鉢。輪積み成形である。口縁部は外反し、口唇部は立つ。横ナデを施す。口唇部直下に沈線、頸部に段状沈線を回らす。胴部は縦横の柁目整形、内面は横方向の柁目整形で、内外面とも調整は丁寧である。内外面ともに炭化物が付着している。器高32.2cm、口径25.2cm、底径 8.5 cm、胴部径19cmで、ほぼ完形。東側壁際のピットより出土。

3は深鉢の口縁部～胴部で、胴部下位～底部を欠く。輪積み成形で、口縁部は外反し、口唇部はやや立つ。口唇部直下に沈線、頸部に段状沈線を回らす。口縁部は横ナデ後、縦の柁目整形を施す。胴部は縦横の柁目整形、内面は横方向の柁目整形である。口縁部内面に炭化物が付着する。器高12cm（現存）、口径24cm（復原）で、床面より出土。

4は壺の胴部下位～底部破片である。輪積み成形で、胴部は縦方向の柁目整形で、底部にヘラ状圧痕が見られる。内面は横方向の柁目整形で、一部に赤色顔料が残る。底径 7.7cm、床面出土。

5は小形の深鉢で、口縁部と底部を欠く。頸部に段状沈線を回らす。胴部は縦横の柁目整形で、炭素が付着している。内面は横の柁目整形である。器高12.5cm（現存）、胴部径12.3cm（復原）で、床面より出土。

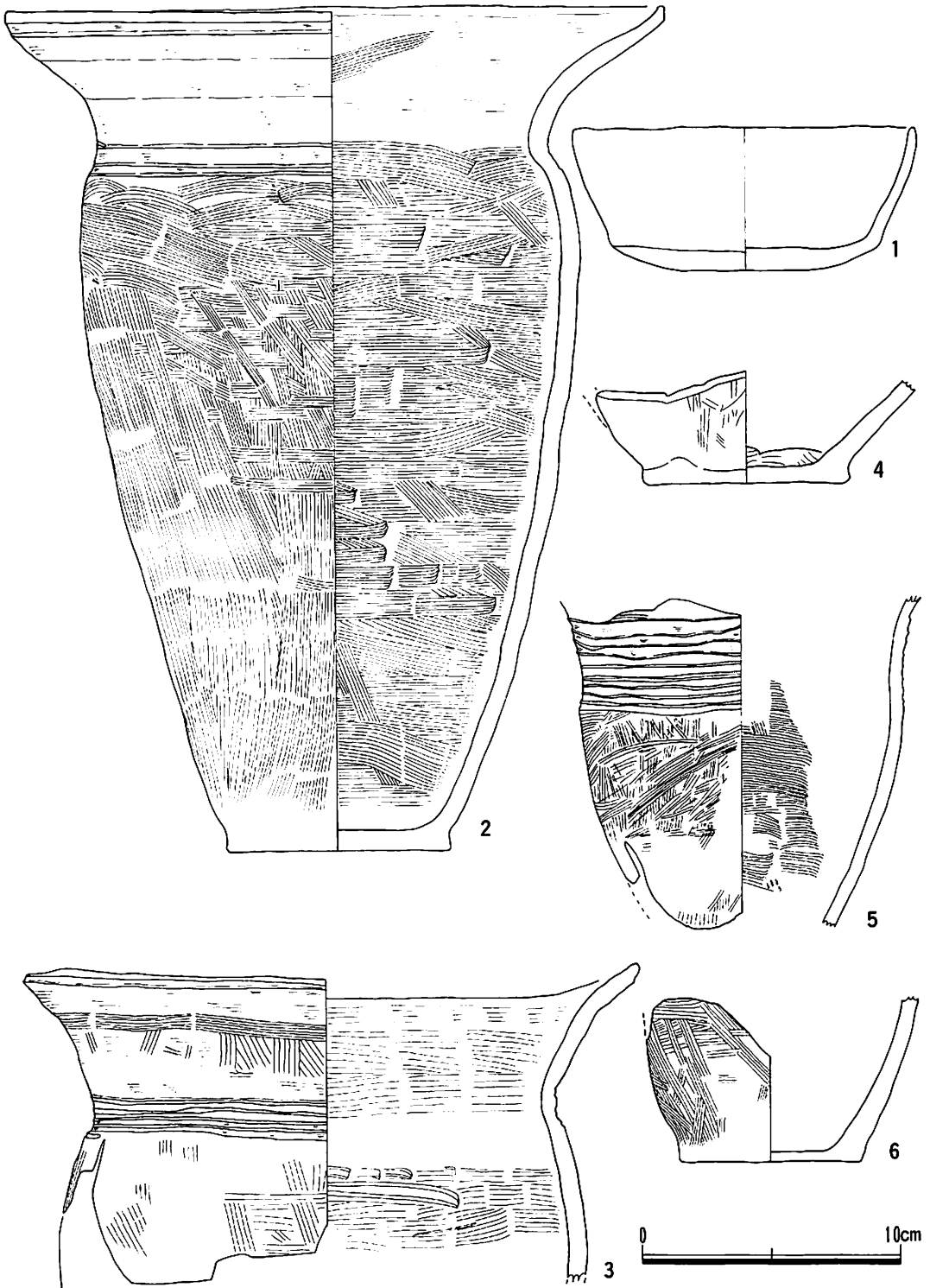


Fig. 25 沢町遺跡SH-4出土の土器

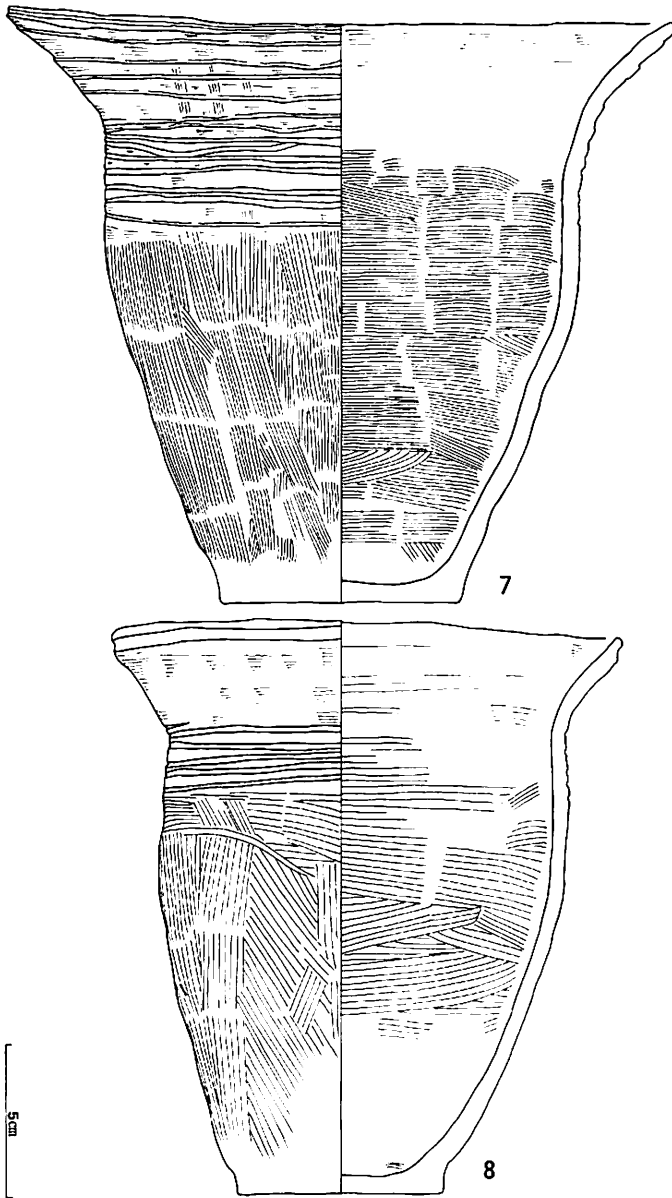


Fig. 26 沢町遺跡SH-4出土の土器

6は深鉢の胴部～底部破片で、輪積み成形。胴部は縦横の柵目整形で、内面は横方向の柵目整形である。外面に炭化物が付着している。底径7.5cmで、床面より出土。

7は深鉢。輪積み成形で、口縁部は外反し、口唇部直下に沈線、頸部にかけて段状沈線を回らす。胴部は縦の柵目整形、内面は横の柵目整形で、口縁部内面に炭化物が付着している。器高19.5cm、口径21.5cm（復原）、底径7.8cm、胴部径15.5cm（復原）で、床面より出土。

8も深鉢で、7よりやや小型である。輪積み成形で、口唇部直下に1本、頸部に5本の横走沈線を回らす。口縁部横ナデ、胴部は縦横の柵目整形である。内面は、口縁部横ナデ、胴部横方向の柵目整形であり、内外面に炭化物が付着している。器高18.8cm、口径17cm、底径7.8cm、胴部径13.5cm、ほぼ完形で、床面より出土。

9は大型の深鉢。輪積み成形で、口縁部はやや外反し、口唇部は角張る。頸部に5本の横走沈線を回らす。胴部はあまりすぼまらない。口縁部横ナデ、胴部は1.5mm幅の縦横の柵目整形である。内面は、口縁部横ナデ、胴部は外面と同じく1.5mm幅の横の柵目整形である。内面に炭化物が付着し、外面の一部に赤色顔料が残る。器高27cm、口径24cm、底径8.5cm、胴部径20cmで、東側壁際のピットより出土。

10も深鉢で、9より小型である。輪積み成形で、口縁部は外反し、口唇部はやや角張る。口縁

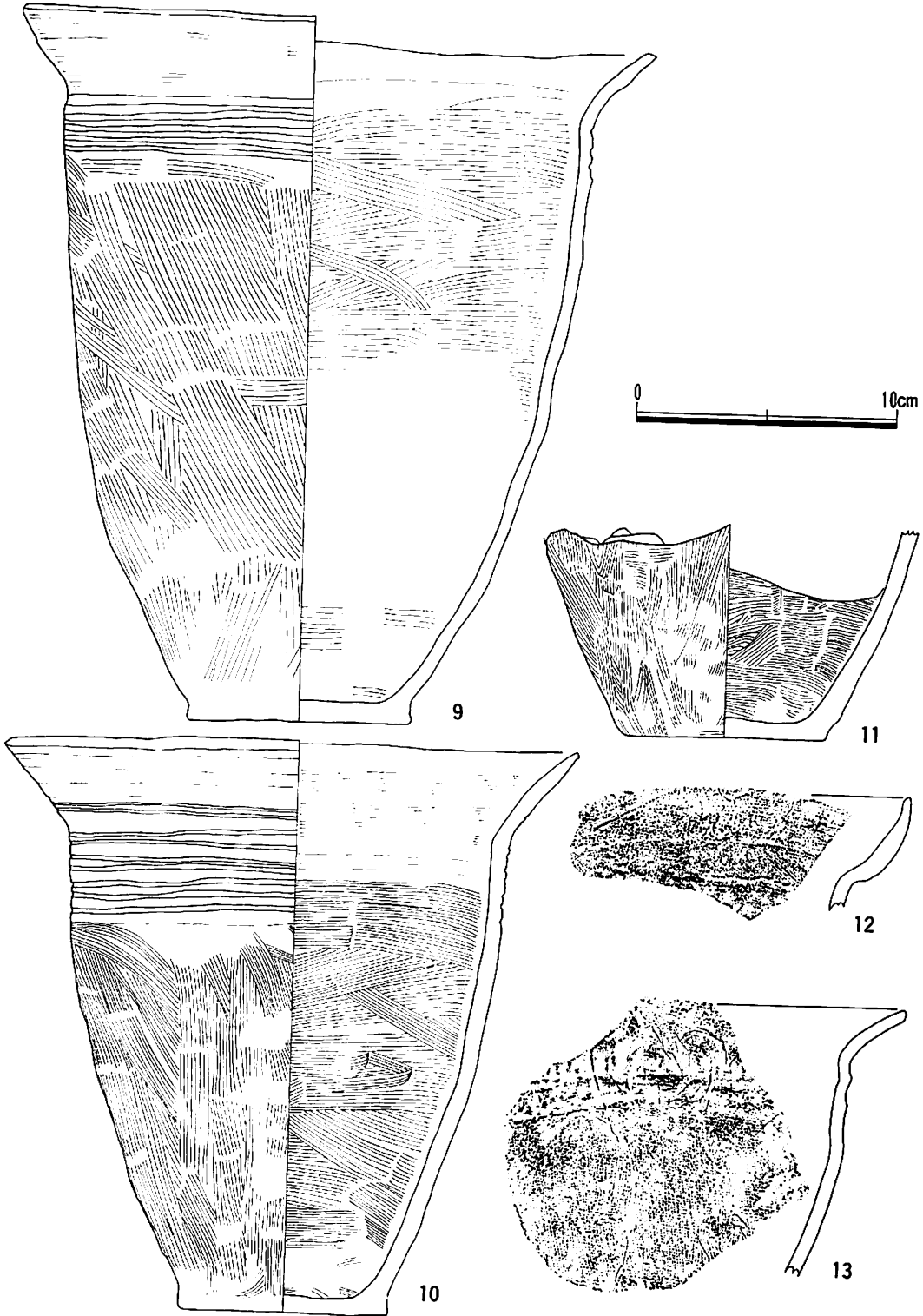


Fig. 27 沢町遺跡SH-4出土の土器

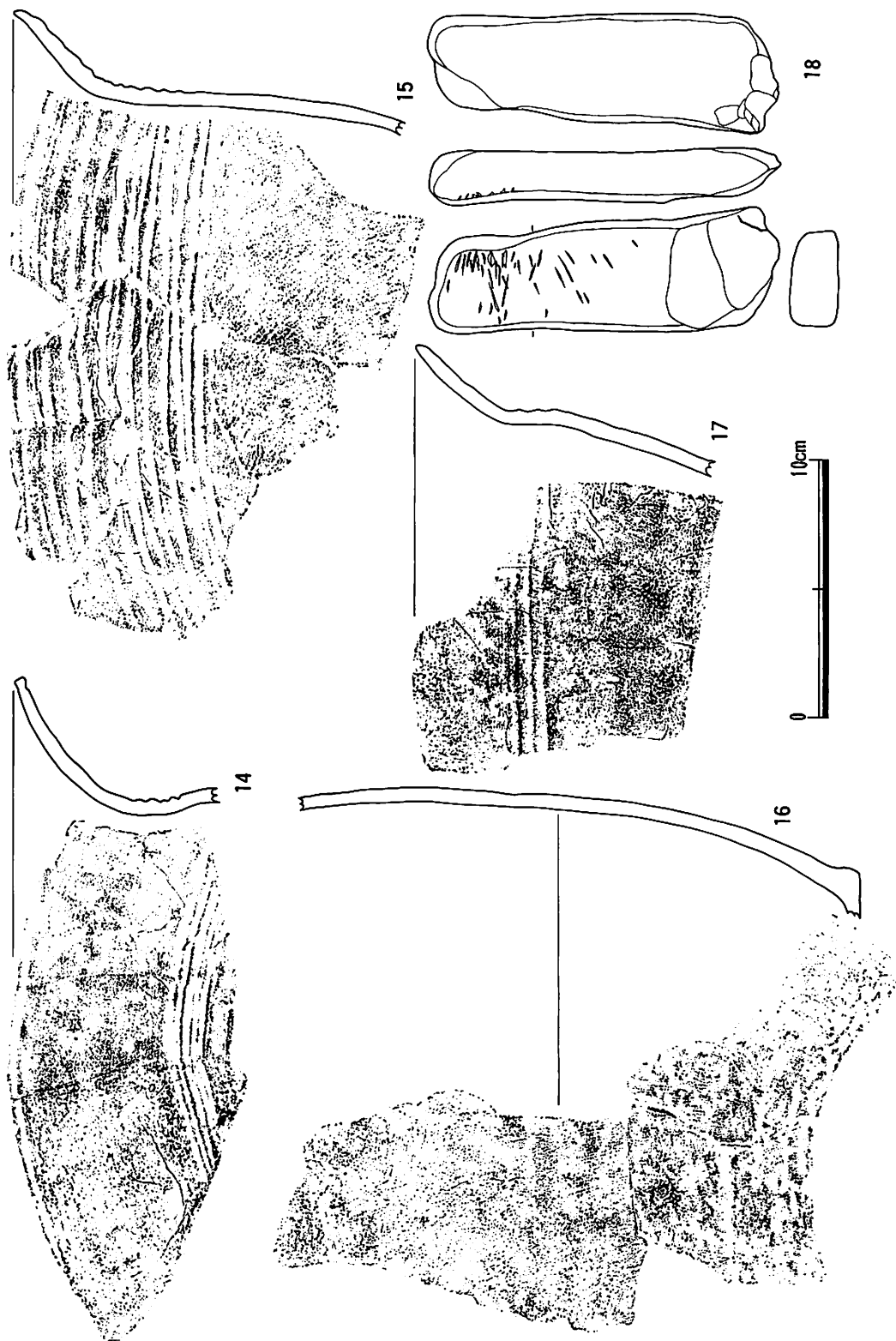


Fig. 28 沢町遺跡SH-4出土の土器・石器

部横ナデで、胴部は縦の柁目整形、内面は、口縁部横ナデ、胴部は横の柁目整形である。外面の一部に炭化物が付着している。器高21.7cm、口径20.5cm（復原）、胴部径16.3cmで、床面出土。

11は深鉢の胴部～底部。輪積み成形で、胴部は縦の柁目整形、内面は横方向の柁目整形を丁寧に施している。焼成良好で、整形痕が明瞭に残る。内面に炭化物が付着し、内外面の一部に赤色顔料が残る。器高 8.1cm（現存）、底部 7.6cmで、東側壁際の床面より出土。

12～17は、いずれも破片である。12は深鉢の口縁部で、やや内湾し、頸部はくびれる。調整は横ナデと縦方向の柁目整形。内面は横ナデと横の柁目整形である。口唇部に炭素が付着している。床面より出土。

13は深鉢の口縁部～胴部。輪積み成形で、口縁部は外反し、胴部は丸みを帯びる。頸部に段状沈線が走る。胴部は縦方向の柁目整形、内面は横方向の柁目整形である。覆土より出土。

14は大形深鉢の口縁部～頸部。輪積み成形で、口縁部は外反し、口唇部直下に1本、頸部に5本の横走沈線を回らす。外面は横ナデ、内面は横ナデで、頸部に2cm幅の柁目整形が見られる。内面に炭素が付着している。床面より出土。

15は深鉢の口縁部～胴部。輪積み成形で、口縁部は外反し、口唇部直下に沈線、頸部にかけて段状沈線が走る。胴部は縦方向の柁目整形。内面は口縁部横ナデ、胴部 1.5mm幅の横の柁目整形である。内面の一部に赤色顔料が残る。床面と覆土より出土。

16は深鉢の胴部～底部。輪積み成形で、胴部は縦横の柁目整形を幾度も施し、内面は横方向の柁目整形を施す。2と同様、内外面とも丁寧に調整されている。内外面に炭素が付着している。床面とカマドより出土。

17は深鉢の口縁部～胴部。輪積み成形で、口縁部横ナデ、頸部に段状沈線が走る。胴部は縦の柁目整形を施し、内面は横の柁目整形で、一部に赤色顔料が残る。内外面とも炭化物が付着している。床面より出土。以上の土器は全てⅦ群である。

18は、Ⅶ群 a₁ 類石器である。 (熊崎)

第3節 墓 墳

Fig.13の遺構配置図のように、今回の調査によって 163基の墓墳が検出された。墓墳は骨片が出土（第8章第4節西本論文参照）したもの、あるいは玉・石鏃・石斧・握石・腕輪等が土器とともに出土したもの等さまざまである。図示した主要遺物については本文で紹介するが、他の出土遺物やその出土点数については付編を参照願いたい。墓の規模等についても同様である。墓墳実測図については、A群～G群の順に、かつ番号順に図示した。これは各群の長軸方向の違い等を考慮して群別に図示したものである。遺物については、見やすさ・さがしやすさ等を考慮してGP-1～163の順に紹介した。墓墳の数もさることながら遺物の点数も膨大なため、主要遺物の概要を紹介するのがやっとであった。御了承願いたい。以下、GP-1から順を追って紹介する。

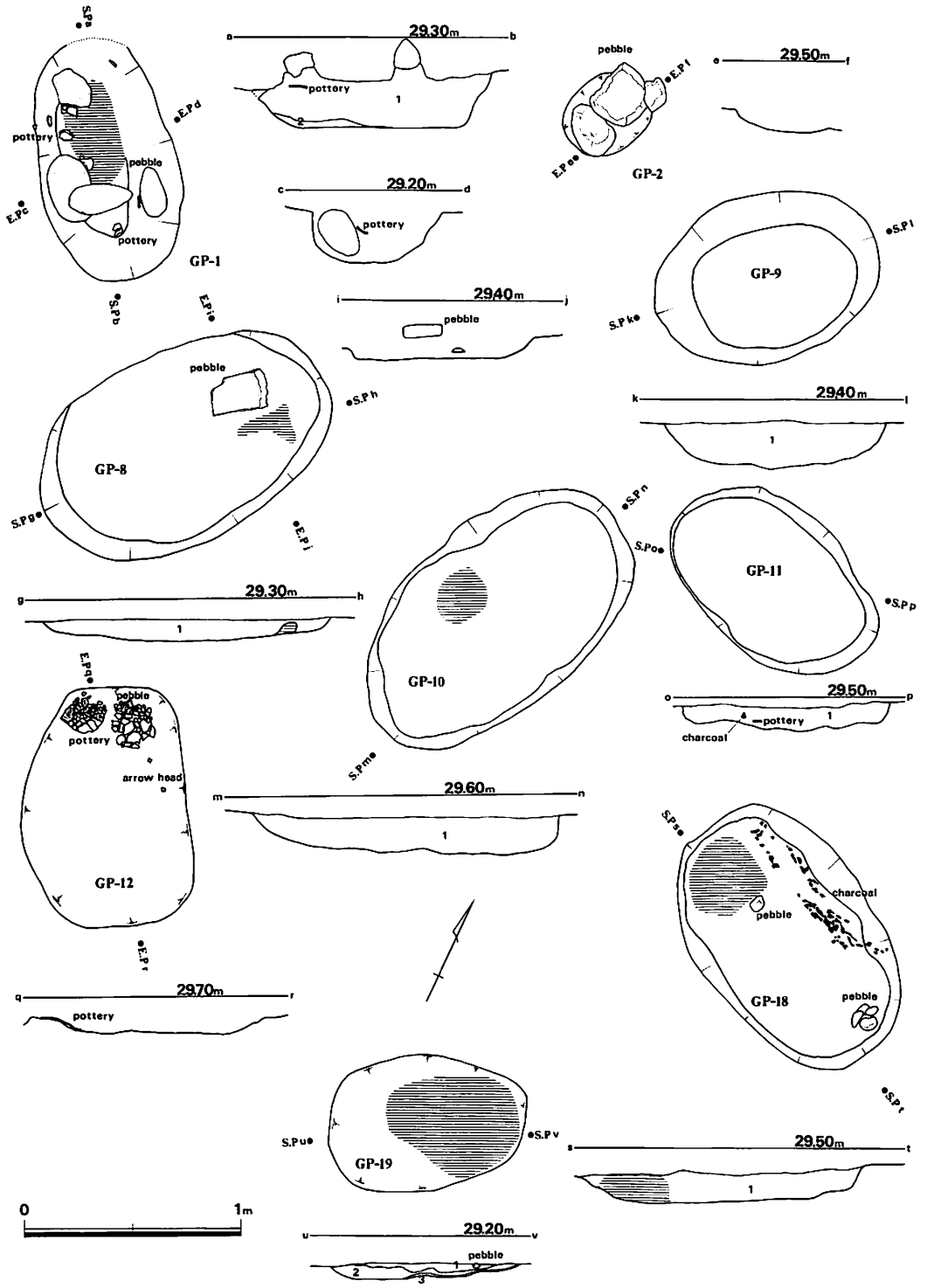


Fig. 29 沢町遺跡 G.P-1・2・8・10・12・18・19 検出状況 (A群)

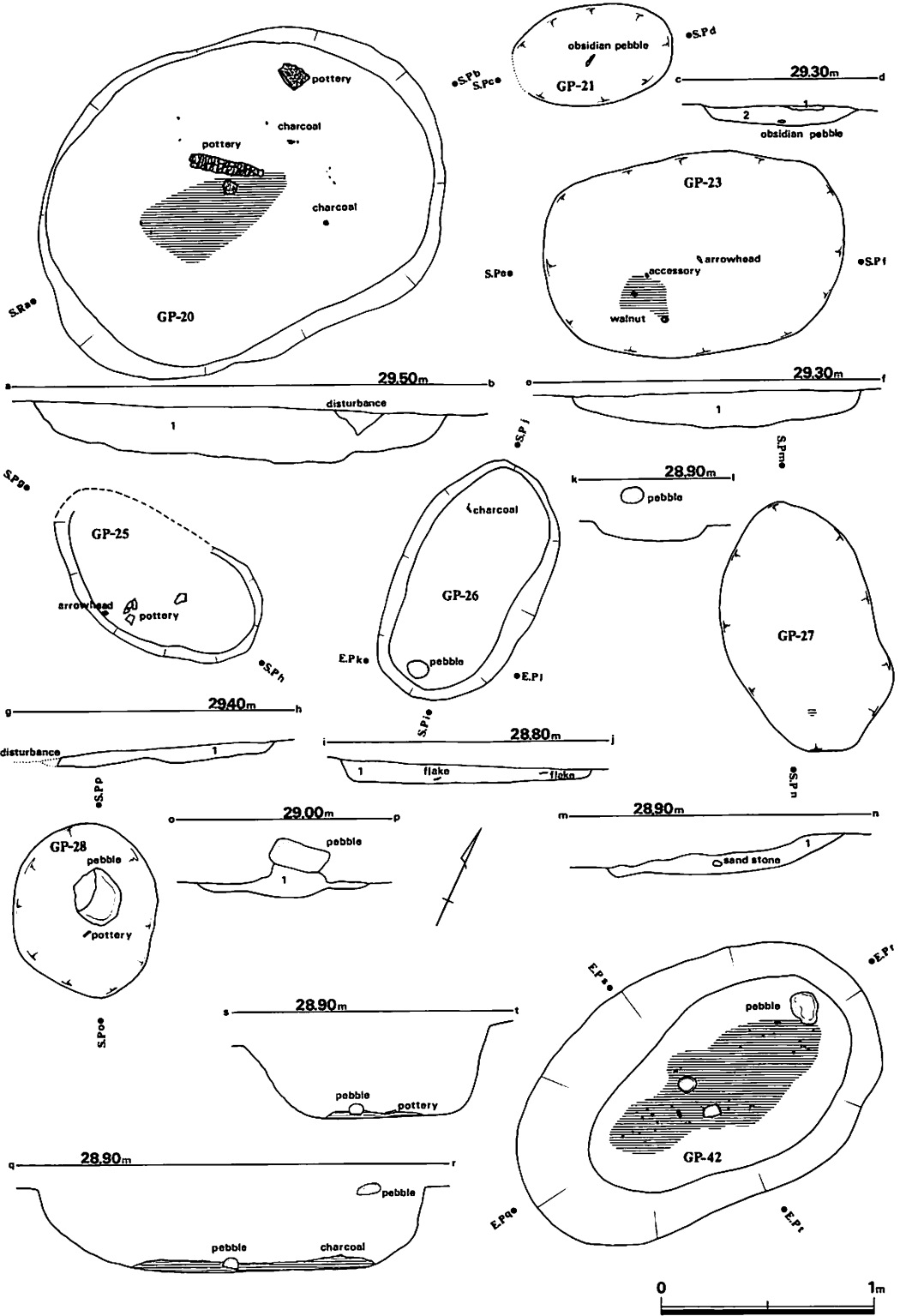


Fig. 30 沢町遺跡 GP-20・21・23・25~28・42 検出状況 (A群)

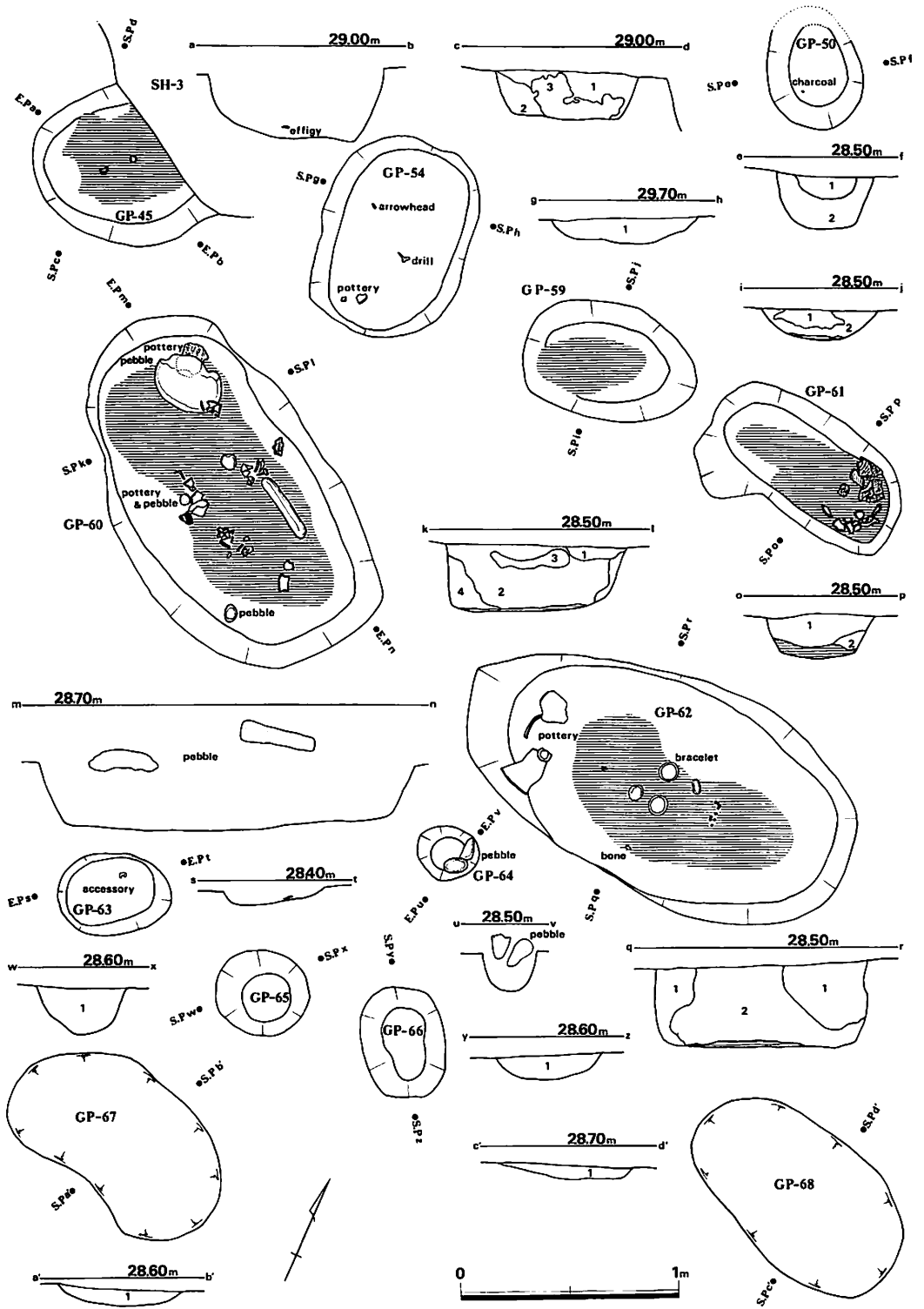


Fig. 31 沢町遺跡 G P-45・50・54・59~68 検出状況 (A 群)

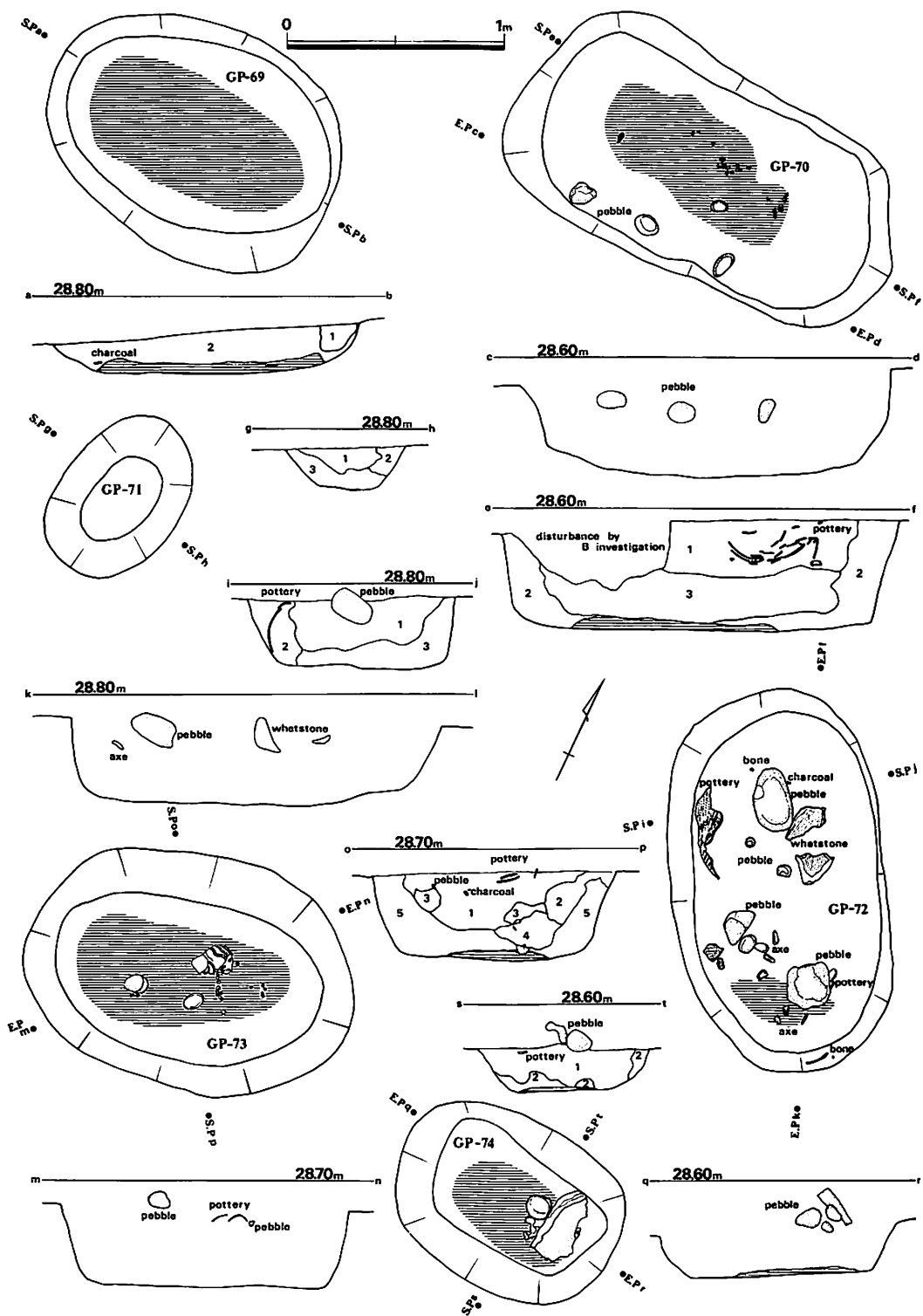


Fig. 32 沢町遺跡 G P -69~74検出状況 (A群)

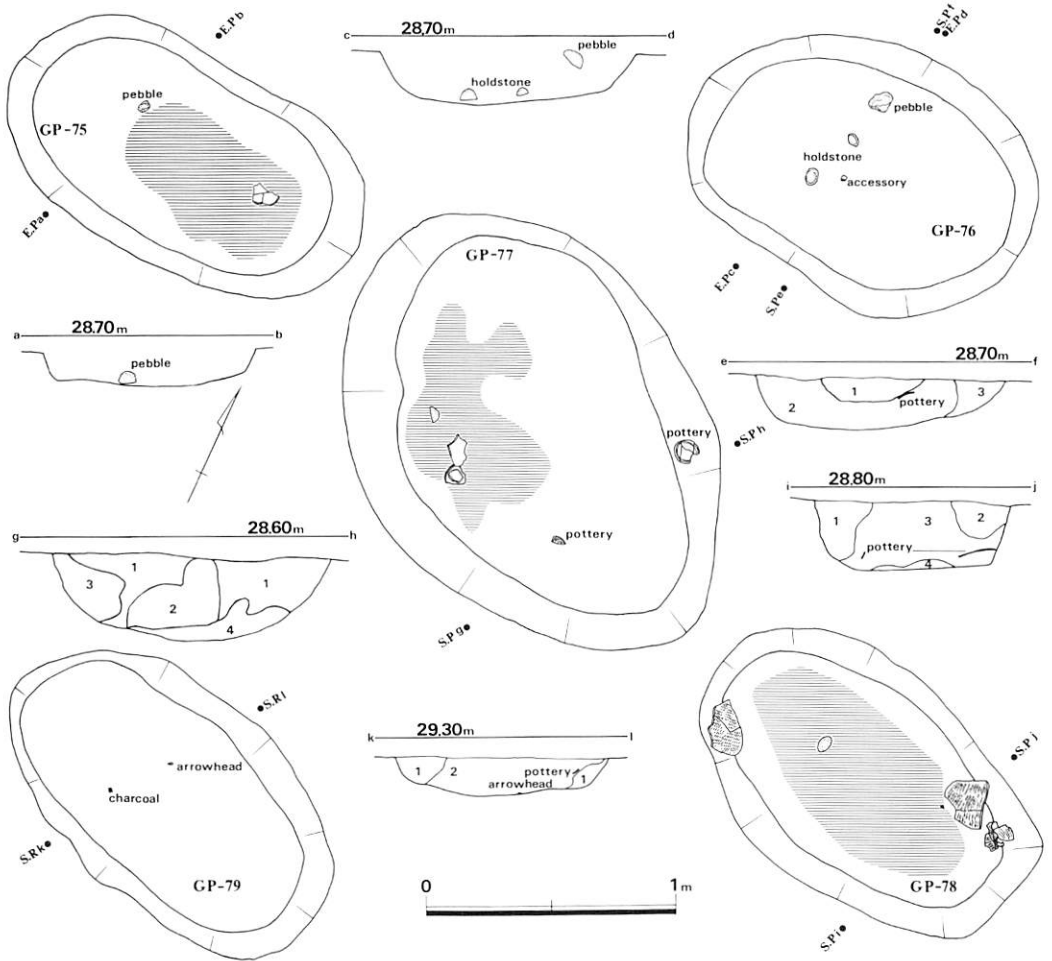


Fig. 33 沢町遺跡 GP-75~79検出状況 (A群)

- GP 1** Fig.29のように墓壙上部からは4個の大きな礫が出土。壙底部にはベンガラが検出された。Fig. 76のように黒曜石の有孔円礫が出土した。人の形をしている上に自然の穴が空いているため、石偶としての意味があったと考えられる。壙底部のベンガラを除去した際に出土した。
- GP 2** 小型のピットであるが、やはり大きな礫を置いてある。
- GP 3** 小型のピットである。多数のチップが出土したことが特徴である。Fig. 59のGP 3-1~5が出土土器である。Ⅵ群 a類と b類のものが出土している。
- GP 4** 小型のピットである。456点のチップが出土している他、骨片・炭化物等も少量出土した。
- GP 5** 小型のピットである。594点という多数のフレイク・チップが出土した。Fig. 59

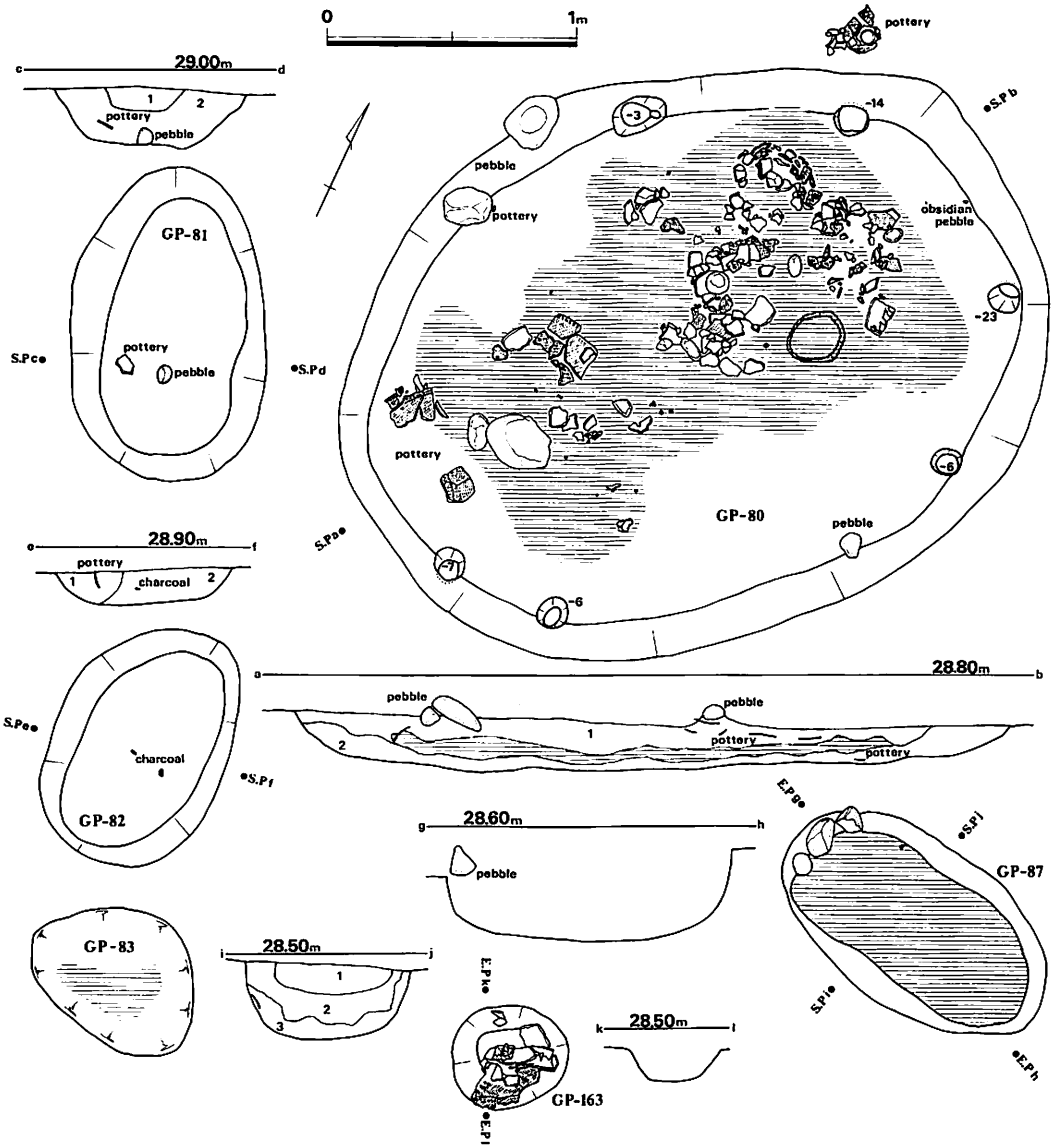


Fig. 34 沢町遺跡GP-80~83・87・163検出状況 (A群)

のGP 5-1・2が出土のⅥ群土器である。また凹石 (Fig. 80) が1点出土した。

GP 6 これも小型のピットである。GP 3~6は規模・出土遺物の内容等も類する。いずれもB群に属する。

GP 7 D群に属する。東西に長軸があり多数の遺物が出土した他、壙底部からはベンガラも確認された。Fig. 60のGP 7-1~7が出土土器である。2~5は同一個体である。いずれもⅥ群b類土器である。Fig. 80のGP 7-1はⅥ群b類石器、GP 7-2は握石である。この握石は

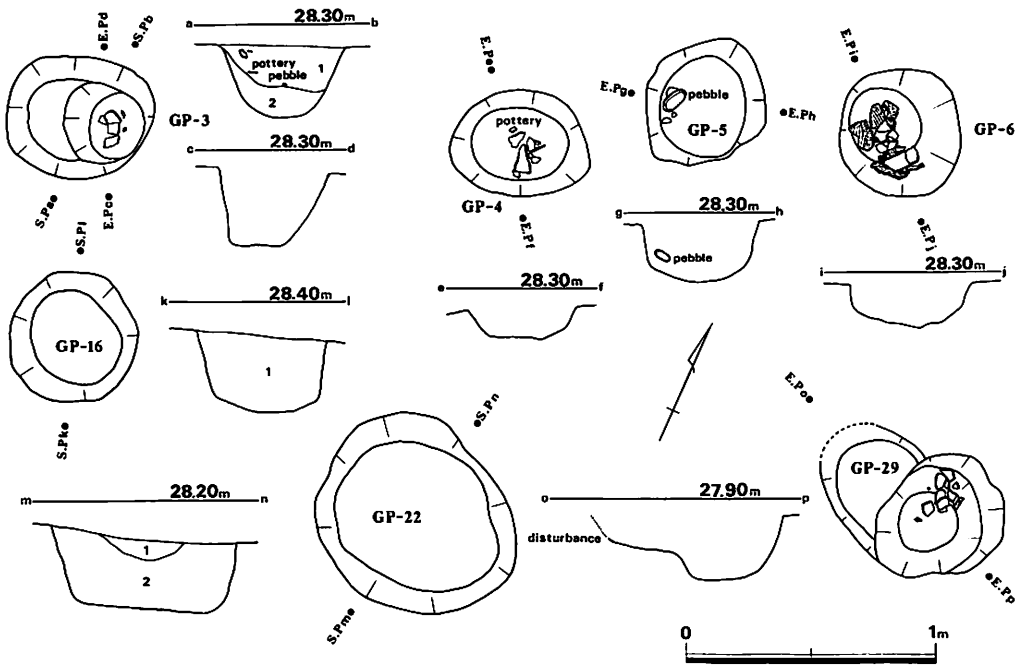


Fig. 35 沢町遺跡 GP-3 ~ 6 · 16 · 22 · 29 検出状況 (B群)

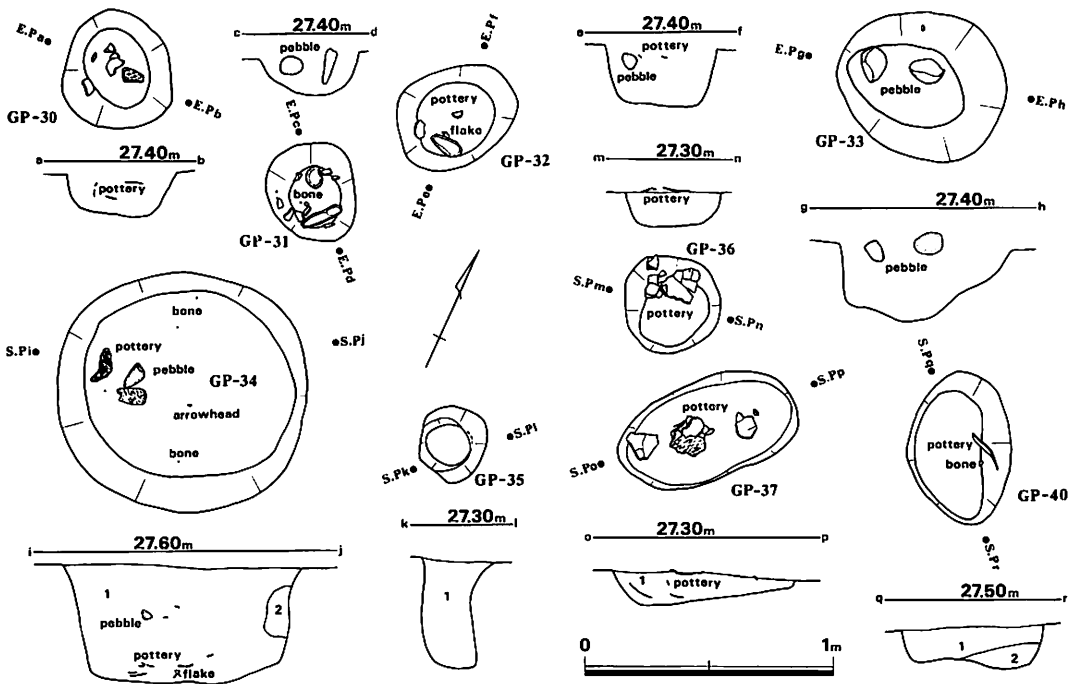


Fig. 36 沢町遺跡 GP-30 ~ 37 · 40 検出状況 (C群)

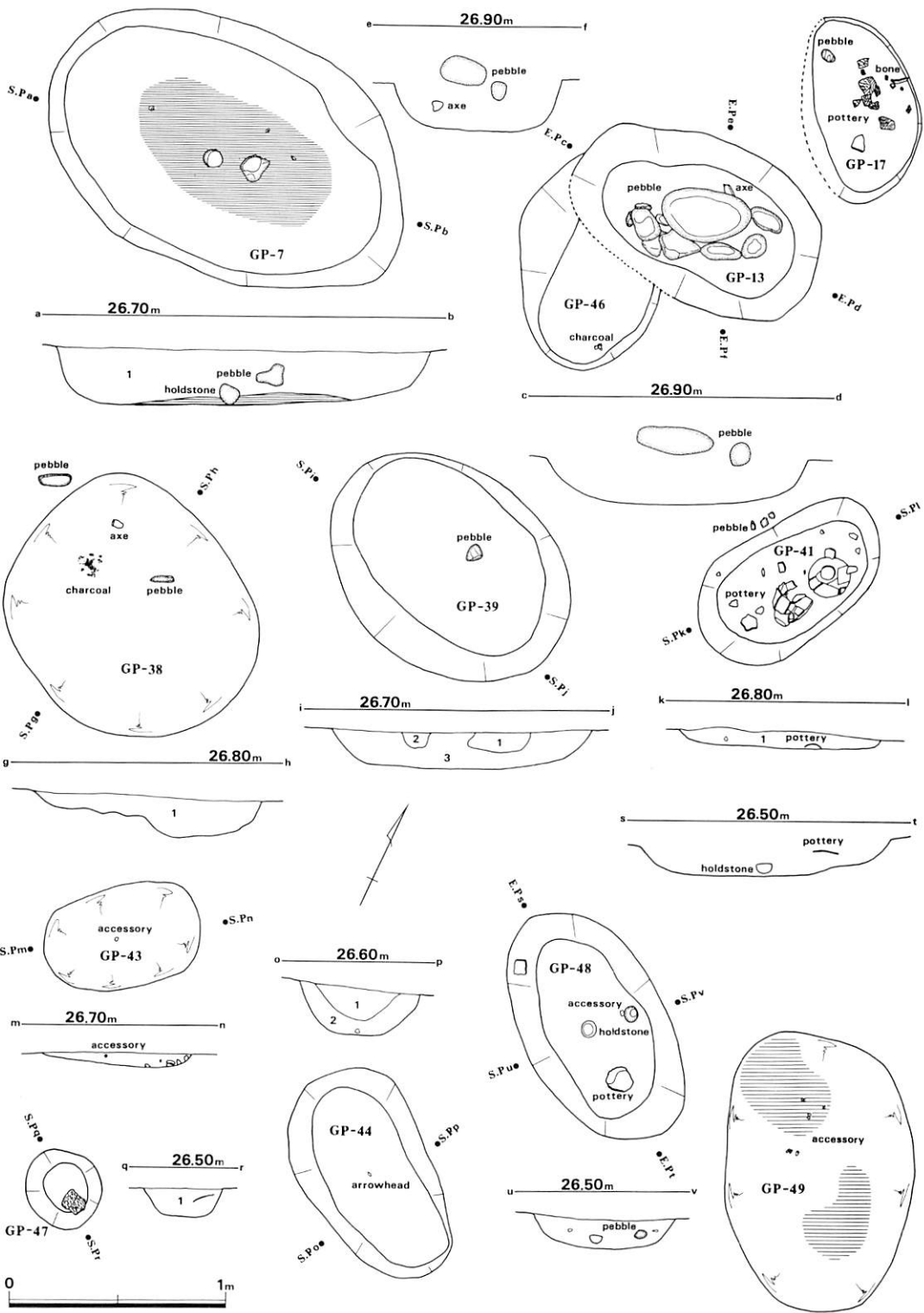


Fig. 37 沢町遺跡 GP-7・13・17・38・39・41・43・44・46~49 検出状況 (D群)

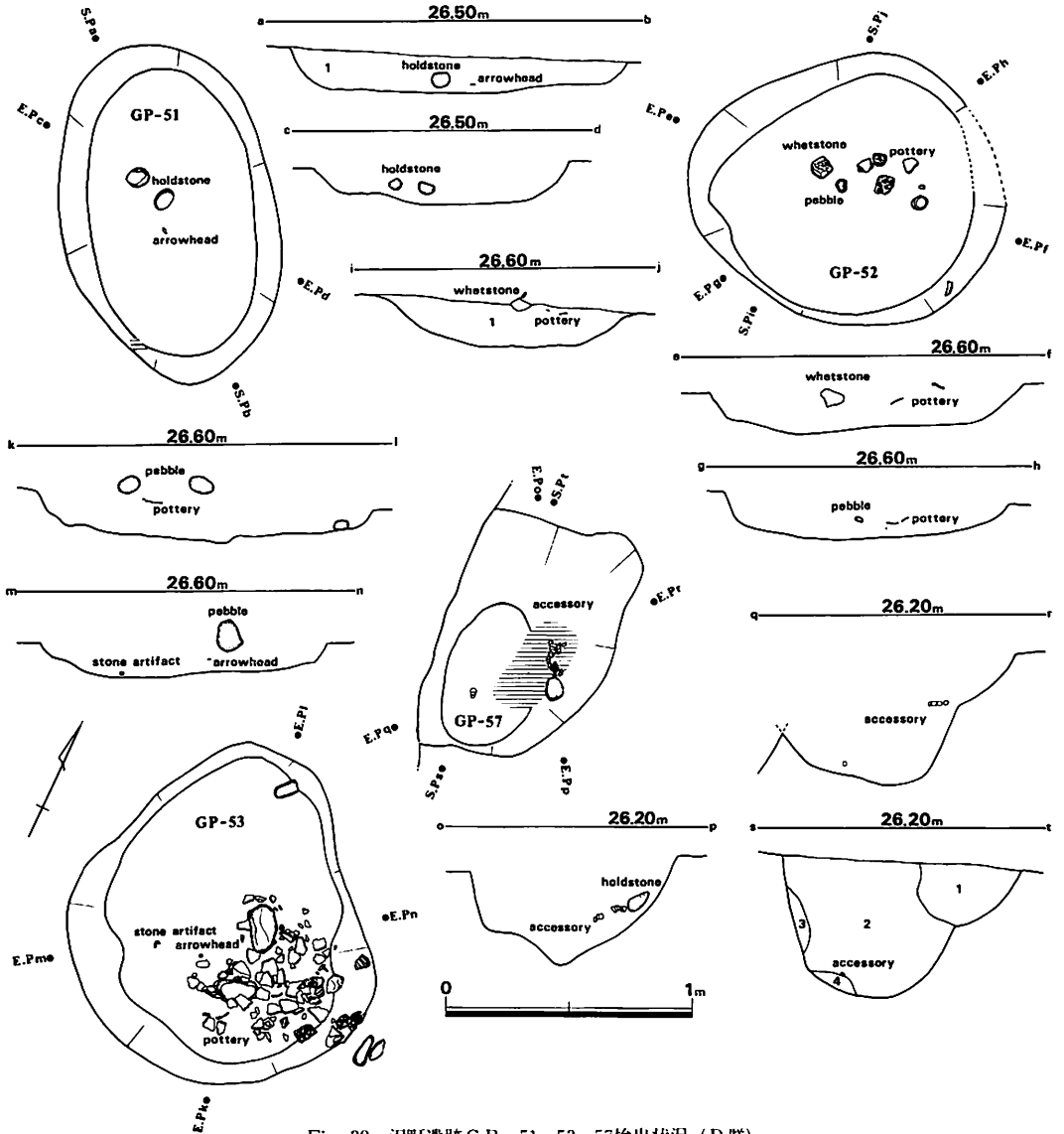


Fig. 38 沢町遺跡GP-51~53・57検出状況 (D群)

非常に良く形が整っており、全面が調整されている。他に1点、握石がある。扁平な自然の円礫である。この両者をそれぞれ手に握らせていたと考えられる。他に壙底部からは3点の玉が出土した。うち、Fig.76のGP7-2・3がヒスイである。

GP8 南北に長い中型のピットである。図示した土器はないがⅥ群 a類の土器が出土している。Fig.29のとおり板状の礫が1点出土している。図のように非常に浅い。現道下であったため、上部はかなり削平されたものとみられる。

GP9 小型のピットである。遺物は比較的少ない。図示した土器はないがⅥ群 b類土器が出土している。

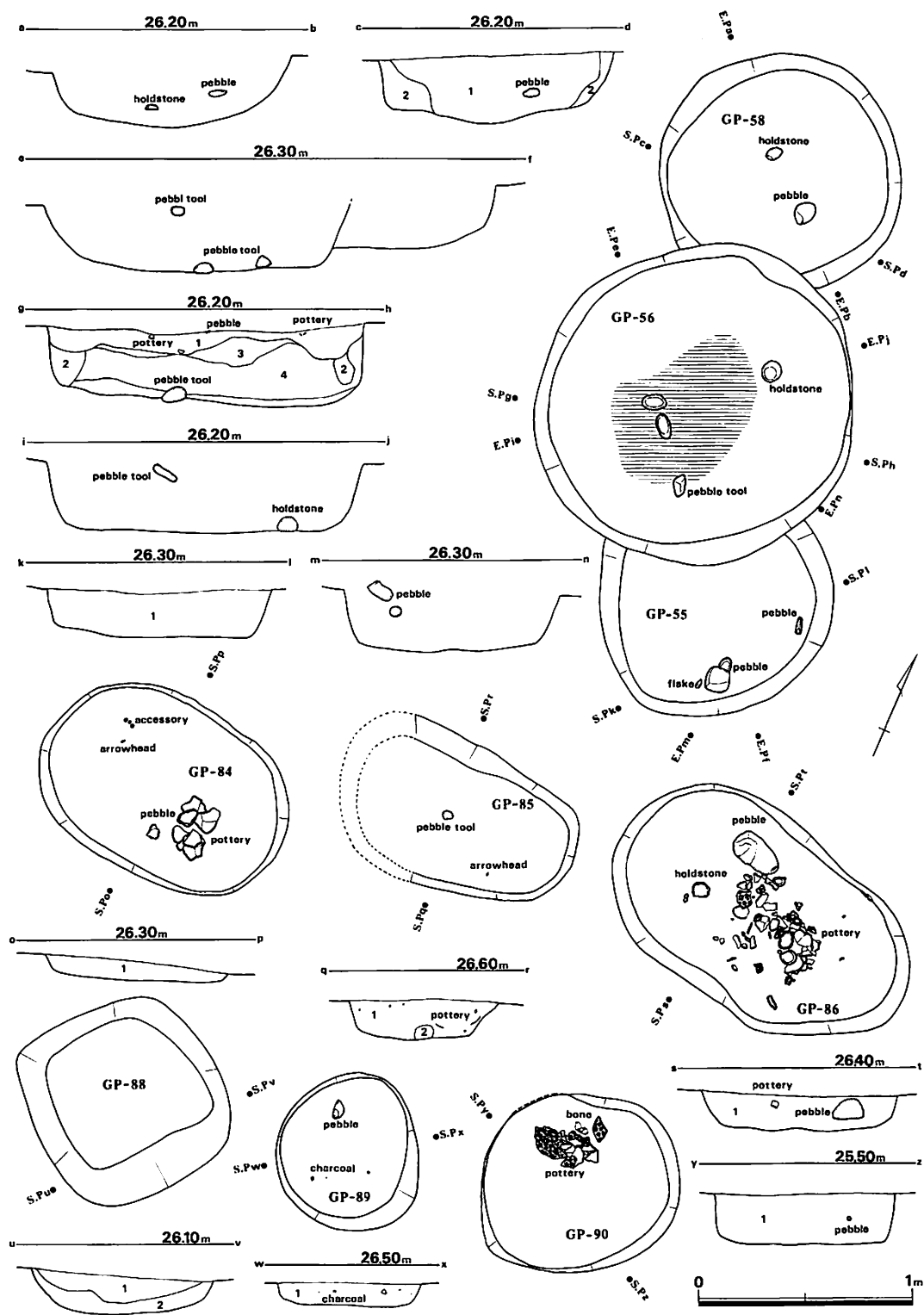


Fig. 39 沢町遺跡GP-55・56・58・84~86・88~90検出状況(D群)

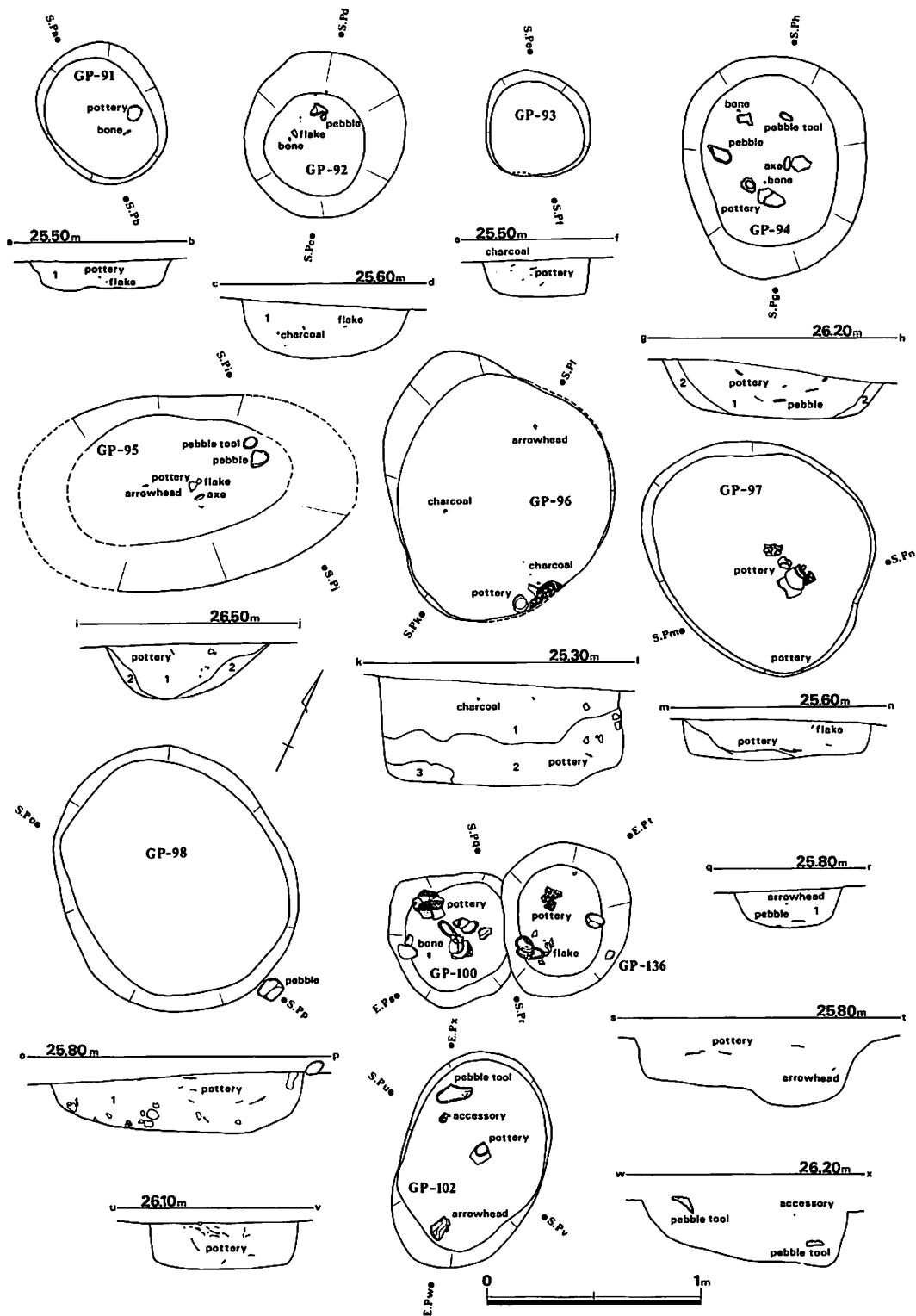


Fig. 40 沢町遺跡 GP-91~98・100・102・136 検出状況 (D群)

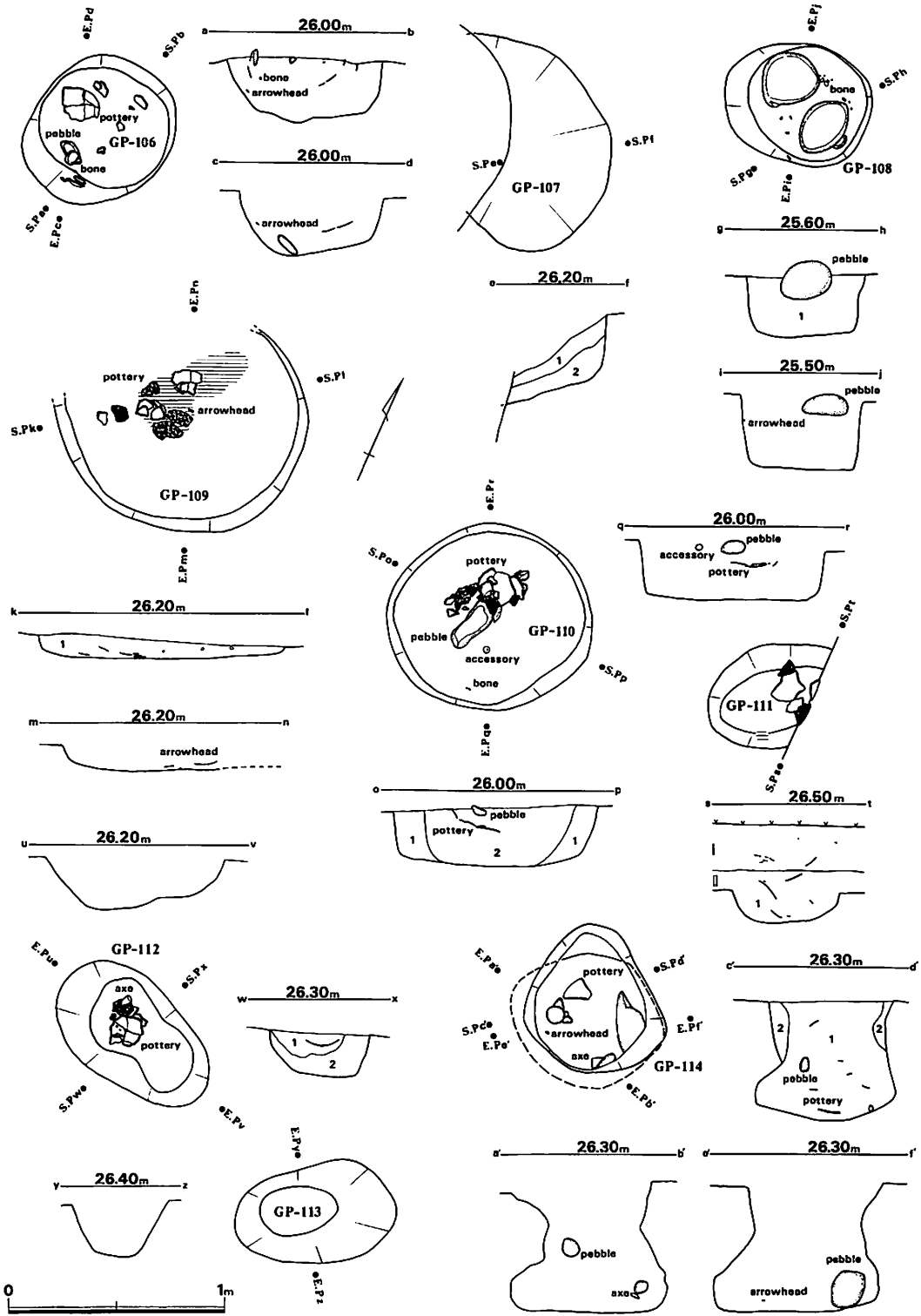


Fig. 41 沢町遺跡GP-106~114検出状況(D群)

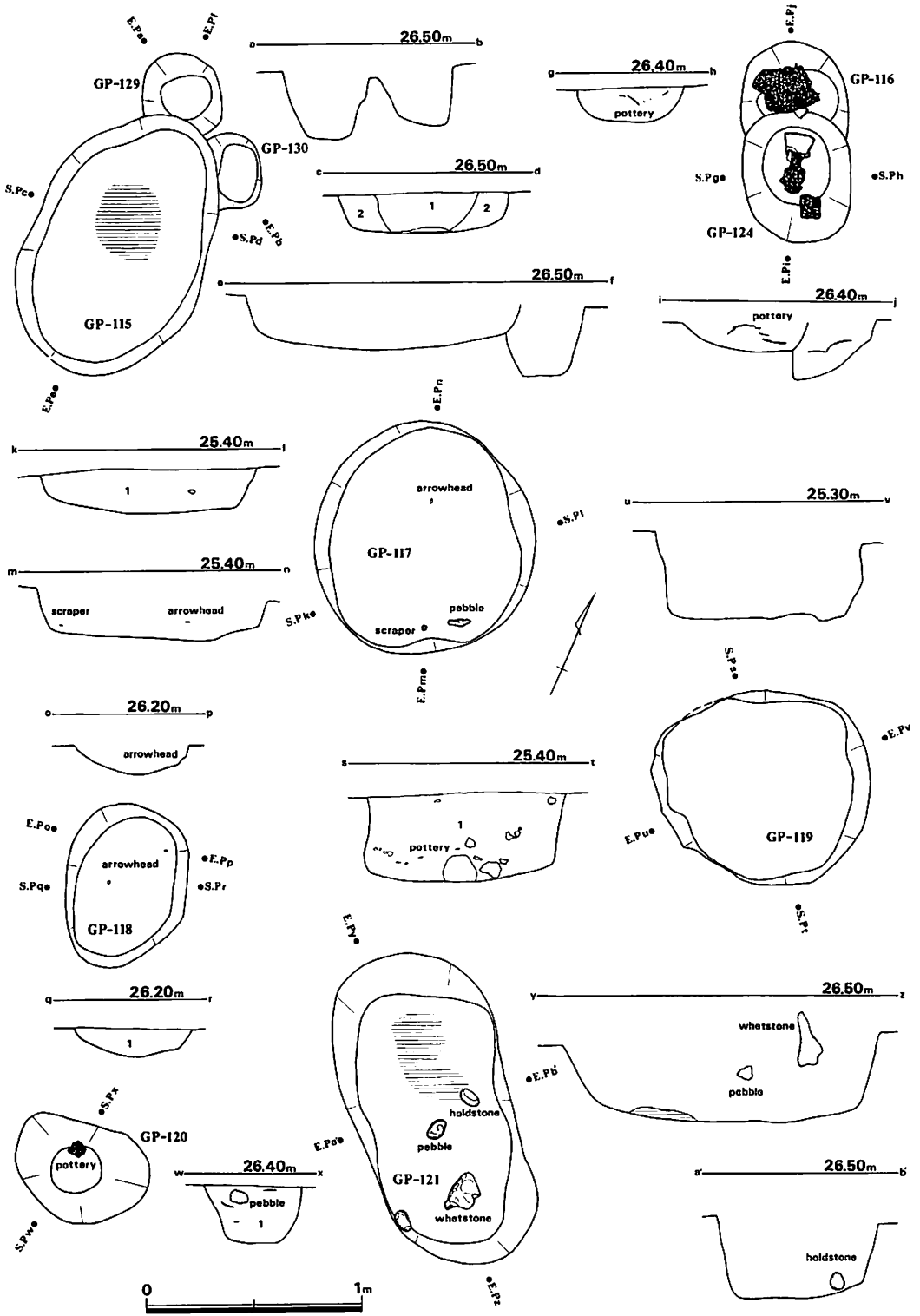


Fig. 42 沢町遺跡 GP-115~121・124・129・130 検出状況 (D群)

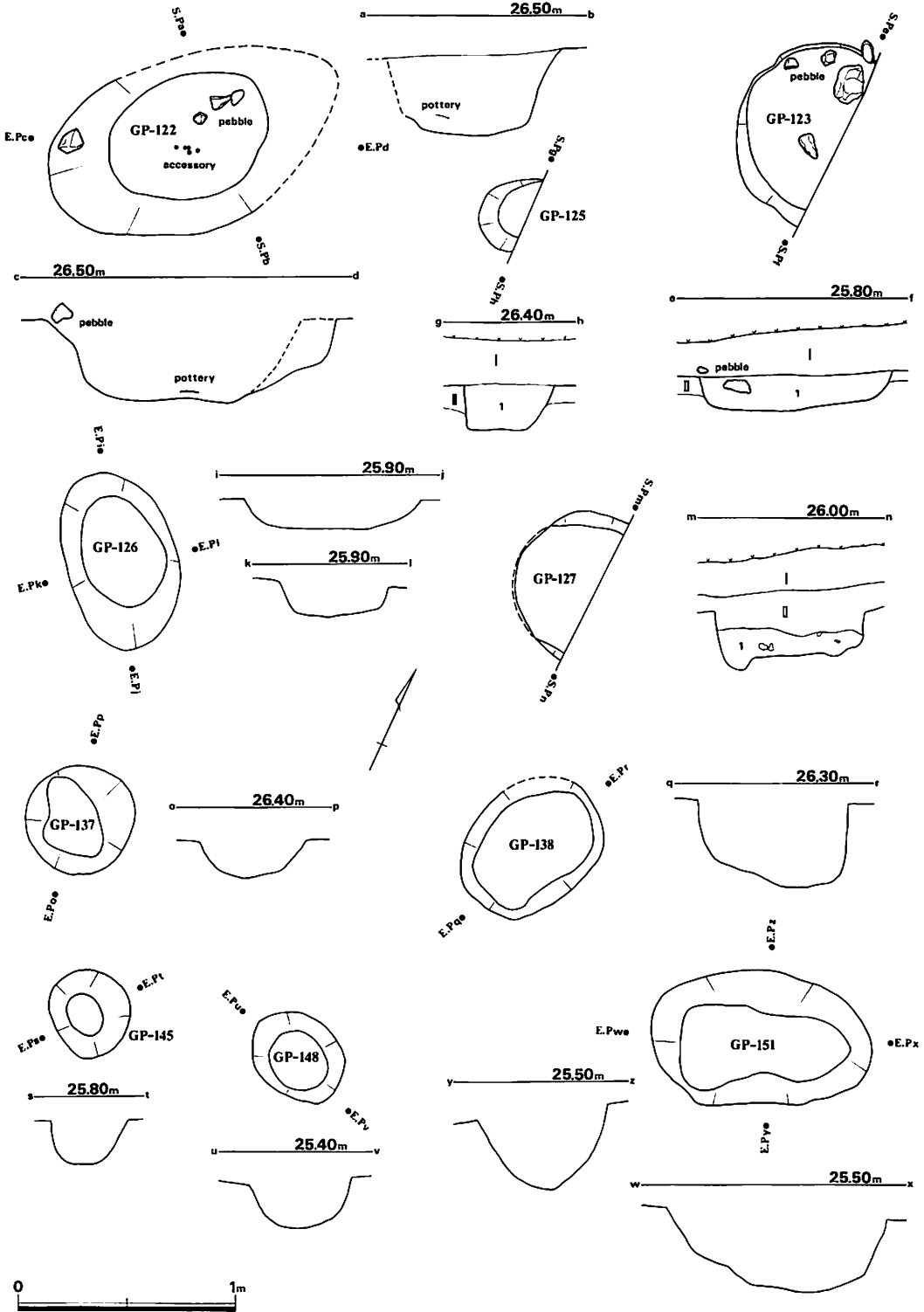


Fig. 43 沢町遺跡 GP-122・123・125~127・137・138・145・148・151 検出状況 (D群)

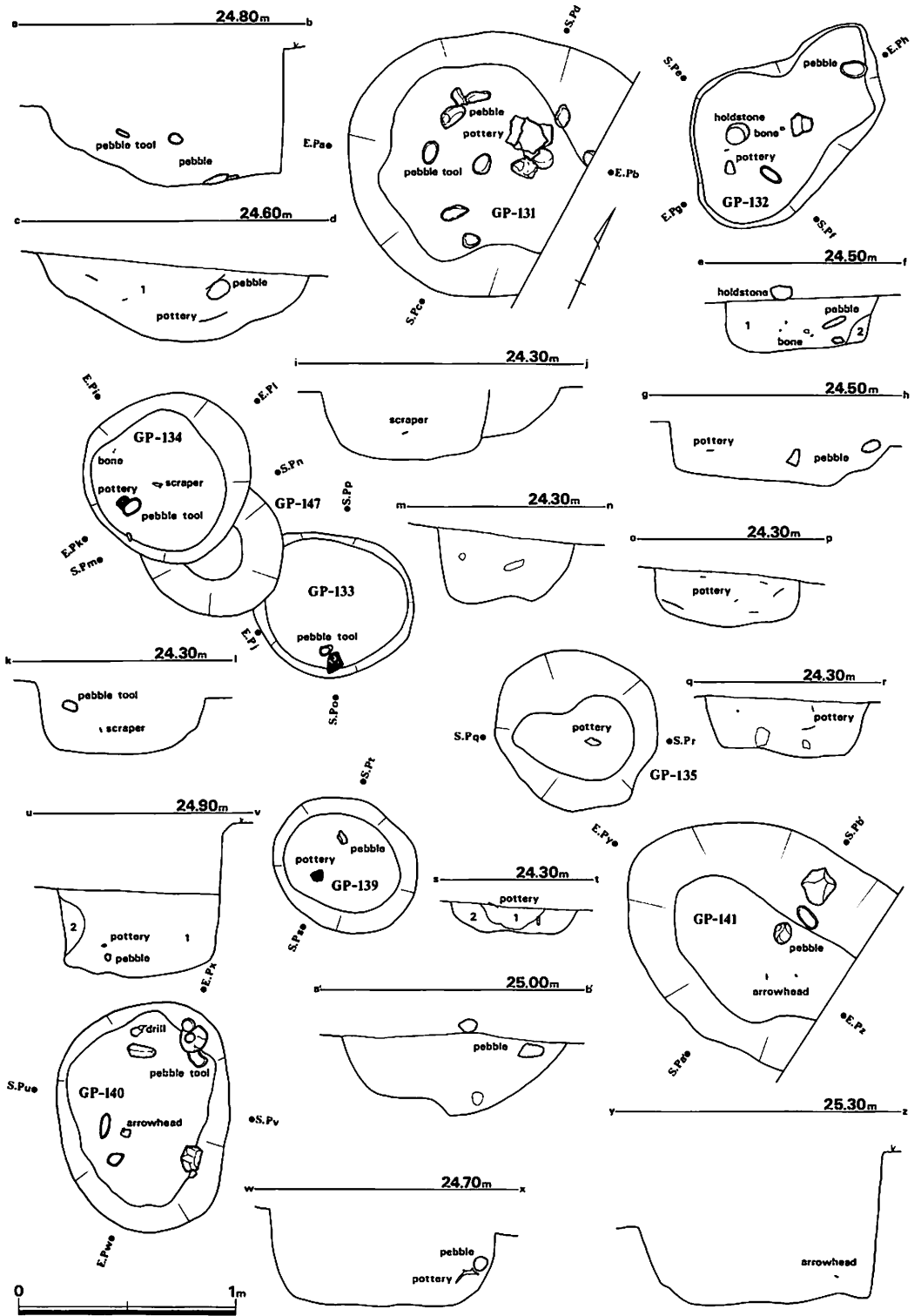


Fig. 44 沢町遺跡 G P-131~135・139~141・147 検出状況 (E 群)

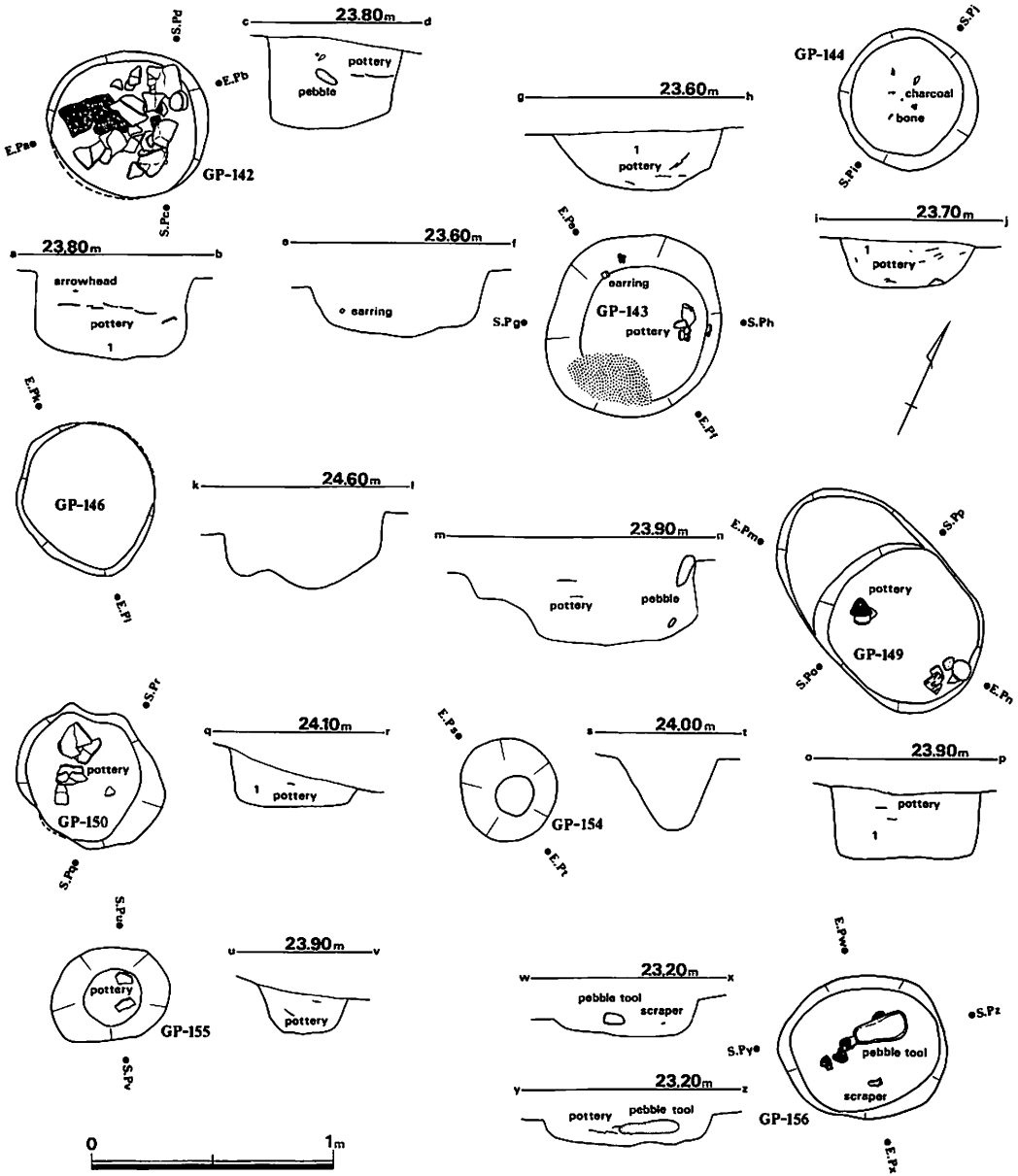


Fig. 45 沢町遺跡GP-142~144・146・149・150・154~156検出状況 (E群)

GP10 A群に属する中型ピットである。遺物は図示していないがVI群b類に属する土器が出土している。

GP11 A群に属する。東西に長い中型ピットである。図示していないがVI群b類土器が出土している。

GP12 A群に属する中型ピットである。Fig.76のGP12-1・2はI群a₃類の石鏃であ

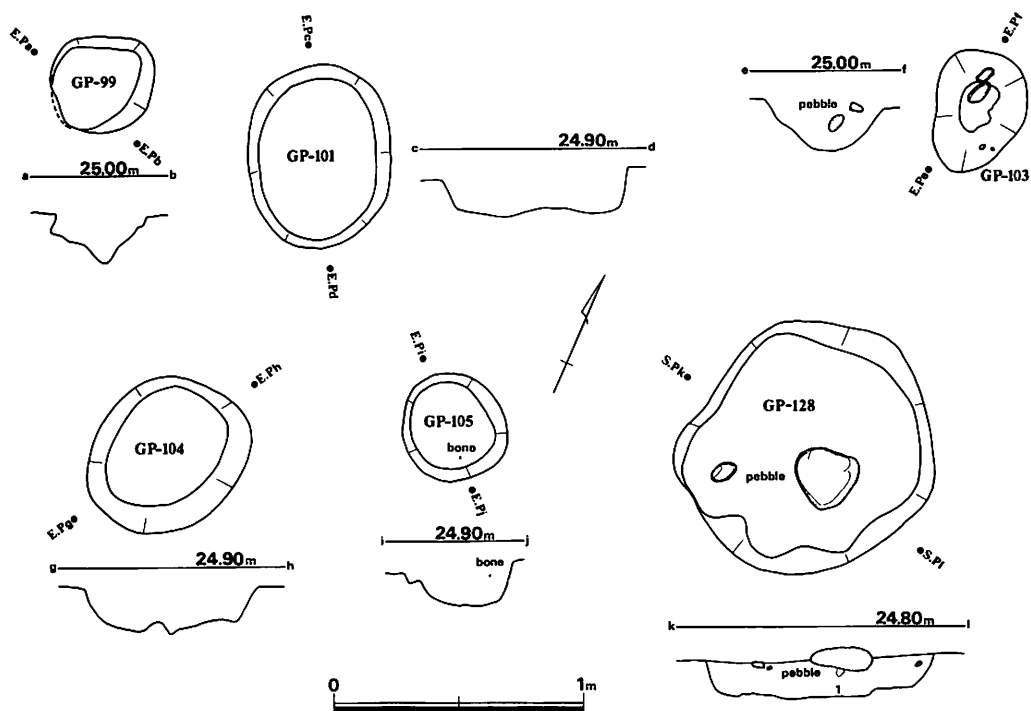


Fig. 46 沢町遺跡GP-99・101・103・105・128検出状況（F群）

る。他に2個体分と思われる土器が出土（Fig.29）しているが図示していない。Ⅵ群土器である。

GP13 D群に属する中型ピットである。上部から礫が17点出土した。埋め戻した後に置石したものであろう。出土遺物は比較的多い。Fig.51のGP13-1・2とFig.60のGP13の3～5はⅥ群b類土器である。他に石斧1点（Fig.80）、玉2点（いずれもヒスイ）他が伴出した。坑底部からはベンガラも確認された。

GP14 遺構は図示していない。GP14周辺は削平が顕著であり、上部はほとんどが削平されたようである。わずかに坑底部に残って遺物が出土した。Fig.51は底部有孔の小型土器である。Fig.76は勾玉である。滑石製と考えられる。他に図示していないが、握石（小型）2点、凹石等が出土している。

GP15 GP14と同様の理由で遺構は図示していない。Fig.76のGP15-1～12が伴出の玉である。いずれも橄欖岩製とみられる。

GP16 B群に属する小型ピットである。図示していないがⅤ・Ⅵ群土器が若干覆土中より出土した。

GP17 D群に属する小型ピットである。Fig.60は図示した唯一のⅥ群b類土器である。Fig.76の玉はヒスイ製である。他に図示していないが握石1点他が出土した。

GP18 東西に長い中型ピットである。削平のため上部は失なわれている。ピット西側から

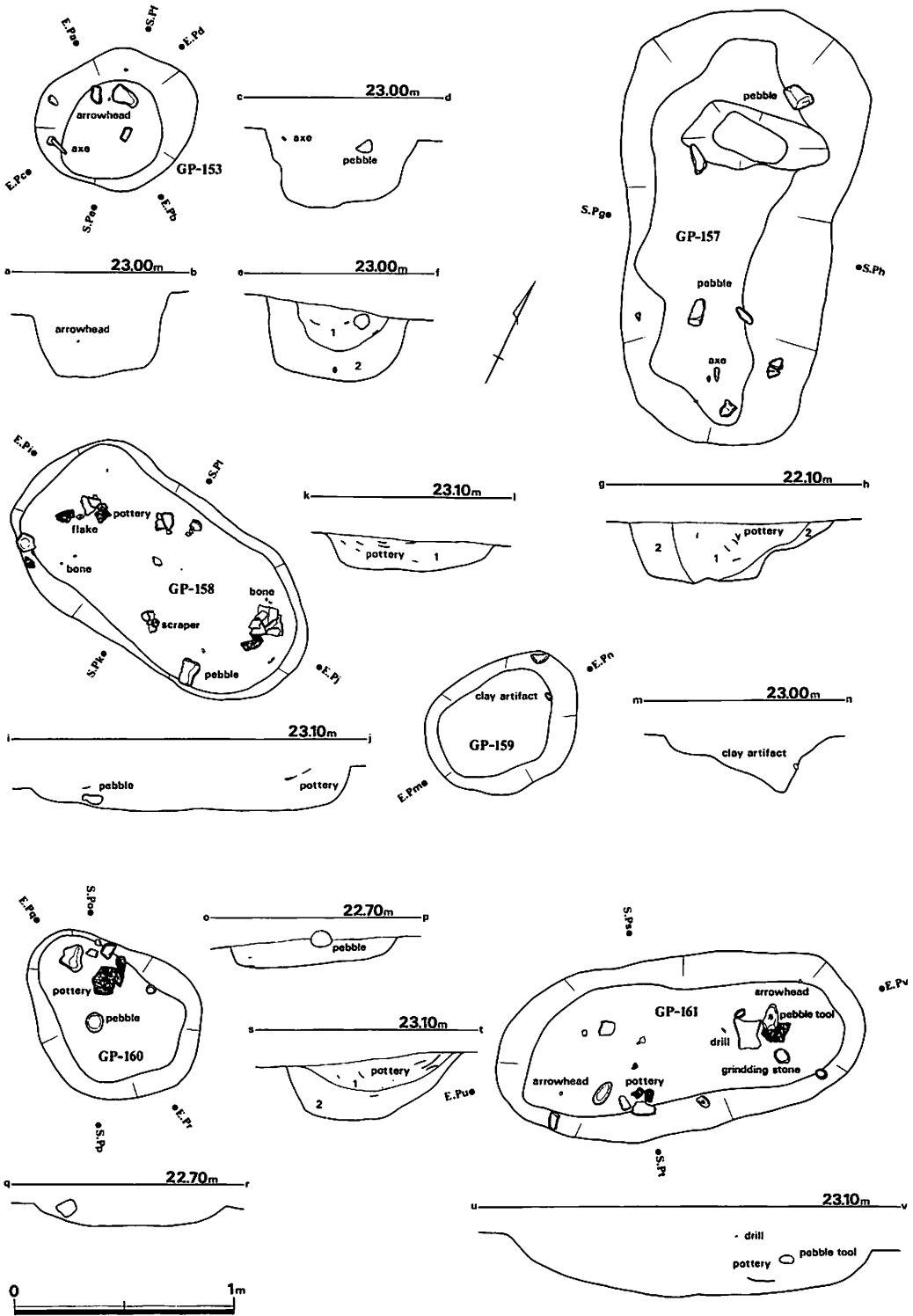


Fig. 47 沢町遺跡GP-153・157~161検出状況 (G群)

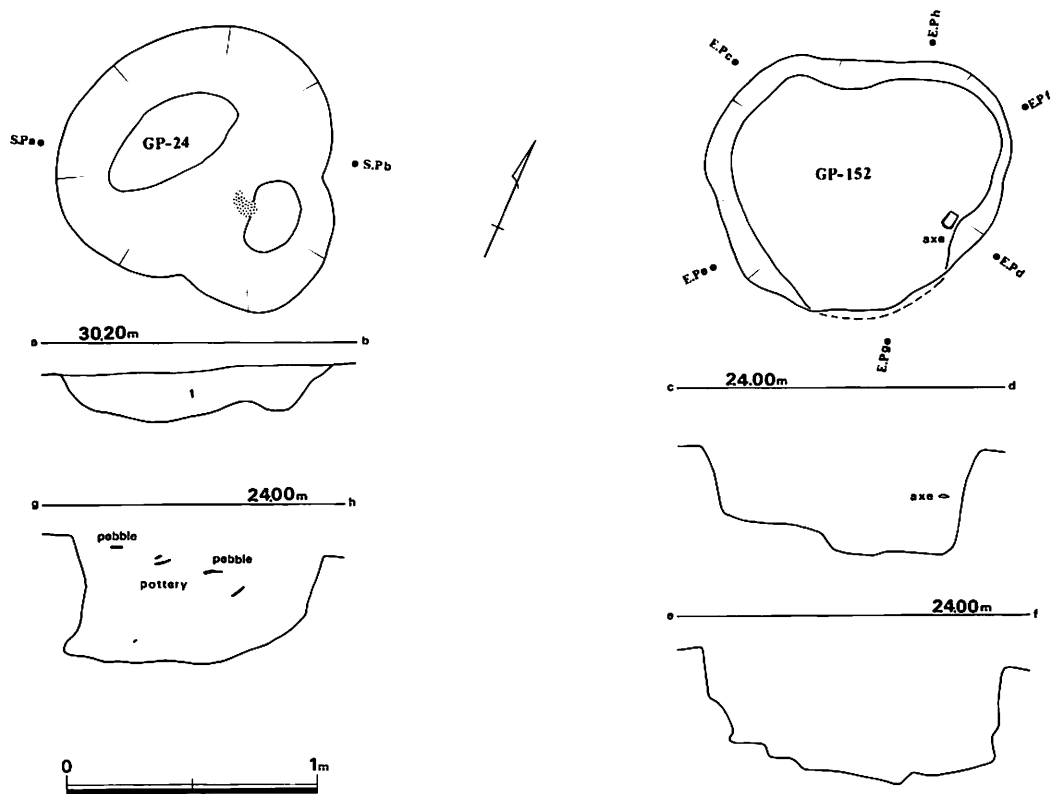


Fig. 48 沢町遺跡GP-24・152検出状況(群外)

ベンガラが出土している。ピット北側からは面的に炭化物が検出された。図示していないが石鏃の破片も1点出土した。

GP 19 A群に属する小型ピットである。図示遺物はないが堀底部よりベンガラが確認された。出土遺物は少ない。

GP 20 Fig. 52の大洞BC式土器が出土した。また、Fig. 60のGP20-1・2のようなVI群b類土器が出土した。他に石鏃1点や炭化物等が出土した。堀底部中央にはベンガラが確認された。この墓塚の被葬者は集団において中心的な役割をになった人物であったと考えられる。

GP 21 SH-3近くの小型ピットである。図示していないが石鏃の破片1点が出土している他、黒曜石の棒状原石も1点出土している。

GP 22 B群に属する小型ピットである。出土遺物は少ない。

GP 23 A群中央にある中型のピットである。Fig. 76のGP23-1はヒスイの玉、GP23-2はI群a₃類の石鏃である。他に図示していないがV群a・b類の土器片が出土した。

GP 24 SH-1とSH-4の中間の現道部分下より検出された小型ピットである。離れているので群外とした。炭化物以外の出土遺物は皆無であった。

GP 25 A群中央部に所在する中型ピットである。図示遺物は石鏃1点のみである。他に図

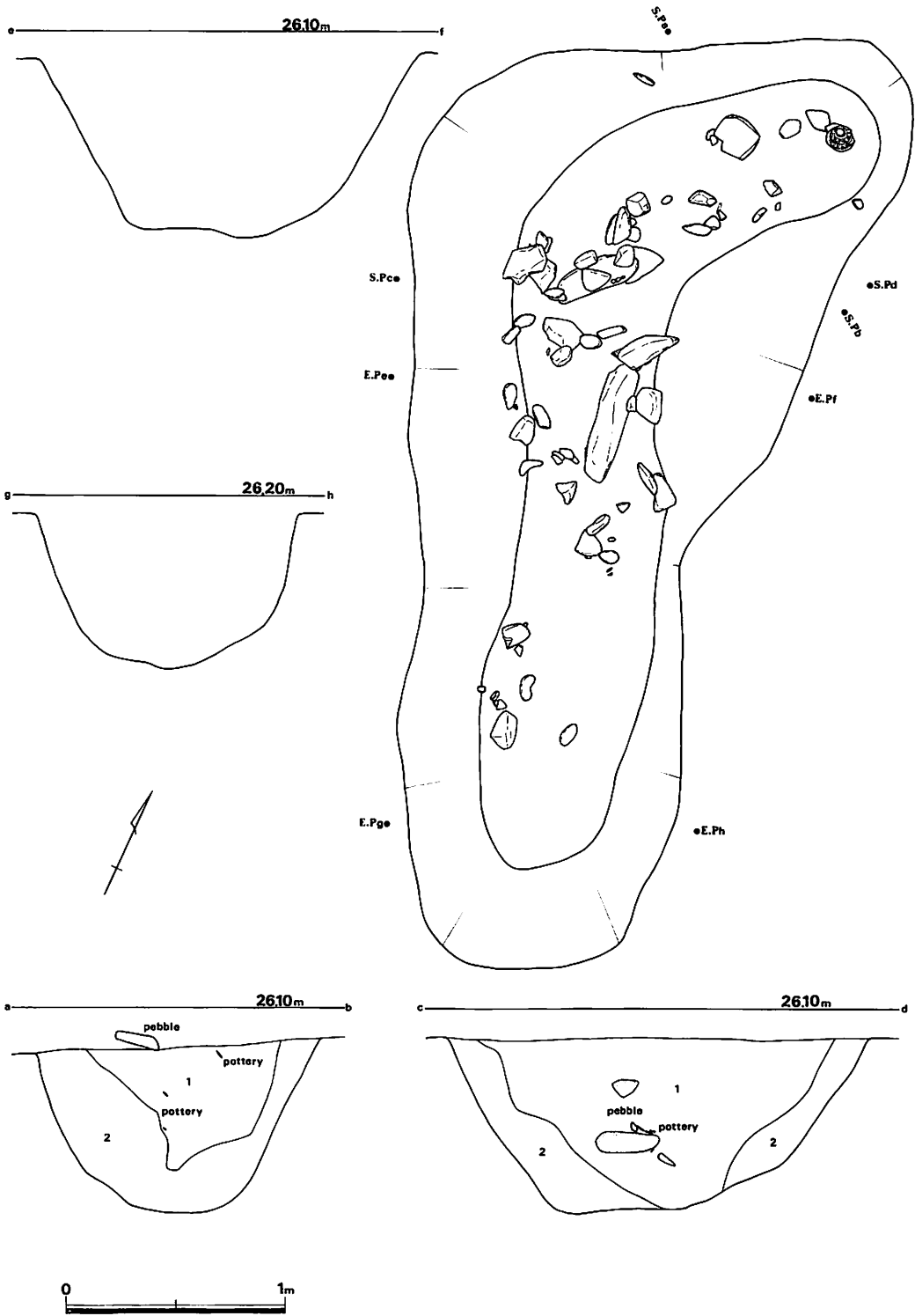


Fig. 49 沢町遺跡溝状遺構検出状況

示していないが、若干扁平な円礫を使用している握石1点、VI群 a・b類土器等が若干出土している。

GP26 A群の中型ピットである。Fig. 61はVI群 b類土器である。他に図示していないが、握石が1点出土している。

GP27 A群の中型ピットである。出土遺物は少ないがVI群土器が出土している他、わずかにベンガラが塹底部より確認された。

GP28 SH-3北側の小ピットである。大きな礫が置石として上部より出土した。他に土器片2点が出土したのみである。

GP29 B群に属する小ピットである。図示した遺物としてはFig. 61のGP29-1~3は同一個体である。VI群土器である。Fig. 76の石鏃はI群 a₃類である。

GP30 C群に属する小ピットである。図示した遺物はないが、土器片等が少量出土している。

GP31 C群に属する小ピットである。図示した唯一の遺物はFig. 76の棒状原石によるドリル様の石器である。他に握石・石斧・骨片他が出土している。

GP32 C群に属する小ピットである。遺物は少ない。

GP33 C群に属する小ピットである。礫2点が出土している他、若干の土器・剥片等が出土しているのみである。

GP34 C群の最も南側に位置する中型ピットである。このピットからは多数の遺物が出土している。図示したFig. 51のGP34-1とFig. 61 GP32-2~17はVI群 a・b類土器である。GP34-11は口縁部有孔土器である。12~15は無文土器である。Fig. 76のGP34-1は、ちょっと歪なI群 a₃類の石鏃である。GP34-2は先端部を欠くII群 b類のドリルである。他に図示していない多数の土器や剥片が出土した。

GP35 C群に属す口径30cmほどの非常に小さなピットである。2点の遺物より出土していない。

GP36 C群に属する小型ピットである。口径40cmほどしかない。ピット上部より土器が出

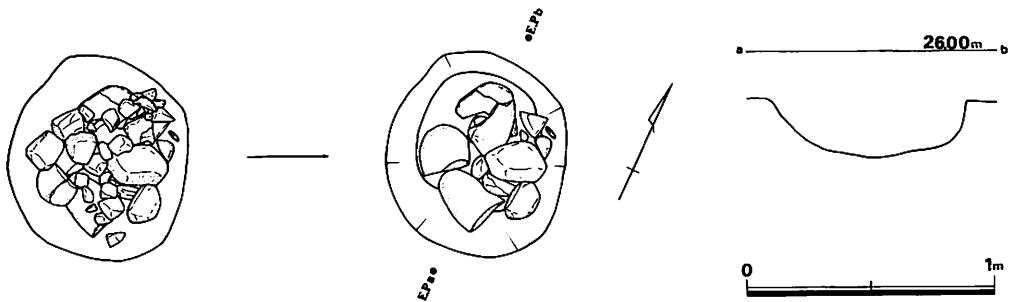


Fig. 50 沢町遺跡UP-1 検出状況

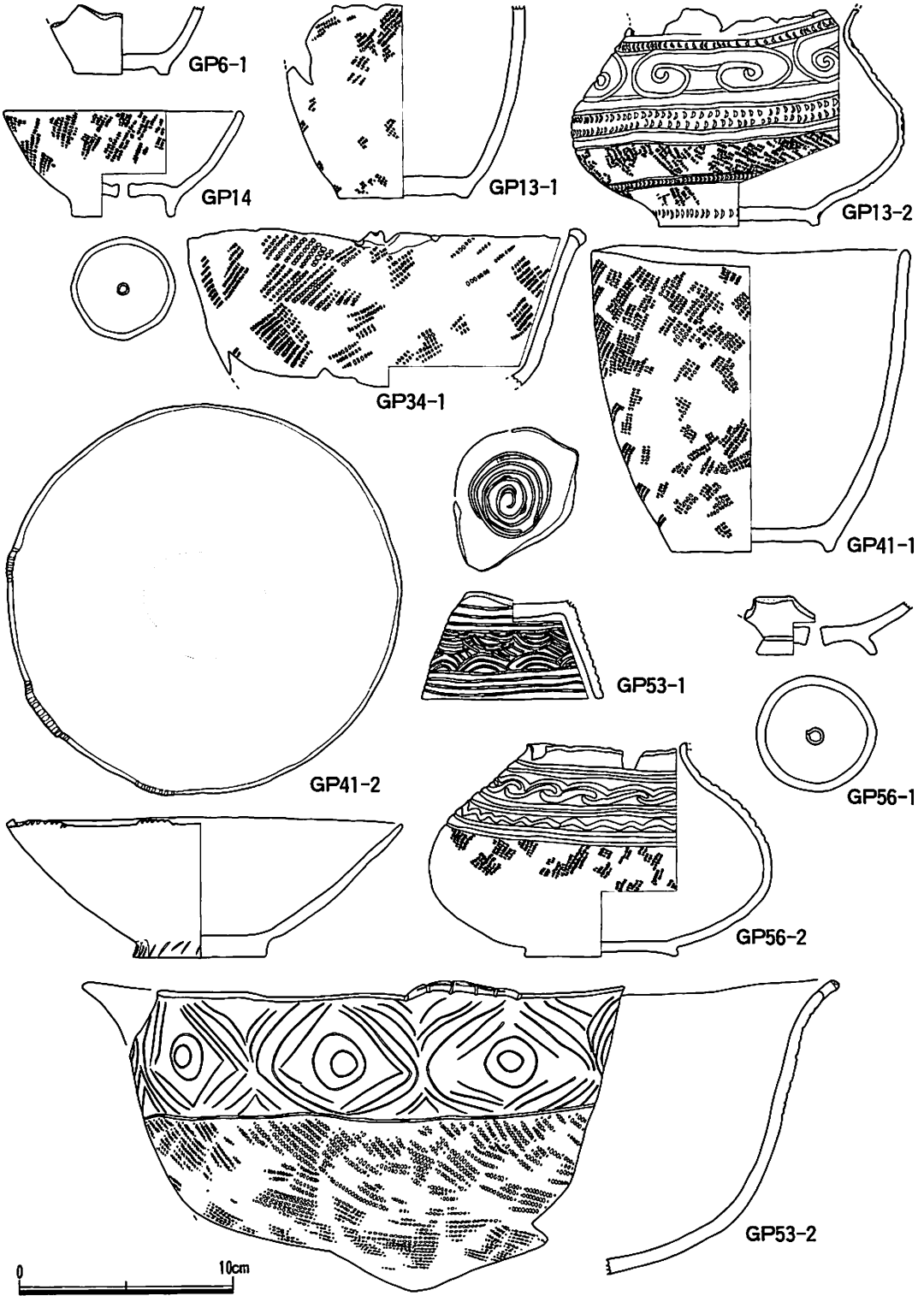


Fig. 51 沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-6・13・14・34・41・53・56)

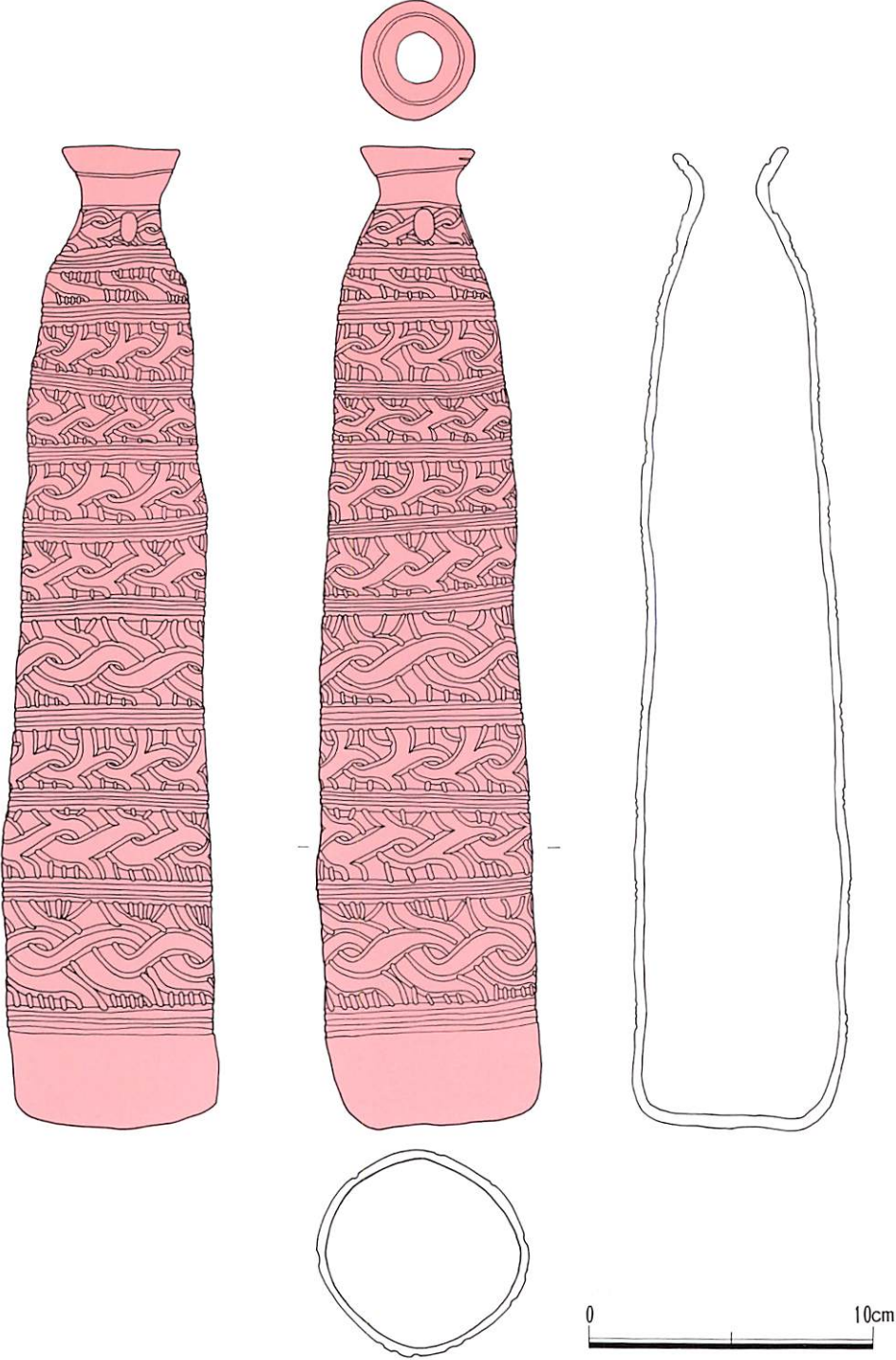


Fig. 52 沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-20)

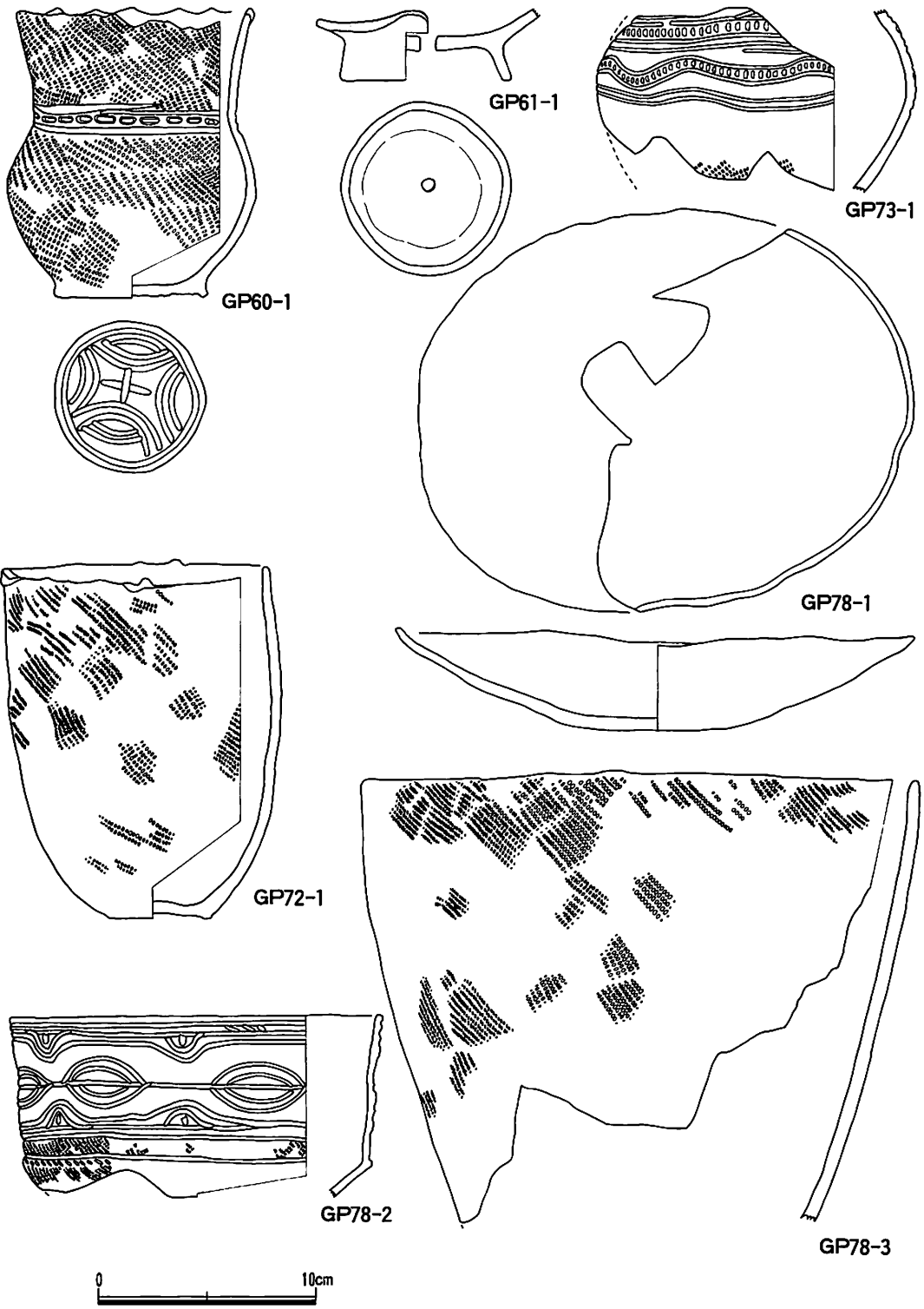


Fig. 53 沢町遺跡墓塚出土の土器 (GP-60・61・72・73・78)

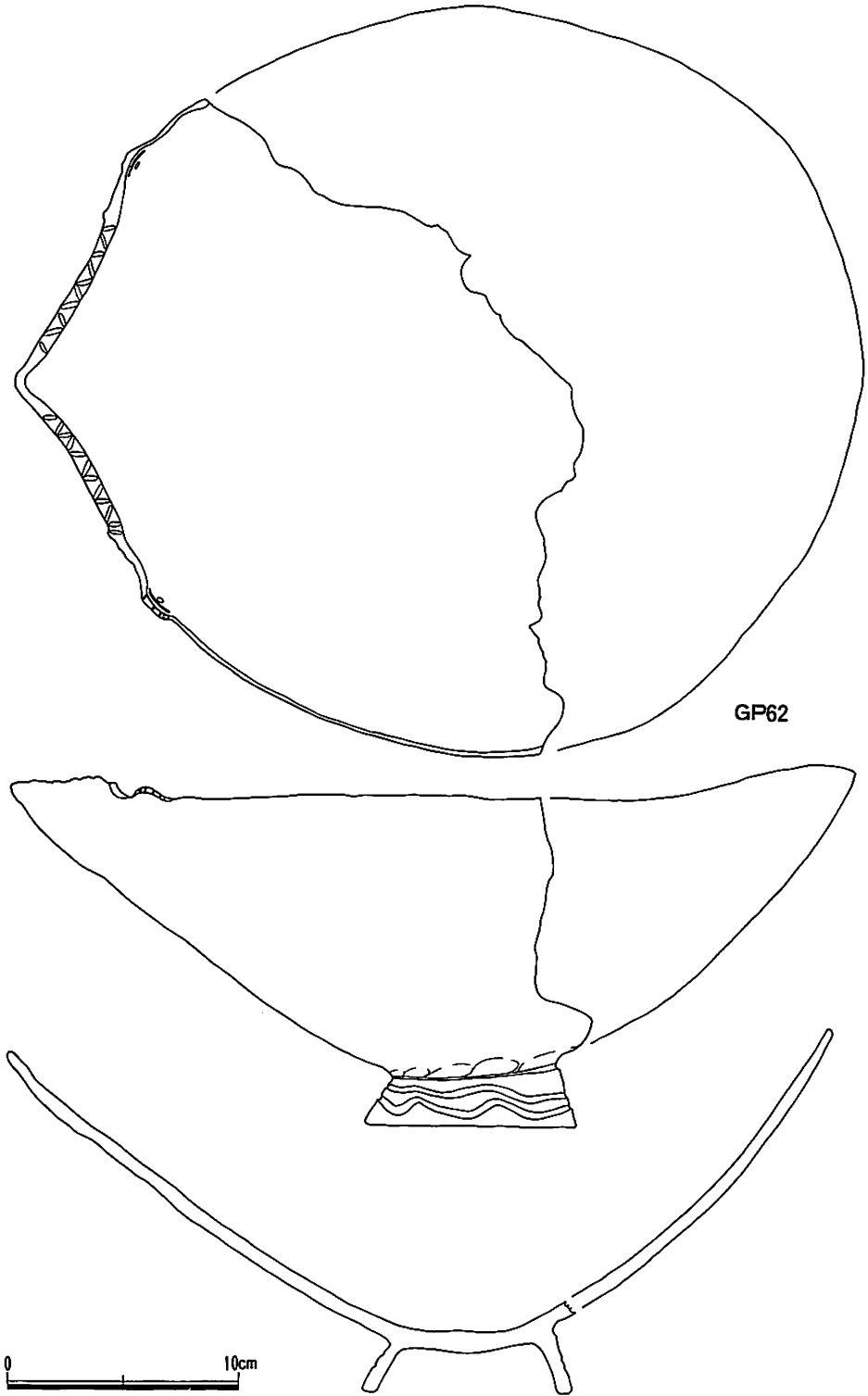


Fig. 54 沢町遺跡墓塚出土の土器 (GP-62)

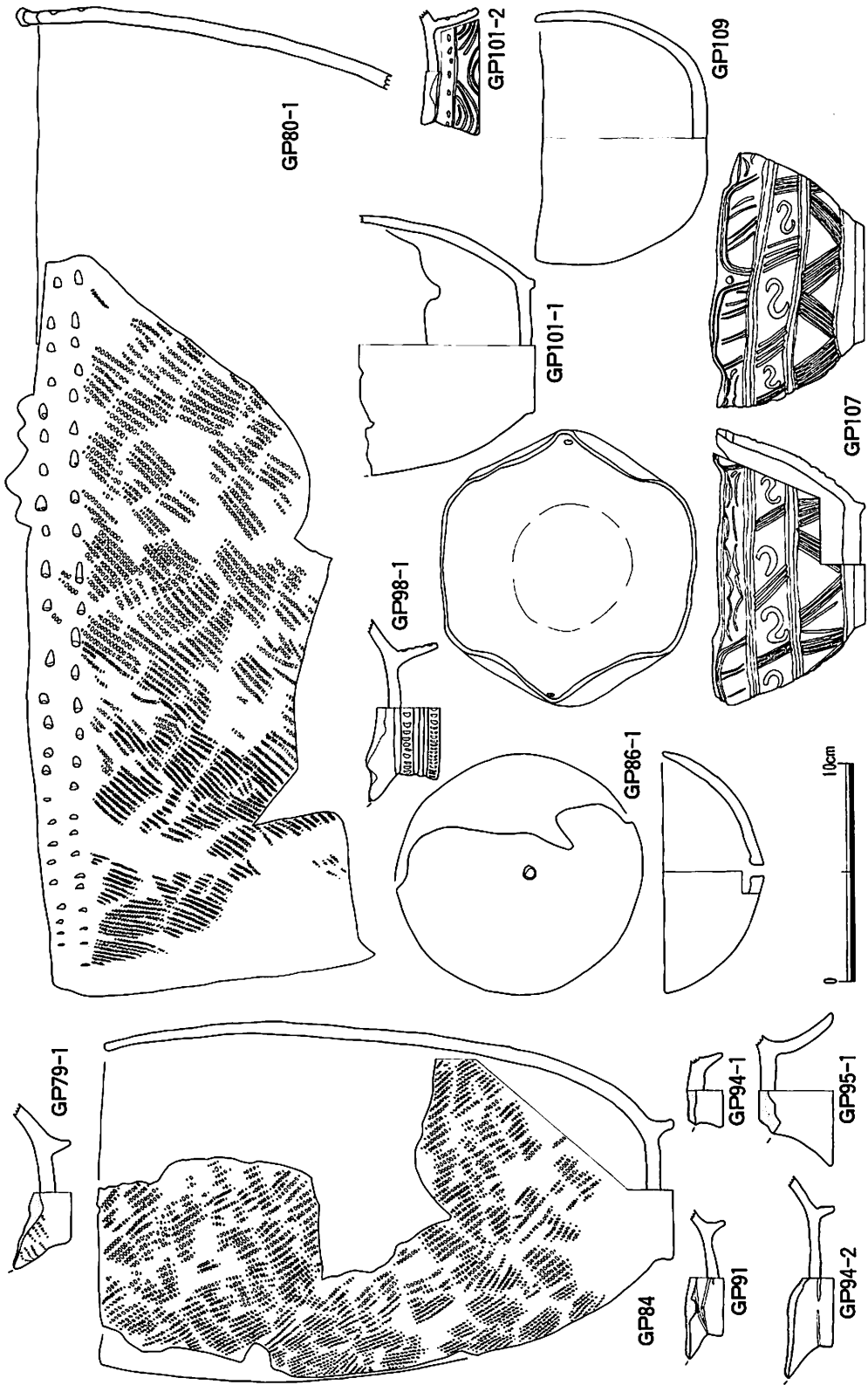


Fig. 55 沢門遺跡発掘出土の上器 (GP-79・80・84・86・91・94・95・98・101・107・109)

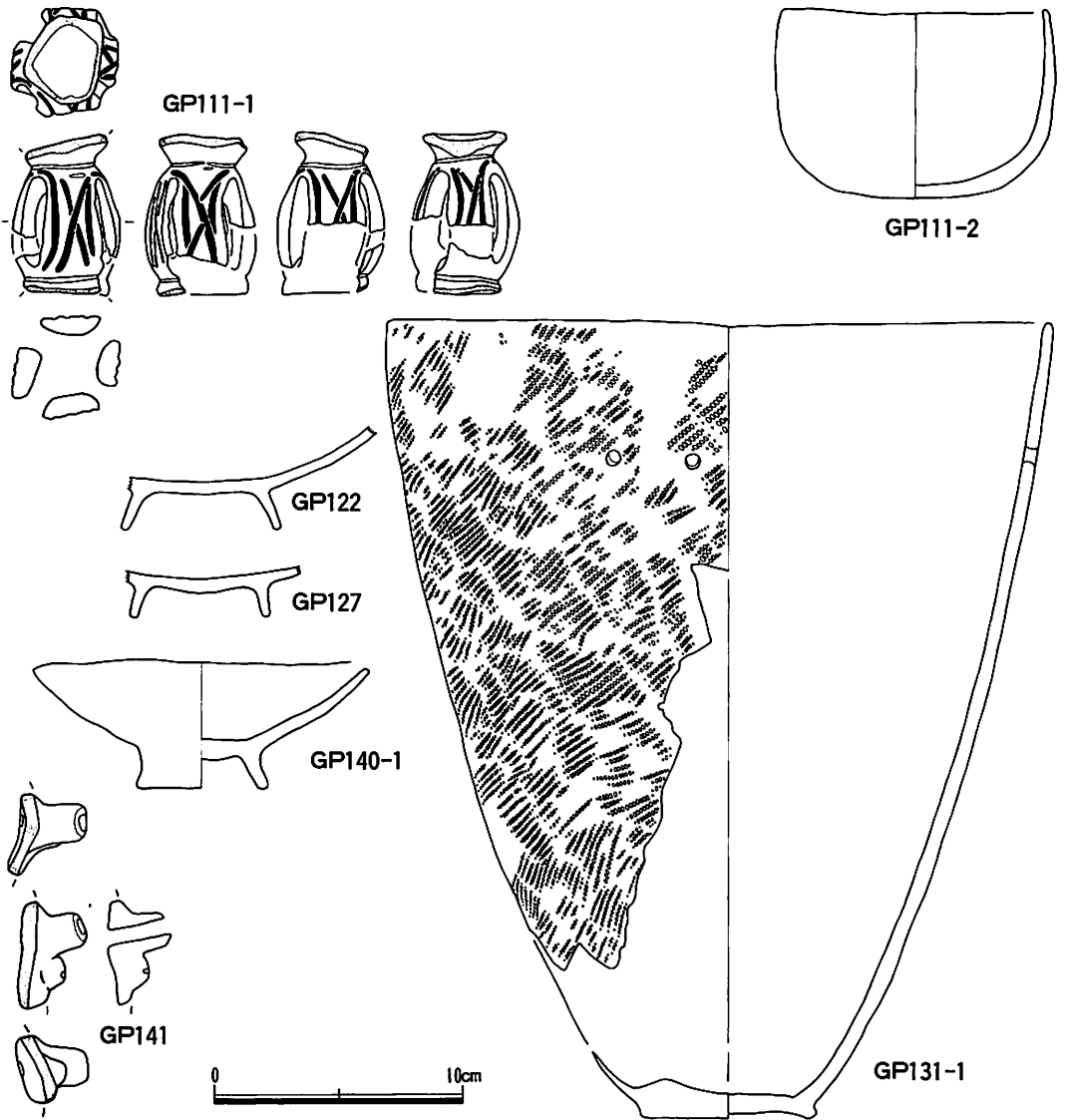


Fig. 56 沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-111・122・127・131・140・141)

土した。図示していないがVI群土器である。

GP37 C群に属す小型ピットである。Fig. 62のGP37-1・2が図示したVI群土器である。

GP38 D群に属す中型のピットである。Fig. 62はV群a類土器である。他に石斧の破片やV・VI群土器の破片が若干出土している。出土した土器はいずれも覆土遺物とみられる。

GP39 D群に属す中型ピットである。東西に長い。Fig. 62のGP39-1はV群a類土器、GP39-2は不明である。Fig. 80は握石である。

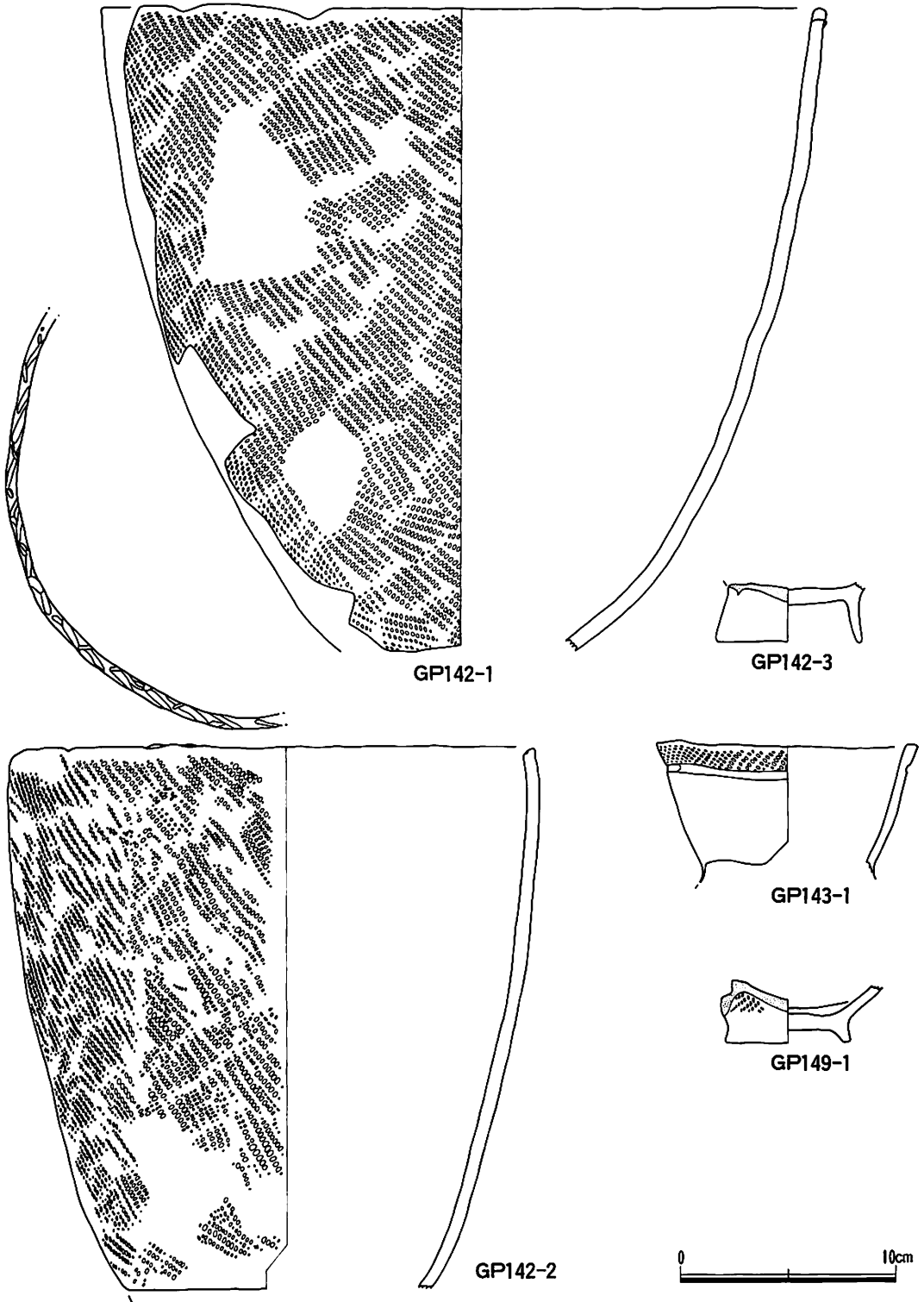


Fig. 57 沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-142・143・149)

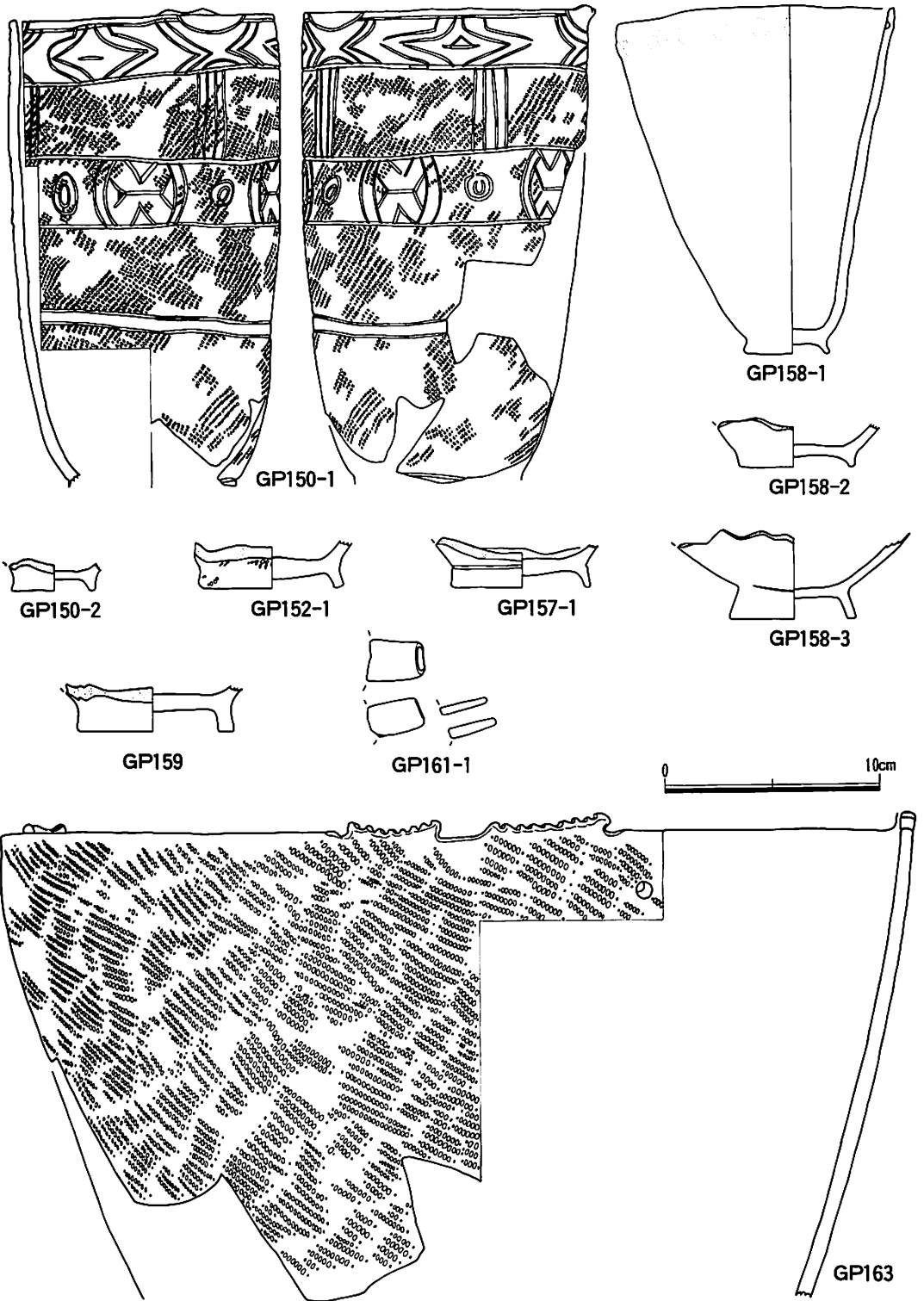


Fig. 58 沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-150・152・157~159・161・163)

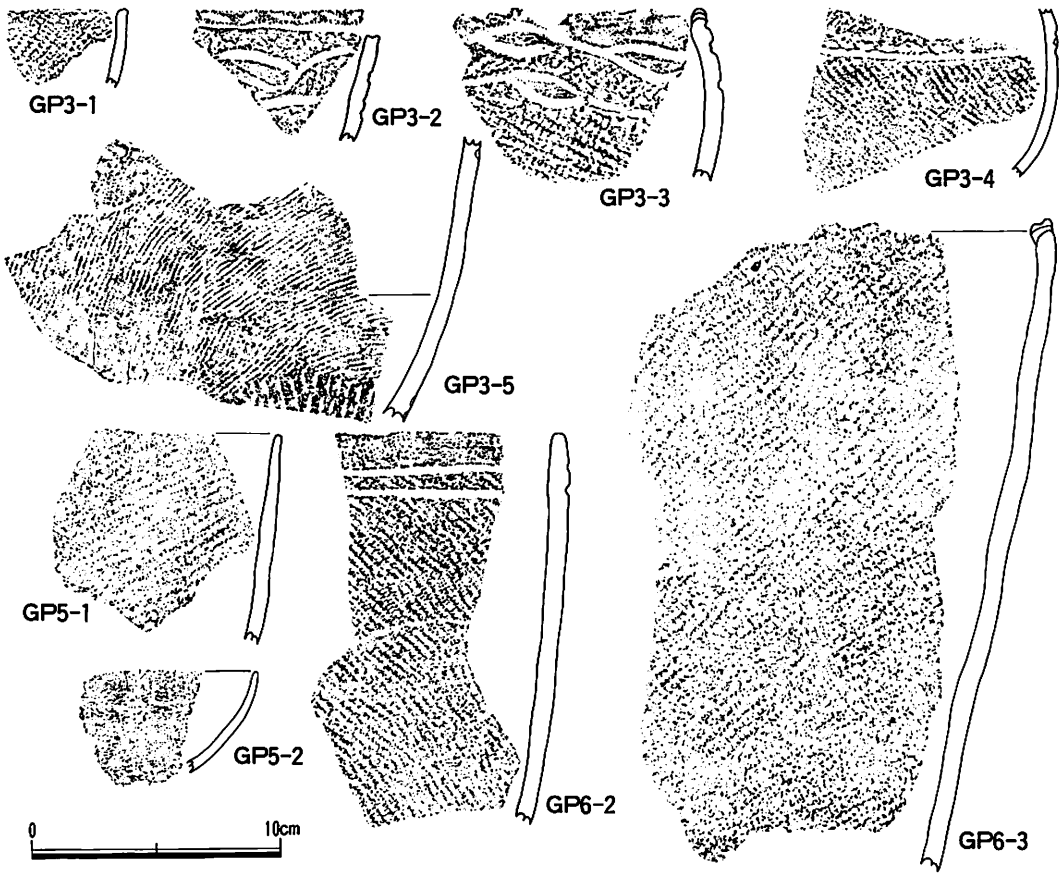


Fig. 59 沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-3・5・6)

GP40 C群に属する小ピットである。Fig. 62が唯一の土器である。他には骨片等が出土しているのみである。

GP41 D群に属する小ピットである。Fig. 51のGP41-1・2は伴出土器である。いずれもVI群土器である。

GP42 A群に属する中型ピットである。Fig. 62はV群の無文土器である。Fig. 80は握石である。非常に重い。Fig. 76はI群a₃類の石鏃である。壙底部からはベンガラが確認された。他にV群の土器等が出土している。

GP43 D群に属する小型ピットである。中央よりFig. 76の玉1点が出土した。Fig. 62は図示した唯一のVI群b類土器である。他にも同様な土器等が若干出土している。

GP44 D群の中型ピットである。図示したものはないが、石鏃の破片1点と他にV群b類やVI群土器が覆土中より出土した。

GP45 SH-3に半分程度切られている。Fig. 76のGP45は黒曜石の有孔石偶である。孔は黒曜石の原石面に元々あいていた孔を壊さずに表裏に細部剝離を施し作出している。非常に

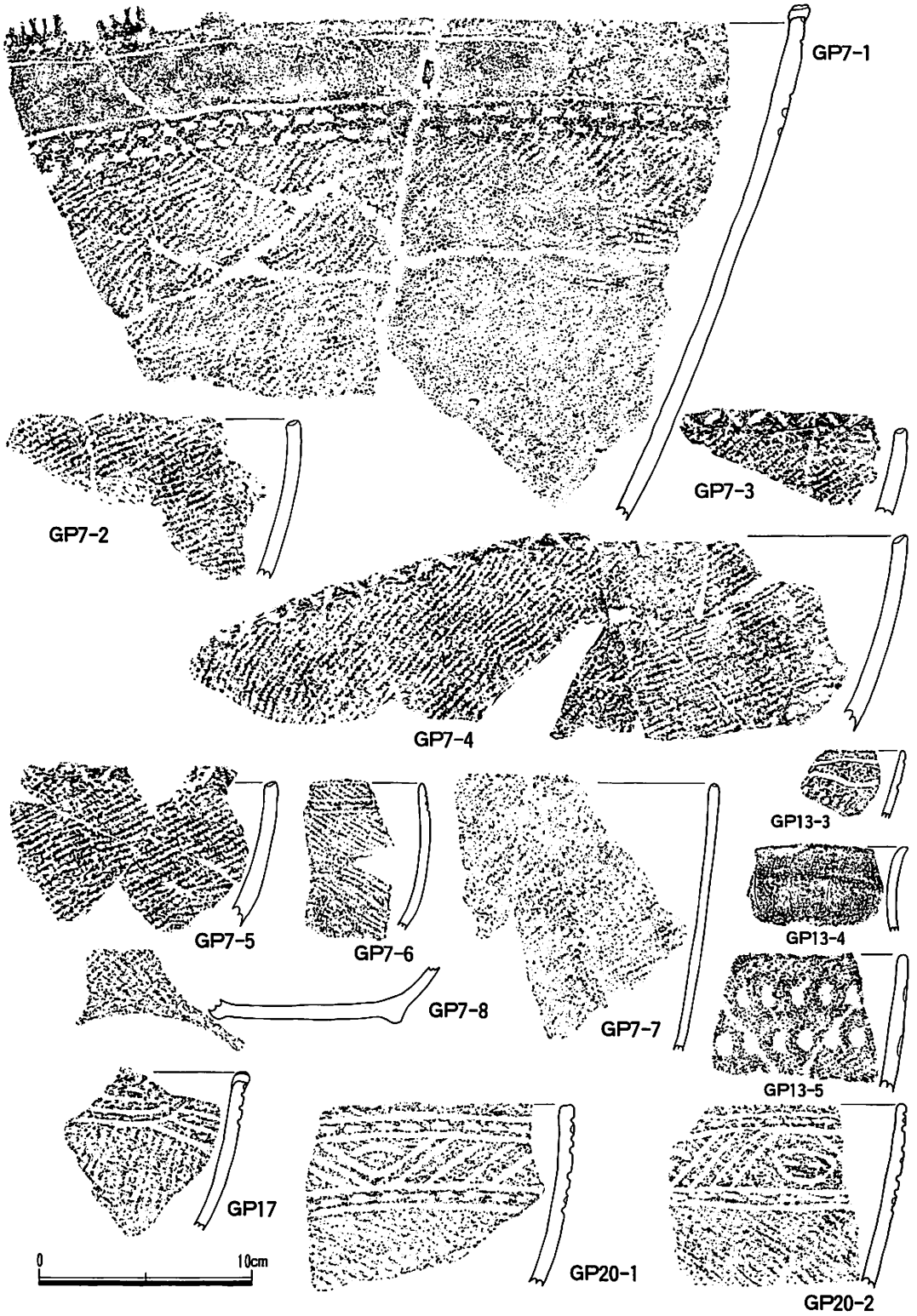


Fig. 60 沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-7・13・17・20)

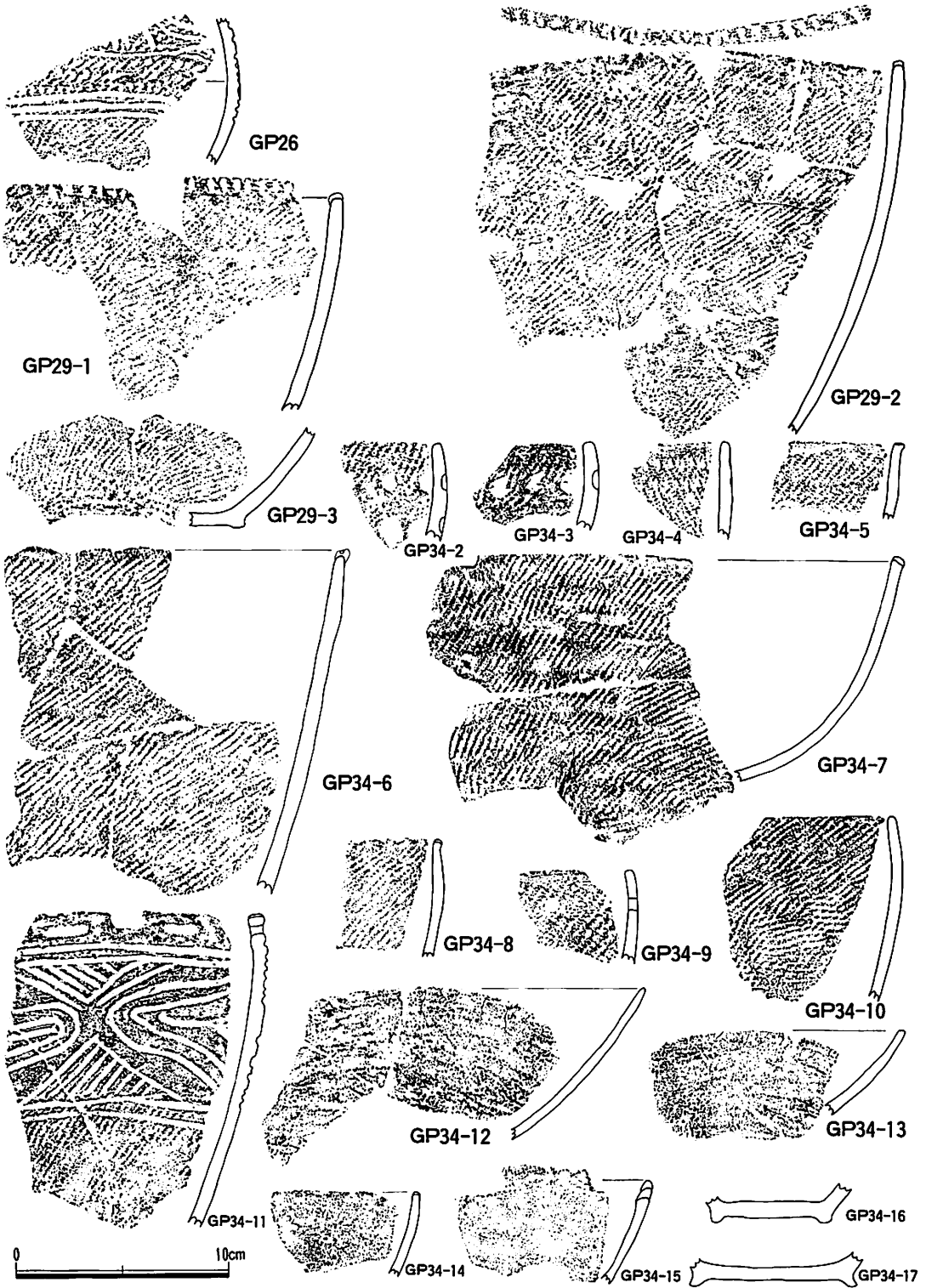


Fig. 61 沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-26・29・34)

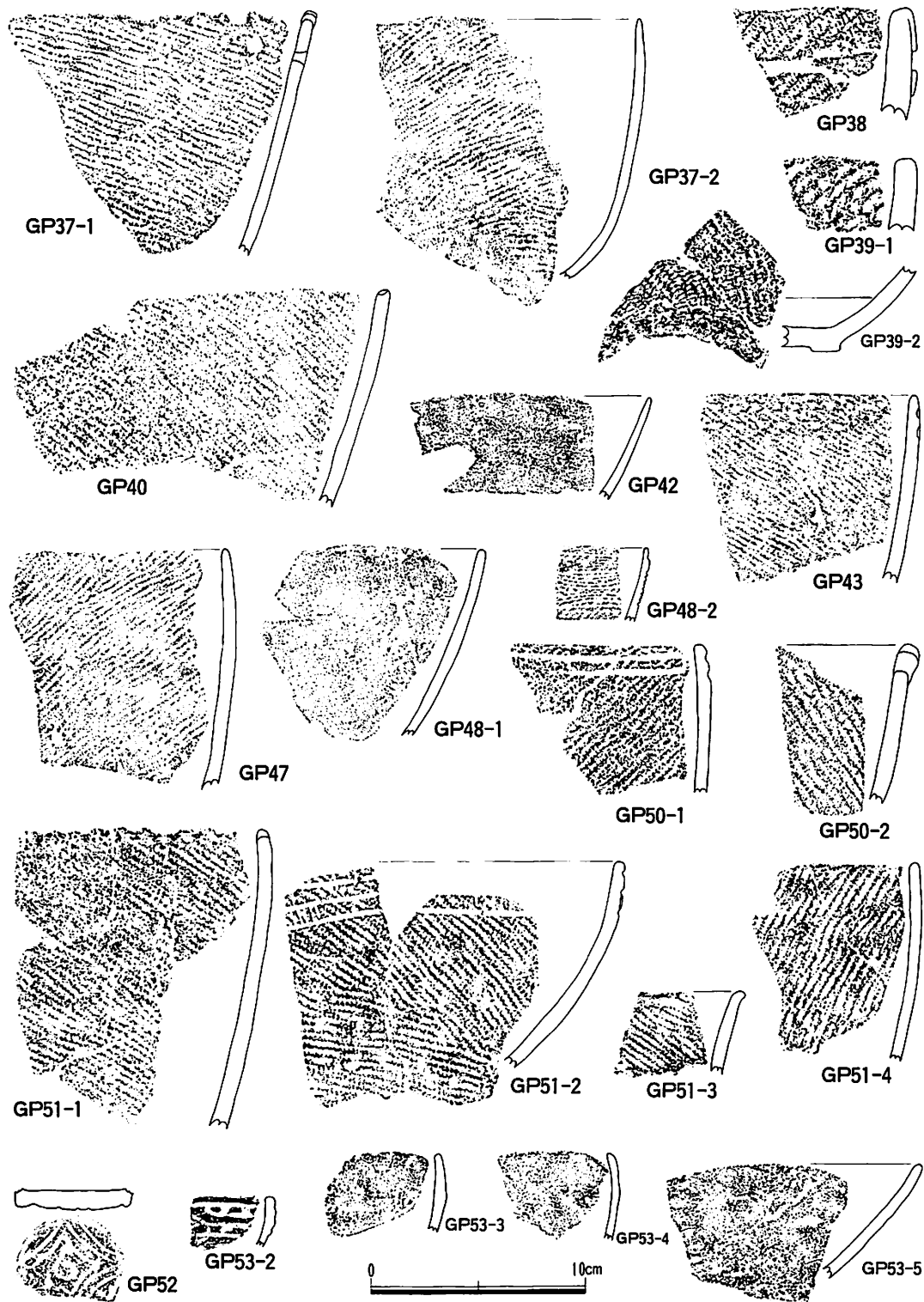


Fig. 62 沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-37~40・42・43・47・48・50~53)

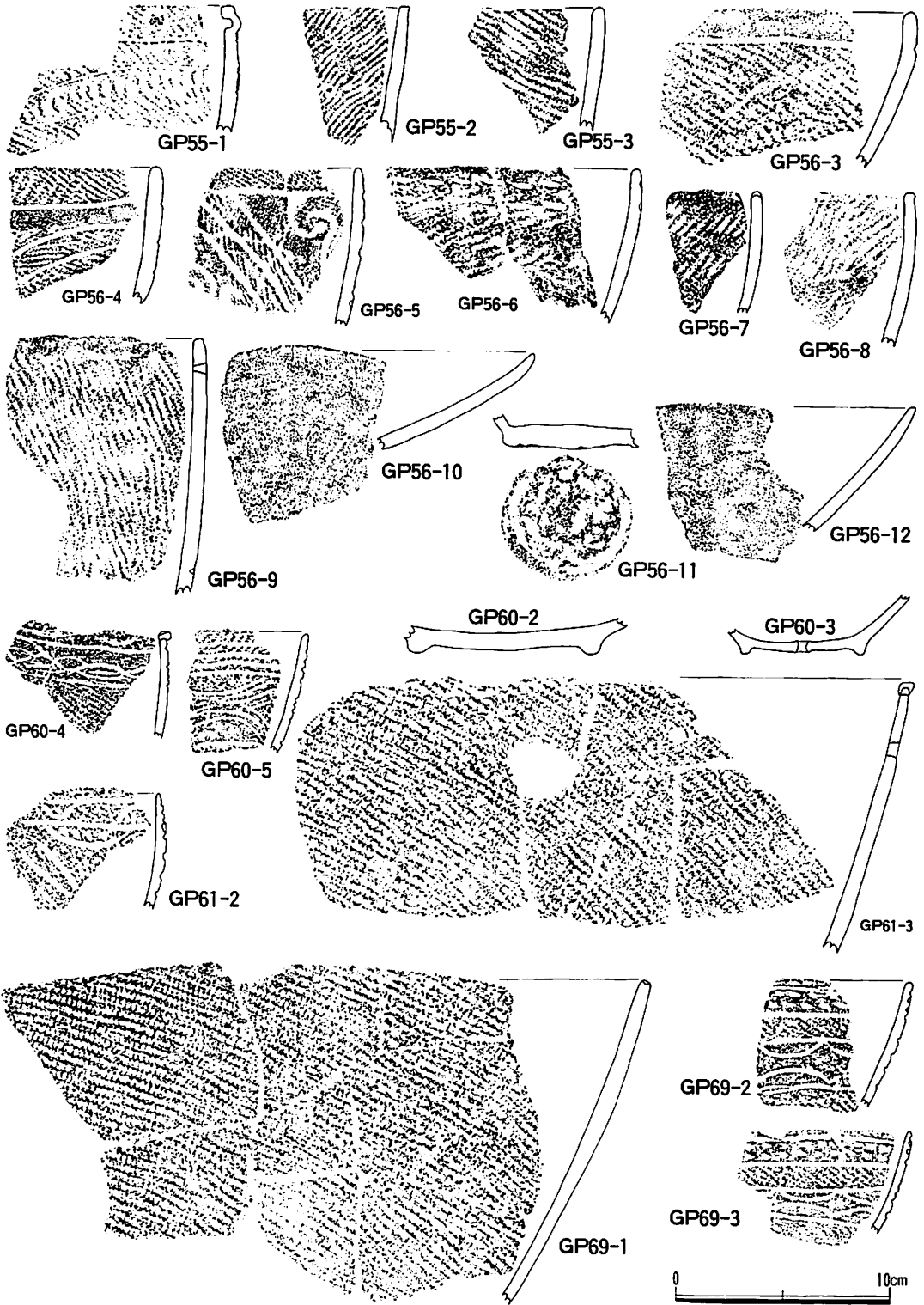


Fig. 63 沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-55・56・60・61・69)

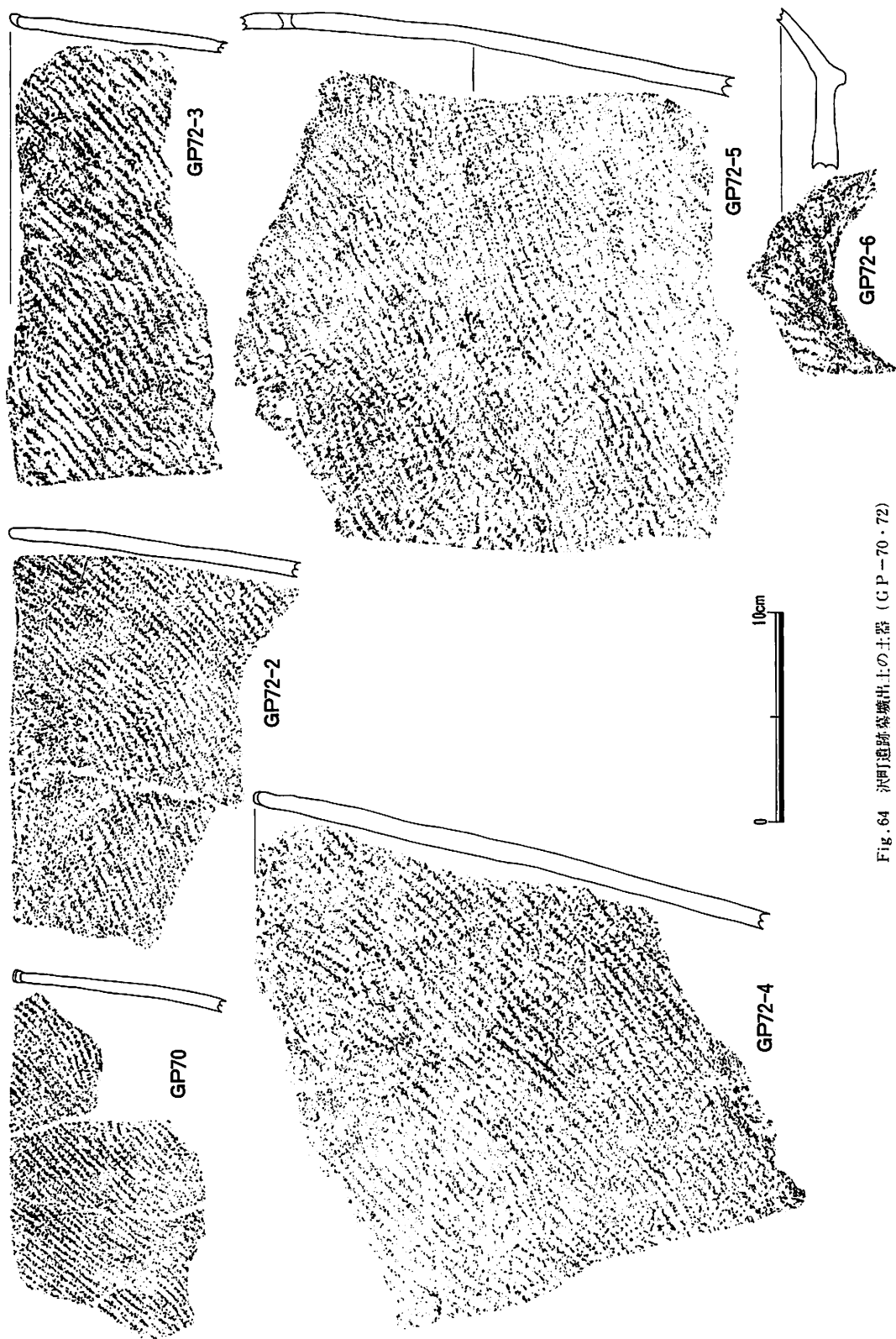


Fig. 64 沢町遺跡塚原出土の土器 (GP-70・72)

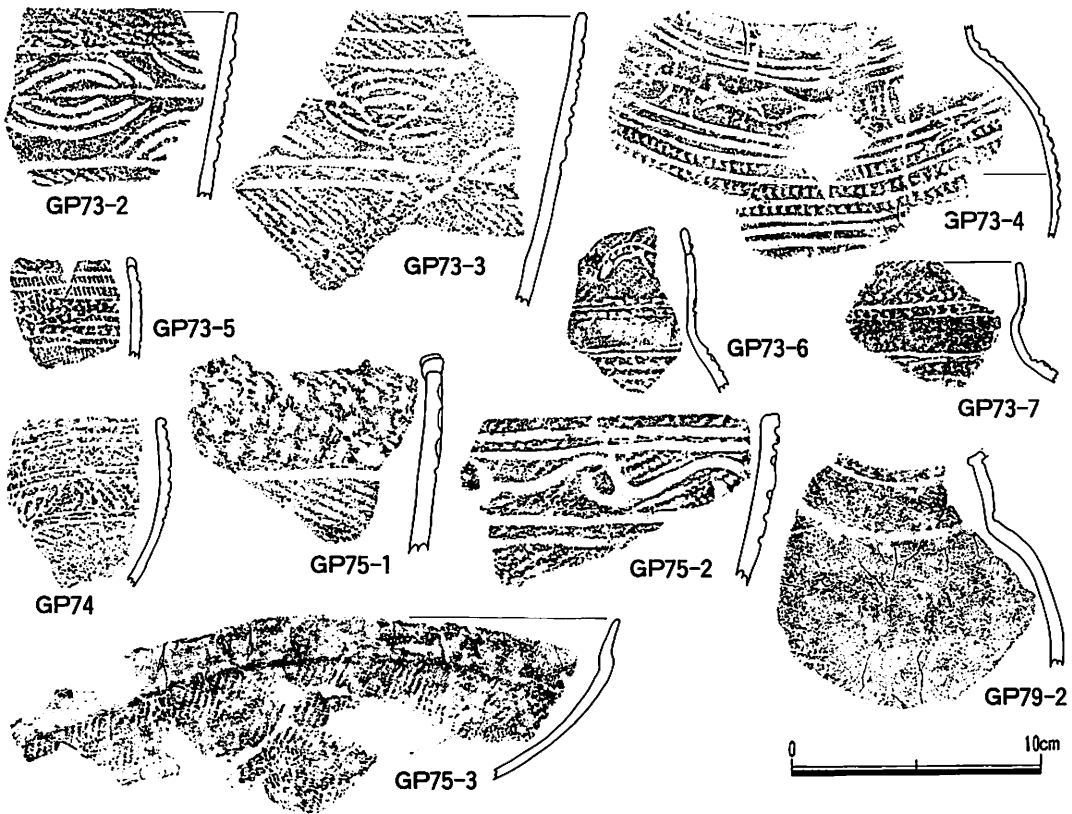


Fig. 65 沢町遺跡墓壇出土の土器 (GP-73~75・79)

みごとな作りである。この石偶は壇底部のベンガラ除去後に検出された。ベンガラ上部からは卵形の小さな礫が1点出土した。この礫も石偶と同様どのような意味が込められているのであろうか、きわめて興味深い。

GP46 GP13によって半分程度壊されている。南北に長いピットである。炭化物が若干出土した他、遺物は皆無であった。

GP47 D群に属する非常に小さなピットである。遺物も非常に少ない。

GP48 D群の中型ピットである。Fig. 62のGP48-1・2はVI群土器である。1は無文、2はVI群a類とみられる。Fig. 80のGP48-1・2は握石である。両手にそれぞれ握らせていたことが図からも推察できる好例である。大きめの玉 (Fig. 76) が1点伴出している。蛇紋岩質のものかと思われる。本遺跡の墓壇を理解する上での好例である。

GP49 D群に属する中型のピットである。上部は削平のため失なわれ非常に浅い。壇底部からはベンガラが確認された他、Fig. 76のGP49-1~7のように玉が7点出土した。1~4がヒスイ、5~7は蛇紋岩とみられる。他に図示しなかったがVI群a・b類の土器が若干出土している。

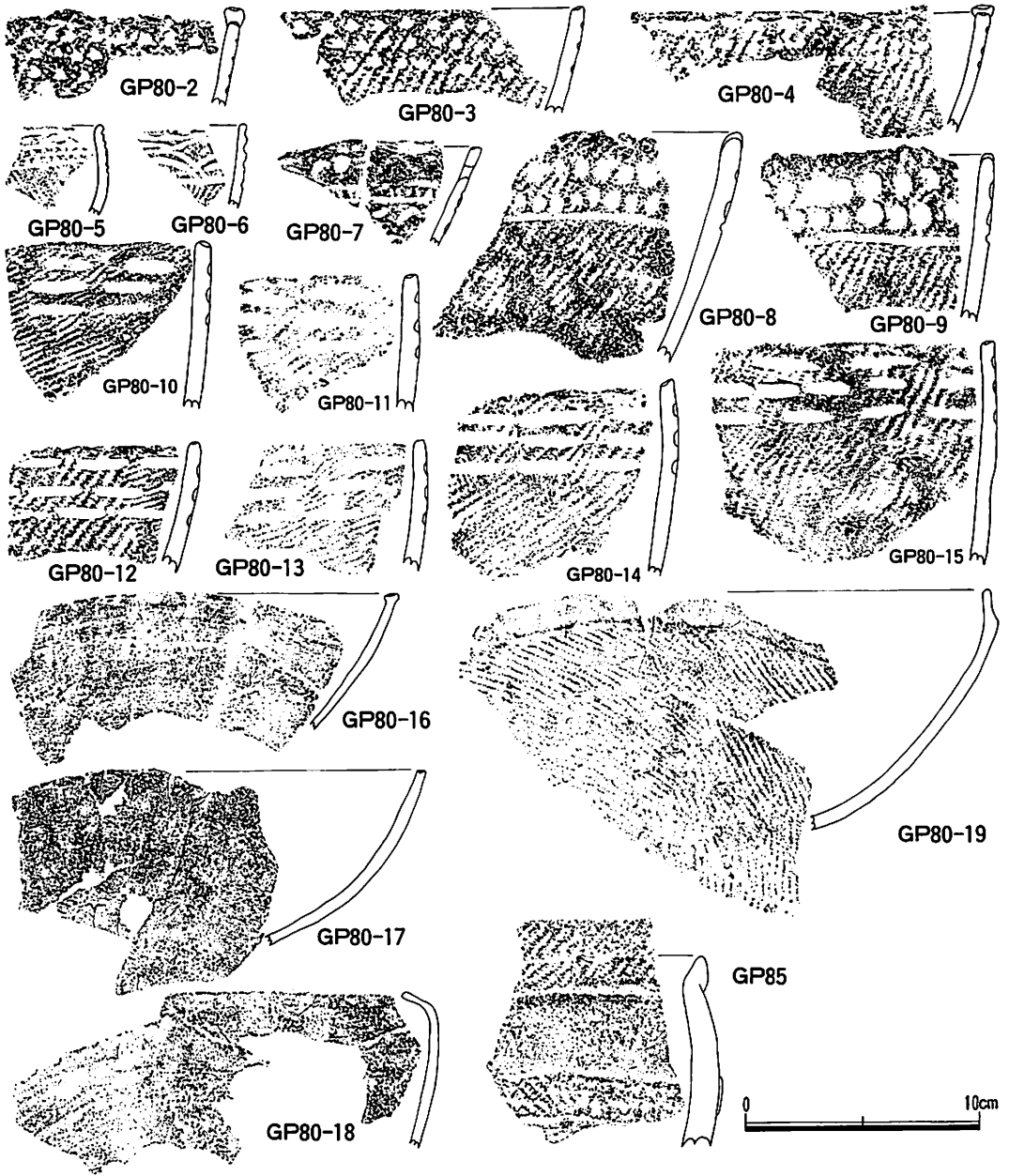


Fig. 66 沢町遺跡幕城出土の土器 (GP-80・85)

GP50 A 群の北側に位置する小型ピットである。Fig. 62のGP50-1・2が図示したⅥ群土器である。

GP51 D 群の中央部に位置する中型ピットである。図示した出土遺物としてはFig. 62のGP51-1～4がある。いずれもⅥ群土器である。Fig. 81のように握石が2点出土した。い

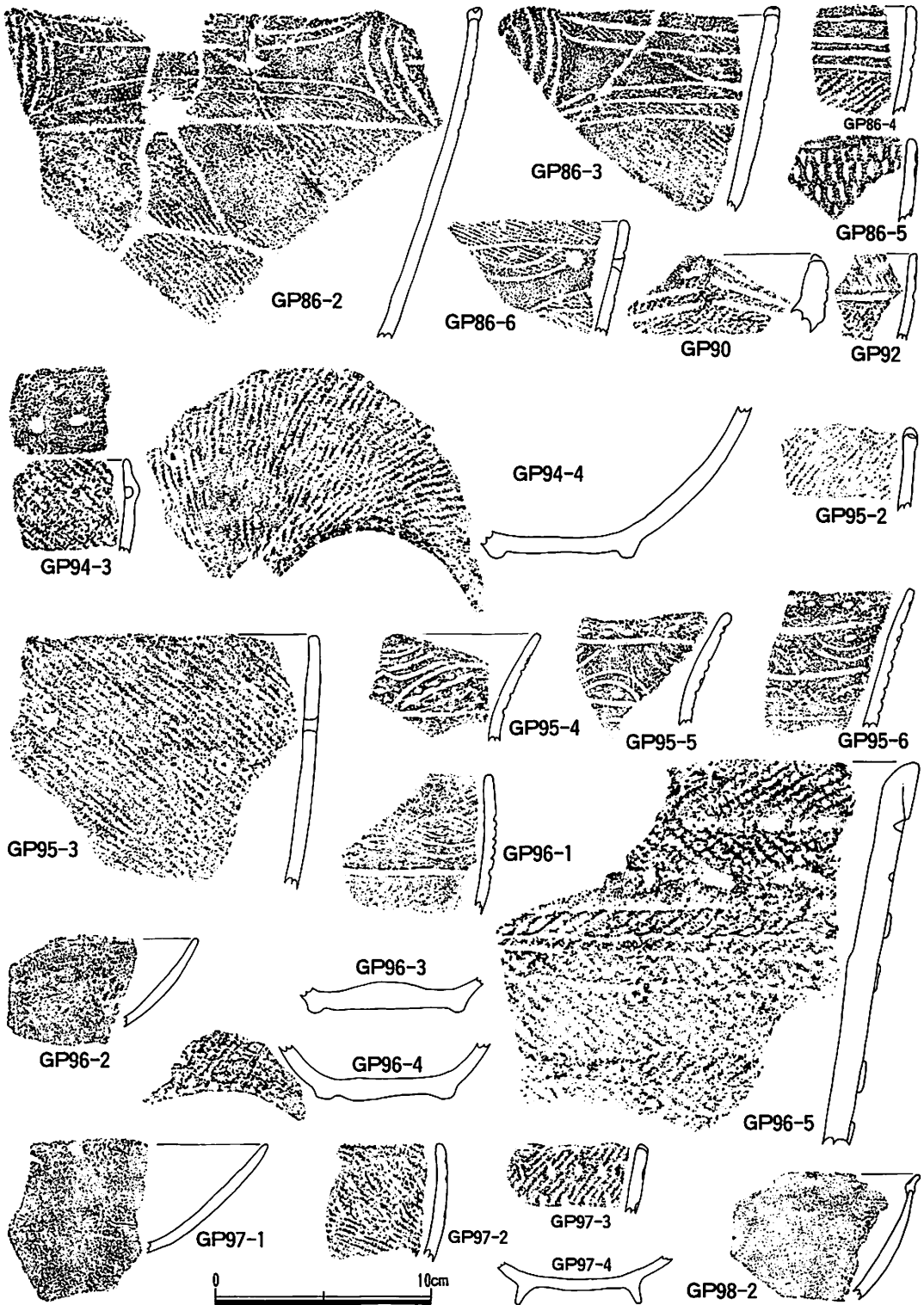


Fig. 67 沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-86・90・92・94~98)

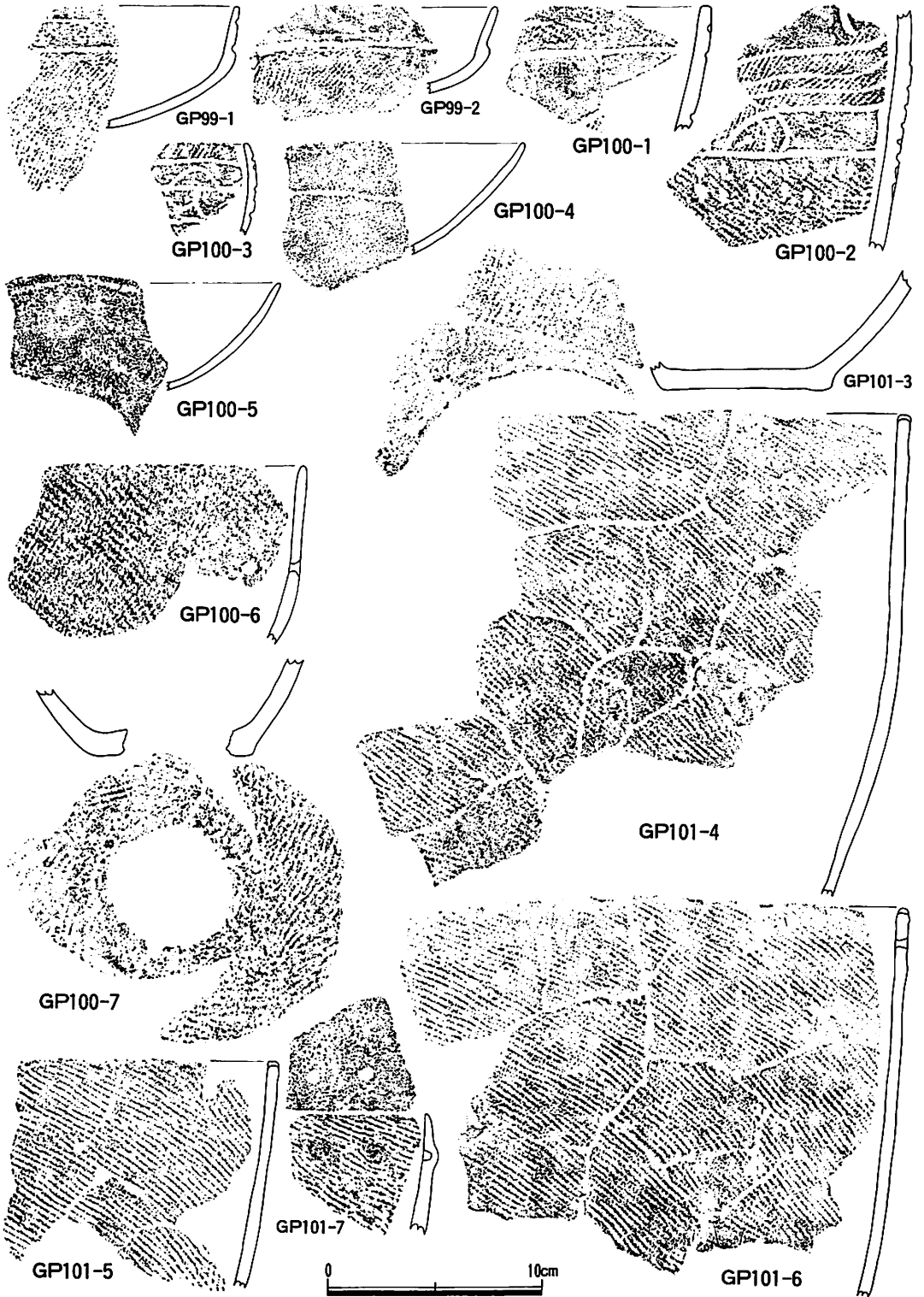


Fig. 68 沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-99~101)

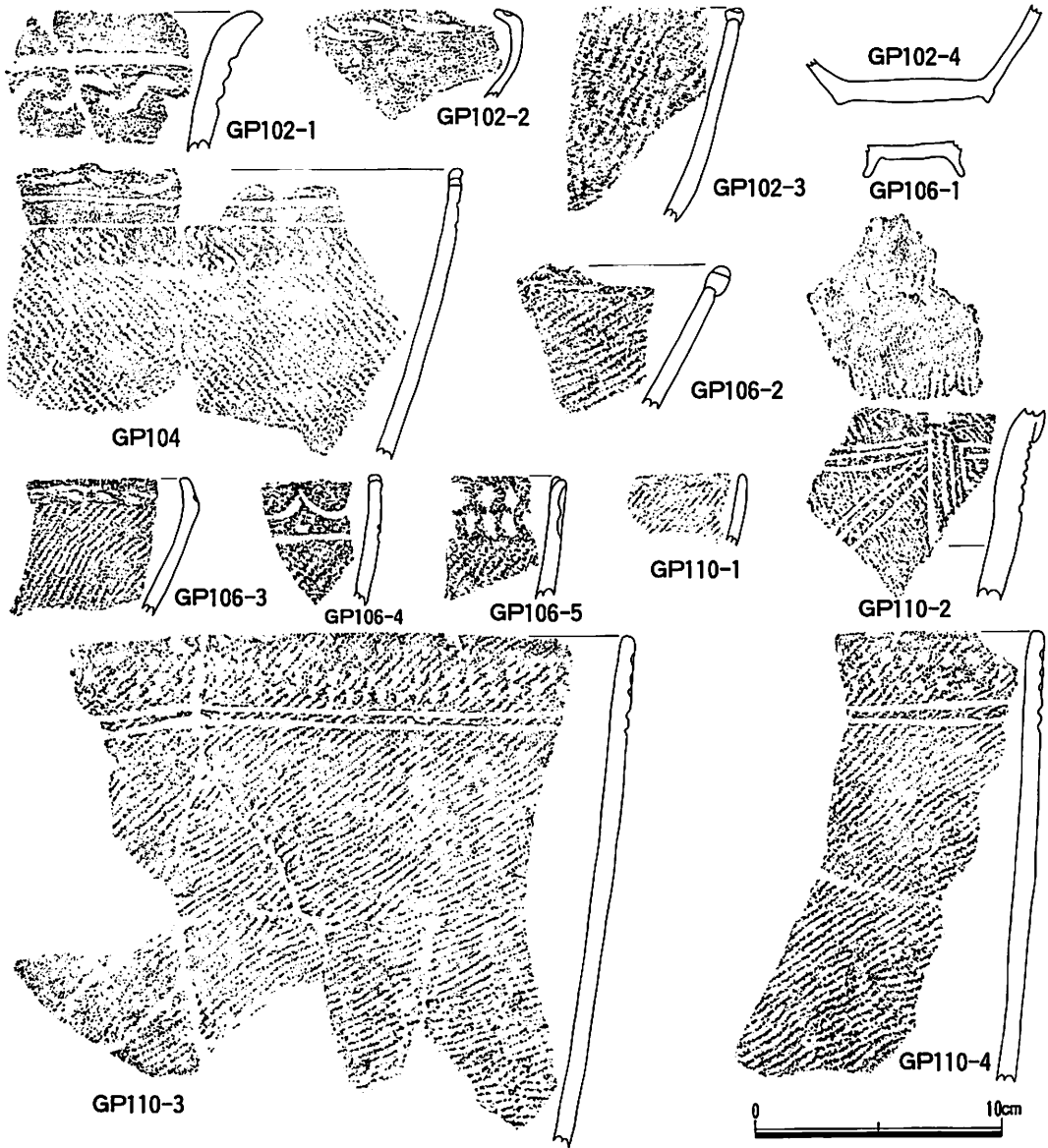


Fig. 69 沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-102・106・110)

ずれも比較的大きな握石である。Fig. 76は石鏃である。基部を若干欠いている。他に図示しなかったが、比較的多くの土器がある。

GP52 D群に属する中型ピットである。図示した唯一の遺物はFig. 62の土器底部である。VI群a類土器とみられる。他に図示していないが砥石や土器・剥片等がある。

GP53 D群に属する中型ピットである。西洋梨様のプランを呈す。Fig. 51のGP53-1は底部内面に渦巻状、高台部分には弧線文・沈線文が充鎮されている。Fig. 51のGP53-2～

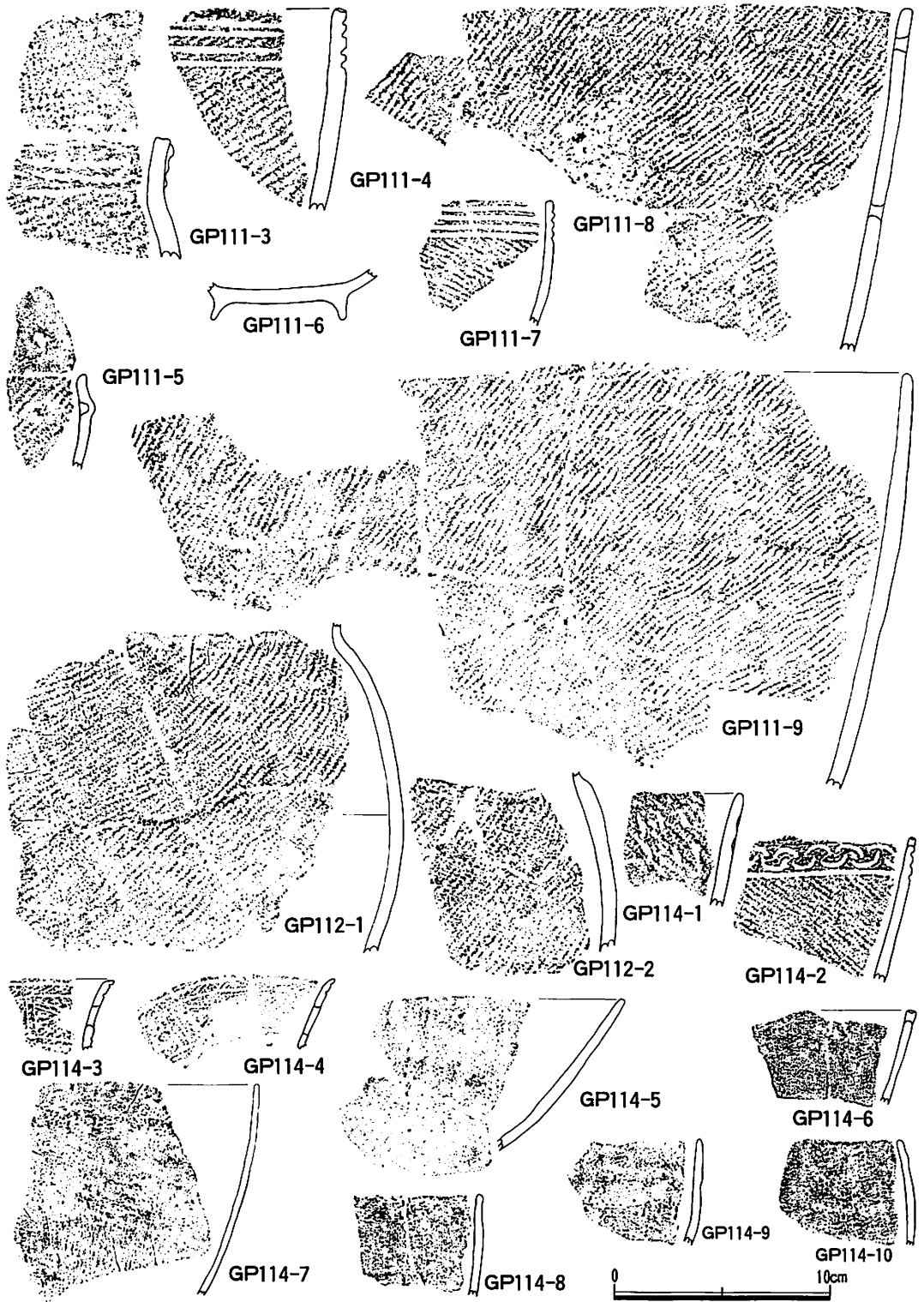


Fig. 70 沢町遺跡墓塚出土の土器 (G P-111・112・114)

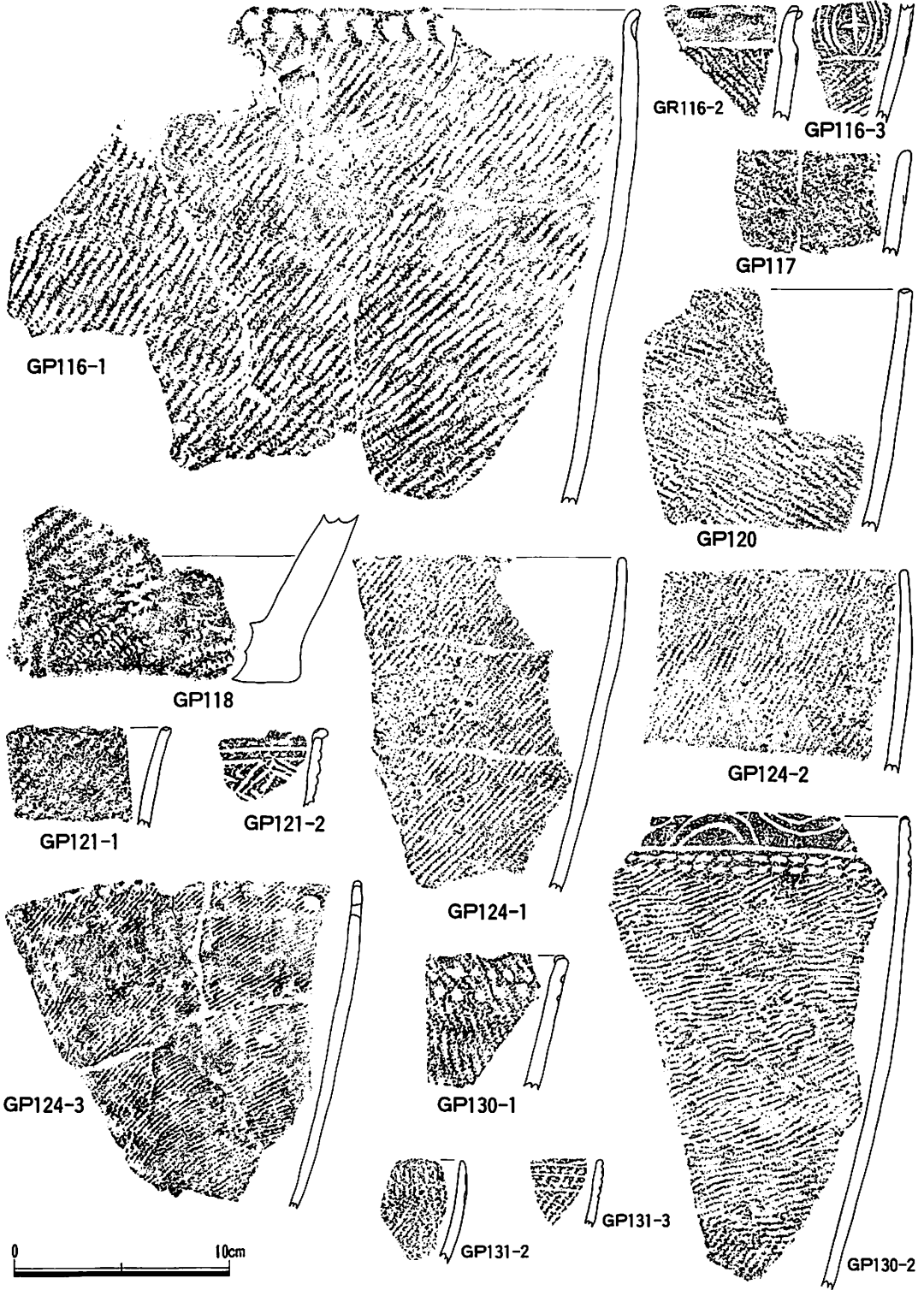


Fig. 71 沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-116~118・120・121・124・130・131)

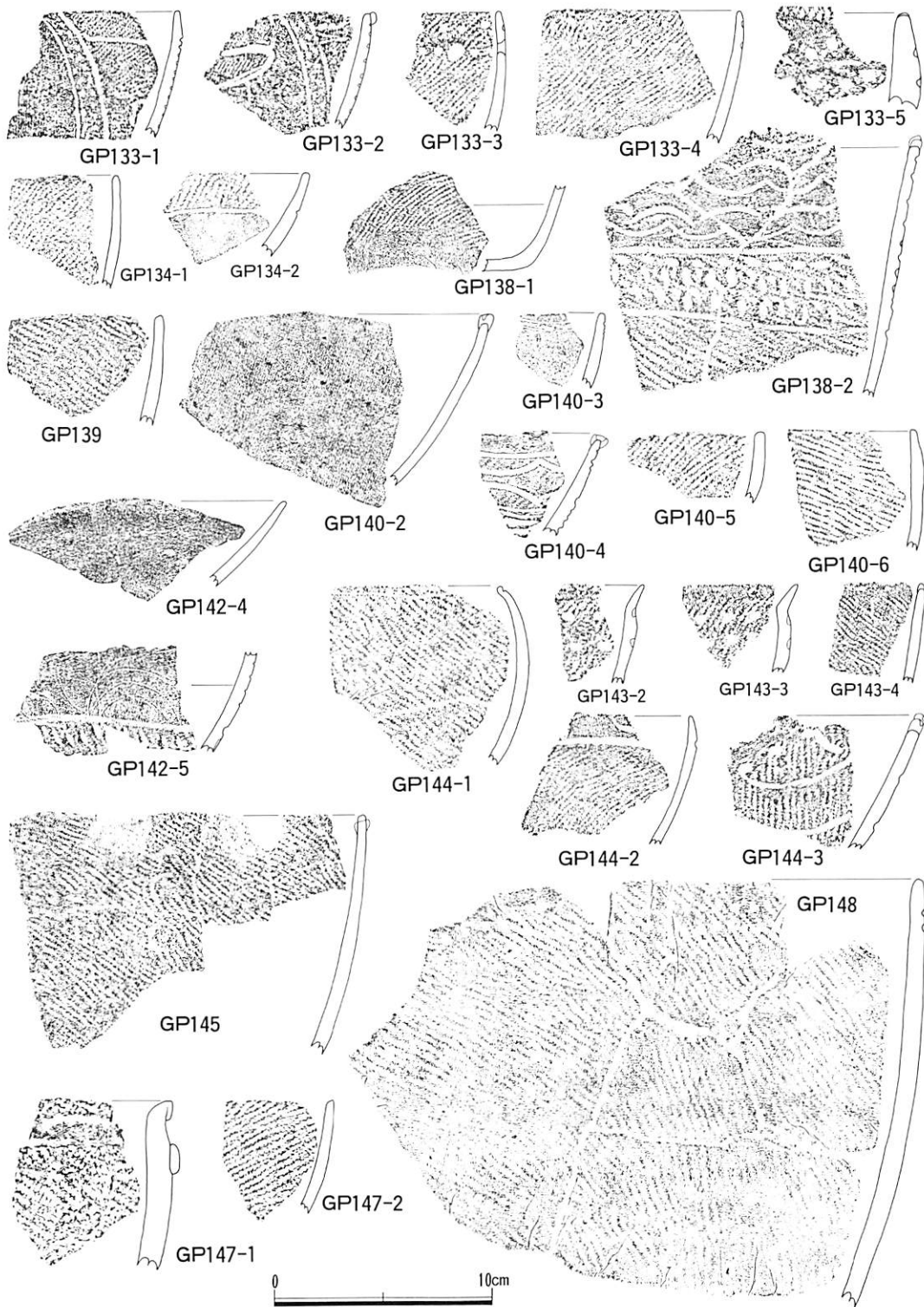


Fig. 72 沢町遺跡墓塚出土の土器 (GP-133・134・138~140・142~145・147・148)

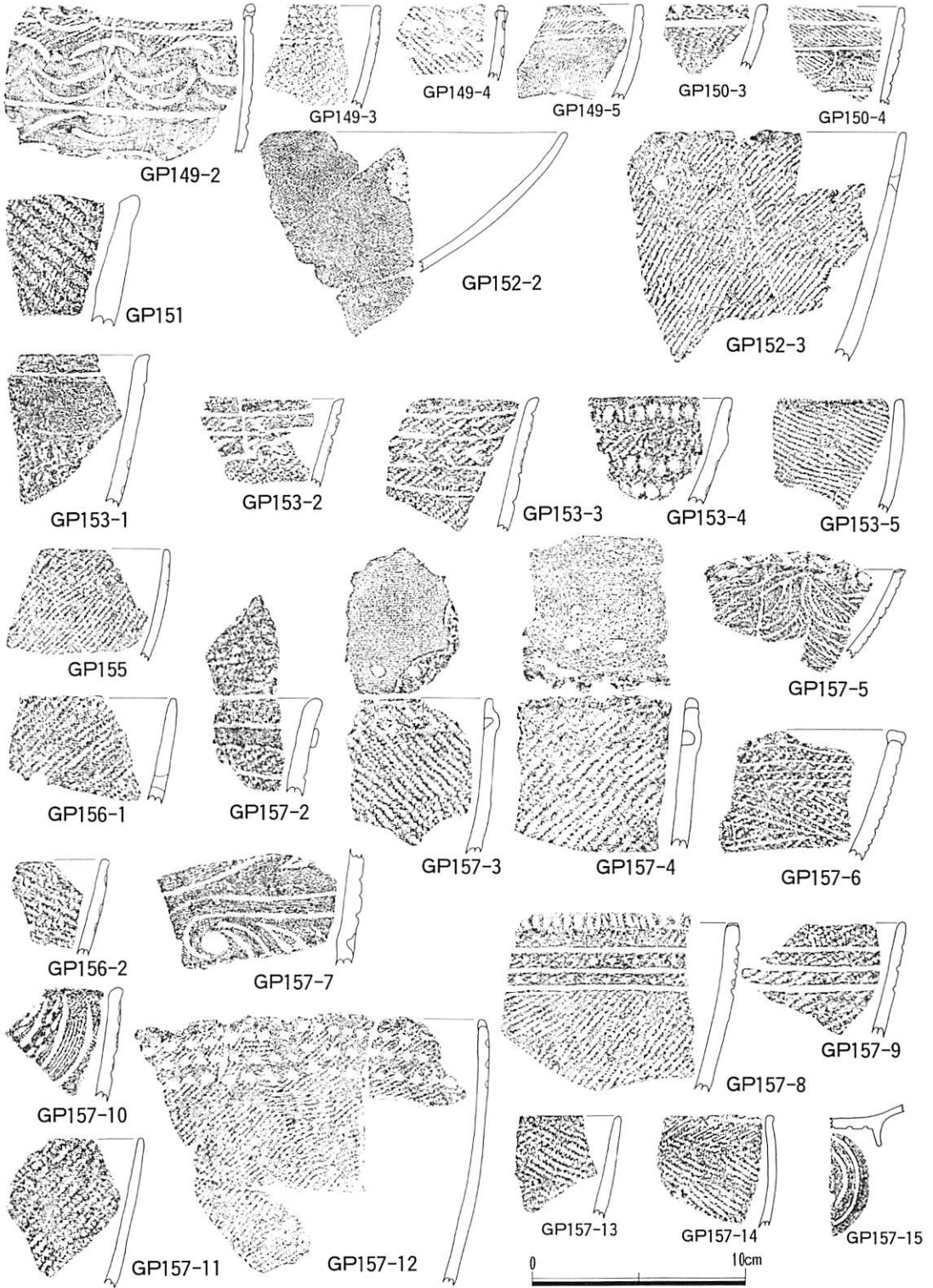


Fig. 73 沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-149~153・155~157)

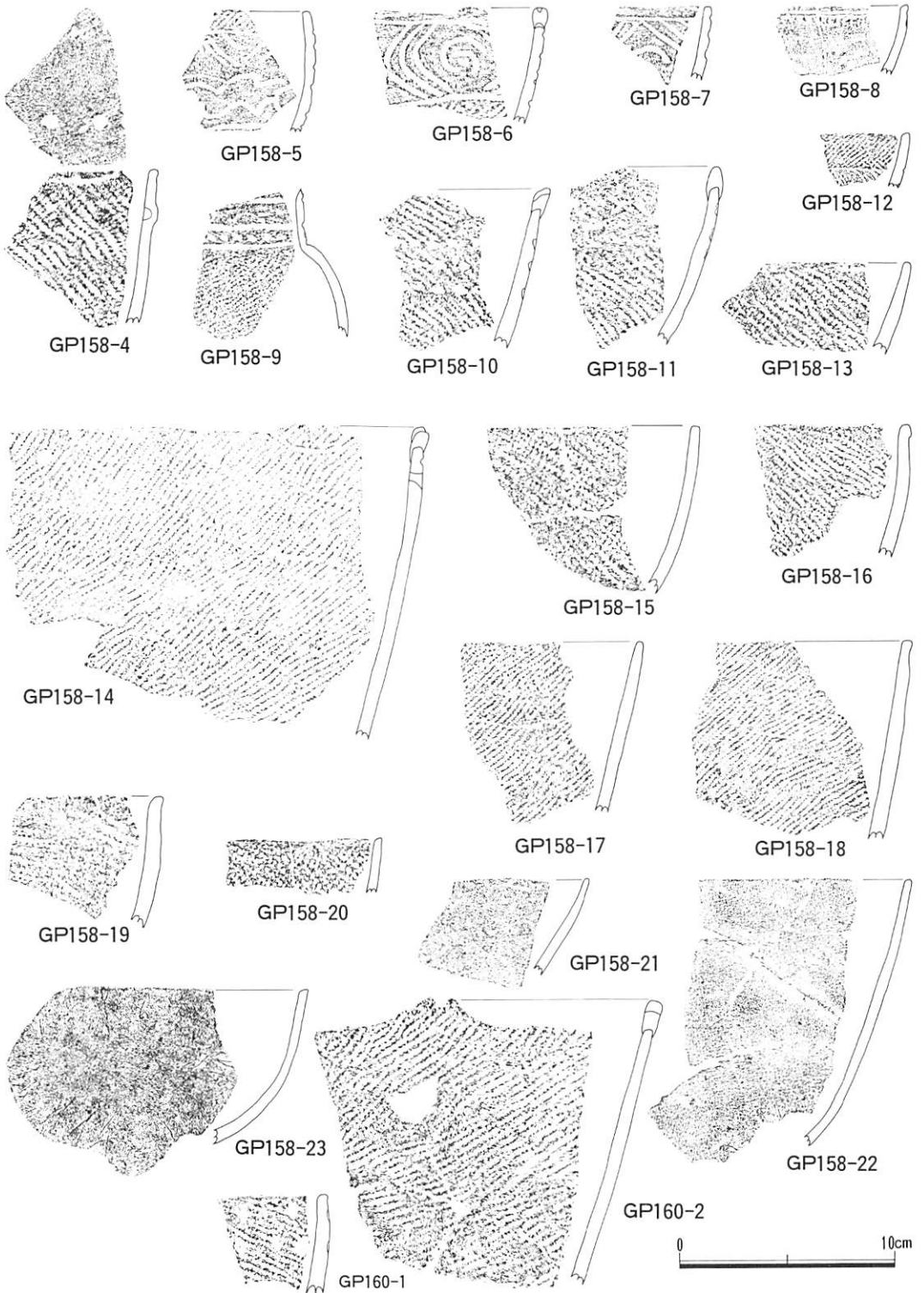


Fig. 74 沢町遺跡墓域出土の土器 (G P-158・160)

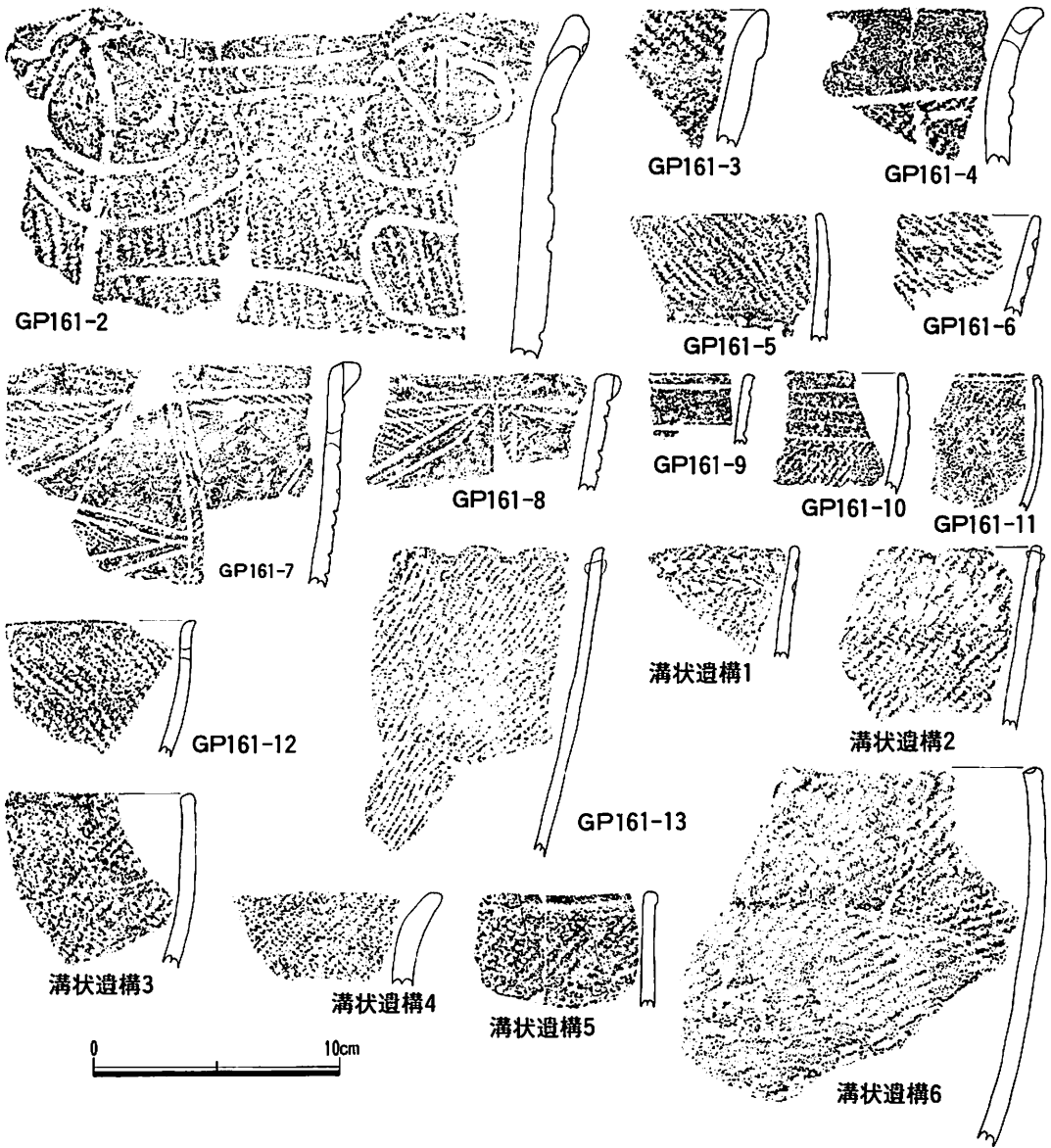


Fig. 75 沢町遺跡墓塚（G P-16i）及び溝状遺構出土の土器

5は図示拓影である。2は表裏に朱漆を塗付した土器である。G P 20出土の土器同様、東北地方北部より齎されたものとみられる。3～5は無文土器である。Fig. 81は鉤状の石製品である。これも玉等と同様、垂飾ではないかと考えられる。Fig. 76のG P 53-1～3は石鏃、4は石錐である。他に多数の図示していない遺物がある。この墓塚は非常に男性色の強い出土遺物の内容である。

G P 54 A 群の東のはずれにある浅いピットである。出土遺物は少ない。Fig. 77が唯一の

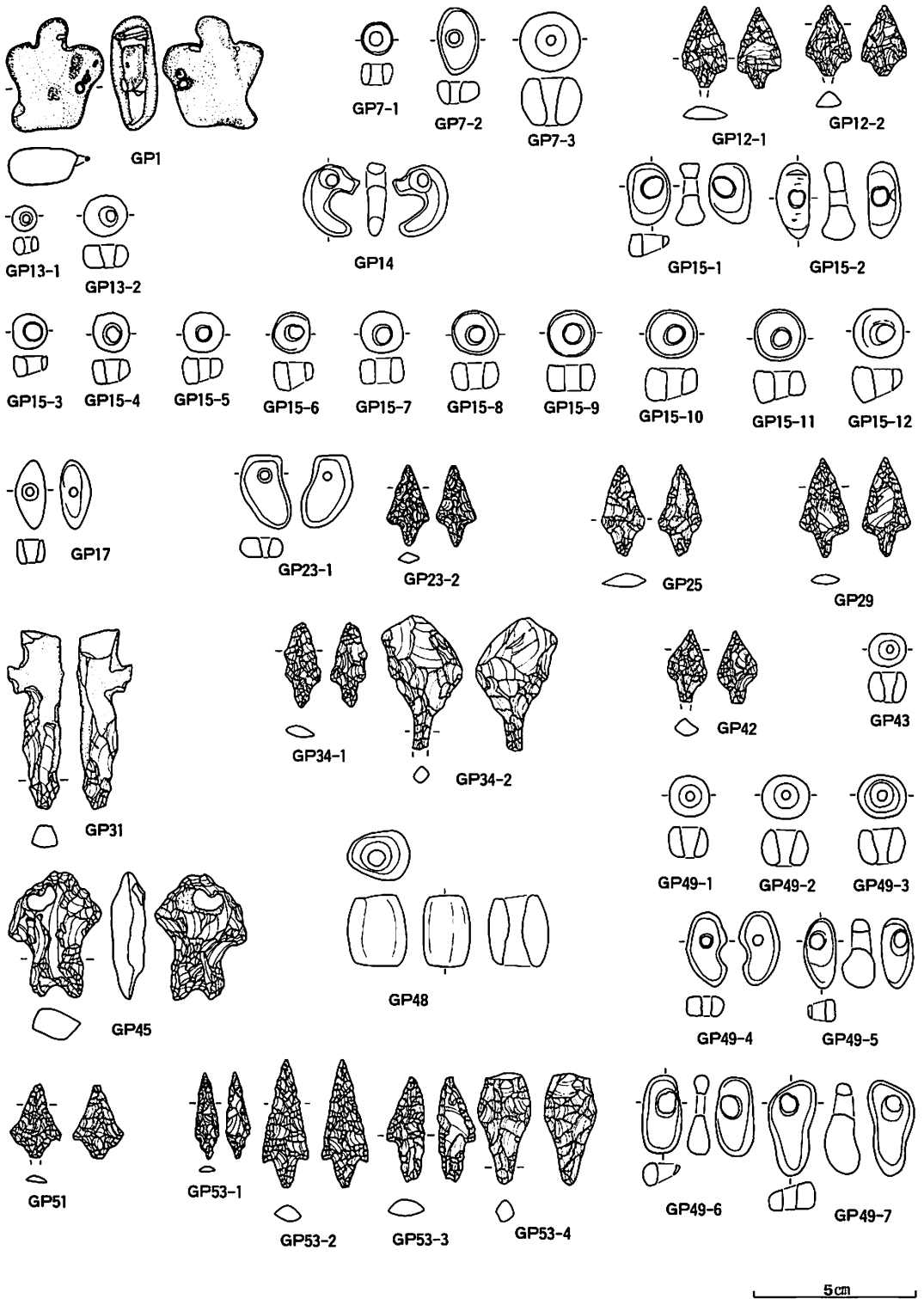


Fig. 76 沢町遺跡墓城出土の遺物 (GP-1・7・12~15・17・23・25・29・31・34・42・43・45・48・49・51・53)

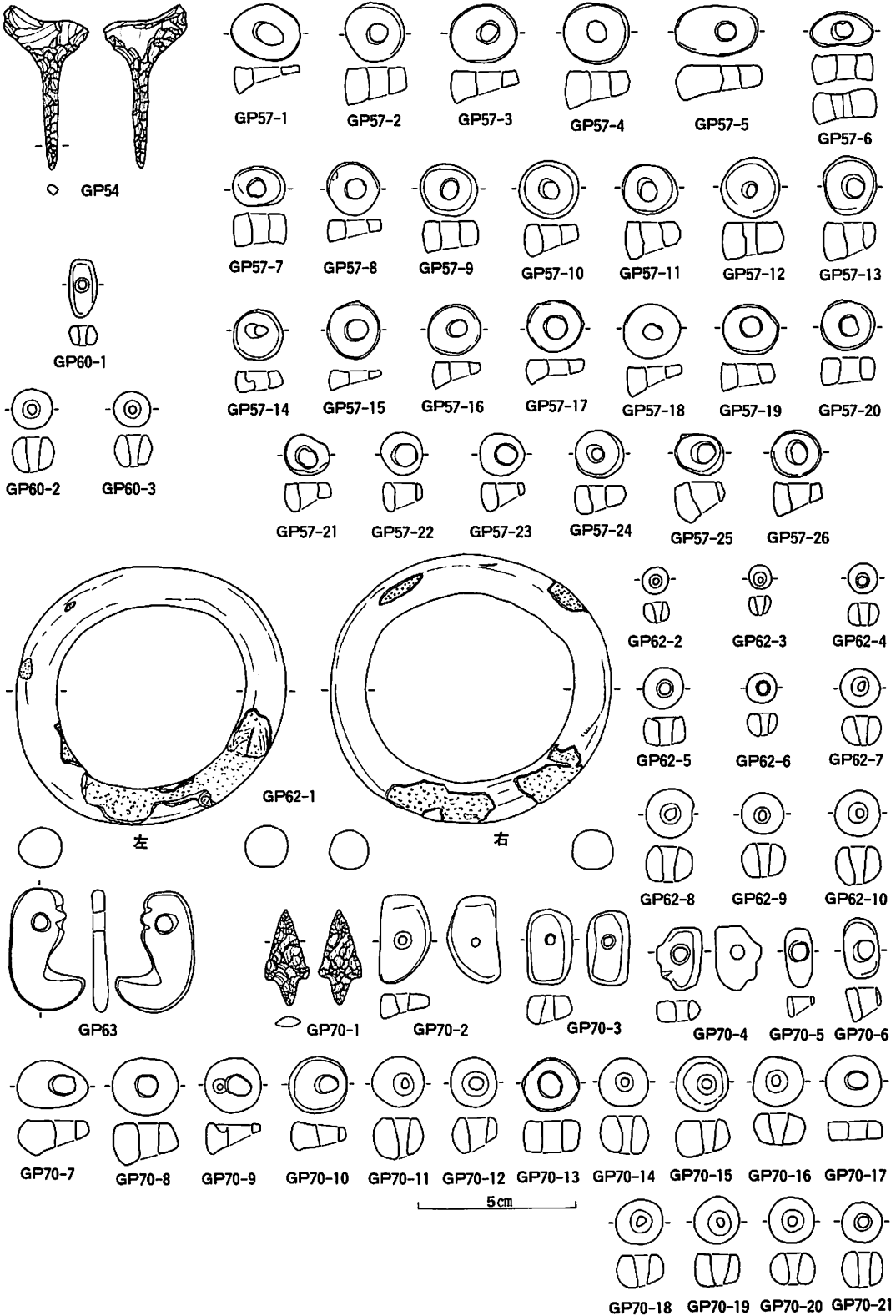


Fig. 77 沢町遺跡墓城出土の遺物 (G P-54・57・60・62・63・70)

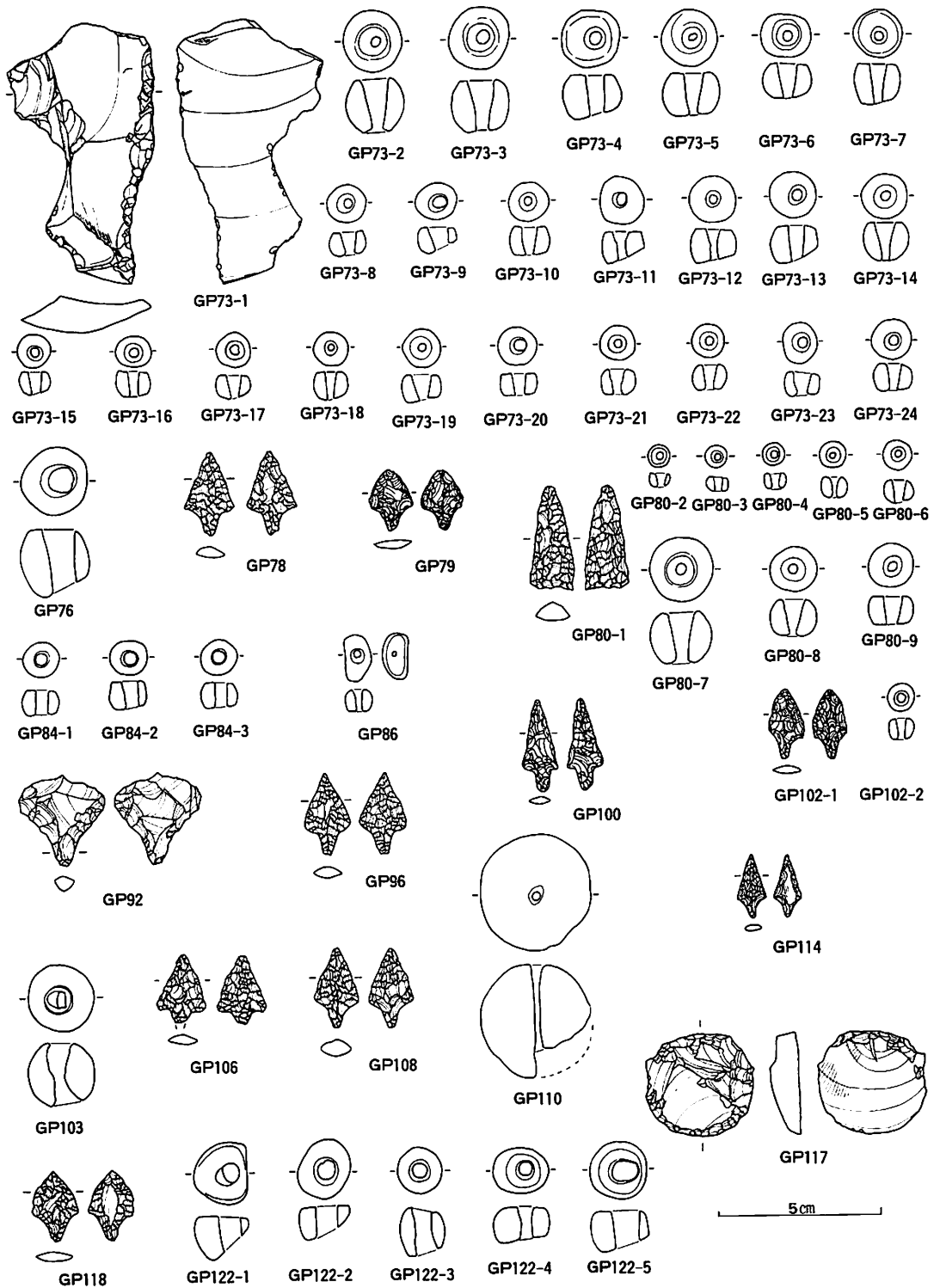


Fig. 78 沢町遺跡墓城出土の遺物 (GP-73・76・78~80・84・86・92・96・100・102・103・106・108・110・114・117・118・122)

図示遺物である。Ⅱ群b類の石錐である。

GP55 D群に属する中型ピットである。GP56によって切られている。Fig. 63のGP55-1～3が図示した土器である。特に1は縄文時代後期後葉のものであろう。1は覆土遺物とみられる。他に図示していないⅥ群a類土器等が比較的多数ある。

GP56 D群に属する円形の中型ピットである。出土遺物は非常に多い。Fig. 51のGP56-1は底部有孔土器、GP56-2はⅥ群a類土器である。Fig. 63のGP56-3～12もⅥ群a類土器とみられる。Fig. 81は敲石と分類したが、大きさや形状から考えて握石とも考えられる。図示していない握石1点とあわせて、2点あったようにも考えられる。他に図示していない多数の土器がある。

GP57 D群の中央部に位置し、溝状遺構によって西側を切られている。Fig. 81は大型の握石である。Fig. 77のGP7-1～26は、26点出土した玉である。全点蛇紋岩とみられる。図のように断面の一方が厚く、一方が薄く片寄っている。GP57-6は側面に3本のキザミがある。

GP58 D群に属する中型ピットである。GP56によって切られている。Fig. 81は小さな握石である。図示していないが覆土中より出土したⅤ群a類・c類土器、それと伴出したと思われるⅥ群a類土器が若干出土している。

GP60 A群の西側に位置し東西に長い中型のピットである。竈底部からは、ほぼ全面に亘ってベンガラが確認された。Fig. 53のGP60-1はピット西側の大型の礫の影になって出土したⅥ群a類土器である。Fig. 63のGP60-2～5もⅥ群a類とみられる。GP60-3は底部有孔土器である。Fig. 81のGP60-1・2が握石である。Fig. 77の1～3はヒスイの玉である。

GP61 A群に属するやや小型のピットである。東西に長いプランを有し竈底部にはベンガラが確認された。Fig. 53のGP61-1は底部有孔土器、Fig. 63のGP61-2・3はⅥ群a類土器とみられる。

GP62 A群の北側に位置する中型のピットである。長軸は東西。すばらしい遺物が出土し

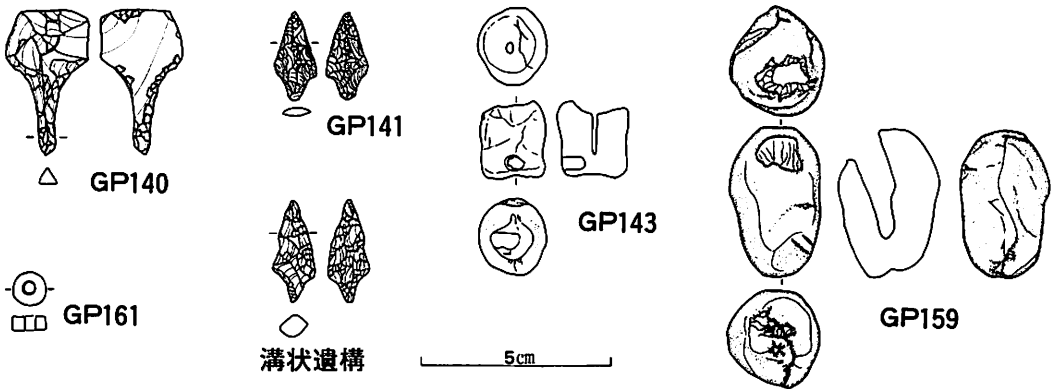


Fig. 79 沢町遺跡竈塚 (GP-140・141・143・159・161) 及び溝状遺構出土の遺物

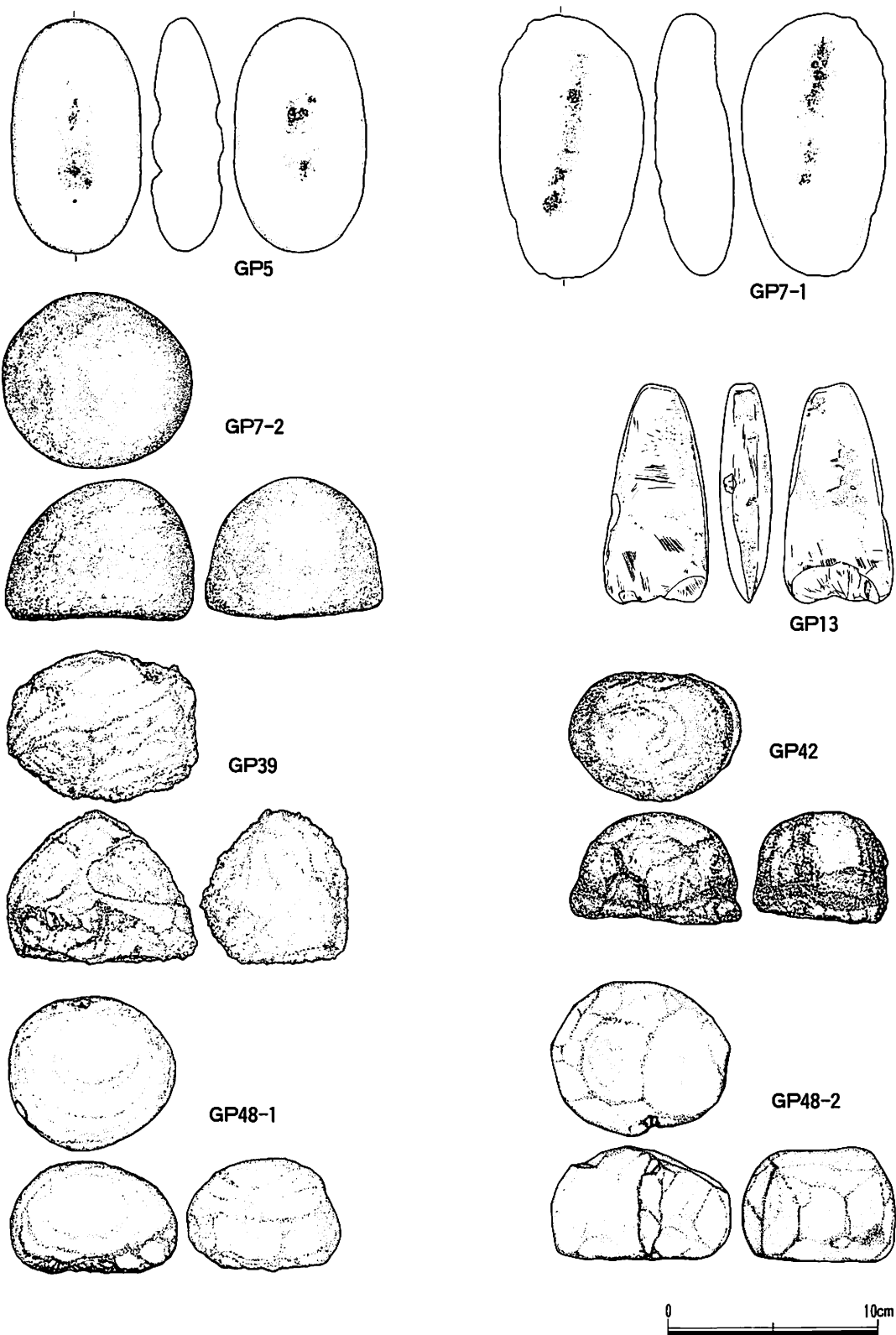


Fig. 80 沢町遺跡墓壙出土の凹石・握石・石斧 (GP-5・7・13・39・42・48)

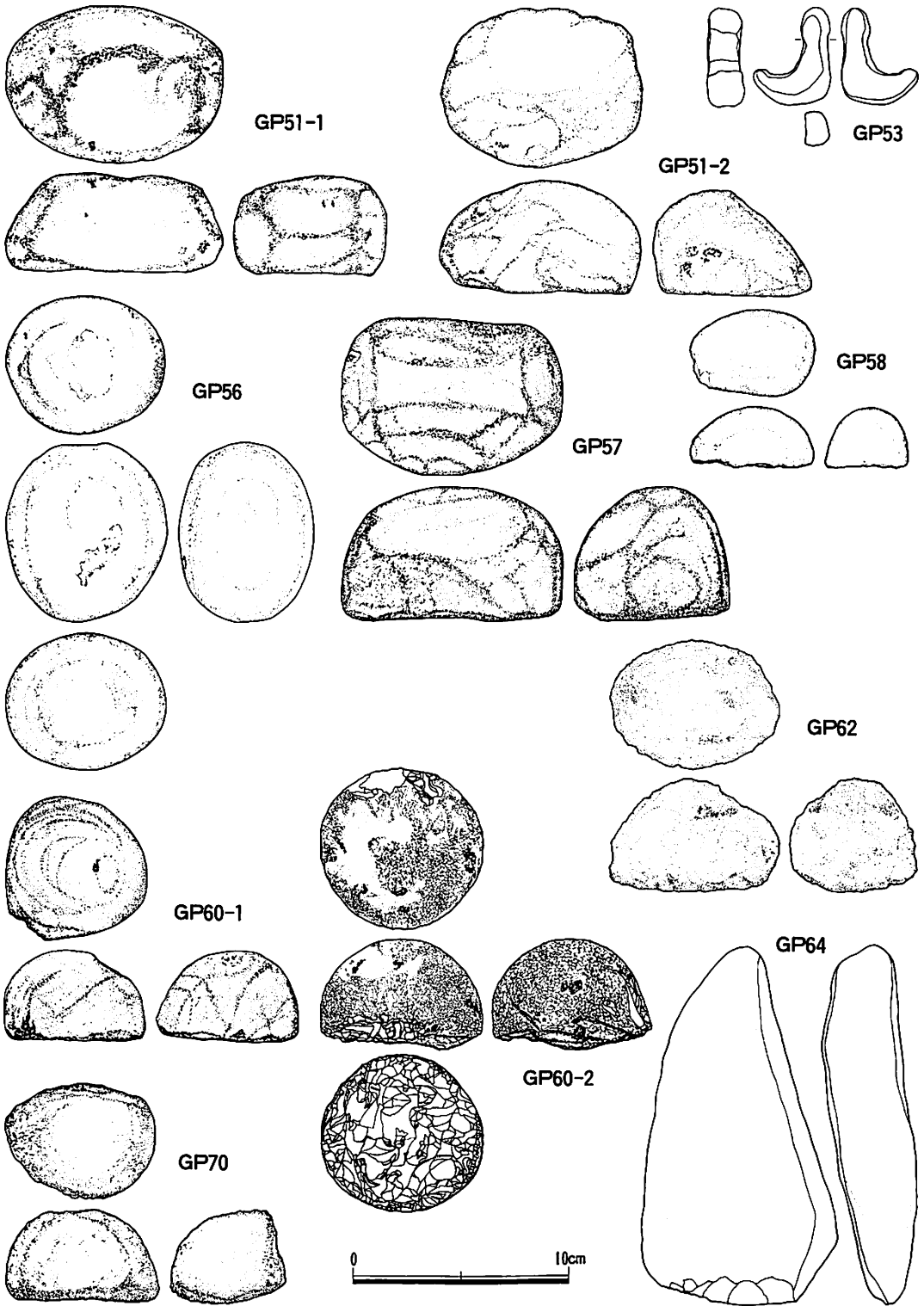


Fig. 81 沢町遺跡墓壙出土の握石・石製品・敲石 (GP-51・53・56~58・60・62・64・70)

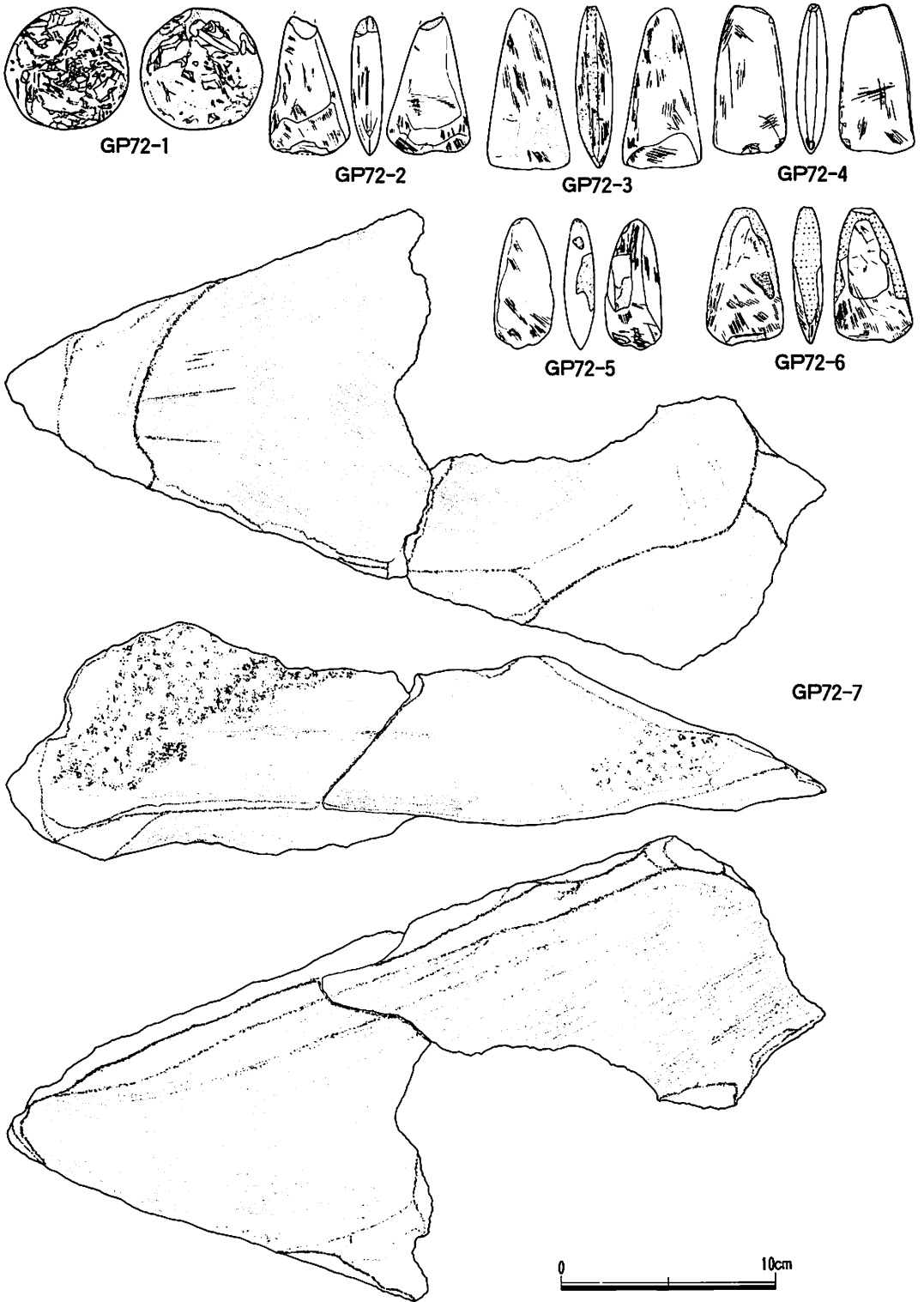


Fig. 82 沢町遺跡墓域出土の敲石・石斧・砥石 (GP-72)

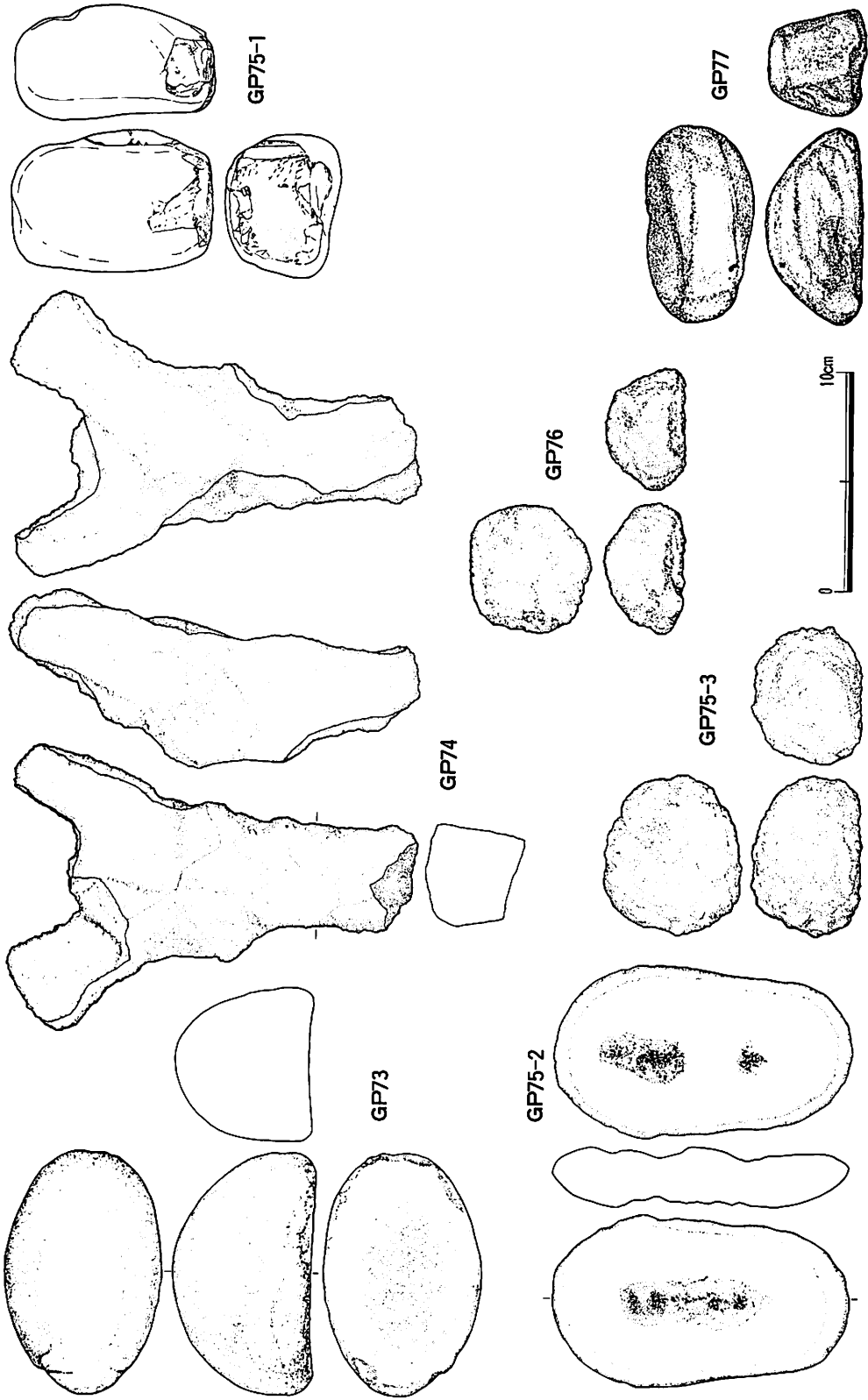


Fig. 83 沢町遺跡幕張出土の握石・岩偶・鐵石・凹石 (GP-73-77)

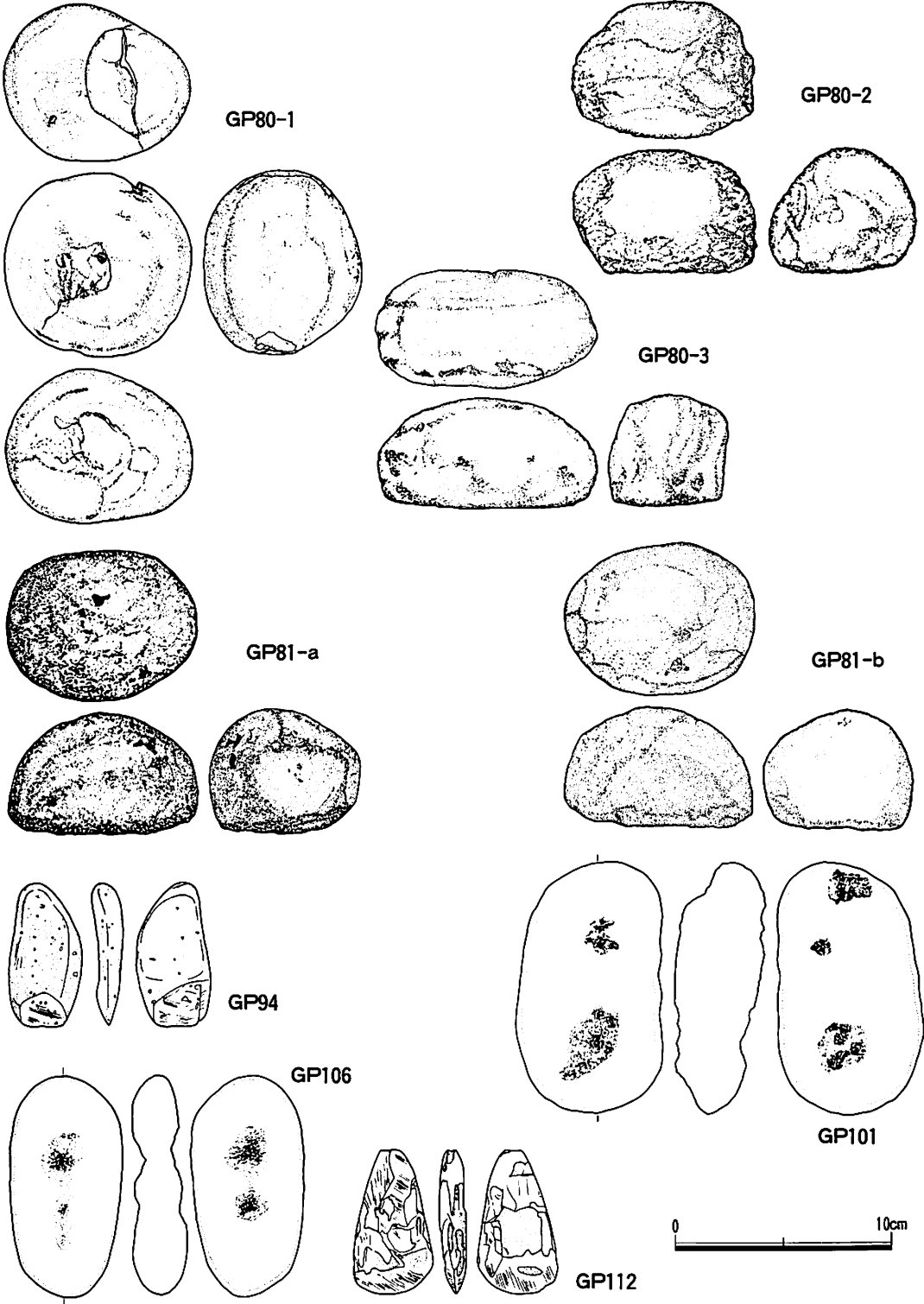


Fig. 84 沢町遺跡墓城出土の敲石・握石・石斧・凹石 (GP-80・81・94・101・106・112)

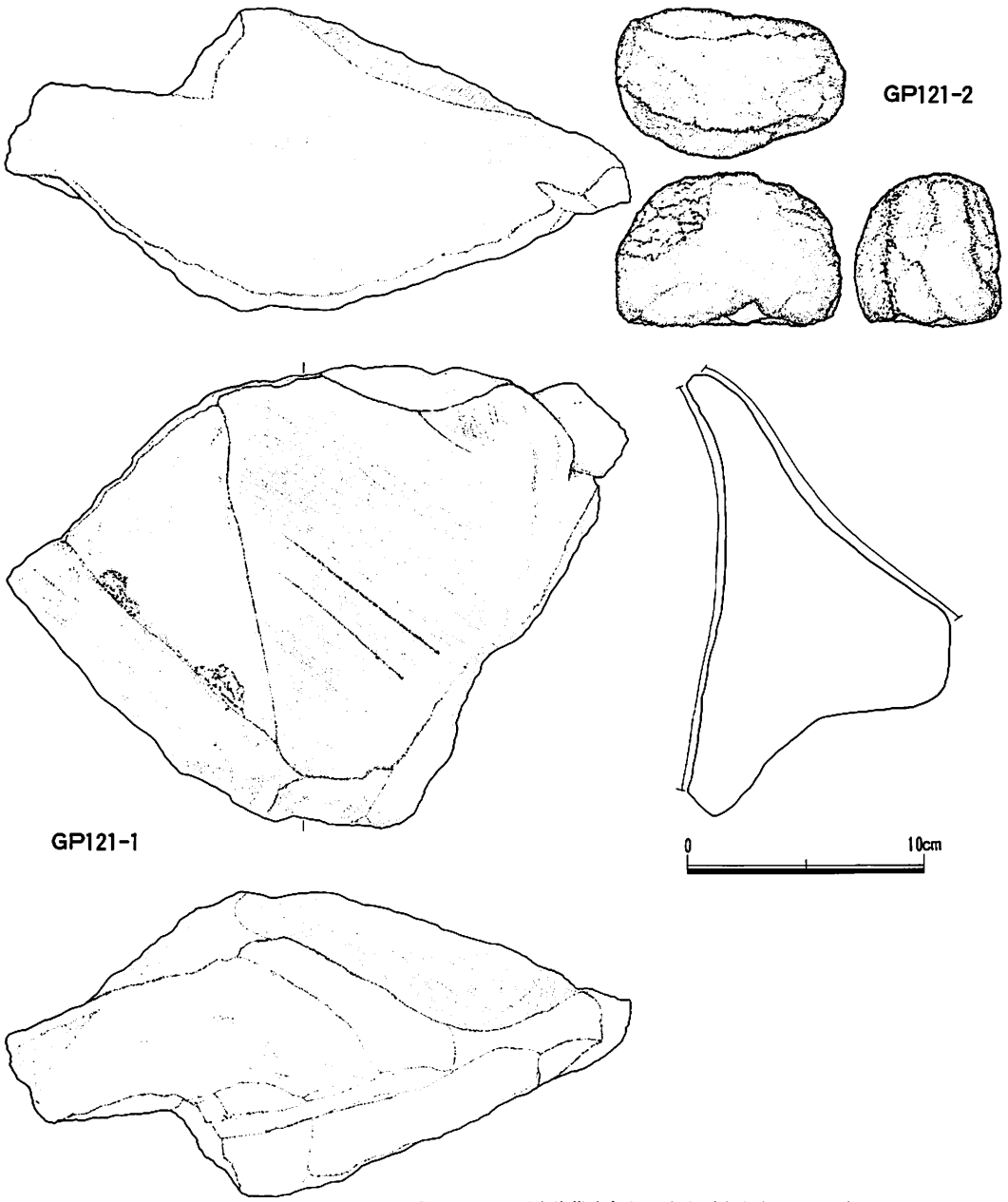


Fig. 85 沢町遺跡墓塚出土の砥石・握石 (GP-121)

ている。Fig. 54に図示した土器は片口の大型土器である。Fig. 81は握石である。非常に重い。図示していないが、もう1点握石が出土している。こちらの方は、いわゆる鈴石状の握石が錆化し、壺底部に鉄分がしみこみ粘土と密着していた。したがって、取り上げの際には、土ごと取り上げた。Fig. 77のGP 62-1は左右の腕輪である。木質で表面に朱漆を塗ったものとみられる。Fig. 31のように左右そろって出土した。Fig. 77のGP 62-2~10が伴出の玉である。玉や腕輪

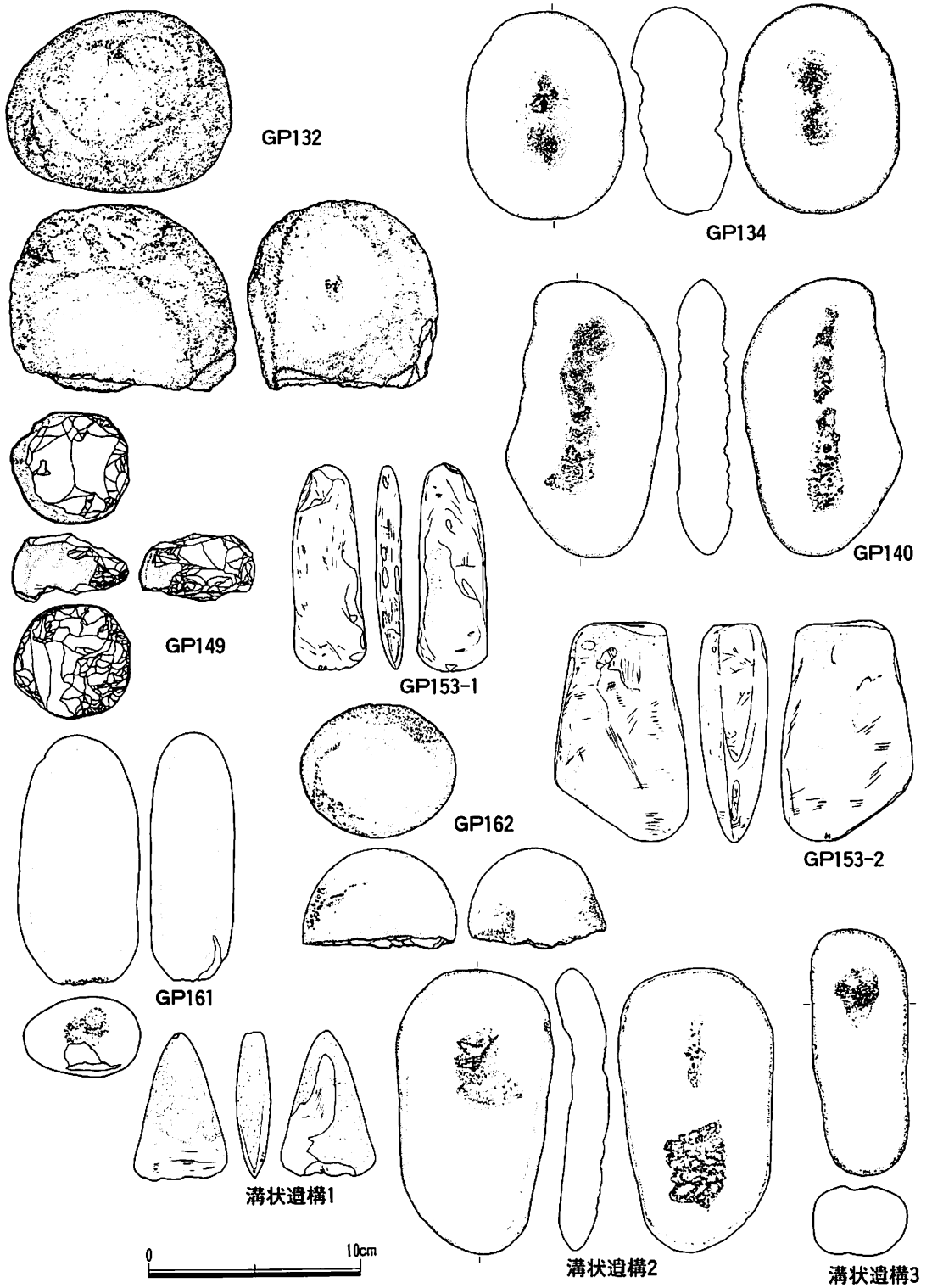


Fig. 86 沢町遺跡墓塚 (G P-132・134・140・149・153・161・162) 及び溝状遺構出土の掘石・凹石・石斧・敲石

の出土位置から考えて東頭位である。出土の玉9点のうち、6点はヒスイとみられるが風化がひどいものが多い。他の3点は緑色系の蛇紋岩とみられる。

GP63 A群に属する小型ピットである。Fig. 77に図示した勾玉は緑がかったクリーム色の蛇紋岩あるいは滑石とみられる。GP63からはこの玉以外の遺物は皆無であった。小型のピットから、このようなりっぱな勾玉が出土したということは、おそらく集団における有力者の子供等ではなかったかと推察される。

GP64 A群でも最小のピットである。Fig. 81の敲石と他に礫1点が出土したのみである。

GP65 A群に属する小型ピットである。出土遺物は皆無であった。

GP66 同じくA群に属する小型ピットである。GP65に接している。こちらも出土遺物は皆無であった。

GP67 A群に属する中型ピットである。上部は削平のため失なわれており浅い。図示した遺物はないが、Ⅵ群b類土器等出土している。

GP68 A群の中央部に位置する中型のピットである。浅く遺物は少ない。

GP69 A群に属する中型のピットである。壙底部からはベンガラが確認された。Fig. 63のGP69-1~3が出土土器の図示したものである。Ⅵ群a類とみられる。2・3は同一個体である。

GP70 A群に属する中型のピットである。Fig. 32のように壙底部からはベンガラが確認された。東西に長いピットである。玉の出土位置から考えると東頭位とみられる。Fig. 64が図示した土器である。Fig. 81が握石である。他に円礫2点、黒曜石の円礫1点があり、これらが残り1点の握石である可能性もある。Fig. 77のGP70-1がⅠ群a₃類の石鏃、GP70-2~21が玉である。合計23点の玉が出土したが、うち20点の玉を図示した。このうち、GP70-2・3等、6・7点がヒスイであり、残りは蛇紋岩・橄欖岩等である。図示しなかった玉は、風化し、砕けているもの等である。図示しなかったが朱漆塗りの櫛の断片と思われるものが1点出土している他、多数のⅥ群土器が出土した。

GP71 A群に属し南北に長い小型ピットである。図示した遺物はない。

GP72 A群に属する中型のピットである。長軸はほぼ南北である。南側の壙底部からはベンガラが確認された。Fig. 32の図のようにGP72からは多くの遺物が出土した。Fig. 53のGP72-1は、ところどころに赤色顔料をとどめる土器である。特に底部裏面は真赤である。Fig. 64のGP72-2~6は大型土器の破片である。GP72-3~6が同一個体とみられる。Fig. 82がGP72出土の石器である。出土遺物から被葬者が男性であった可能性が高い。GP72-1が球状の敲石で、2~6が石斧である。7が大型の砥石である。他に錆化した握石をはじめ多数の遺物が出土している。

GP73 A群に属する中型のピットである。長軸は東西、玉の出土位置から東頭位とみられる。Fig. 32のように壙底部からはベンガラが確認された。Fig. 53のGP73-1はⅥ群a類、

Fig. 65のG P 73-2~7も同様である。2・3と6・7はそれぞれ同一個体である。Fig. 83は、みごとに整形された握石である。究極の握石といった感がある。全面ベッキングされているが、その窪みにベンガラが付着している。元米赤色されていたものか、あるいは墳底部に撒かれたベンガラによって赤化したものであろう。Fig. 78のG P 73-1はⅢ群c₂類の削器である。G P 73-2~24が伴出の玉である。図示していない玉1点を加えて24点出土した。いずれもベンガラが染み込んだためか若干赤っぽい。図示していないが他に欠損している石鏃1点や多数の土器等が出土している。

G P 74 A群に属する中型のピットである。長軸は東西、墳底部からはベンガラが確認された。礫・岩偶等は覆土上部より出土 (Fig. 32) した。Fig. 65が出土のⅥ群a類土器、Fig. 83がYの字形を呈する岩偶とみられる。Fig. 32の図のように4点の礫とともに出土しており、葬送儀礼における最終段階において行なわれた儀礼の結果残されたものであろうと推察する。

G P 75 A群に属する中型のピットである。長軸は東西、墳底部からはベンガラが確認された。Fig. 65のG P 75-1~3はⅥ群である。Fig. 83のG P 75-1はⅦ群a₂類の敲石、G P 75-2は凹石、G P 75-3は握石である。他に図示しなかった握石がもう1点ある。

G P 76 A群に属する中型ピットである。東西に長いプランを呈する。Fig. 83が握石である。他に図示していないが握石がもう1点ある。褐鉄鉱あるいは鈴石様のもので錆化がはげしく、取り上げの際は土ごと取り上げた。Fig. 78の玉は蛇紋岩製で大型である。

G P 77 A群に属する比較的大きなピットである。墳底部西側からはベンガラが確認された。Fig. 83は握石である。石英に褐鉄鉱が付着している部分を利用し整形したものであり重い。

G P 78 A群に属する中型のピットである。長軸は東西、墳底部はほぼ全面ベンガラで覆われていた。Fig. 53のG P 78-1~3が伴出した土器である。いずれもⅥ群a類土器とみられる。Fig. 78がⅠ群a₃類の石鏃である。他に錆化した握石1点等が出土している。

G P 79 A群に属する中型ピットである。東西が長いプランを呈する。Fig. 55のG P 79-1は底部、Fig. 65のG P 79-2は無文の口頸部~胴部破片である。Fig. 78はⅠ群a₃類の石鏃である。

G P 80 A群の中央部に位置する大型のピットである。今回の調査区で検出された墓墳のうち最大の規模を有する。Fig. 34のように覆土中部よりベンガラ、上部からは1,000点を超える夥しい数の遺物が出土した。出土した遺物の主たるものは土器である。Fig. 55のG P 80-1、Fig. 66のG P 80-2~19がその主なものである。6はⅥ群a類に近いが、他はすべてⅦ群b類である。G P 80-2~4、8・9、10~15、17・18はそれぞれ同一個体である。Fig. 84のG P 80-1は敲石 (Ⅶ群a₂類)、G P 80-2・3は握石である。Fig. 78のG P 80-1は石鏃 (Ⅰ群a₁類)、G P 80-2~9は玉である。合計9点出土したが、1点は図示しなかった。全点ヒスイとみられるが、うち3点は風化が著しい。規模も最大であったが出土遺物も最多の墓墳であった。墓墳の南・東・西の各方向に2個一対とも考えられる柱穴様の小ピットが6個確認された。

上屋構造を伴う墓域であったとも考えられる。また、玉の出土位置が3ヵ所に別れているため、合葬墓である可能性もある。これは規模の大きさからも言えることであろう。

GP81 A群に属する中型のピットである。出土遺物は少ない。図示した唯一の遺物がFig. 84のGP81-a・bである。これを同一の握石を表と裏から図化したものであり、握石の出土は1点のみである。

GP82 A群に属する中型のピットである。長軸は南北、遺物は少なかった。図示した遺物はないがVI群b類土器等が出土している。

GP83 A群の中央部に位置する小型ピットである。墳底部にはベンガラが認められた。遺物は非常に少なかった。

GP84 D群の中央部に位置する中型のピットである。東西に長いプランを呈する。Fig. 55がVI群の復原土器である。Fig. 78のGP84-1~3は玉である。いずれも橄欖岩製とみられる。他に石鏃の欠損品やV・VI群土器の破片が覆土中より出土している。

GP85 D群に属する中型のピットである。長軸は東西、西側は攪乱のため失われている。Fig. 66が図示遺物の唯一のものである。V群a類土器である。他に覆土中よりV・VI群土器が出土している。

GP86 D群に属する中型ピットである。東西に長いプランを有する。Fig. 55のGP86-1は無文の底部有孔土器である。Fig. 67のGP86-2~6のうち2・3は同一個体である。5はVI群b類他はすべてVI群a類土器である。図示していないが錆化した握石及び円礫が各1点ある。したがって、これらが2コ一組の握石であったと考えられる。Fig. 78の玉はヒスイ製である。非常に美しい緑色の玉である。一方向穿孔によるものである。

GP87 A群に属する中型ピットである。長軸は東西、墳底部は一面ベンガラに覆われていた。遺物は少なく、図示していないが、握石と礫が出土したのみである。

GP88 D群の中央部に属する隅丸方形様の小型のピットである。図示した遺物はないが、V群・VI群土器が覆土中より出土している。

GP89 D群に属する円形の小型ピットである。図示遺物はないがV・VI群土器が覆土中より出土している。

GP90 D群の北側に所在する楕円形の小型ピットである。Fig. 67に図示した土器はV群b類土器とみられ、覆土中から出土した。他に図示していないがVI群a類土器等が出土している。

GP91 D群に属する楕円形の小型ピットである。Fig. 55はVI群a類土器の底部破片である。他に図示した遺物はない。

GP92 D群に属する円形で小型のピットである。Fig. 67はVI群b類土器である。Fig. 78はII群b類の石錐である。

GP93 D群に属する円形の小型ピットである。図示した遺物はないが、VI群土器等が出土している。

GP94 D群に属する楕円形の中型ピットである。Fig. 55のGP94-1・2はVI群a類土器の底部破片、Fig. 67のGP94-3はV群c類土器、GP94-4はVないしVI群土器の底部破片である。Fig. 84はV群a₁類の石斧である。安山岩であり石斧としては稀な石質である。他にV群a・b類、VI群a類等の土器が出土している。

GP95 D群に属する中型ピットである。長軸の両端部が攪乱によって失われている。Fig. 55のGP95-1は底部破片、Fig. 67のGP95-2～6のうち4～6が同一個体である。図示しなかったが石鏃・石斧の欠損品や握石・凹石が各1点ずつ出土している他、多数の土器が出土している。

GP96 D群に属し発掘区ぎりぎりのところに所在する歪な中型のピットである。Fig. 67のGP96-1・2はVI群a類、GP96-5はV群a類土器である。Fig. 78はI群a₃類の石鏃である。

GP97 D群に属する歪な中型のピットである。若干東西に長い。Fig. 67のGP97-1～4のうち1は無文、2・3はVI群b類土器とみられる。

GP98 D群に属する楕円形の中型ピットである。Fig. 55のGP98-1はVI群a類土器、Fig. 67のGP98-2は無文のVI群土器である。

GP99 F群に属する小型のピットである。基盤が凝灰岩質砂岩のため坑底部は凹凸が激しい。Fig. 68のGP99-1・2はVI群土器で同一個体である。

GP100 D群の西のはずれに位置する。GP136によって東側を若干切られている。歪な小型のピットである。Fig. 68のGP100-1・2は同一個体、1・2・3はVI群a類とみられる。4・5は無文土器、7は底部穿孔土器とみられる。穿孔部破片をかなり時間をかけてさがしたが、みつからなかった。Fig. 78はI群a₃類の石鏃である。他に図示していないが、握石が2点と特に、フレーク・チップが多数出土している。

GP101 F群に属する楕円形の小型ピットである。Fig. 55のGP101は無文、同じく2はVI群a類土器、Fig. 68のGP101-4～6は同一個体である。7はV群c類土器である。Fig. 84は凹石である。

GP102 D群のほぼ中央部に所在する中型のピットである。長軸は南北軸にほぼ対応している。Fig. 69のGP102-1はV群b類、同じく2はVI群a類、3・4もVI群土器とみられる。Fig. 78のGP102-1はI群a₃類の石鏃、同じく2はヒスイとみられるが相当風化している。他に図示していないが多数の土器が出土している。

GP103 F群に属する小型のピットである。南北に長いピットである。Fig. 78は土製の玉である。石製の玉を模倣して制作したのであろうか。

GP104 F群に属する小型のピットである。楕円形のプランを有し、南北に長い。Fig. 69はVI群b類土器である。

GP105 F群に属する小型のピットである。遺物は少なく図示遺物はない。

GP106 D群に属する小型のピットである。Fig.69のGP106-1~5が図示遺物である。いずれもⅥ群土器であるが3・4はa類、5はb類とみられる。Fig.78は基部を若干欠いているⅠ群a₃類の石鏃である。Fig.84は凹石である。

GP107 D群の中央部にあり、溝状遺構によって切られている。出土遺物は少ないがFig.55は弧線文や「S」・「C」が主体となるきわめて特徴的な土器である。両口状(?)になっているが有孔であり紐を通したとみられるので、口ではない。実用品ではないと推察される。

GP108 D群の北側に所在する小型のピットである。プランは楕円形、東西に若干長いプランを有する。Fig.78が唯一の図示遺物である。Ⅰ群a₃類の石鏃である。Fig.41のように大型の礫2点と骨片(第8章第4節)あるいはⅥ群土器等が出土している。

GP109 D群に属し西側が攪乱によって失われている円形の中型ピットである。Fig.55は無文である。図示していないがⅥ群土器が出土している。

GP110 D群に属する円形の小型ピットである。Fig.69のGP110-1~4が出土土器である。2はⅤ群b類土器、3・4はⅥ群b類土器で同一個体である。Fig.78は大型の土玉である。下部を若干欠いている。模造品とみられる。他にⅥ群土器が出土している。

GP111 D群に属する小型のピットである。半分程が発掘区外にかかっている。全容は不明であるが、楕円形のピットとみられる。Fig.56のGP111-1は異形土器の中間部分の破片とみられる。パーベル様の複雑な形状を呈する土器とみられる。「X」字状の文様によって構成されている。同じく2は無文土器である。Fig.70のGP111-3はⅤ群a類土器、5はⅤ群c類土器、4・6~9はⅥ群a類等とみられる。尚、8・9は同一個体である。他にⅥ群土器が多数出土している。

GP112 D群に属する小型のピットである。東西に長いプランを有する。Fig.70のGP112-1・2はⅥ群土器とみられる同一個体である。Fig.84はⅤ群a₁類の石斧である。

GP113 D群に属する小型のピットである。図示した遺物はないが、Ⅵ群a類土器等が出土している。

GP114 D群に属する小型のフラスコ状ピットである。Fig.70のGP114-1はⅥ群b類、2~4はⅥ群a類、3・4と7~10はそれぞれ同一個体である。Fig.78はⅠ群a₃類の石鏃である。

GP115 D群に属する中型のピットである。GP129・130を切っている。長軸は南北で墳底部中央からはベンガラが確認された。図示していないがⅥ群土器等も出土している。

GP116 D群に属し、GP124によって切られている小型のピットである。Fig.71のGP116-1・2はⅥ群b類、3はⅥ群a類土器である。他に覆土中よりⅥ群土器が比較的多く出土している。またⅤ群a類土器も1点みられる。

GP117 D群の北側に位置する円形の中型ピットである。Fig.71はⅥ群土器、Fig.78はⅣ群b類のスクレイパーである。

GP118 D群に属する小型のピットである。南北に長い楕円形を呈している。Fig.71はⅥ群b類ないしはⅤ群a類土器の底部とみられる。Fig.78はⅠ群a₃類の石鏃であるが刃部は五角形に近い形状を呈している。

GP119 D群に属する楕円形の小型ピットである。D群中最も北側に位置する。図示した遺物はないがⅥ群b類土器等が出土している。

GP120 D群に属する小型のピットである。歪な楕円形で東西に長い。出土遺物は少ないが唯一の図示遺物がFig.71のⅥ群土器である。

GP121 D群に属する中型のピットである。城底部からはベンガラが確認された。Fig.71はGP121-1・2はⅥ群土器、Fig.85のGP121-1はⅩ群a₂類の大型砥石、2は握石である。

GP122 D群に属する中型のピットである。北側部分は攪乱の為半分ほどを失なっている。Fig.56はⅥ群の無文土器、Fig.78のGP122-1～5は蛇紋岩質の玉である。うち3は風化し白色化している。他にⅥ群土器等図示しなかった多数の遺物が出土した。

GP123 D群に属する小型のピットである。発掘区外に半分ほどかかっているため全掘していない。出土遺物は少ないが覆土中よりⅥ群b類ないしはⅤ群a類土器の破片が出土している。

GP124 D群に属しGP116を切っている小型ピットである。Fig.71のGP124-1～3はⅥ群土器である。他に図示していないがⅤ群土器等も覆土中より出土している。

GP125 D群に属する小型ピットである。半分以上は発掘区外にかかっている。出土遺物は少なく図示したものは無い。

GP126 D群に属する楕円形の小さいピットである。出土遺物は非常に少ない。

GP127 D群に属する中型のピットとみられる。発掘区外のため1/3程しか掘っていない。出土遺物は少ない。

GP128 F群に属する五角形に近い形状を呈する中型のピットである。出土遺物は非常に少ない。**GP129** D群に属する小ピットである。GP115によって切られている。出土遺物は皆

GP129 D群に属する小ピットである。GP115によって切られている。出土遺物は皆無であった。

GP130 D群に属する小ピットである。GP129と同様、GP115によって切られている。Fig.71のGP131-1はⅥ群b類、2はⅥ群a類土器とみられる。

GP131 E群に属する楕円形の中型ピットとみられる。1/3ほどが発掘区にかかっており全掘していない。Fig.56・71が出土の土器である。GP131-2・3はⅥ群b類とみられる。

GP132 E群に属する中型のピットである。南北に長い若干歪なプランを有する。Fig.86は大型の握石である。図示しなかったが他にⅥ群土器が出土している。

GP133 E群に属し、GP147によって切られている楕円形の小型ピットである。Fig.72のGP133-1・2、3・4はそれぞれ同一個体である。いずれもⅥ群土器である。GP133-5はⅥ群b類土器とみられる。

GP134 E群に属しGP147を切っている。プランは概ね円形、小型のピットである。Fig.72のGP134-1・2がその出土遺物である。いずれもⅥ群土器とみられる。Fig.86はⅥ群b類の凹石である。

GP135 E群に属する歪な小型ピットである。図示した遺物は皆無であるがⅥ群a類土器等が出土している。

GP136 D群に属しGP100を切っているものと考えたが疑問である。遺物はGP100として取り上げたものであり、GP136の遺物は存在しない。同一のピットである可能性もあるが不明である。

GP137 D群に属する円形の小型ピットである。出土遺物は少ないがⅤ・Ⅵ群土器が出土している。

GP138 D群に属する小型のピットである。北側部分の一部が攪乱によって失われている。Fig.72のGP138-1はⅥ群土器の底部破片、2はⅥ群a類土器である。図示していないが他に多数のⅥ群土器が出土している。

GP139 E群に属する小型のピットである。東西に若干長く楕円形を呈する。Fig.72のⅥ群土器が唯一の図示遺物である。

GP140 E群に属する中型のピットである。Fig.56のGP140-1とFig.72のGP140-2は無文土器である。3・4はⅥ群a類土器とみられる。Fig.79はⅡ群b類の石錐とみられる Fig.86はⅥ群b類の凹石である。

GP141 E群に属する中型ピットであるが、発掘区外に半分程がひっかかっているため完掘していない。Fig.56のGP141は注口部である。男性シンボルそのものである。Fig.79の石鏃はⅠ群a₃類である。

GP142 E群に属する円形の小型ピットである。多くの遺物が出土した。Fig.57のGP142-1・2はⅥ群の鉢形土器である。3は高台の破片、Fig.72のGP142-4は無文、5はⅥ群a類土器とみられる。他に多くのⅥ群土器が出土している。

GP143 E群に属する小型のピットである。ピット南側からは骨片と炭化物の集中が認められた。葬送儀礼にかかわるものとみられる。Fig.57のGP143-1・Fig.72のGP143-2～4は、いずれもⅥ群土器とみられる。Fig.79は耳栓である。上面及び側面から穿孔されているが繋っていない。

GP144 E群に属する円形の小型ピットである。Fig.72のGP144-1～3はいずれもⅥ群a類土器とみられる。他にⅥ群a・b類の土器が多数出土している。

GP145 D群の西側に所在する円形の小ピットである。Fig.72が唯一の図示遺物である。他にⅤ群a類土器も覆土から出土している。

GP146 E群に属する小型ピットである。基盤の凝灰質砂岩の層を掘り込んでいるため坑底部は凹凸がはげしい。出土遺物は皆無であった。

GP147 E群に属しGP134によって切られている円形に近い小型のピットであったと推察される。Fig.72のGP147-1・2が図示した土器である。1はV群a類、2はVI群土器である。他にVI群b類土器が出土している。

GP148 D群に属する小型のピットである。東西に若干長い楕円形のプランを呈す。Fig.72はVI群b類土器である。

GP149 E群に属する中型ピットである。Fig.57のGP149-1・Fig.73のGP149-2～5はいずれもVI群土器である。Fig.86は小型の握石である。

GP150 E群に属する小型ピットである。Fig.58のGP150-1・2、Fig.73のGP150-3・4はいずれもVI群a類土器とみられる。

GP151 D群に属する中型のピットである。Fig.73はV群b類土器とみられる。他にVI群土器が若干出土している。

GP152 群外として分類した。E・F・G群の中間地点に位置するやや歪なプランを呈する中型のピットである。Fig.58のGP152-1とFig.73のGP152-2・3が図示遺物である。いずれもVI群土器である。

GP153 G群に属する小型のピットである。Fig.73のGP153-1～5はVI群土器である。Fig.86のGP153-1・2はV群a₁類の石斧である。

GP154 E群に属する小型のピットである。出土遺物は非常に少ないがV群b類の破片等が覆土中より出土している。

GP155 E群に属する小型のピットである。Fig.73はVI群b類土器である。

GP156 E群に属する楕円形の小型ピットである。Fig.73のGP156-1・2はVI群b類土器である。

GP157 G群に属する中型のピットである。非常に多くの遺物が出土した。Fig.58のGP157-1、Fig.73のGP157-2～15が図示遺物である。2～4がV群、1と5～15がVI群土器である。2はV群a類、3・4はV群c類、15は底部外面が同心円状の文様を構成するものとみられる。

GP158 G群に属する中型のピットである。東西に長いプランを有する。Fig.58のGP158-1～3、Fig.74のGP158-4～23が図示した土器である。このピットからも多くの遺物が出土した。1・4はV群c類土器、他はVI群土器である。6・7、10・11、17・18、21・22はそれぞれ同一個体である。

GP159 G群に属する小型のピットである。Fig.58はVI群土器の底部破片である。Fig.79は有孔の土製品である。有孔とはいえ穴は貫通していない。

GP160 G群に属する小型ピットである。東西に若干長いプランを呈する。Fig.74のGP160-1・2はVI群b類土器である。他に握石が1点出土している。

GP161 G群に属する中型のピットである。多くの遺物が出土している。Fig.58のGP161-1は注口部である。Fig.75のGP161-2・4はV群b類、3はV群a類、5～13がⅥ群c類土器とみられるが7・8はⅥ群a類よりも先行するものであるかもしれない。7・8は同一個体である。Fig.79は玉である。橄欖岩製とみられる。Fig.86はⅦ群a₁類の敲石である。

GP162 G群に属するピットである。調査員の不手際により遺構を壊してしまった。したがってプランは不明である。Fig.86は握石である。唯一の図示遺物である。他に石鏃の欠損品が出土しているのみである。

GP163 A群の最も北側に位置する小型のピットである。Fig.58は唯一の図示遺物でⅥ群土器である。

第4節 溝状遺構

位置的にはD群墓塚の中央部に所在する。やや「L」字状を呈している。本遺構からは礫62点、土器2,016点、フレイク・チップ307点という非常に大量の遺物が出土した。これはほとんどが廃棄されたものであると考えられる。遺構構築の際の目的と後の使用目的とは異なっていたと考えられる。Fig.49のセクションをみてもわかるように自然堆積である。埋め戻した形跡等は認められない。このようなことも本遺構の性格を決定づける重要な要因であると推察される。

Fig.75の1～6が本遺構出土の主要な土器である。4はV群、他はⅥ群土器である。前述したように2,000点を超える土器が出土しているがほとんどのものは磨滅している。Fig.79はI群a₃類の石鏃、Fig.86の1はV群a₂類の石斧である。2・3はⅦ群b類の凹石である。

第5節 土 壙 (UP-1)

Fig.50は性格不明の土壙である。位置的にはD群墓塚の中央部にあり、また時期的にも墓塚と同時期ないしはそれに接近するものとみられる。出土した157点の礫を接合した結果6・7点の大型礫になった。焼けているものが多く、遺構の性格の一端を示しているように考えられる。

Fig.50の左図が検出当初の状況で、中図は上部の礫を実測後、除去し主な礫を残した状態で再実測したものである。右図は礫取り上げ後のUP-1のエレベーションである。

第6節 地床炉

今回の発掘区から地床炉とみられる焼土が5ヵ所検出(Fig.13)された。いずれも30～50cmの比較的小さなものである。FP-1はE25Grid、FP-2はF25Grid、FP-3はJ34Grid、FP-4はI35Grid、FP-5はE23Gridからそれぞれ検出された、FP-5はC群墓塚、

FP-1・2はD群墓域、FP-3・4はG群墓域にそれぞれ伴うかのごとく位置する。おそらく葬送儀礼等にかかわる炉であったと類推される。どのような火にかかわるセレモニーがとり行なわれたのであろうか。きわめて興味深い。 (宮)

第6章 遺構外出土の遺物

第1節 土 器

Ⅳ群 a 類 44・45が当該土器とみられる。いずれも波状口縁を呈する。

Ⅳ群 b 類 2・53が当該土器とみられる。いずれも平縁である。

Ⅴ群 a 類 54～78が当該土器あるいは、その前後のものともみられる。63・64は同一個体で押引きによるものである。65～67は貼付帯上に縄線文を施すもの、68～71は1～3条の縄線文が口縁部に巡っているものである。72・73も同一個体で、口唇部を折りまげている。口唇部は無文である。74・75と76・77もそれぞれ同一個体であり、74・75は無節である。74～78は、いずれも口唇部に胴部と同じ縄文が施されている。

Ⅴ群 b 類 1・3・4・47～52が当該土器とみられる。1は網目状撚糸文でボタン状の貼付を有する。48・49は同一個体とみられる。50・51は異個体であるが同様な文様モチーフである。

Ⅴ群 c 類 79～89が当該土器とみられる。また、5～11・35～43等も縄文後期後葉～晩期前葉のもので近接するものであろう。35～43は男性自身をシンボライズしている注口部である。79・80は同一個体である。81・83～85はI O突瘤文が付きぬけている。88・89は突瘤文をつまんでいいる。89は、さらに沈線を突瘤文の上、口唇部近くに施している。90・91は突瘤文が失われたステージのものともみられる。非常に段階的であり、時間の経過を追うことができる興味深い資料である。突瘤文が残存する段階までを、一応縄文後期と考えた。

Ⅵ群 a 類 12・13・23・34・92～122が当該土器とみられる。13は弧線文下に刺突が施されており、よりⅥ群 b 類土器に近い特徴を有している。23は底部下面が渦巻状を呈している。24はどのような土器の底部か不明であるが、いずれにしても23と同様な土器と推察される。こちらは同心円状の沈線が施されている。93は、どのような器形の、どのような部分なのか明確でない。97・98は同一個体である。105は互いに向きあう2本の弧線をモチーフとしている。ヌサマイ式土器に通じる文様構成である。34は蓋付土器の蓋の把手部分とみられる。有孔であり非常に細かな縄文が施されている。非常に稀な出土例かと思われる。

Ⅵ群 b 類 17～20, 90・91, 123～158は爪形・刺突・断続沈線・押引等の文様が主体的である。17～19は同一個体である。20は底部有孔の当該土器である。21・22等もⅥ群 a 類あるいは b 類のどちらかのものかと思われる。底部有孔土器はどのような考えの下に製作されたのか、あるいは、どのような用途のものであったのか不明であるが、実用品ではなさそうである。156及び157は同一個体である。口縁部文様帯の最下部に刺突文が残存している。本類土器はⅥ群 a 類土器とともに本遺跡の主体的な土器であり、本遺跡を代表する土器といえよう。

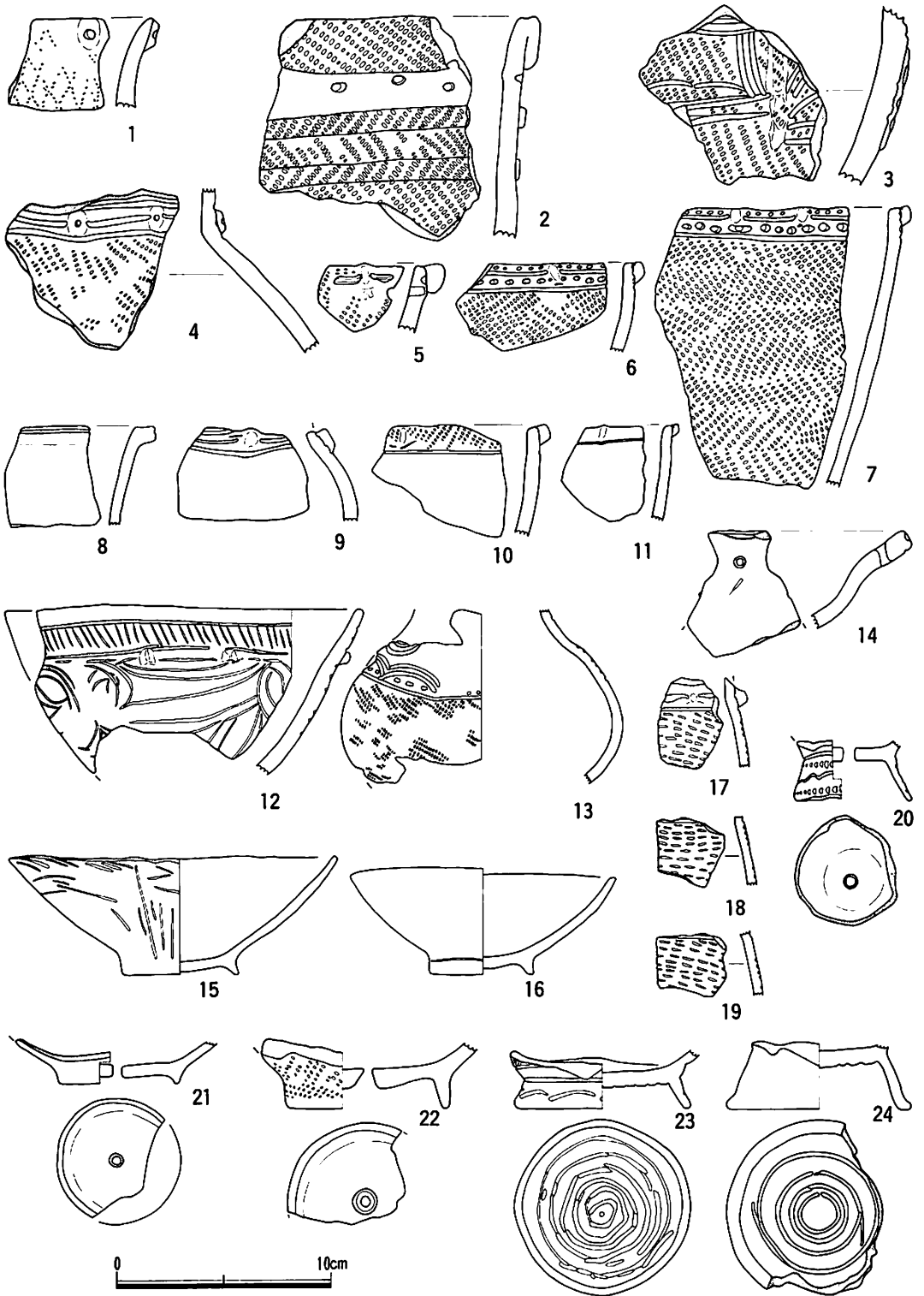


Fig. 87 沢町遺跡遺構外出土のIV~VI群土器 (1~24)

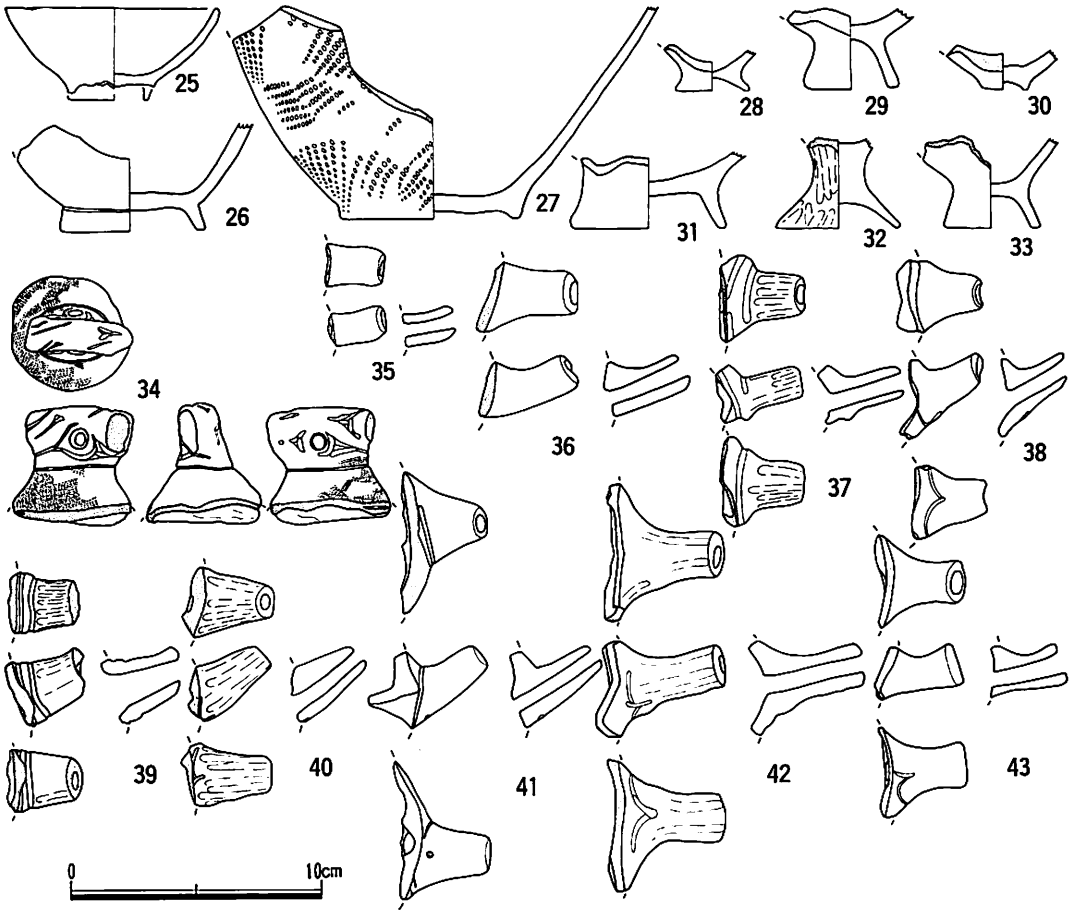


Fig.88 沢町遺跡遺構外出土のV・VI群土器 (25~43)

159~162はVI群 a類あるいはb類のいずれかでなければ、若干後出のものとみられる。165は引っかき傷のような文様を口縁部に巡らせているものである。器厚等からもVI群土器とみられる。164はVI群 b類土器に後続のものかと思われる。166~209は縄文のみが施されるものである。185・189には補修孔が認められる。193~195は非常に細かい縄文が施されている。194・195は同一個体である。204~209は口唇部が小さな波状を呈する。いずれもVI群 a類あるいはb類のどちらかに伴うものとみられる。

210~232は無文土器である。碗形の土器が多いようである。211~213は片口土器の片口部あるいは片口部に近い部分の破片とみられる。214は深めの碗、215は袖珍土器の破片とみられる。これらの無文土器は総て縄文時代晩期前葉のものとみられる。

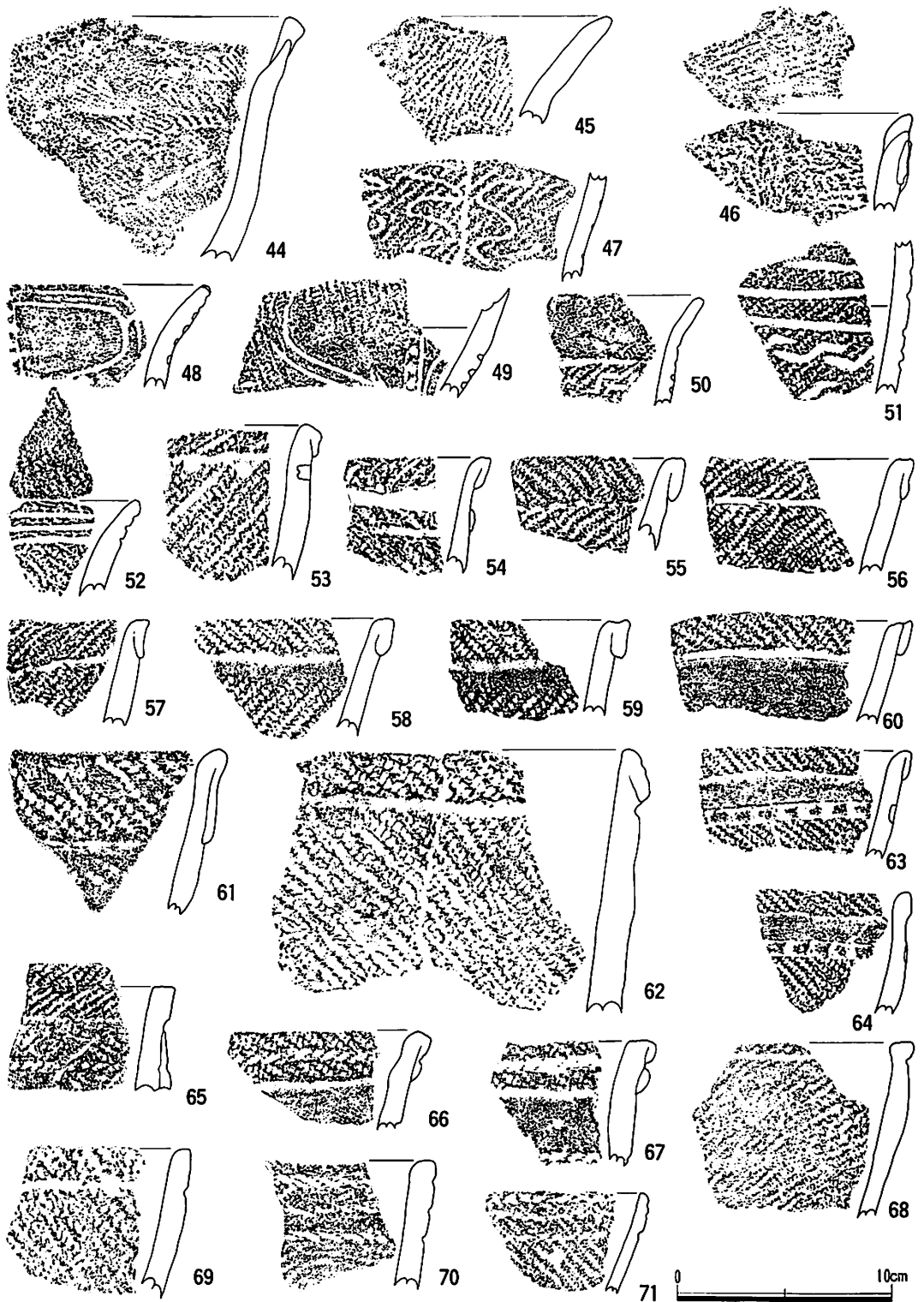


Fig. 89 沢町遺跡遺構外出土のⅣ・Ⅴ群土器 (44~71)

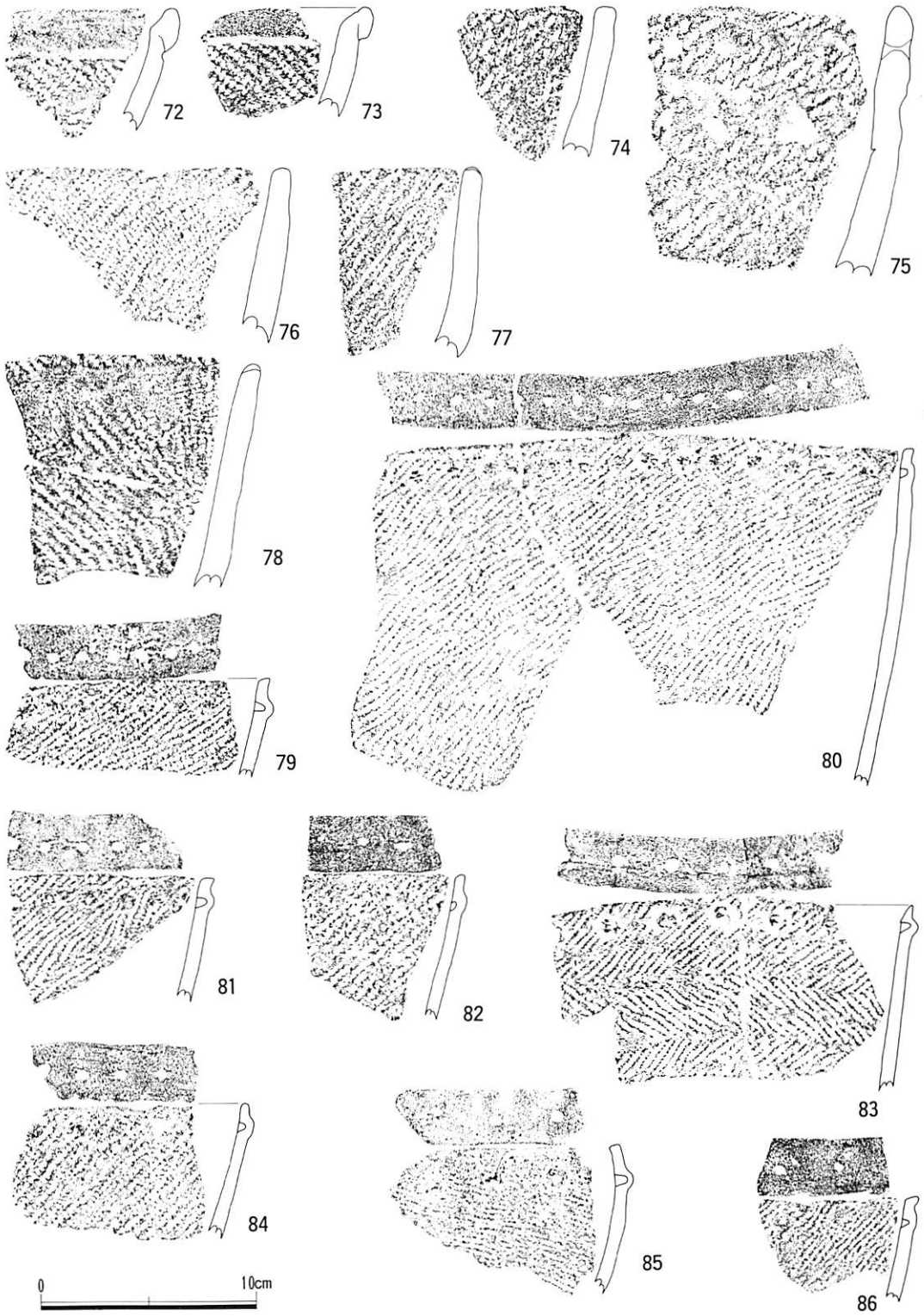


Fig. 90 沢町遺跡遺構外出土のV群土器 (72~86)

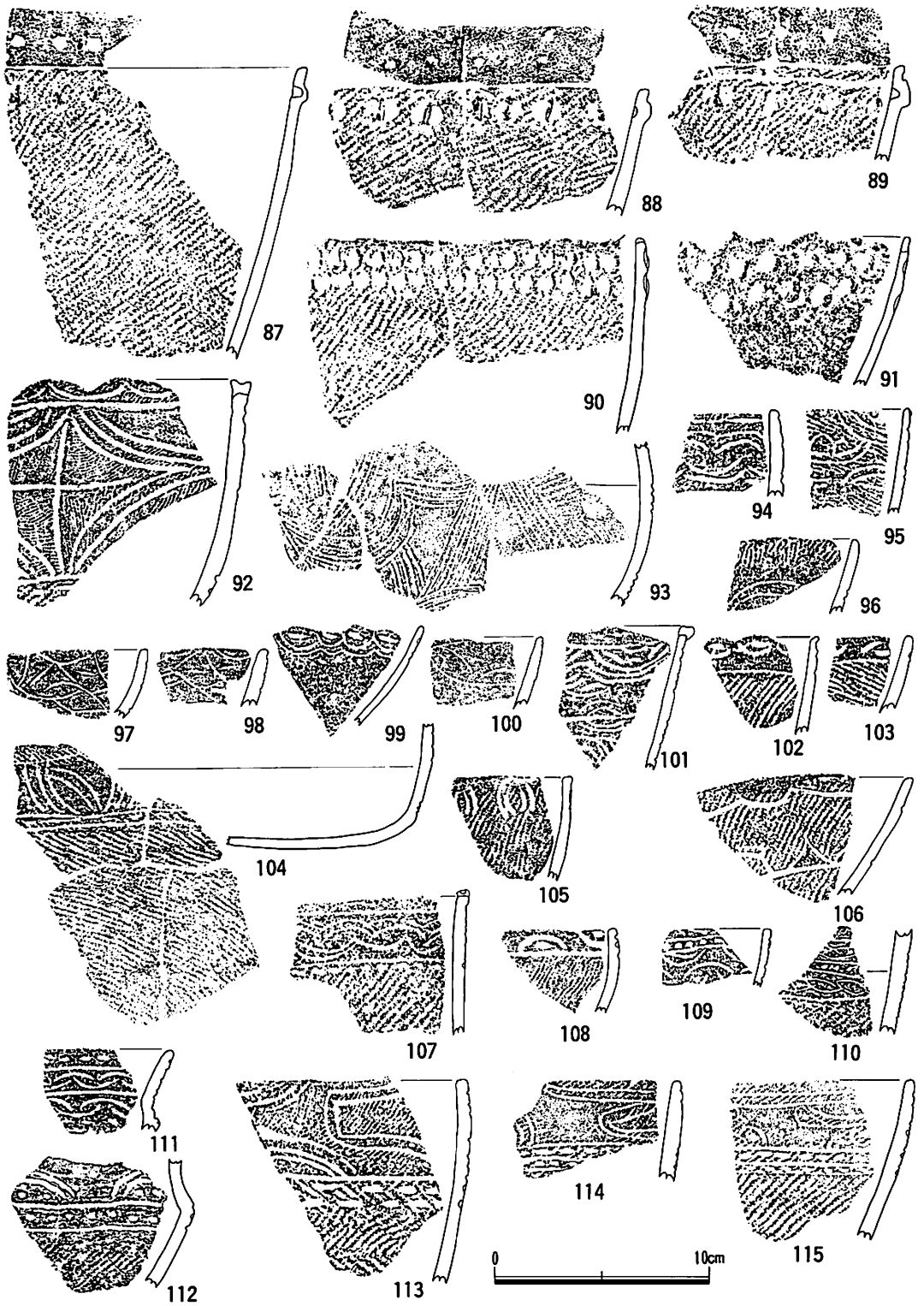


Fig. 91 沢町遺跡遺構外出土のV・VI群土器 (87~115)

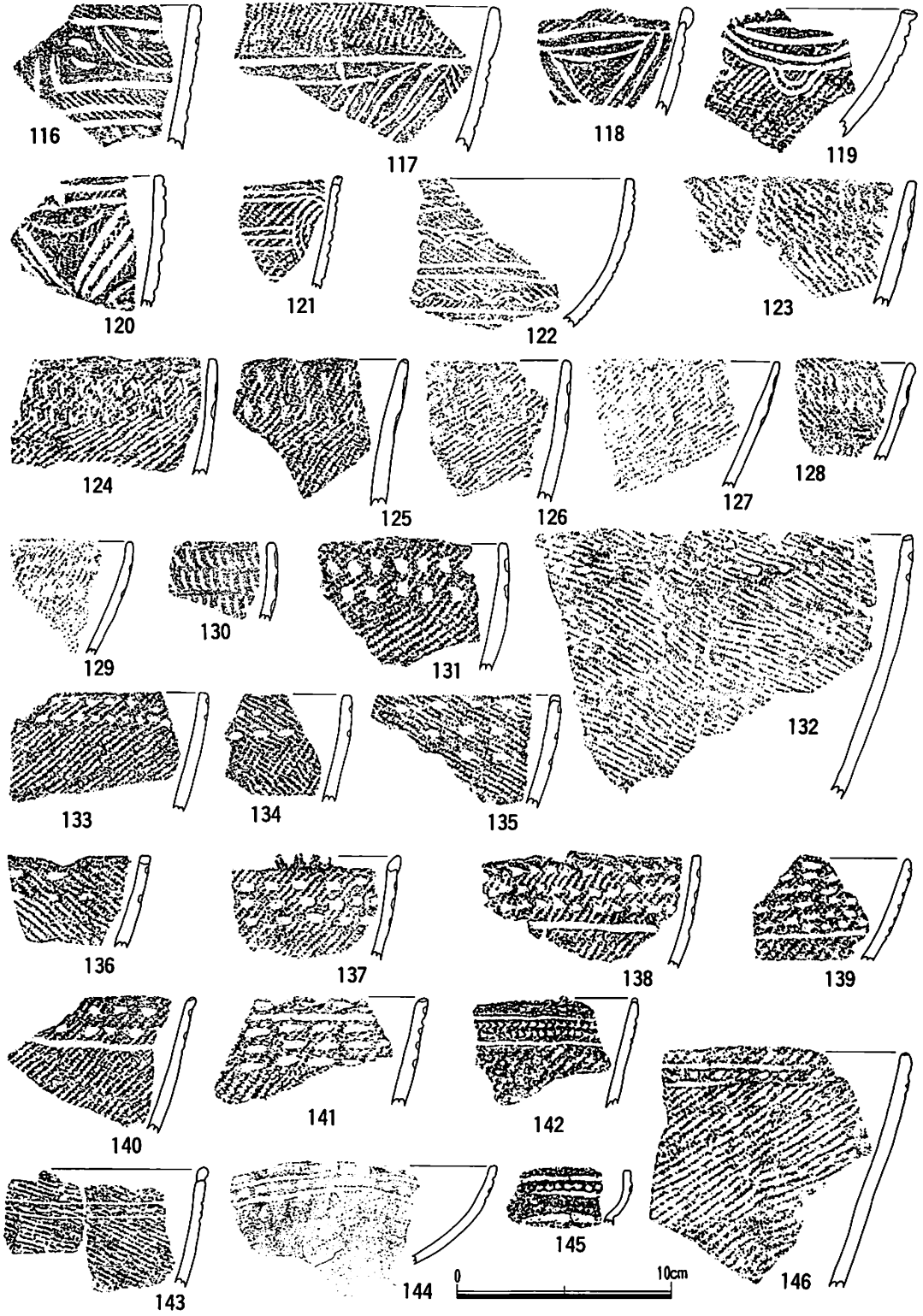


Fig. 92 沢町遺跡遺構外出土のⅣ群土器 (116~146)

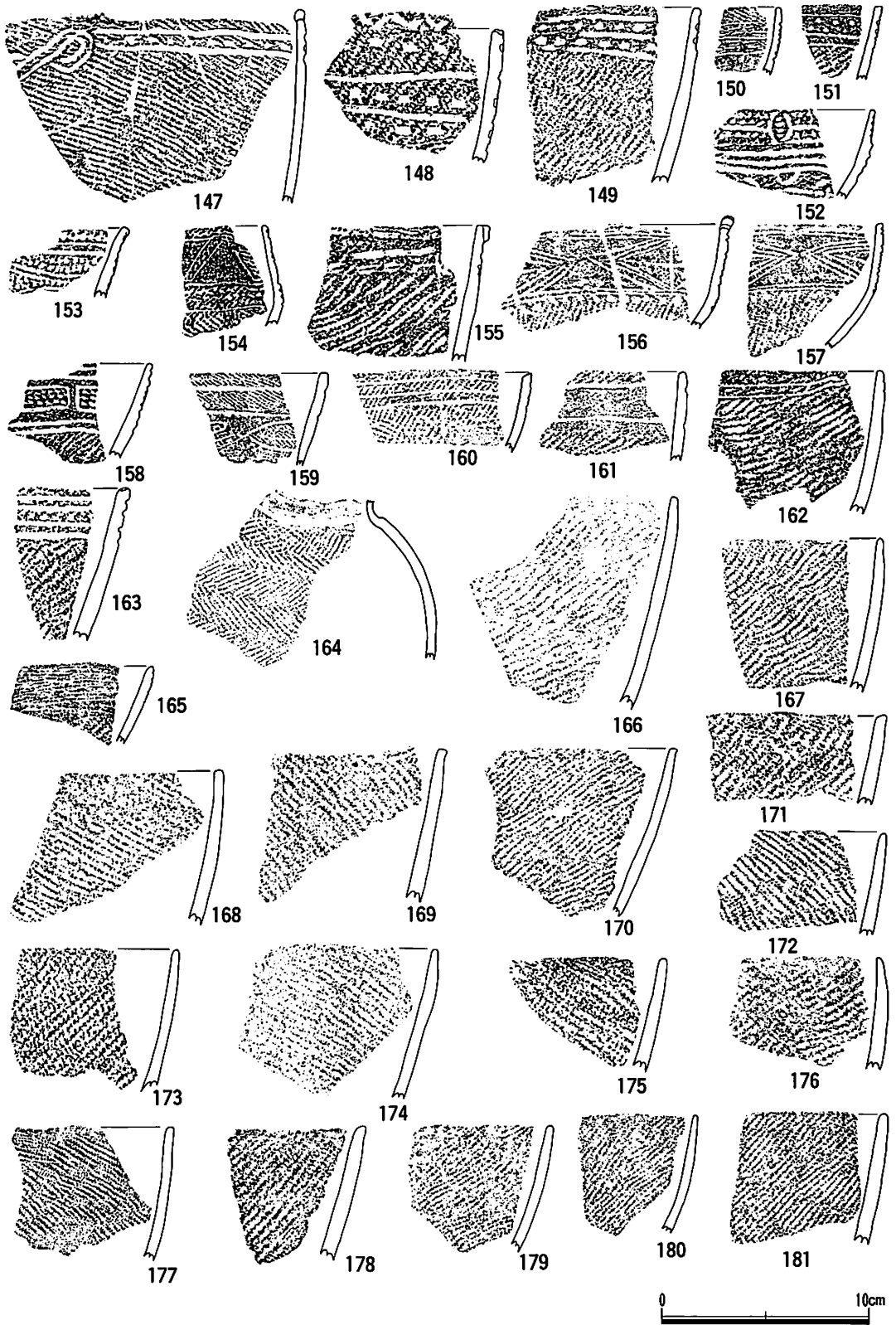


Fig. 93 沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器 (147~181)

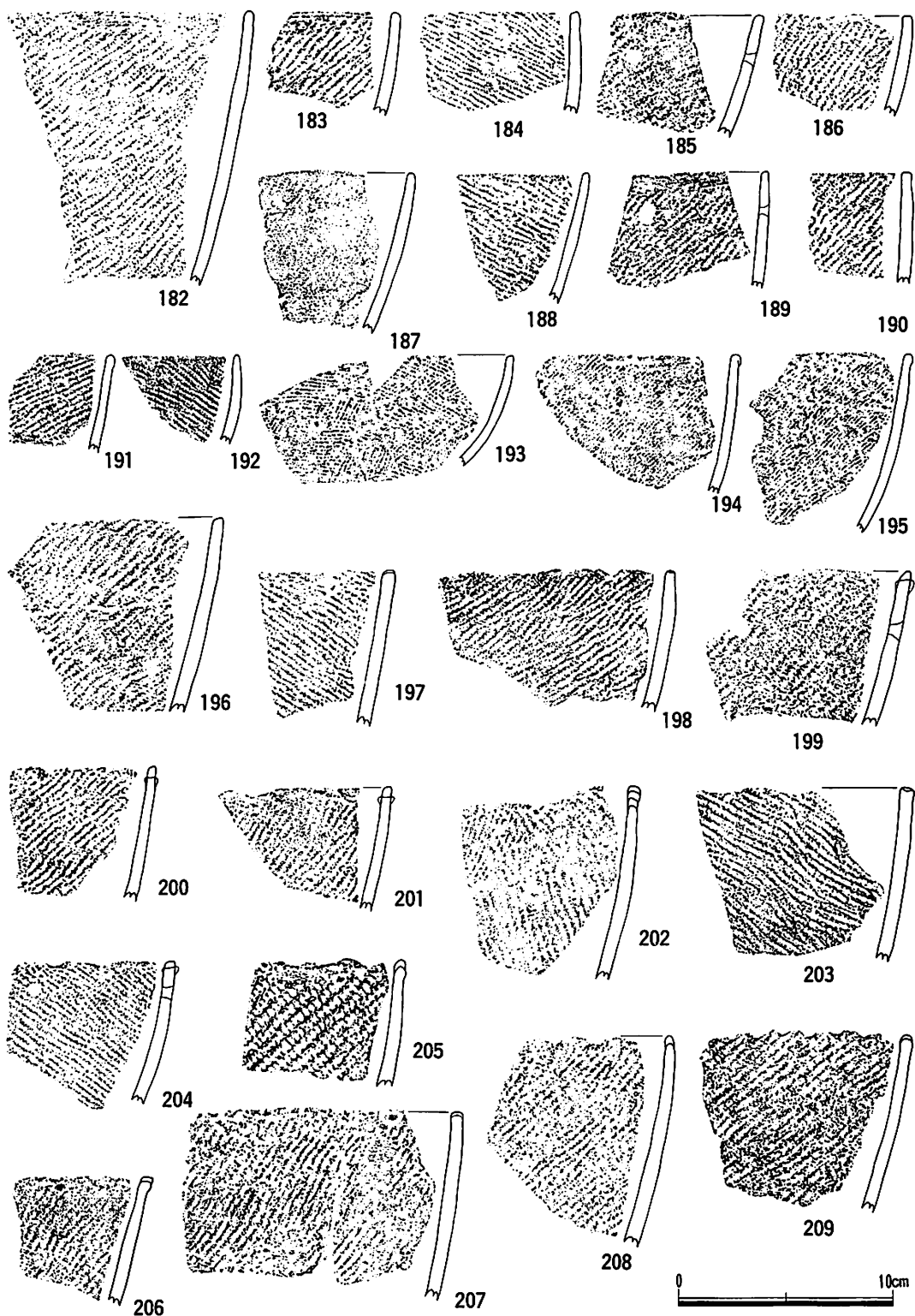


Fig. 94 沢町遺跡遺構外出土のⅡ群土器 (182~209)

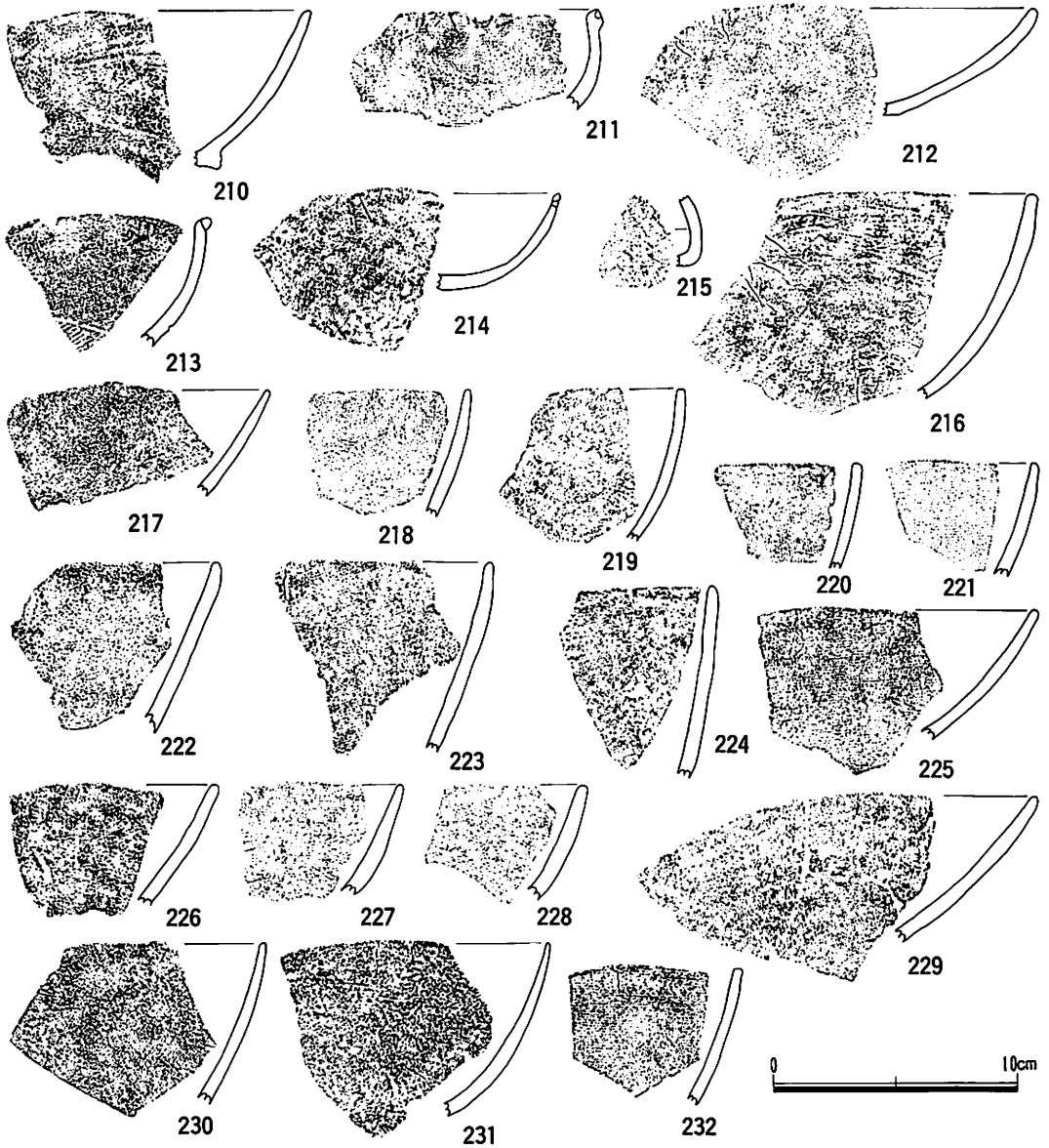


Fig. 95 沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器 (210~232)

第2節 石 器

石器の細部や石質等については付編の一覧表を参照願いたい。以下、特徴的な石器について概略する。17は断面からもわかるように、焼けて膨張している。46・47は剣のような形をしており、本州で出土する飛行機鋏に若干似ている。59は全面熱を受けている。62は長さ13mmという本遺跡

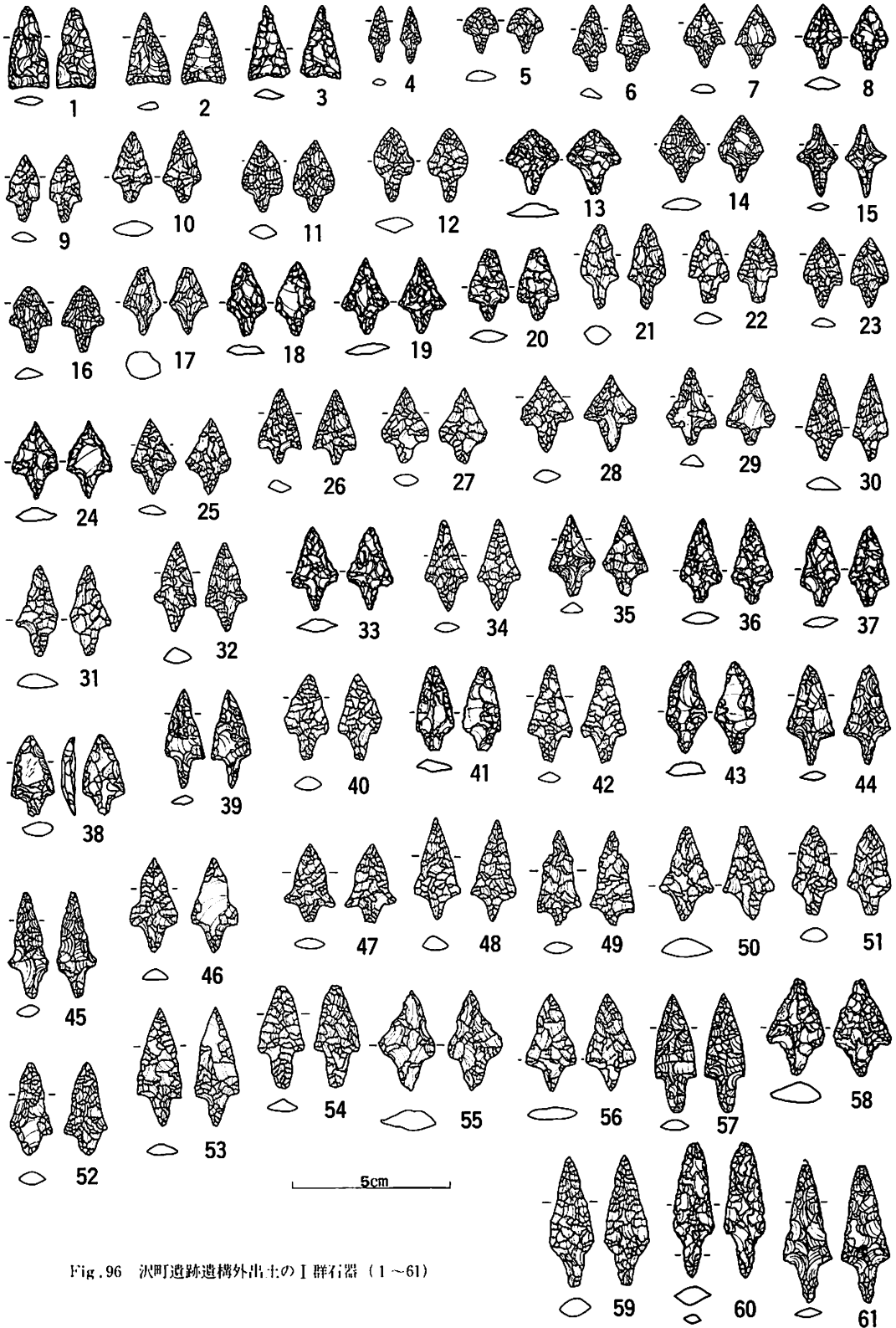


Fig. 96 沢町遺跡遺構外出土のI群石器 (1~61)

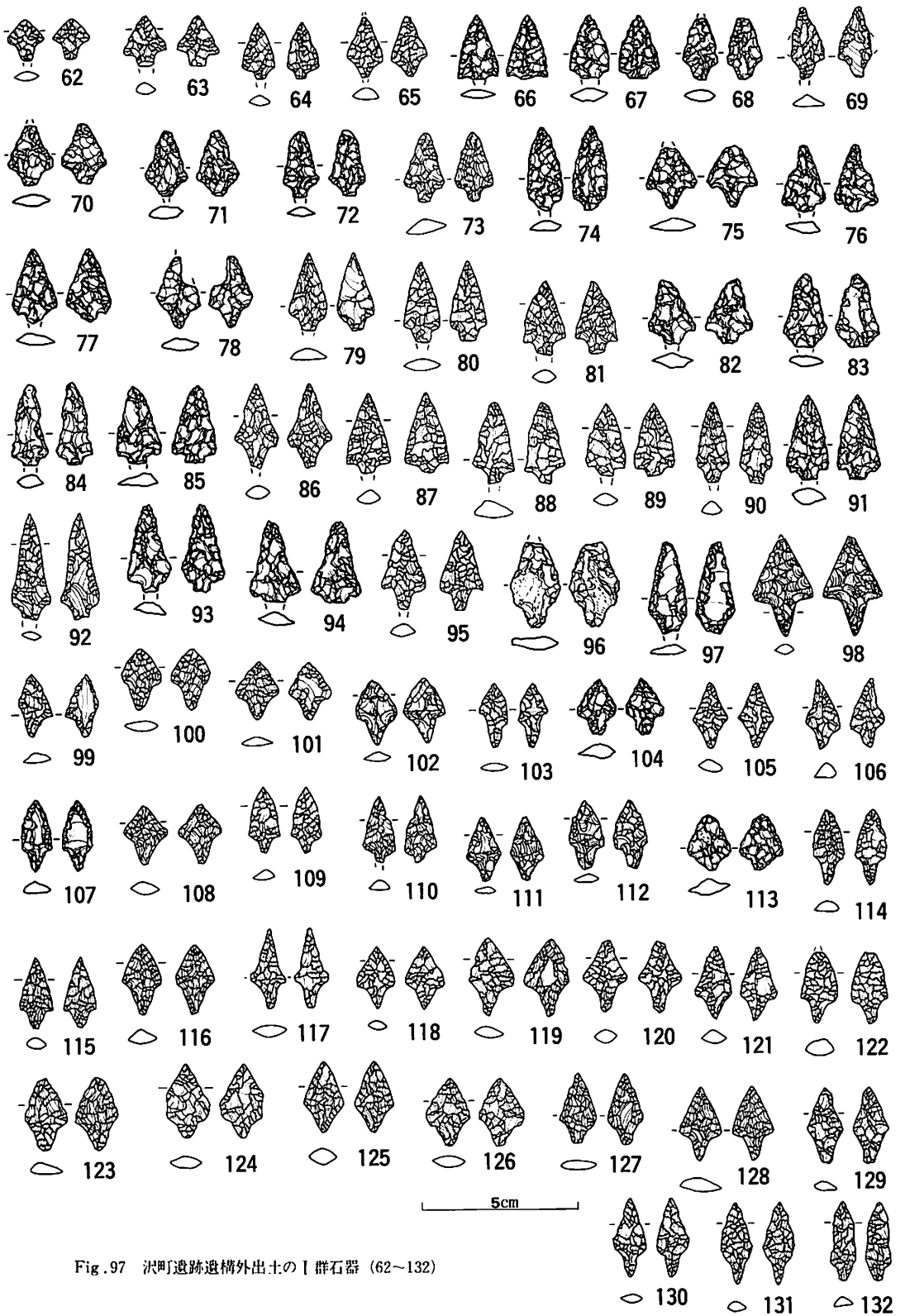


Fig. 97 沢町遺跡遺構外出土のI群石器 (62~132)

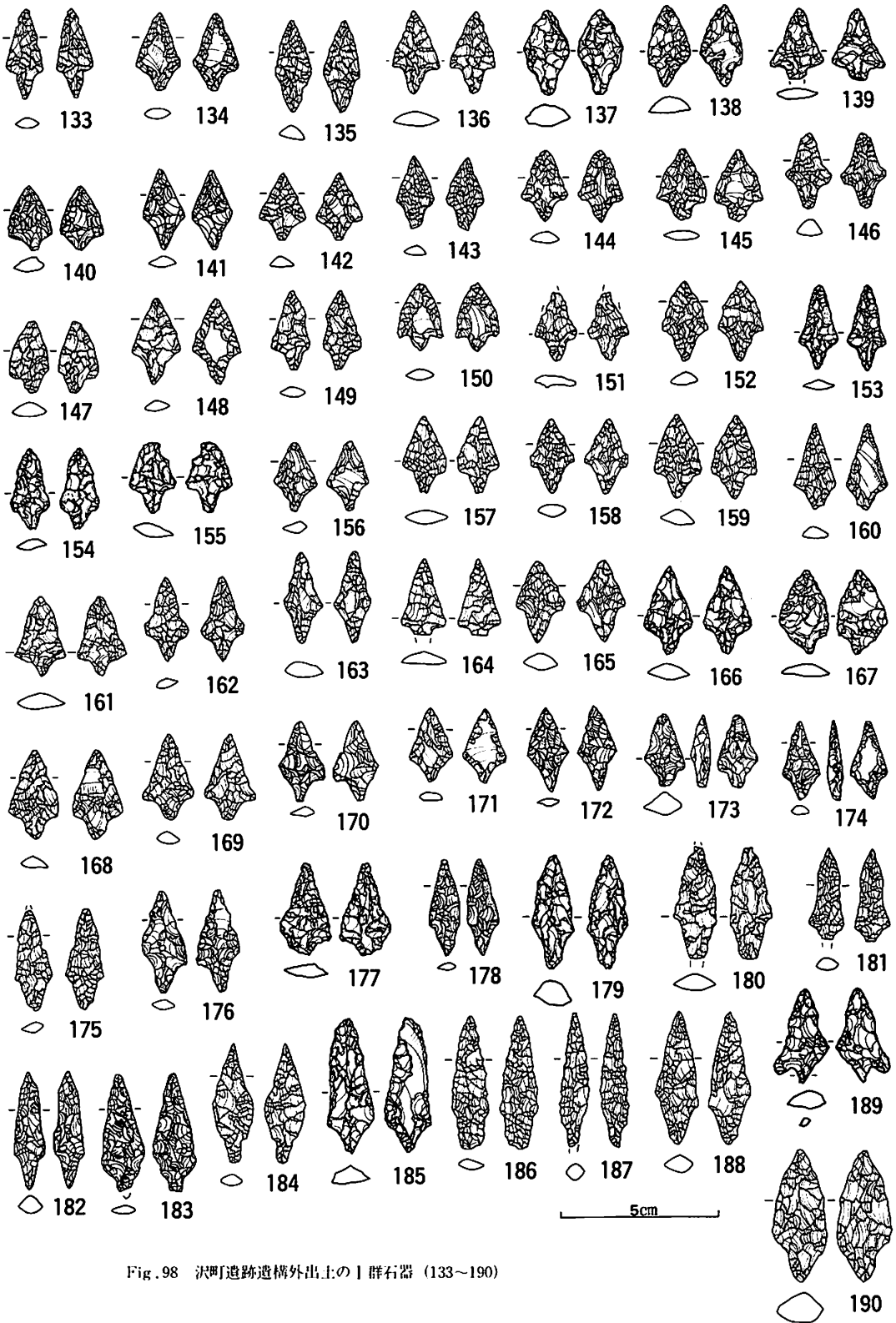


Fig. 98 沢町遺跡遺構外出土のI群石器 (133~190)

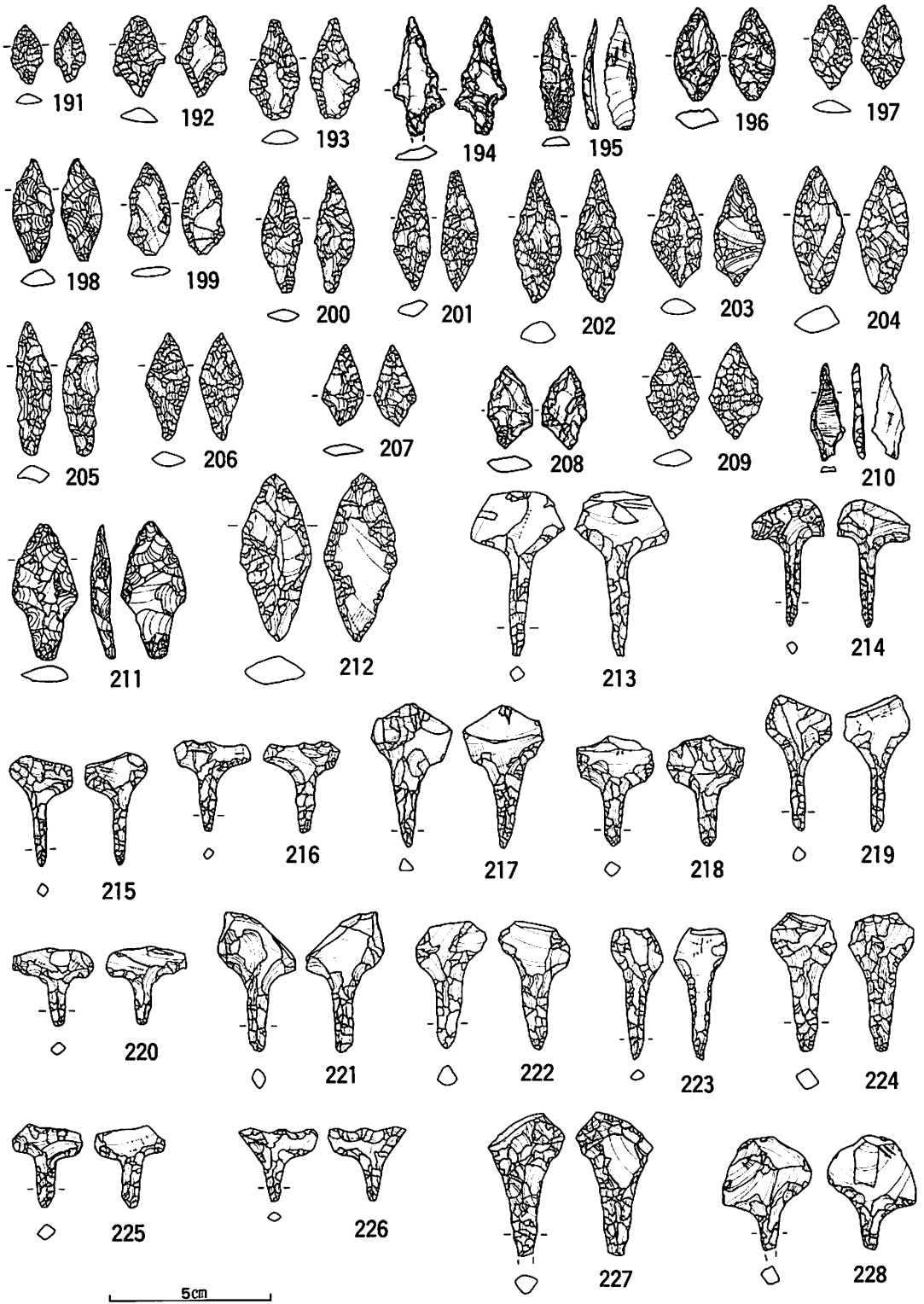


Fig. 99 沢町遺跡遺構外出土のⅠ・Ⅱ群石器 (191~228)

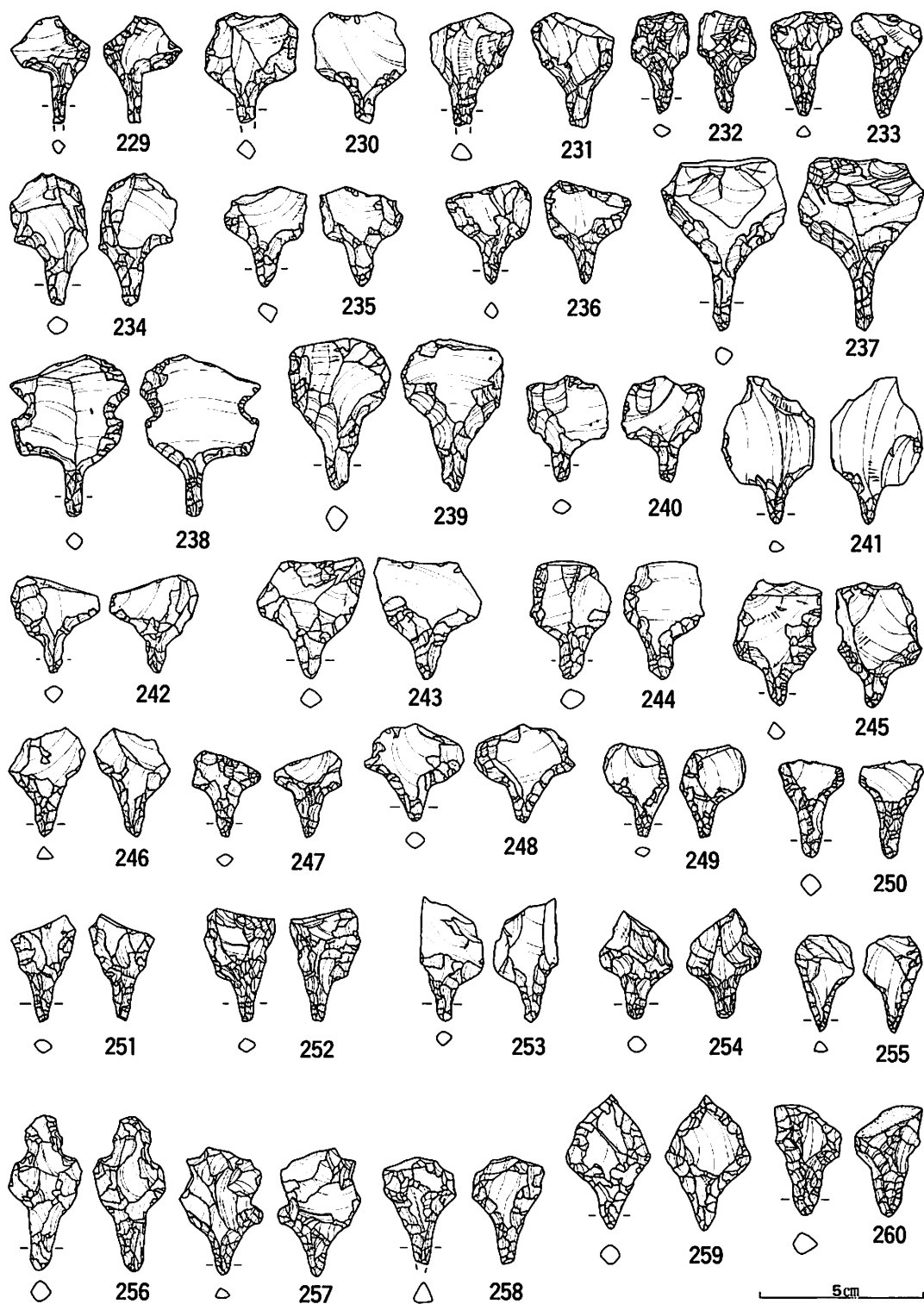


Fig.100 沢町遺跡遺構外出土のII群石器 (229~260)

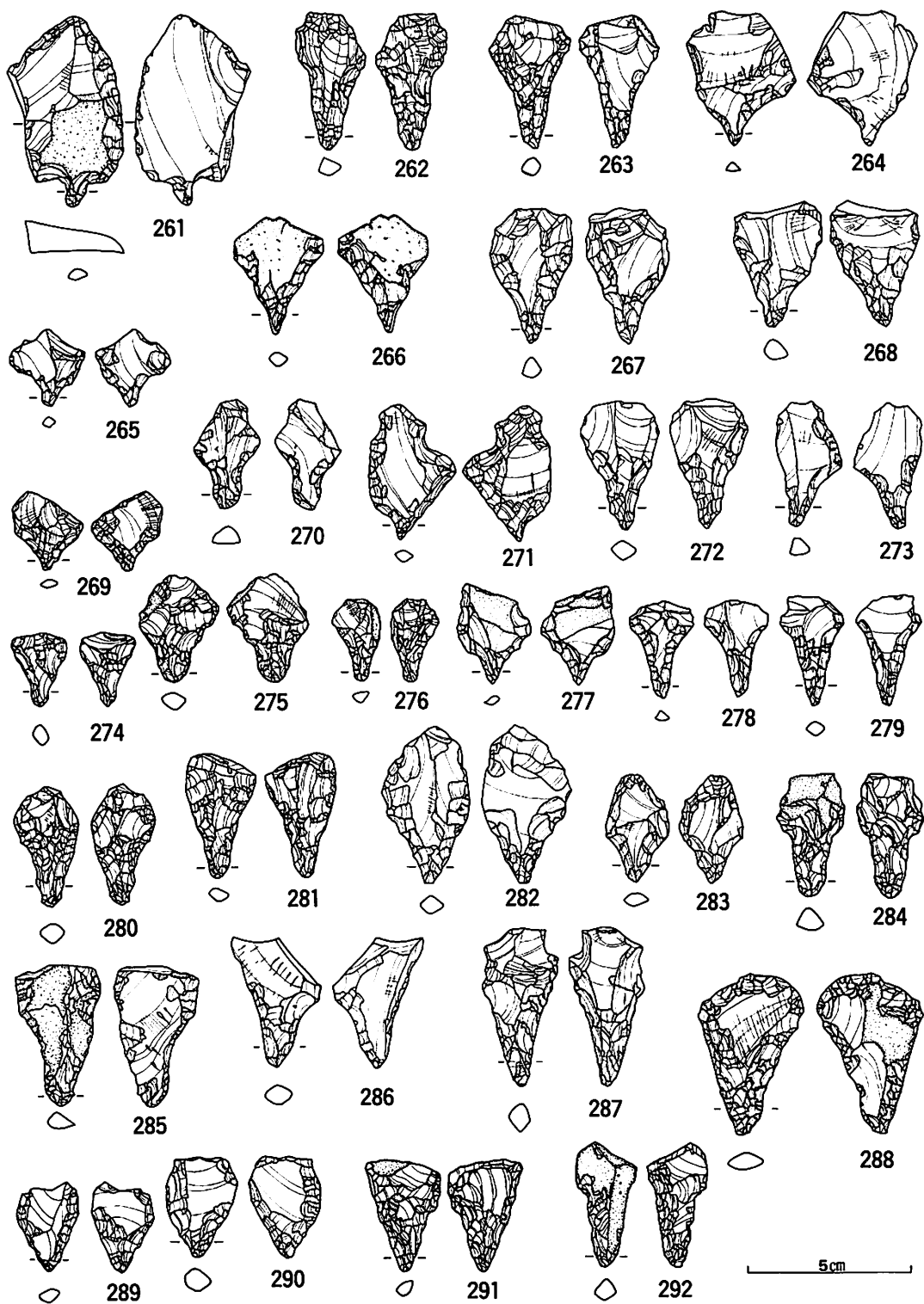


Fig. 101 沢町遺跡遺構外出土のII群石器 (261~292)

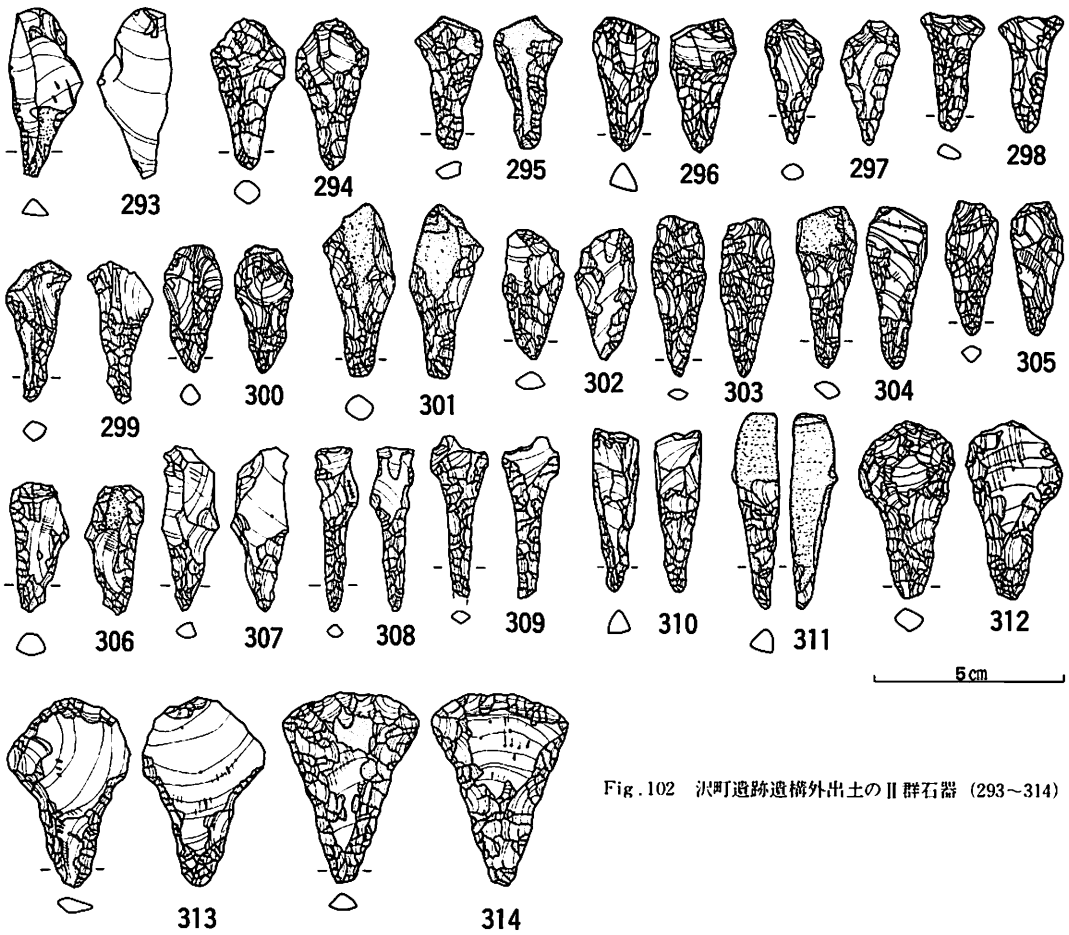


Fig. 102 沢町遺跡遺構外出土のⅡ群石器 (293~314)

では最小の石器である。210はⅠ群石器とするには躊躇したが刺突部を有することから、一応Ⅰ群としておいた。リタッチは急角度である。

213～314はⅡ群石器としたものである。238にはノッチ状の挟入部を左右に有する。複合石器であったのか、あるいは柄に装着されて使用していたのであろうか。256は、つまみ状の基部を有する稀な例である。柄に装着されたのか、あるいは紐にぶらさげていたものであろう。261は左側縁部を若干欠いていたものである。削器と石錐の複合石器である。271もノッチ状の挟入部を一側縁に有するものである。288は裏面に角礫の自然面を残すものである。298は不自然な形状をしている。再利用を繰り返した結果であるかもしれない。295・304・311は、黒曜石の棒状原石を利用したものである。細部剥離を施すだけであるから非常に便利である。312～314はⅢ群あるいはⅣ群石器とも考えたが、使用痕の観察等からⅡ群と分類した。

315～328は、つまみのあるものである。325は角礫の自然面を残すものである。使用剥片素材を大きく変えていないものである。Ⅲ群 a 類石器としても非常に稀な例であろう。326は横型、

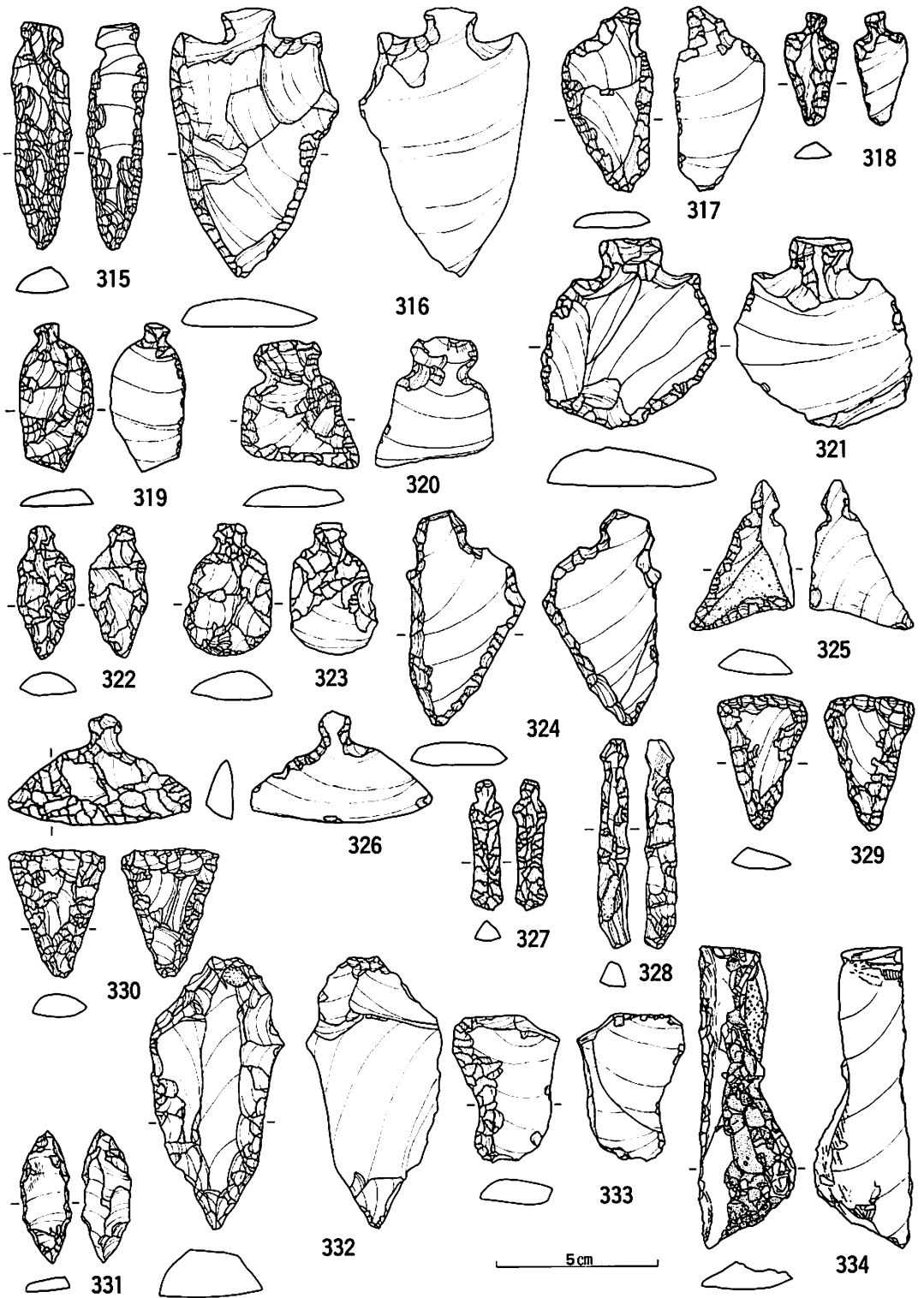


Fig. 103 沢町遺跡遺構外出土のⅢ群石器 (315~334)

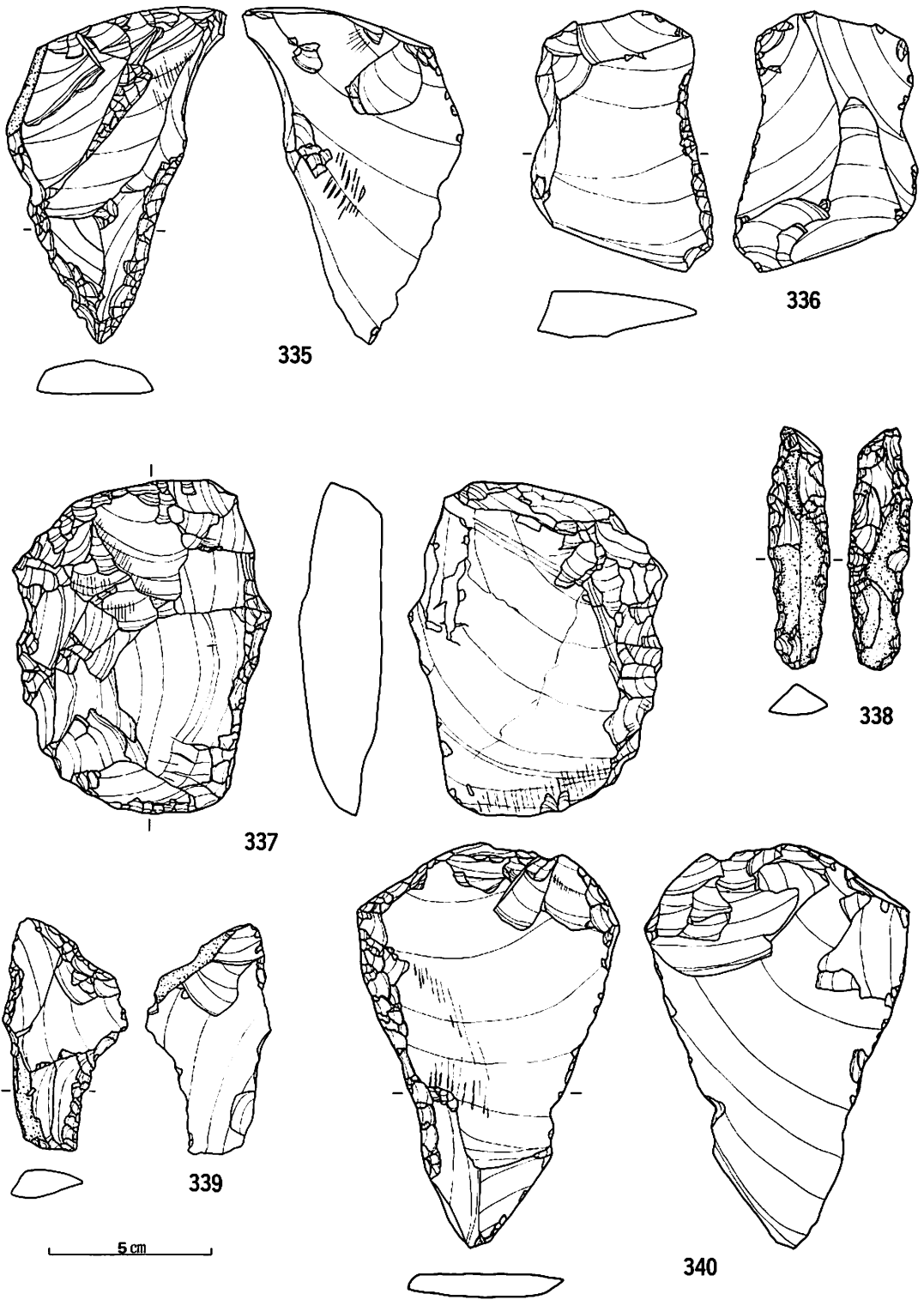


Fig. 104 沢町遺跡遺構外出土のⅢ群石器 (335~340)

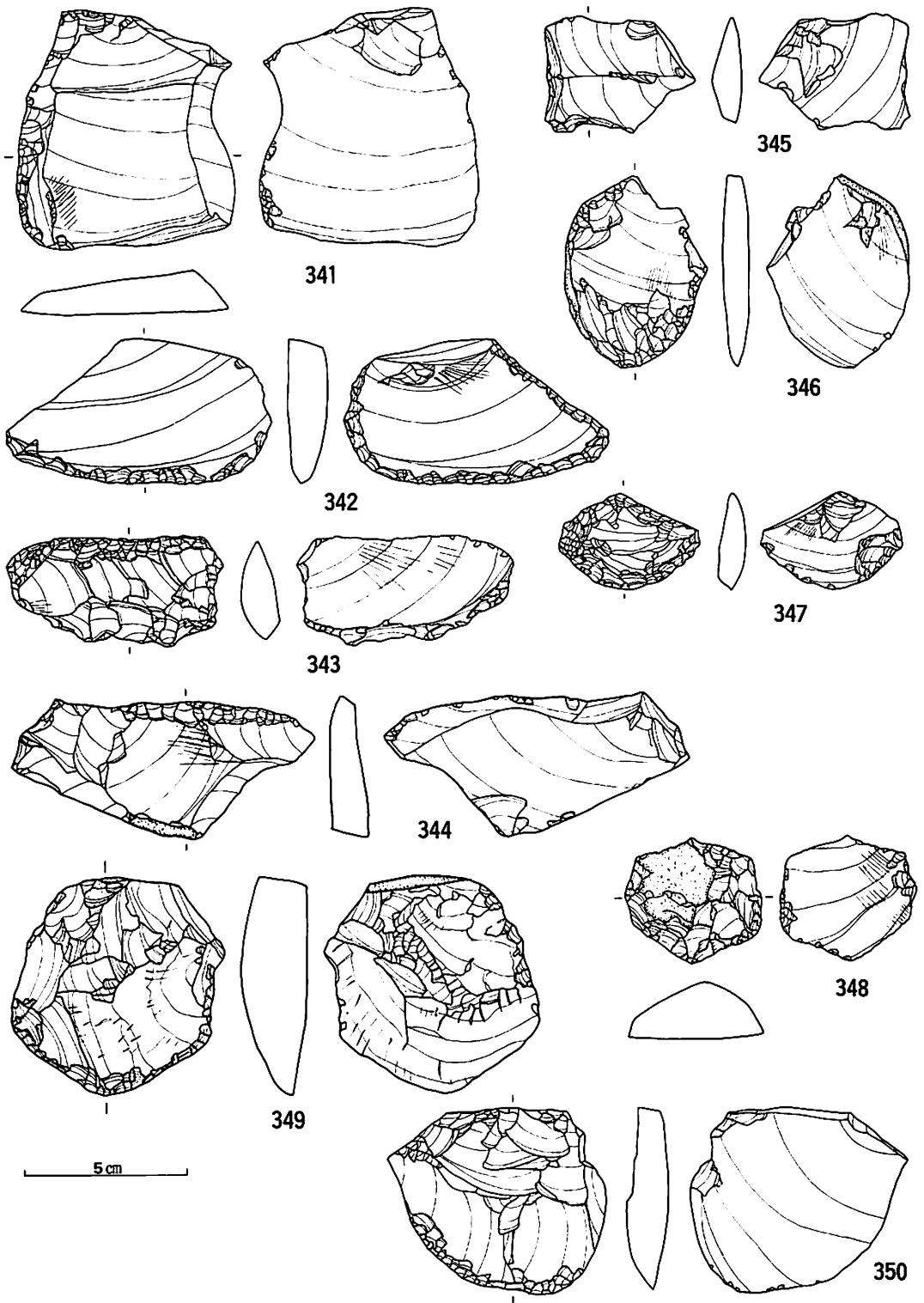


Fig. 105 沢町遺跡遺構外出土のⅢ・Ⅳ群石器 (341~350)

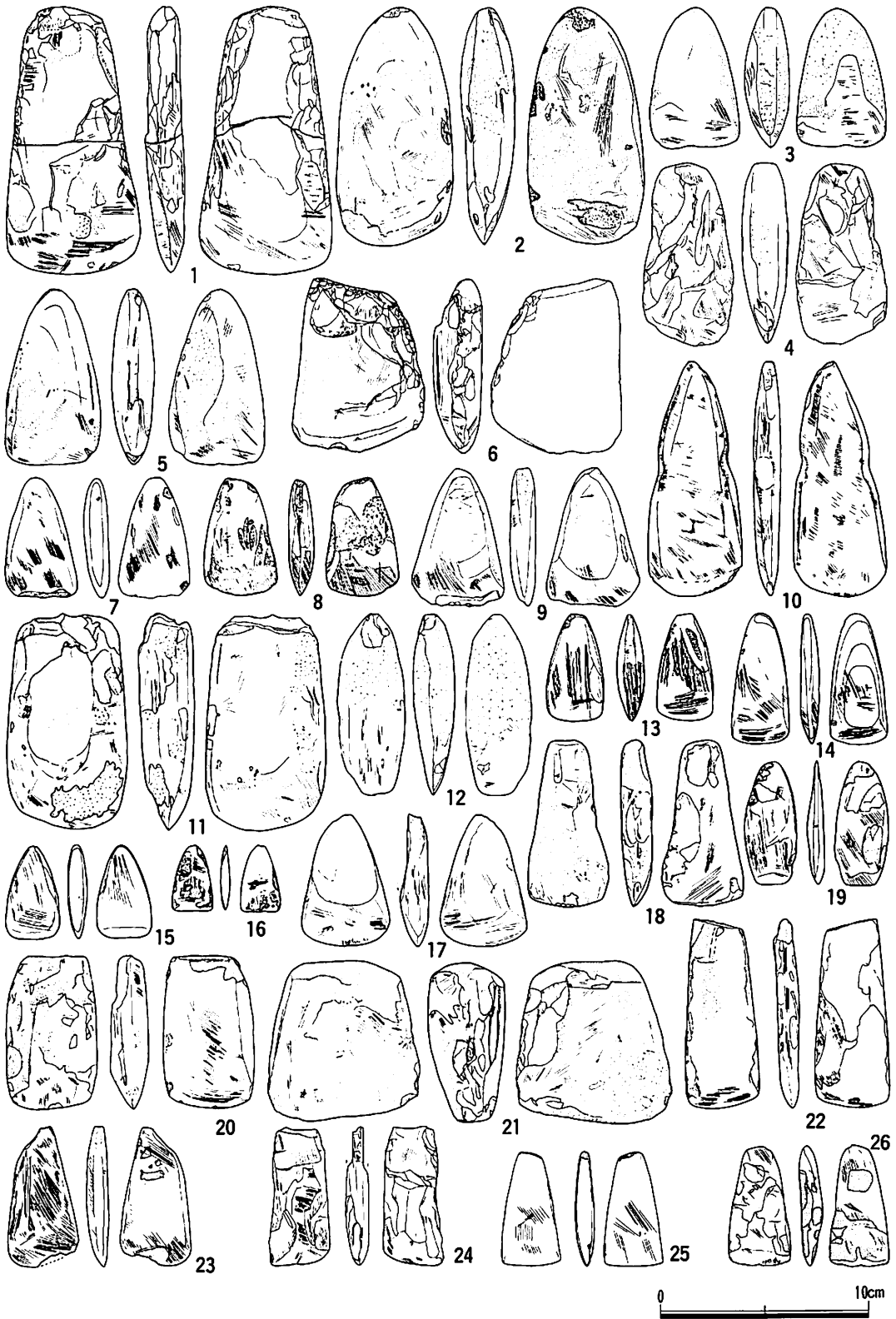


Fig.106 沢町遺跡遺構外出土のV群石器 (1~26)

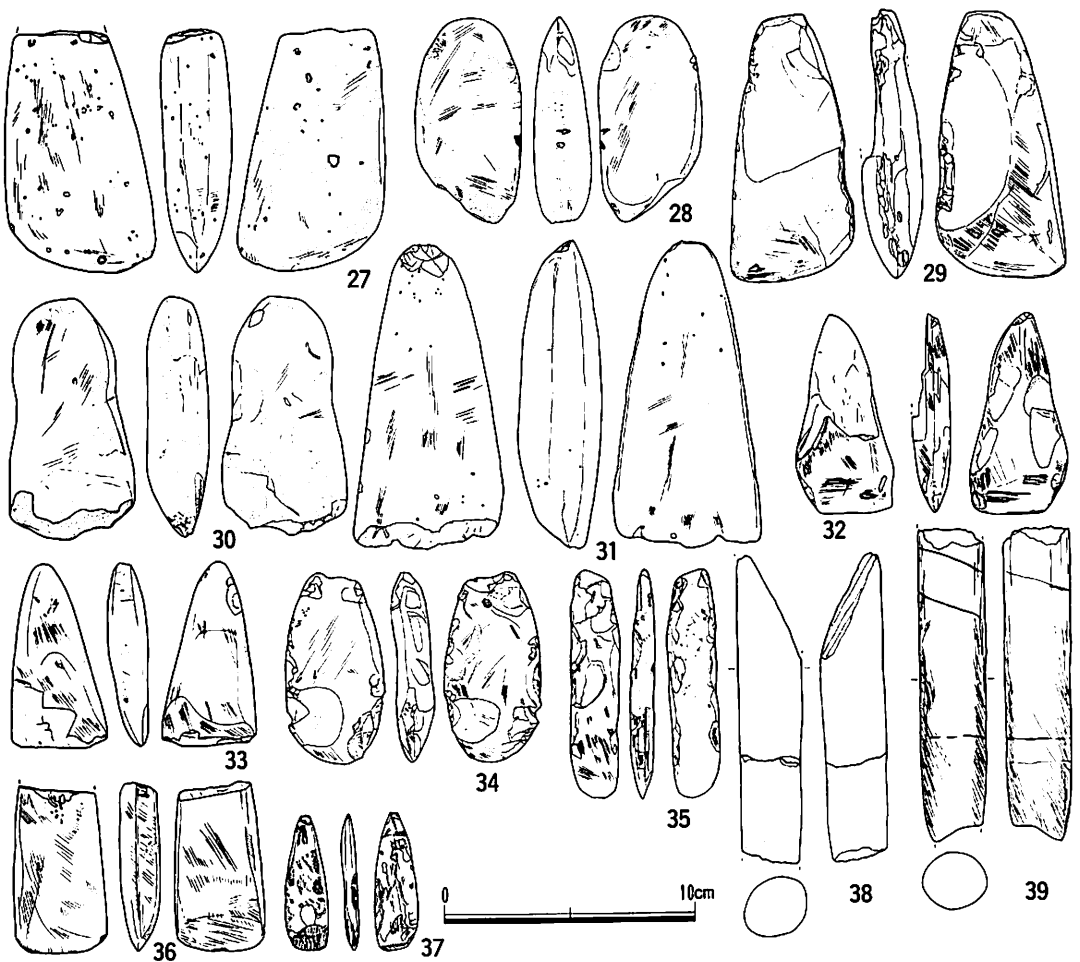


Fig.107 沢町遺跡遺構外出土のV・IV群石器 (27~39)

327・328は、おそらく棒状原石を利用したものであろう。328には自然面が残っている。329は両側縁に、330は基部を含む3縁に使用痕が認められる。338も黒曜石の棒状原石を利用している。345は風化して白っぽくなっている。

次に礫石器を順を追って説明する。1~37はV群石器である。3・5・12・18・28・30等は特にベッキングが顕著である。15・16は非常に小型である。21は刃部が潰れており、石斧としての使用は不可能である。当初は石斧であったものが刃部が折損する、あるいは潰れたことにより敲石として使用したものとみられる。27は石斧の石質としてはあまり例がない安山岩質のものである。基部を若干欠いているようである。35・37はV群b類であろう。38・39はVI群a類である。39の図にも示されているように斜位の平行するキズが上部に認められる。先端部近くにも横位の平行するキズが認められる。何故、このようなキズが残存しているのでしょうか。

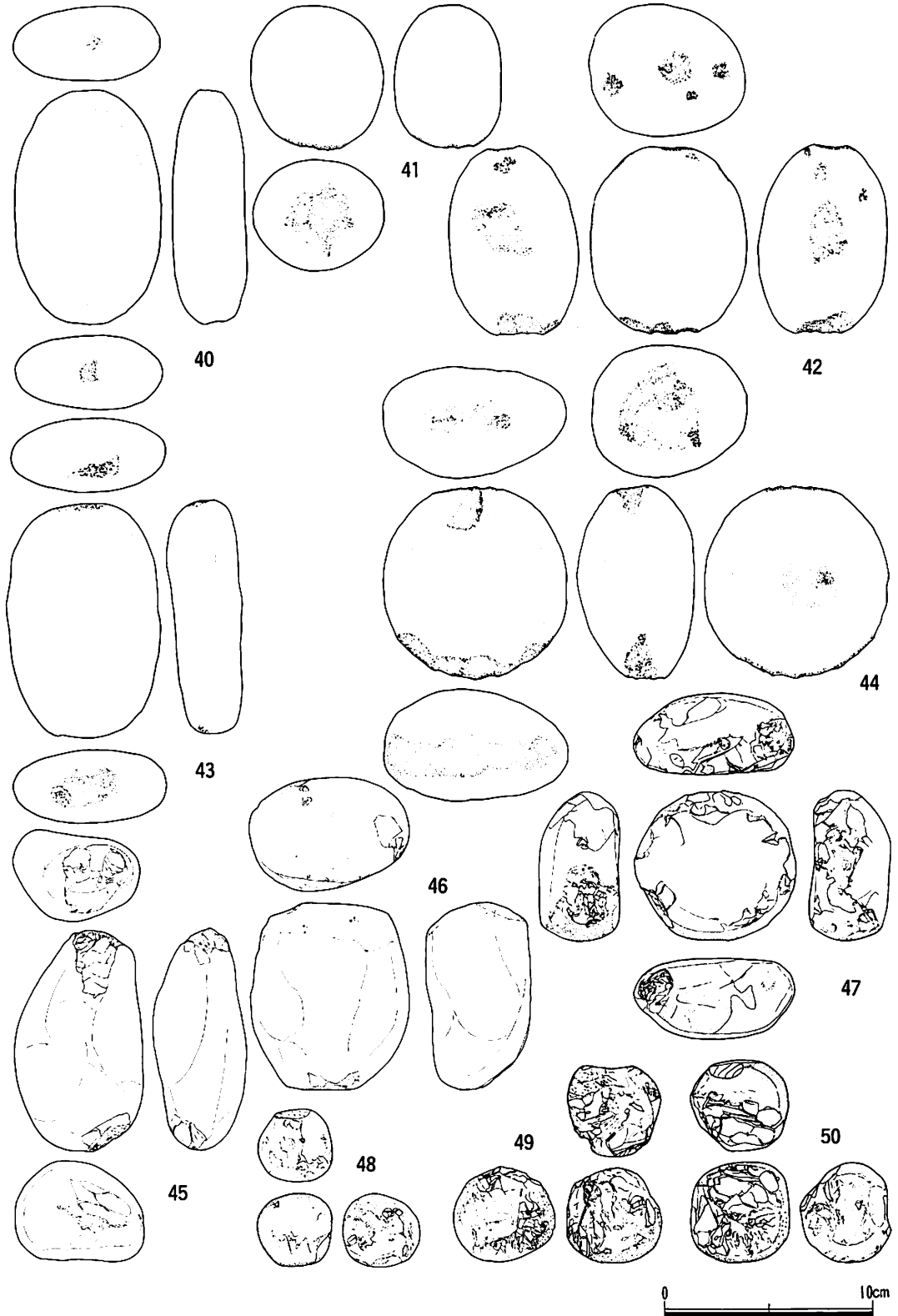


Fig. 108 沢町遺跡遺構外出土のⅣ群石器 (40~50)

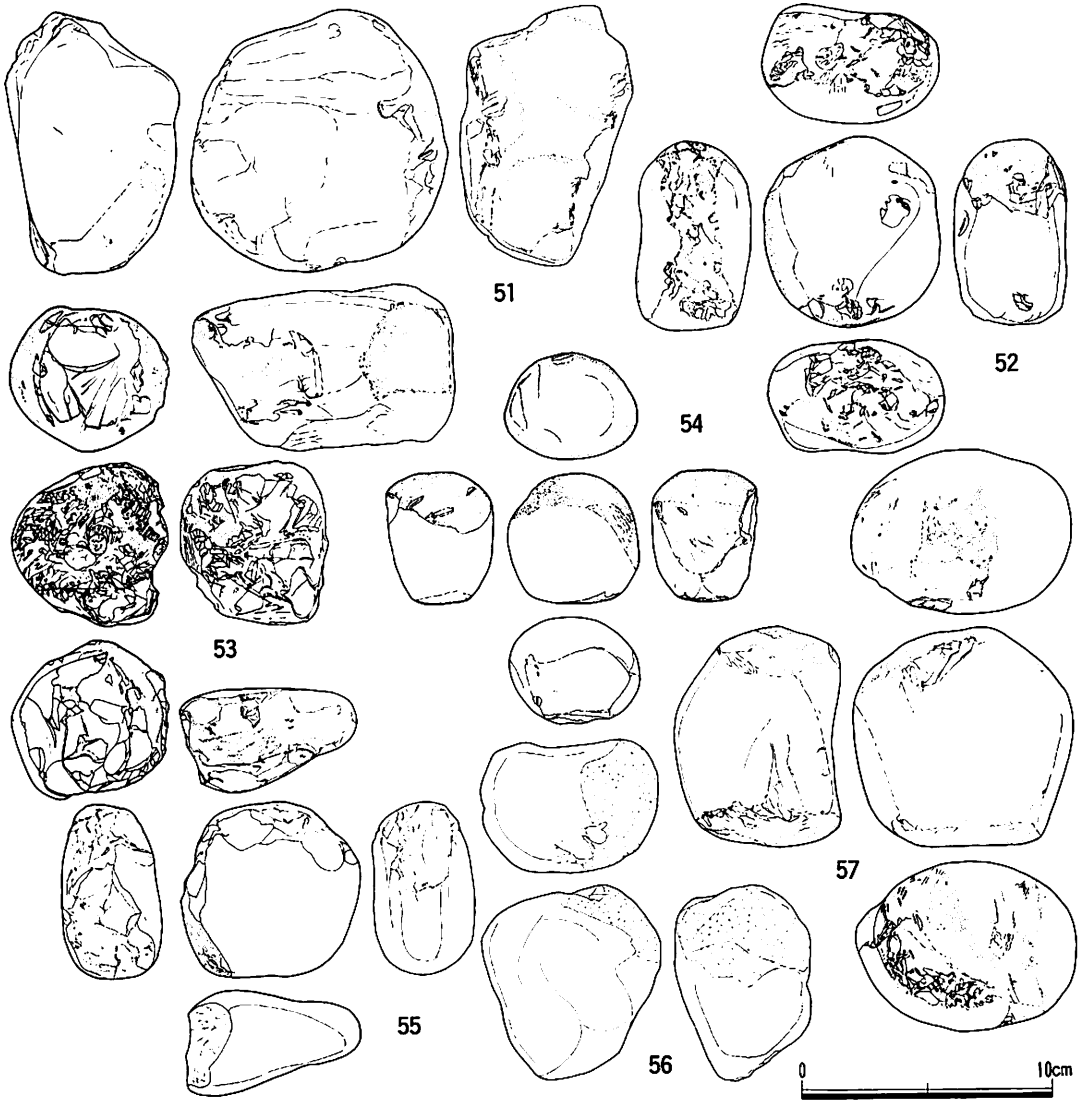


Fig. 109 沢町遺跡遺構外出土のⅣ群石器 (51~57)

78はⅣ群である。砂岩によるものであり、本遺跡の基盤をなすのが凝灰質の砂岩であるところから、それを利用したものと思われる。79は右側の抉入部を欠いている。

80~88は「握石」である。包含層から出土したこれらの石製品は、本遺跡のあちこちで認められる擦文竪穴をはじめ後世のさまざまな攪乱穴や攪乱溝等によって、本来は墓塚にあったものが、それぞれの墓塚の帰属を離されたものであろう。

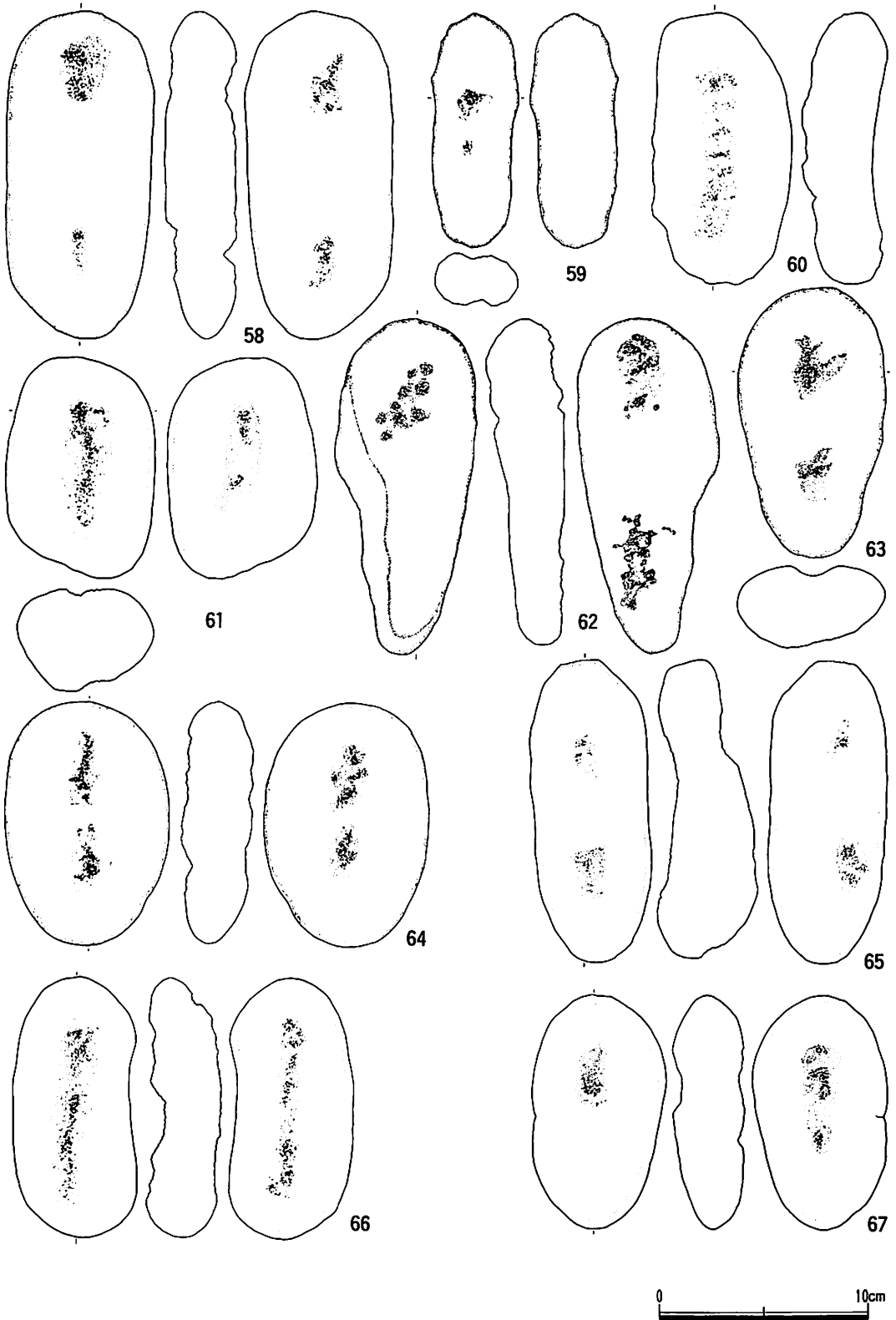


Fig. 110 沢町遺跡遺構外出土のⅡ群石器 (58~67)

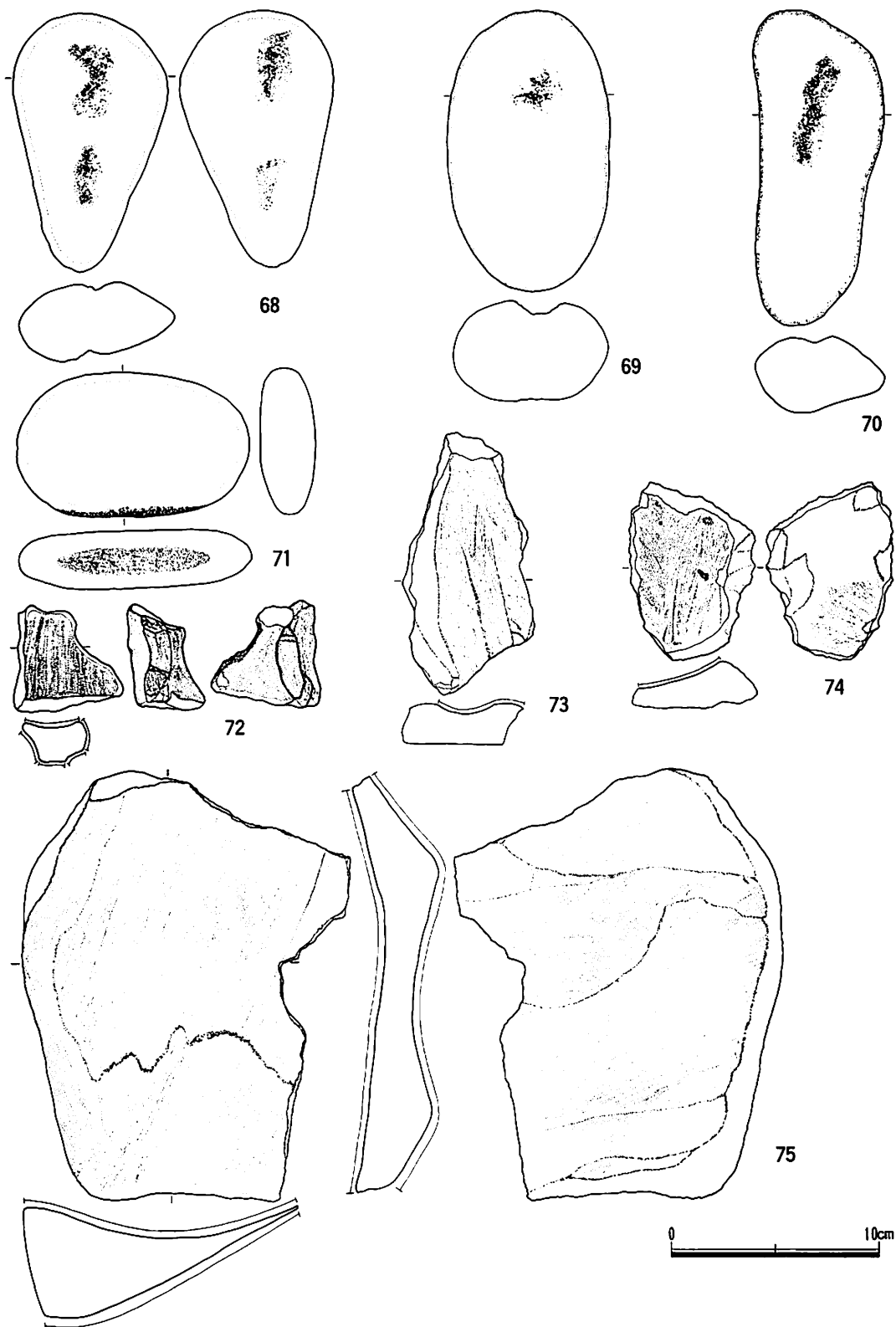


Fig. 111 沢町遺跡遺構外出土のⅦ・Ⅸ・Ⅹ群石器 (68~75)

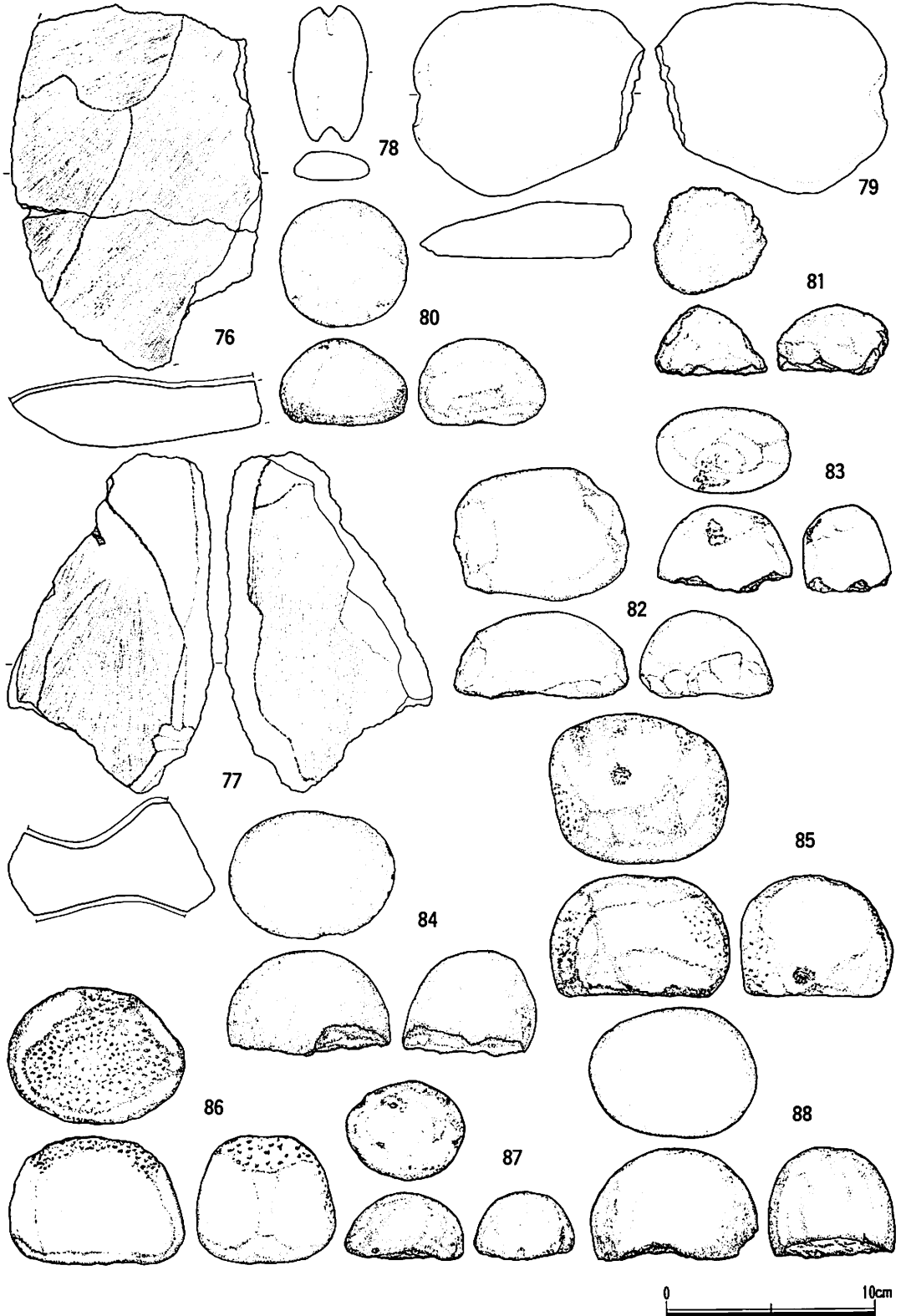


Fig.112 沢町遺跡遺構外出土のX・IX群石器と握石 (76~88)

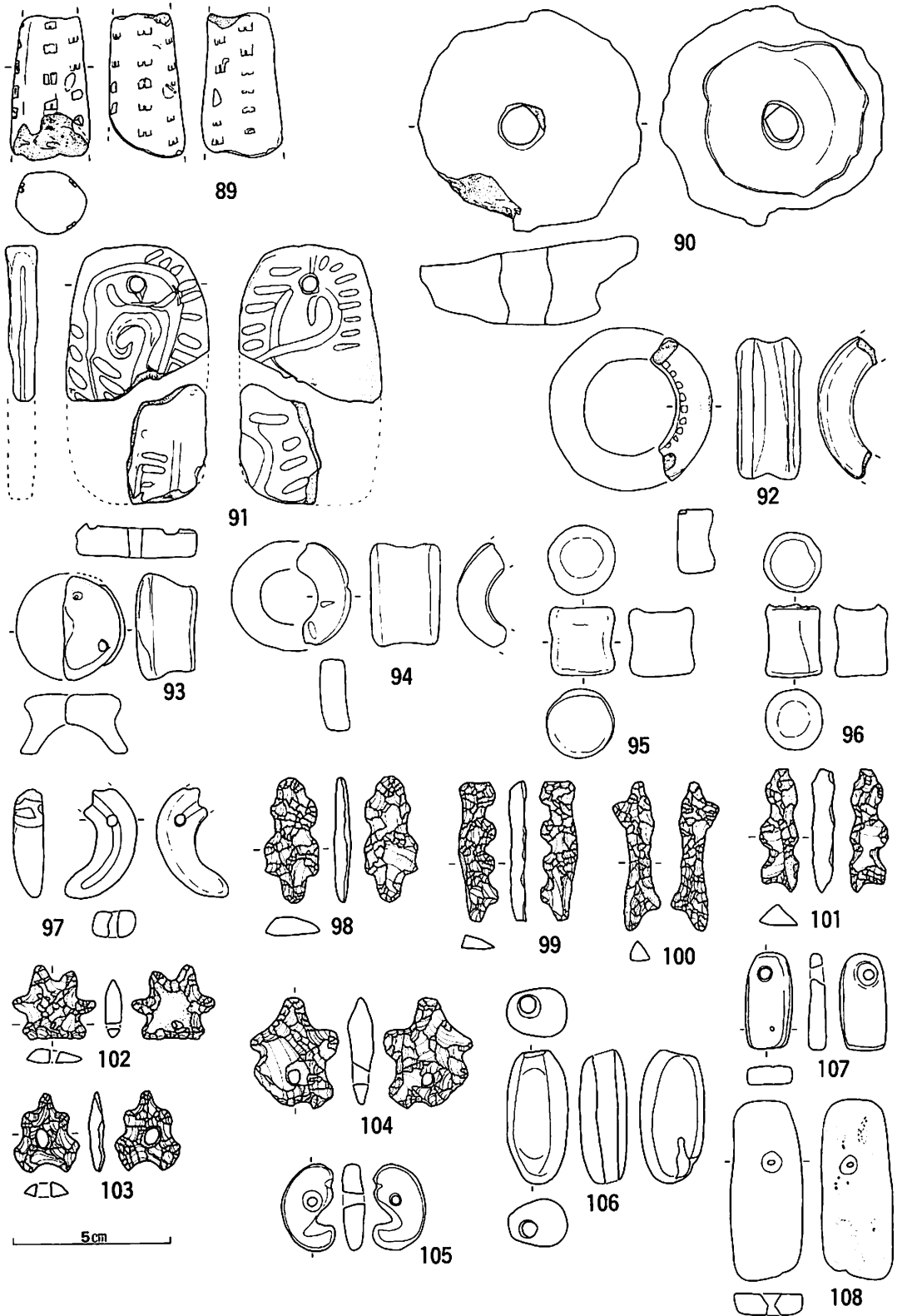


Fig. 113 沢町遺跡遺構外出土の土製品・石製品・異形石器 (89~108)

土製品・石製品等を一括して、ここで紹介する。89は押し引き風の文様が6条ある土製品の中間部である。筆者管見の限り類例を知らない。90は紡錘車様の形状を呈している。縄文晩期前葉のものともみられる。縄文時代に紡錘車があったかどうか不明である。91は有孔の土版である。本来は赤色顔料を塗付していたものとみられる。若干付着している。文様等からも羊歯状文をモチーフとしており、縄文晩期前葉のものともみられる。92・94は滑車状耳飾である。いずれも刺突文あるいは刻文が施されている。93も側縁部が滑車状を呈しているが他のものとは形状を異にする。95・96は耳栓状の耳飾である。双方とも鼓形を呈している。97は土製の勾玉であろうか。有孔で頭部を欠いている。欠損部の観察から2孔あったものとみられる。溝が入っており土製の勾玉というよりも、有孔の特殊な土製品とすべきであろうか。98～101は黒曜石製の異形石器である。一般に異形石器と呼んでいるが石製品とした方が適切であろう。98～100は完形であるが101は基部を若干欠いている。棒状原石を利用している。102～104は黒曜石の有孔石製品である。これらの孔は黒曜石の原石面の孔をそのまま利用している。したがって穿孔したものでない。102は手のひら状を呈しており、裏面には角礫の自然面が残存している。103は全体の大きさからすると孔は非常に大きい。これを破壊せずに細部剥離を行なったということは非常に難しいことであつたと推察される。102と同様、孔を中心としてシンメトリーな形状を呈している。104は若干いびつな形状を呈している。球礫の非常に多い黒曜石である。105・106はヒスイ製の玉である。105は勾玉、106は管玉である。105は非常に多くのヒビが入っており、色も美しくない。質の悪いヒスイ原石によるものとみられる。図示されているように、一方向からの穿孔である。106は本遺跡出土の最大の玉である。こちらは一方向穿孔である。白色部と緑色部は概ね半々であるが、緑色部は非常に美しい。105は墓塚A群、106は墓塚D群に伴うものである。107および108は有孔石製品である。107は碧玉製の垂飾である。表面下位に小さな窪みが残っている。当初は、こちらに穿孔しようと考えていたものとみられる。孔は両挟りである。108は粘板岩類似の石質である。両挟りであり、素材・作りとも粗雑である。(宮)

第7章 表面採集遺物

第1節 米坂コレクション

故米坂一道氏のコレクションが余市水産博物館に所蔵されている。故人が永年に亘って収集したものであり、遺族が当館に寄贈したものである。この機会に紹介する。

8の基部はI群a₂類である。矢羽根状を呈する。12はI群a₂類としては大型のものである。90は両側縁に抉りが入っており飛行機鏃に若干似ている。92も特異な形状を呈している。142・143は縄文時代早期の石鏃のタイプに類似している。本遺跡にもこれらのステージの遺構があるに違いない。159・160も相当古手の石器とみられる。

172・173は棒状のもの、174～205は、つまみのあるものである。174は刺突部のみの破片である。175は完形である。非常に小さなドリルである。さらに小さいのが182である。さまざまな石質のドリルがあり、どのように使いわけていたのか非常に興味深い。188は非常に硬いメノウのドリルである。196～200は刃部先端を欠いているものである。204は非常に鋭利である。

172・177・183のみが黒曜石製で、その他のドリルは頁岩・メノウ他の硬い石質のものが多い。

206は長いⅢ群a₁類石器である。幅に対する長さは1:4以上である。208は刃部先端を欠いている。若干曲がっている。幅に対する長さの比は1:5以上とみられる。206以上に長い。

212は刃部先端、214は側縁部を若干欠いている。218は美しい緑色の石を作出している。下位に打面があり、他のものとは反対である。221は幅広で横長剝片を利用している。おそらく剝片素材を有効に利用した結果であろう。220は数少ない黒曜石のものである。角礫の自然面が残っている。刃部は何の影響であるのか磨滅している。219は215と同様、先端部が非常に鋭利である。223は刃部作出が急角度である。224は、つまみ部分が大きい。226は、つまみ部分を欠いている。227は、つまみ部分が明瞭でない。228は218とは異なる母岩であるが、これも緑色の美しい石質である。横長剝片を素材としている。つまみ部分は明瞭でない。230は、つまみ部分を若干欠いている。231は裏面にのみリタッチが施されており、他のものとは用途等が異っていたのであろうか。つまみ部分が非常に大きい。素材が厚身であるためか、リタッチも急角度である。232は、つまみ部を若干欠いている。つまみ部が相当長いものである。233～236はⅢ群b類の好資料である。233の表裏面とも右側縁部に刃部が作出されている。235・236も233と同様に右側縁部にのみ刃部が作出されており、定型的である。243は一見長靴のような形をしている複合石器である。両側縁及び底の部分に緩いノッチ状の作出が、踵部分は搔器状を呈している。

244は裏面に角礫の自然面を残している。245も表裏面ともに右側縁にのみ刃部が作出されている。246はⅣ群a類、247はⅣ群b類に近い形状を呈している。

248～255はⅤ群石器である。249は刃部が角ばっている。250は基部を若干欠いているもの

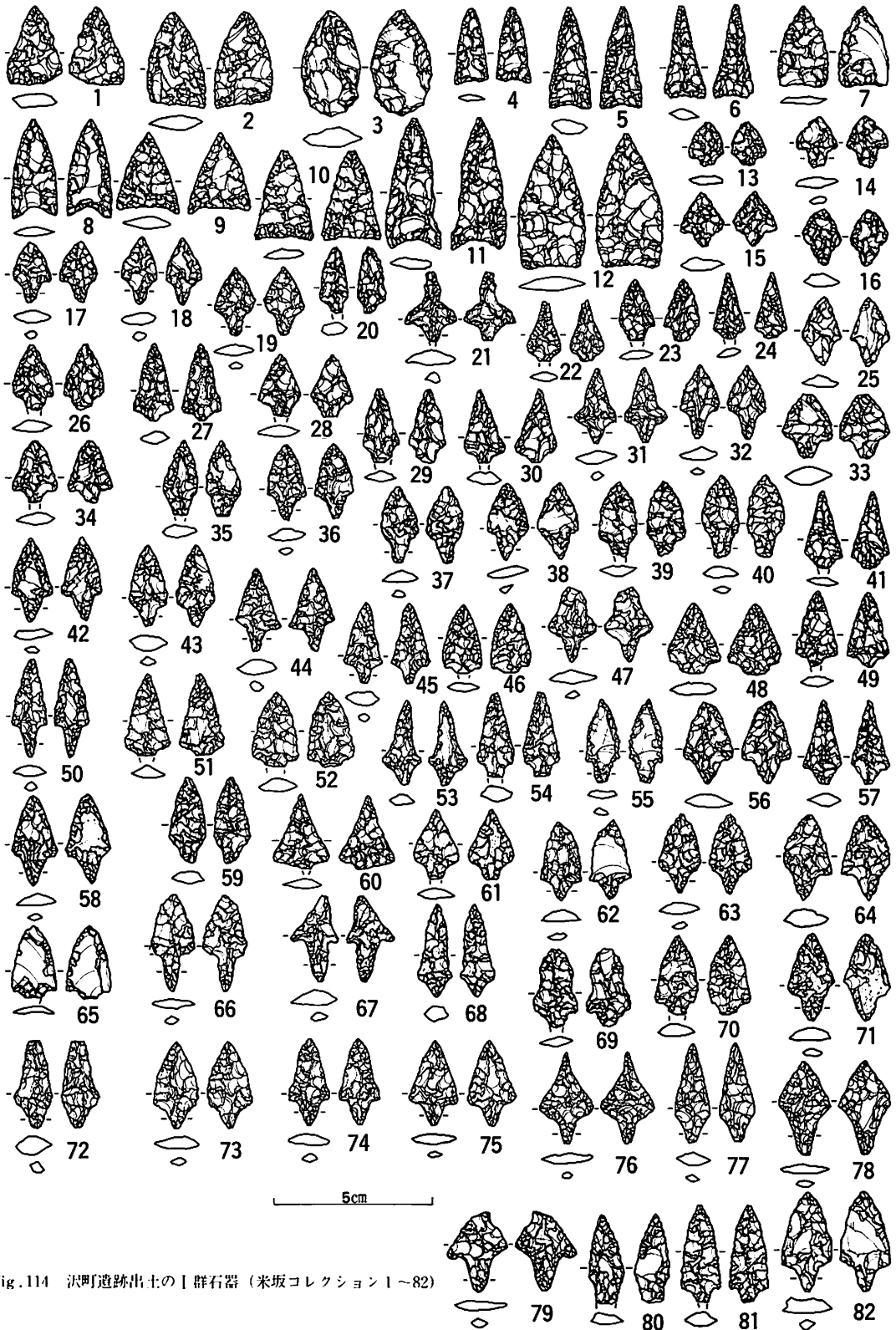


Fig.114 沢町遺跡出土のI群石器 (米坂コレクション1~82)

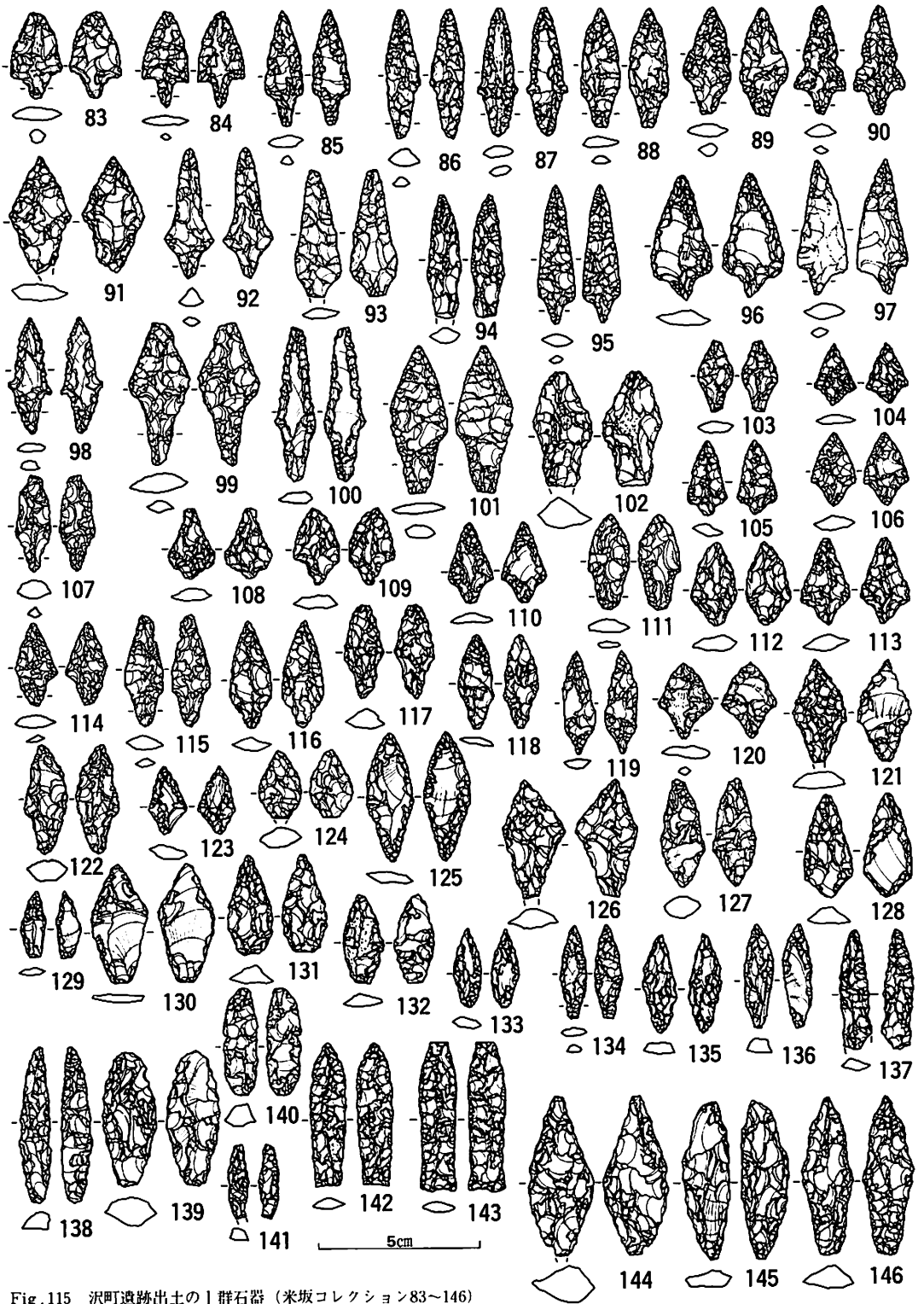


Fig. 115 沢町遺跡出土のI群石器 (米坂コレクション83~146)

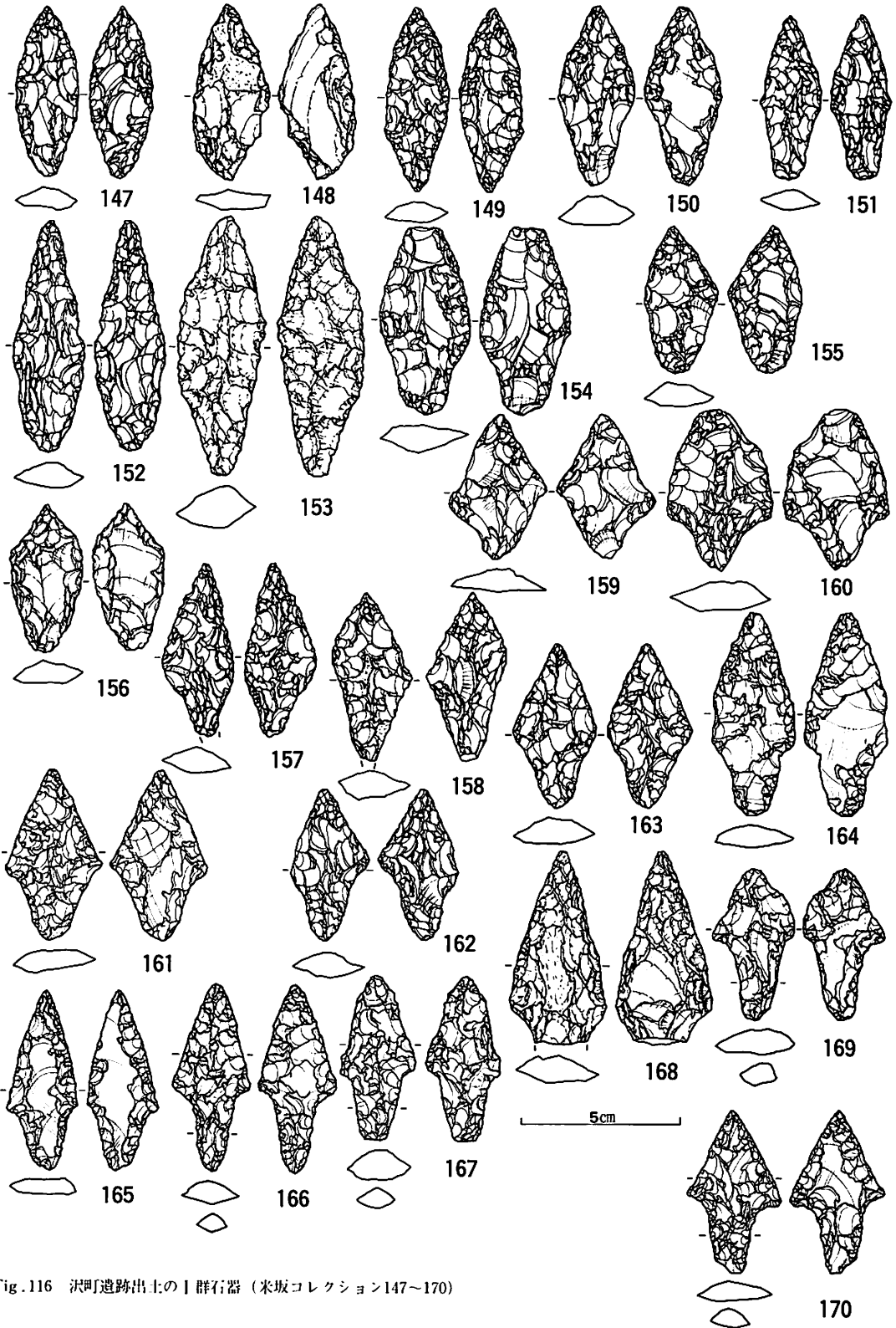


Fig.116 沢町遺跡出土のI群石器 (米坂コレクション147~170)

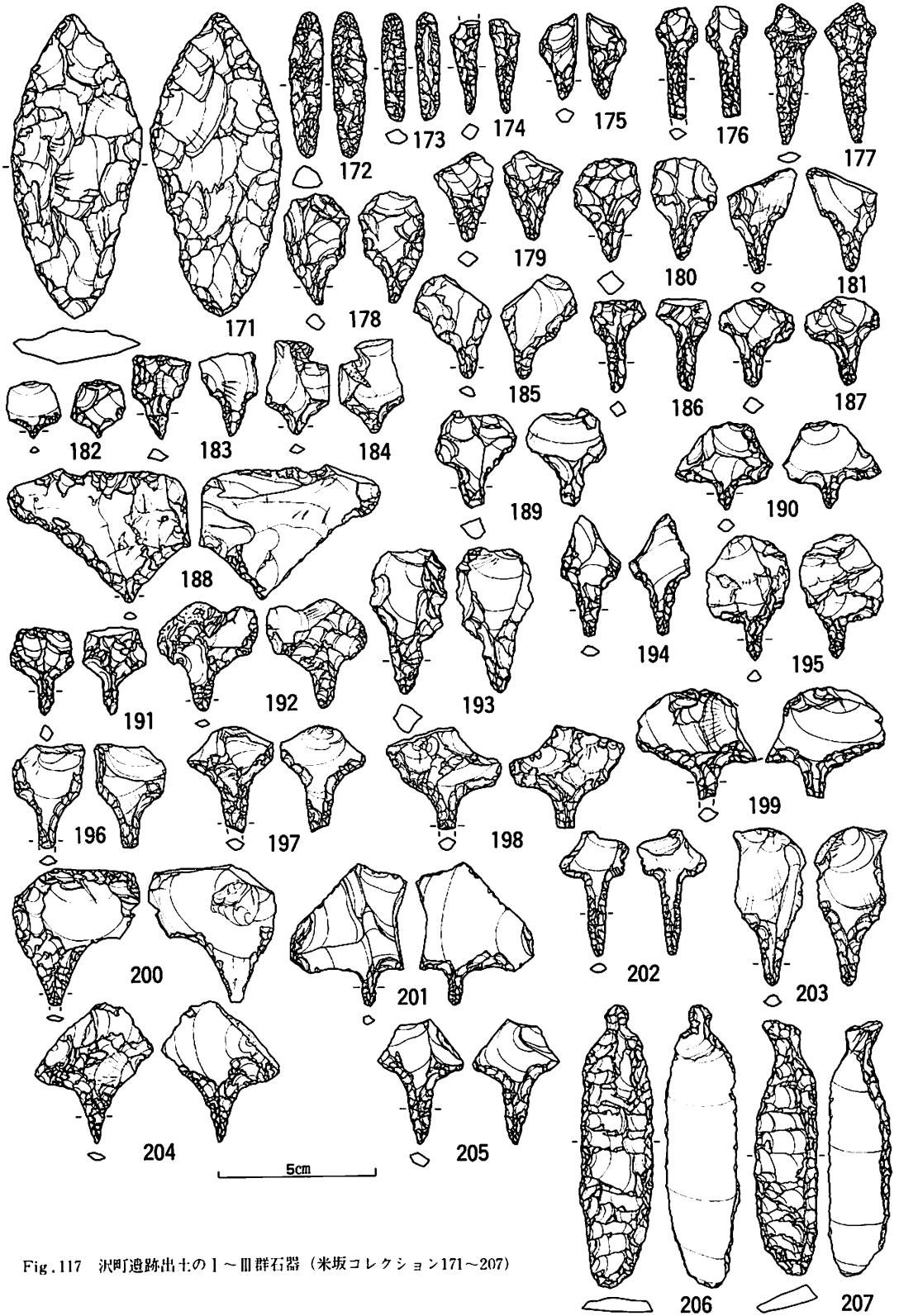


Fig. 117 沢町遺跡出土のI～III群石器 (米坂コレクション171～207)

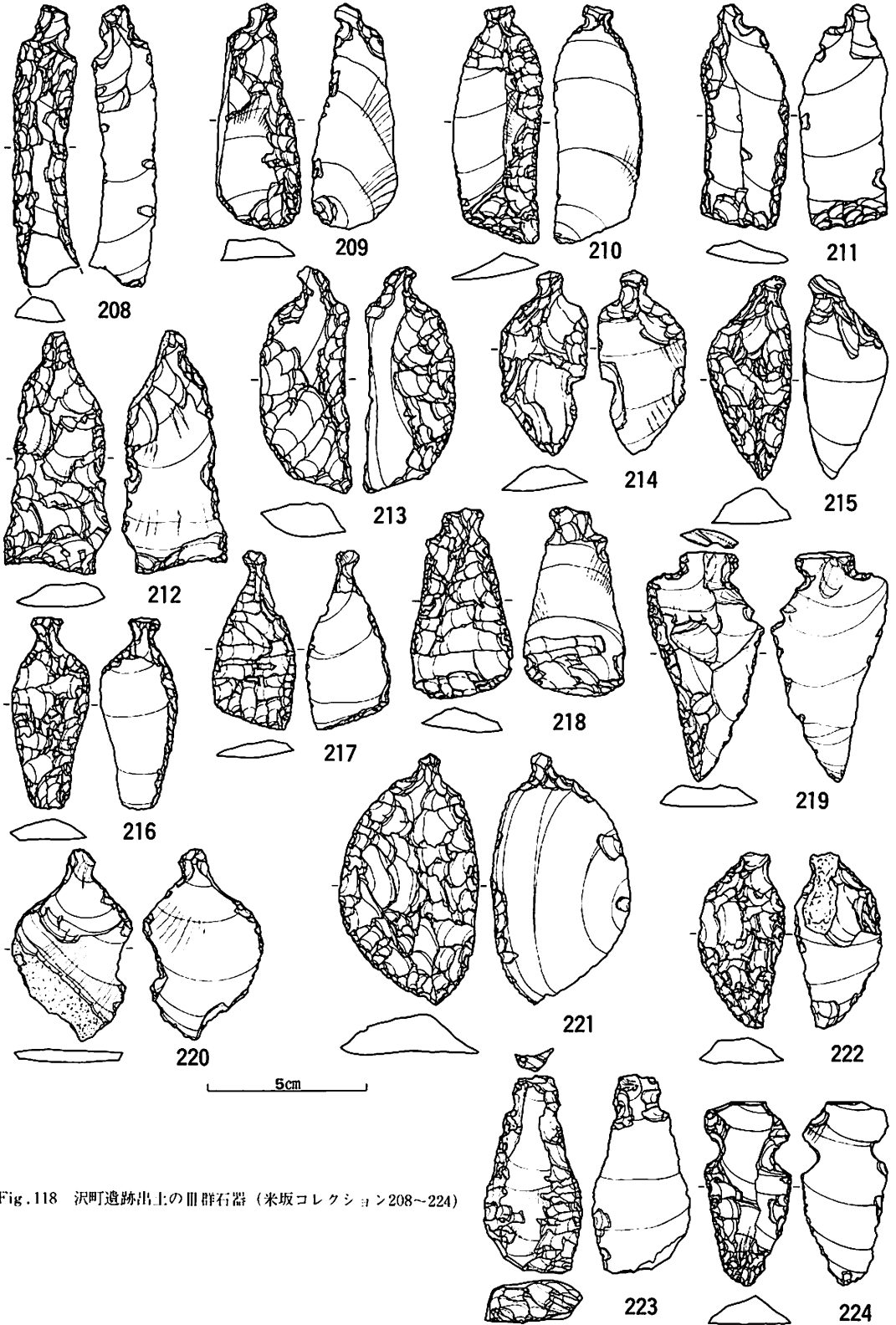


Fig. 118 沢町遺跡出土の皿群石器 (米坂コレクション208~224)

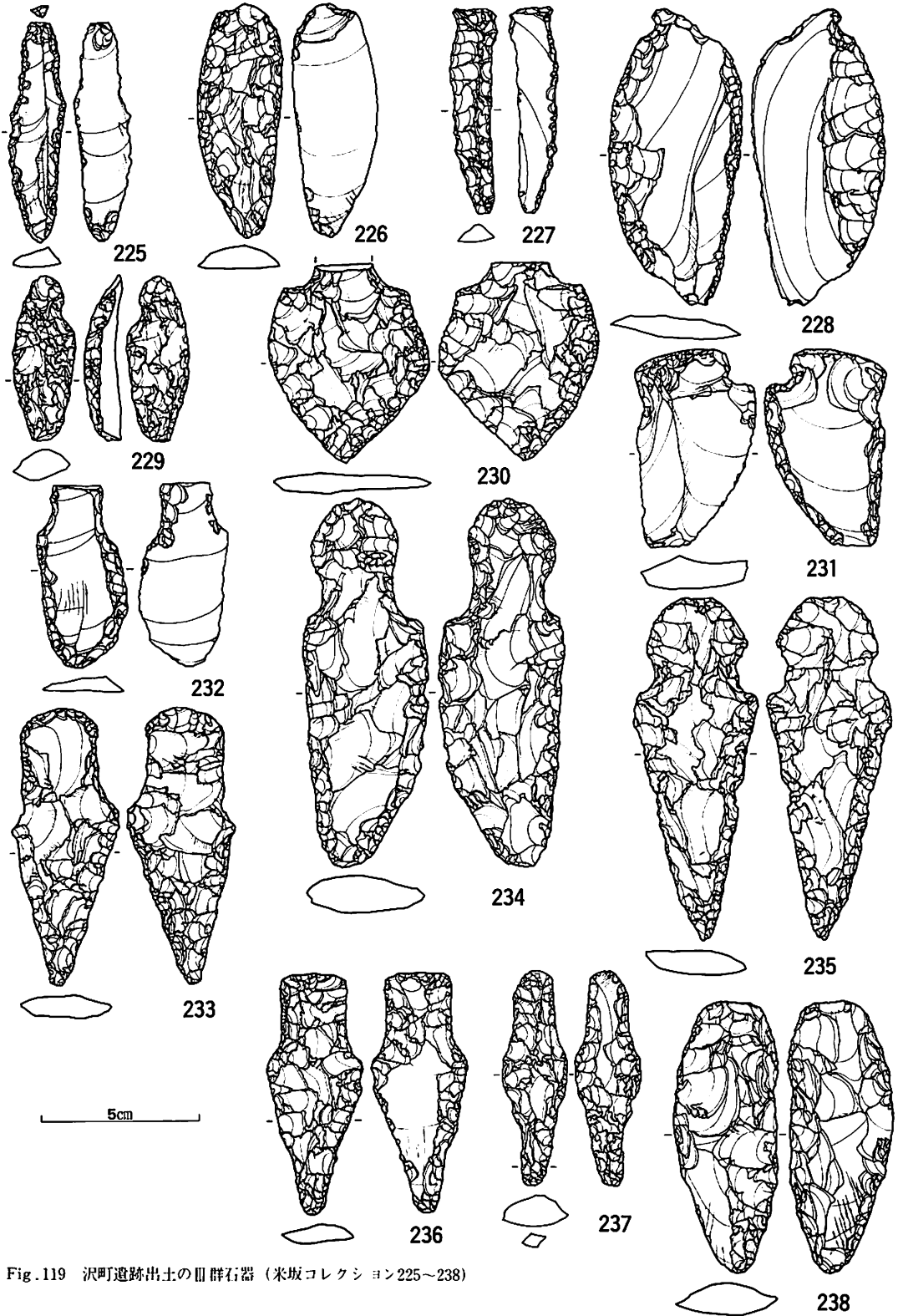


Fig. 119 沢町遺跡出土のⅢ群石器（米坂コレクション225～238）

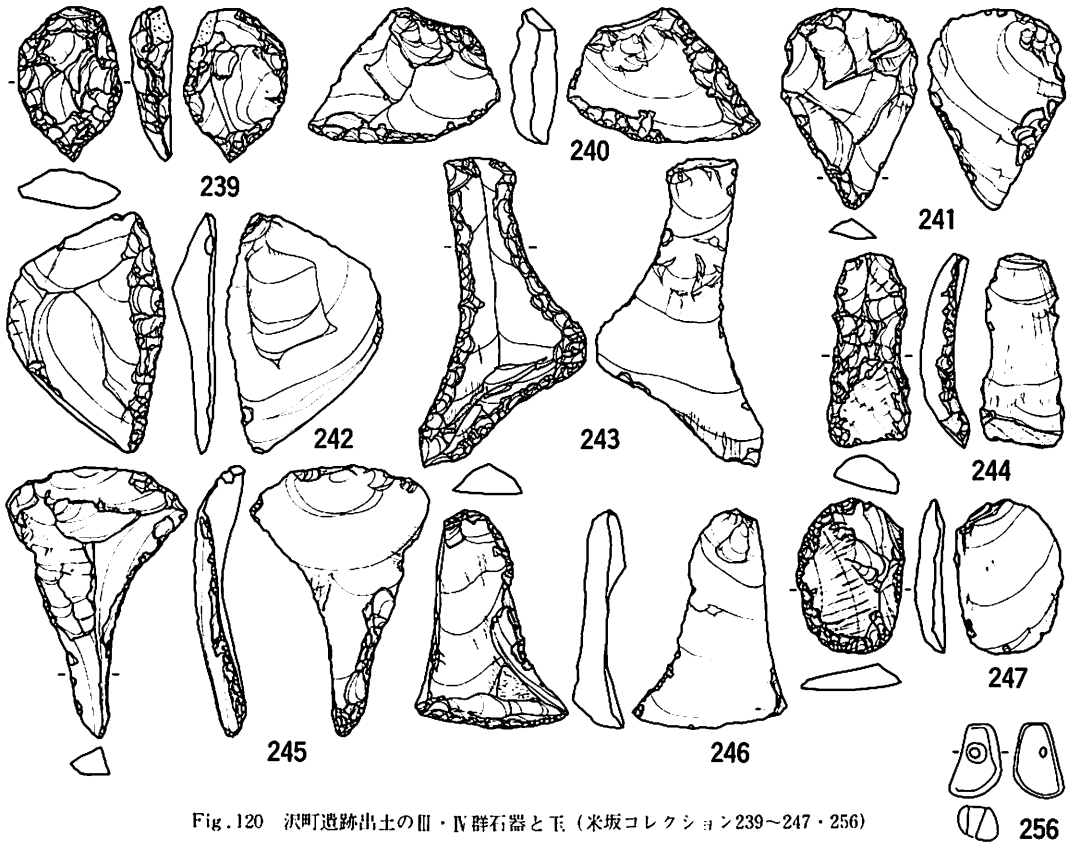


Fig. 120 沢町遺跡出土のⅢ・Ⅳ群石器と玉 (米坂コレクション239~247・256)

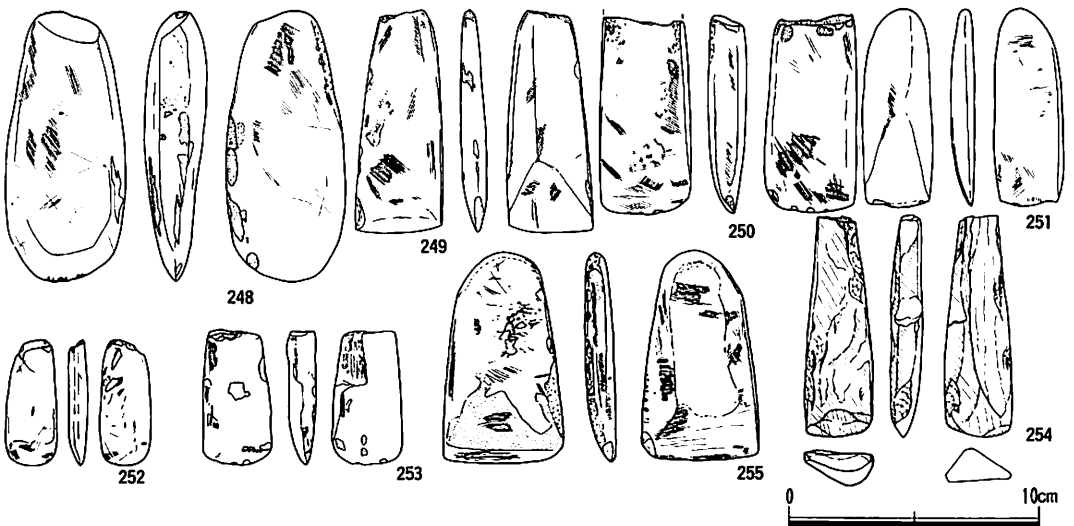


Fig. 121 沢町遺跡出土のⅤ群石器 (米坂コレクション248~255)

である。251は素材を大きく変更していない。平べったい河原石等を利用している。基部側はほとんど自然面である。252はV群b類であろう。基部を若干欠いている。253も基部を欠いている。254は、いわゆる「丸ノミ型石斧」である。基部を若干欠いている。

256は米坂コレクション唯一の玉である。ヒスイ製であり原石産地については第8章第3節にあるように、糸魚川産とのことである。緑色とはいうもののあまり美しいものではない。

以上、米坂コレクションの主要なものを紹介した。他に130点ほどの図示しなかった遺物がある。

第2節 土野コレクション

今回の発掘調査区東側の旧土地所有者であった土野 茂氏が永年に亘って表面採集した資料である。借用したので、この機会に紹介する。

1・2はI群a類, 3はI群b類石器である。4～6はII群b類である。13は基部に自然面を残している。五角形様の形状を呈す。17は比較的大形の石斧である。基部を欠いている。18は、ほぼ半折しているものである。石斧に使用する石材としては非常に珍しい石質である。使用痕が顕著に認められる。

19はVI群a類の先端部破片である。遺構外出土の石棒(39)と同様、斜位に平行にキズが認められる。何故、このようなキズが残されているのであろうか。興味深い。製作過程の最終段階における何らかの意味があったものとみられる。いずれ明らかにしたい。

これらの図示した資料以外に80点ほどの資料がある。縄文時代晩期の土器片約30点、黒曜石の石鏃・削器・剝片等30点、頁岩質の石錐・削器・剝片等5点、石斧10点、刀の断片の一括資料等である。土野氏採集資料のほとんどは発掘区西側の沢を挟んだ反対側の尾根上から出土したということである。近世の刀等もあり、米坂資料とあわせて考えると、非常に多時期に亘る遺跡であることがわかる。遺跡の総面積も、表面採集地点等から数万㎡に及ぶものと推察される。(宮)

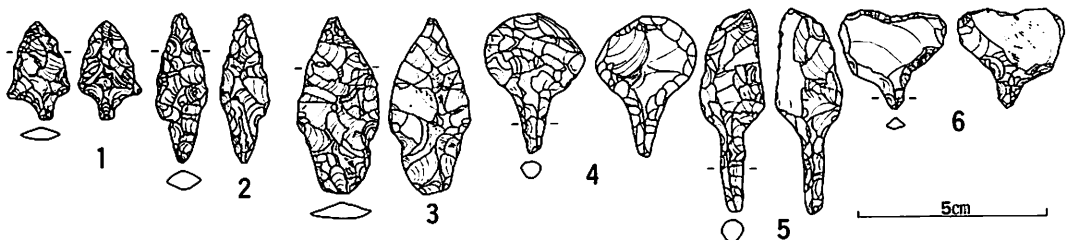


Fig. 122 沢町遺跡出土のI・II群石器(土野コレクション1～6)

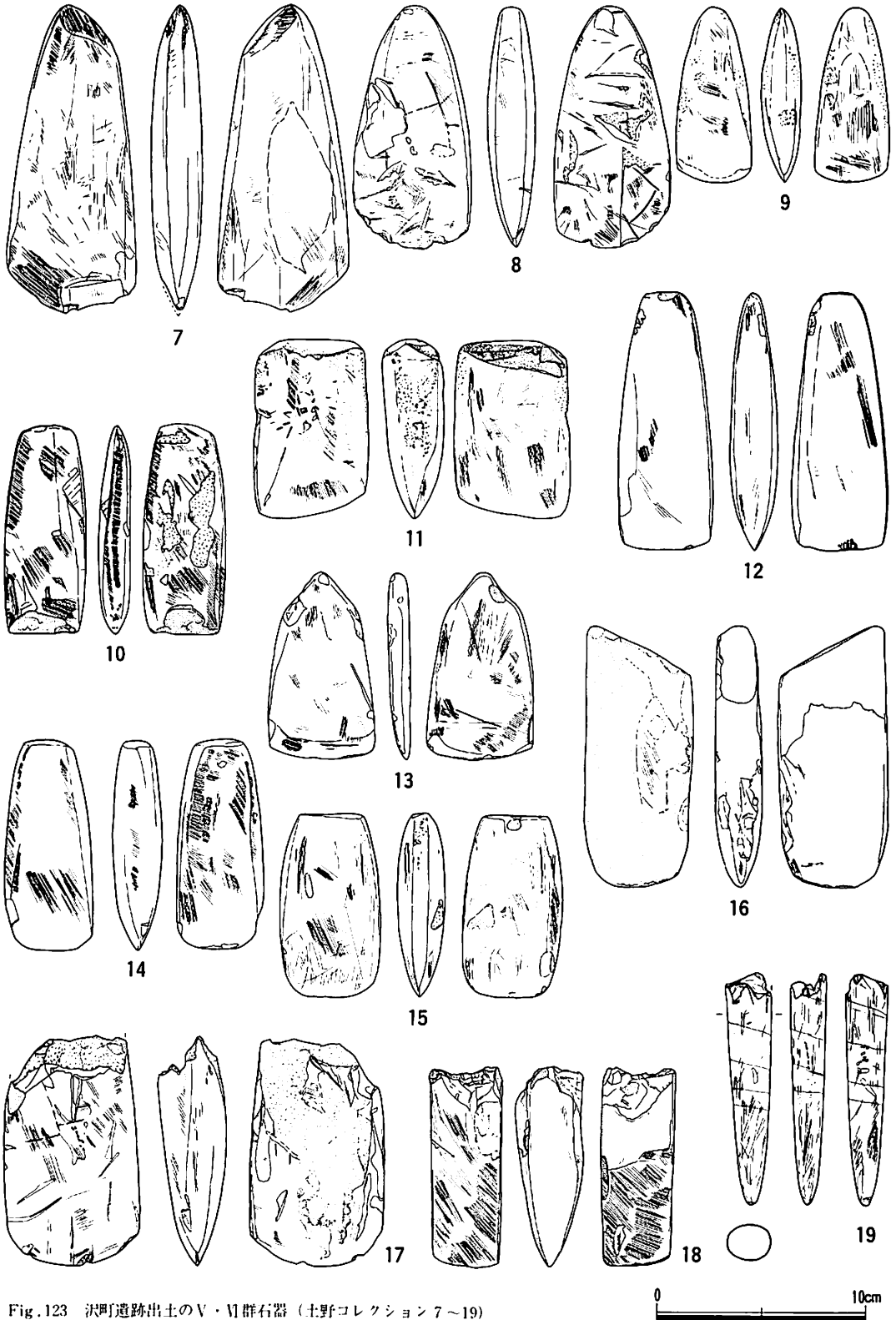


Fig. 123 沢町遺跡出土のV・VI群石器（土野コレクション7～19）

第8章 分 析

第1節 沢町遺跡墓壇伴出炭化物の放射性炭素 年代測定結果報告

木越邦彦 (学習院大学理学部)

沢町遺跡第62号墓壇及び第80号墓壇伴出の炭化物試料についての¹⁴C年代測定の結果を下記の通り御報告致します。

なお年代値の算出には¹⁴Cの半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用しています。また付記した誤差はβ線の計数値の標準偏差σにもとずいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また試料のβ線計数率と自然計数率の差が2σ以下のときは、3σに相当する年代を下限の年代値(B.P.)として表示してあります。また試料のβ線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての計数率との差が2σ以下のときには、Modernと表示し、δ¹⁴C%を付記してあります。

記

<u>Code No.</u>	<u>試料</u>	<u>年代 (1950年よりの年数)</u>
GaK-14075	Charcoal from 沢町遺跡	3150 ± 270
	GP-62 (第62号墓壇) - 1 M	1200 B.C.
GaK-14076	Charcoal from 沢町遺跡	3830 ± 200
	GP-80 (第80号墓壇) - 0.6 M	1880 B.C.

第2節 余市町の遺跡出土須恵器の蛍光X線分析

三辻利一（奈良教育大学）

1). はじめに

北海道内には、須恵器窯跡はない。それにもかかわらず、100ヶ所以上の遺跡で須恵器片が発見されている。これらはすべて本州からの搬入品である。もし、本州内の何処から搬入されたものであるかがわかれば、古代における北海道と本州との政治的、社会的関係を考察する上に重要な情報となる。現在、道内各地の遺跡から出土した須恵器の化学分析が進められており、その産地が解明される日もそう遠くはないであろう。本項では余市町内の2・3の遺跡から出土した須恵器の蛍光X線分析の結果について報告する。

2) 分析結果

北海道内の遺跡出土須恵器の産地はまだ、手探り状態にあるので、判別分析法は適用しない。母集団（産地）を手探りする場合は、一番手っとり早い方法は近距離の窯跡群の中から逐次、作図法で対応させていくことである。窯跡群こそ、外部へ須恵器を搬出するための須恵器生産工場と考えられるからである。まず、第一候補として考えなければならないのは青森県五所川原窯跡群である。これまでも、しばしば、五所川原窯跡群産の須恵器が道内の遺跡から検出されている。五所川原群の須恵器はFe量が多いという特徴をもつ。そこで試料をFe因子で五所川原群に対応させてみた。その結果をFig.124に示す。Na1～7は須恵器であり、Na8は晩期と推定される縄文土器である。五所川原領域に対応するものは一点もないことがわかる。7点の須恵器はすべて、五所川原窯跡群以外の産地からの搬入品である。となると、次に、東北地方の窯跡群に産地を求めなければならない。東北地方の須恵器は太平洋沿岸地域と、日本海沿岸地域で異ったK、Rb特性をもつことがわかっている。そこで、次に、K因子を対応させてみることにした。その結果をFig.125に示す。7点の須恵器のK量はかなり多い方である。宮城県、岩手県、福島県などの北上、阿武隈山系周辺に窯跡出土須恵器にはK量はもっと少ない。したがって、これら7点の須恵器は東北地方太平洋沿岸地域からの搬入品ではないことも、ほぼ確実である。そうすると、これらの須恵器の産地としては東北地方から北陸地方へかけての日本海沿岸地域を考えなければならなくなる。そのため、Fig.125では参考として山形県酒田市の城輪窯跡群、佐渡の小泊窯跡群、能登半島の羽咋窯跡群との対応を試みた。参考としたのは、筆者の手元にこれらの地域の須恵器窯跡群の推定操業年代が十分そろっていないからである。Fig.125より、K量の多いNa1,2,3は類似した化学特性をもっており、同一産地のものである可能性をもつ。これらは小泊群にも城輪群にも対応せず、羽咋群にしか対応しない。一方、Na4,5,6,7の4点は羽咋群は勿論、小泊群、城輪群にも対応し得る。Fig.126にはCa因子を対応させてある。小泊群、城輪群、羽咋群の間にCa量は大差なく、7点ともこれらの領域にほぼ対応する。ただ、Na6のみはCa量が多い。

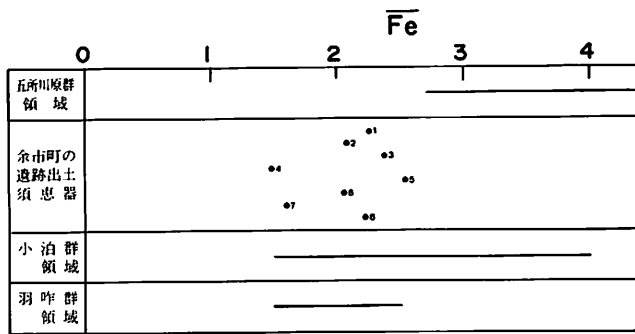


Fig. 124 Fe 因子の対応

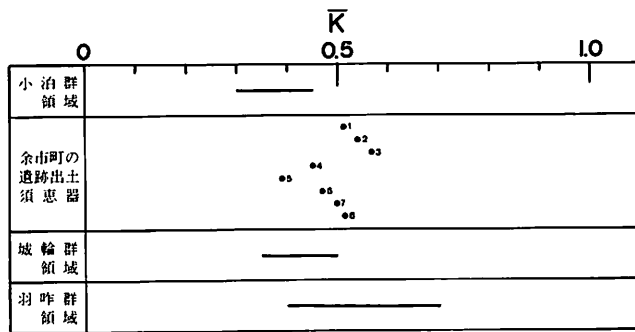


Fig. 125 K 因子の対応

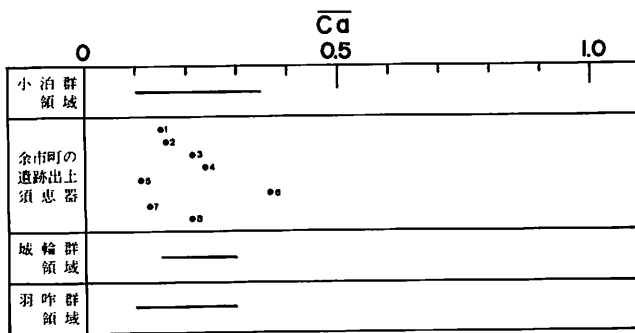


Fig. 126 Ca 因子の対応

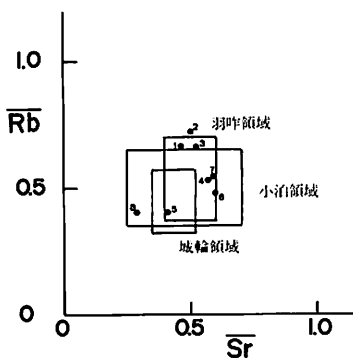


Fig. 127 Rb - Sr 分布図

最後に、Fig.127にはRb-Sr分布図を示す。No. 1, 2, 3はこの分布図でもまとまって分布する。恐らく、これら3点は同一産地からの搬入品であろう。かつ、Rb-Sr分布図でも小泊領域や城輪領域をずれる。羽咋領域とも必ずしもびったり対応する訳ではないので、羽咋群産と言う訳にもいかない。ただ、全因子の対応からみて、東北地方の日本海沿岸地域よりも、むしろ、能登半島辺りに産地を求めた方が良くも思われる。この点については今後、考古学的にも吟味を必要としよう。No.4,5,6,7は同一産地のものであるかどうか、目下のところ、判断ができない。全因子の対応からみて、これらは小泊群産である可能性は否定することはできない。と同時に、能登半島産である可能性をもつので、これらも今後、考古学的な器形観察による吟味も必要である。いずれにしても、これら7点の須恵器は東北地方から北陸地方へかけての日本海沿岸地域からの搬入品であることはほぼ確実である。

No.8の大洞BC式縄文土器もK量が多く、東北地方太平洋沿岸地域や関東地方からの搬入品とは考え難い。K量をみる限り、東北、北陸地方の日本海沿岸地域か西日本に産地を求めなければならないだろう。現在のところ、縄文土器の

化学分析の実例が少なく、対照とする試料の分析データが少ないのが残念である。

2点の粘土の分析結果も現在のところ、この縄文土器の産地を推定するには参考にはならない。阿武隈・北上山系から十和田湖を経て、道南、道東にかけての花崗岩類、大山灰の分析データを見ると、いずれもK、Rb量が少なく、Ca、Sr量が多いという特徴をもっていることが明らかにされている。したがって、この地域の基盤岩石はこれとほぼ同じ化学特性をもつてよい。ただ、これらが風化して土壌や粘土へ変化していく過程については十分解明されていないので、結論的に物を言うことはできないが、これまでの土壌、粘土の分析データをみている限り、これらの地域の土壌、粘土にも他地域に比べてK、Rb量は少ない。ただ、Ca、Sr量はK、Rbに比べて風化が速いためか、それ程多いとは言いがたい。これらのことを考慮に入れると、これ程K量の多い、この縄文土器は胎土からみても北海道内産であるとは考え難いと言えよう。

第3節 余市町沢町遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析

薬科哲男・東村武信（京都大学原子核実験所）

はじめに

遺跡から出土するヒスイ製遺物の産地分析というのは、ヒスイの製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを調査するのではなくて、何ヶ所かあるヒスイ原産地のうち、どこの原産地のヒスイ原石を使用しているかを明らかにするのが、ヒスイ製遺物の原産地推定である。ヒスイ製遺物の原石の産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説、発見後は、専ら国内説で、岩石学的方法により長者ヶ原遺跡出土のヒスイと姫川産の原石との関係を調べたのが有名である¹⁾。貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った例は、蛍光X線分析で行う元素比法で、黒曜石石器の産地分析である²⁾。この方法を用いて今回ヒスイの産地分析を試みた。石器とヒスイ製品はそれぞれ使用目的が異なる為、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。(1)石器は生活必需品であるため、石器の原材産地推定で明らかにできるところの遺跡から石材原産地までの移動、活動範囲は、生活上必要な生活圏と考えられる(2)ヒスイは古代人が生きるために必ずしも要するものではない。ヒスイ製品は権力の象徴、お祭、お守り、占いの道具、アクセサリとして、精神的な面に重要な作用を与えると考えられる。従って、ヒスイ製遺物の産地分析で、明らかになるヒスイ原石の分布範囲は、権力の象徴としてのヒスイであれば、権力圏を表わしているかもしれない。また、お祭、お守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏に関するものと考えられ、こうして石器の原材産地分析では得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。

今回分析を行った遺物は、余市町沢町遺跡出土の縄文時代晩期前葉のヒスイ製などの玉類20点である。これら遺物の分析結果が得られたので報告する。

非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、ヒスイ原産地間を区別する人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかないという指標を見つけないといけない。その区別するための指紋は鉱物組成の組み合わせ、比重の違い、ヒスイに含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。この方法が成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指紋でもって区別できたならば、次に遺跡から出土するヒスイ製遺物の指紋と原産地の指紋を比較し、一致しない原産地を消去して、一致する原産地の原石が使用されていると判定する。

ヒスイ製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多くて、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ発展しない。石器の原材産地分析で成功している非破壊で分析を行なう蛍光X線法を用いてヒスイに含有されている元素を分析する。分析試料は、遺跡から出土したヒス

イ勾玉などを水洗いして試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊分析である。含有元素の励起は放射性同位元素から放射するX線を利用し、試料から放出されるいろいろな蛍光X線は、半導体検出器によって蛍光X線のエネルギーに対応した電気パルス信号に変換して処理されて蛍光X線スペクトルを作り、試料中の元素の種類と含有量を求める。試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比をとり、この元素比の値を原産地を区別する指紋とした。

ヒスイの原産地と産地分析を行った遺物

日本産出の分析したヒスイ原石の原産地をFig.128に示す。図中○はヒスイの原産地を示し、ヒスイ原石は、(1)新潟県糸魚川市、西頸城郡青海町からの産出する糸魚川産、(2)軟玉ヒスイと言われる北海道沙流郡日高町千栄の日高産³⁾、(3)鳥取県八頭郡若桜町角谷の若桜産、(4)岡山県阿哲郡大佐町の大佐産、(5)長崎県長崎市三重町の長崎産の各原産地からの原石を、また、肉眼的にヒスイに類似した原石で玉類等の原材になったのではないかと考えられる(6)長崎県西彼杵郡大瀬戸町雪浦からの原石を分析した。外国産は、ビルマ産の硬玉と台湾産の軟玉の両ヒスイの分析も行った。

今回分析を行った余市町沢町遺跡出土のヒスイ製玉類遺物はPL. 18に示す。

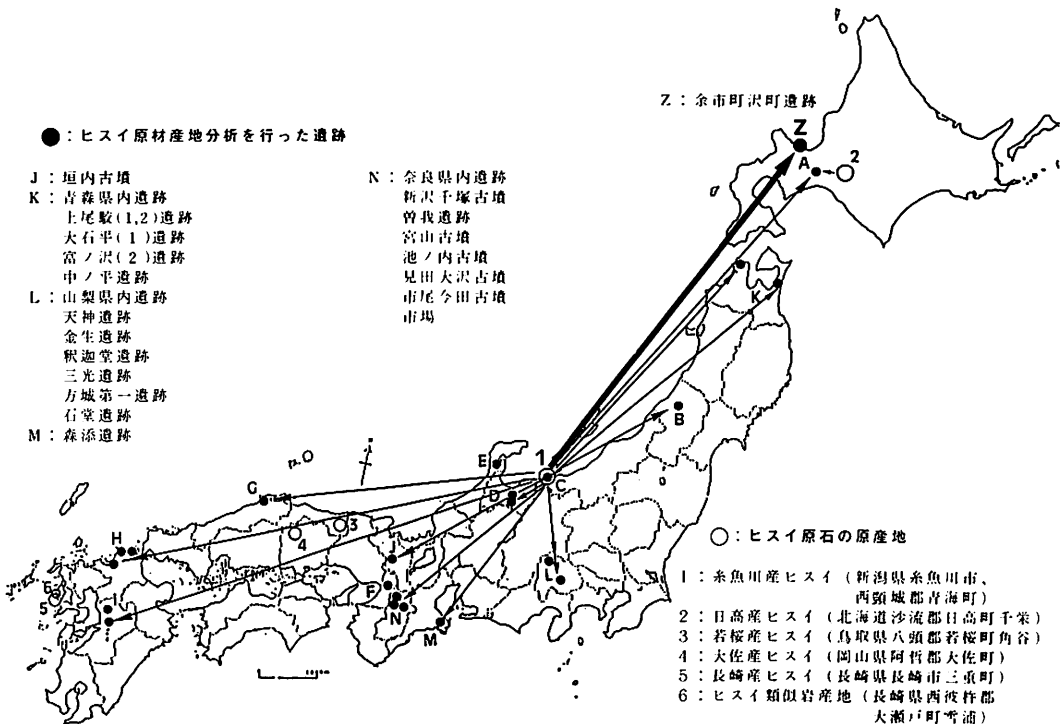


Fig.128 余市町沢町遺跡出土のヒスイ製玉類の原石産地とヒスイの原産地

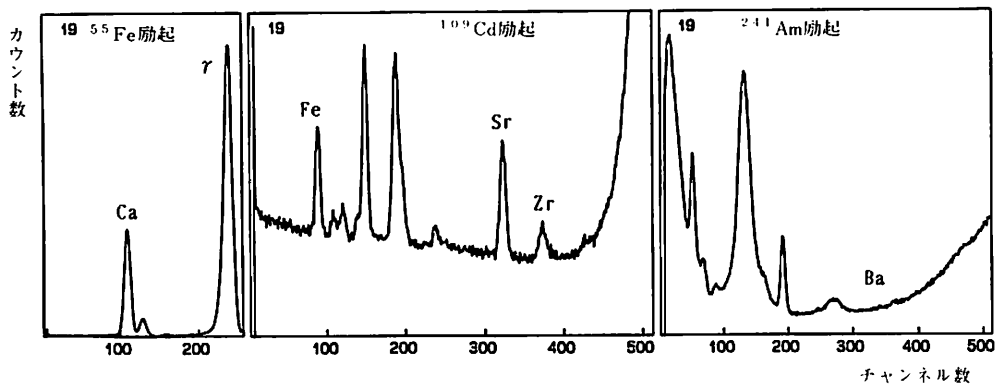


Fig.129 余市町沢町遺跡出土のヒスイ製玉Na19の蛍光X線スペクトル

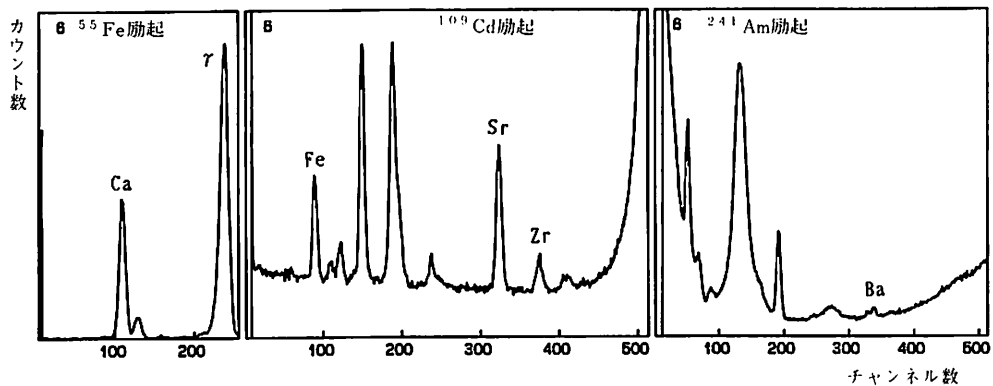


Fig.130 糸魚川産ヒスイ原石の蛍光X線スペクトル

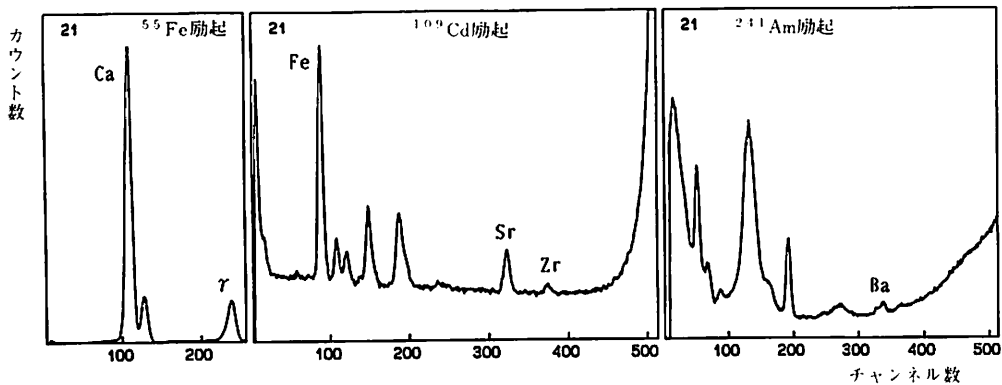


Fig.131 日高産ヒスイ原石の蛍光X線スペクトル

ヒスイ試料の蛍光X線分析

本報告の蛍光X線分析装置では、ヒスイの主成分元素が軽元素⁴⁾であるため分析できず、ヒスイに少量含有されている、Kより重い元素の分析となる。ヒスイに含有されている元素のうちカリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタニウム(Ti)、クロム(Cr)の各元素は⁵⁵Feの、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)、ニオブウム(Nb)の各元素は¹⁰⁹Cdの、バリウム(Ba)、ランタニウム(La)、セリウム(Ce)の各元素は²⁴¹Amの各放射性同位元素の励起線源を使用して効率よく元素を分析する。遺物と原産地について代表的な蛍光X線スペクトルを選んでFig.129~131に示す。Fig.129にヒスイ製玉遺物、Fig.130に糸魚川産ヒスイ原石、Fig.131に日高産ヒスイ原石の蛍光X線スペクトルをそれぞれ示した。これら蛍光X線スペクトルは、⁵⁵Fe励起では、K、Tiのピークは、含有量が少ないため小さく、Caは含有量が多くピークも大きく観測される。 γ のピークは励起線源のX線が試料によって散乱された一部が観測されたもので、そのピークの大きさは、主に試料の分析面積に比例する。¹⁰⁹Cd励起のスペクトルでは、大きなピークとしては、Fe、Sr、Zrが見られる。ZrのピークにはSrのK β 線のピークが重なっているため、本当のZrのピークより大きくなっている。FeとSrの間の110~250チャンネル間で見られるピークは分析装置からのもので試料からのピークではない。²⁴¹Am励起のスペクトルでは1~300チャンネル間のピークが装置からのピークで、Ba、La、Ceなどの元素ピークが見られる範囲は300~410チャンネルの間である。各原産地の原石の特徴を記述する⁶⁾。若桜産のヒスイ原石はSrのピークがFeのピークに比べて相当大きく、またZrの隣に非常に小さなNbのピークが見られ、Baのピークも大きく、糸魚川産では見られないLa、Ceのピークが観測されている。このCeのピークは大佐産と長崎産ヒスイ原石のスペクトルにも見られ、これらCeの元素の含有する原石の産地は、糸魚川の産地と区別するときには有効な判定基準になる。長崎産ヒスイは、Tiの含有量が多く、Yのピークが見られるのが特徴的である。Fig.131の日高産のヒスイ原石は、Caに対するTiとかFeに対するSrなどのピークが小さいのが特徴で糸魚川産のものと区別するときの判断基準になる。ヒスイ類似岩を分析したのは古代人が、ヒスイに類似した岩石をヒスイの代替品として勾玉、大珠などの原材料に使用している可能性が考えられるためである。この岩石は比重が2.91と小さく、比重でもって他の産地のものと区別できる。また250~300チャンネルの間に砒素(As)のピークが見られる個体が多いのも特徴である。

これら各原産地の原石は同じ産地の原石であっても、原石ごとに元素の含有量には異同がある。したがって、一つの原産地について多数の原石を分析し、各元素の含有量の変動の範囲を求めて、その産地の原石の特徴としなければならない。

糸魚川産のヒスイは、白色系が多いが、緑色系の半透明の良質のもの、青色系、コバルト系、およびこれらの色が白地に縞となって入っているものなど様々である。分析した糸魚川産原石の比重を調べると、硬玉の3.2~3.4の範囲のものと、3.2に達しない軟玉に分類される原石もある。若桜産、大佐産の分析した原石には、半透明の緑色のものはないが、全体が淡青緑かかった乳白

色のような原石が多い。このうち大佐産原石の比重が3.20に達したものはなく、これら原石は軟玉に属すると思われる。長崎産のヒスイ原石は3点しか分析できなかったが良質で、このうち1点は濃い緑色で、他の2点は淡い緑色で、少しガラス質である。日高産ヒスイの原石は肉眼観察では比較的糸魚川産のヒスイに似ている。ビルマ産のヒスイ原石は、質、種類とも糸魚川産のヒスイ原石と同じものが見られ肉眼で両産地の原石を区別することは不可能と考えられる。元素分析の結果も大部分は、糸魚川産原石の結果と重なり区別できないが、一部のビルマ産と糸魚川産の原石で重ならないものがあり、これについては区別が可能になる。分析した台湾産のヒスイは軟玉に属するもので、暗緑色のガラス質の原石である。これら各原産地の原石の分析結果から各産地を区別する判断基準を引き出し産地分析の指標とする。

ヒスイ原産地の判別基準

原石産地の判定を行うときの判断基準を原石の分析データから引き出すが、分析個数が少ないため、必ずしもその原産地の特徴を十分に反映したと言えない産地もある。Tab.2に各原産地ごとの原石の比重と元素比重をまとめた。元素比重の数値は、その原産地の分析した原石の中での最小値と最大値の範囲を示し、判定基準(1)とした。糸魚川産のヒスイで比重が3.19未満の軽い原

ヒスイ製造物の原石産地の判定基準(1)

原産地名	分析個数	比重	蛍光X線法による元素比の範囲				
			K/Ca	Ti/Ca	Sr/Fe	Zr/Sr	Ca/γ
糸魚川産	15	3.19~3.35	0.01~0.17	0.01~0.56	0.15~30	0.00~2.94	0.33~12
若桜産	12	3.12~3.29	0.01~0.91	0.03~0.59	3.45~47	0.00~0.25	1.4~9.4
大佐産	20	2.85~3.17	0.01~0.07	0.00~1.01	3.18~61	0.00~12.4	0.79~3.52
長崎産	3	3.16~3.23	0.01~0.14	0.17~0.33	0.02~0.06	4.30~16.0	
日高産	22	2.98~3.29	0.00~0.01	0.00~0.02	0.00~0.37	0.00~0.063	3~58
ビルマ産	23	3.15~3.36	0.02~0.14	0.01~0.26	0.09~2.5	0.01~23	
台湾産	1	3.00	0.003	ND	ND	ND	

ND：検出限界以下の濃度

ヒスイ製造物の原石産地の判定基準(2)

原産地名	蛍光X線法による分析元素 (各元素が確認できた個体数の百分率)							
	Cr	Mn	Rb	Y	Nb	Ba	La	Ce
糸魚川産	26%	6%	20%	ND	13%	33%	ND	ND
若桜産	ND	ND	16%	ND	100%	100%	67%	67%
大佐産	ND	ND	44%	ND	33%	100%	67%	67%
長崎産	ND	ND	ND	100%	100%	100%	100%	100%
日高産	tr	tr	ND	ND	ND	tr	ND	ND
ビルマ産	13%	4%	ND	ND	ND	35%	ND	ND
台湾産	tr	tr	ND	ND	ND	ND	ND	ND

ND：検出限界以下 tr：検出確認

Tab.2 ヒスイ製造物の原石産地の判定基準(1)・(2)

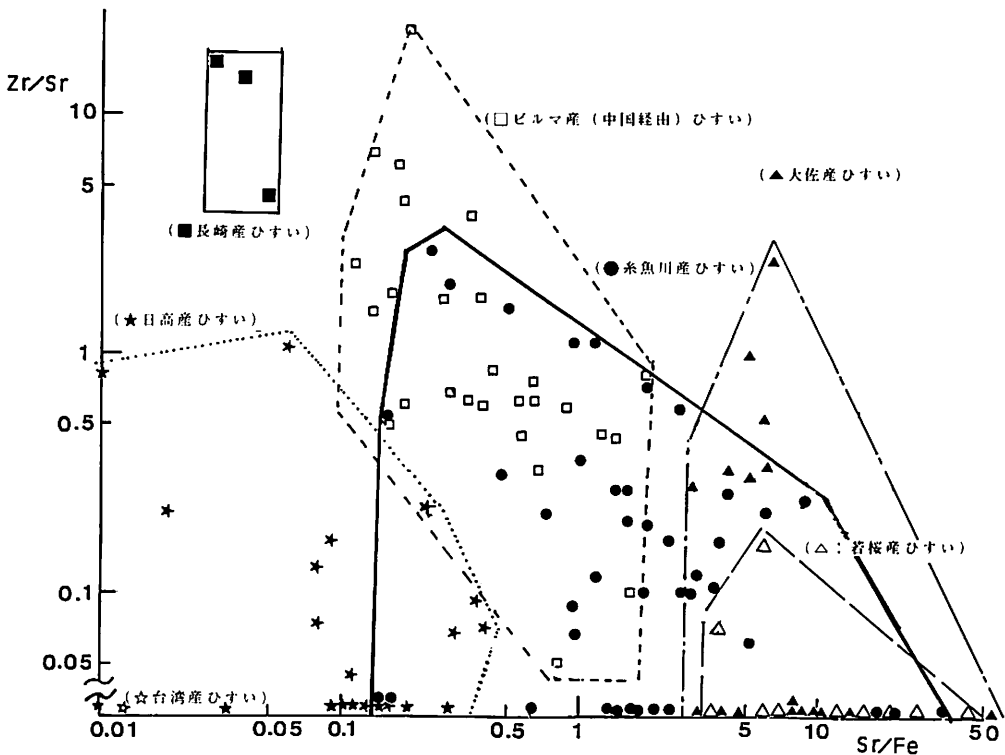


Fig.132 ヒスイ原石の元素比値Zr/Sr対Sr/Feの分布および分布範囲

石は、硬玉ヒスイではない可能性があるが、分析した遺物のなかに3.19未満の比重のものも見られることから、本報告ではこれらについてもデータ処理を行った。大佐産のヒスイは比重は3.17未満であった。このため遺物の比重が3.3以上を示す場合大佐産のヒスイでないと言える。日高産ヒスイではSr/Feの比重が小さく、糸魚川産と区別する判定基準になる。判定基準(2)にはCr, Mn, Rb, Y, Nb, Ba, La, Ceの各元素の蛍光X線ピークが観測できた個体数を%で示した表である。例えば遺物を分析してBaのピークが観測されなかったとき、その遺物は、若桜、大佐、長崎産のヒスイでないといえる。

判定基準(1)のSr/Fe, Zr/Srについては、判定の中心となった基準である。これらヒスイ原石のSr/Feの比の値とSr/Zrの比の値の分布を各原産地ごとにまとめて分布範囲をFig.132に示したものである。●は糸魚川産のヒスイで、分布の範囲を実線で囲み、この枠内に遺物の測定点が入れば糸魚川産の原石である可能性高いと判断する範囲で、□はビルマ産のヒスイの分布で、その範囲を短い破線で囲む。糸魚川の実線の範囲とビルマの破線の範囲の大部分は重なり両者は区別できないが、ビルマと糸魚川が区別される部分がSr/Feの値(横軸)2.5以上の範囲で見れる。この範囲の中に、遺物の測定点が入ればビルマ産と考えるより、糸魚川産である可能性の方が高いと考えられる。▲は大佐産のヒスイの分布で、△は若桜産のヒスイの分布を示している。

糸魚川と大佐、若桜のヒスイが重なる部分に遺物の測定点が入った場合、これら複数の原産地

試料 番号	遺 物 品 名	出 土 地 点	元素分析値の比					分析元素の有無 ○有、△微量、×無				試 料 比 重	試 料 重 量
			K/Ca	Ti/Ca	Sr/Fe	Zr/Sr	Ca/γ	Nb	Ba	La	Ce		
1	白玉	GP-7.1	0.007	0.019	1.420	0.049	3.010	×	×	×	×	3.28	8.24
2	平玉	GP-7.2	0.006	0.024	2.626	0.093	4.363	×	×	×	×	3.31	3.52
3	平玉	GP-13.12	0.002	0.011	1.644	0.030	14.693	×	×	×	×	3.23	2.30
4	丸玉	GP-13.13	0.020	0.030	2.491	0.237	2.063	×	×	×	×	3.31	0.59
5	平玉	GP-17	0.004	0.012	0.866	0.024	14.132	×	○	×	×	3.21	2.95
6	白玉	GP-43	0.019	0.000	37.189	0.000	0.693	×	△	×	×	3.08	1.85
7	勾玉	GP-49.7	0.021	0.031	10.129	0.004	9.382	×	○	×	×	3.25	3.37
8	丸玉	GP-60.1	0.004	0.021	1.005	0.000	12.337	×	×	×	×	3.08	2.81
9	平玉	GP-60.2	0.007	0.008	3.353	0.144	6.726	×	△	×	×	3.28	2.23
10	丸玉	GP-60.3	0.002	0.015	0.971	0.042	18.320	×	×	×	×	3.31	2.45
11	白玉	GP-62.5	0.006	0.007	0.666	0.000	9.668	×	×	×	×	3.34	1.05
12	白玉	GP-70.11	0.009	0.006	1.398	0.009	5.378	×	○	×	×	3.25	4.77
13	平玉	GP-70.14	0.004	0.015	3.281	0.186	8.214	×	×	×	×	3.30	6.01
14	白玉	GP-73.6	0.004	0.020	3.656	0.089	4.204	×	×	×	×	3.29	1.51
15	丸玉	GP-73.12	—	—	—	—	—	×	△	×	×	2.63	1.44
16	白玉	GP-73.17	0.013	0.023	11.720	0.000	0.927	×	△	×	×	2.97	3.63
17	白玉	GP-73.19	0.023	0.026	1.372	0.026	1.898	×	△	×	×	3.20	9.82
18	平玉	GP-86.5	0.002	0.024	0.970	0.032	1.358	×	×	×	×	3.34	1.76
19	管玉	G25 II層	0.004	0.014	1.421	0.098	0.865	×	×	×	×	3.32	22.29
20	平玉	米坂コレクション	0.011	0.025	3.505	0.112	2.711	×	×	×	×	3.32	4.86

Tab.3 余市町沢町遺跡出土のヒスイ製玉類の元素分析値の比と比重

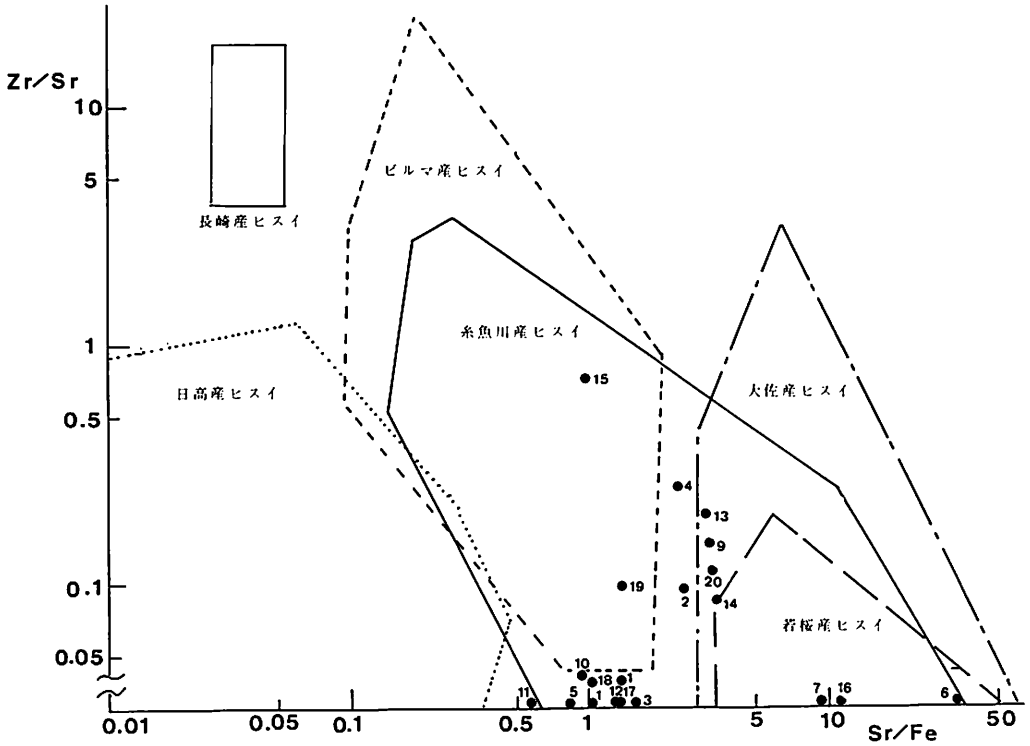


Fig.133 余市町沢町遺跡出土のヒスイ製玉類遺物Zr/Sr対Sr/Feの分布、およびヒスイ原石の分布範囲

を考えなければならない。しかし、この遺物にBaの蛍光X線スペクトルのピークが見られなかった場合、Tab.2の判定基準(2)に従えば糸魚川産のヒスイであると判定できる。■は長崎産のヒスイの分布で、独立した分布の範囲を持っていて他の産地のヒスイと容易に区別できる。星印は日高産のヒスイで大部分は、糸魚川、ビルマの両産と区別される。台湾産の軟玉はグラフの左下に外れる。

余市町沢町遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析

分析したヒスイ製の玉類の分析結果をTab.3に示し、Sr/Fe、Zr/Srの比の値を各原産地の原石の分布範囲と比較し、Fig.133に示した。№11番の遺物のみが糸魚川の枠から少し離れるが、この程度のずれでは糸魚川産のヒスイでないとはいえない。また、ビルマ産と重ならない糸魚川産の範囲に入る遺物もみられる。№6、7、9、13、14、16、20の各試料番号の遺物は糸魚川産と大佐、若桜産のヒスイ原石のSr/Feの範囲に入るために、このSr/Feの比量だけで判別する事はできず判定基準(2)に従えば、13、14の各番の遺物にはBaのピークが見られないことから、この2点が大佐、若桜産のヒスイの可能性は低いと思われる。残りの7、9、20の3点は比重が3.17以上あることから、大佐産の可能性は低い、また、№16は比重が2.97と低く軟玉に属する原石、またはヒスイ成分の含有が少ない原石ではなかろうか。大佐、若桜産に見られる確率の高いLa、Ceのピークは分析した遺物の総てから観測されなかった。この事は、これら遺物を糸魚川産のヒスイと考えたとき矛盾しない。

本遺跡から最も近いヒスイの原産地は、日高原産地で、日高ヒスイは美々4遺跡で1点の玉に使用されているらしいことが、本研究で明らかになっている。日高ヒスイが重要な古代の玉材の供給地であれば、多数使用されていると考えられる。判定基準(1)、(2)の外に糸魚川産と日高産の両ヒスイを区別する指標としてCa/γを用いた結果をFig.134に示す。□中△の日高産ヒスイ原石と○の糸魚川産ヒスイ原石のグループは明確に区別される。Fig.135の●で示した今回分析した遺物の中で日高ヒスイの枠の中に入るものはみられなかった。№15の玉は、比重が2.63でBa以外の蛍光X線ピークも見られないことから、石英質の緑玉ではなかろうか。今回分析したヒスイ製玉類の原石産地として一部の遺物は糸魚川原産地の他にビルマ、若桜原産地も考えられるが、遺物全体の分析値の分布は糸魚川産原石の分布範囲に似ることからFig.129に示すように本遺跡のヒスイ製玉類の原石産地は糸魚川産地であると推測した。

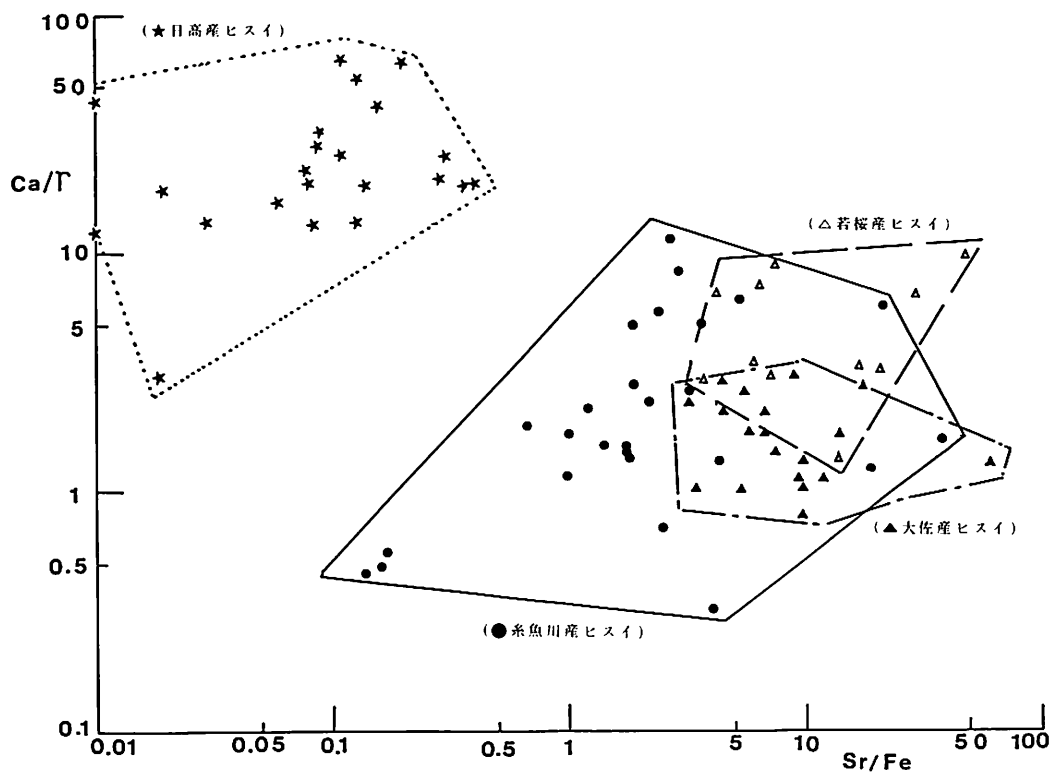


Fig.134 ヒスイ原石の元素比値Ca/r対Sr/Feの分布および分布範囲

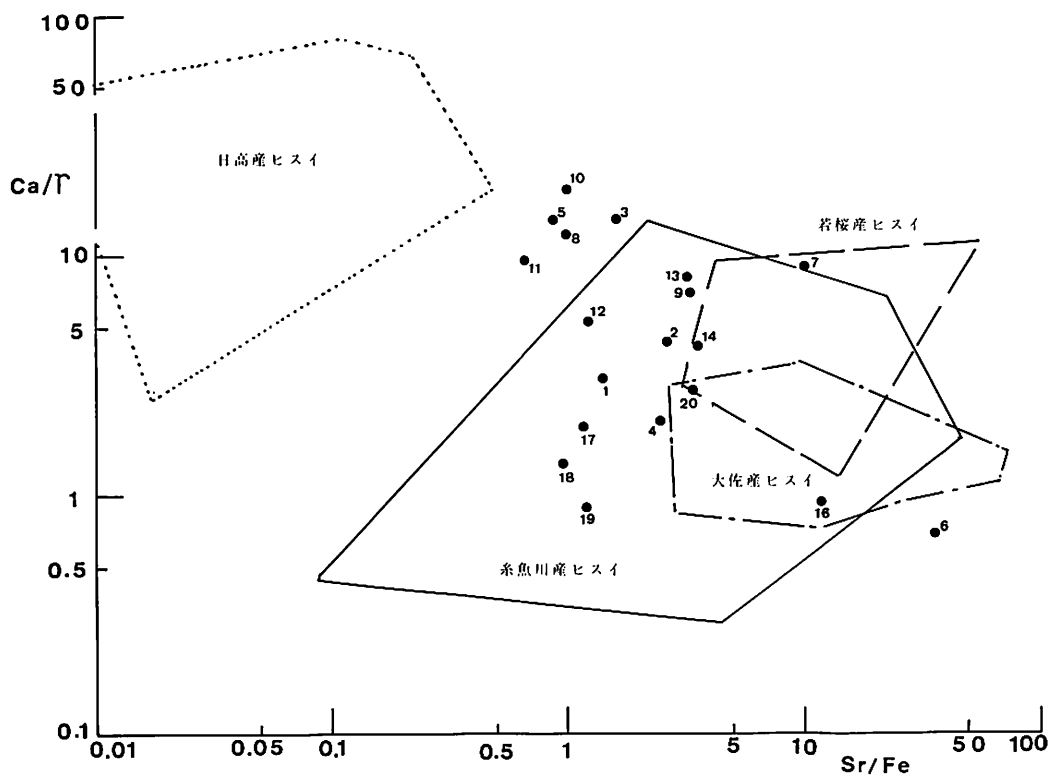


Fig.135 余山町沢町遺跡出土のヒスイ製玉類遺物のCa/Γ対Sr/Feの分布, およびヒスイ原石の分布範囲

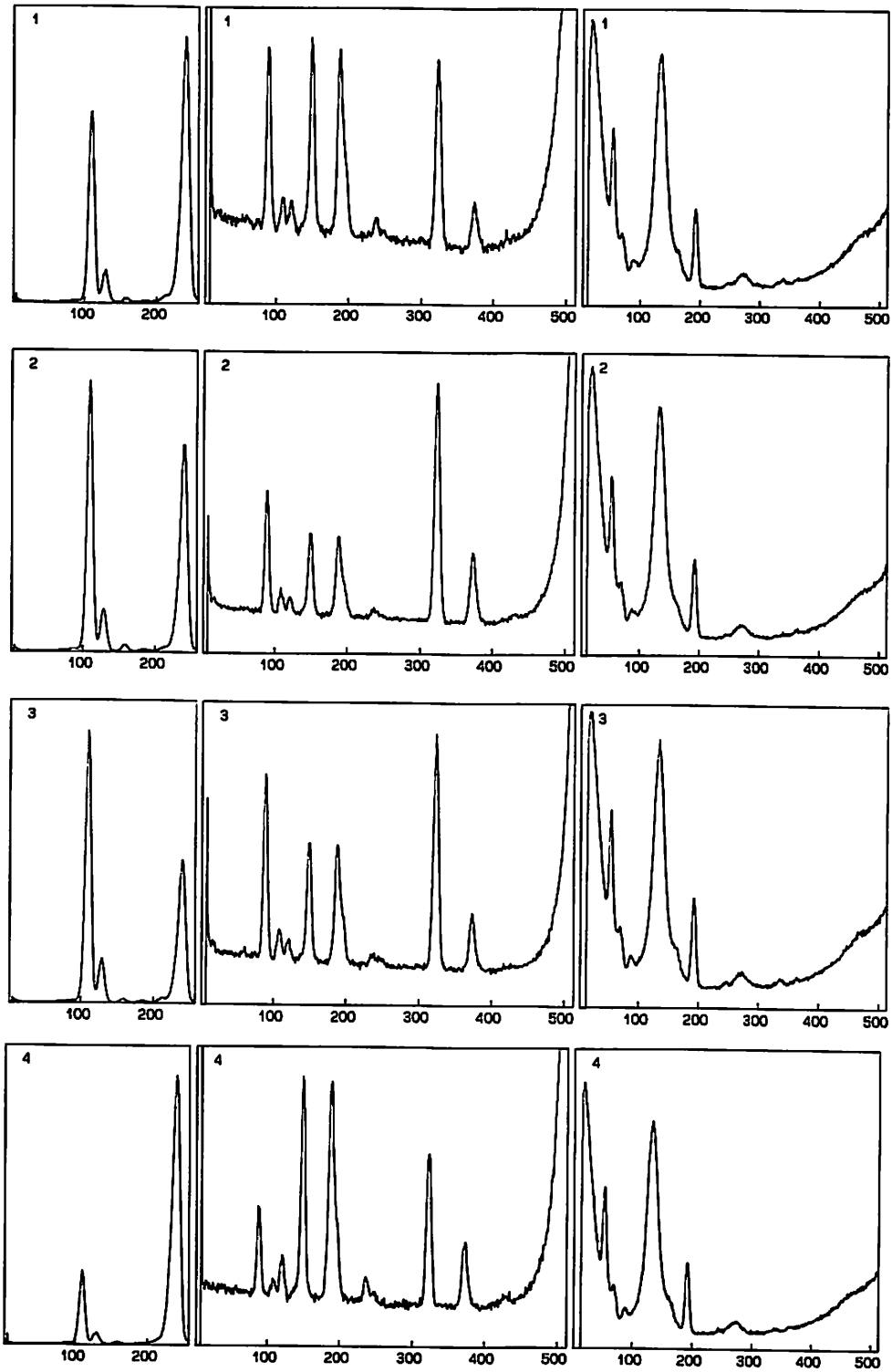


Fig.136 沢町遺跡出土ヒスイ玉スペクトル (1~4)

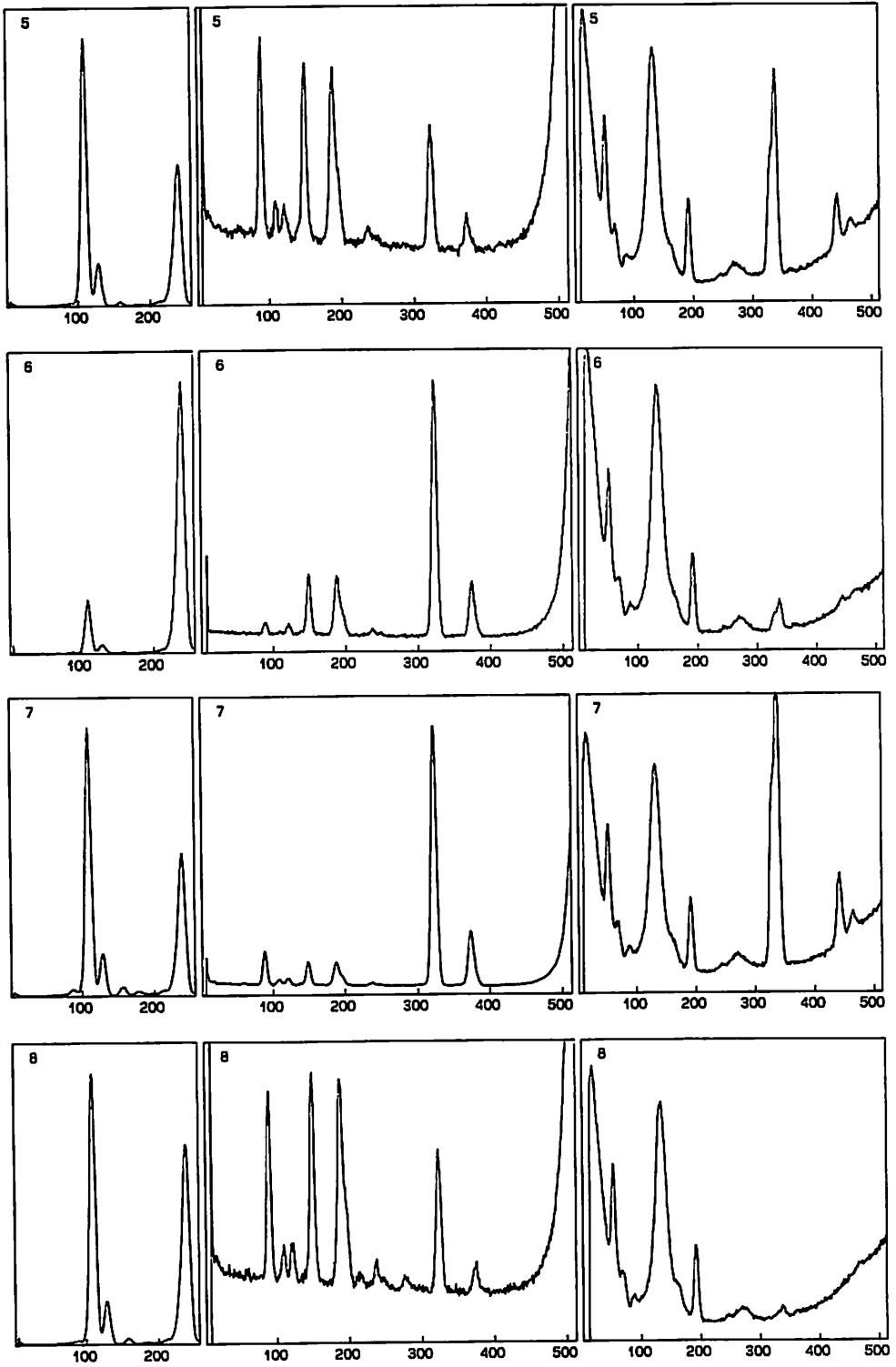


Fig.137 沢町遺跡出土ヒスイ玉スペクトル (5~8)

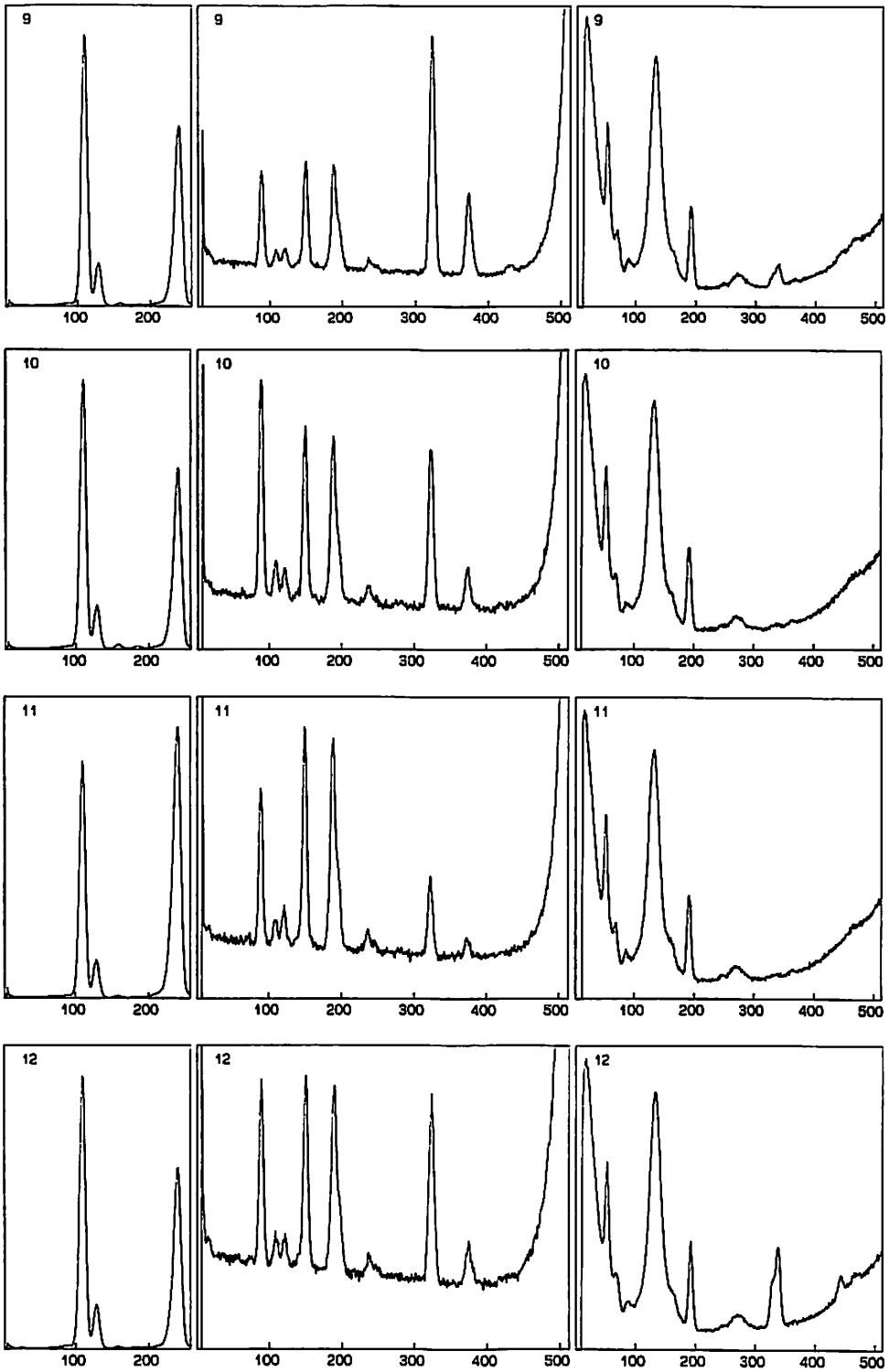


Fig.138 沢町遺跡出土ヒスイ玉スペクトル (9~12)

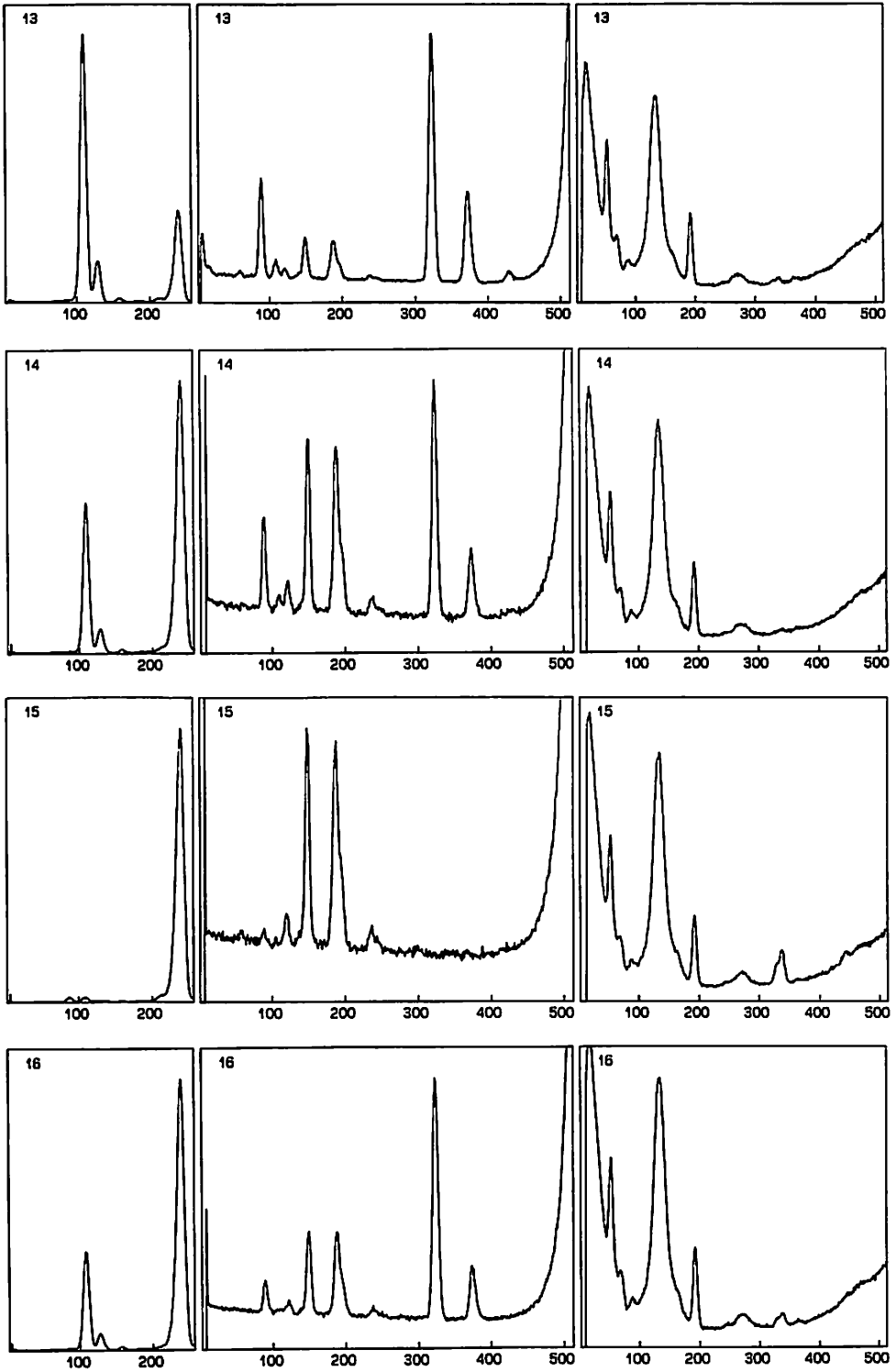


Fig.139 沢町遺跡出土ヒスイ玉スペクトル (13~16)

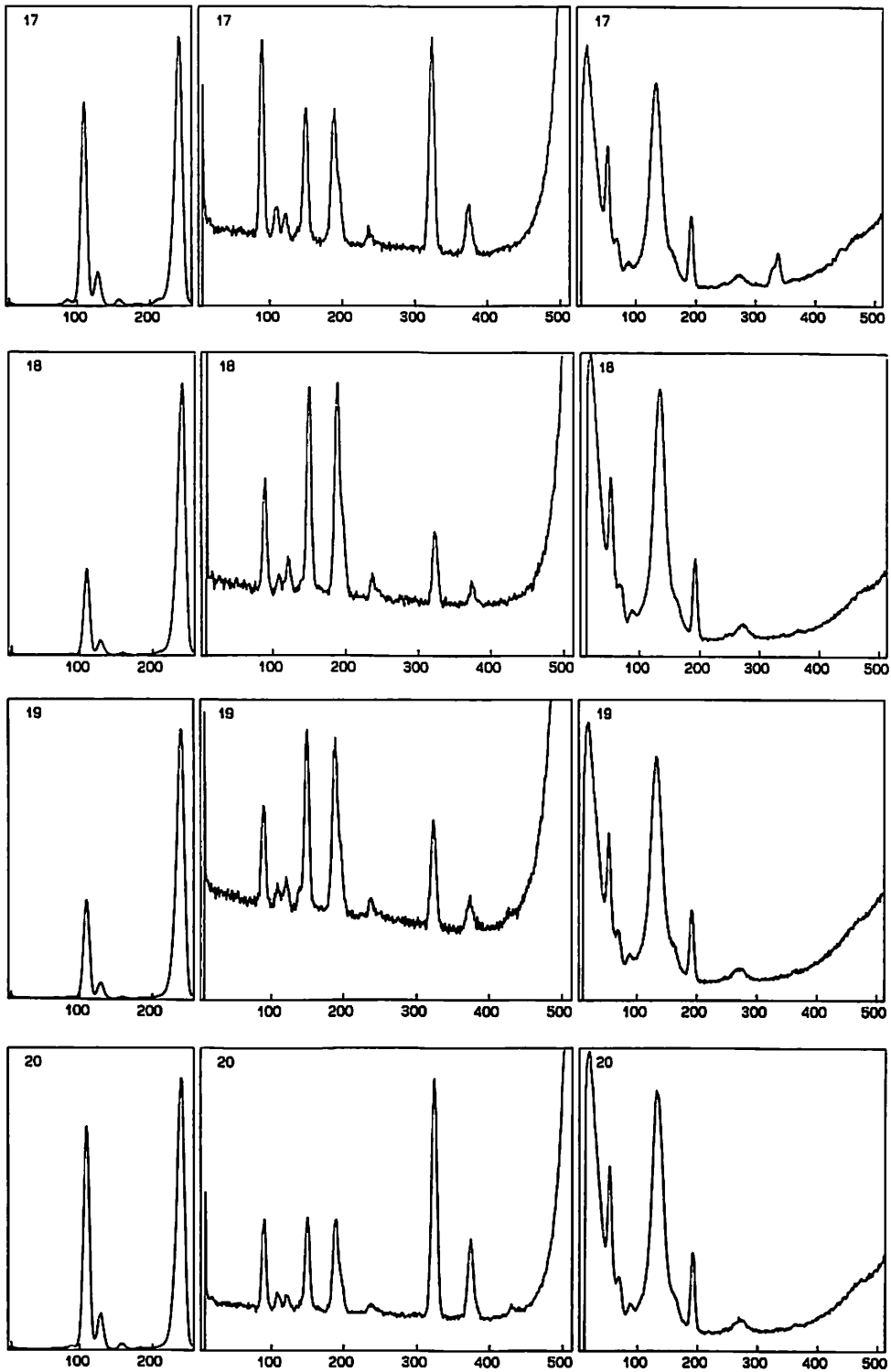


Fig.140 沢町遺跡出土ヒスイ玉スペクトル (17~20)

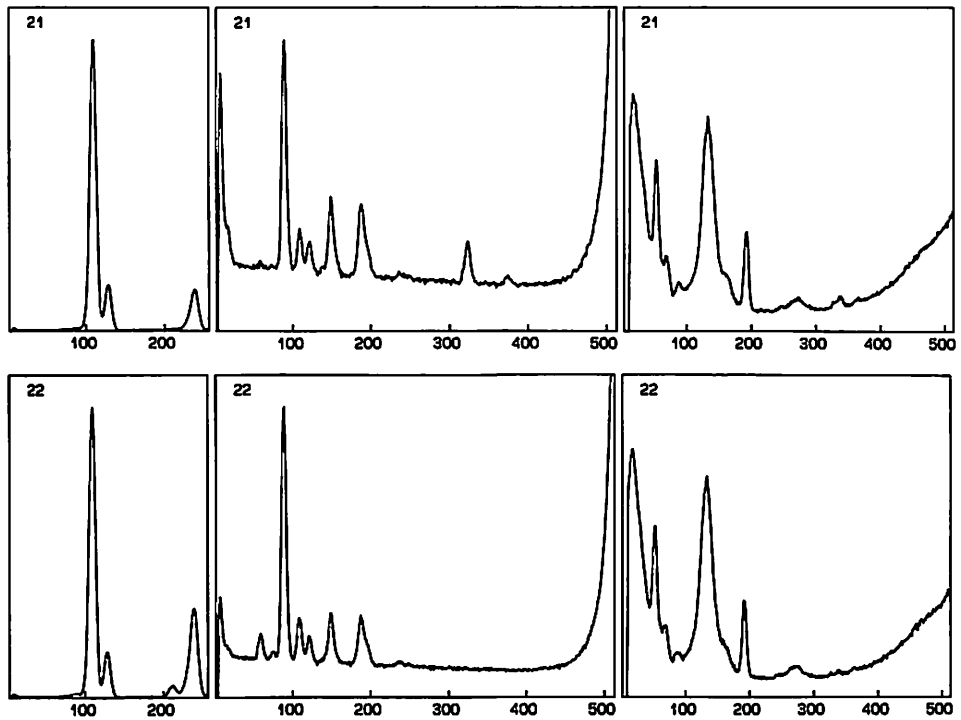


Fig.141 日高ヒスイ原石スペクトル (21・22)

参考文献

- 1) 芳原一也 (1964)、長者が原遺跡産のヒスイ (翡翠) について (概報)。長者が原, 新潟県糸魚川市教育委員会: 63-73
- 2) 藁科哲男・東村武信 (1983)、石品原材料の産地分析。考古学と自然科学, 16: 59-89
- 3) 番場猛夫 (1967)、北海道日高産軟玉ヒスイ。調査研究報告会講演要旨録No.18: 11-15
- 4) 河野儀礼 (1939)、本邦における翡翠の新産出及び其化学的性質。岩石礦物鉱床学雑誌 22: 195-201
- 5) 藁科哲男・東村武信 (1986)、石器・石材の蛍光X線分析。日本古文化財科学会大会研究発表要旨: 28-29
- 6) 藁科哲男・東村武信 (1987)、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要 6: 1-18

第4節 沢町遺跡出土の動物遺体

西本豊弘 (国立歴史民俗博物館考古研究部)

沢町遺跡出土の動物遺体は、縄文晩期の墓壙出土のものと擦文文化期の堅穴住居址のかまど付近より出土したものである。すべて焼けており、長さ1cm以下の小さな骨片が大部分であり、粉状を呈するものである。そのため骨であることは判別できても、陸獣骨か海獣骨か魚骨かも判断できないものが多かった。このような資料でも、サメ類、イワシ類、ウグイ、ホッケ、鳥類、タヌキ?、エビヒグマ、エゾシカが含まれていることが明らかとなった。

墓壙に伴う資料

粉状に近い小さな焼骨のために陸獣骨か海獣骨か魚骨か同定が困難なものが多く、それらは小骨片として記載した。その大部分は陸獣骨と思われる。魚類では小型サメ?の椎骨がGP-161から出土した他、GP-144で魚類の小骨片が若干見られただけである。哺乳類ではエゾシカとエゾヒグマ、エゾタヌキ?が認められた。エゾヒグマはGP-119より成獣の中手骨または中足骨が1点出土したのみである。タヌキはGP-90より踵骨などが出土している。焼けて変形しており、タヌキの現生標本よりもかなり小さいが、その形状からタヌキと判断した。すべて同一個体のものであるかもしれない。GP-100からは小型の陸獣の踵骨が1点出土しており、イヌ、タヌキ、キツネのいずれかの幼獣と思われる。鳥の骨は少しづつ含まれていたが、小～中型の四肢骨の小破片のため種名は同定できなかった。たお、人骨は認められなかった。

擦文文化の堅穴住居址出土の資料

かまど及び煙道の灰と焼土に含まれていたもので、すべてよく焼けている。ウグイ、ホッケ、イワシ類が認められた。ウグイは大型の個体の椎骨が2号住居址から計26点検出されている。ウグイは骨が比較的硬いために残りやすいこともあるが、北海道ではよく出土する魚種である。ホッケは小～中型のものであった。イワシ類?としたものは、椎体長2mm以下のもので、焼けているために縮小したとすればニシンの小型のものの可能性もある。種不明とした椎骨の資料の多くは半欠品や変形したもので、小～中型魚が2～3種含まれる。このように擦文時代の住居址のかまど内の焼骨には、魚骨が多く含まれていたことが特徴であった。

遺構番号	採取場所	時 期	内 容
GP- 3	サンプル土中	縄文晩期	小骨片約100
4	サンプル土中	縄文晩期	小骨片約20
5	サンプル土中	縄文晩期	トリ小片 2、小骨片約100
6	サンプル土中	縄文晩期	トリ小片 5、小骨片10
13	サンプル土中	縄文晩期	小骨片 1
17	サンプル土中	縄文晩期	角片? 1
31	サンプル土中	縄文晩期	小骨片 1
34	サンプル土中	縄文晩期	トリ肩甲骨片 1 (小型)、トリ小片10、角片 1、骨片約60
40	サンプル土中	縄文晩期	陸獣骨片 1
54	サンプル土中	縄文晩期	小骨片約20
62	サンプル土中	縄文晩期	小骨片 2
72	サンプル土中	縄文晩期	小骨片 2
90	サンプル土中	縄文晩期	タスキ?一括(胫骨L1、R1、中手骨または中足骨1、指骨4、肋骨3、四肢骨片1、椎骨片1)小骨片約50
92	サンプル土中	縄文晩期	陸獣肋骨片 1、トリ小片 2、小骨片 1
94	サンプル土中	縄文晩期	陸獣骨片 1
100	サンプル土中	縄文晩期	イヌ科?の幼獣踵骨左側 1、小型獣指骨 2
105	サンプル土中	縄文晩期	小骨片 1
106	サンプル土中	縄文晩期	陸獣骨片 3
108	サンプル土中	縄文晩期	トリ小片 1、小骨片約100
112	サンプル土中	縄文晩期	トリ小片 1、小骨片 5
114	サンプル土中	縄文晩期	陸獣骨片10、小骨片約100
119	サンプル土中	縄文晩期	ヒグマ中手骨または中足骨 1
132	サンプル土中	縄文晩期	陸獣骨片 1、小骨片約30
134	サンプル土中	縄文晩期	小骨片 1
135	サンプル土中	縄文晩期	小骨片 7
138	サンプル土中	縄文晩期	小骨片 1
139	サンプル土中	縄文晩期	トリ小片 1、小骨片10
140	サンプル土中	縄文晩期	トリ小片 1
144	サンプル土中	縄文晩期	トリ小片 1、小骨片約100 (サカナが約1/2)
156	サンプル土中	縄文晩期	小骨片 1
161	サンプル土中	縄文晩期	サメ椎骨1、トリ小片2、シカ(基節骨1、中節骨1、末節骨1)小型陸獣中手骨または中足骨1、指骨4、小骨片約1,500
F- 28	Ⅱ 層	縄文晩期	角片 1
SH- 1	カマド内焼土	擦文前期	骨片? 1
2	カマド内焼土	擦文前期	ウグイ椎骨21、ホッケ椎骨 6、イワシ類?椎骨 8、種不明椎骨16
2	煙道及びカマド	擦文前期	サカナ小片 2
2	カマド内焼 (炊き口)	擦文前期	ウグイ椎骨 4、サカナ小片多数
2	煙 道	擦文前期	ウグイ椎骨 1、種不明サカナ椎骨 4、歯骨 1、サカナ小片約 5
2	F P- 1	擦文前期	小骨片 1
4	カマド内	擦文前期	ウグイ椎骨 2、種不明椎骨 1、トリ小片 1、サカナ片約 5
B 調査	テストビット	縄文晩期	トリ中型骨片 1

Tab.4 沢町遺跡出土の焼骨の内容

第5節 沢町遺跡の遺物包含層および擦文住居床面から産出した花粉・胞子について

山田悟郎（北海道開拓記念館）

1 試料および試料の処理方法

1)試料：試料は沢町遺跡の発掘に際して採取したものである。縄文時代晩期の墳墓群に隣接したC-15区西壁ではⅡ層（1～4）とⅢ層（1～2）から、F-22区東壁からはⅠ層（1～2）、Ⅲ層（1～2）、Ⅳ層を、擦文時代の2号、4号住居址からはカマド周辺の床面から土壌試料を採取した。Ⅰ層は表土で耕作による攪乱を受けた黒褐色腐植土、Ⅱ層は縄文時代晩期から擦文時代の遺物包含層である黒褐色腐植土、Ⅲ層は基盤である凝灰岩の風化物を含んだ暗褐色土で、縄文時代中期から晩期の遺物包含層、Ⅳ層は基盤の風化帯で上部は僅かに腐植成分を含んだ粘土である。また、擦文時代の住居床面から採取した土壌はローム質粘土、基盤の風化物をまじえた腐植土である。C-15区の試料採取地点が旧農道下になっていたためⅠ層の耕作土を欠き、F-22区では、遺跡が斜面に位置していることから土壌が流出しⅡ層を欠いている。

2)試料の処理方法：試料の処理にあたっては土壌 500g をピーカーに取り、下記の順に化学・物理処理を行ないプレパラートを作成した。

アルカリ処理－水洗－傾斜法による砂礫の除去－比重分離－水洗－アセトシリス処理－水洗－フッ化水素酸処理－水洗

検鏡は通常 400倍で行ない、必要に応じて1000倍で行なった。同定・計数にあたっては、樹木花粉を 200個以上同定するまでに出現した花粉・胞子を無作為に同定し計数するように努めたが、樹木花粉が 200個以上に達した試料はなかった。従って、各試料での花粉・胞子の出現数を一覧表にして表示した。尚、表中で－（ハイフン）で結んで表示してあるものは形態が類似していて区分が難しい花粉である。

2 各試料での出現傾向

13点の試料から18属の樹木花粉、3属16科の草本花粉、2科の胞子、2種類の形態分類胞子が検出された。

擦文時代の住居址床面：2号住居址では樹木の *Juglans*（クルミ属）、*Alnus*（ハンノキ属）、*Betula*（カバノキ属）、*Quercus*（コナラ亜属）、*Ulmus*（ニレ属）、*Tilia*（シナノキ属）、草本の *Polygonaceae*（タデ科）、*Ranunculaceae*（キンボウゲ科）、*Artemisia*（ヨモギ属）、*Carduoideae*（キク亜科）、*Gramineae*（イネ科）、胞子の *Monolate type spore*（シダ類）を主とした花粉化石群集が検出された。樹木では落葉広葉樹の *Alnus*、*Betula*、*Quercus*、*Ulmus* が優勢

で、草本・孢子では *Ranunculaceae*, *Artemisia*, *Carduoideae*, *Gramineae* が優勢である。4号住居址から産出した花粉・孢子の種類、数はともに少なく、土中で腐食したものが多かったと思われるが、出現している花粉・孢子の種類は、2号住居址で多く産出している花粉・孢子と共通したものである。

I層：樹木の *Abies* (モミ属), *Picea* (トウヒ属), *Pinus* (マツ属), *Alnus*, *Betula*, *Quercus*, *Ulmus*, *Prunus* (サクラ属), *Tilia* (シナノキ属), *Acer* (カエデ属), *Juglans* と、草本の *Polygonaceae*, *Fagopyrum* (ソバ属), *Chenopodiaceae* (アカザ科), *Caryophyllaceae* (ナデシコ科), *Ranunculaceae*, *Cruciferae* (アブラナ科), *Rosaceae* (バラ科), *Umbelliferae* (セリ科), *Artemisia*, *Carduoideae*, *Gramineae*, 孢子の *Osmundaceae* (ゼンマイ科), *Lycopodiaceae* (ヒカゲノカズラ科), *Monolate type spore* からなる花粉化石群集が検出された。針葉樹の *Abies*, *Picea*, *Pinus* と、落葉広葉樹の *Alnus*, *Betula*, *Quercus*, *Ulmus*, 草本・孢子の *Polygonaceae*, *Chenopodiaceae*, *Caryophyllaceae*, *Artemisia*, *Carduoideae*, *Gramineae*, *Monolate type spore* が優勢である。栽培植物の *Fagopyrum*, 畑地雑草の *Chenopodiaceae*, *Caryophyllaceae*, *Cruciferae* が多く出現するとともに、帰化植物の *Oenothera* (マツヨイグサ属) も出現し、耕作土であることがわかる。*Pinus* の大部分は二葉松型であるほか、*Picea*, *Abies* は近隣に植林された針葉樹林の影響と考えられる。

II層：上部からは *Fagopyrum*, *Chenopodiaceae*, *Portulacaceae* (スベリヒユ科), *Caryophyllaceae* の花粉が多く出現する。擦文時代の農耕の可能性を示すものとも考えられるが、おそらくは最近の耕作による攪乱を受けているものと考えられる。

これらの花粉が少ない II-2~4 までの試料では、樹木の *Abies*, *Salix - Populus* (ヤナギ属 - ハコヤナギ属), *Alnus*, *Betula*, *Quercus*, *Ulmus* と、草本の *Polygonaceae*, *Ranunculaceae*, *Araliaceae* (ウコギ科), *Umbelliferae*, *Artemisia*, *Carduoideae*, *Gramineae*, 孢子の *Osmundaceae*, *Monolate type spore* を主とした花粉化石群集が検出された。II-2 で *Salix - Populus* が優勢であるほかは、樹木では *Quercus*, *Ulmus* が、草本・孢子では *Polygonaceae*, *Ranunculaceae*, *Artemisia*, *Carduoideae*, *Gramineae*, *Monolate type spore* が優勢である。I層で確認された花粉化石群集から、針葉樹、栽培植物、畑地雑草等を除外した花粉化石群集である。僅かではあるが *Aesculus* (トチノキ属) が出現するほか、渡島半島の黒松内低地帯を自生分布北限とする *Fagus* (ブナ属) も出現している。

III層：樹木の *Abies*, *Salix - Populus*, *Juglans*, *Alnus*, *Betula*, *Quercus*, *Ulmus*, 草本の *Polygonaceae*, *Ranunculaceae*, *Araliaceae*, *Umbelliferae*, *Artemisia*, *Carduoideae*, *Gramineae*, 孢子の *Osmundaceae*, *Monolate type spore* を主とした花粉化石群集が検出された。樹木では *Abies*, *Alnus*, *Quercus*, *Ulmus* が、草本・孢子では *Polygonaceae*, *Ranunculaceae*, *Araliaceae*, *Umbelliferae*, *Artemisia*, *Carduoideae*, *Gramineae*, *Monolate type spore* が優勢である。F-22区では *Araliaceae* が優先している。上部の III-1 では花粉・孢子が比較的多く出現しているが、下部の III-2 では出現数は少なくなるものの、出現傾向に大きな変化は見られない。

Ⅳ層：出現した花粉・胞子の数はきわめて少なく、出現したのはⅡ、Ⅲ層で多く出現しているものと共通した種類である。

3 古植生について

1)Ⅲ層（縄文時代中期から晩期の遺物包含層）の古植生

この頃、遺跡周辺には針葉樹のモミ属（トドマツ）と落葉広葉樹のヤナギ属—ハコヤナギ属（バッコヤナギ、ネコヤナギ、ドロノキほか）、クルミ属（オニグルミ）、ハンノキ属（ハンノキ、ケヤマハンノキほか）、カバノキ属（シラカンバ、ウダイカンバほか）、クマシデ属（サワシバ）、コナラ亜属（ミズナラ）、ニレ属（ハルニレほか）、モクレン属（ホウノキ、コブシ）、キハダ属（キハダ）、カエデ属（イタヤカエデ、ハウチワカエデほか）、シナノキ属（シナノキ）からなる混交林（ミズナラ林にトドマツが僅かに混交した状態）が分布し、遺跡の一部は陽地性のタデ属（オオイタドリ）、キンポウゲ科（アキカラマツ、カラマツソウ）、アブラナ科（スカシタゴボウほか）、バラ科（ナガボノシロワレモコウほか）、ウコギ科（ウド）、セリ科（ヤブジラミ、エゾニュウ、オオカサモチほか）、ヨモギ属（オオヨモギ）、キク亜科（アキタブキ、チシマアザミほか）、イネ科（エノコログサ、ススキほか）、ゼンマイ科（ヤマドリゼンマイ、ゼンマイ）、シダ類（オシダ、メシダほか）が茂る草地が分布していたと考えられる。

F-22区の試料採取地点付近のⅢ層上部の土壤が堆積する頃、周囲にはウドが密生していたようである。また、F-22区のⅢ層上部では栽培植物のソバ属（ソバ）、畑地雑草のアカザ科（アカザ）、ナデシコ科（ハコベ、ウシハコベ、ミミナグサほか）の花粉が出現している。これらの出現から縄文時代中期から晩期にかけて農耕を行っていた可能性も考えられるが、Ⅱ層が流出し直接耕作土のⅠ層が覆っていることから、耕作土の混入と見たほうが良いであろう。

2)Ⅱ層（縄文時代晩期から擦文時代の遺物包含層）の古植生

Ⅱ層の下半部の土壤が堆積した頃、遺跡の周囲には落葉広葉樹のコナラ亜属、ニレ属が主となり、これに針葉樹のトドマツと落葉広葉樹のヤナギ属—ハコヤナギ属、クルミ属、ハンノキ属、カバノキ属、モクレン属、キハダ属、カエデ属、トチノキ属（トチノキ）、シナノキ属が混交した森林が分布していた。Ⅲ層の時代とほぼ同様な構成種からなる森林であったが、コナラ亜属、ニレ属が多くなっていたとが考えられる。遺跡の一部に広がっていた草地の構成種には変化はみられない。

上半部では、ヤナギ属—ハコヤナギ属が急増しており、森林の一部が伐採され荒れた跡地にヤナギ属—ハコヤナギ属が進出した状況が推定される。

擦文時代の住居が構築された頃の森林植生はⅡ層下部とほぼ同様で、草本・胞子の構成もキンポウゲ科とシダ類が少なくヨモギ属が多い点を除けば、Ⅱ層下部とほぼ同様であったといえる。尚、栽培植物に注意を払って同定作業を行なったが栽培植物及び畑地雑草の花粉を検出することはできなかった。

Ⅱ層の最上部（Ⅱ－1）では栽培種のソバ属、畑地雑草のアカザ科、ナデシコ科、アブラナ科、タデ科の花粉が多く検出されている。ここではⅡ層として扱ったものの、農道が造られる以前の耕作地の可能性が強いことからⅠ層としたほうが良いと思われる。

3)Ⅰ層（耕作土）の植生

栽培植物のソバや畑地雑草のアカザ科、ナデシコ科、タデ科、アブラナ科の花粉が多量に産出しており、典型的な耕作土であることを示している。周辺の森林植生はコナラ亜属 ニレ属、ハンノキ属、カバノキ属、シナノキ属を主とするものであるが、花粉の構成は植林された針葉樹や、点在するマツ属（アカマツ）などの影響を強く受けたものとなっている。

耕作地の周辺には陽地性のタデ科、キンボウゲ科、ウド、セリ科、オオヨモギ、キク亜科、イネ科、ゼンマイ科、シダ類を主とした草本が茂っていた。

	SH-2		SH-4		C-15区				F-22区				
	床面	床面	Ⅱ-1	Ⅱ-2	Ⅱ-3	Ⅱ-4	Ⅲ-1	Ⅲ-2	I-1	I-2	Ⅲ-1	Ⅲ-2	Ⅳ
<i>Abies</i>	2	3	22	6	4	2	14	6	16	14	1	—	—
<i>Picea</i>	—	—	14	—	—	—	2	1	10	11	—	—	—
<i>Pinus</i>	—	—	4	—	—	—	1	—	28	16	—	—	—
<i>Salix-Populus</i>	2	—	1	28	3	2	2	4	2	—	—	—	—
<i>Juglans</i>	6	1	8	1	10	4	2	2	5	8	2	—	—
<i>Alnus</i>	18	2	6	6	12	8	10	11	18	8	3	1	2
<i>Betula</i>	12	—	22	1	6	5	4	3	16	11	5	1	—
<i>Carpinus</i>	1	—	2	—	1	1	2	—	2	1	—	—	—
<i>Corylus</i>	—	—	1	—	—	—	1	—	1	1	—	—	—
<i>Fagus</i>	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
<i>Quercus</i>	24	11	26	14	64	31	28	7	21	13	2	1	1
<i>Ulmus</i>	14	5	16	12	22	12	11	3	10	14	2	1	—
<i>Magnolia</i>	1	—	2	—	1	1	2	1	1	1	—	—	—
<i>Prunus</i>	1	—	3	—	1	—	—	2	3	2	—	—	—
<i>Phellodendron</i>	—	—	3	—	1	1	1	1	—	1	—	1	—
<i>Acer</i>	1	—	6	1	1	1	1	1	3	2	—	—	—
<i>Aesculus</i>	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—
<i>Tilia</i>	4	2	6	2	1	2	1	1	2	1	—	1	1
Polygonaceae	22	1	36	8	16	11	14	16	31	33	3	1	3
<i>Fagopyrum</i>	—	—	8	—	—	—	—	—	12	26	1	—	—
Chenopodiaceae	—	—	26	—	2	—	—	—	61	56	2	—	—
Portulacaceae	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Caryophyllaceae	—	—	11	2	—	—	—	—	122	98	4	—	—
Ranunculaceae	42	7	24	3	12	8	34	16	8	16	2	2	1
Cruciferae	1	—	2	1	—	1	—	3	10	11	1	1	—
Rosaceae	2	—	3	1	1	2	2	2	6	6	1	1	—
Leguminosae	—	—	—	—	1	1	—	—	3	1	—	—	—
<i>Oenothera</i>	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
Araliaceae	11	4	4	—	4	3	6	—	1	2	121	1	—
Umbelliferae	8	—	22	4	11	8	14	8	6	10	4	3	—
Valerianaceae	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
<i>Artemisia</i>	78	10	44	7	18	13	26	24	52	42	4	2	1
Carduoideae	42	2	14	6	22	16	14	12	33	34	13	2	2
Cichorioideae	1	—	1	—	—	—	—	1	8	10	—	—	—
Gramineae	126	26	128	16	66	43	58	84	168	203	24	6	14
Cyperaceae	—	2	4	1	2	1	—	2	8	5	—	2	—
Liliaceae	1	—	1	—	1	1	—	1	2	—	—	—	—
Osmundaceae	6	1	6	2	4	5	6	6	6	8	3	1	—
Lycopodiaceae	3	1	2	1	3	1	2	2	6	2	1	1	1
Monolate type													
spore	18	3	72	23	54	45	32	34	54	48	2	1	1
Trilite type													
spore	2	1	3	5	3	3	3	2	3	3	—	—	—
合 計 (個)	450	82	555	151	348	233	294	256	739	718	201	30	27

Tab.5 沢町遺跡から産出した花粉・孢子数

第6節 沢町遺跡出土の炭化植物種子について

吉崎昌一（北海道大学文学部）

(1) 遺跡の所在と性質

北海道余市町に位置する沢町遺跡は、1988年に余市町教育委員会が主体となり、行政発掘を実施した遺跡である。調査総面積4,000m²、そこから縄文時代晩期の墓塚163基と擦文時代前期に属する竪穴住居が4軒検出されている。

(2) 種子分析に使用した資料

分析を依頼された資料は、様々な混雑物を含む炭化物が出土地点を記入したビニール袋に小分け収納してあった。調査者の報告によれば、これらの炭化物はTab. 6, 7に示した各遺構、つまり後世攪乱のおそれのない墓塚内埋積土壌および竪穴住居遺構から注意ぶかく採集され、水洗別されたものである。また、この作業に使用されたフルイは1mmメッシュのものである。

(3) 検出された種子

双眼実体顕微鏡を用いて炭化物を検討し、Tab. 6, 7に示したような結果が得られた。両時期とも破碎されたクルミが多い。とくに墓塚G P-23では150gの出土が見られた。しかし、水洗別したこの墓塚の埋積土壌量についての情報が欠如しているために残念ながら出土の密度が不明である。したがって、この堅果が墓塚底に副葬されていたのか、墓塚を埋積する過程で意図的にまぜられたのか、付近の生活面に散らばっていたものが埋葬作業で混入したのかについては判断が出来ない。しかし、縄文時代晩期にここで活動していた人間が、クルミを利用していた事は確

遺構番号	採取場所	ブドウ属 (粒)	ミズキ属 (粒)	キハダ 粒	アサダ 粒	クルミ片 (g)	ミズナラ (g)	不明 粒
SH-2	カマド焼土							
SH-2	FP-1焼土含む	1		1		1.10		
SH-2	FP-3							
SH-2	FP-5焼土					0.18		
SH-2	FP-5					0.26		
SH-2	北壁周溝内					0.74		
SH-3	焼土		1					
SH-4	カマド	1						2
SH-4	煙道			1	1	2.81	0.14	1
SH-4	煙穴					0.15		
合 計		2	1	2	1	5.24	0.14	3

Tab.6 沢町遺跡出土炭化植物(擦文前期住居址)

遺構番号	採取場所	ブドウ属 (粒)	ミズキ属 (粒)	クルミ片 (g)	ミズナラ (g)
GP-3	サンプル土中			0.36	
GP-4	サンプル土中			0.20	
GP-5	サンプル土中			0.48	
GP-6	サンプル土中			0.17	
GP-8	サンプル土中			8.19	
GP-8	ベンガラ土中			1.25	
GP-13	ベンガラ土中			0.13	
GP-18	ベンガラ土中				
GP-20	サンプル土中			4.39	
GP-20	ベンガラ土中			0.78	
GP-23	ベンガラ土中			0.67	
GP-23	サンプル土中	2		150.41	
GP-34	骨片含む			0.53	
GP-60	サンプル土中			0.67	
GP-61	ベンガラ土中			0.22	
GP-69	ベンガラ土中			0.25	
GP-80					0.70
GP-86					0.17
GP-100	骨片混			0.55	
GP-108	骨片含む			0.73	
GP-114	サンプル土中			4.22	
GP-131				0.58	
GP-144	骨片含む			2.72	
GP-161	骨片含む		1	15.05	
合 計		2	1	192.55	1.57

Tab.7 沢町遺跡出土炭化植物 (縄文晩期墓域内)

かであろう。

同じ墓塚G P-23からはブドウ属の種子が2例検出されている。その内の1個を走査電子顕微鏡で観察中に珪藻片が刺さり込んでいるのが確認された(PL .97-4b)遺跡一帯の基盤を形成する地層が新第三紀の泥岩であるから、そこから流出したものが種子の亀裂に入り込んだのであろう。

(4) 提起される問題

種子分析の依頼をうけたときに、全資料が水洗別によるものであり、しかも作業に使用されたフルイのメッシュが1mmであったのを聞き、雑草種子を始めとする小型の種子は与えられた資料中から流れ去っているのではないかと危惧した。検鏡の結果、その危惧が確かめられたように思う。従来、各地の調査において実施されている水洗別手法は、ここの発掘調査で採用された水洗別手法と同様のもので、大型の堅果類や、微細な人工遺物あるいは魚骨などの検出にはきわめて有効である事が知られている。しかし、我々の調査では、メッシュサイズが1mmであるときには殆どの雑草種子が流出してしまい、とくに流水を注いで攪拌した場合にその傾向が著しい¹⁾。現在、比較的乾燥している遺跡地層から各種の種子を検出する手法としては、いわゆる浮遊水洗別法つまりフローテーション法によるのがもっとも効果的である。もっとも、この手法にも種々あり、それぞれ一長一短がある。1974年以来、我々が実施検討してきたもっとも効率的なこの手法は、P S方式²⁾である。今後の種子分析資料の採集には、既に確立したこの手法を用いて実施するのが好ましいと考えられる。

謝辞

貴重な研究作業の機会を与えられた余市町教育委員会に御礼を申し上げたい。また、走査電子顕微鏡による精査を引き受けてくれた椿坂恭代氏と遺跡の地質その他についてご教示下さった北海道開拓記念館の山田悟郎氏に感謝する次第である。

(註)

1：乾燥状態の遺跡から検出される炭化種子が大型の堅果類に偏る傾向があるのは、このためであろう。この点については、拙著「縄文農耕から擦文農耕へ」『鎌木義昌先生古稀記念論集・考古学と関連科学』1988年12月所収で述べた事がある。

2：椿坂恭代「遺跡から種子を探そう・フローテーションの方法」PROJECT SEEDS NEWS 1989 No 1, pp.6~7, Project SEEDS 札幌

第9章 結 語

当初予想を大幅に上まわる遺構・遺物に恵まれた沢町遺跡の発掘調査は、歓びの中にも非常に厳しいものがあつた。11月の吹雪の中での発掘作業、また翌年2月・3月の報告書作成に向けての図版作成・原稿執筆・編集等に傾けた情熱、今はただ良い思い出として彷彿と蘇ってくるばかりである。充分な調査・遺物整理・分析等はなしえなかつた。まさにやっつけ仕事である。調査員の力不足と厳しい時間制約を克服することはできなかつたが、今後の教訓としたい。

沢町遺跡の研究は、まさにこれから始まるのである。本章では検出遺構と主要出土遺物の概要について述べ結語にかえたい。

第1節 検出遺構の概要

今回の調査によって検出された遺構は、擦文時代前葉の竪穴住居址4軒、縄文時代晩期前葉の墓塚163基・溝状遺構1ヵ所・土壇1基・地床炉としての焼土分布5ヵ所が検出された。

SH-1・2・4（擦文1・2・4号竪穴住居址）が若干大きめの住居址であり、SH-3は小型の住居址であつた。SH-3にはカマドが存在しなかつたが他の3軒には存在した。いずれも非常に良い状態でトンネル式の煙道が壊れずに残存していた。

GP-1～163（1号～163号墓塚）をA～Gの7群に概ね分類したが、それぞれの比較検討等についてはなしえなかつた。当初縄文時代後期の墓塚もあるとみられたが、伴出遺物のチェックによって縄文時代晩期のもののみ限定されることが判明した。墓塚はSH-3や溝状遺構によって切られているものが数例確認され、若干の新旧関係を把握することができた。

溝状遺構はどのような目的で構築されたものなのであろうか。D群遺構とどのような関係にあるのか等興味はつきない。最終的には廃棄穴として利用されたことはまちがいない。

UP-1（1号土壇）にびっしりとつまっていた礫は、多くは焼けているものである。また、5ヵ所検出された地床炉は、それぞれの墓群と密接な関係を有していたと推察される。

沢町遺跡の総面積は数万㎡に及ぶものと類推される。したがって、今回の調査区域はほんの一部にすぎない。どれほどの貴重な遺構や遺物が眠っているのであろうか。興味はつきないが、現状では遺跡の保護に万全を期することを望みたい。

第2節 出土遺物の概要

今回の調査によって約11万点の遺物が出土した。これは非常に控えめな数字である。チップ・骨片・炭化物・種子等は袋ごと集計した。遺構外出土の礫は現場で洗い、分類し荷を軽くした。

また、同一個体の土器等は1個体1点として集計したのも少なくない。

出土遺物のうち特筆すべきものとしては大洞BC式土器・底部有孔土器・土版・玉・石偶・握石・腕輪等があげられる。徳利型の大洞BC式土器は胎土分析の結果（第8章第2節）、製作他が限定された。底部有孔土器については破片も含め10点程が出土している。いずれも実用品とは考えられず墓壙共伴の特異な土器とみられる。いずれ明らかにしたい。玉は143点出土した。うち、ヒスイの玉は50点ほどあるが大半は風化しており、ヒスイ本来の美しさを保っていないが、美しいものを中心として20点ピック・アップし産地同定を依頼（第8章第3節）した結果、ほぼ全点が糸魚川産の原石を利用しているとのことであった。石偶はGP-1・45から出土した他、石偶に類似のものも遺構外から出土している。いずれも自然にあいた穴を有する黒曜石の原石を利用している。その穴を破壊せずに細部剝離を施し作出しているみごとなものである。石偶といっても、いずれも有孔であるため一概には言えないが垂飾としての用途が考えられる。このような特徴を有する「石偶状有孔石製品」は筆者管見の限り類例を知らず非常に稀有な資料となろう。

次に本遺跡で「握石」（にぎりいし）と呼んだ石製品について若干言及したい。握石は第5章第2節でも詳述したように60点あまり出土している。このうち45点が墓壙伴出例である。ベッキングによって断面D字状に整形したものが典型的なもので、円礫及びやや扁平な自然礫をそのまま利用しているものもみられる。2個1組で出土する例、特に両手のひらの位置にあったかのごとく出土する例が複数例確認され、手に握らせていたことは動かしがたい。石質は褐鉄鉍・方鉛鉍等が付着している石英・安山岩・輝石安山岩あるいは鈴石等もみられる。黒曜石製のものも1点出土している。ともかく比重の大きい重い石材を選んで利用している。石器としての積極的な用途は考えられず、石製品と判断した。美々4遺跡（森田・畑 1977）でも2点出土しており、「人骨に共伴した特異な形態の石」として着目している。その他の類例は今のところないようであるが、過去に当該資料が出土していた可能性は高いとみられる。今度の握石の紹介が再考の機会となり類例が増加すれば幸いである。置石が残存していた墓壙例を引くまでもなく、握石も死霊への恐怖からなされた死霊への一種の封じ込め（藤井正雄編 1988）と推察される。置石や抱石等と一連のものともみられる。手のひらに握ると非常におさまり具合がいい。

腕輪はGP 62から左右一対で出土した。取り上げに一週間ほどかかってしまった。幸いにも何とか形状を損なうことなく取り上げることができた。類例は青森県足川中居遺跡で出土（八戸市博物館 1988）している。他にも出土例は数例みられるようであるが、形状をとどめ保存されている例はきわめて稀である。その意味からも非常に貴重な資料である。

沢町遺跡の調査は多くの問題を投げかけた。多くの問題は未解決のまま残されてしまった。今後、調査した者として、その責を果たして行きたい。諸先生・諸学兄より多くの御指導を賜わった。また、種々に亘り御助力を惜しまなかった方々に心より感謝申し上げ謝筆するものである。

（宮）

参考文献

- 安藤文一 1983 「翡翠大珠」『縄文文化の研究』 5 雄山閣
- 五十嵐 鉄 1934 『大谷地貝塚の層位的研究』
- 因幡勝雄 1969 「紋別市大山町新生出土の異形石器」『紋別市郷土史研究会々報』
第6・7合併号
- 石橋次雄・山口 敏 1975 『十勝太若月』 浦幌町教育委員会
- 宇田川 洋 1977 『北海道の考古学』1・2 北海道出版企画センター
- 大島秀俊・長谷川 徹 1988 『蘭島遺跡・チブタシナイ遺跡 概報』 小樽市教育委員会
- 大場利夫 1968 「北海道の石偶及び岩偶」『北海道考古学』第4輯 北海道考古学会
- 尾崎 勉 1968 「石偶様の石器」『考古学あばしり』 網走市立第二中学校人文科学クラブ
- 久保勝範 1971 「北海道網走郡津別町活汲岩富出土の打製岩偶」『北海道考古学』第7輯
北海道考古学会
- 河野広道・藤原敏郎・藤本英夫 1954 「静内町先史時代遺跡調査報告」『静内町史』
静内町役場
- 江坂輝弥 1979 「岩偶・土偶」『世界考古学辞典』 平凡社
- 小井田幸哉・村越 潔 1982 『鶉窪遺跡』 青森県教育委員会
- 駒井和愛 1959 『音江 北海道環状列石の研究』 慶友社
- 佐藤忠雄 1975 『鳥崎遺跡』 森町教育委員会
- 櫻井清彦・菊池徹夫 1987 『蓬田大館遺跡』 早稲田大学文学部考古学研究室報告 六興出版
- 佐土原逸男・丸山康晴 1979 『大谷遺跡』 春日市教育委員会
- 佐藤達夫 1967 「流鬼考」『日本の先史文化』 河出書房新社
- 佐藤一夫他 1979 『苫小牧市静川綱木遺跡発掘調査報告書』 苫小牧市青少年センター
- 八戸市博物館 1988 『縄文之美』是川中居遺跡出土品図録第2集
- 八戸市博物館 1988 『縄文の漆工芸』
- 鈴木正語ほか 1987 『新村4遺跡』 上ノ国町教育委員会
- 其田良雄 1977 『富良野市鳥沼遺跡』 富良野市
- 竹田輝雄 1975 『北海道縦貫自動車道(苫小牧市植苗～千歳市平和)埋蔵文化財包蔵地群発掘
調査報告書』北海道教育委員会
- 竹田輝雄ほか 1984 『美沢川流域の遺跡』Ⅶ 北海道埋蔵文化財センター
- 鷹野光行 1979 「タマ」『世界考古学事典』 平凡社
- 高橋稀・ 1968 『富良野市史』第一巻 富良野市
- 高橋稀一ほか 1980 『美沢川流域の遺跡』Ⅳ 北海道埋蔵文化財センター
- 千代 肇 1972 『涌元遺跡』 知内町教育委員会

- 野村 崇・菊池俊彦 1980 『北海道考古学講座』 みやま書房
- 野村 崇 1976 『札幌』 北海道開拓記念館
- 野村 崇 1974 『札幌遺跡』 木古内町教育委員会
- 野口義麿 1962 「岩偶・石偶・土偶」 『日本考古学辞典』 東京堂出版
- 畑 宏明・大沼忠春 1987 『木古内町建川2・新道4遺跡』 北海道埋蔵文化財センター
- 藤本英夫・吉崎昌一 1971 『柏木川』 北海道文化財保護協会
- 藤井正雄編 1988 『墓地墓石大事典』 雄山閣
- 辺泥和郎・福田友之 1974 「北千島出土のひとつの石偶」 『古代文化』
- 三浦裕二ほか 1988 『柏木川8遺跡・柏木川13遺跡』 恵庭市教育委員会
- 三上貞二 1970 「北海道の石偶について」 『思想』 15号
- 水野・小林編 1959 『図解考古学事典』 東京創元社
- 村越 潔 1986 『弥栄平(4)・(5)遺跡』 青森県教育委員会
- 森田知忠・畑 宏明 1977 『美沢川流域の遺跡群Ⅰ』 北海道文化財保護協会
- 山崎純男・柳沢一男 1977 『広石古墳群』 福岡市教育委員会
- 柳田康雄 1981 『三雲遺跡』 福岡県教育委員会
- 山代 熙・野村 崇 1969 『由仁町の先史遺跡』 由仁町教育委員会

付 編

檢出遺構計測一覽

遺物計測・計量等一覽

檢出遺構出土遺物集計

遺構外出土遺物集計

Tab. 8 沢町遺跡検出住居址一覧 (SH-1~4)

No	規 模 (cm)	深 さ (cm)	形 状	主柱穴数	カマドの有無	炉址の有無	備 考
1	589 × 636	40	隅丸方形	4	有	無	
2	544 × 572	48	隅丸方形	4	有	有	周溝あり
3	302 × 294	24	隅丸方形	—	無	有	GP-1も45を切る
4	618 × 666	36	隅丸方形	4	有	無	周溝あり

Tab. 9 沢町遺跡検出墓墳一覧 (GP-1~163)

No	規 模 (cm)	深 さ (cm)	備 考	No	規 模 (cm)	深 さ (cm)	備 考
1	112 × 59	23	SH-3に切られている	23	140 × 93	17	炭化物・クルミ多い
2	85 × 68	17		24	117 × 111	19	
3	59 × 49	31		25	109 × 62	7	炭化物多く、ベンガラ少量
4	56 × 42	11		26	117 × 67	9	
5	59 × 49	30		27	116 × 70	9	
6	53 × 51	16		28	80 × 66	6	
7	177 × 113	26	玉が3点出土	29	73 × 49	26	
8	140 × 80	10		30	46 × 45	17	
9	105 × 76	21		31	40 × 34	16	
10	143 × 82	17		32	49 × 38	23	
11	105 × 67	11		33	68 × 56	27	
12	108 × 75	7		34	98 × 95	46	
13	120 × 75	21	GP-46を切る	35	30 × 26	42	
14	—	—	掘込みが浅く削平	36	40 × 39	14	
15	—	—	同 上	37	72 × 38	13	
16	51 × 50	30		38	120 × 105	18	
17	81 × (53)	—		39	121 × 91	17	
18	124 × 82	14		40	60 × 41	17	
19	87 × 62	7		41	94 × 53	8	
20	196 × 147	25		42	180 × 113	40	
21	(75) × 48	9	ベンガラ・炭化物・骨片等の細粒多い	43	73 × 46	6	玉が1点出土
22	83 × 70	29		44	101 × 57	22	

No	規 模 (cm)	深 さ (cm)	備 考	No	規 模 (cm)	深 さ (cm)	備 考
45	(86) × (71)	23	SH-3に切られている	78	147 × 93	27	
46	(100) × (46)	—	GP-13に切られている	79	148 × 88	15	
47	39 × 34	13		80	288 × 229	21	玉が8点出土
48	116 × 66	15	玉が1点出土	81	125 × 77	24	
49	127 × 87	—	玉が7点出土	82	100 × 70	13	
50	(58) × 43	24		83	70 × 52	—	
51	137 × 87	16		84	118 × 83	8	玉が3点出土
52	127 × 108	18	東側部分攪乱	85	(117) × 70	19	西側部分攪乱
53	135 × 121	17		86	150 × 86	16	
54	92 × 69	11		87	118 × 67	32	
55	110 × 108	28	GP-56に切られている	88	89 × 89	19	
56	145 × 142	39	GP-55, GP-58を切る	89	73 × 66	11	
57	(82) × (77)	54	溝状遺構に切られている	90	93 × 82	23	
58	144 × 93	31	GP-56に切られている	91	65 × 55	14	
59	80 × 54	13		92	78 × 73	25	
60	172 × 99	33	玉が3点出土	93	48 × 48	17	
61	98 × 49	21		94	102 × 83	24	
62	189 × 97	38	朱塗りの腕輪・玉8点出土	95	(115) × 88	25	
63	51 × 31	11		96	113 × 108	47	東西部分攪乱
64	28 × 25	18		97	113 × 96	19	
65	43 × 39	22		98	125 × 105	27	
66	51 × 38	11		99	43 × 39	19	
67	105 × 55	7		100	(52) × 59	17	GP-136に切られる
68	109 × 61	6		101	74 × 56	18	玉が3点出土
69	140 × 105	20		102	103 × 66	24	
70	185 × 95	50	玉が19点出土	103	51 × 36	18	玉が3点出土
71	78 × 56	19		104	66 × 57	19	
72	172 × 97	38		105	43 × 40	16	
73	152 × 106	40	玉が19点出土	106	72 × 62	30	
74	108 × 79	20		107	(102) × (75)	41	溝状遺構に切られている
75	154 × 83	15		108	67 × 54	33	
76	142 × 100	21		109	(123) × 107	10	
77	193 × 135	33		110	91 × 85	22	

No	規 模 (cm)	深 さ (cm)	備 考	No	規 模 (cm)	深 さ (cm)	備 考	
111	(67) × 47	24	東側発掘区域外	138	69 × 54	39	東側発掘区域外	
112	82 × 41	23		139	68 × 57	13		
113	74 × 44	25		140	103 × 78	40		
114	67 × 58	57		141	(109) × 100	37		
115	127 × 80	22	GP-129, GP-130を切る	142	65 × 59	36		
116	(62) × 49	28	GP-124に切られている	143	78 × 69	25		
117	105 × 100	20		144	59 × 57	19		
118	75 × 62	13		145	40 × 35	20		
119	99 × 88	36		146	64 × 56	27		
120	62 × 55	26		147	(65) × 62	32		GP-133を切り GP-134に切られている
121	145 × 71	36		148	46 × 37	21		
122	(160) × 80	37	玉が5点出土	149	102 × 60	29		
123	83 × (47)	16	東側発掘区域外	150	62 × 53	18		
124	60 × 49	17	GP-116を切る	151	100 × 60	35		
125	(40) × (32)	21	東側発掘区域外	152	120 × 104	49		
126	80 × 50	14		153	73 × 65	33		
127	(70) × (38)	26	東側発掘区域外	154	42 × 39	29		
128	103 × 93	15		155	49 × 32	17		
129	40 × 36	32	GP-115に切られている	156	69 × 58	12		
130	34 × (21)	27	GP-115に切られている	157	196 × 91	22	玉が1点出土	
131	140 × (122)	35	東側発掘区域外	158	146 × 76	18		
132	108 × 65	25		159	74 × 56	25		
133	(75) × 64	25	GP-147に切られている	160	88 × 68	12		
134	76 × 74	33		161	167 × 79	26		
135	74 × 70	26		162	—	—	削平	
136	72 × (60)	32	GP-100を切る	163	41 × 41	14		
137	51 × 48	17						

Tab.10 沢町遺跡検出溝状遺構一覧

名 称	規 模 (cm)	深 さ (cm)	備 考
溝状遺構	412 × 218	83	GP-57・107を切っている

Tab.11 沢町遺跡検出土壌一覧 (UP-1)

No	規 模 (cm)	深 さ (cm)	備 考
1	81 × 71	23	157点の礫出土、内焼けた礫あり

Tab. 12 沢町遺跡住居址出土石器一覽

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質	図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.17-19	I a ₃	28 × 12 × 5	1.1	黒曜石	Fig.20-17	I a ₃	25 × 12 × 4	0.8	黒曜石
Fig.20-13	I a ₃	25 × 11 × 4	0.9	黒曜石	Fig.23-13	II b	37 × 26 × 12	7.8	黒曜石
◇ 14	I a ₃	(26) × 13 × 3	(1.0)	黒曜石	14	IX a	122 × (120) × 72	(820.0)	角閃石輝石安山岩
◇ 15	I a ₃	24 × 11 × 3	(0.8)	黒曜石	◇ 15	X a ₁	(118) × (88) × 37	(460.0)	珪質砂岩
◇ 16	I a ₃	32 × 15 × 4	1.1	黒曜石	Fig.28-18	V a ₁	137 × 45 × 20	176.0	砂岩

Tab. 13 沢町遺跡墓壇及び溝状遺構出土剥片石器一覽

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質	図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.76-12-1	I a ₃	(25) × 14 × 4	(1.0)	黒曜石	Fig.78-73	III c ₂	83 × 45 × 11	32.0	頁岩
◇ 12-2	I a ₃	(22) × 14 × 6	(1.4)	黒曜石	◇ 78	I a ₃	25 × 15 × 5	1.1	黒曜石
◇ 23	I a ₃	25 × 13 × 4	0.8	黒曜石	◇ 79	I a ₃	19 × 13 × 3	0.7	黒曜石
◇ 25	I a ₅	28 × 14 × 4	1.0	黒曜石	◇ 80	I a ₂	32 × 13 × 6	2.1	瑪瑙
◇ 29	I a ₃	31 × 15 × 3	1.1	黒曜石	◇ 92	II b	29 × 27 × 8	5.0	頁岩
◇ 31	II a	55 × 17 × 12	9.5	黒曜石	◇ 96	I a ₃	25 × 14 × 4	0.9	黒曜石
◇ 34-1	I a ₃	26 × 12 × 4	0.9	黒曜石	◇ 100	I a ₃	28 × 11 × 3	0.6	黒曜石
◇ 34-2	II b	(41) × 26 × 14	(10.5)	玄武岩	◇ 102	I a ₃	22 × 11 × 3	0.5	黒曜石
◇ 42	I a ₄	(22) × 13 × 5	(1.2)	黒曜石	◇ 106	I a ₃	21 × 15 × 3	0.8	黒曜石
◇ 51	I a ₅	(22) × 16 × 3	(0.8)	黒曜石	◇ 108	I a ₃	25 × 13 × 6	1.2	瑪瑙質頁岩
◇ 53-1	I a ₃	27 × 7 × 3	0.5	黒曜石	◇ 114	I a ₃	19 × 9 × 3	0.3	黒曜石
◇ 53-2	I a ₃	40 × 15 × 5	2.1	黒曜石	◇ 117	IV b	31 × 33 × 8	9.2	黒曜石
◇ 53-3	I a ₃	32 × 12 × 5	1.7	黒曜石	◇ 118	I a ₃	22 × 14 × 2	0.7	黒曜石
◇ 53-4	II b	33 × 17 × 12	5.1	頁岩	Fig.79-140	II b	38 × 21 × 12	5.7	頁岩
Fig.77-54	II b	(53) × 27 × 7	(4.5)	頁岩	◇ 141	I a ₃	23 × 11 × 4	0.8	黒曜石
◇ 70	I a ₃	30 × 14 × 5	1.4	黒曜石	溝状遺構	I a ₃	27 × 11 × 6	1.3	黒曜石

Tab. 14 沢町遺跡墓壙及び溝状遺構出土礫石器一覽

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質	図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.80-5	Ⅶb	111 × 61 × 34	340.0	安山岩	Fig.83-74	岩偶	180 × 126 × 61	785.0	安山岩
◇ 7-1	Ⅶb	124 × 67 × 37	360.0	安山岩	◇ 75-1	Ⅶa ₂	90 × 65 × 47	450.0	頁岩
◇ 7-2	握石	88 × 83 × 64	700.0	輝石安山岩	◇ 75-2	Ⅶb	133 × 77 × 30	380.0	安山岩
◇ 13	Va ₁	(100) × 51 × 22	(210.0)	凝灰質砂岩	◇ 75-3	握石	61 × 51 × 36	330.0	安山岩
◇ 39	握石	77 × 58 × 61	590.0	無斑晶質安山岩	◇ 76	握石	51 × 45 × 25	110.0	安山岩
◇ 42	握石	78 × 60 × 49	440.0	珪質頁岩	◇ 77	握石	88 × 47 × 43	290.0	石英
◇ 48-1	握石	76 × 71 × 51	380.0	黒曜石	Fig.84-80-1	Ⅶa ₂	84 × 87 × 71	610.0	安山岩
◇ 48-2	握石	820 × 72 × 53	450.0	瑪瑙	◇ 80-2	握石	83 × 63 × 56	470.0	輝石安山岩
Fig.81-51-1	握石	91 × 62 × 33	510.0	石英	◇ 80-3	握石	98 × 54 × 51	480.0	石英
◇ 51-2	握石	91 × 71 × 50	420.0	輝石安山岩	◇ 81	握石	76 × 56 × 43	380.0	輝石安山岩
◇ 53	鉤状石製品	42 × 35 × 16	22.6	砂岩	◇ 94	Ⅶb	66 × 33 × 11	31.4	安山岩
◇ 56	握石	82 × 73 × 62	540.0	輝石安山岩	◇ 101	Ⅶb	114 × 66 × 40	380.0	凝灰岩
◇ 57	握石	100 × 70 × 60	650.0	安山岩	◇ 106	Ⅶb	100 × 50 × 25	150.0	安山岩
◇ 58	握石	57 × 39 × 27	90.0	輝石安山岩	◇ 112	Va ₁	66 × 36 × 11	(38.6)	粘板岩
◇ 60-1	握石	65 × 66 × 38	480.0	凝灰質砂石	Fig.85-121-1	Xa ₂	267 × 162 × 136	2820.0	砂岩
◇ 60-2	握石	72 × 73 × 47	250.0	珪岩	◇ 121-2	握石	95 × 58 × 60	640.0	石英質安山岩
◇ 62	握石	65 × 48 × 41	300.0	不明	Fig.86-132	握石	130 × 79 × 80	1120.0	輝石安山岩
◇ 64	Ⅶa ₁	165 × 89 × 36	640.0	安山岩	◇ 134	Ⅶb	98 × 75 × 50	400.0	安山岩
◇ 70	握石	70 × 53 × 40	345.0	褐鉄鉱	◇ 140	Ⅶb	126 × 70 × 28	350.0	安山岩
Fig.82-72-1	握石	57 × 56 × 57	230.0	頁岩	◇ 149	握石	43 × 45 × 15	100.0	珪質
◇ 72-2	Va ₁	(62) × 39 × 12	(46.5)	泥岩	◇ 153-1	Va ₁	96 × 39 × 12	76.4	片岩
◇ 72-3	Va ₁	74 × 38 × 16	62.9	泥岩	◇ 153-2	Va ₁	120 × 62 × 30	320.0	塩基性凝灰岩
◇ 72-4	Va ₁	67 × 34 × 15	53.9	泥岩	◇ 161	Ⅶa ₂	115 × 56 × 38	370.0	安山岩
◇ 72-5	Va ₁	59 × 26 × 13	32.1	塩基性凝灰質	◇ 162	握石	72 × 60 × 45	260.0	輝石安山岩
◇ 72-6	Va ₁	61 × 36 × 13	47.7	泥岩	◇ 溝-1	Va ₁	(67) × 43 × 15	(64.9)	砂質泥岩
◇ 72-7	Xa ₂	359 × (85) × (165)	2450.0	砂岩	◇ 溝-2	Ⅶb	133 × 73 × 20	190.0	安山岩
Fig.83-73	握石	109 × 71 × 63	760.0	変朽安山岩	◇ 溝-3	Ⅶb	113 × 44 × 35	290.0	輝石安山岩

Tab. 15 沢町遺跡墓壙出土の土製品・石製品一覽

図番号	長幅厚 (mm)	重 (g)	種別	図番号	長幅厚 (mm)	重 (g)	種別
Fig.76-1	34 × 30 × 12	14.1	石偶	Fig.79-143	20 × 18 × 20	5.8	耳栓状耳飾
◇ 45	32 × 29 × 10	8.0	石偶	◇ 159	39 × 24 × 26	17.8	有孔土製品

Tab.16 沢町遺跡遺構外出土剝片石器一覽

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質	図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.96-1	I a ₂	26 × 13 × 4	1.0	黒曜石	Fig.96-33	I a ₃	26 × 14 × 5	1.0	黒曜石
◇ 2	I a ₂	23 × 14 × 3	0.7	黒曜石	◇ 34	I a ₃	28 × 14 × 5	1.0	黒曜石
◇ 3	I a ₂	23 × 13 × 3	0.7	眞岩	◇ 35	I a ₃	25 × 15 × 5	1.1	黒曜石
◇ 4	I a ₃	18 × 7 × 3	0.2	黒曜石	◇ 36	I a ₃	26 × 13 × 4	0.9	黒曜石
◇ 5	I a ₃	15 × 11 × 3	0.4	黒曜石	◇ 37	I a ₃	25 × 13 × 4	0.9	黒曜石
◇ 6	I a ₃	20 × 11 × 3	0.5	黒曜石	◇ 38	I a ₃	25 × 14 × 4	1.2	黒曜石
◇ 7	I a ₃	20 × 13 × 3	0.6	黒曜石	◇ 39	I a ₃	31 × 13 × 4	1.0	黒曜石
◇ 8	I a ₃	20 × 12 × 4	0.7	黒曜石	◇ 40	I a ₃	27 × 14 × 4	1.1	黒曜石
◇ 9	I a ₃	21 × 10 × 3	0.4	黒曜石	◇ 41	I a ₃	(26) × 12 × 4	(1.0)	黒曜石
◇ 10	I a ₃	23 × 13 × 5	1.1	黒曜石	◇ 42	I a ₃	31 × 14 × 4	1.1	黒曜石
◇ 11	I a ₃	22 × 13 × 5	1.0	黒曜石	◇ 43	I a ₃	29 × 13 × 4	1.2	黒曜石
◇ 12	I a ₃	23 × 13 × 5	0.9	黒曜石	◇ 44	I a ₃	31 × 15 × 4	1.3	黒曜石
◇ 13	I a ₃	20 × 16 × 4	0.9	黒曜石	◇ 45	I a ₃	34 × 13 × 4	1.3	黒曜石
◇ 14	I a ₃	21 × 14 × 3	0.7	黒曜石	◇ 46	I a ₃	30 × 15 × 3	1.0	黒曜石
◇ 15	I a ₃	23 × 13 × 3	0.4	黒曜石	◇ 47	I a ₃	25 × 16 × 4	0.9	黒曜石
◇ 16	I a ₃	21 × 13 × 4	0.6	黒曜石	◇ 48	I a ₃	32 × 15 × 4	1.3	黒曜石
◇ 17	I a ₃	(21) × (12) × (8)	(0.7)	黒曜石	◇ 49	I a ₃	30 × 14 × 3	1.0	黒曜石
◇ 18	I a ₃	23 × 13 × 3	0.7	黒曜石	◇ 50	I a ₃	(30) × 17 × 5	(1.6)	黒曜石
◇ 19	I a ₃	24 × 15 × 3	0.8	黒曜石	◇ 51	I a ₃	28 × 14 × 5	1.5	黒曜石
◇ 20	I a ₃	(22) × 13 × 3	(0.8)	黒曜石	◇ 52	I a ₃	29 × 14 × 4	1.1	黒曜石
◇ 21	I a ₃	27 × 12 × 7	1.5	珪岩	◇ 53	I a ₃	37 × 14 × 4	1.0	眞岩
◇ 22	I a ₃	23 × 13 × 4	0.8	黒曜石	◇ 54	I a ₃	32 × 15 × 4	1.3	黒曜石
◇ 23	I a ₃	22 × 13 × 3	0.6	黒曜石	◇ 55	I a ₃	31 × 18 × 6	1.9	黒曜石
◇ 24	I a ₃	24 × 14 × 4	1.0	瑪瑙質眞岩	◇ 56	I a ₃	30 × 16 × 4	1.2	黒曜石
◇ 25	I a ₃	23 × 14 × 3	0.7	黒曜石	◇ 57	I a ₃	38 × 13 × 5	1.6	黒曜石
◇ 26	I a ₃	23 × 14 × 4	0.9	黒曜石	◇ 58	I a ₃	(30) × (18) × 6	(2.2)	黒曜石
◇ 27	I a ₃	23 × 15 × 4	0.9	黒曜石	◇ 59	I a ₃	42 × 14 × 6	2.3	黒曜石
◇ 28	I a ₃	24 × 17 × 4	0.8	黒曜石	◇ 60	I a ₃	(42) × 13 × 6	(2.3)	黒曜石
◇ 29	I a ₃	24 × 16 × 4	0.8	黒曜石	◇ 61	I a ₃	43 × 16 × 5	2.1	黒曜石
◇ 30	I a ₃	28 × 12 × 4	0.8	黒曜石	Fig.97-62	I a ₃	13 × 12 × 3	0.3	黒曜石
◇ 31	I a ₃	28 × 13 × 4	0.9	黒曜石	◇ 63	I a ₃	16 × 14 × 4	0.7	黒曜石
◇ 32	I a ₃	28 × 13 × 5	1.2	黒曜石	◇ 64	I a ₃	(18) × 11 × 4	(0.6)	黒曜石

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.97-65	I a ₃	19 × 11 × 4	0.7	黒曜石
◇ 66	I a ₃	(21) × 13 × 3	(0.7)	黒曜石
◇ 67	I a ₃	(20) × 12 × 5	(1.1)	黒曜石
◇ 68	I a ₃	(20) × 11 × 4	(0.8)	黒曜石
◇ 69	I a ₃	23 × 11 × 4	0.7	黒曜石
◇ 70	I a ₃	(19) × 14 × 4	(0.8)	黒曜石
◇ 71	I a ₃	(21) × 13 × 4	(1.0)	黒曜石
◇ 72	I a ₃	(21) × 11 × 4	(0.7)	黒曜石
◇ 73	I a ₃	22 × 14 × 5	0.9	黒曜石
◇ 74	I a ₃	(27) × 11 × 3	(1.0)	黒曜石
◇ 75	I a ₃	(20) × 16 × 4	(0.9)	黒曜石
◇ 76	I a ₃	(21) × 14 × 4	(0.9)	黒曜石
◇ 77	I a ₃	23 × 14 × 4	1.0	黒曜石
◇ 78	I a ₃	(23) × 13 × 4	(0.9)	黒曜石
◇ 79	I a ₃	(25) × 13 × 4	(0.9)	黒曜石
◇ 80	I a ₃	(26) × 13 × 4	(1.1)	黒曜石
◇ 81	I a ₃	(24) × 14 × 5	(1.2)	黒曜石
◇ 82	I a ₃	(20) × 15 × 5	(1.1)	黒曜石
◇ 83	I a ₃	(23) × 14 × 3	(1.1)	黒曜石
◇ 84	I a ₃	(26) × 11 × 4	(0.9)	黒曜石
◇ 85	I a ₃	(24) × 14 × 5	(1.3)	黒曜石
◇ 86	I a ₃	(27) × 14 × 35	(1.2)	黒曜石
◇ 87	I a ₃	(25) × 14 × 4	(1.3)	黒曜石
◇ 88	I a ₃	(26) × 14 × 5	(1.3)	黒曜石
◇ 89	I a ₃	(23) × 13 × 4	(1.1)	黒曜石
◇ 90	I a ₃	25 × 11 × 5	1.0	黒曜石
◇ 91	I a ₃	(26) × 13 × 5	(1.4)	黒曜石
◇ 92	I a ₃	(34) × 13 × 3	(1.2)	瑪瑙質頁岩
◇ 93	I a ₃	(28) × 14 × 5	(1.3)	黒曜石
◇ 94	I a ₃	(26) × 16 × 5	(1.5)	黒曜石
◇ 95	I a ₃	25 × 15 × 5	1.2	黒曜石
◇ 96	I a ₃	(27) × 16 × 4	(1.5)	黒曜石
◇ 97	I a ₃	(29) × 12 × 3	(1.0)	黒曜石

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.97- 98	I a ₃	31 × 19 × 6	1.7	黒曜石
◇ 99	I a ₃	20 × 11 × 3	0.5	黒曜石
◇ 100	I a ₃	19 × 13 × 3	0.7	黒曜石
◇ 101	I a ₃	18 × 14 × 3	0.5	黒曜石
◇ 102	I a ₃	21 × 13 × 5	0.8	黒曜石
◇ 103	I a ₃	20 × 10 × 3	0.4	黒曜石
◇ 104	I a ₃	17 × 12 × 4	0.7	黒曜石
◇ 105	I a ₅	20 × 11 × 4	0.5	黒曜石
◇ 106	I a ₃	22 × 11 × 4	0.7	黒曜石
◇ 107	I a ₃	23 × 10 × 4	0.7	黒曜石
◇ 108	I a ₃	19 × 14 × 5	0.7	黒曜石
◇ 109	I a ₃	21 × 10 × 4	0.6	瑪瑙
◇ 110	I a ₃	21 × 10 × 3	0.5	黒曜石
◇ 111	I a ₃	21 × 11 × 3	0.6	黒曜石
◇ 112	I a ₃	22 × 11 × 4	0.8	黒曜石
◇ 113	I a ₅	18 × 14 × 5	0.9	黒曜石
◇ 114	I a ₃	23 × 10 × 3	0.6	黒曜石
◇ 115	I a ₃	22 × 11 × 5	0.7	黒曜石
◇ 116	I a ₃	22 × 13 × 4	0.9	黒曜石
◇ 117	I a ₃	26 × 12 × 4	0.8	黒曜石
◇ 118	I a ₃	19 × 12 × 3	0.5	黒曜石
◇ 119	I a ₃	24 × 15 × 4	1.0	黒曜石
◇ 120	I a ₃	23 × 15 × 6	1.1	黒曜石
◇ 121	I a ₃	23 × 12 × 4	0.8	黒曜石
◇ 122	I a ₃	22 × 12 × 5	1.0	黒曜石
◇ 123	I a ₃	23 × 13 × 3	0.9	瑪瑙
◇ 124	I a ₆	23 × 15 × 5	1.3	黒曜石
◇ 125	I a ₅	22 × 13 × 6	1.2	黒曜石
◇ 126	I a ₃	21 × 15 × 4	0.9	黒曜石
◇ 127	I a ₃	28 × 12 × 3	0.6	黒曜石
◇ 128	I a ₃	28 × 13 × 4	0.9	黒曜石
◇ 129	I a ₅	24 × 11 × 4	0.9	黒曜石
◇ 130	I a ₃	25 × 11 × 4	0.6	黒曜石

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質	図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.97-131	I a ₃	26 × 10 × 4	0.7	黒曜石	Fig.98-164	I a ₃	(24) × 15 × 4	(1.0)	黒曜石
◇ 132	I a ₃	25 × 8 × 3	0.5	黒曜石	◇ 165	I a ₃	25 × 15 × 6	1.6	黒曜石
Fig.98-133	I a ₃	28 × 12 × 4	0.9	黒曜石	◇ 166	I a ₃	28 × 15 × 5	1.5	黒曜石
◇ 134	I a ₃	19 × 15 × 4	1.1	黒曜石	◇ 167	I a ₃	26 × 15 × 4	1.4	黒曜石
◇ 135	I a ₃	19 × 12 × 6	1.3	黒曜石	◇ 168	I a ₃	28 × 16 × 5	1.5	黒曜石
◇ 136	I a ₃	26 × 15 × 5	1.1	黒曜石	◇ 169	I a ₃	27 × 17 × 5	1.3	黒曜石
◇ 137	I a ₃	27 × 14 × 7	2.2	瑪瑙	◇ 170	I a ₃	26 × 14 × 3	0.8	黒曜石
◇ 138	I a ₃	26 × 13 × 4	1.3	黒曜石	◇ 171	I a ₃	13 × 14 × 3	0.9	黒曜石
◇ 139	I a ₃	(22) × 17 × 4	(0.9)	黒曜石	◇ 172	I a ₃	27 × 13 × 3	0.8	黒曜石
◇ 140	I a ₃	21 × 14 × 6	1.3	黒曜石	◇ 173	I a ₃	23 × 14 × 7	1.3	黒曜石
◇ 141	I a ₃	25 × 13 × 4	0.9	黒曜石	◇ 174	I a ₃	25 × 12 × 5	1.0	黒曜石
◇ 142	I a ₃	22 × 15 × 4	0.8	黒曜石	◇ 175	I a ₃	(32) × 12 × 5	(1.2)	黒曜石
◇ 143	I a ₃	23 × 12 × 4	0.8	黒曜石	◇ 176	I a ₃	32 × 14 × 5	1.5	黒曜石
◇ 144	I a ₃	23 × 14 × 3	0.7	黒曜石	◇ 177	I a ₃	(28) × 16 × 4	1.4	黒曜石
◇ 145	I a ₃	23 × 15 × 3	0.8	黒曜石	◇ 178	I a ₃	30 × 10 × 4	0.9	黒曜石
◇ 146	I a ₃	23 × 14 × 5	1.1	黒曜石	◇ 179	I a ₃	35 × 13 × 8	1.9	黒曜石
◇ 147	I a ₃	22 × 12 × 5	1.0	黒曜石	◇ 180	I a ₃	(35) × 13 × 6	(2.2)	黒曜石
◇ 148	I a ₃	27 × 16 × 3	1.0	黒曜石	◇ 181	I a ₃	(29) × 11 × 4	(1.1)	黒曜石
◇ 149	I a ₃	25 × 12 × 4	1.0	黒曜石	◇ 182	I a ₃	37 × 10 × 7	1.8	黒曜石
◇ 150	I a ₃	21 × 14 × 3	0.9	黒曜石	◇ 183	I a ₃	37 × 14 × 4	1.6	黒曜石
◇ 151	I a ₃	21 × 13 × 3	0.7	黒曜石	◇ 184	I a ₃	37 × 13 × 4	1.6	黒曜石
◇ 152	I a ₃	25 × 15 × 5	1.1	黒曜石	◇ 185	I a ₃	43 × 15 × 6	2.9	黒曜石
◇ 153	I a ₃	27 × 12 × 3	0.7	黒曜石	◇ 186	I a ₃	42 × 12 × 4	1.6	黒曜石
◇ 154	I a ₃	25 × 12 × 4	0.9	黒曜石	◇ 187	I a ₃	(42) × 9 × 4	(1.7)	黒曜石
◇ 155	I a ₃	22 × 14 × 5	1.0	黒曜石	◇ 188	I a ₃	42 × 14 × 6	2.5	黒曜石
◇ 156	I a ₃	22 × 13 × 4	0.8	瑪瑙	◇ 189	I a ₃	30 × 18 × 5	1.7	黒曜石
◇ 157	I a ₃	25 × 14 × 5	1.2	黒曜石	◇ 190	I a ₃	42 × 18 × 10	7.0	玄武岩
◇ 158	I a ₃	23 × 14 × 4	0.9	黒曜石	Fig.99-191	I a ₃	18 × 10 × 3	0.5	黒曜石
◇ 159	I a ₃	26 × 15 × 4	1.3	黒曜石	◇ 192	I a ₃	25 × 15 × 4	1.2	黒曜石
◇ 160	I a ₃	(27) × 13 × 4	(0.9)	黒曜石	◇ 193	I a ₅	31 × 15 × 5	1.8	黒曜石
◇ 161	I a ₃	25 × 17 × 5	1.4	黒曜石	◇ 194	I a ₃	37 × 15 × 5	1.8	黒曜石
◇ 162	I a ₃	26 × 14 × 4	0.8	黒曜石	◇ 195	I a ₄	35 × 10 × 3	1.1	黒曜石
◇ 163	I a ₅	28 × 13 × 5	1.1	黒曜石	◇ 196	I a ₄	28 × 13 × 6	2.0	黒曜石

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.99-197	I a ₄	26 × 13 × 5	1.3	黒曜石
◇ 198	I a ₄	33 × 13 × 6	2.1	黒曜石
◇ 199	I a ₄	29 × 13 × 4	1.3	黒曜石
◇ 200	I a ₃	36 × 13 × 4	1.3	黒曜石
◇ 201	I a ₄	37 × 11 × 5	1.7	黒曜石
◇ 202	I a ₄	42 × 15 × 6	3.5	黒曜石
◇ 203	I a ₄	35 × 16 × 5	2.6	黒曜石
◇ 204	I a ₄	39 × 17 × 8	4.4	黒曜石
◇ 205	I a ₄	42 × 11 × 6	2.5	黒曜石
◇ 206	I a ₅	34 × 14 × 6	1.8	黒曜石
◇ 207	I a ₅	25 × 13 × 4	1.0	黒曜石
◇ 208	I a ₄	26 × 14 × 6	1.6	黒曜石
◇ 209	I a ₅	30 × 16 × 5	1.8	黒曜石
◇ 210	I a ₃	30 × 10 × 3	0.8	黒曜石
◇ 211	I a ₃	42 × 21 × 6	4.1	黒曜石
◇ 212	I a ₄	51 × 22 × 8	7.5	黒曜石
◇ 213	II b	50 × 29 × 8	6.5	頁岩
◇ 214	II b	39 × 23 × 7	2.9	頁岩
◇ 215	II b	35 × 20 × 6	2.5	頁岩
◇ 216	II b	28 × 24 × 6	2.1	頁岩
◇ 217	II b	44 × 25 × 10	5.2	黒曜石
◇ 218	II b	(34) × 24 × 9	(4.2)	頁岩
◇ 219	II b	42 × 21 × 6	3.8	凝灰岩
◇ 220	II b	24 × 25 × 6	2.2	珪岩
◇ 221	II b	(43) × (23) × (11)	(8.3)	泥岩
◇ 222	II b	(39) × 22 × 6	(4.1)	泥岩
◇ 223	II b	40 × 16 × 5	2.5	頁岩
◇ 224	II b	42 × 21 × 9	5.6	珪岩
◇ 225	II b	25 × 22 × 4	1.2	泥岩
◇ 226	II b	23 × 24 × 5	1.8	瑪瑙質頁岩
◇ 227	II b	44 × 23 × 8	5.3	黒曜石
◇ 228	II b	(35) × 30 × 11	(6.6)	珪岩
Fig.100-229	II b	(33) × 25 × 7	(3.4)	頁岩

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.100-230	II b	24 × 19 × 7	6.6	頁岩
◇ 231	II b	(36) × (26) × 13	(7.1)	泥岩
◇ 232	II b	30 × 18 × 8	3.3	黒曜石
◇ 233	II b	32 × 21 × 9	3.9	黒曜石
◇ 234	II b	41 × 22 × 12	7.9	ジャスパー
◇ 235	II b	31 × 27 × 7	4.0	頁岩
◇ 236	II b	29 × 26 × 8	4.8	頁岩
◇ 237	II b	52 × 38 × 12	16.9	頁岩
◇ 238	II b	47 × 36 × 6	11.0	頁岩
◇ 239	II b	45 × 30 × 12	14.5	頁岩
◇ 240	II b	33 × 26 × 7	5.4	頁岩
◇ 241	II b	45 × 29 × 6	7.0	瑪瑙質頁岩
◇ 242	II b	29 × 27 × 10	5.7	頁岩
◇ 243	II b	36 × 34 × 11	9.7	片岩
◇ 244	II b	35 × 25 × 8	5.8	頁岩
◇ 245	II b	38 × 26 × 9	8.7	頁岩
◇ 246	II b	33 × 22 × 7	3.0	瑪瑙質頁岩
◇ 247	II b	27 × 21 × 5	2.1	瑪瑙
◇ 248	II b	30 × 30 × 9	5.4	頁岩
◇ 249	II b	28 × 18 × 5	2.8	珪岩
◇ 250	II b	30 × 20 × 7	2.5	頁岩
◇ 251	II b	(33) × (20) × 8	(3.8)	瑪瑙
◇ 252	II b	36 × 22 × 11	6.8	瑪瑙質頁岩
◇ 253	II b	38 × 19 × 10	6.0	頁岩
◇ 254	II b	33 × 24 × 10	5.4	瑪瑙
◇ 255	II b	29 × 18 × 4	1.9	珪岩
◇ 256	II b	47 × 23 × 9	7.2	頁岩
◇ 257	II b	29 × 25 × 9	5.8	瑪瑙質頁岩
◇ 258	II b	(33) × 22 × 13	(8.3)	珪岩
◇ 259	II b	42 × 26 × 8	7.3	頁岩
◇ 260	II b	34 × 20 × 10	4.5	黒曜石
Fig.101-261	II b	58 × (32) × (10)	(17.6)	凝灰岩
◇ 262	II b	43 × 22 × 11	7.7	黒曜石

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質	図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.101-263	II b	38 × 24 × 8	6.4	黒曜石	Fig.102-296	II a	36 × 17 × 12	5.9	黒曜石
◇ 264	II b	42 × 31 × 9	11.2	珪岩	◇ 297	II a	33 × 15 × 8	3.5	頁岩
◇ 265	II b	23 × 22 × 5	1.9	泥岩	◇ 298	II a	31 × 17 × 4	1.7	珪岩
◇ 266	II b	36 × 29 × 7	5.0	黒曜石	◇ 299	II a	38 × 18 × 9	3.2	黒曜石
◇ 267	II b	(40) × 25 × 11	(10.4)	頁岩	◇ 300	II a	33 × 15 × 10	3.7	黒曜石
◇ 268	II b	39 × 27 × 12	9.6	頁岩	◇ 301	II a	46 × 17 × 9	6.9	黒曜石
◇ 269	II b	25 × 20 × 5	2.0	黒曜石	◇ 302	II a	35 × 16 × 7	3.4	黒曜石
◇ 270	II b	34 × 21 × 10	3.9	瑪瑙	◇ 303	II a	43 × 14 × 6	3.5	黒曜石
◇ 271	II b	41 × 17 × 10	7.9	頁岩	◇ 304	II a	43 × 15 × 7	4.6	黒曜石
◇ 272	II b	39 × 23 × 11	7.8	片岩	◇ 305	II a	35 × 15 × 8	3.7	黒曜石
◇ 273	II b	38 × 19 × 6	4.1	泥岩	◇ 306	II a	34 × 14 × 6	3.6	黒曜石
◇ 274	II b	22 × 18 × 8	2.2	瑪瑙質頁岩	◇ 307	II a	43 × 15 × 9	4.1	玄武岩
◇ 275	II b	32 × 24 × 7	4.2	黒曜石	◇ 308	II a	43 × 11 × 4	1.8	玄武岩
◇ 276	II b	25 × 15 × 7	2.1	黒曜石	◇ 309	II a	(42) × (15) × 6	(2.6)	頁岩
◇ 277	II b	30 × 22 × 6	4.0	ジャスパー	◇ 310	II a	32 × 13 × 8	4.6	黒曜石
◇ 278	II b	29 × 20 × 7	2.7	珪岩	◇ 311	II a	52 × 13 × 7	4.5	黒曜石
◇ 279	II b	33 × 19 × 6	2.8	泥岩	◇ 312	II b	47 × 25 × 10	8.4	黒曜石
◇ 280	II b	37 × 20 × 9	5.2	黒曜石	◇ 313	II b	49 × 32 × 6	7.4	珪岩
◇ 281	II b	28 × 21 × 8	5.8	頁岩	◇ 314	II b	50 × 35 × 9	11.5	黒曜石
◇ 282	II b	48 × 27 × 9	10.8	頁岩	Fig.103-315	III a ₁	69 × 18 × 8	9.8	頁岩
◇ 283	II b	33 × 19 × 8	4.2	頁岩	◇ 316	III a ₁	83 × (53) × 9	(34.7)	泥岩
◇ 284	II b	38 × 21 × 10	5.6	黒曜石	◇ 317	III a ₁	58 × 28 × 6	11.1	珪岩
◇ 285	II b	44 × 26 × 10	8.3	黒曜石	◇ 318	III a ₁	35 × 16 × 6	1.9	頁岩
◇ 286	II b	(40) × (32) × 6	(5.5)	泥岩	◇ 319	III a ₁	45 × 22 × 5	6.0	頁岩
◇ 287	II b	48 × 23 × 15	11.7	頁岩	◇ 320	III a ₁	40 × 36 × 8	9.8	黒曜石
◇ 288	II b	49 × 32 × 9	9.7	黒曜石	◇ 321	III a ₁	61 × 53 × 12	38.6	頁岩
◇ 289	II b	28 × 20 × 6	2.4	ジャスパー	◇ 322	III a ₁	40 × 18 × 8	4.6	黒曜石
◇ 290	II b	31 × 21 × 8	5.8	頁岩	◇ 323	III a ₁	41 × 27 × 9	9.1	黒曜石
◇ 291	II b	33 × 22 × 11	5.9	黒曜石	◇ 324	III a ₁	65 × 37 × 8	20.2	頁岩
◇ 292	II b	37 × 19 × 10	4.9	黒曜石	◇ 325	III a ₁	40 × 36 × 15	7.7	黒曜石
Fig.102-293	II b	35 × 20 × 8	5.4	瑪瑙質頁岩	◇ 326	III a ₂	34 × 56 × 9	8.9	頁岩
◇ 294	II b	40 × 19 × 9	5.9	頁岩	◇ 327	III a ₁	40 × 10 × 7	2.4	黒曜石
◇ 295	II b	35 × 17 × 8	3.7	黒曜石	◇ 328	III a ₁	64 × 9 × 10	5.0	黒曜石

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.103-329	Ⅲc ₁	41 × 28 × 5	5.5	黒曜石
◇ 330	Ⅲc ₁	39 × 30 × 7	6.6	黒曜石
◇ 331	Ⅲc ₂	41 × 15 × 5	3.5	黒曜石
◇ 332	Ⅲc ₂	83 × 41 × 14	47.2	頁岩
◇ 333	Ⅲd ₁	46 × 32 × 10	15.3	頁岩
◇ 334	Ⅲc ₂	38 × 63 × 8	20.7	泥岩
Fig.104-335	Ⅲc ₂	103 × 54 × 10	70.2	珪質頁岩
◇ 336	Ⅲc ₂	84 × 55 × 19	71.3	珪質頁岩
◇ 337	Ⅲc ₂	105 × 80 × 24	220.0	珪質頁岩
◇ 338	Ⅲc ₁	74 × 18 × 12	13.9	黒曜石
◇ 339	Ⅲc ₂	72 × 38 × 13	30.6	瑪瑙質頁岩

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.104-340	Ⅲc ₂	123 × 79 × 11	(98.5)	頁岩
Fig.105-341	Ⅲc ₂	73 × 68 × 13	63.9	珪質頁岩
◇ 342	Ⅲc ₁	48 × 80 × 13	40.4	珪岩
◇ 343	Ⅲc ₁	34 × 66 × 10	24.5	黒曜石
◇ 344	Ⅲc ₂	43 × 92 × 14	52.6	頁岩
◇ 345	Ⅲc ₂	47 × 35 × 9	15.2	凝灰質珪岩
◇ 346	Ⅳa	56 × 44 × 7	19.2	黒曜石
◇ 347	Ⅳa	20 × 43 × 9	9.6	黒曜石
◇ 348	Ⅳa	37 × 42 × 19	26.5	黒曜石
◇ 349	Ⅳa	67 × 63 × 22	89.6	珪岩
◇ 350	Ⅳa	65 × 60 × 14	40.7	珪質頁岩

Tab. 17 沢町遺跡遺構外出土礫石器一覽

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質	図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.106-1	V _{a1}	128 × 53 × 12	179.1	頁岩	Fig.107-33	V _{a1}	73 × 38 × 14	(57.7)	泥岩
◇ 2	V _{a1}	113 × 54 × 23	260.0	凝灰岩	◇ 34	V _{a1}	73 × 39 × 14	(55.7)	泥岩
◇ 3	V _{a1}	65 × 42 × 22	87.8	片岩	◇ 35	V _{a1}	89 × 19 × 10	30.3	凝灰質シルト岩
◇ 4	V _{a1}	80 × 42 × 20	(112.9)	頁岩	◇ 36	V _{a1}	(65) × 35 × 16	(74.6)	泥岩
◇ 5	V _{a1}	83 × 45 × 20	106.8	泥岩	◇ 37	V _{a1}	54 × 17 × 5	9.5	粘板岩
◇ 6	V _{a1}	(80) × 62 × 21	(182.0)	片岩	◇ 38	V _a	(117) × (25) × (22)	(106.2)	粘板岩
◇ 7	V _{a1}	(56) × 34 × 11	(35.1)	片岩	◇ 39	V _a	(123) × 26 × 22	(134.0)	粘板岩
◇ 8	V _{a1}	55 × 35 × 12	34.9	泥岩	Fig.108-40	V _{a2}	111 × 69 × 36	410.0	安山岩
◇ 9	V _{a1}	(65) × 45 × 12	(52.9)	泥岩	◇ 41	V _{a2}	70 × 62 × 52	300.0	安山岩
◇ 10	V _{a1}	111 × 44 × 3	99.9	泥岩	◇ 42	V _{a2}	89 × 74 × 63	630.0	輝石安山岩
◇ 11	V _{a1}	100 × 58 × 23	260.0	凝灰質砂岩	◇ 43	V _{a2}	110 × 65 × 35	420.0	安山岩
◇ 12	V _{a1}	85 × 32 × 17	83.7	角閃岩	◇ 44	V _{a2}	90 × 86 × 52	490.0	安山岩
◇ 13	V _{a1}	50 × 27 × 13	25.9	泥岩	◇ 45	V _{a2}	105 × 62 × 43	370.0	瑪瑙質頁岩
◇ 14	V _{a1}	61 × 28 × 10	24.4	片岩	◇ 46	V _{a2}	90 × 75 × 50	470.0	瑪瑙質頁岩
◇ 15	V _{a1}	44 × 25 × 9	13.1	安山岩	◇ 47	V _{a2}	72 × 76 × 37	300.0	瑪瑙
◇ 16	V _{a1}	31 × 20 × 4	(4.0)	凝灰質シルト岩	◇ 48	V _{a2}	35 × 37 × 35	66.1	流紋岩
◇ 17	V _{a1}	62 × 41 × (13)	(43.8)	泥岩	◇ 49	V _{a2}	45 × 44 × 44	127.7	頁岩
◇ 18	V _{a1}	78 × 39 × 15	(64.4)	泥岩	◇ 50	V _{a2}	48 × 47 × 45	141.2	玄武岩
◇ 19	V _{a1}	58 × 16 × 8	21.1	粘板岩	Fig.109-51	V _{a2}	100 × 104 × 63	890.0	瑪瑙質頁岩
◇ 20	V _{a1}	73 × 42 × 17	86.2	泥岩	◇ 52	V _{a2}	76 × 73 × 44	370.0	頁岩
◇ 21	V _{a1}	74 × 73 × 33	213.0	泥岩	◇ 53	V _{a2}	64 × 52 × 60	330.0	頁岩
◇ 22	V _{a1}	90 × 35 × 10	60.5	緑色片岩	◇ 54	V _{a2}	52 × 51 × 43	168.5	流紋岩
◇ 23	V _{a1}	66 × 34 × 11	33.9	泥岩	◇ 55	V _{a2}	68 × 70 × 40	260.0	蛇紋岩
◇ 24	V _{a1}	(63) × 29 × 11	(30.8)	黒色片岩	◇ 56	V _{a2}	71 × 73 × 50	380.0	瑪瑙質頁岩
◇ 25	V _{a1}	53 × 28 × 9	24.5	蛇紋岩	◇ 57	V _{a2}	86 × 87 × 64	690.0	頁岩
◇ 26	V _{a2}	56 × 29 × 11	24.8	泥岩	Fig.110-58	V _b	156 × 67 × 34	510.0	安山岩
Fig.107-27	V _{a1}	(83) × 46 × 18	(249.8)	角閃石	◇ 59	V _b	111 × 37 × 28	170.0	凝灰岩
◇ 28	V _{a1}	81 × 42 × 19	(116.4)	泥岩	◇ 60	V _b	128 × 60 × 39	390.0	砂岩
◇ 29	V _{a1}	105 × 50 × 23	(138.9)	泥岩	◇ 61	V _b	101 × 70 × 49	460.0	安山岩
◇ 30	V _{a1}	94 × 49 × 25	185.4	凝灰質砂岩	◇ 62	V _b	159 × 72 × 41	470.0	安山岩
◇ 31	V _{a1}	119 × (57) × 31	(299.5)	輝石安山岩	◇ 63	V _b	128 × 68 × 42	450.0	安山岩
◇ 32	V _{a2}	78 × 38 × 14	(49.0)	泥岩	◇ 64	V _b	115 × 77 × 33	430.0	安山岩

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.110-65	Ⅷb	142 × 52 × 48	430.0	安山岩
◇ 66	Ⅷb	123 × 56 × 35	340.0	凝灰岩
◇ 67	Ⅷb	110 × 59 × 34	300.0	安山岩
Fig.111-68	Ⅷb	122 × 72 × 37	320.0	安山岩
◇ 69	Ⅷb	133 × 77 × 52	720.0	安山岩
◇ 70	Ⅷb	150 × 62 × 36	360.0	安山岩
◇ 71	Ⅸc ₂	109 × 69 × 27	319.0	安山岩
◇ 72	Xa ₂	(48) × (52) × (29)	(64.4)	砂岩
◇ 73	Xa ₁	(122) × (58) × (20)	(146.6)	砂岩
◇ 74	Xa ₁	(83) × (59) × (21)	(101.6)	砂岩
◇ 75	Xa ₂	209 × (151) × 60	(1220.0)	砂岩
Fig.112-76	Xa ₁	(173) × (118) × (28)	(650.0)	砂岩

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.112-77	Xa ₂	(159) × (90) × (62)	(690.0)	砂岩
◇ 78	XIa ₂	64 × 34 × 12	21.5	砂岩
◇ 79	XIa ₂	(116) × 90 × 26	(400.0)	安山岩
◇ 80	握石	61 × 60 × 40	180.0	角閃石安山岩
◇ 81	握石	42 × 38 × 21	160.0	凝灰質砂岩
◇ 82	握石	81 × 62 × 38	280.0	輝石安山岩
◇ 83	握石	62 × 40 × 39	150.0	輝石安山岩
◇ 84	握石	67 × 51 × 37	250.0	輝石安山岩
◇ 85	握石	82 × 72 × 55	490.0	角閃石安山岩
◇ 86	握石	72 × 63 × 59	440.0	輝石安山岩
◇ 87	握石	55 × 47 × 30	85.5	ガラス質安山岩
◇ 88	握石	68 × 51 × 38	370.0	輝石安山岩

Tab. 18 沢町遺跡遺構外出土の土製品・石製品・異形石器一覧

図番号	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.113-89	(46) × (26) × (22)	(26.1)	土製品
◇ 90	70 × 71 × 20	90.0	紡錘車
◇ 91	(48) × (45) × 9	(19.0)	土版
◇ 92	(45) × (20) × 11	(13.7)	滑車状耳飾
◇ 93	32 × (18) × 19	(7.5)	滑車状耳飾
◇ 94	(33) × (22) × 9	(8.4)	滑車状耳飾
◇ 95	21 × 21 × 22	10.3	耳栓状耳飾
◇ 96	22 × 18 × 18	8.0	耳栓状耳飾
◇ 97	(36) × 16 × 8	(4.5)	勾玉状土製品
◇ 98	40 × 17 × 6	3.0	異形石器

図番号	長幅厚 (mm)	重 (g)	種別
Fig.113-99	44 × 12 × 4	2.6	異形石器
◇ 100	47 × 12 × 6	3.0	異形石器
◇ 101	(38) × 12 × 7	(2.6)	異形石器
◇ 102	23 × 26 × 5	2.6	有孔石製品
◇ 103	25 × 20 × 4	1.8	有孔石製品
◇ 104	34 × 28 × 8	6.1	有孔石製品
◇ 105	27 × 16 × 7	5.2	勾玉
◇ 106	42 × 20 × 15	22.3	管玉
◇ 107	31 × 15 × 6	4.8	有孔石製品
◇ 108	57 × 23 × 7	12.4	有孔石製品

Tab.19 沢町遺跡出土の石器(米坂コレクション)一覧

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質	図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.114-1	I a ₁	25 × 17 × 4	1.5	黒曜石	Fig.114-33	I a ₃	(20) × 16 × 6	(1.3)	黒曜石
◇ 2	I a ₁	29 × 18 × 5	2.2	黒曜石	◇ 34	I a ₃	(20) × 14 × 4	(1.0)	黒曜石
◇ 3	I a ₄	34 × 19 × 7	4.2	黒曜石	◇ 35	I a ₃	(23) × 10 × 3	(0.9)	黒曜石
◇ 4	I a ₂	24 × 11 × 3	0.6	黒曜石	◇ 36	I a ₃	24 × 12 × 4	0.8	黒曜石
◇ 5	I a ₂	32 × 13 × 5	1.6	黒曜石	◇ 37	I a ₃	24 × 12 × 3	0.8	黒曜石
◇ 6	I a ₂	29 × (13) × 3	(0.8)	硬質頁岩	◇ 38	I a ₁	24 × 13 × 3	0.8	黒曜石
◇ 7	I a ₂	26 × 16 × 3	1.0	黒曜石	◇ 39	I a ₃	(24) × 12 × 4	(1.0)	黒曜石
◇ 8	I a ₂	31 × 14 × 3	1.3	玄武岩	◇ 40	I a ₃	26 × 11 × 4	1.0	黒曜石
◇ 9	I a ₂	25 × 19 × 4	1.3	黒曜石	◇ 41	I a ₃	(24) × 12 × 2	(0.6)	黒曜石
◇ 10	I a ₂	(28) × 18 × 4	(1.6)	黒曜石	◇ 42	I a ₃	26 × 13 × 3	8.8	黒曜石
◇ 11	I a ₂	41 × 18 × 4	(2.4)	黒曜石	◇ 43	I a ₃	25 × 12 × 5	1.0	黒曜石
◇ 12	I a ₂	43 × 21 × 4	(3.5)	黒曜石	◇ 44	I a ₃	26 × 14 × 4	0.9	黒曜石
◇ 13	I a ₃	(13) × 11 × 3	(0.5)	黒曜石	◇ 45	I a ₃	25 × 12 × 5	1.0	黒曜石
◇ 14	I a ₃	16 × 13 × 3	0.5	黒曜石	◇ 46	I a ₃	(21) × 12 × 3	(0.8)	黒曜石
◇ 15	I a ₃	18 × 14 × 4	0.7	黒曜石	◇ 47	I a ₃	(23) × 15 × 4	(0.8)	黒曜石
◇ 16	I a ₃	18 × 12 × 4	0.7	黒曜石	◇ 48	I a ₃	(22) × 16 × 4	(1.2)	黒曜石
◇ 17	I a ₃	19 × 12 × 4	0.6	黒曜石	◇ 49	I a ₃	(23) × 13 × 4	(0.8)	黒曜石
◇ 18	I a ₃	21 × 11 × 4	0.6	黒曜石	◇ 50	I a ₃	30 × 11 × 3	0.8	黒曜石
◇ 19	I a ₃	21 × 13 × 3	0.6	黒曜石	◇ 51	I a ₃	(25) × 4 × 4	(1.1)	黒曜石
◇ 20	I a ₃	(21) × 9 × 4	(0.7)	黒曜石	◇ 52	I a ₃	(23) × 15 × 5	(1.4)	黒曜石
◇ 21	I a ₃	(22) × 16 × 4	(0.8)	黒曜石	◇ 53	I a ₃	26 × 12 × 4	0.7	黒曜石
◇ 22	I a ₃	(19) × 11 × 3	(0.5)	黒曜石	◇ 54	I a ₃	(27) × 12 × 4	(1.1)	黒曜石
◇ 23	I a ₃	(19) × 11 × 3	(0.6)	黒曜石	◇ 55	I a ₃	26 × 10 × 3	0.6	黒曜石
◇ 24	I a ₃	(20) × 10 × 3	(0.5)	黒曜石	◇ 56	I a ₃	(26) × 16 × 5	(1.4)	黒曜石
◇ 25	I a ₃	21 × 12 × 4	0.8	黒曜石	◇ 57	I a ₃	27 × 12 × 4	0.9	黒曜石
◇ 26	I a ₃	(20) × 13 × 4	(0.9)	黒曜石	◇ 58	I a ₃	28 × 14 × 4	0.9	黒曜石
◇ 27	I a ₃	(24) × 12 × 4	(1.0)	黒曜石	◇ 59	I a ₃	27 × 11 × 4	1.1	黒曜石
◇ 28	I a ₃	(19) × 13 × 4	(0.8)	黒曜石	◇ 60	I a ₃	(22) × 17 × 3	(0.8)	黒曜石
◇ 29	I a ₃	(23) × 11 × 3	(0.8)	黒曜石	◇ 61	I a ₃	(22) × 14 × 3	(0.8)	黒曜石
◇ 30	I a ₃	(23) × 13 × 4	(0.9)	黒曜石	◇ 62	I a ₃	(25) × 13 × 5	(1.2)	瑪瑙
◇ 31	I a ₃	23 × 13 × 4	0.7	黒曜石	◇ 63	I a ₃	25 × 13 × 4	0.9	黒曜石
◇ 32	I a ₃	23 × 12 × 4	0.9	玄武岩	◇ 64	I a ₃	26 × 15 × 5	1.5	黒曜石

図番号	分類	長幅厚 (g)	重 (mm)	石質
Fig.114-65	I a ₃	(22) × 14 × 2	(0.8)	瑪瑙質頁岩
◇ 66	I a ₃	30 × 14 × 3	(0.8)	黒曜石
◇ 67	I a ₃	27 × 15 × 5	1.0	黒曜石
◇ 68	I a ₃	29 × 10 × 5	0.9	黒曜石
◇ 69	I a ₃	(25) × 14 × 4	(1.1)	黒曜石
◇ 70	I a ₃	(24) × 13 × 4	(1.3)	黒曜石
◇ 71	I a ₃	27 × 14 × 4	1.1	黒曜石
◇ 72	I a ₃	(27) × 11 × 6	(1.4)	黒曜石
◇ 73	I a ₃	27 × 14 × 4	1.2	黒曜石
◇ 74	I a ₃	27 × 13 × 3	0.9	黒曜石
◇ 75	I a ₃	27 × 15 × 3	0.9	黒曜石
◇ 76	I a ₃	29 × 16 × 4	0.9	黒曜石
◇ 77	I a ₃	31 × 11 × 5	1.2	流紋岩
◇ 78	I a ₃	29 × 16 × 3	1.0	黒曜石
◇ 79	I a ₃	(25) × 19 × 4	(1.2)	黒曜石
◇ 80	I a ₃	(28) × 11 × 4	(1.1)	黒曜石
◇ 81	I a ₃	(31) × 12 × 5	(1.5)	黒曜石
◇ 82	I a ₃	31 × 15 × 5	1.9	黒曜石
Fig.115-83	I a ₃	(26) × 6 × 4	(1.5)	黒曜石
◇ 84	I a ₃	29 × 14 × 3	1.1	黒曜石
◇ 85	I a ₃	35 × 12 × 4	1.4	黒曜石
◇ 86	I a ₃	40 × 10 × 6	1.8	黒曜石
◇ 87	I a ₃	40 × 12 × 4	1.6	黒曜石
◇ 88	I a ₃	(37) × 12 × 3	(1.5)	黒曜石
◇ 89	I a ₃	(33) × 15 × 5	(1.7)	黒曜石
◇ 90	I a ₃	33 × 16 × 5	1.5	黒曜石
◇ 91	I a ₅	37 × 19 × 6	2.8	黒曜石
◇ 92	I a ₃	41 × 15 × 6	2.0	黒曜石
◇ 93	I a ₃	(39) × 14 × 4	(2.0)	珪岩
◇ 94	I a ₄	38 × 10 × 5	1.7	黒曜石
◇ 95	I a ₃	43 × 12 × 5	1.7	黒曜石
◇ 96	I a ₃	38 × 19 × 5	2.9	頁岩
◇ 97	I a ₃	42 × 16 × 6	1.8	黒曜石

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.115- 98	I a ₃	36 × 13 × 3	1.1	黒曜石
◇ 99	I a ₃	44 × 19 × 6	3.2	黒曜石
◇ 100	I a ₃	(48) × 12 × 4	(2.1)	珪岩
◇ 101	I a ₃	46 × 18 × 5	2.8	黒曜石
◇ 102	I a ₃	35 × 19 × 9	4.8	黒曜石
◇ 103	I a ₃	22 × 11 × 4	0.7	黒曜石
◇ 104	I a ₃	19 × 13 × 3	0.6	黒曜石
◇ 105	I a ₃	23 × 12 × 4	0.8	黒曜石
◇ 106	I a ₃	22 × 14 × 4	0.9	黒曜石
◇ 107	I a ₃	30 × 11 × 6	1.6	黒曜石
◇ 108	I a ₃	21 × 15 × 4	1.0	黒曜石
◇ 109	I a ₃	24 × 14 × 4	1.2	黒曜石
◇ 110	I a ₃	25 × 14 × 3	1.2	黒曜石
◇ 111	I a ₃	29 × 12 × 4	1.2	黒曜石
◇ 112	I a ₅	26 × 14 × 5	1.5	黒曜石
◇ 113	I a ₅	27 × 15 × 5	1.4	黒曜石
◇ 114	I a ₃	25 × 13 × 4	1.0	黒曜石
◇ 115	I a ₃	34 × 12 × 4	1.4	黒曜石
◇ 116	I a ₃	33 × 13 × 4	1.4	黒曜石
◇ 117	I a ₃	29 × 12 × 6	1.6	黒曜石
◇ 118	I a ₄	29 × 11 × 3	0.8	黒曜石
◇ 119	I a ₄	31 × 10 × 3	0.9	黒曜石
◇ 120	I a ₅	23 × 17 × 4	1.1	黒曜石
◇ 121	I a ₅	32 × 17 × 6	2.4	黒曜石
◇ 122	I a ₃	34 × 13 × 6	2.3	黒曜石
◇ 123	I a ₆	21 × 12 × 4	0.8	黒曜石
◇ 124	I a ₅	20 × 13 × 6	1.4	黒曜石
◇ 125	I a ₅	40 × 15 × 4	1.8	黒曜石
◇ 126	I a ₅	(36) × 19 × 6	(2.9)	黒曜石
◇ 127	I a ₅	33 × 13 × 7	2.3	黒曜石
◇ 128	I a ₅	31 × 15 × 5	2.0	頁岩
◇ 129	I a ₄	20 × 8 × 3	0.4	黒曜石
◇ 130	I a ₄	36 × 17 × 4	2.2	黒曜石

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質	図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.115-131	I a ₄	30 × 14 × 5	1.7	黒曜石	Fig.116-164	I b ₁	(64) × 26 × 7	(8.6)	黒曜石
◇ 132	I a ₄	27 × 12 × 4	1.3	黒曜石	◇ 165	I b ₁	56 × 22 × 5	5.3	黒曜石
◇ 133	I a ₄	24 × 8 × 3	0.7	黒曜石	◇ 166	I b ₁	59 × 25 × 8	7.0	黒曜石
◇ 134	I a ₃	29 × 8 × 3	0.7	黒曜石	◇ 167	I b ₁	52 × 24 × 10	8.0	黒曜石
◇ 135	I a ₄	30 × 10 × 4	1.2	黒曜石	◇ 168	I b ₁	(61) × 31 × 10	(15.2)	黒曜石
◇ 136	I a ₄	32 × 8 × 5	1.4	黒曜石	◇ 169	I b ₁	48 × 25 × 8	6.8	黒曜石
◇ 137	I a ₄	(37) × 9 × 4	(1.3)	黒曜石	◇ 170	I b ₁	51 × 29 × 6	5.6	黒曜石
◇ 138	I a ₄	48 × 10 × 6	2.3	黒曜石	Fig.117-171	I b ₂	98 × 41 × 11	39.5	片岩
◇ 139	I a ₄	42 × 16 × 9	5.6	黒曜石	◇ 172	II a	47 × 11 × 8	3.6	黒曜石
◇ 140	I a ₄	33 × 10 × 6	2.3	黒曜石	◇ 173	II a	34 × 8 × 4	1.4	珪岩
◇ 141	I a ₄	(23) × 6 × 4	(0.6)	黒曜石	◇ 174	II a	(30) × 9 × 5	(1.2)	頁岩
◇ 142	I a ₆	44 × 11 × 4	2.0	黒曜石	◇ 175	II a	28 × 12 × 7	2.2	玄武岩
◇ 143	I a ₆	(46) × 11 × 4	(2.4)	黒曜石	◇ 176	II b	(36) × 13 × 4	(1.5)	頁岩
◇ 144	I a ₅	49 × 20 × 12	7.1	黒曜石	◇ 177	II b	45 × 16 × 4	2.0	黒曜石
◇ 145	I a ₄	49 × 14 × 5	3.5	黒曜石	◇ 178	II b	35 × 21 × 10	6.6	頁岩
◇ 146	I a ₆	49 × 6 × 7	4.3	黒曜石	◇ 179	II b	29 × 19 × 7	3.3	頁岩
Fig.116-147	I b ₂	54 × 20 × 7	7.5	黒曜石	◇ 180	II b	33 × 21 × 10	5.6	珪岩
◇ 148	I b ₂	56 × 24 × 7	8.8	黒曜石	◇ 181	II b	34 × 22 × 9	3.5	片岩
◇ 149	I b ₂	58 × 20 × 7	7.7	黒曜石	◇ 182	II b	18 × 17 × 5	1.4	不明
◇ 150	I b ₃	57 × 24 × 9	10.0	黒曜石	◇ 183	II b	27 × 18 × 4	1.9	黒曜石
◇ 151	I b ₃	52 × 19 × 7	5.2	黒曜石	◇ 184	II b	30 × 20 × 9	3.8	珪岩
◇ 152	I b ₃	73 × 22 × 9	12.5	珪岩	◇ 185	II b	34 × 23 × 7	4.2	瑪瑙質頁岩
◇ 153	I b ₃	82 × 26 × 13	23.2	黒曜石	◇ 186	II b	29 × 18 × 6	2.4	玄武岩
◇ 154	I b ₃	60 × 29 × 10	13.0	黒曜石	◇ 187	II b	28 × 24 × 7	3.2	硬質頁岩
◇ 155	I b ₃	46 × 23 × 8	6.5	黒曜石	◇ 188	II b	57 × 42 × 10	21.0	瑪瑙
◇ 156	I b ₂	46 × 23 × 8	6.9	黒曜石	◇ 189	II b	31 × 26 × 10	6.5	瑪瑙質頁岩
◇ 157	I b ₃	55 × 23 × 8	7.2	黒曜石	◇ 190	II b	27 × 31 × 8	5.0	瑪瑙質頁岩
◇ 158	I b ₃	53 × 25 × 9	8.5	黒曜石	◇ 191	II b	27 × 20 × 8	3.3	頁岩
◇ 159	I b ₁	45 × 31 × 8	7.3	黒曜石	◇ 102	II b	35 × 32 × 9	5.1	黒曜石
◇ 160	I b ₁	(51) × 33 × 10	(13.1)	黒曜石	◇ 193	II b	47 × 26 × 9	9.6	珪岩
◇ 161	I b ₁	54 × 30 × 7	7.9	黒曜石	◇ 194	II b	(38) × (19) × 6	(2.9)	頁岩
◇ 162	I b ₁	48 × 25 × 8	6.6	黒曜石	◇ 195	II b	41 × 27 × 13	7.8	頁岩
◇ 163	I b ₃	52 × 26 × 9	8.1	黒曜石	◇ 196	II b	(34) × 23 × 6	(3.8)	ジャスパー

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.117-197	Ⅱb	(39)×27×7	(4.0)	瑪瑙質頁岩
◇ 198	Ⅱb	(33)×37×8	(6.9)	瑪瑙
◇ 199	Ⅱb	(35)×(38)×9	(9.7)	頁岩
◇ 200	Ⅱb	(48)×40×9	(9.4)	頁岩
◇ 201	Ⅱb	45×(38)×8	(14.0)	頁岩
◇ 202	Ⅱb	40×22×3	1.9	瑪瑙
◇ 203	Ⅱb	49×23×7	5.9	珪岩
◇ 204	Ⅱb	45×38×8	6.3	黑曜石
◇ 205	Ⅱb	40×27×6	3.9	玄武岩
◇ 206	Ⅲa ₁	90×23×6	14.2	玄武岩
◇ 207	Ⅲa ₁	81×20×7	14.8	頁岩
Fig.118-208	Ⅲa ₁	(90)×(19)×9	(16.0)	頁岩
◇ 209	Ⅲa ₁	71×27×11	16.1	頁岩
◇ 210	Ⅲa ₁	76×27×7	15.0	頁岩
◇ 211	Ⅲa ₁	72×26×6	12.9	凝灰岩
◇ 212	Ⅲa ₁	78×(33)×7	(19.0)	片岩
◇ 213	Ⅲa ₁	73×27×10	20.4	頁岩
◇ 214	Ⅲa ₁	58×28×9	(10.9)	流紋岩
◇ 215	Ⅲa ₁	64×26×12	16.4	片岩
◇ 216	Ⅲa ₁	60×24×8	10.7	瑪瑙
◇ 217	Ⅲa ₁	56×27×4	6.7	流紋岩
◇ 218	Ⅲa ₁	60×32×8	15.6	瑪瑙質頁岩
◇ 219	Ⅲa ₁	72×36×8	16.8	頁岩
◇ 220	Ⅲa ₁	60×37×4	9.5	黑曜石
◇ 221	Ⅲa ₁	79×44×12	36.5	頁岩
◇ 222	Ⅲa ₁	56×27×9	12.9	頁岩
◇ 223	Ⅲa ₁	62×31×12	20.0	頁岩
◇ 224	Ⅲa ₁	57×27×11	13.0	頁岩
Fig.119-225	Ⅲa ₁	70×15×7	7.3	黑曜石
◇ 226	Ⅲa ₁	74×26×9	18.5	頁岩

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.119-227	Ⅲa ₁	65×14×5	5.4	頁岩
◇ 228	Ⅲa ₁	94×41×7	29.2	頁岩
◇ 229	Ⅲa ₁	52×20×10	8.8	黑曜石
◇ 230	Ⅲa ₁	(62)×(51)×6	22.3	頁岩
◇ 231	Ⅲa ₁	61×38×13	31.9	珪岩
◇ 232	Ⅲa ₁	58×27×5	10.4	頁岩
◇ 233	Ⅲb	88×34×8	19.2	頁岩
◇ 234	Ⅲb	116×39×10	53.1	頁岩
◇ 235	Ⅲb	108×39×9	30.9	頁岩
◇ 236	Ⅲb	76×30×7	13.8	頁岩
◇ 237	Ⅲb	67×19×10	10.7	頁岩
◇ 238	Ⅲb	86×31×10	27.3	珪岩
Fig.120-239	Ⅲc ₁	40×28×10	10.3	黑曜石
◇ 240	Ⅲc ₁	50×36×12	17.4	頁岩
◇ 241	Ⅲc ₂	52×35×6	12.7	片岩
◇ 242	Ⅲc ₂	63×41×9	18.8	頁岩
◇ 243	Ⅲc ₂	(83)×(34)×10	22.7	珪岩
◇ 244	Ⅲc ₂	52×22×7	9.6	黑曜石
◇ 245	Ⅲc ₂	71×47×7	15.1	頁岩
◇ 246	Ⅳa	58×40×10	16.2	凝灰岩
◇ 247	Ⅳa	41×28×6	7.7	黑曜石
Fig.121-248	Va ₁	106×48×23	(185.8)	塩基性頁岩
◇ 249	Va ₁	89×34×9	53.2	藍閃石片岩
◇ 250	Va ₁	(78)×36×15	(80.3)	塩基性片岩
◇ 251	Va ₁	78×28×37	35.8	塩基性頁岩
◇ 252	Va ₁	49×20×7	12.2	頁岩
◇ 253	Va ₁	(53)×28×11	(27.2)	粘板岩
Fig.122-254	Vb ₂	(86)×27×12	(42.0)	角閃岩
◇ 255	Va ₁	83×47×12	84.7	塩基性凝灰岩
◇ 256	半玉	21×12×10	4.9	翡翠

Tab. 20 沢町遺跡出土の石器(土野コレクション)一覧

図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質	図番号	分類	長幅厚 (mm)	重 (g)	石質
Fig.122-1	I a ₃	26 × 17 × 6	1.7	黒曜石	Fig.123-11	V a ₁	83 × 55 × 27	230.0	塩基性頁岩
ゝ 2	I a ₄	39 × 14 × 5	1.9	黒曜石	ゝ 12	V a ₁	122 × 44 × 23	210.0	塩基性頁岩
ゝ 3	I a ₅	47 × 22 × 6	5.2	黒曜石	ゝ 13	V a ₁	88 × 50 × 9	69.7	頁岩
ゝ 4	II b	37 × 27 × 9	7.2	瑪瑙質頁岩	ゝ 14	V a ₁	99 × 41 × 22	157.8	頁岩
ゝ 5	II b	54 × 18 × 8	5.4	頁岩	ゝ 15	V a ₁	86 × 46 × 22	150.5	泥岩
ゝ 6	II b	26 × 28 × 6	3.7	瑪瑙質頁岩	ゝ 16	V a ₁	122 × 50 × 21	270.0	角閃岩
Fig.123-7	V a ₁	(146) × 61 × 23	(310.0)	泥岩	ゝ 17	V a ₁	(107) × 61 × 29	(330.0)	泥岩
ゝ 8	V a ₁	(116) × 55 × 21	(210.0)	塩基性頁岩	ゝ 18	V a ₁	(94) × 34 × 29	(148.4)	凝灰岩
ゝ 9	V a ₁	84 × 35 × 18	34.7	頁岩	ゝ 19	VI a	(100) × (20) × (17)	(48.7)	粘板岩
ゝ 10	V a ₁	(99) × 38 × 15	(108.1)	頁岩					

Tab. 21 沢町遺跡住居址出土遺物一覧

SH No	土器・土製品			石 器							剥片・礫・その他					備 考	計	
	土 器	土 製 品		Ia	II	III-IV	Va	VIa VIb	IXa	XI	剥 片	礫	原 石	種 子	貝・ 殻皮			そ の 他
		紡 錘 車	そ の 他															
1	719	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	44	0	0	3	0	炭化物・骨片出土	799
2	1903	0	1	4	0	1	1	1	0	0	1065	60	2	7	0	1	炭化物・骨片出土	3064
3	667	2	0	0	1	0	1	5	2	2	60	57	0	1	3	1	炭化物出土	805
4	457	0	0	0	0	0	1	3	0	0	106	52	0	4	2	1	炭化物・骨片出土	643
計	3746	3	1	5	1	1	3	9	2	2	1232	213	2	12	8	3		5243

※炭化物、骨片は有無を表示

Tab. 22 沢町遺跡墓塚出土遺物一覧

GP No	土器・土製品			石 器 ・ 石 製 品											剥片・礫・その他				備 考	計								
	土 器	土 製 品		石 器							石 製 品				剥 片	礫	原 石	種 子 (クルミ)			木 製 品							
		耳 椀	そ の 他	Ia	Ib	II	III-IV	V	VIa	VIb	X	玉 類	掘 石	石 偶								岩 偶	そ の 他					
1	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	炭化物、ベンガラ出土	35
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	骨片・	3
3	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	骨片・炭化物出土	240
4	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	骨片・炭化物出土	476
5	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		642
6	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	骨片・炭化物出土	197
7	438	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ベンガラ・炭化物出土	460
8	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	炭化物出土	72
9	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	炭化物出土	16
10	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ベンガラ・炭化物出土	55
11	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		41
12	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		5
13	217	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	骨片・ベンガラ・炭化物出土	253
14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ベンガラ出土	7
15	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		21
16	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ベンガラ出土	14
17	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	骨片出土	20

G P No	土器・土製品			石 器 ・ 石 製 品												剥片・礫・その他				備 考	計				
	土器	土製品		石 器								石 製 品				剥片	礫	原 石	種 子 (クルミ)			木 製 品			
		耳 栓	その他	Ia	Ib	II	III	IV	V	VIa	VIb	X	玉 類	掘 石	石 偶								岩 偶	その他	
18	13	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	0	1	0	ベンガラ・炭化物出土	23
19	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		9
20	48	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	2	0	炭化物出土	86
21	14	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		17
22	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0		15
23	67	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	276	0	0	4	0	炭化物出土	349
24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	炭化物出土	0
25	18	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0		22
26	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	14	0	0	0	0	炭化物出土	26
27	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	ベンガラ出土	16
28	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		3
29	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0		12
30	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		7
31	13	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	62	1	0	0	0	骨片・炭化物出土	80
32	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0		10
33	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	炭化物出土	26
34	618	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	696	1	0	1	0	骨片・ベンガラ・炭化物出土	1319
35	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		2
36	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		21
37	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0		31
38	11	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	1	0	0	0	炭化物出土	23
39	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0		32
40	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	骨片出土	1
41	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		21
42	40	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	21	1	0	0	0	ベンガラ・炭化物出土	64
43	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0		28
44	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0		10
45	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7	1	0	0	0	炭化物出土	18
46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	炭化物出土	0
47	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		6
48	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0		35

G P No	土器・土製品		石 器 ・ 石 製 品												剥片・礫・その他				備 考	計				
	土器	土製品	石 器									石 製 品					剥片	礫			原 石	種 子 フルミ	木 製 品	
		耳 栓	その他	Ia	Ib	II	III IV	V	VIa	VIb	X	玉 類	掘 石	石 偶	岩 偶	その他								
49	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	2	0	0	0	0		26
50	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		20
51	90	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	ベンガラ・炭化物出土	95
52	95	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0		99	
53	228	0	0	2	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	14	3	0	0	0		251	
54	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		5	
55	141	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	3	0	0	0	ベンガラ・炭化物出土	183	
56	660	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	43	4	0	0	0		712	
57	132	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	1	0	0	0	13	0	0	0	0		172	
58	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	8	0	0	0	炭化物出土	38	
59	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	炭化物出土	18	
60	75	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	2	0	0	0	44	2	0	1	0	ベンガラ・炭化物出土	128	
61	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	ベンガラ・炭化物出土	56	
62	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	2	0	0	0	3	2	0	0	2	骨片・炭化物出土	57	
63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	
64	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0		4	
65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
67	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		16	
68	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		4	
69	105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	0	1	0	炭化物出土	160	
70	501	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	23	1	0	0	0	20	2	0	0	1	炭化物出土	550	
71	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		16	
72	187	0	0	0	0	0	0	7	1	1	2	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	骨片・ベンガラ・炭化物出土	203	
73	287	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	24	1	0	0	0	14	2	0	0	0		329	
74	82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	4	0	0	0		90	
75	130	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	9	1	0	0	0		144	
76	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3	2	0	0	0		23	
77	62	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4	1	0	0	0		69	
78	32	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0		39	
79	21	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	炭化物出土	25	

G P No	土器・土製品			石 器 ・ 石 製 品											剝片・礫・その他				備 考	計			
	土器	土製品		石 器							石 製 品				剝片	礫	原 石	種 類 (ク ル ミ)			木 製 品		
		耳 検	そ の 他	Ia	Ib	II	III IV	V	VIa	VIb	X	瓦 類	掘 石	石 偶								岩 偶	そ の 他
80	980	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	9	2	0	0	0	28	10	0	1	0	ベンガラ・炭化物出土	1034
81	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0		21
82	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	炭化物出土	28
83	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		2
84	51	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	4	1	0	0	0		60
85	31	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		34
86	323	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	2	0	0	0	20	1	2	1	0		355
87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	ベンガラ出土	4
88	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0		40
89	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	炭化物出土	38
90	101	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0	0	骨片・炭化物出土	160
91	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		25
92	39	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	2	0	0	0	骨片・炭化物出土	56
93	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		32
94	87	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8	2	0	0	0	骨片出土	99
95	398	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	12	0	1	0	0		415
96	92	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	炭化物出土	112
97	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0		57
98	143	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		146
99	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		28
100	167	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	261	0	1	1	0	骨片・炭化物出土	436
101	86	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		90
102	265	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	20	1	0	0	0		290
103	4	0	※1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0		11
104	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0		22
105	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	骨片出土	30
106	130	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	骨片出土	142
107	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		5
108	39	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	3	0	1	0	骨片・炭化物出土	119
109	80	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		82
110	95	0	※1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	4	0	0	0		120

※G P-103 } は上掲
G P-110 }

G P No	土器・土製品			石 器 ・ 石 製 品													剥片・礫・その他				備 考	計				
	土器	土製品		石 器							石 製 品						剥片	礫	原 石	種 子 (フルミ)			木 製 品			
		耳 検	そ の 他	Ia	Ib	II	III IV	V	Wa	Wb	X	玉 類	掘 石	石 偶	岩 偶	そ の 他										
111	203	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0		224
112	40	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	骨片・炭化物出土	44
113	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		15
114	230	0	0	1	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	124	2	0	1	0	骨片・炭化物出土	362	
115	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		41	
116	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	炭化物出土	86	
117	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	炭化物出土	11	
118	10	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		13	
119	88	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	4	0	0	0	骨片・炭化物出土	119	
120	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		22	
121	56	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0		64	
122	189	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	14	3	1	0	0		213	
123	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0		6	
124	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		15	
125	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		5	
126	5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		7	
127	16	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		18	
128	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0		6	
129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
130	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		38	
131	161	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	15	6	0	1	0		186	
132	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	5	0	0	0	骨片出土	57	
133	111	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	炭化物出土	118	
134	65	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	骨片出土	73	
135	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	骨片・炭化物出土	13	
136	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
137	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0		26	
138	136	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	骨片・炭化物出土	146	
139	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	骨片出土	26	
140	165	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	30	4	0	0	0	骨片・炭化物出土	203	
141	93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	3	0	0	0		113	

G P No	土器・土製品			石 器 ・ 石 製 品												剥片・礫・その他				備 考	計					
	土器	土製品		石 器										石 製 品				剥片	礫			原 石	種 子 (ワルミ)	木 製 品		
		耳 栓	その他	Ia	Ib	II	III IV	V	VIa	VIb	X	玉 類	握 石	石 偶	岩 偶	その他										
142	188	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	12	2	0	0	0		204
143	192	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	1	0	0	炭化物出土	212
144	128	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	128	0	0	1	0	骨片・炭化物出土	258
145	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		17
146	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
147	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		29
148	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0		17
149	122	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	18	0	1	0	0		143
150	81	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0		84
151	30	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0		41
152	75	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	1	0	0	0	0		90
153	105	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	3	0	0	0	0	炭化物出土	132
154	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		3
155	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0		12
156	64	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	骨片・炭化物出土	69
157	607	0	0	1	0	0	5	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	47	6	0	0	0	0		669
158	290	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	2	0	0	0	0		336
159	98	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0		104
160	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	3	1	0	0	0		67
161	252	0	0	2	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	591	6	0	2	0	0	骨片・炭化物出土	857
162	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		2
163	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		34
合計	12822	1	1	48	2	14	21	24	8	27	7	138	44	2	1	1	1	4768	173	9	27	3			18145	

Tab. 23 沢町遺跡溝状遺構・UP・FP出土遺物一覧

名 称	土 器	石 器				そ の 他		備 考	合 計
		Ia	III IV	V	IVb	剥片	礫		
溝状遺構	2016	1	1	1	7	307	63	多数の礫出土	2396
UP-1	6	0	0	0	0	0	157	少量の骨片が出土	164
FP-1	2	0	0	0	0	18	1	少量の炭化物が出土	21

グ リ ッ ド	層	土器・土製品						石器・石製品											剥片・礫・その他				計					
		土器	土製品					石器											剥片及び石核		その他							
			土版	勾玉	紡錘車	多耳栓	巻針師	その他	Ia	Ib	II	III・IV	Va	VI	VIIa	VIIb	VIIIc	X	XI	握石	異形	有孔		玉類	剥片及び石核	礫	陶磁器	その他
C15	III	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	25
D15	I	91	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	0	0	1	126
	II	826	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	196	0	0	1	1032
	III	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	25
E15	I	49	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	0	0	0	124
	II	488	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	3	0	0	4	0	0	0	0	99	1	0	0	599
F15	I	153	0	0	0	0	0	0	7	0	3	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	251	1	1	0	419
C16	I	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	22
	II	358	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	46	0	0	3	411
D16	II	1030	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	5	0	0	0	0	0	1	0	113	0	0	0	1153
E16	II	552	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	126	0	0	0	681
F16	I	84	0	0	0	0	0	0	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	219	2	0	1	316
	II	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	III	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	19	0	0	0	35
B17	I	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	69
C17	I	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	II	377	0	0	0	0	0	0	5	0	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	130	1	0	1	520
D17	I	157	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	104	0	1	1	265
	II	614	1	0	0	0	0	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	0	0	0	681
E17	I	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	145	0	0	0	199
	II	337	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	356
	III	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	23
F17	I	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	142	1	1	0	170
	III	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	39
B18	II	60	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	0	0	0	113
C18	II	985	0	0	0	0	0	0	12	0	4	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	477	1	0	3	1489
D18	I	61	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	112	0	2	2	182
	II	266	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	116	0	0	0	384
E18	I	88	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	132	1	0	0	222
	II	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	III	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	17
F18	I	99	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	218	0	2	0	323

グ リ ッ ド	層	土器・土製品							石 器 ・ 石 製 品											剥片・礫・その他				計					
		土器	土 製 品						石 器											剥片 及び 石核	その他								
			土 版	勾 玉	紡 錐 車	※ 耳 栓	※ 耳 飾	その他	Ia	Ib	II	III - IV	Va	VI	VIIa	VIIb	IXc	X	XI		掘 石	異 形	有 孔		玉 類	礫	陶 器	そ の 他	
B19	I	172	0	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97	1	1	0	277
	II	607	0	0	0	0	0	0	1	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	131	0	0	0	744
C19	II	617	0	0	0	0	0	0	7	0	9	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	958	
	III	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	5
D19	I	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	0	0	0	50
	II	252	0	0	0	0	0	0	2	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	165	0	0	0	425
E19	I	72	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	160	0	1	0	237
	III	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	8
F19	I	41	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	108	0	0	0	150
	II	10	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
B20	I	140	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	144
	II	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
C20	II	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	34
D20	I	229	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	158	0	0	1	390
	II	118	0	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	139	1	0	0	264
	III	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71	0	0	0	119
E20	I	43	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	298	0	1	0	348
	II	93	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	1	0	4	156
	III	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	31	0	0	1	92
F20	I	19	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	181	0	0	0	203
	III	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
B21	I	48	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	0	1	141
	II	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
C21	II	118	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0	0	232
D21	I	75	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	313	0	0	3	394
	II	468	0	0	0	0	0	0	9	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	465	0	0	1	948
	III	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
E21	I	79	0	0	0	0	0	0	10	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	384	0	0	0	480
	II	95	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	0	0	150
	III	52	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	0	0	1	99
F21	I	88	0	0	0	0	0	0	6	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	267	1	1	1	370

グ リ ッ ド	解	土器・土製品						石器・石製品											剥片・礫・その他			計						
		土器	土製品					石器							石製品				剥片 及び 石核	礫	その他							
			土版	勾玉	紡錘車	並釘槍	並釘飾	その他	Ia	Ib	II	III・IV	Va	VI	VIIa	VIIb	VIIIc	X			XI		握石	異形	石孔	玉類	陶磁器	その他
F24	III	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	13
G24	II	42	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	144	0	0	2	192
C25	I	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	0	0	0	94
	II	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	1	0	1	116
D25	I	76	0	0	0	0	0	0	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	163	0	2	0	247
	II	120	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	0	0	0	160
	III	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	1	0	0	61
E25	I	118	0	0	0	0	0	0	4	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	186	1	0	3	315
	II	139	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	27	1	0	1	171
F25	I	199	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	177	0	2	0	380
	II	536	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67	5	0	1	612
	III	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	7
G25	I	205	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	123	0	2	10	348
	II	219	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	53	0	2	0	276
H25		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
L25	I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
C26	I	199	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	146	0	0	7	355
	II	210	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	53	0	0	0	269
D26	I	21	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	0	0	0	109
	II	307	0	0	0	0	0	0	5	0	5	1	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	165	1	1	2	491
E26	I	81	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	103	0	2	0	192
	II	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	59
F26	I	139	0	0	0	0	0	0	2	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	132	1	1	0	280
	II	345	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	54	0	0	0	405
G26	I	952	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	215	0	2	1	1178
	II	127	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	140
H26	I	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	18
	II	78	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	96
I26	II	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
C27	I	43	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	3	65
	II	194	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	229

グ リ ッ ド	層	土器・土製品							石器・石製品											剥片・礫・その他			計										
		土器	土製品						石器											剥片 及び 石核	礫	その他											
			土版	勾玉	紡錘車	土耳輪	土耳飾	その他	Ia	Ib	II	III・IV	Va	VI	VIIa	VIIb	IXc	X	XI			掘石		異形	石孔	その他	陶磁器	その他					
D27	I	249	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	168	0	1	0	428
	II	1181	0	0	0	0	0	0	10	2	3	1	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	274	6	0	0	1484	
E27	I	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	96	0	2	0	154	
	II	354	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	1	0	0	394	
F27	I	251	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	174	0	0	0	429	
	II	27	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	36		
G27	I	205	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	209	
	II	206	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	0	0	2	299	
H27	I	182	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	0	0	0	258	
	II	224	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	1	277	
I27		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C28	I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D28	I	420	0	0	0	0	0	0	7	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	200	0	1	19	651		
	II	410	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	0	3	504		
E28	I	49	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	79	0	0	0	131		
	II	74	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	0	0	2	105		
F28	I	125	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	0	1	179		
	II	286	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	1	329		
G28	I	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	50	0	0	0	93			
	II	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	32	0	0	0	40			
H28	I	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63	0	0	0	113			
	II	185	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73	0	0	0	261			
I28	II	77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	98			
D29	I	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	22			
	II	540	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	1	601			
E29	I	71	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	0	0	0	160			
	II	848	0	1	0	0	0	0	9	1	5	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	107	2	0	1	980			
F29	I	184	0	0	0	0	0	0	2	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	179	0	0	1	372			
	II	1066	0	0	0	0	0	0	10	0	5	0	5	1	1	4	0	0	1	0	1	0	0	0	0	346	8	0	0	1448			
G29	I	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	0	0	1	57			
	II	259	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	0	0	1	334			

グ リ ッ ド	層	土器・土製品							石器・石製品											剥片・礫・その他			計								
		土器	土製品						石器											剥片 及び 石核	その他										
			土版	勾玉	紡錘車	※耳栓	※耳飾	その他	Ia	Ib	II	III・IV	Va	VI	IIIa	IIIb	IIIc	X	XI		掘石	異形		有孔	その他	陶磁器	その他				
M41	I	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
	I 層	645						1		5	7	4			1													606	2	4	1275
	B 調	409								1	2								2								239	3		656	
	合計	57037	1	1	1	2	3	2	406	21	234	243	157	2	30	103	1	2	29	14	4	5	4			23568	118	59	187	82234	

※耳栓は、耳栓状耳飾、耳飾は、滑車状耳飾である。

沢町遺跡写真図版

遺跡・遺構・遺物写真 PL. 20～PL. 58

遺物の室内写真(図版掲載遺物) PL. 59～PL. 95・98

山田論文 写真図版 PL. 96, 吉崎論文 写真図版 PL. 97



遺跡遠景（時田山より遺跡を望む）



遺跡近景（北西方向より撮影）



発掘調査状況（右はSH-2）



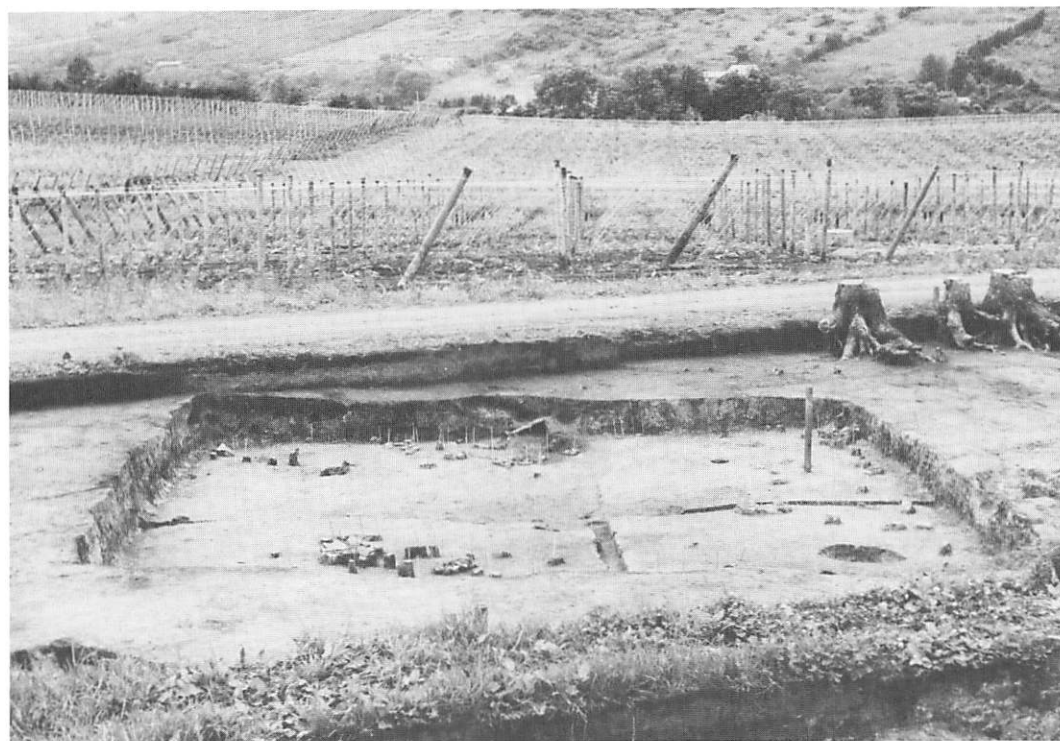
発掘調査状況（南東より撮影）



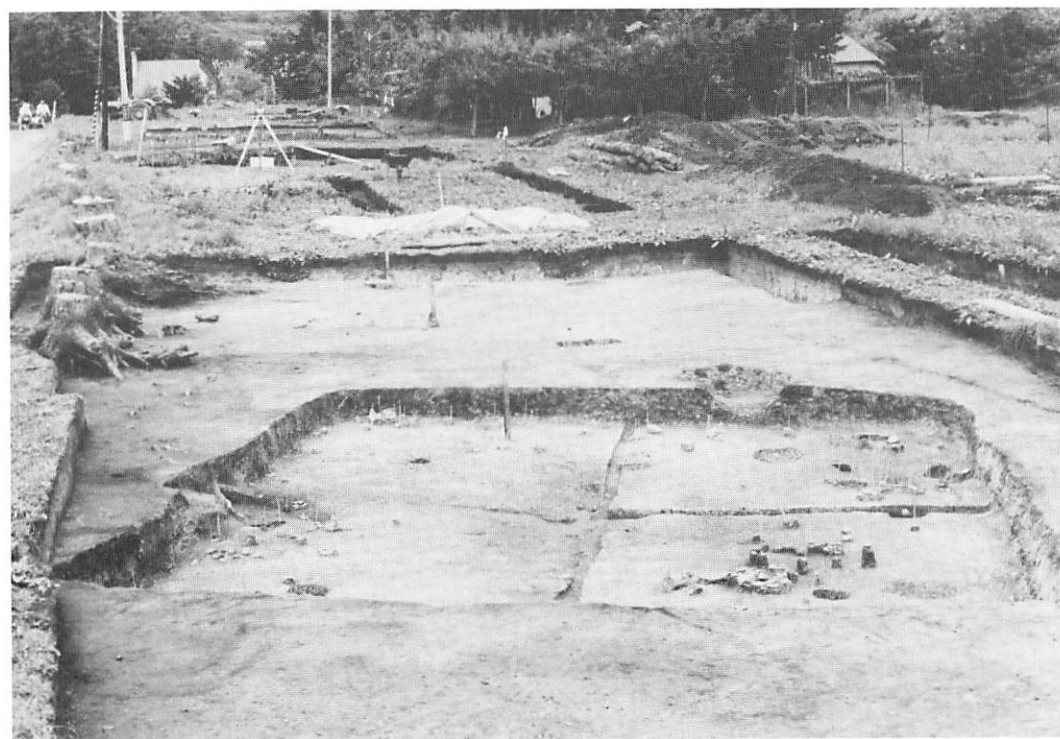
発掘調査状況（発掘区南側）



発掘調査風景（北西より撮影）



SH-1 検出状況 (南東より撮影)



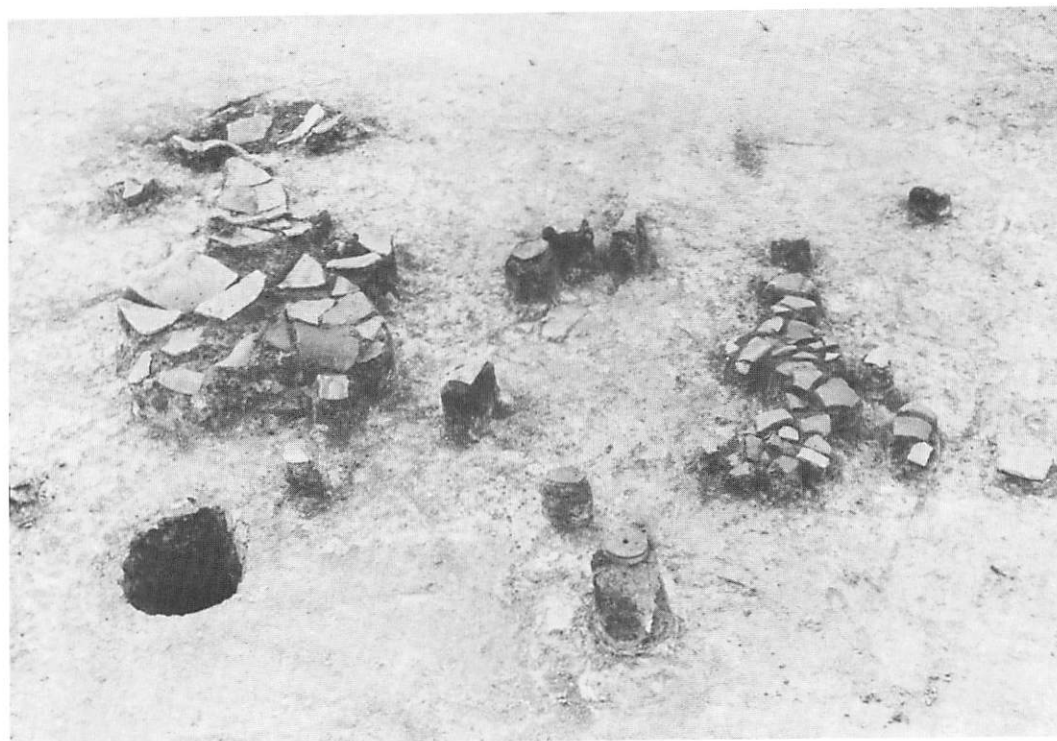
SH-1 検出状況 (南西より撮影)



SH-1 遺物出土状況 (カマド周辺)



SH-1 遺物出土状況 (北壁際)



SH-1 遺物出土状況 (南東側支柱穴周辺)



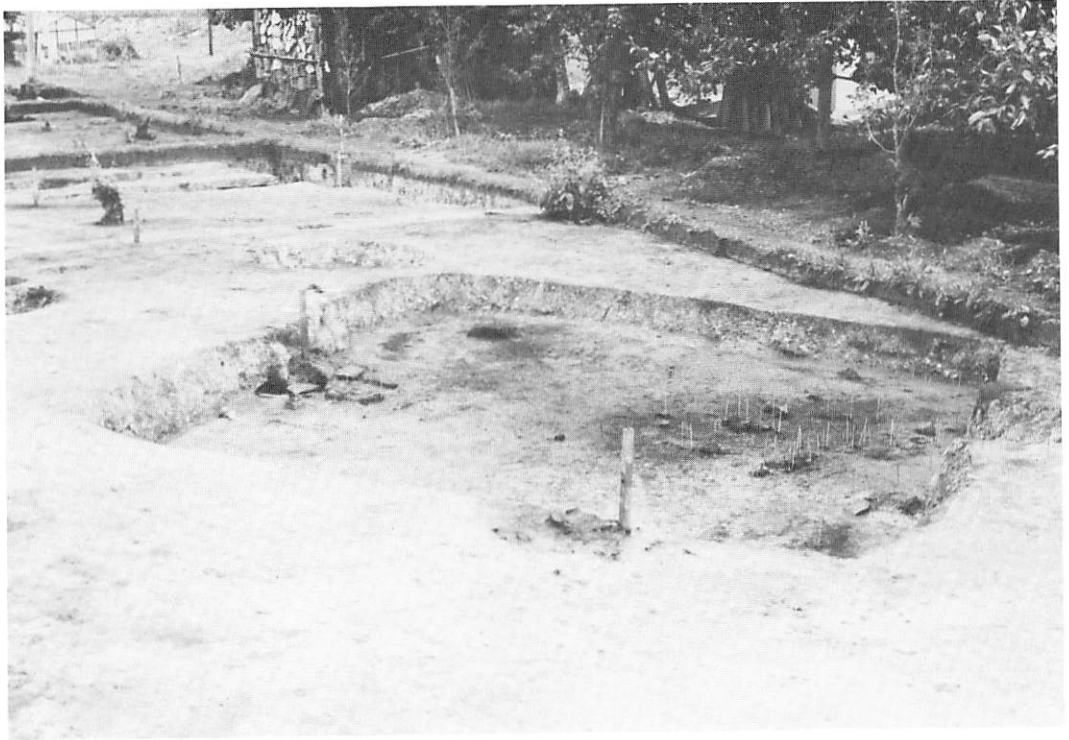
SH-1 遺物出土状況 (南西壁隅)



SH-1 遺物出土状況（北西壁隅）



SH-2 検出状況（南東より撮影）



SH-2 検出状況 (南西より撮影)



SH-2 遺物出土状況 (南西壁側)



SH-2 遺物検出状況 (北西壁際、カマド付近)



SH-2 カマド検出状況 (中央より北西壁を撮影)



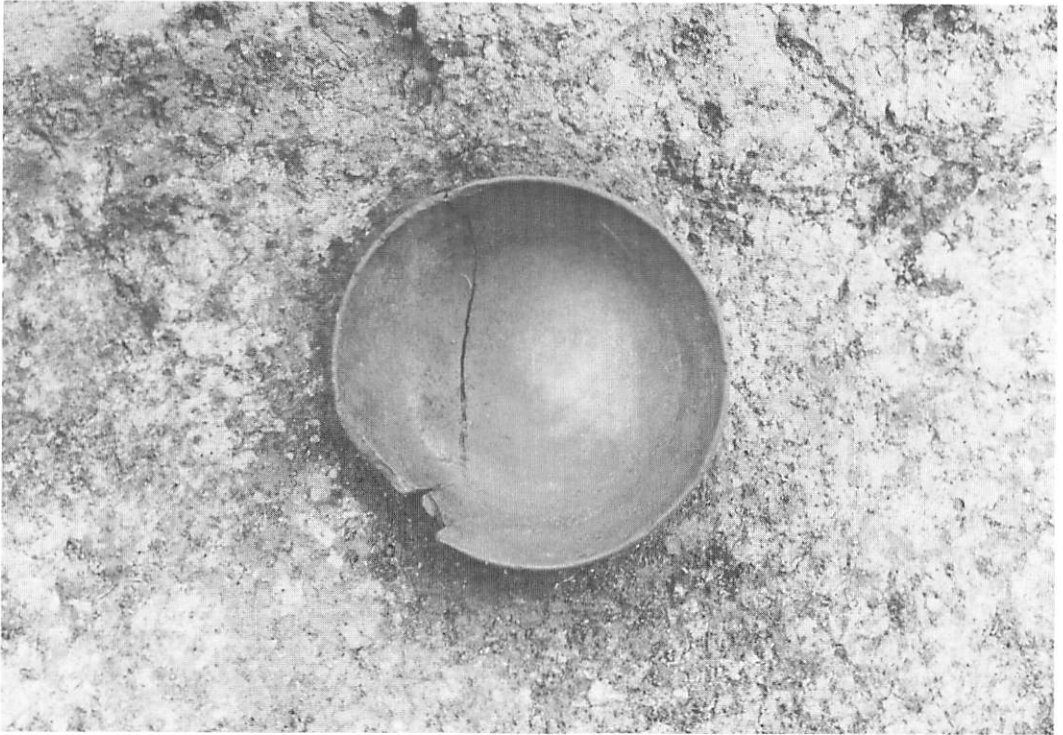
SH-2 遺物出土状況 (中央東寄り)



SH-2 遺物出土状況 (西壁隅)



SH-3 検出状況（南東より撮影，左下はGP-1）



SH-3 遺物出土状況（南東壁際）



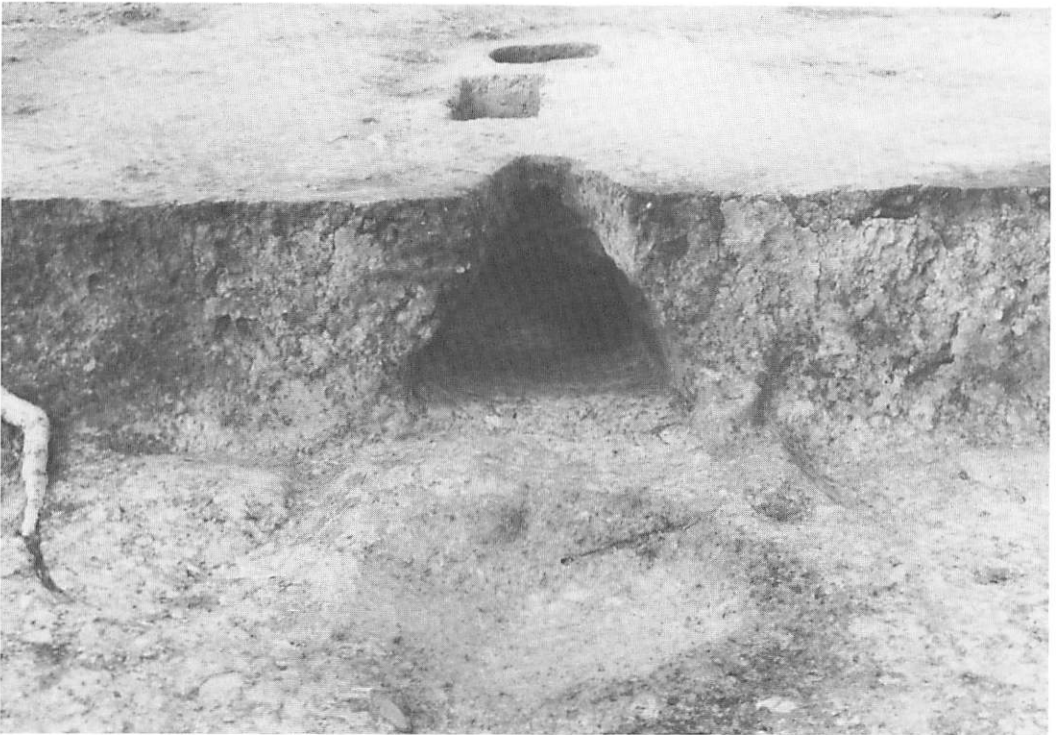
SH-4 検出状況 (南東より撮影)



SH-4 遺物出土状況 (南東壁側)



SH-4 遺物出土状況 (南東壁際ピット内)



SH-4 カマド検出状況 (中央より西壁を撮影)



墓壇A群分布状況（北より撮影）



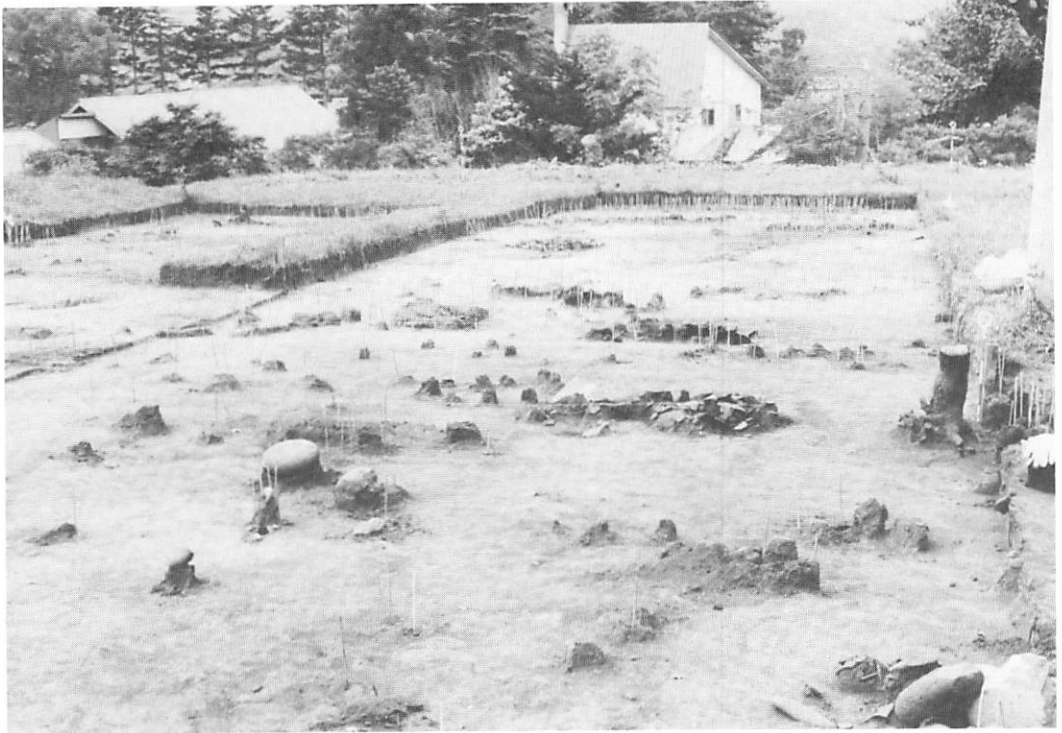
墓壇A群分布状況（中央はSH-3）



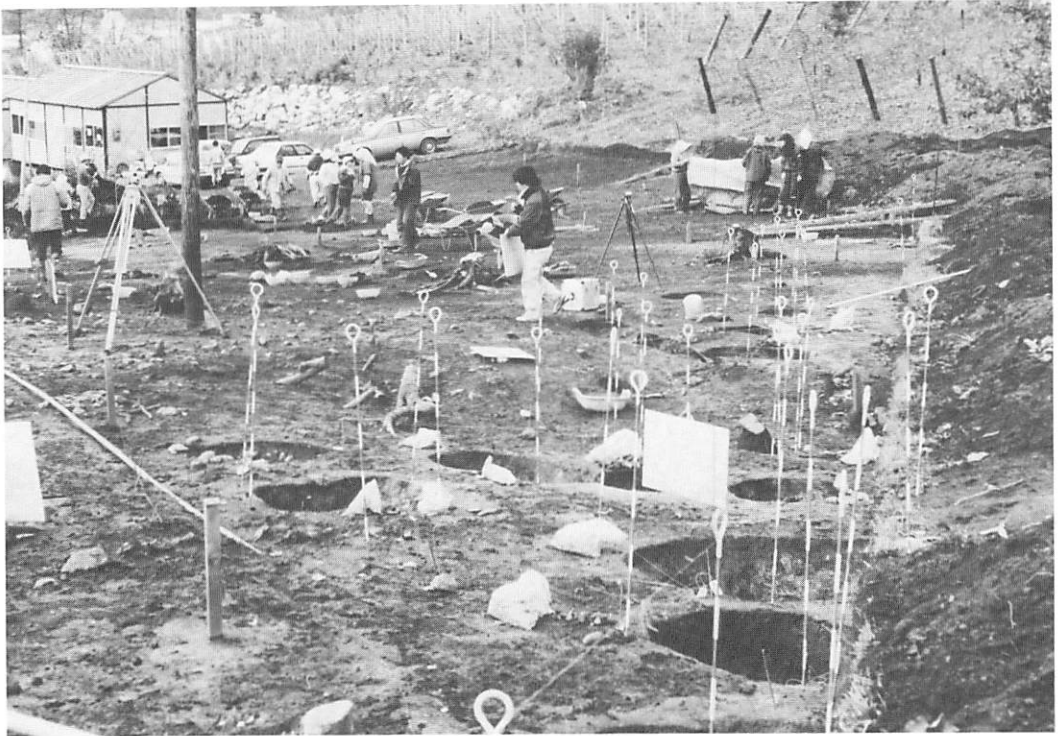
墓域A群分布状況（北より撮影）



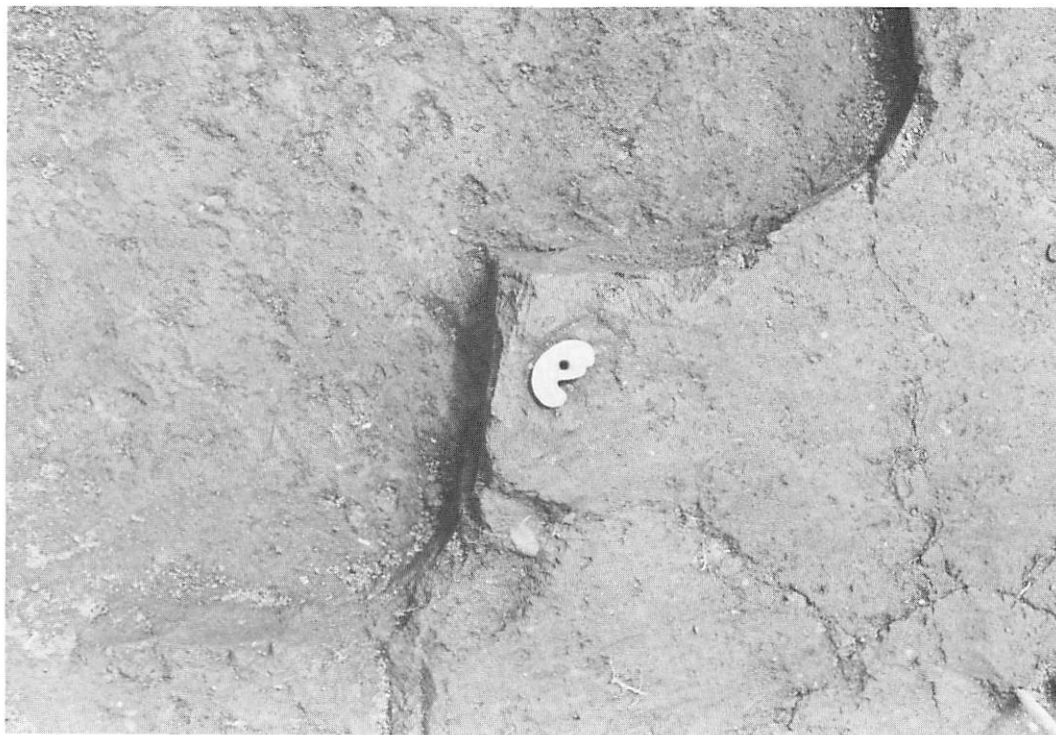
墓域A群分布状況（現道部分より撮影）



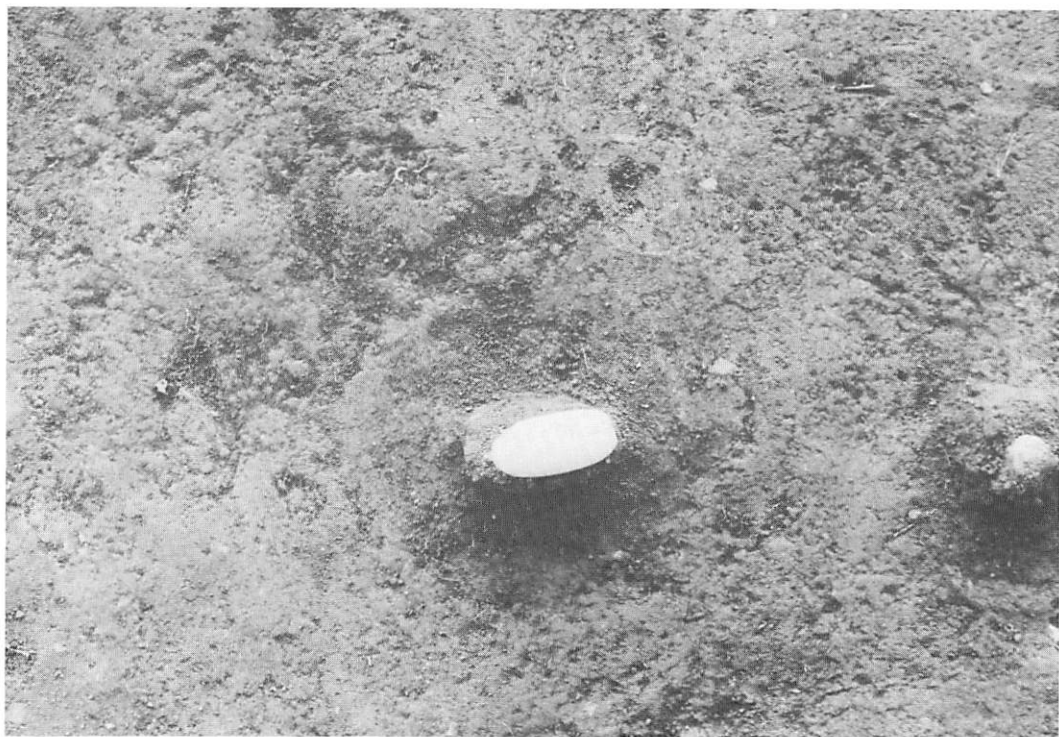
遺物出土状況（墓域D群周辺）



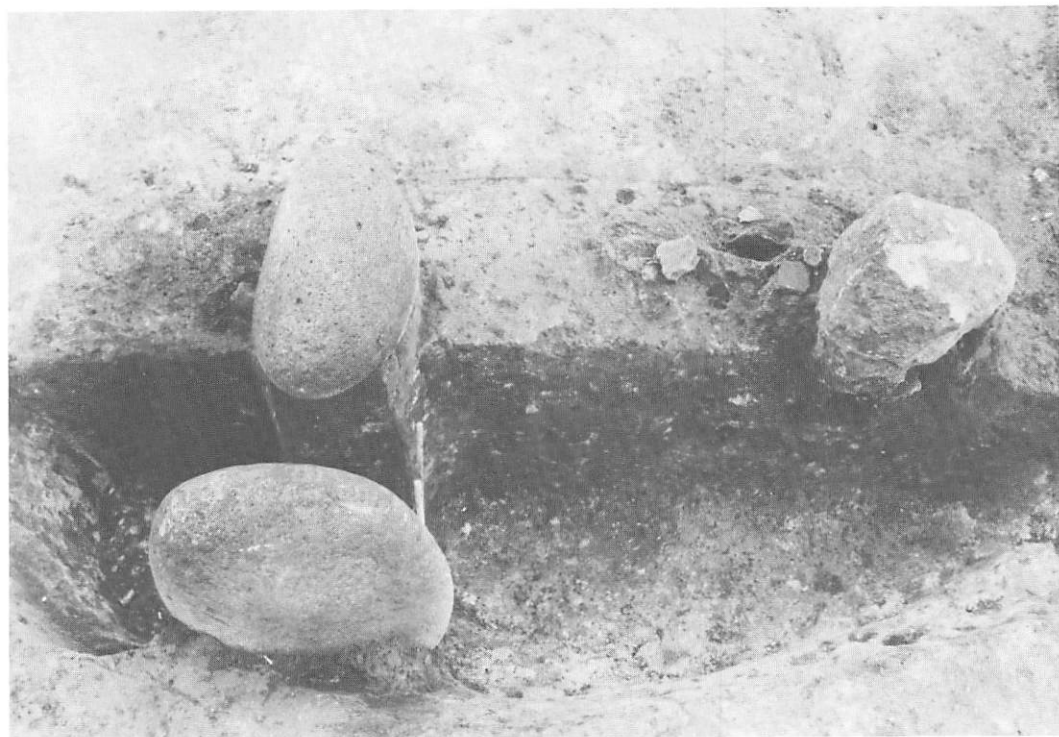
発掘調査状況（墓域E群）



C-16 II 層勾玉出土狀況



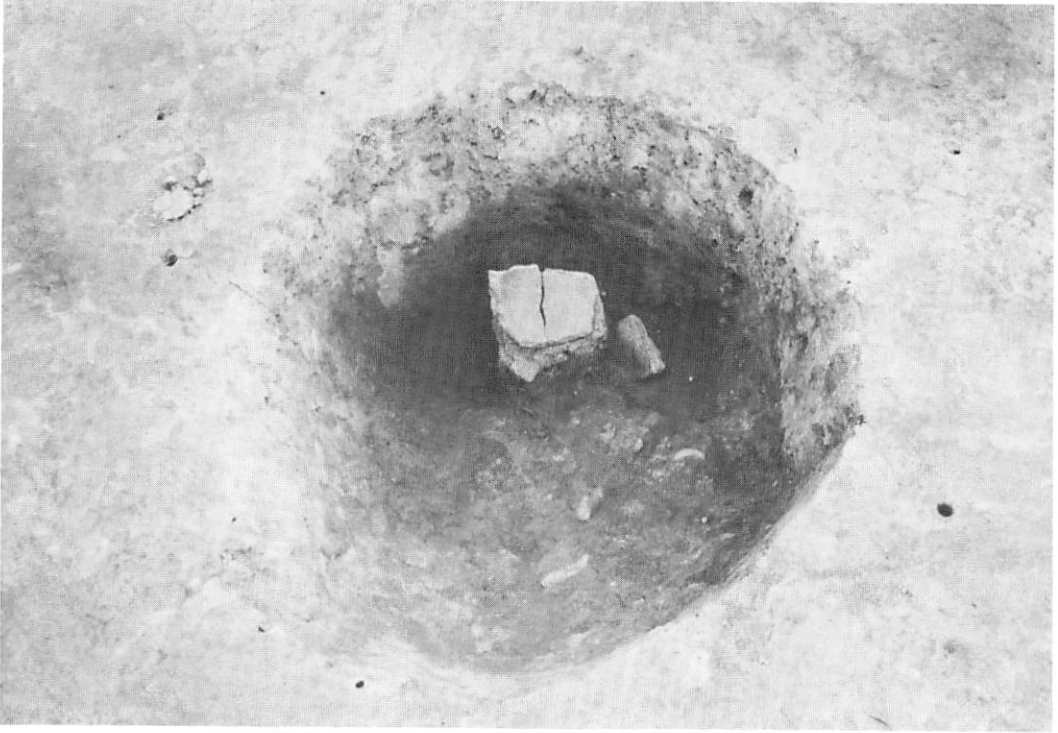
G-25 II 層管玉出土狀況



GP-1 土層断面 (西より撮影)



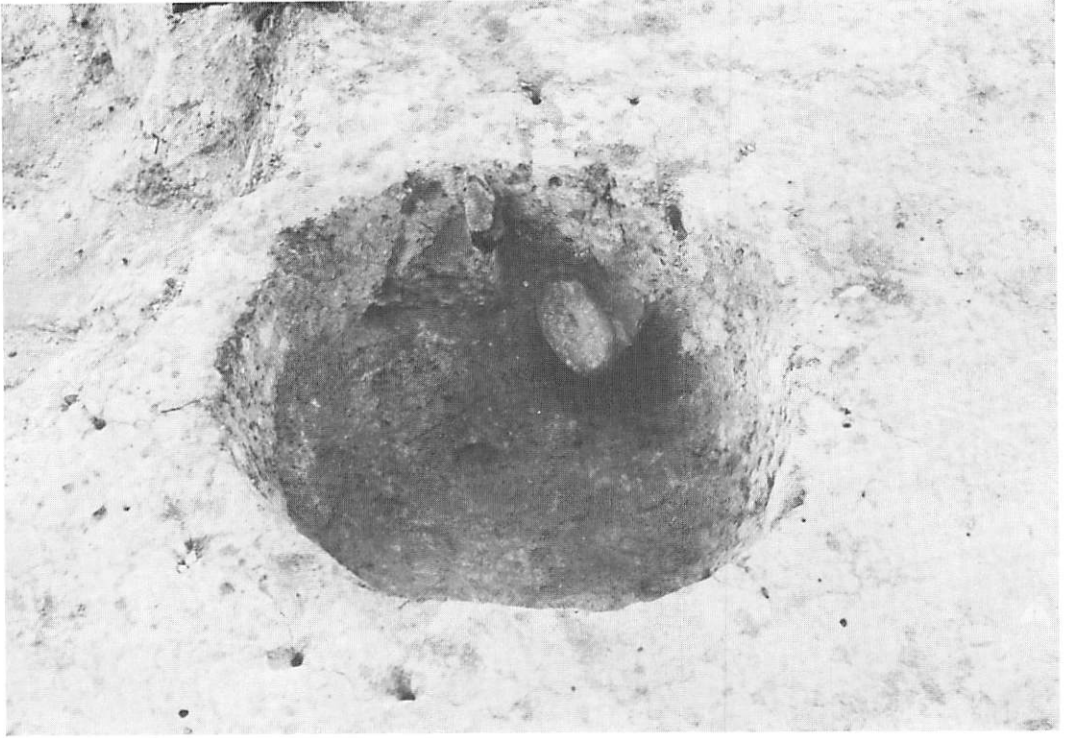
GP-1 検出状況 (東より撮影)



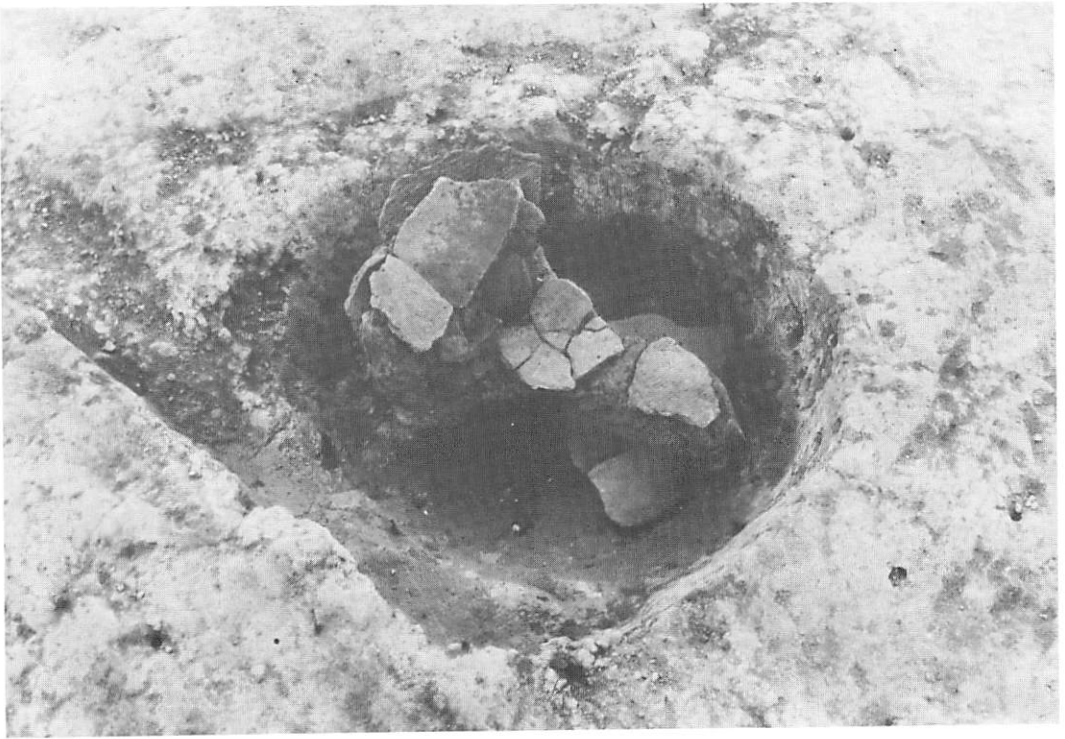
GP-3 検出状況 (南西より撮影)



GP-4 検出状況 (南より撮影)



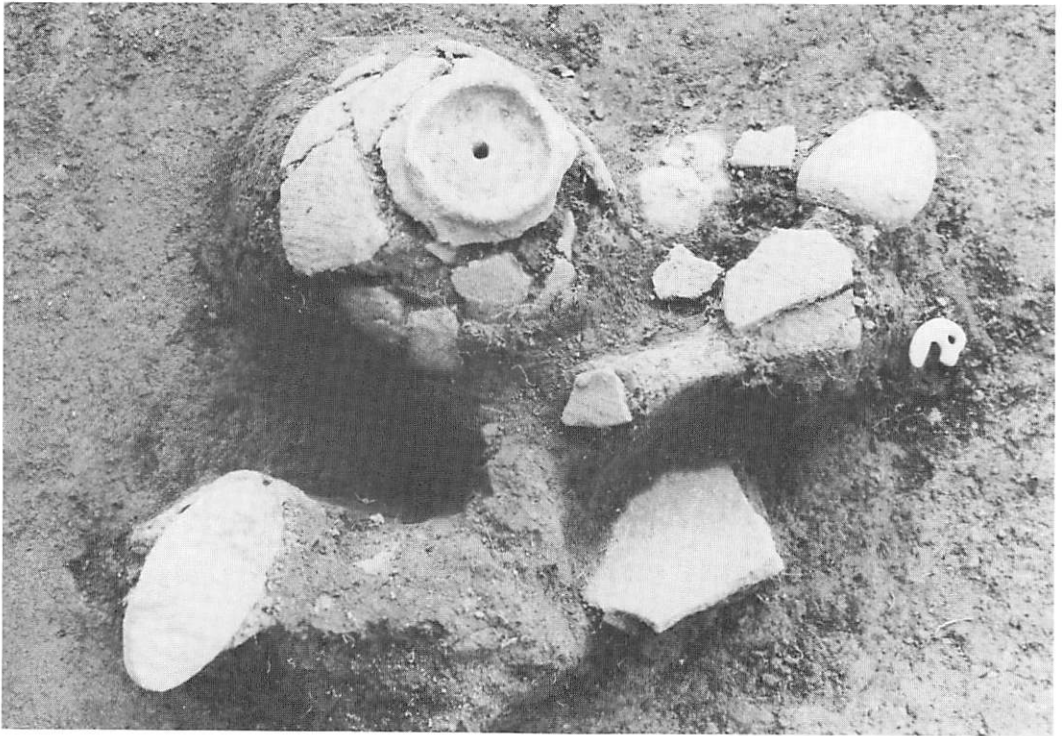
GP-5 検出状況 (北東より撮影)



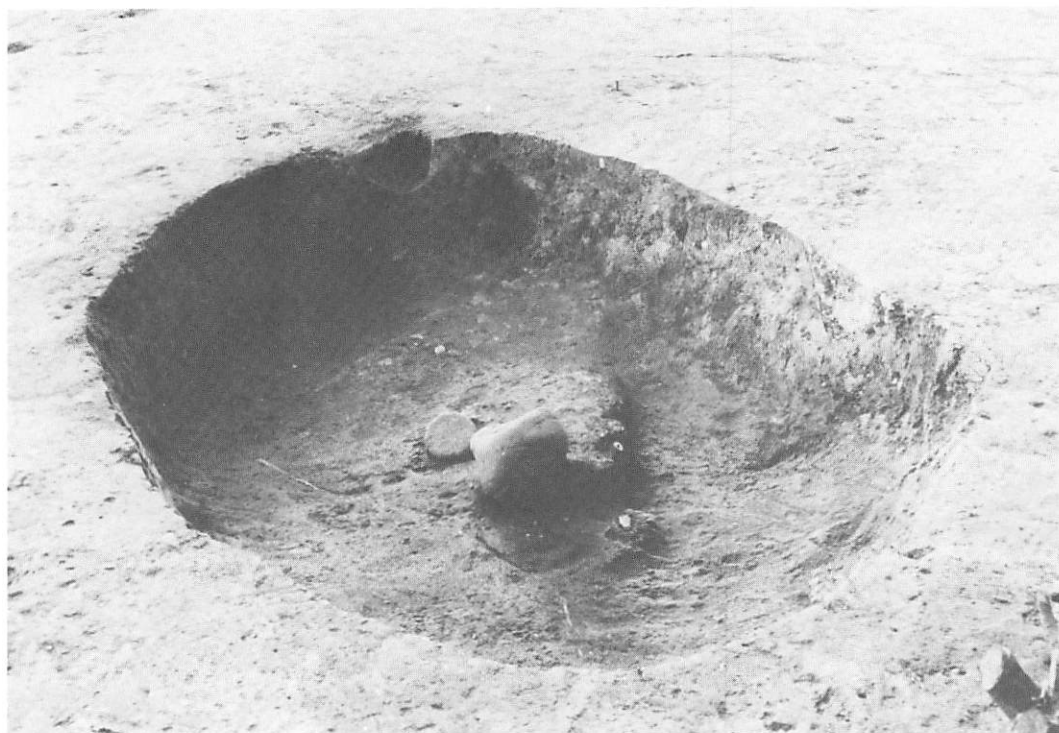
GP-6 検出状況 (東より撮影)



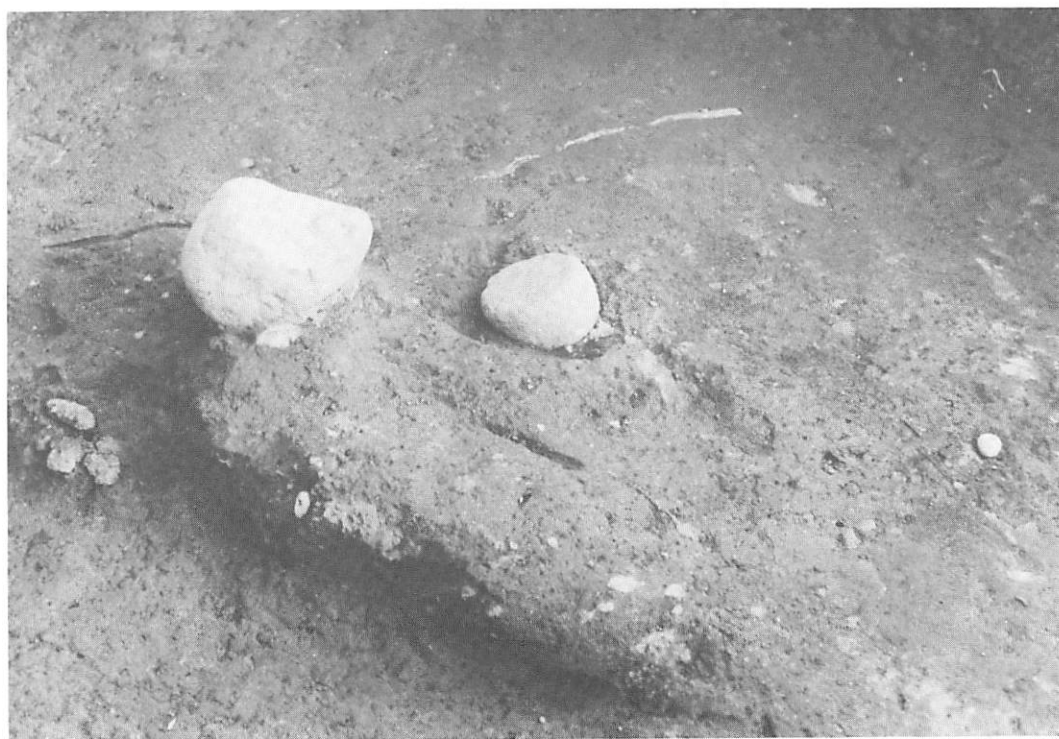
GP-3~6 検出状況 (南より撮影)



GP-14遺物出土状況 (南より撮影)



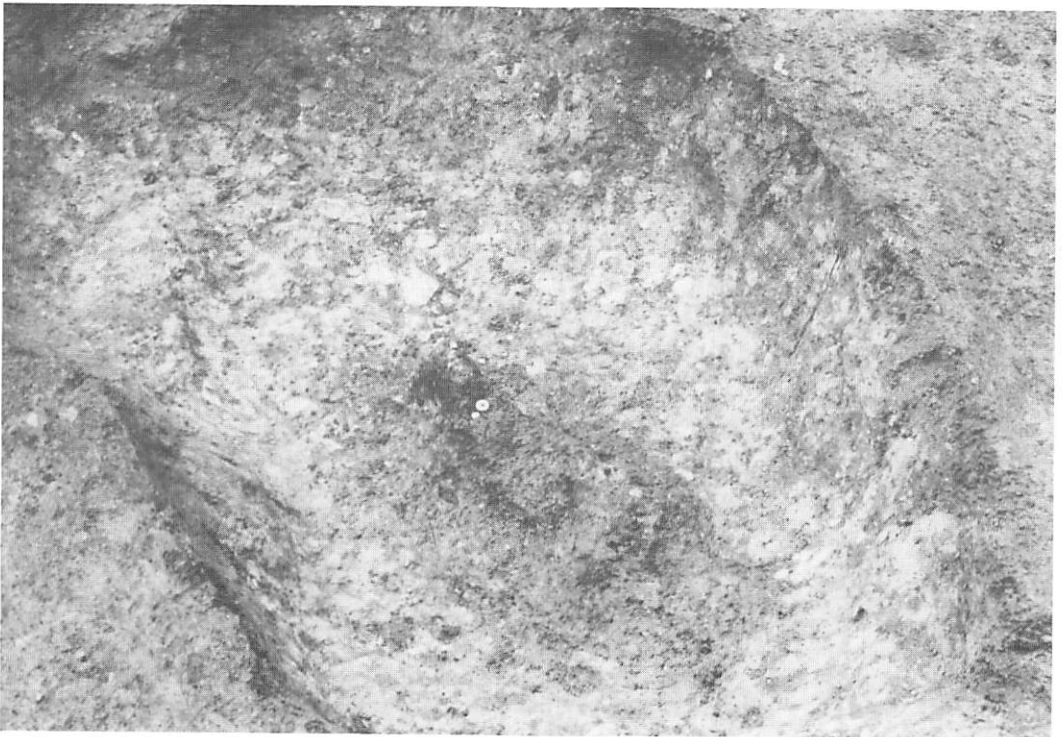
GP-7 検出状況 (北西より撮影)



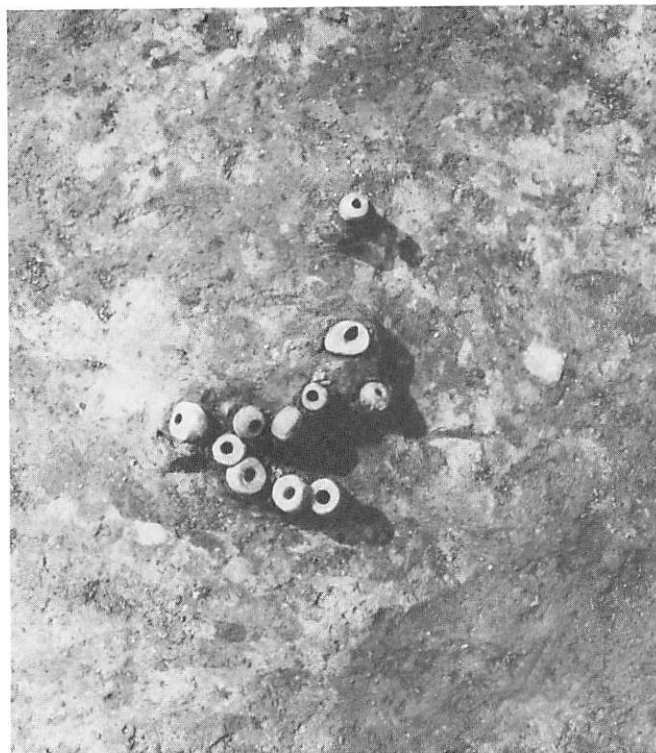
GP-7 握石、玉出土状況 (北より撮影)



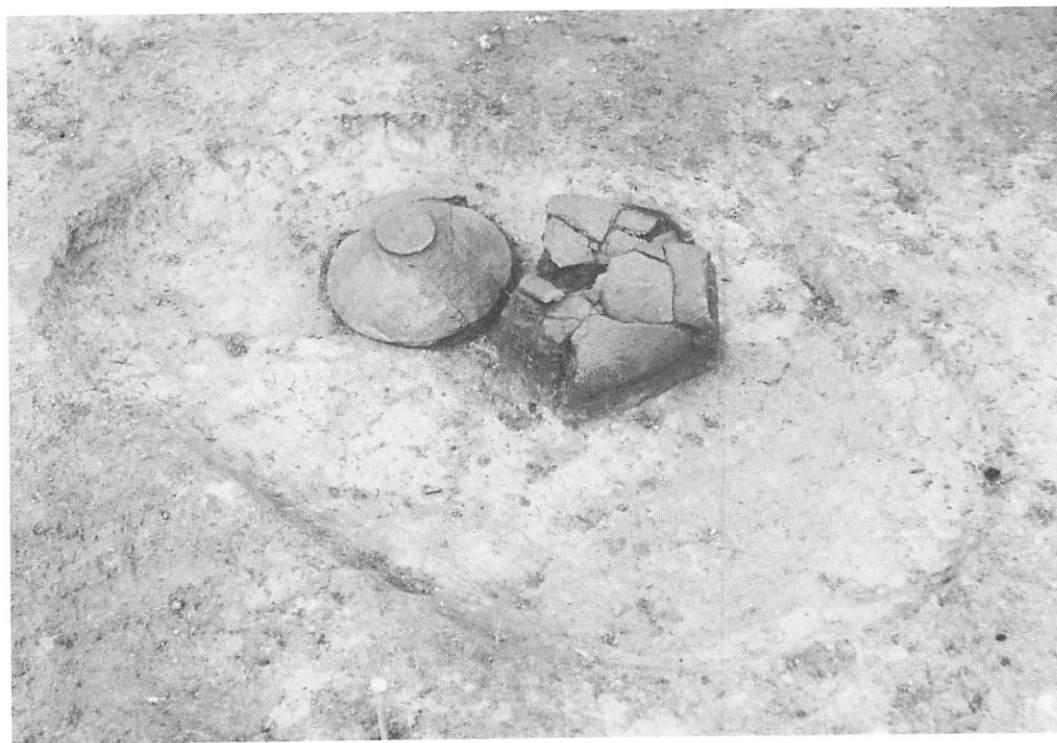
GP-13磔出土状況 (南東より撮影)



GP-13上部磔除去後、玉出土状況



GP-15玉出土状況(南より撮影)



GP-41遺物出土状況(西より撮影)



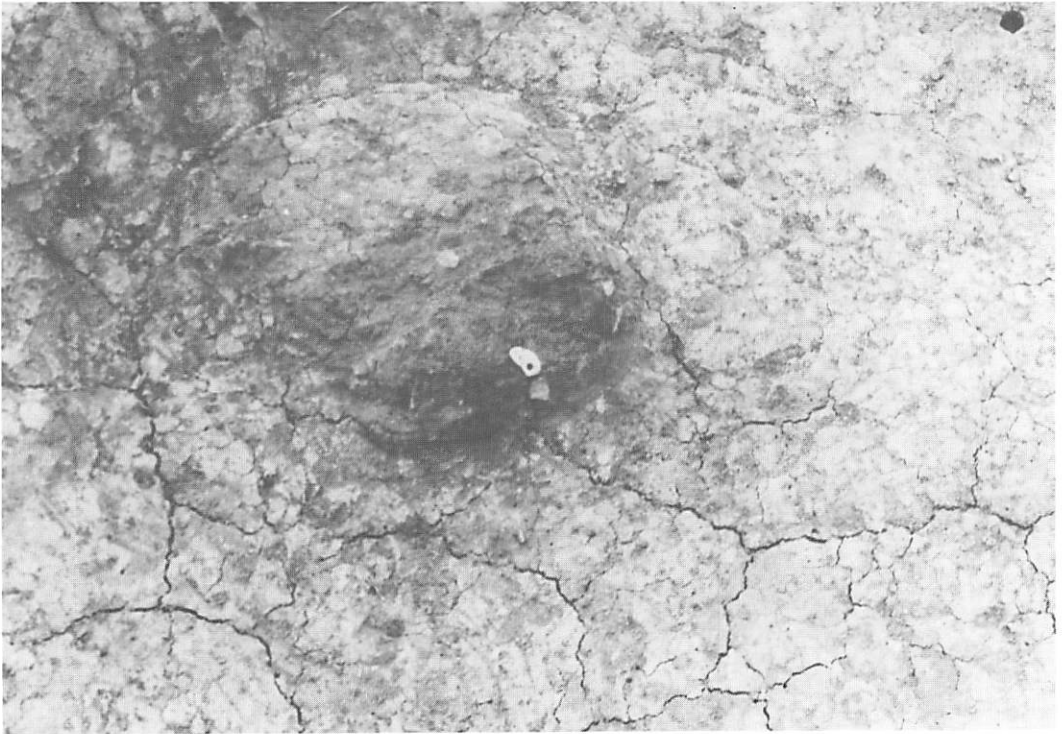
GP-20検出状況（南西より撮影）



GP-20徳利型土器出土状況（北東より撮影）



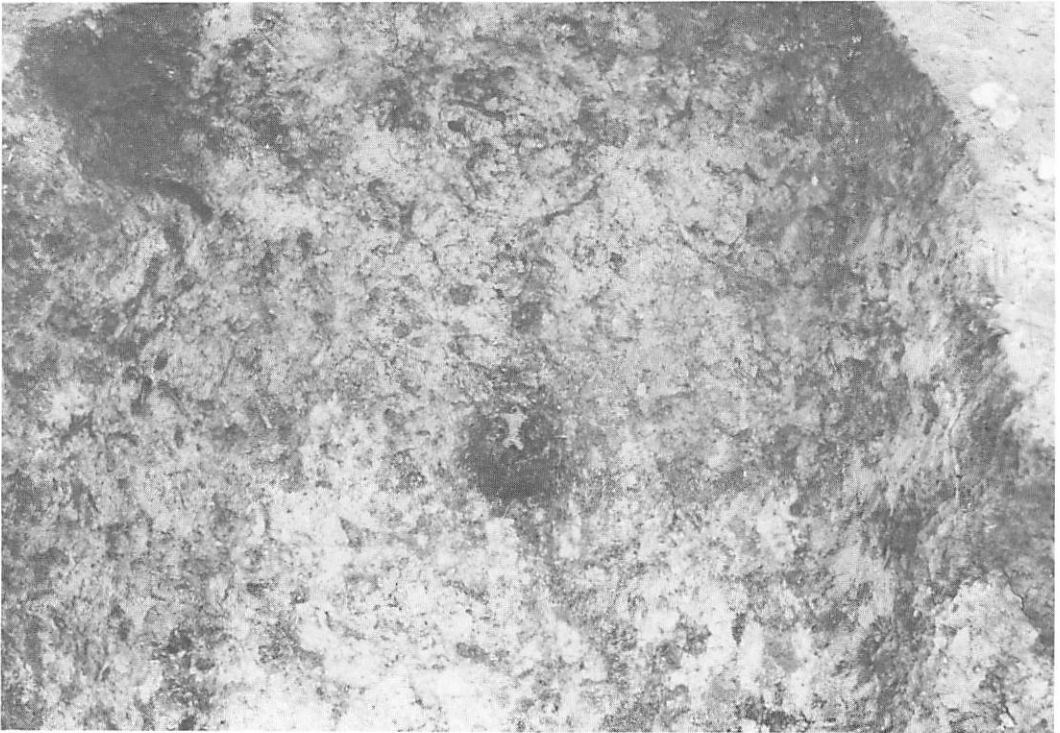
G P-23検出状況（東より撮影）



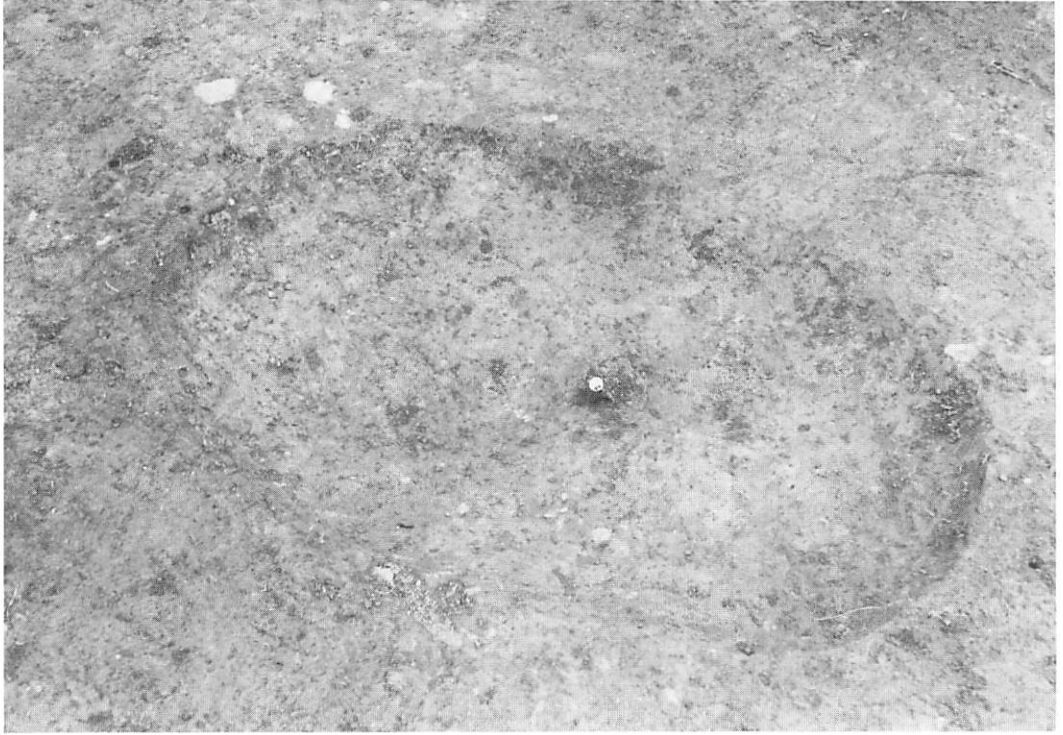
G P-23玉出土状況（翡翠玉）



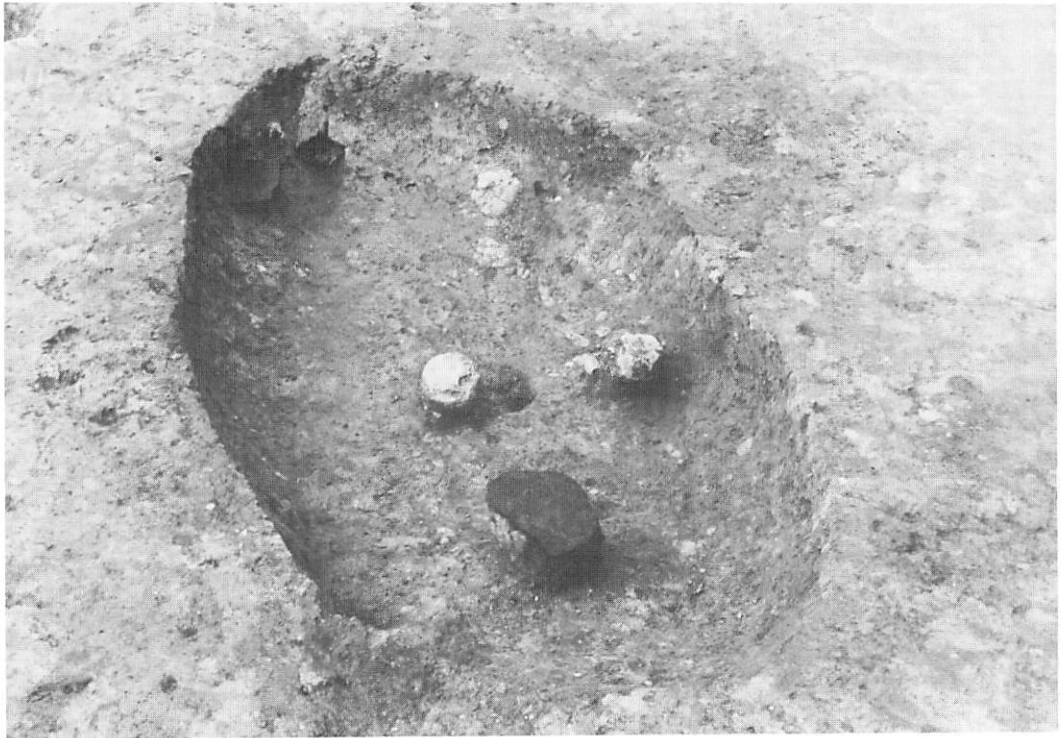
GP-42検出状況（北より撮影）



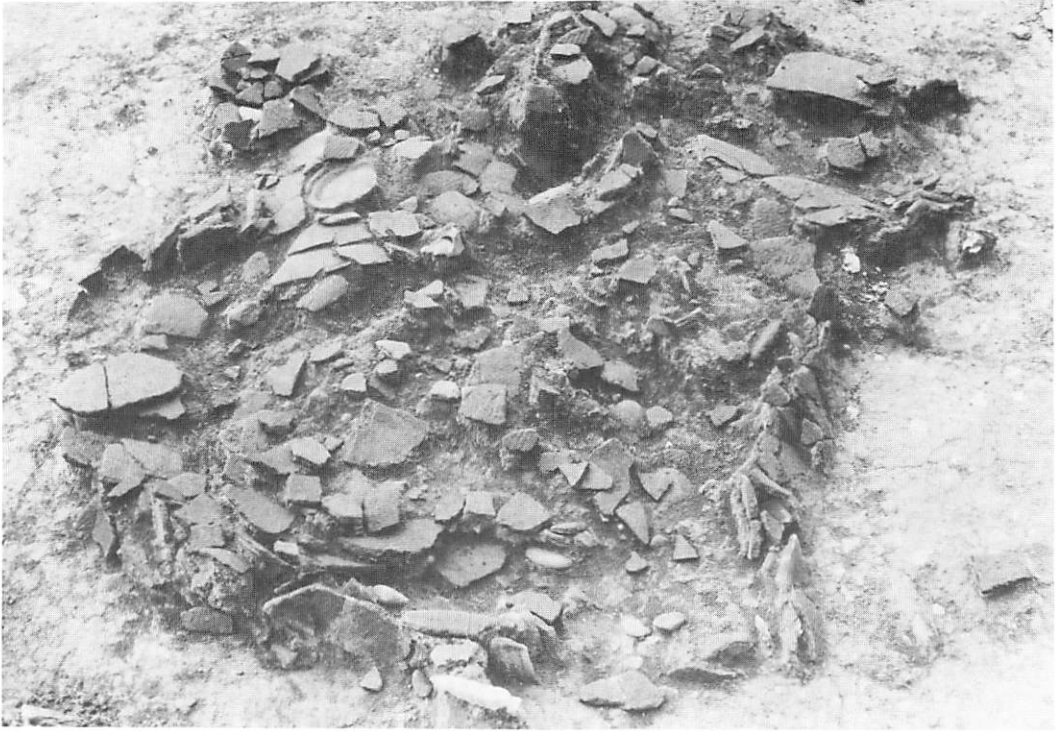
GP-45石偶出土状況（SH-3より西へ撮影）



G P-43玉出土状況 (翡翠)



G P-48遺物出土状況 (中央は握石、南より撮影)



GP-56遺物出土状況（北東より撮影）



GP-57玉出土状況（左は握石）



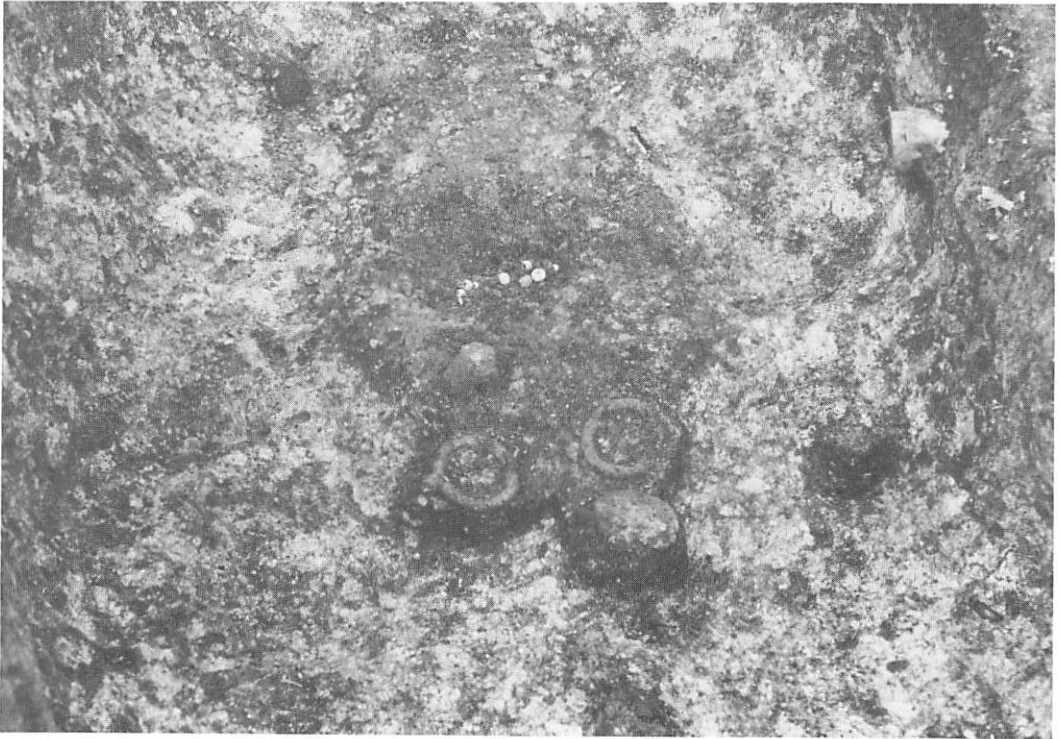
GP-163遺物出土状況（北より撮影）



GP-60玉、供献土器出土状況（北より撮影）



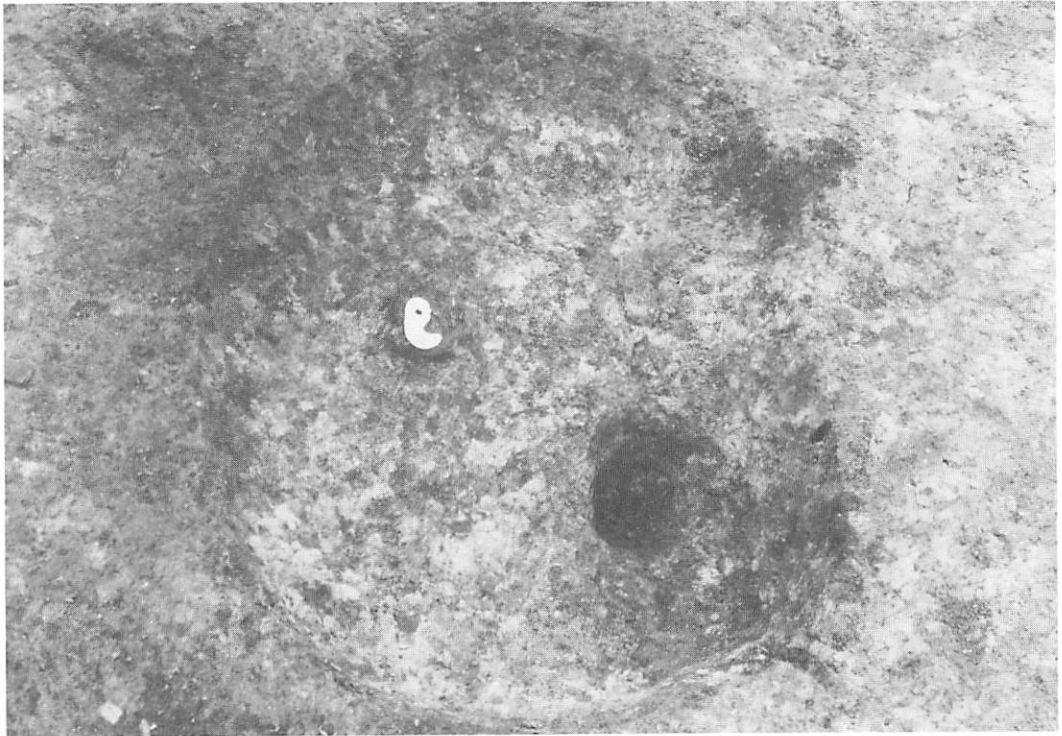
GP-62腕輪、玉出土状況（北東より撮影）



GP-62腕輪、玉出土状況（西より撮影）



G P-62検出状況 (腕輪, 玉, 握石, 供献土器)



G P-63勾玉出土状況 (南西より撮影)



G P-70玉出土状況 (西より撮影)



G P-72石斧、砥石出土状況 (北西より撮影)



GP-73土層断面（東より撮影）



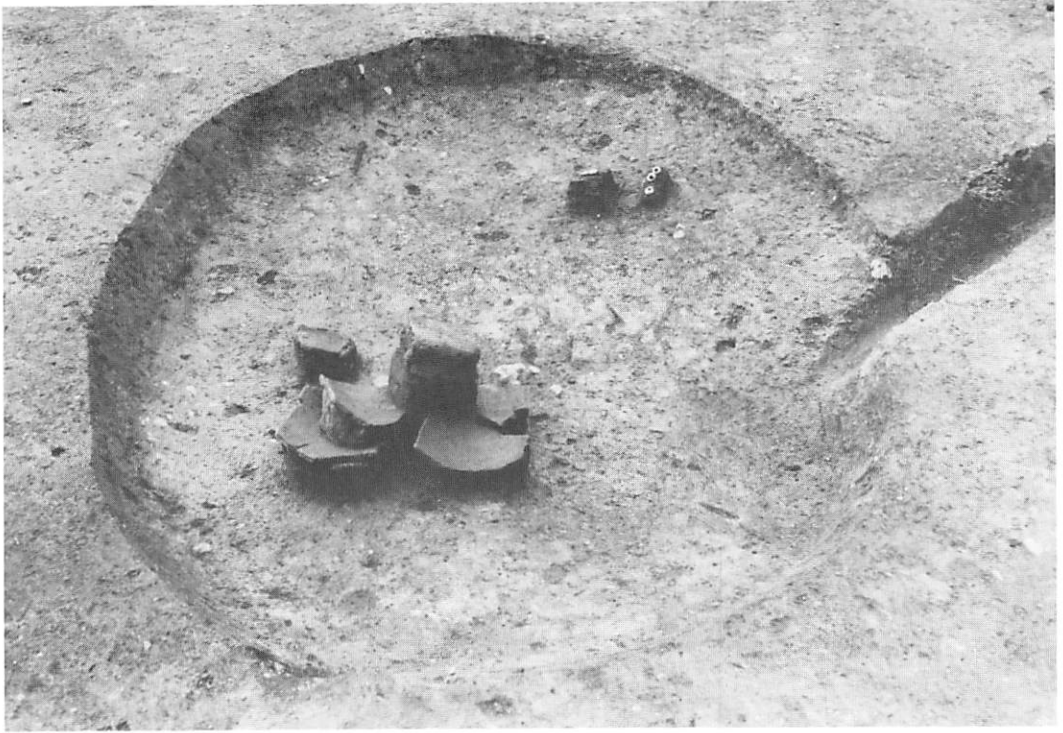
GP-73玉、握石出土状況（東より撮影）



GP-76検出状況 (中央は玉、南東より撮影)



GP-80検出状況 (北東より撮影)



GP-84遺物出土状況（東より撮影）



GP-86遺物出土状況（中央は玉、北西より撮影）



GP-107検出状況（左側は溝状遺構によって切られている）



GP-107遺物出土状況（北より撮影）



GP-143検出状況（北西より撮影）



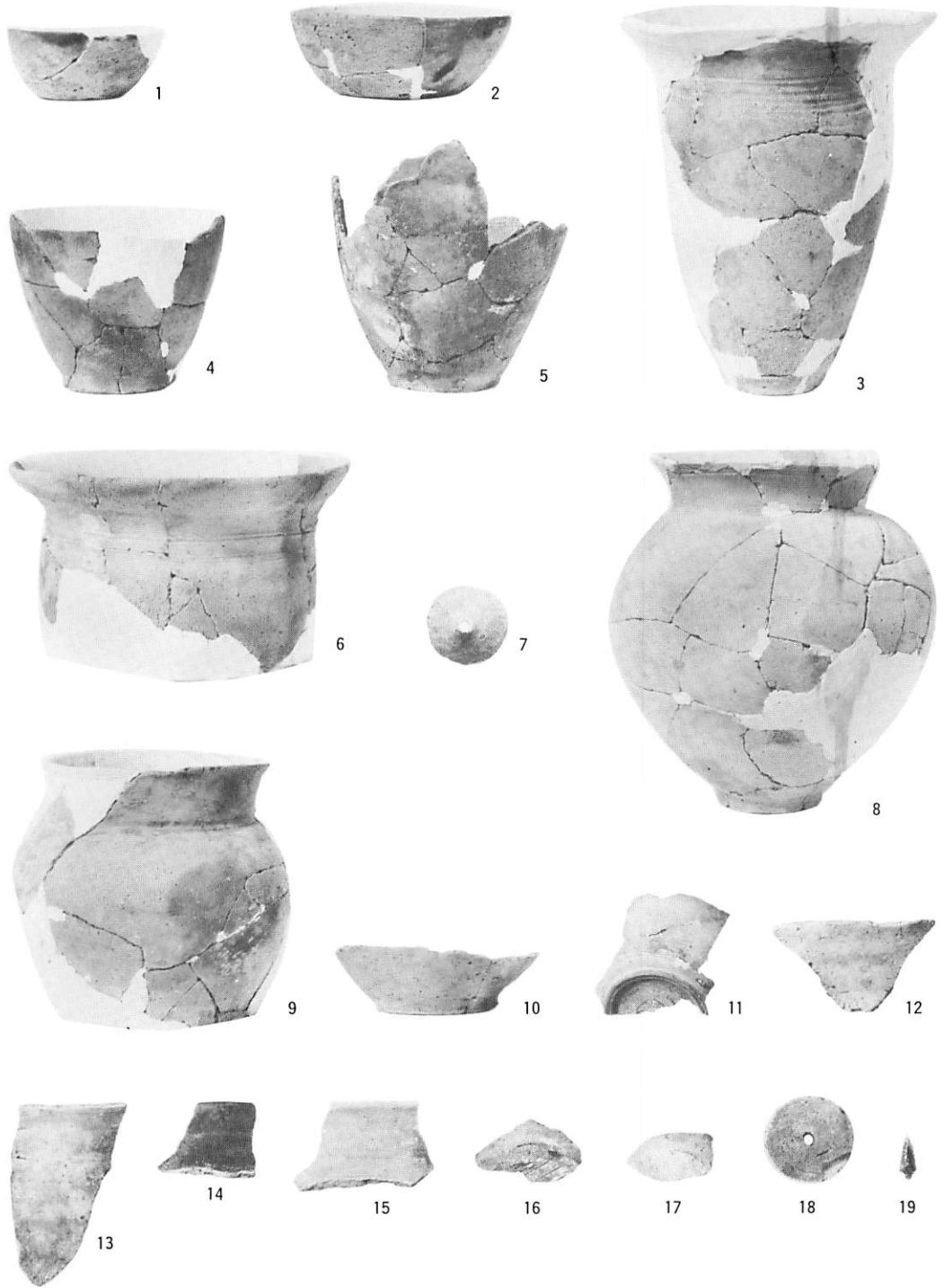
UP-1 礫出土状況（上部礫除去後）



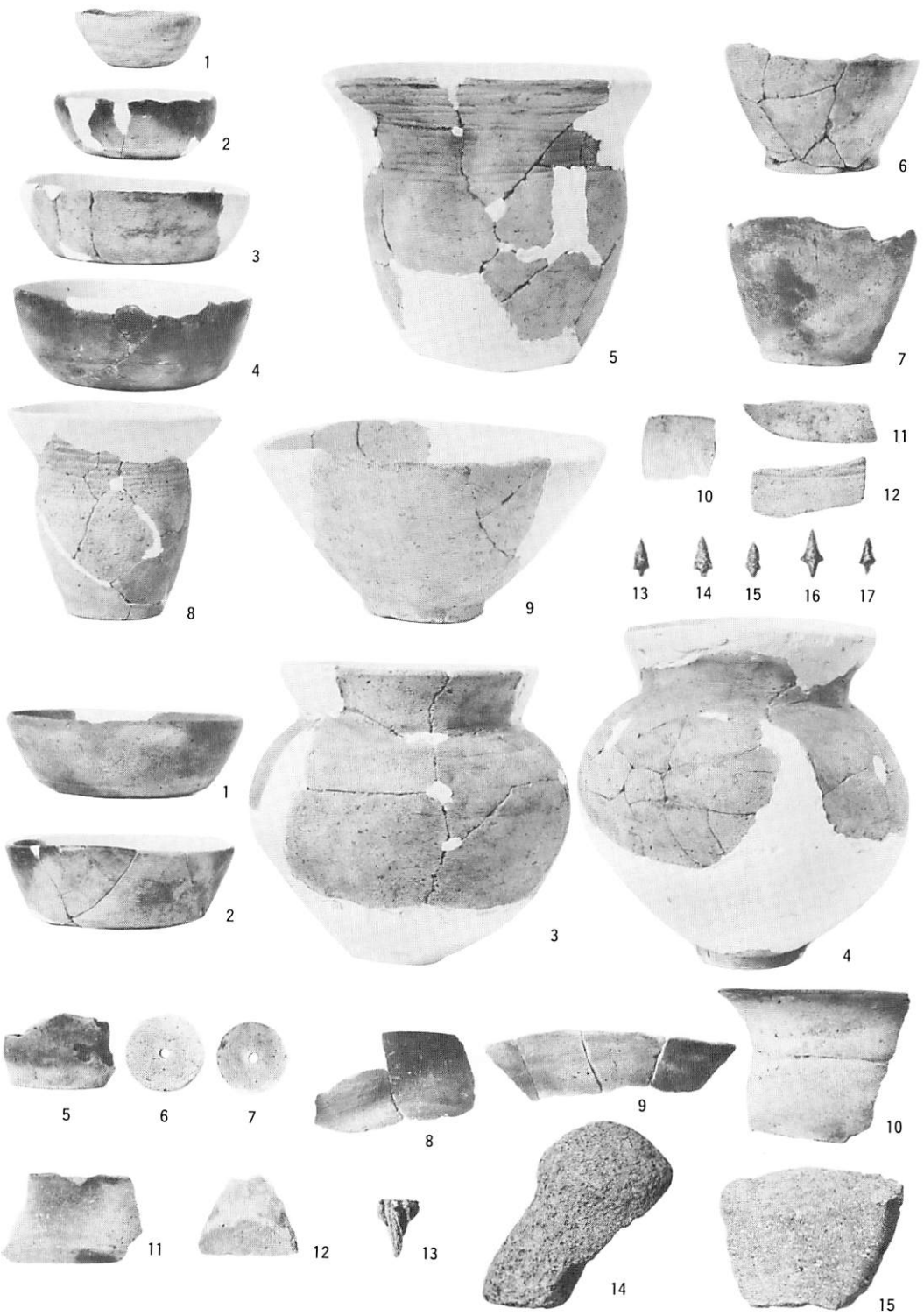
溝状遺構検出状況（南より撮影）



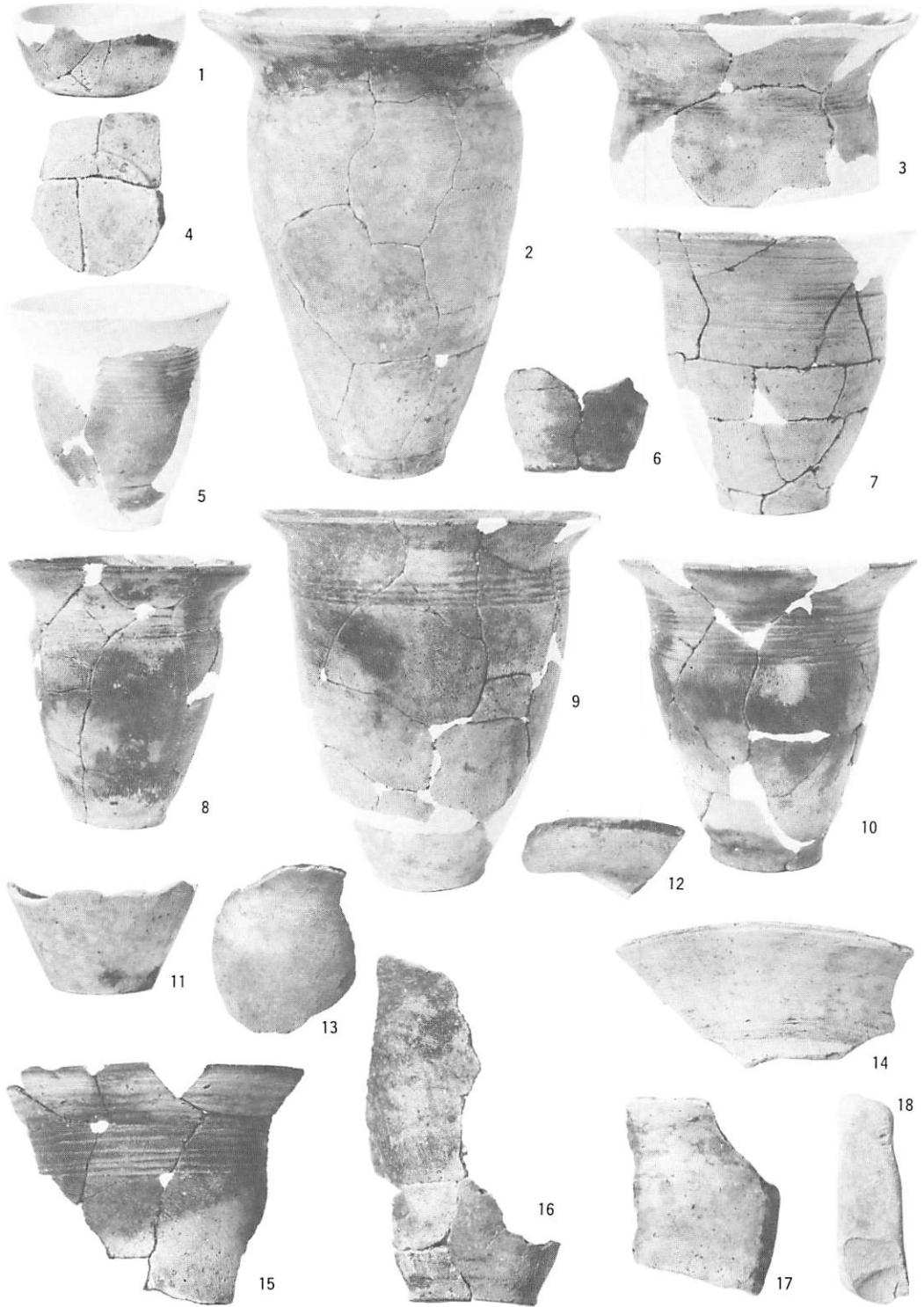
溝状遺構検出状況（北より撮影、左下はG P-107）



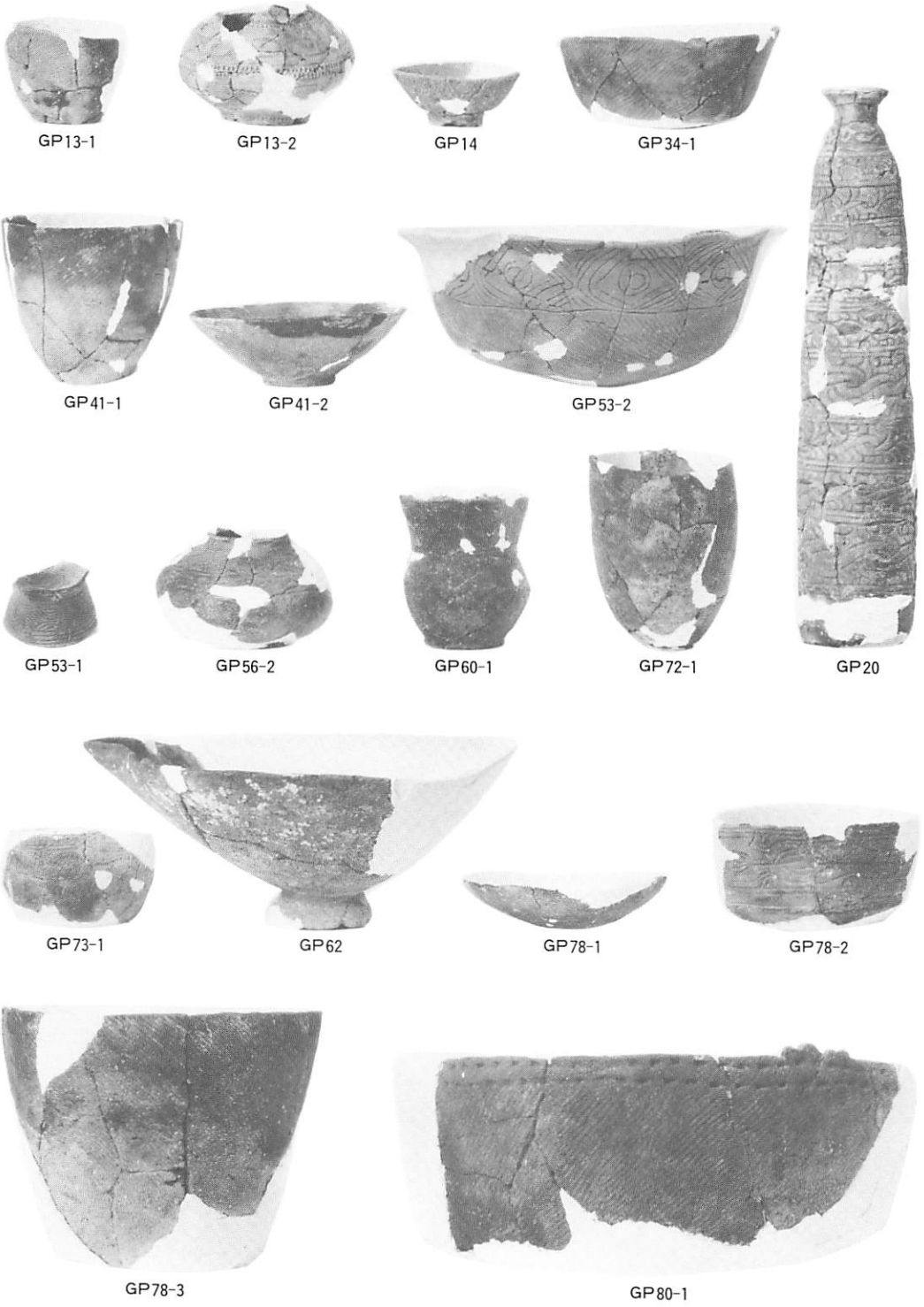
沢町遺跡SH-1出土の遺物(1~19)



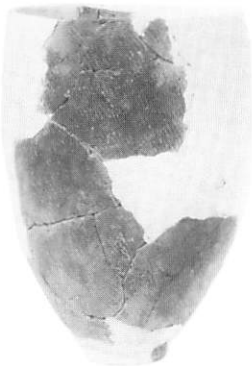
沢町遺跡SH-2・3出土の遺物(上SH-2、1~17・下SH-3、1~15)



沢町遺跡 SH-4 出土の遺物 (1~17)



沢町遺跡墓域出土の土器（GP-13~80、GP-20は編尺50%増）



GP84



GP86-1



GP101-1



GP107



GP109



GP131



GP111



GP140



GP142-1



GP142-2



GP143-1



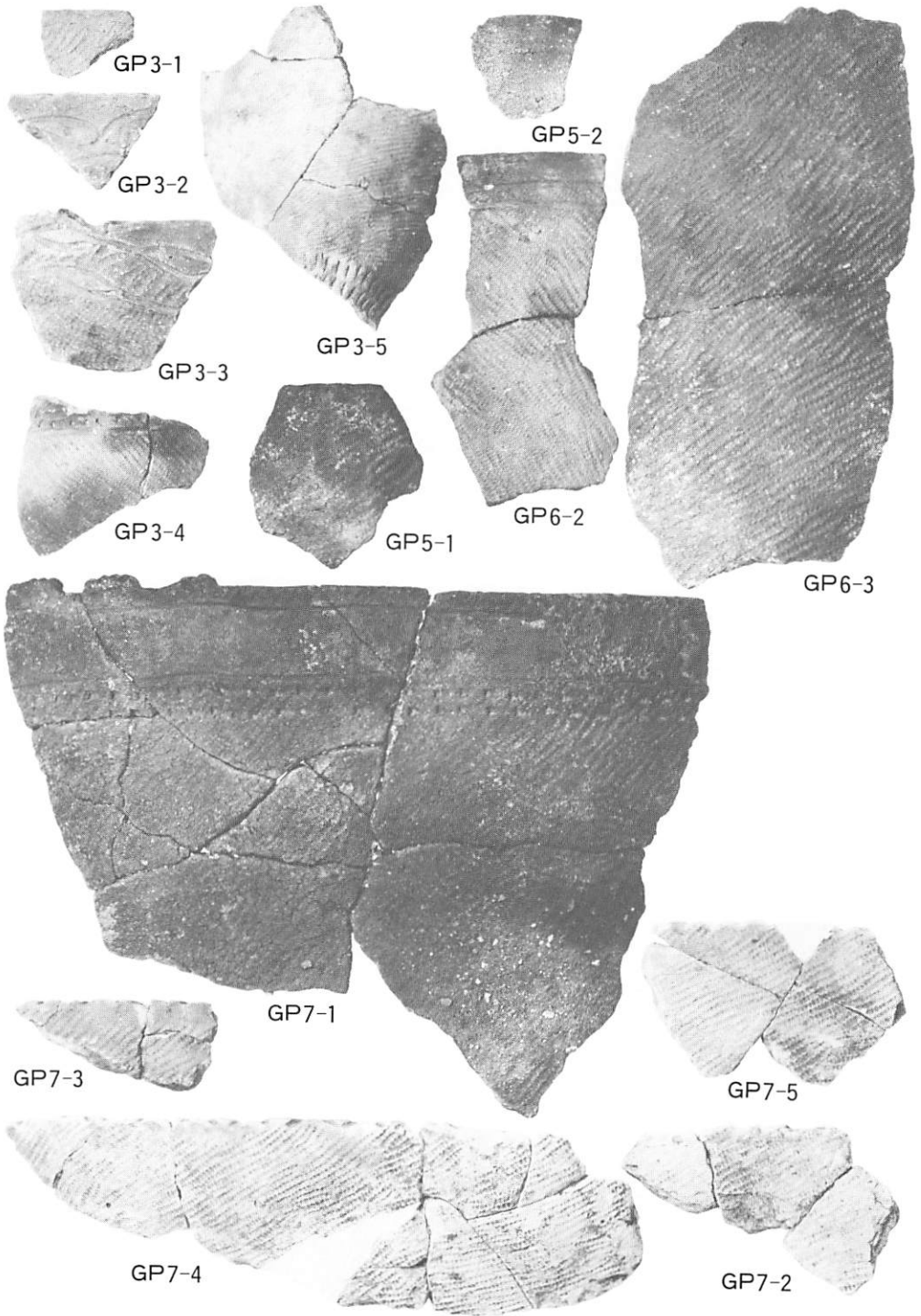
GP150-1



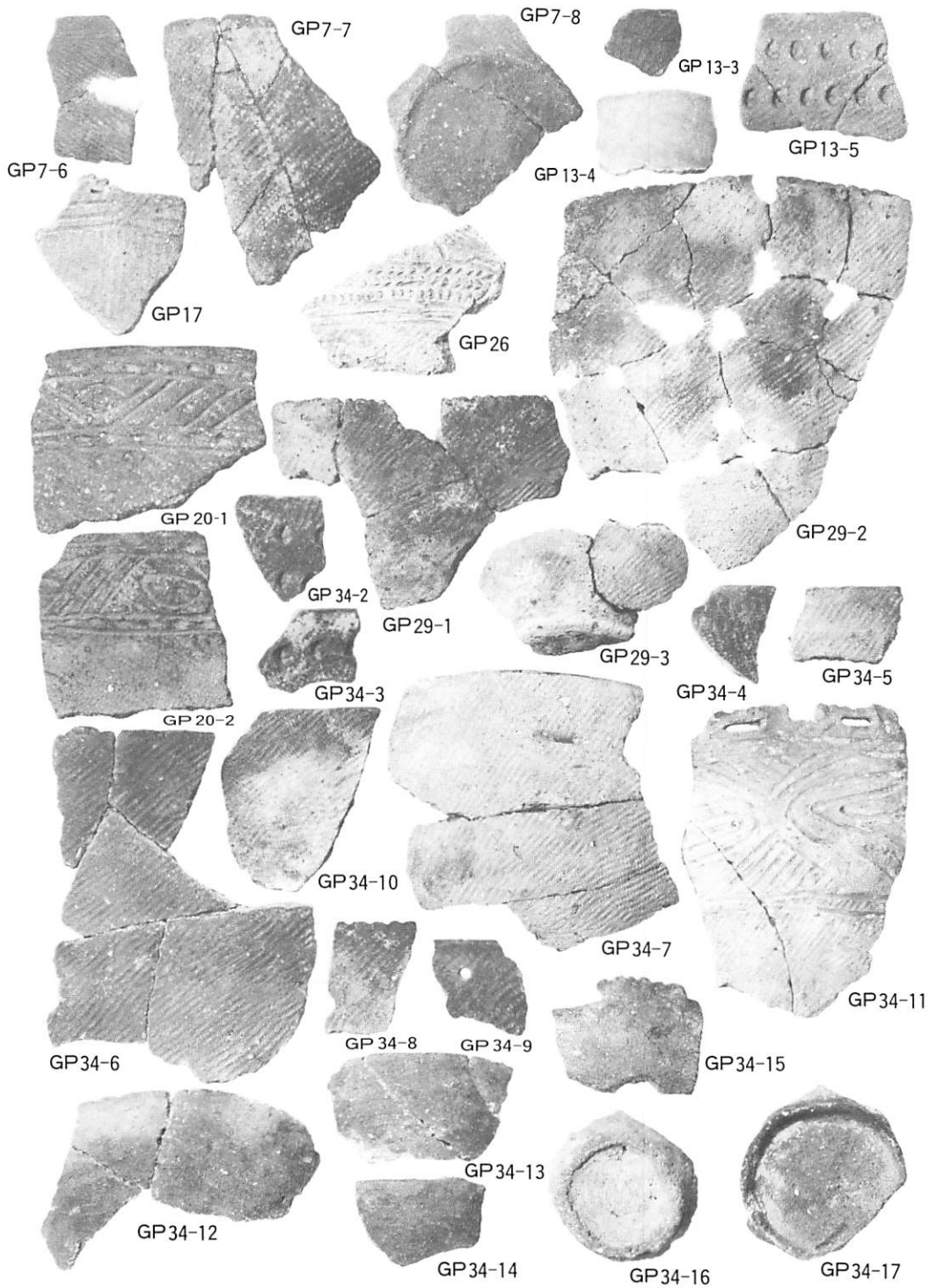
GP158-1



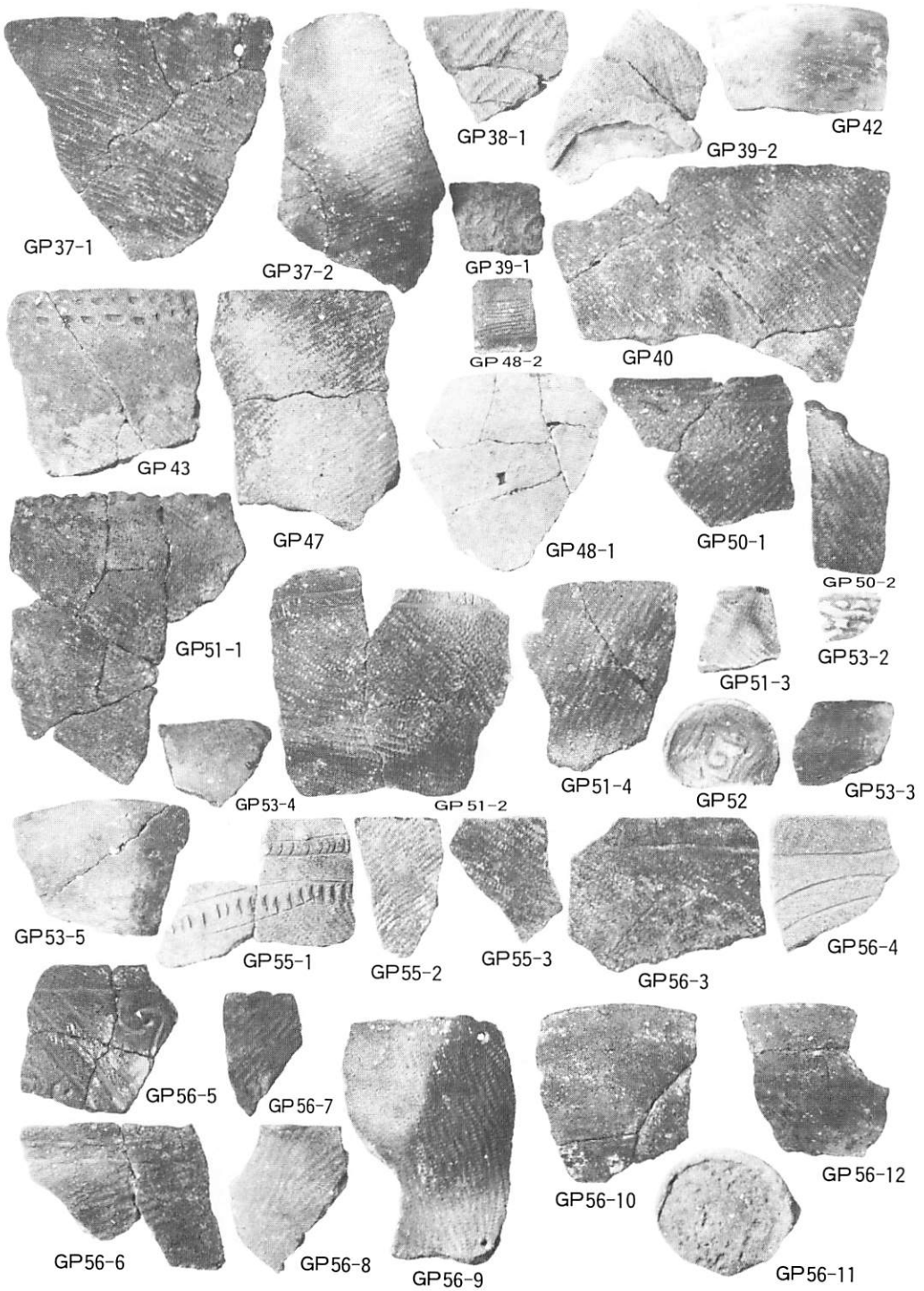
GP163



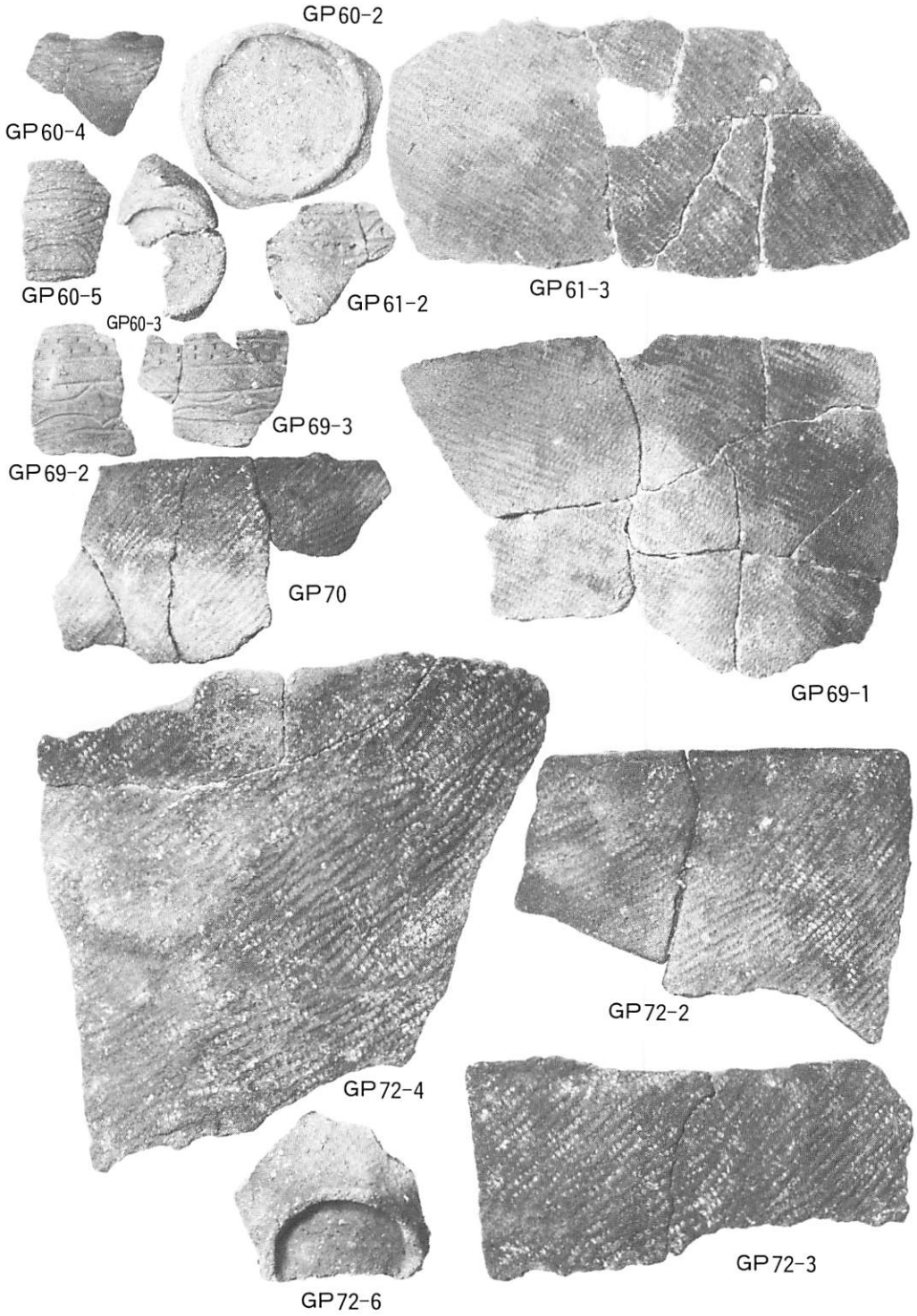
沢町遺跡墓塚出土の土器 (GP-3・5~7)



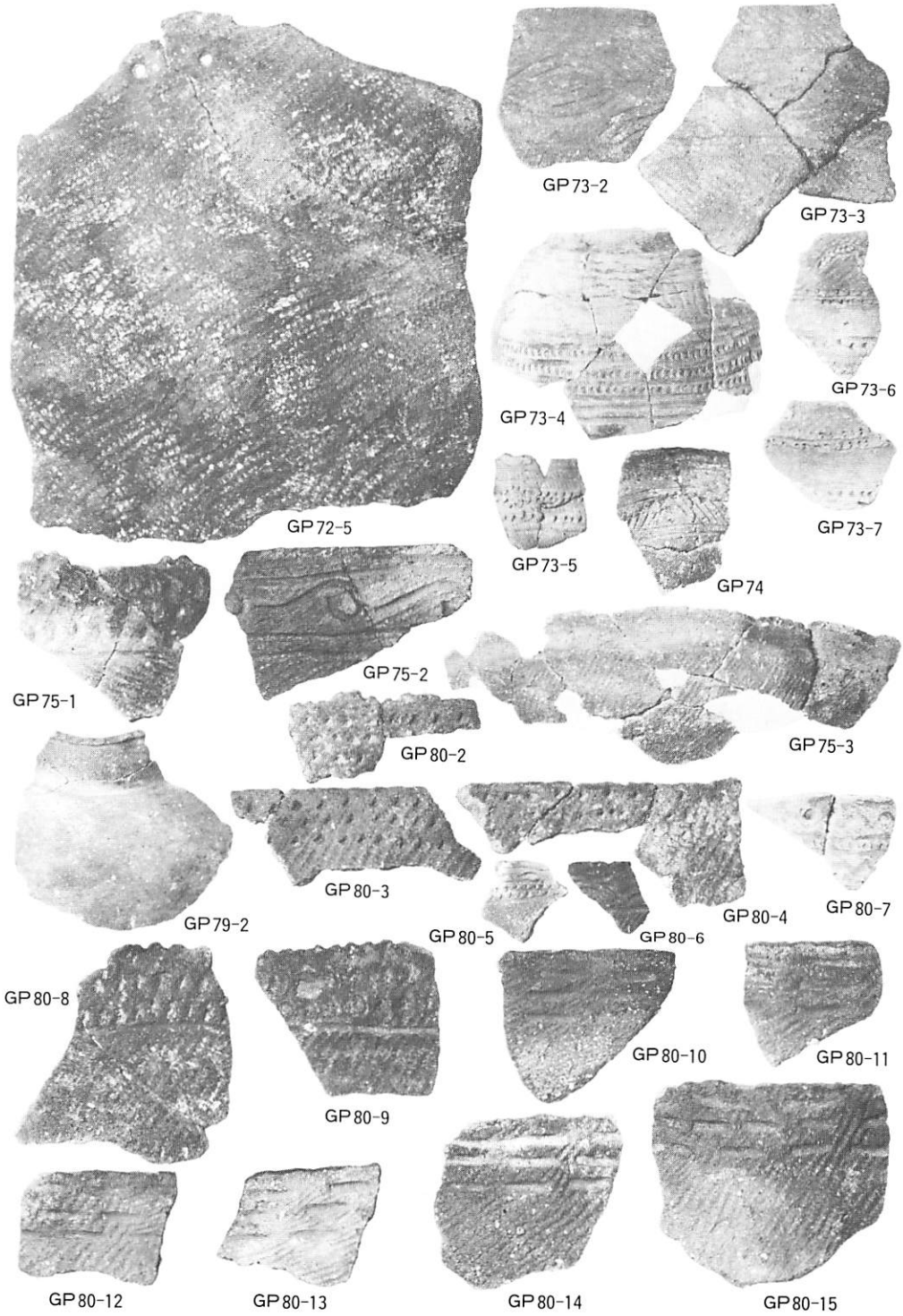
沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-7・8・13・17・20・26・29・34)



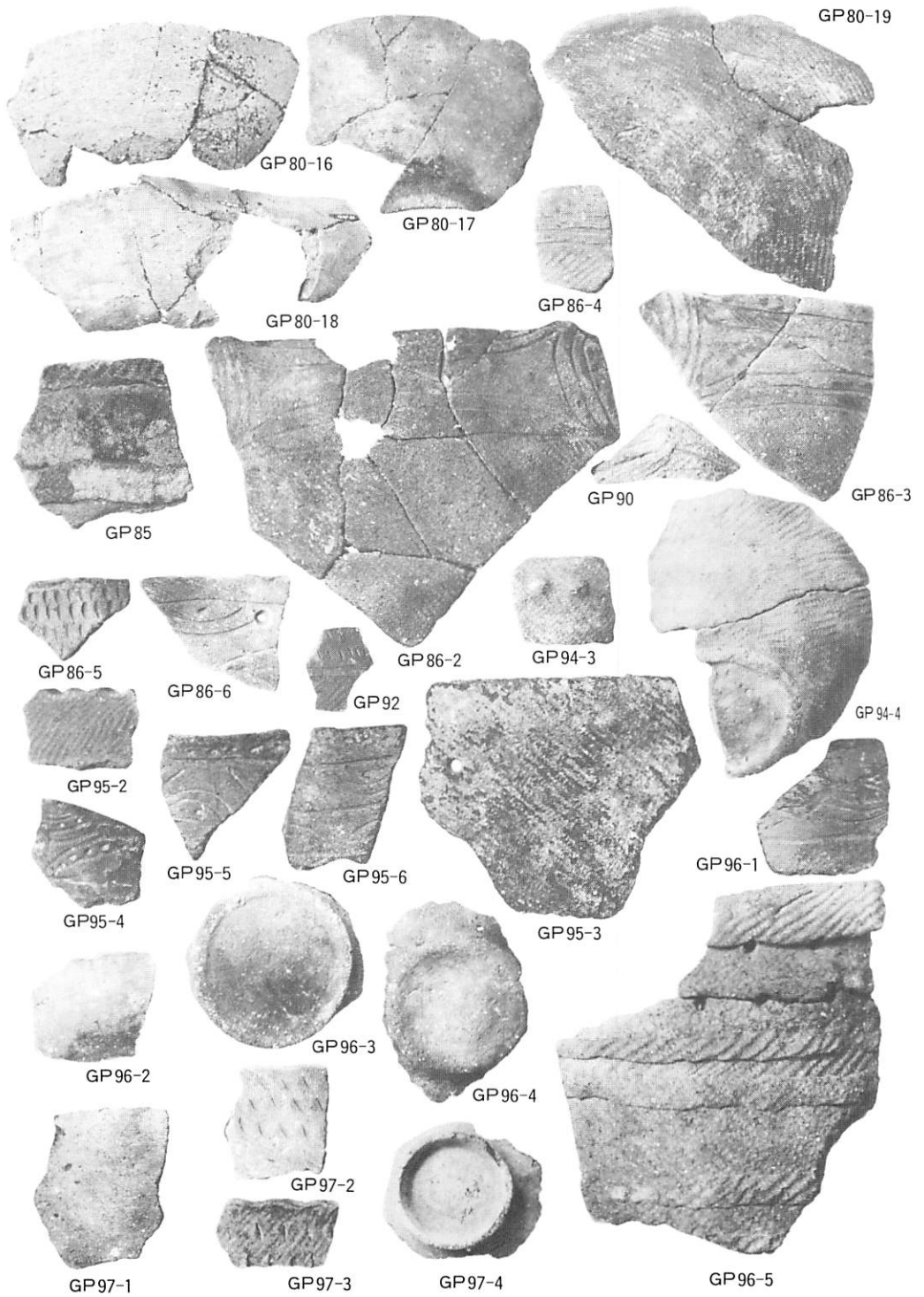
沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-37~40・42・43・47・48・50~53・55・56)



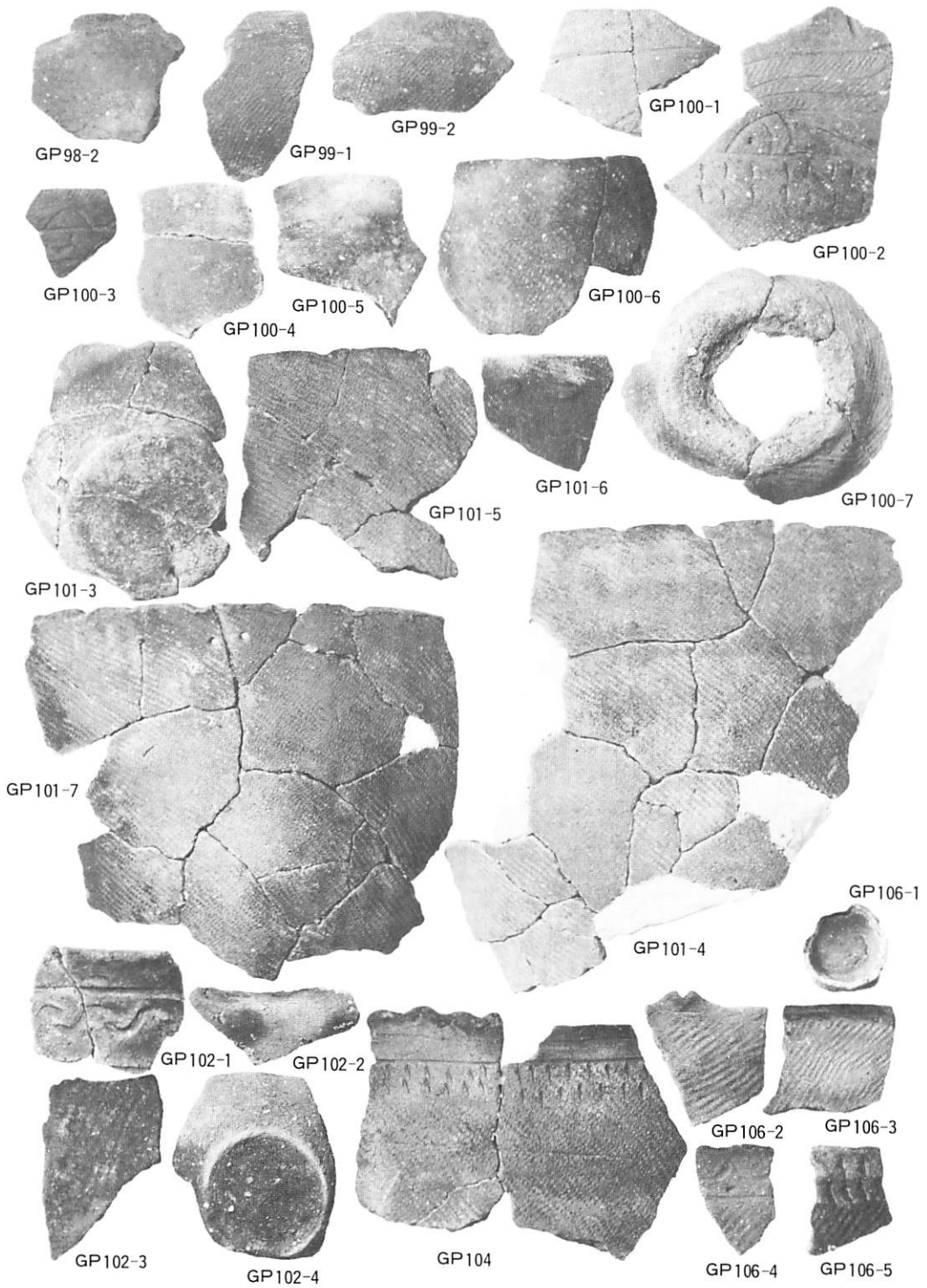
沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-60・61・69・70・72)



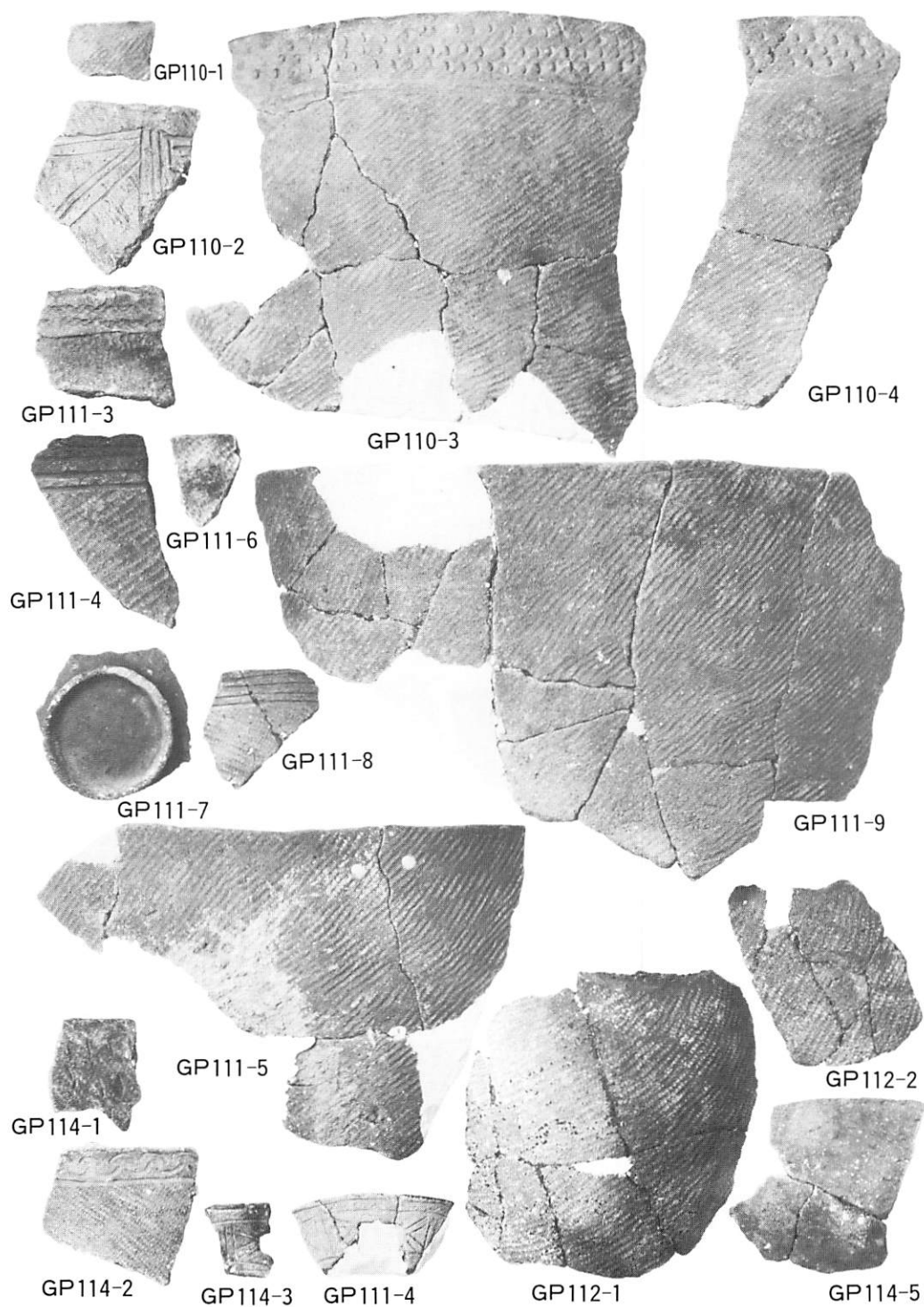
沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-72~75・79・80)



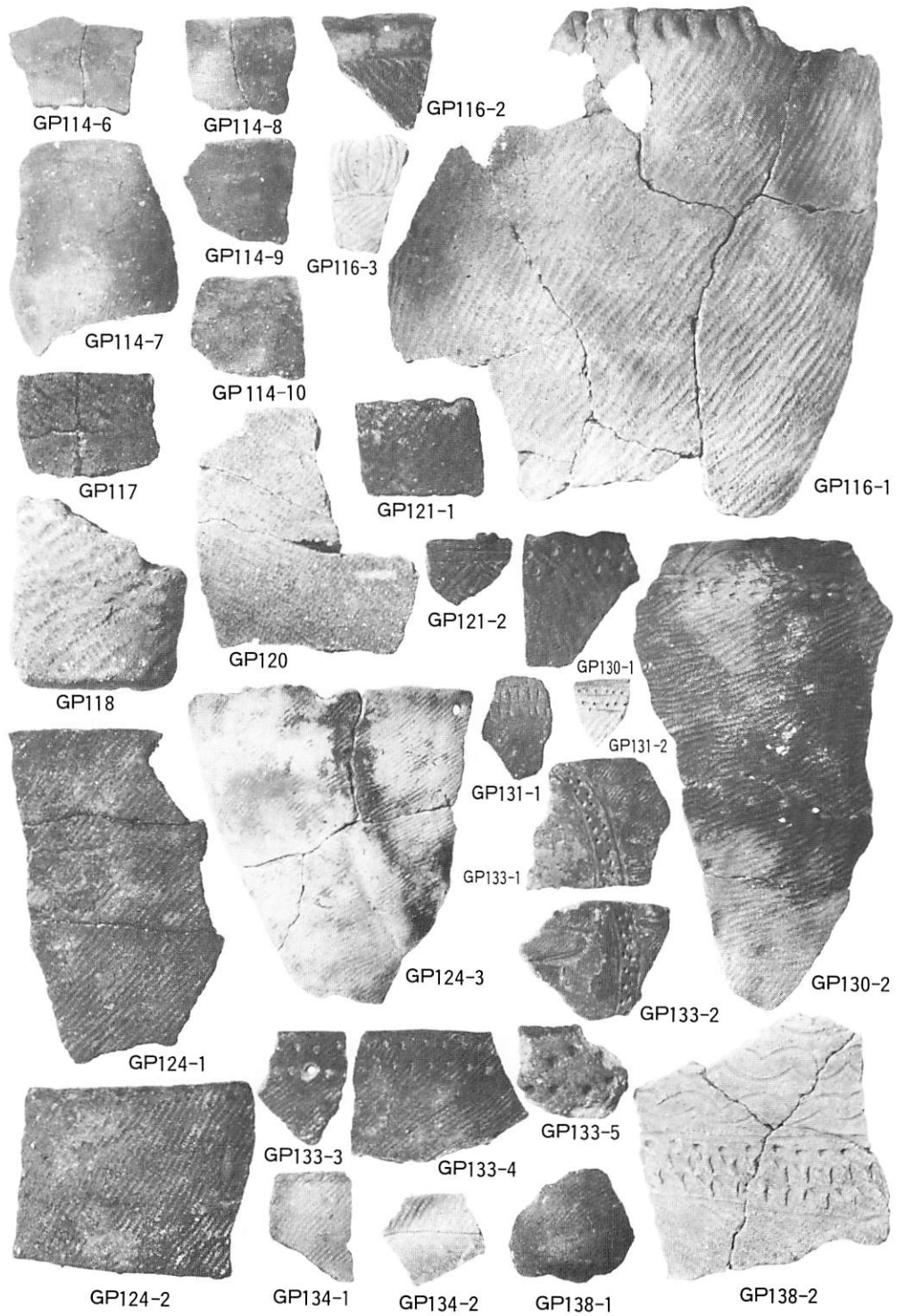
沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-80・85・86・90・92・94-97)



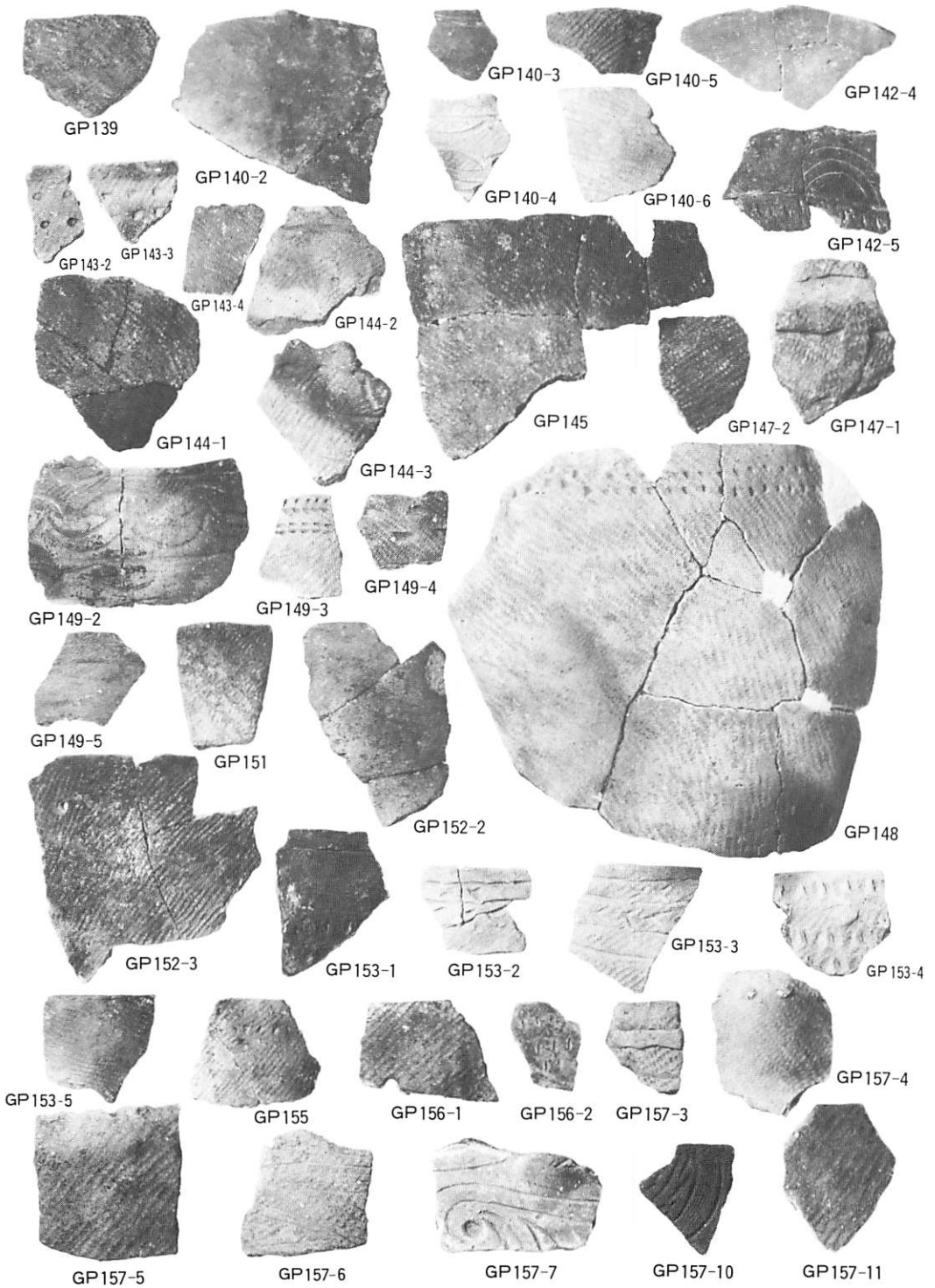
沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-98~102・104・106)



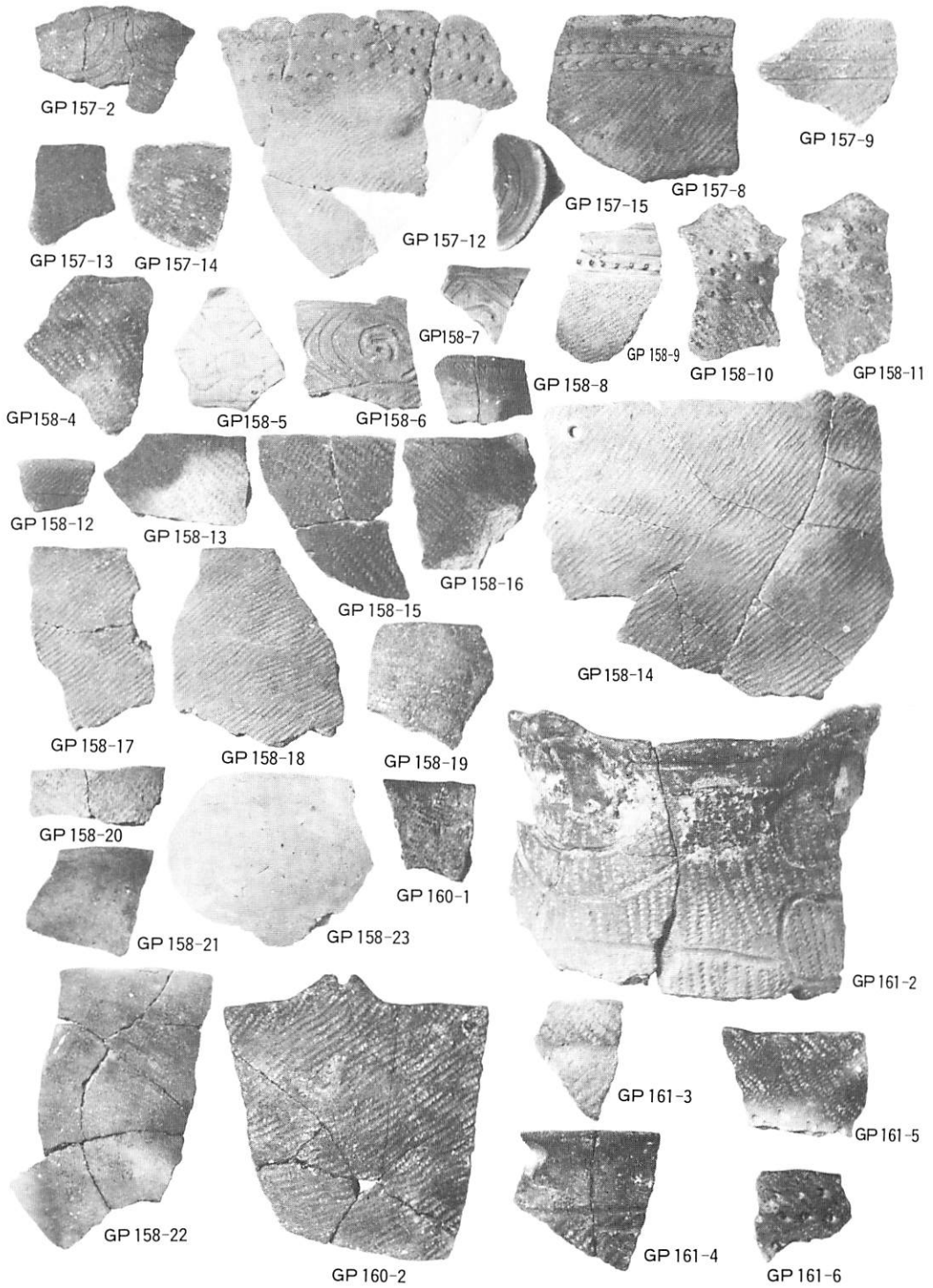
沢町遺跡墓城出土の土器 (GP-110~112・114)



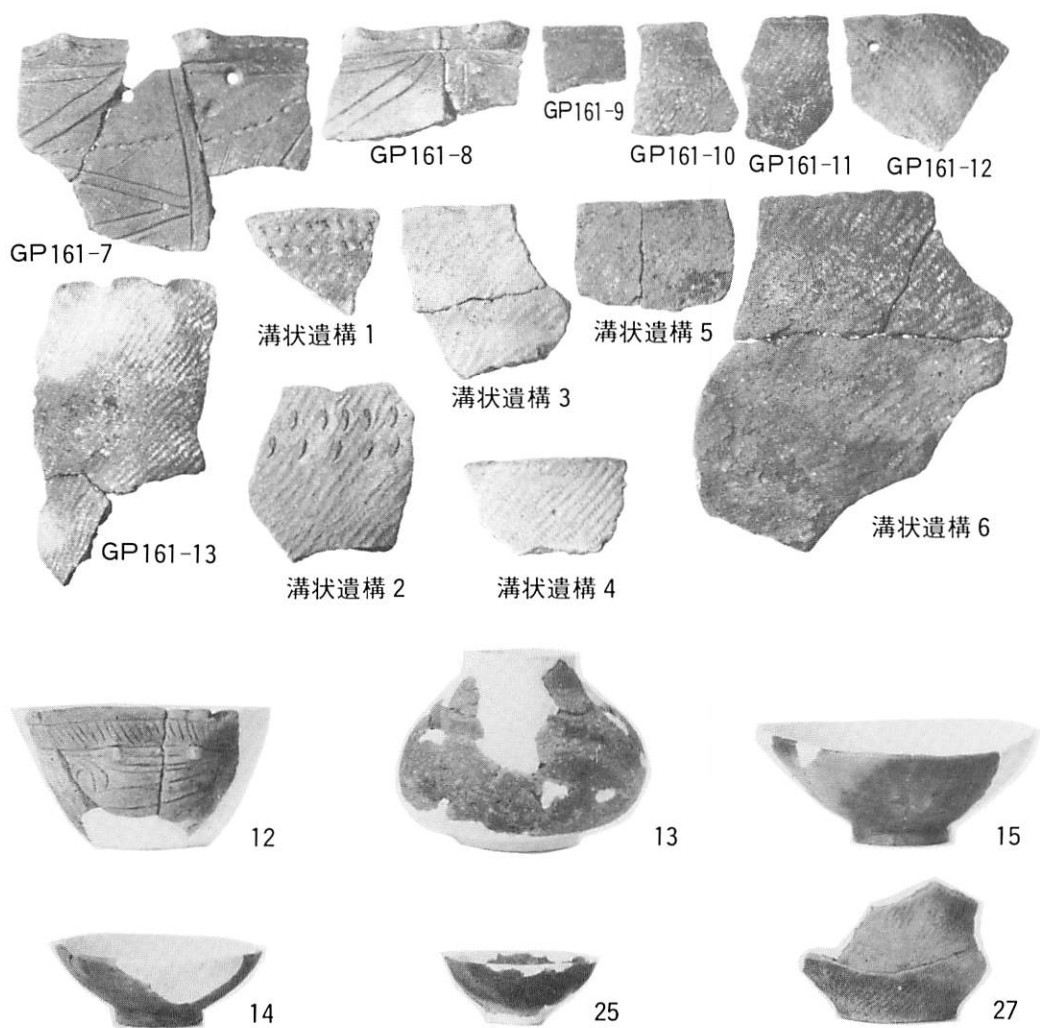
沢町遺跡墓塚出土の土器 (GP-114・116~118・120・121・124・130・131・133・134・138)



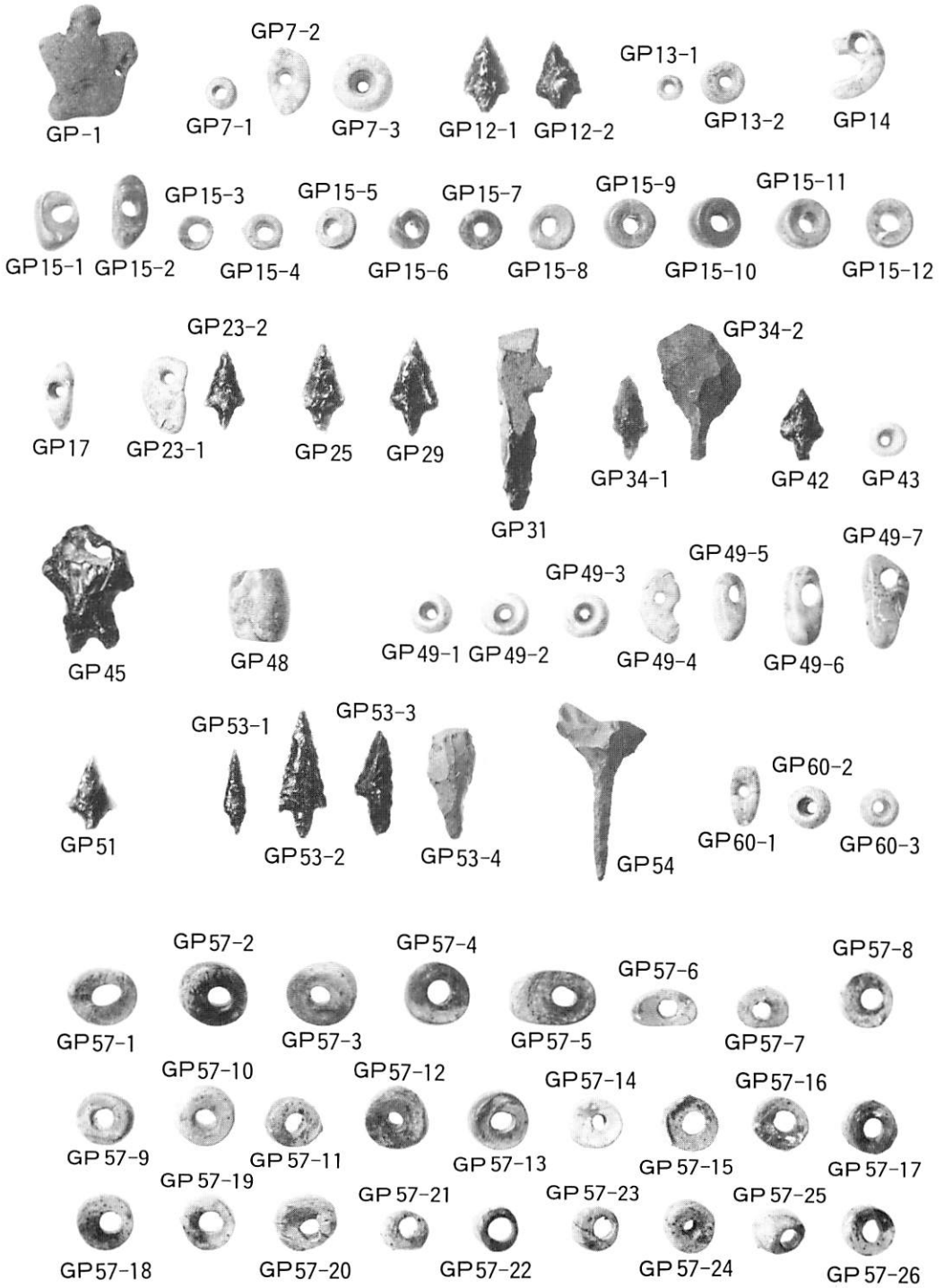
沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-139・140・142~145・147~149・151~153・155~157)



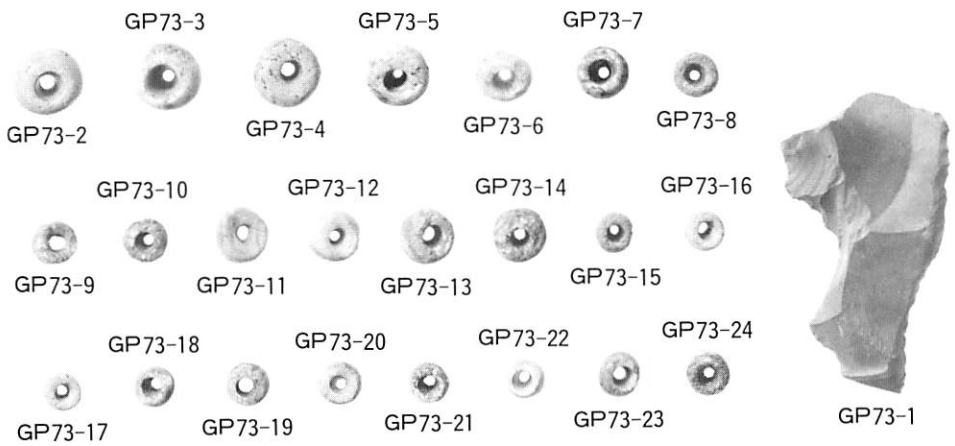
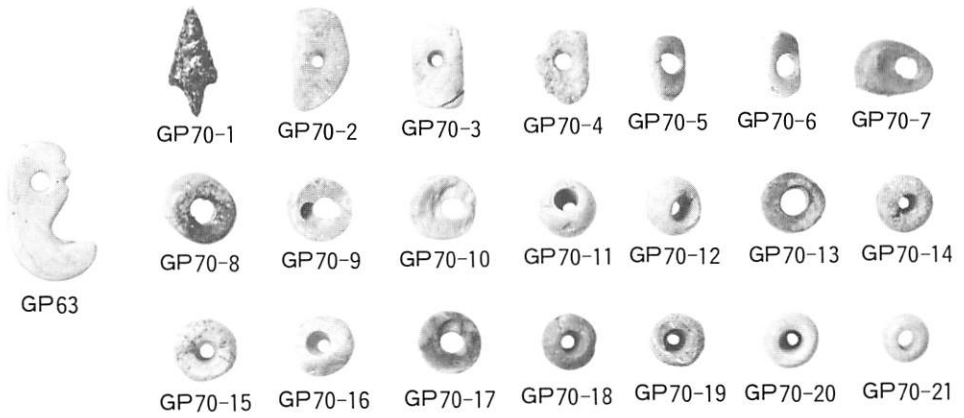
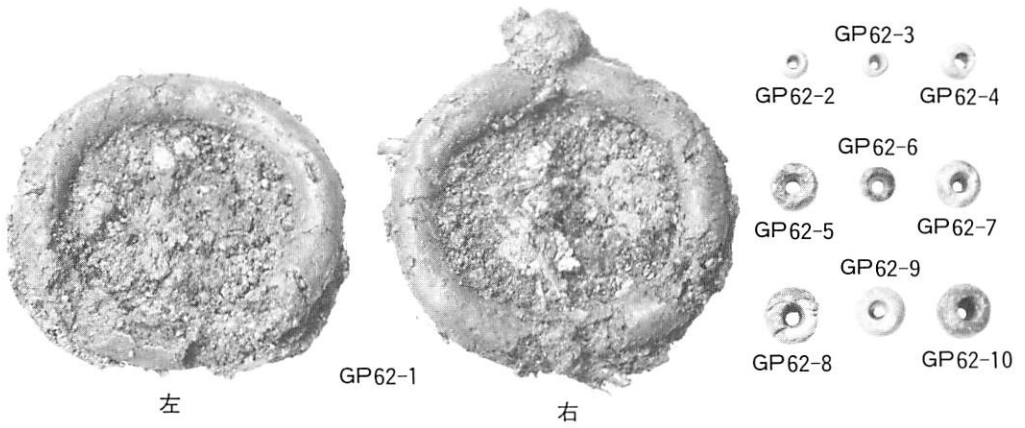
沢町遺跡墓域出土の土器 (GP-157・158・160・161)

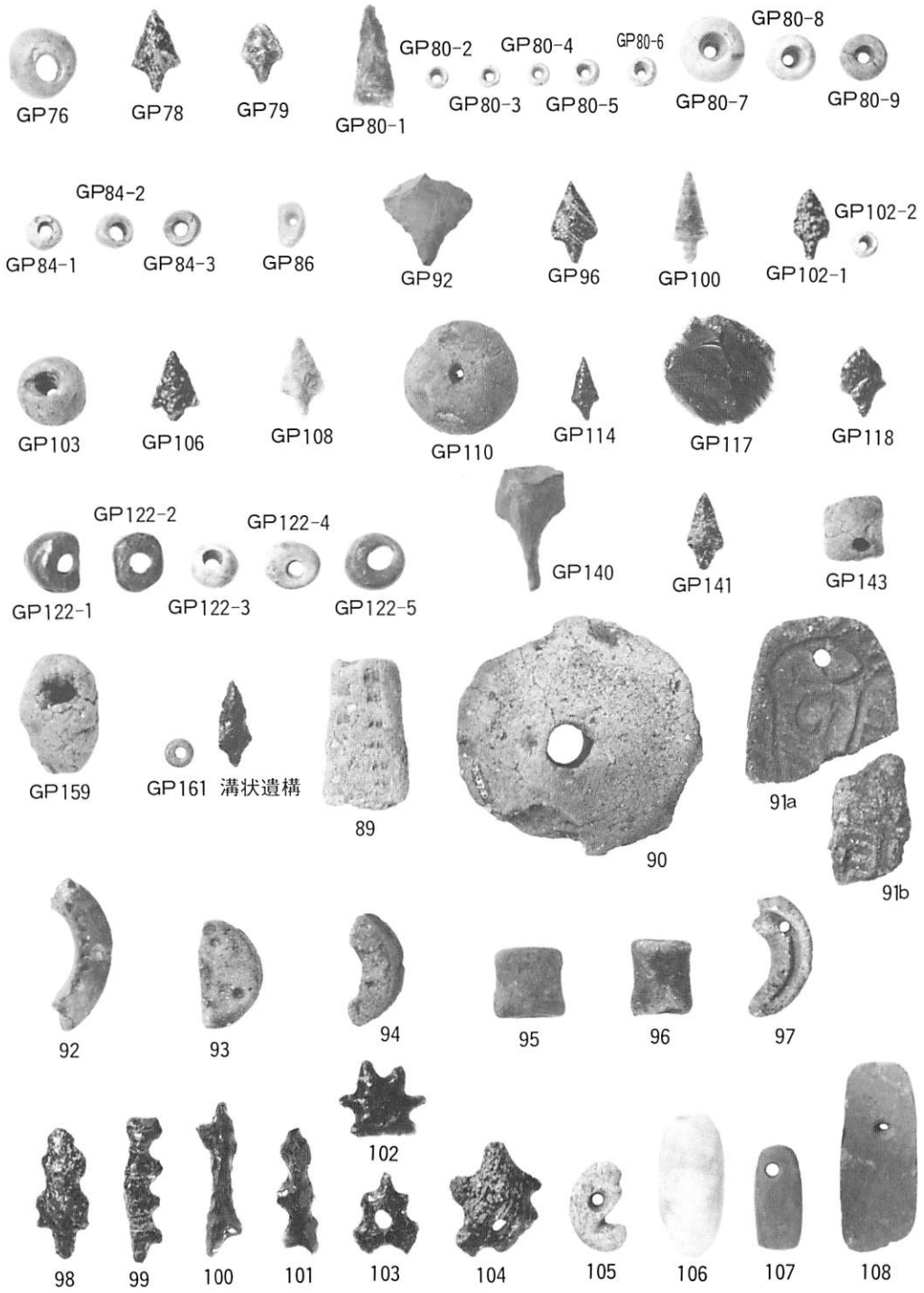


沢町遺跡墓域・溝状遺構・遺構外出土の土器（GP-161, 溝状遺構, 12~15・25・27）

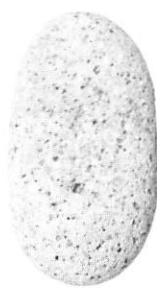


沢町遺跡墓域出土の遺物 (GP-1~57)





沢町遺跡墓域・溝状遺構・遺構外出土の遺物



GP 5



GP7-1



GP7-2



GP13



GP39



GP42



GP48-1



GP48-2



GP51-2



GP51-1



GP53



GP56



GP57



GP58



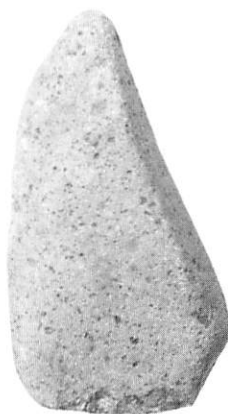
GP60-1



GP60-2



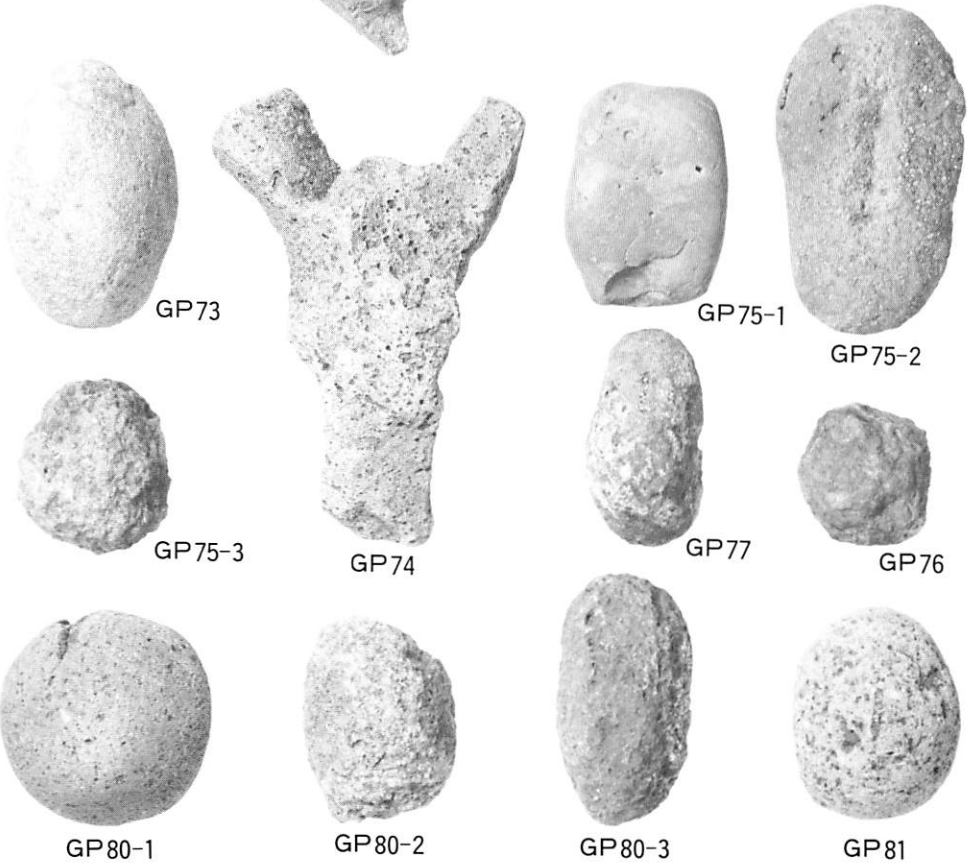
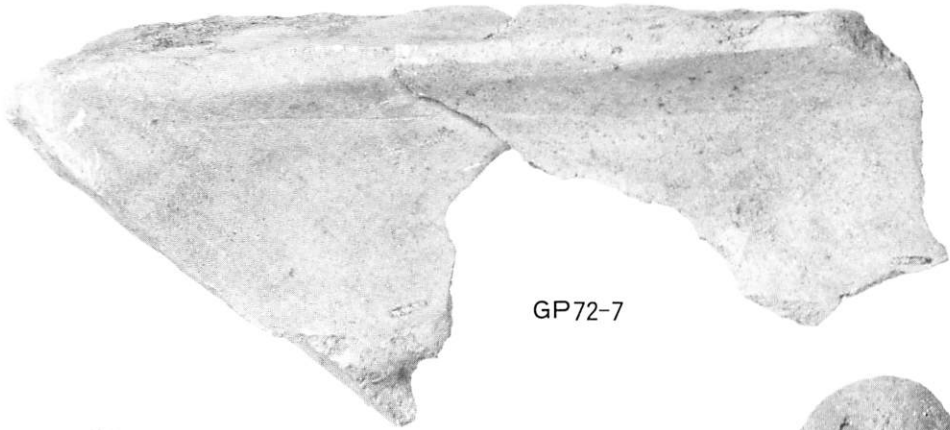
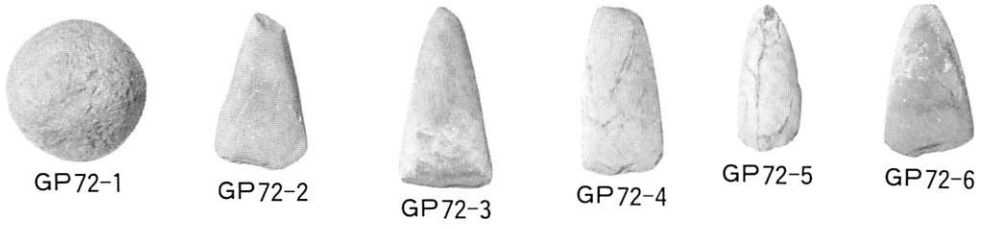
GP62



GP64



GP70



沢町遺跡墓壙出土の遺物 (GP-72~81)



GP94



GP101



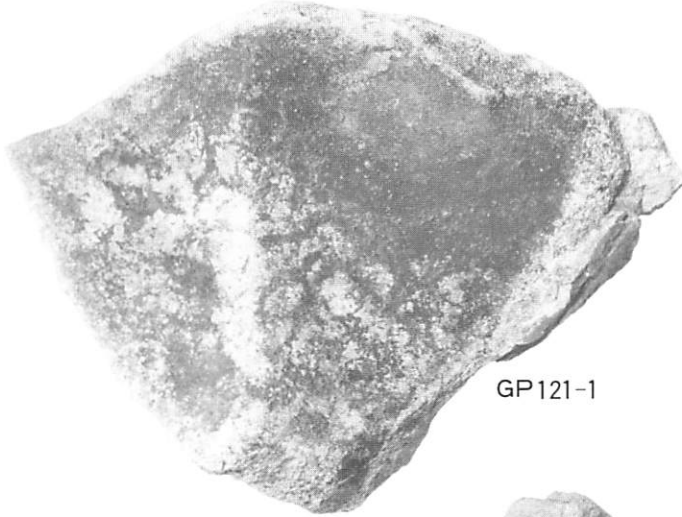
GP106



GP112



GP121-2



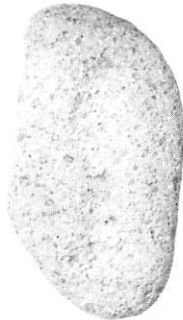
GP121-1



GP132



GP134



GP140



GP149



GP153-1



GP153-2



GP161



GP162



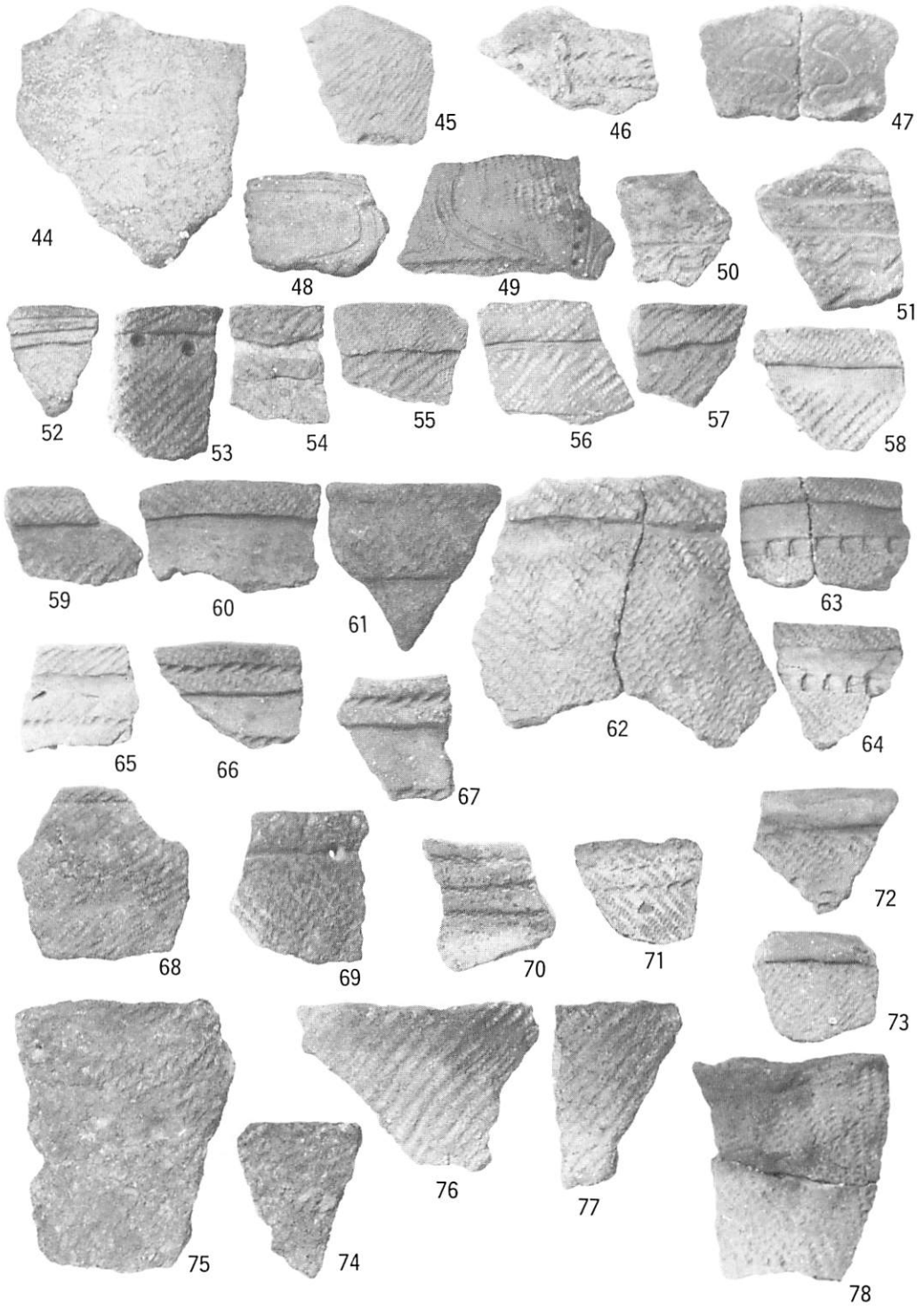
溝状遺構 1



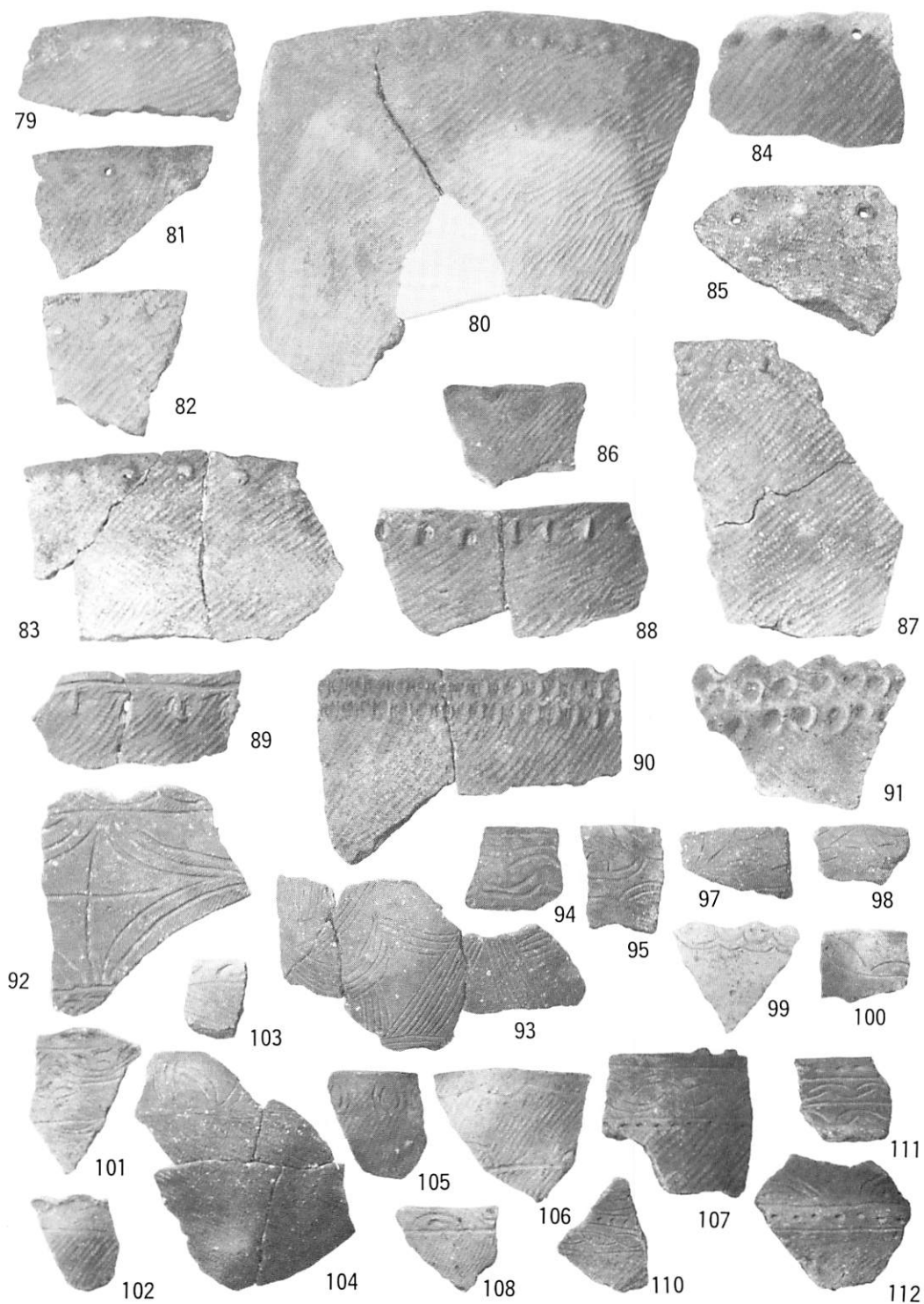
溝状遺構 2



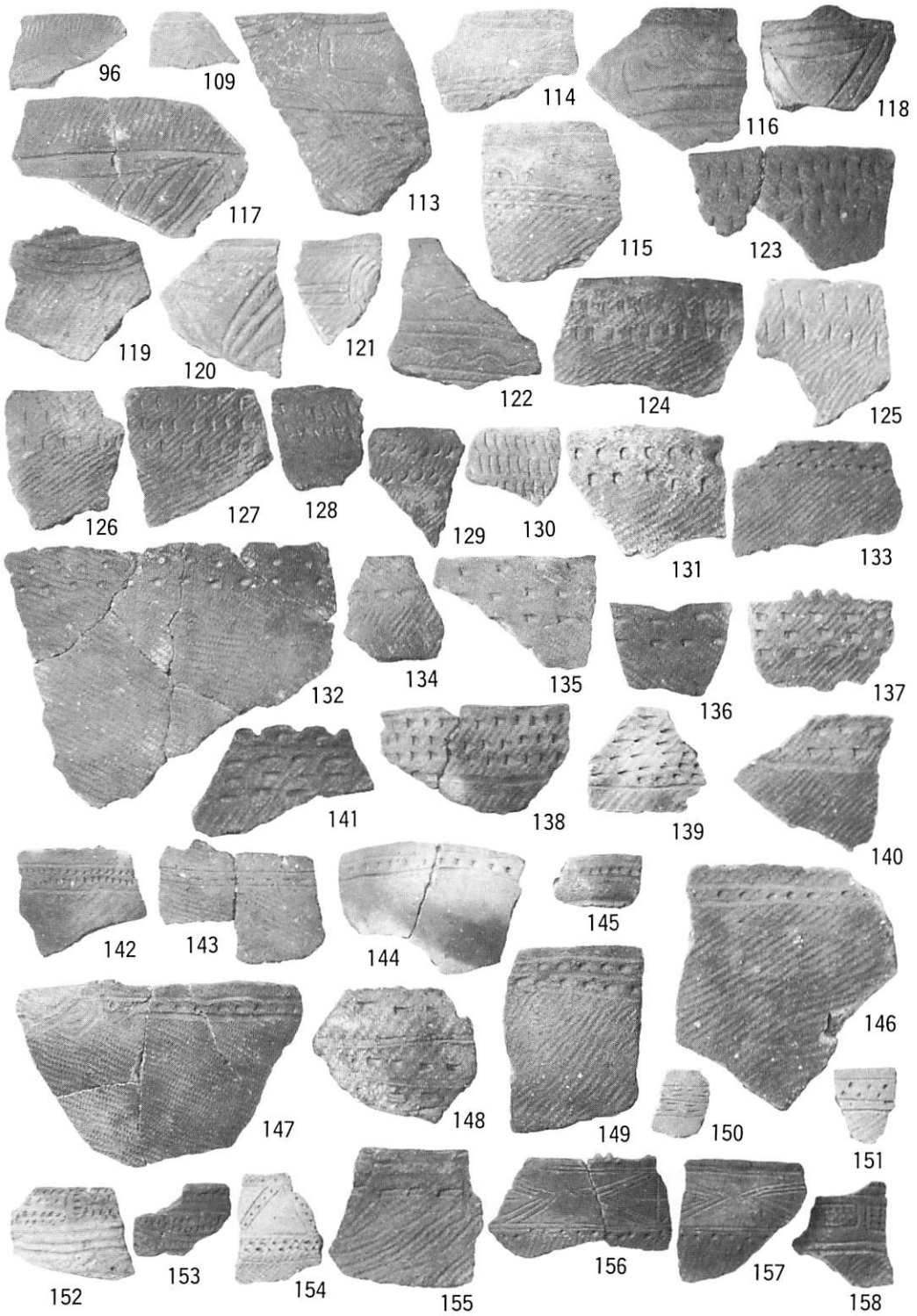
溝状遺構 3



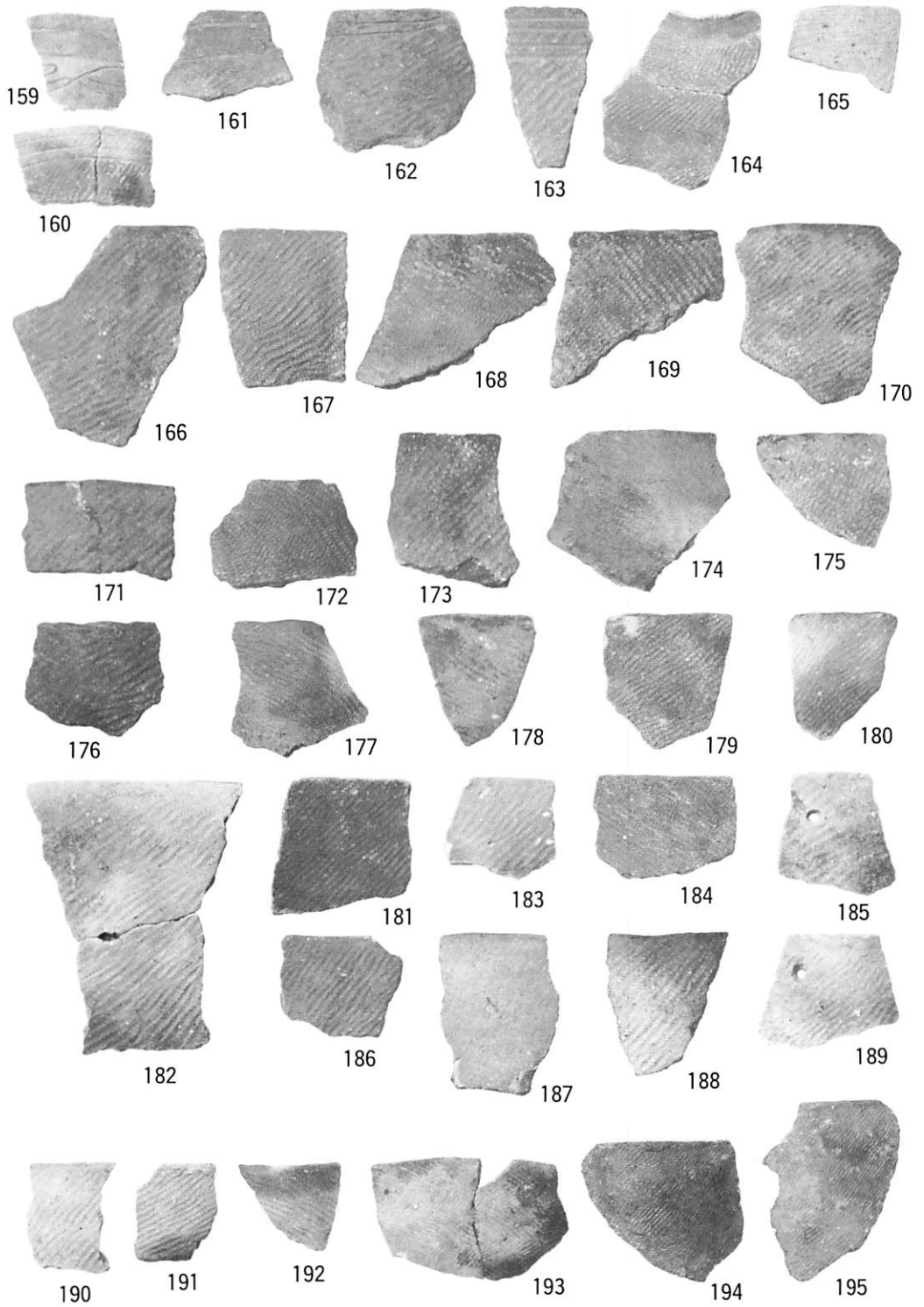
沢町遺跡遺構外出土のⅣ・Ⅴ群土器 (44~78)



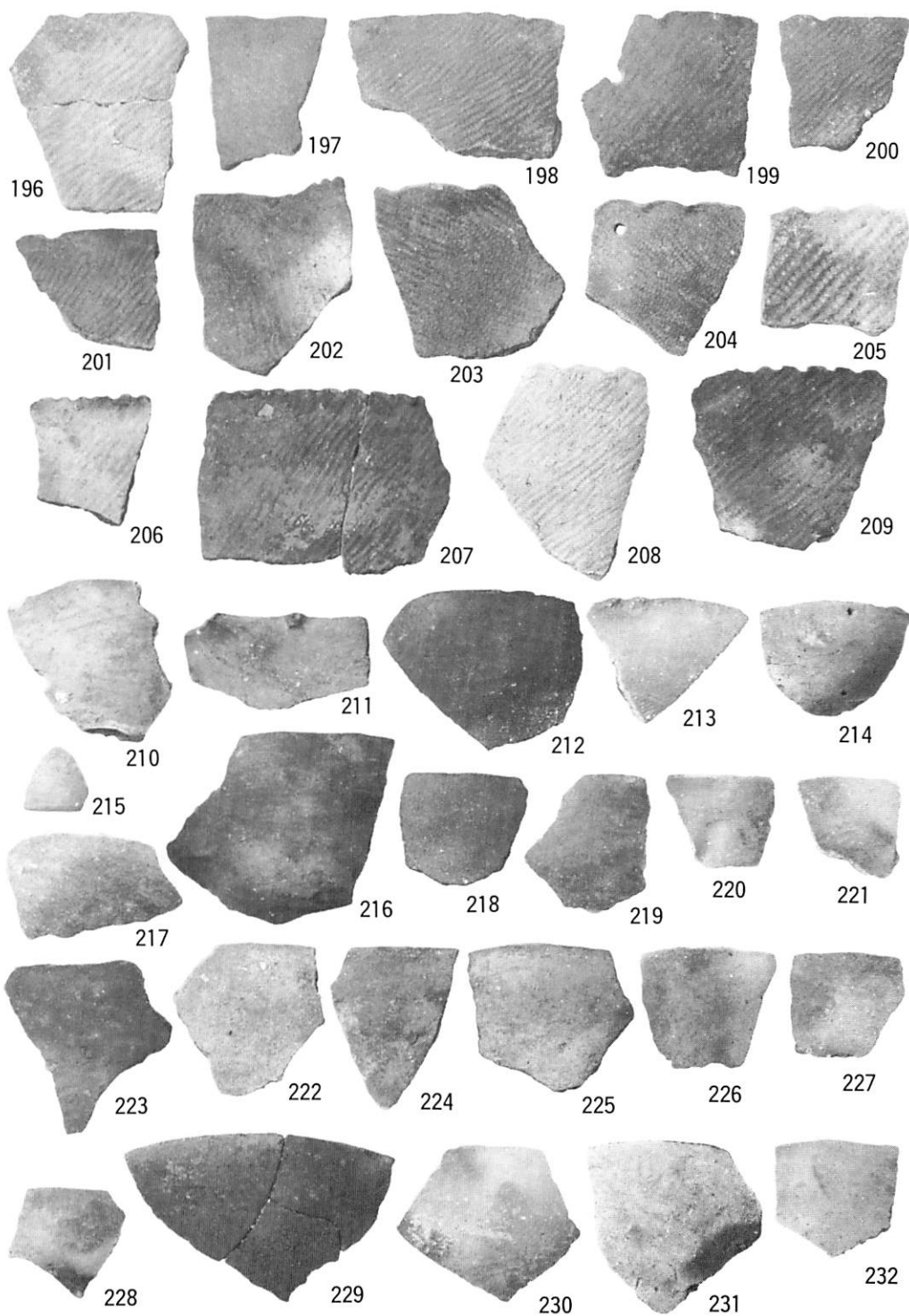
沢町遺跡遺構外出土のV・VI群土器 (79~112)



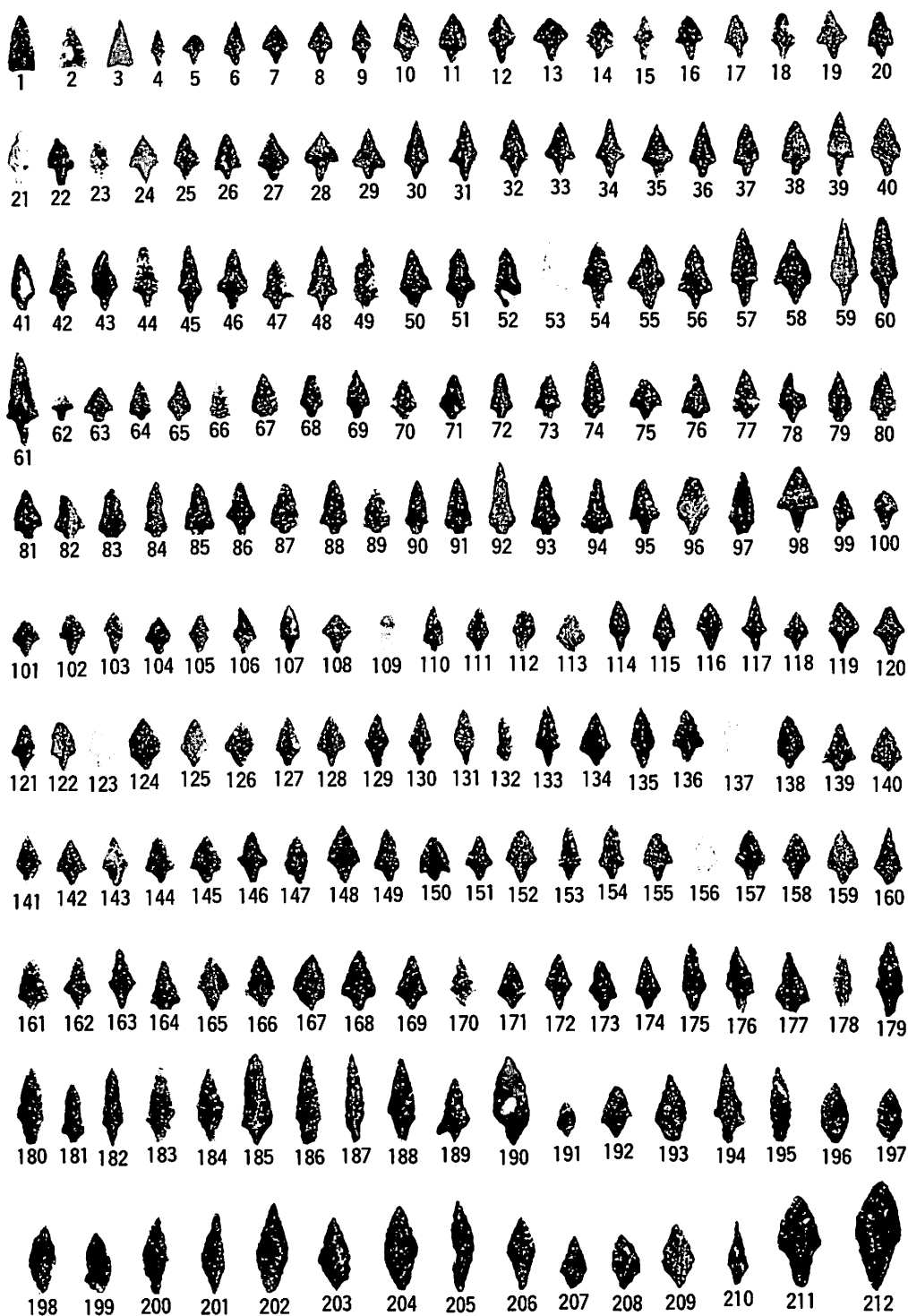
沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器 (96~158)



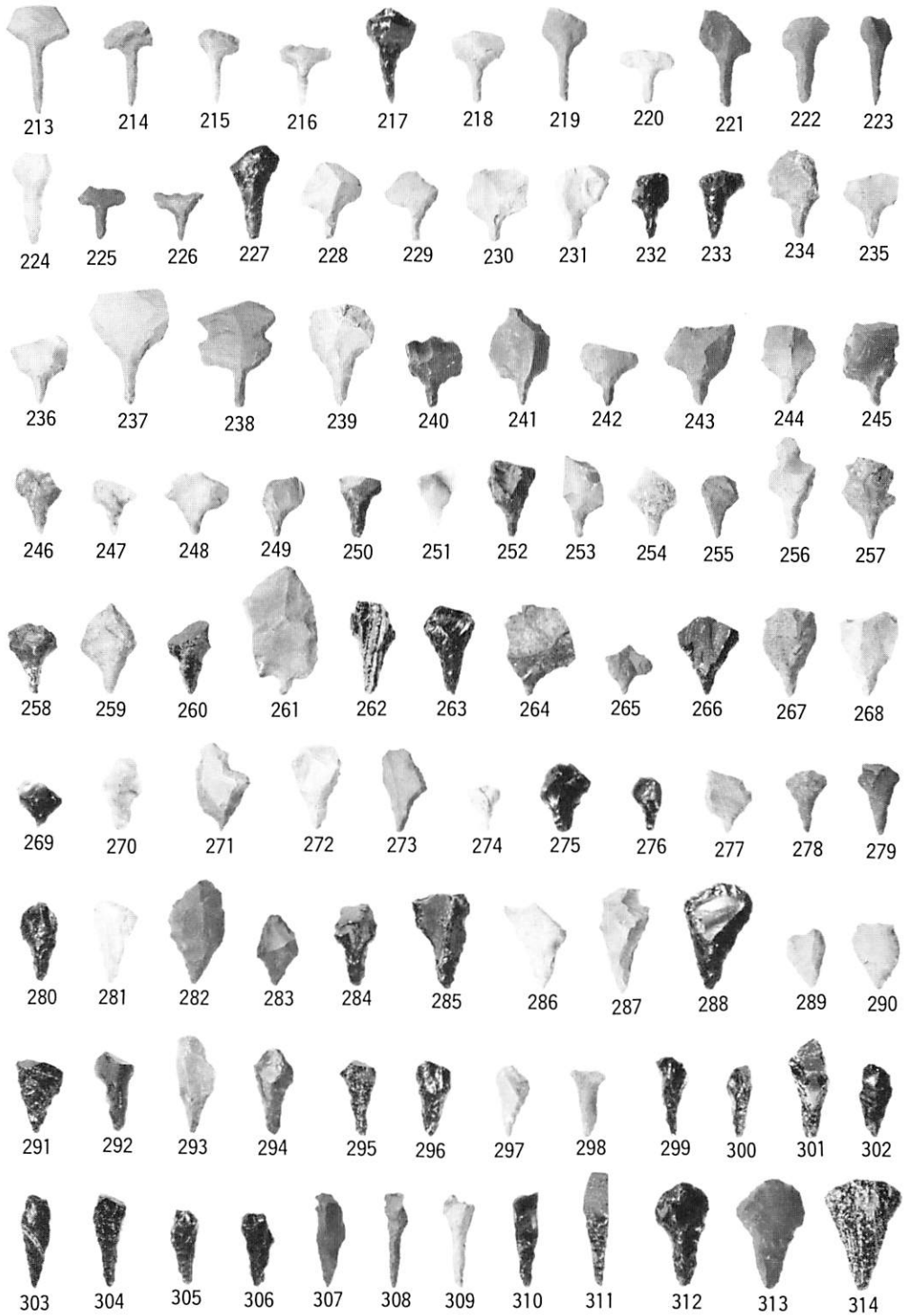
沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器 (159~195)



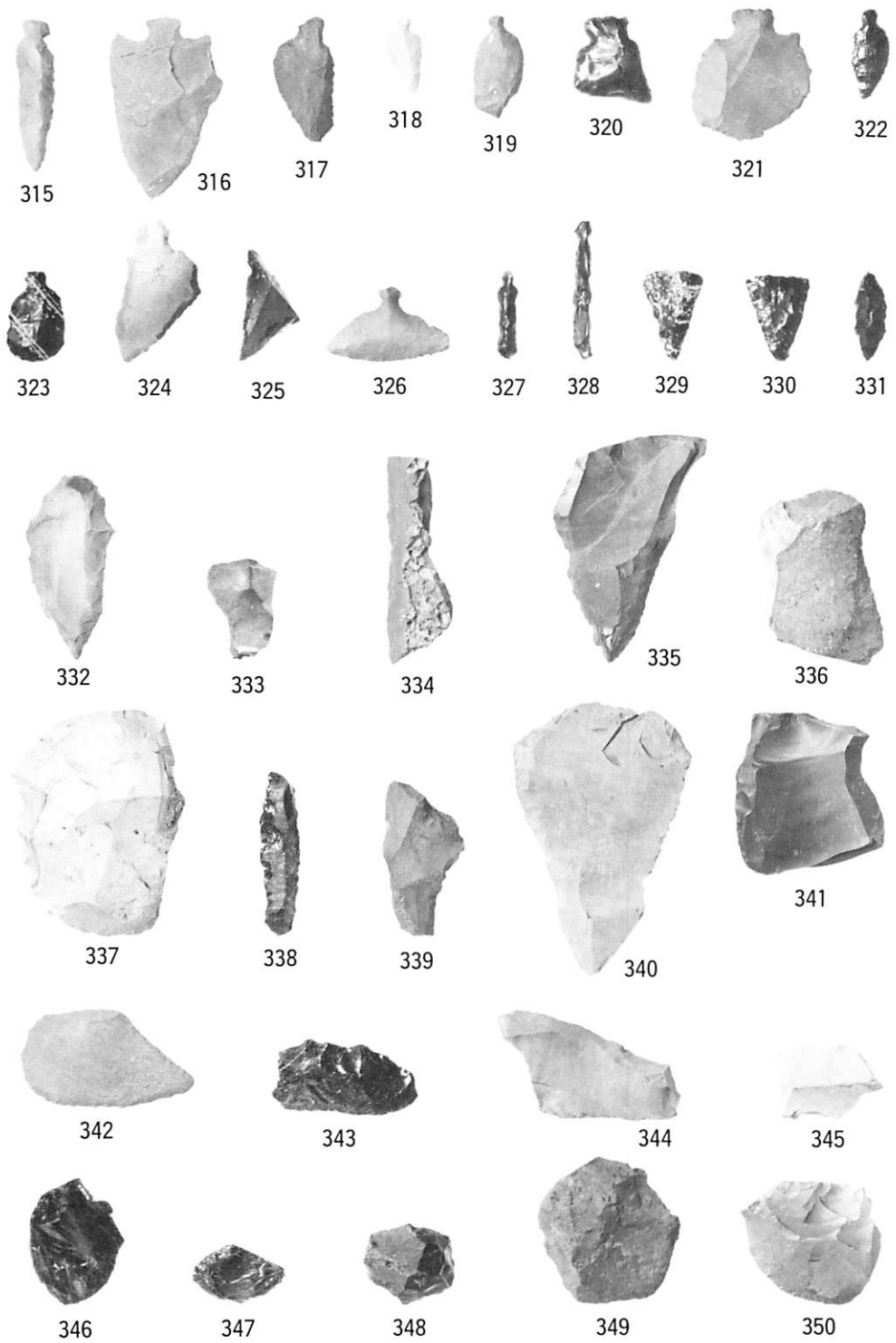
沢町遺跡遺構外出土のⅥ群土器 (196~232)



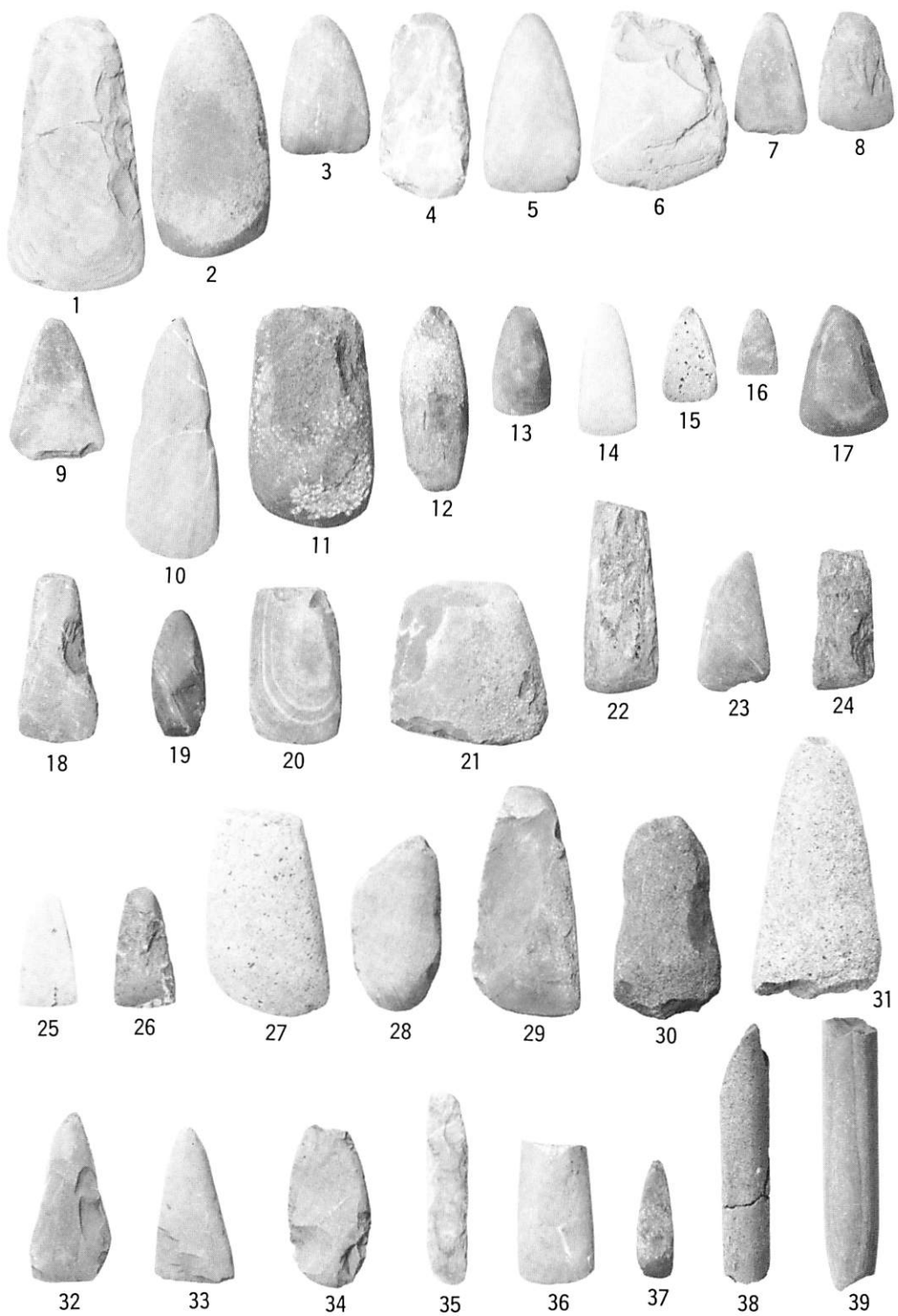
沢町遺跡遺構外出土のI群石器 (1~212)



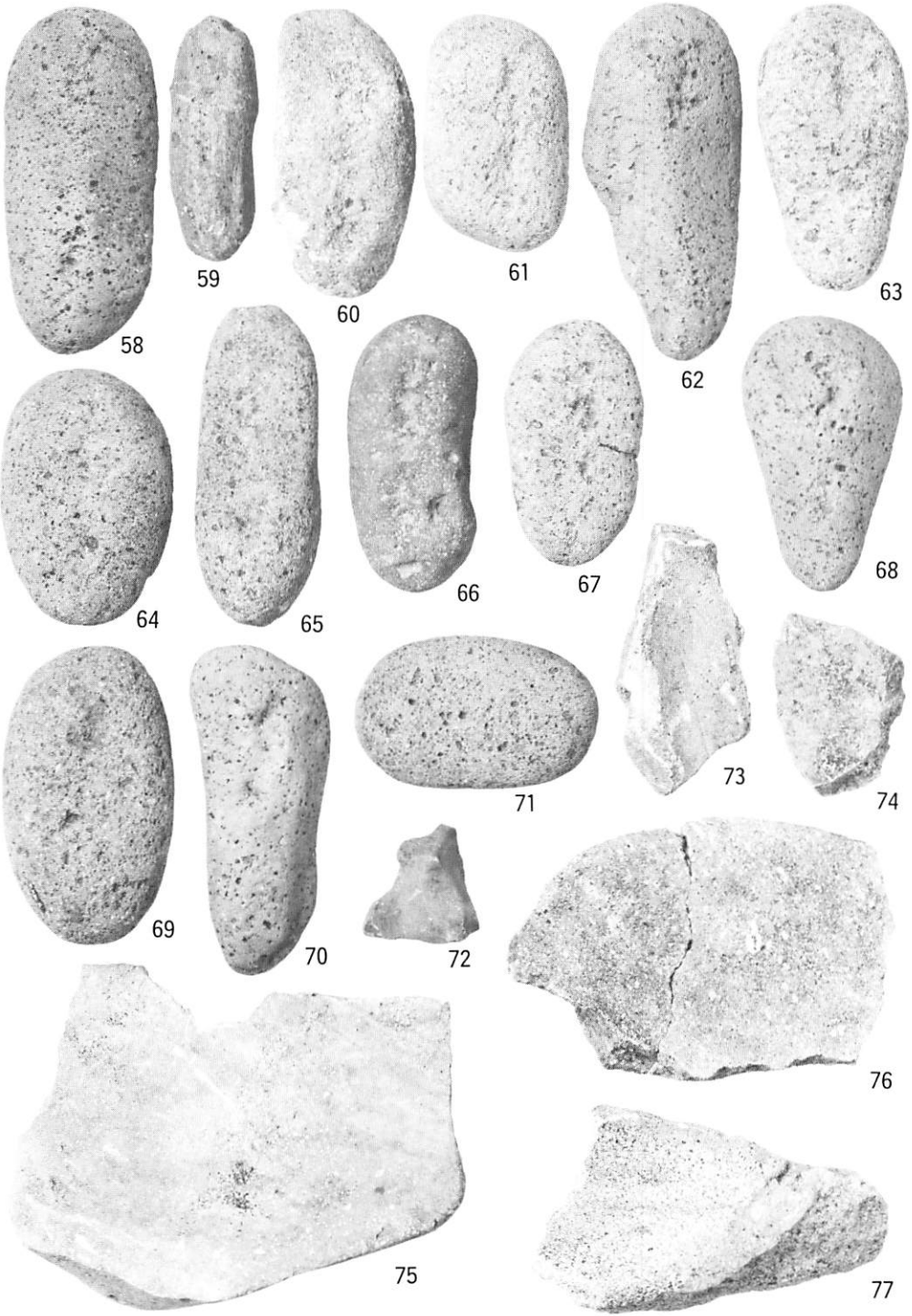
沢町遺跡遺構外出土のII群石器 (213~314)



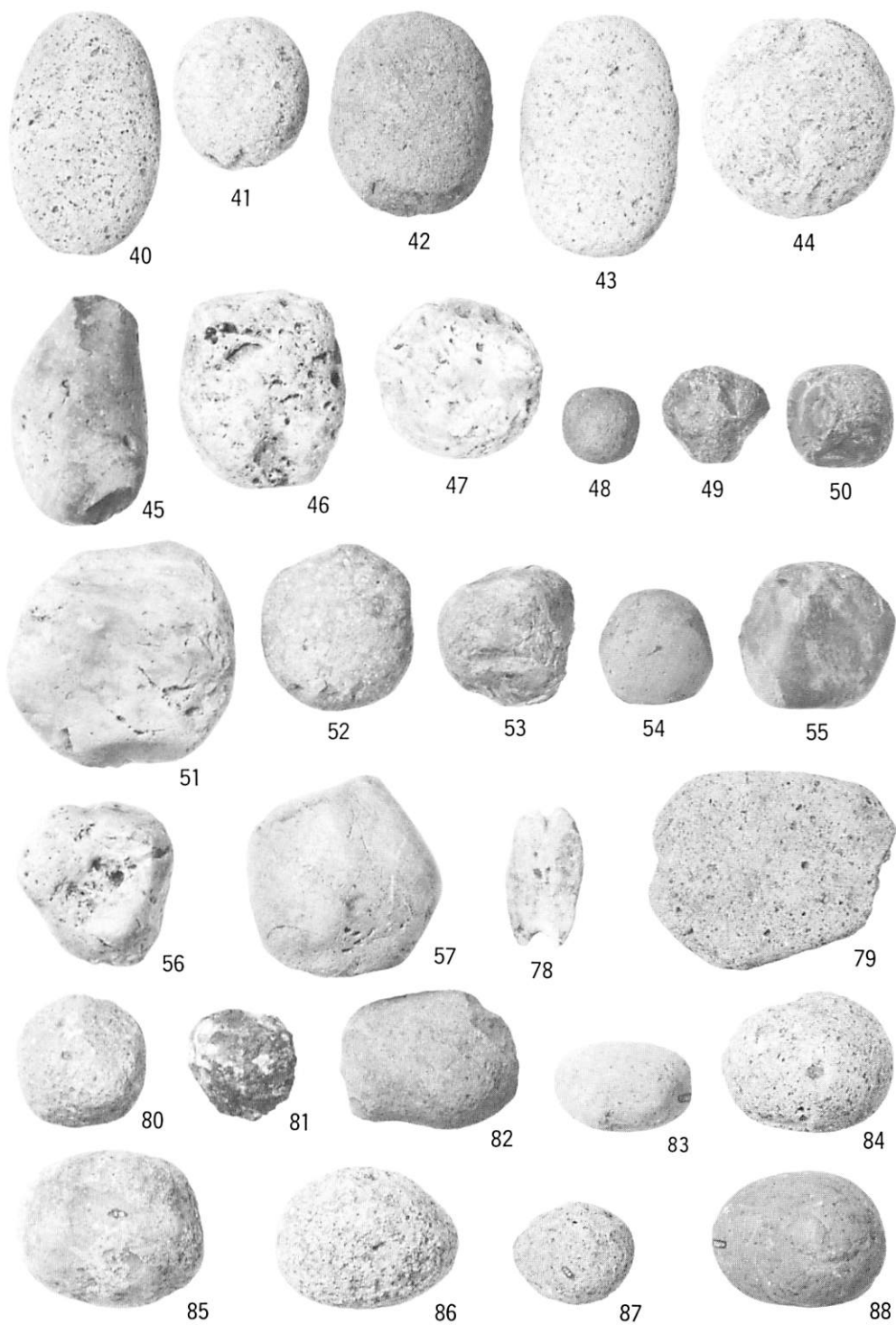
沢町遺跡遺構外出土のⅢ・Ⅳ群石器 (315~350)



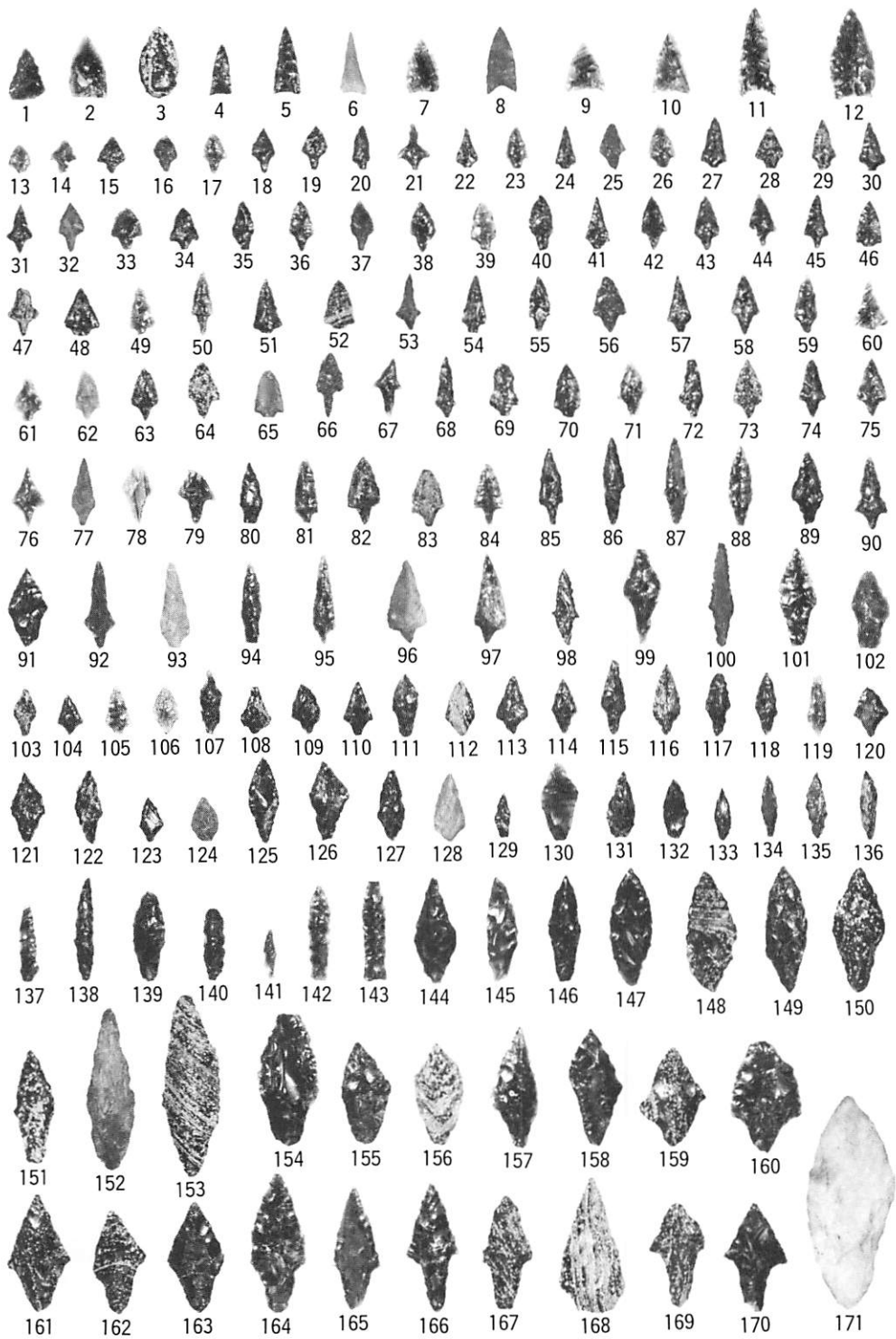
沢町遺跡遺構外出土のV・VI群石器 (1~39)



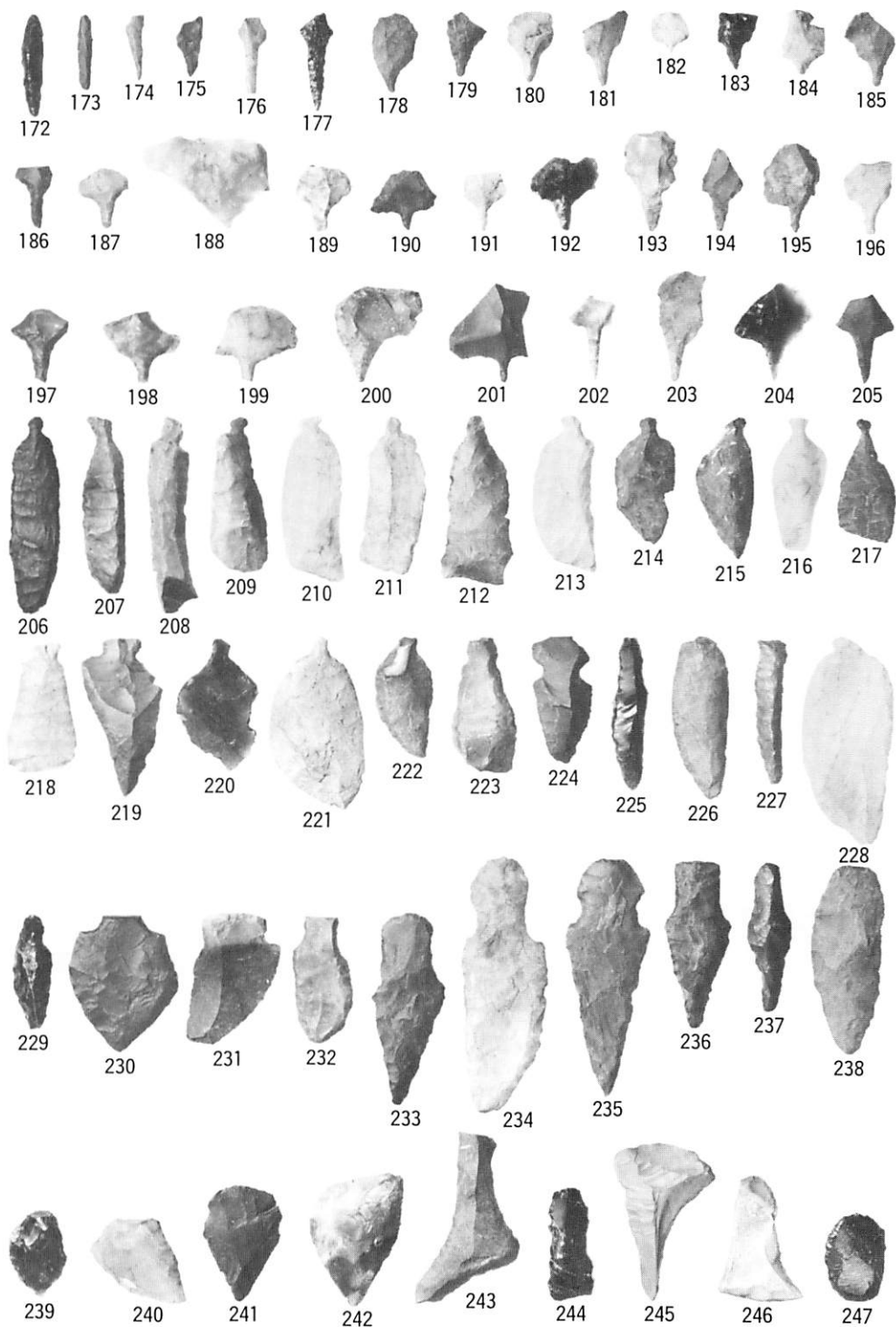
沢町遺跡遺構外出土のⅥ・Ⅸ・Ⅹ群石器 (58~77)



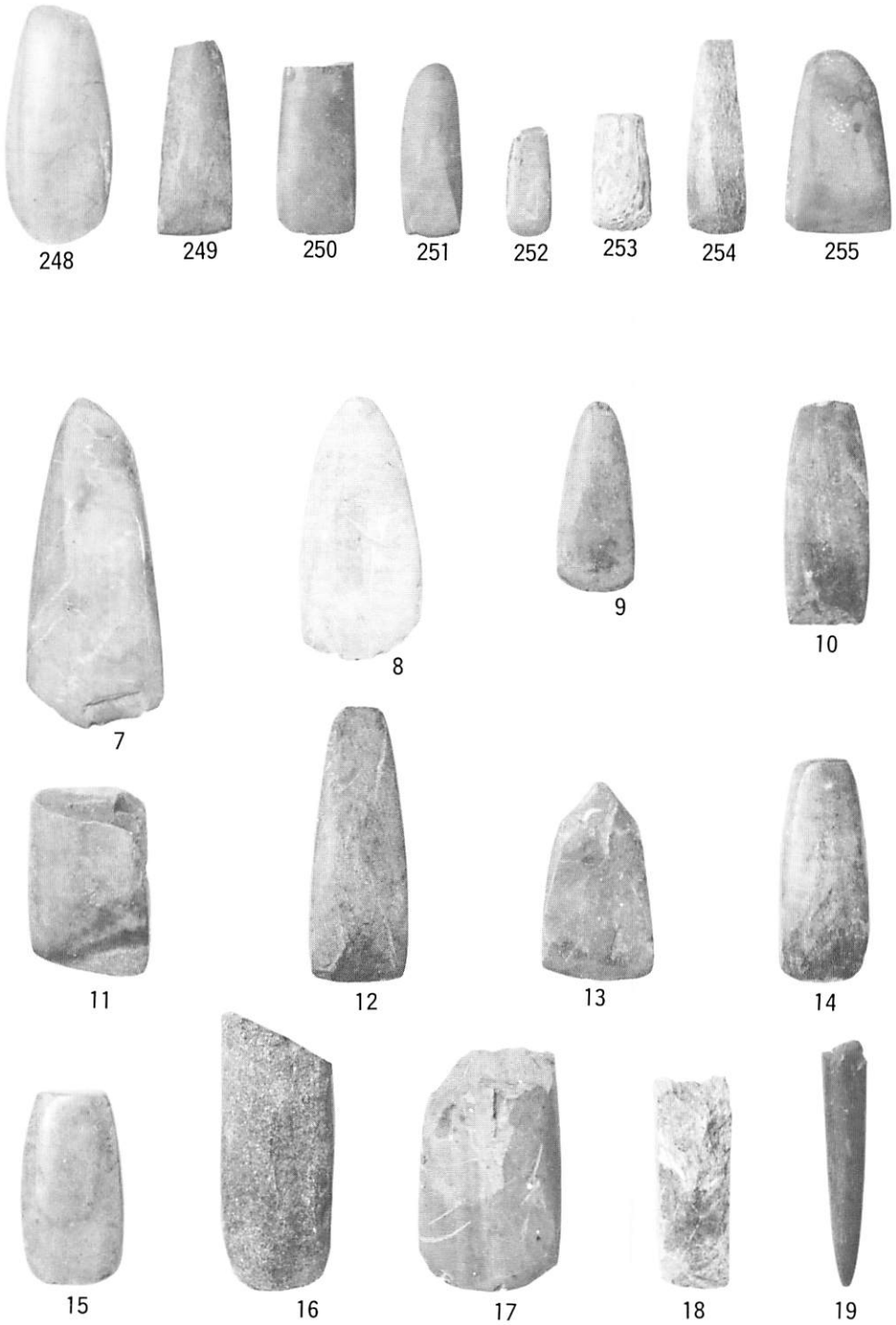
沢町遺跡遺構外出土のⅦ・Ⅺ群石器と握石（40～88）



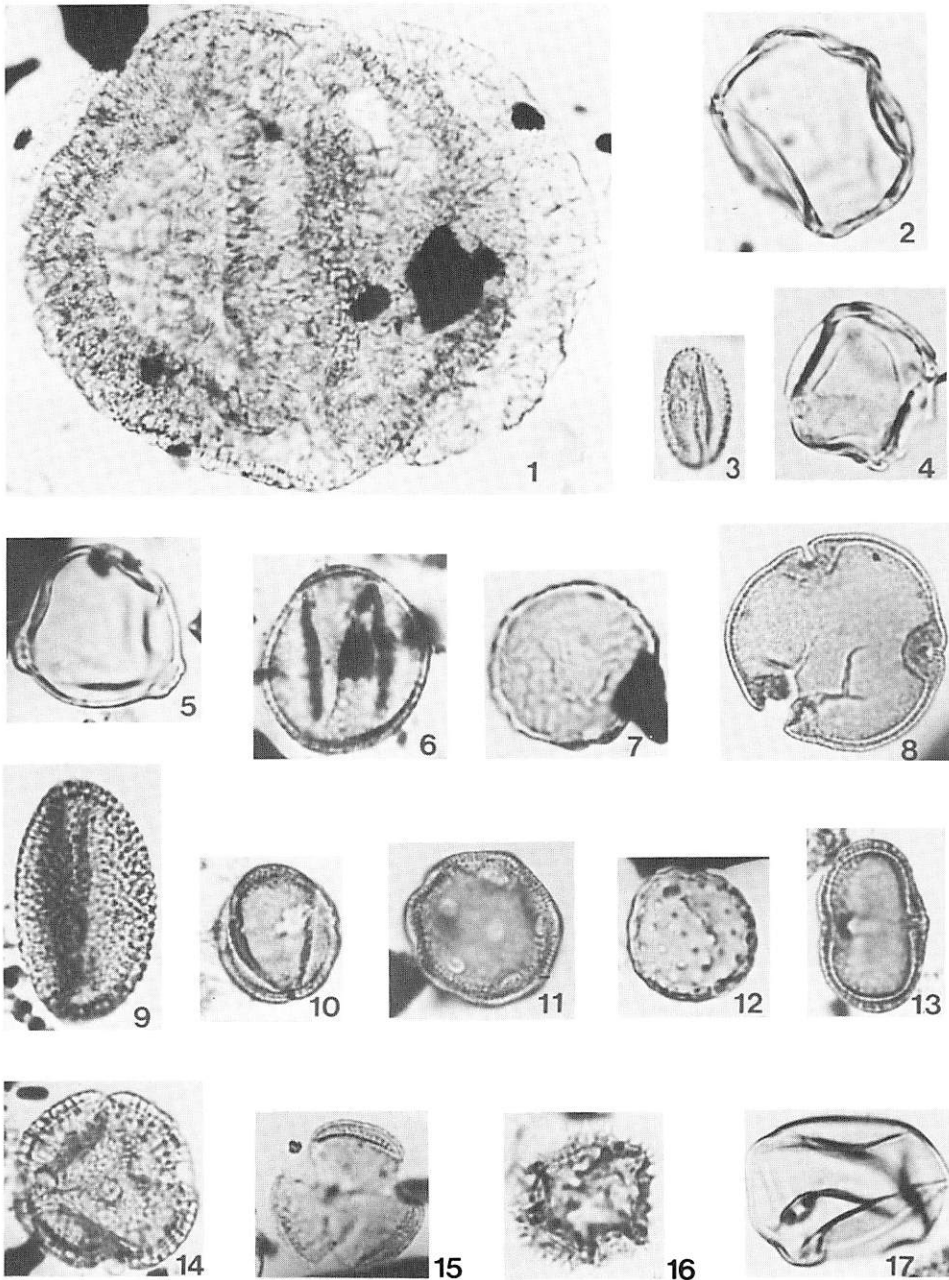
沢町遺跡出土のI群石器（米坂コレクション）（1～171）



沢町遺跡出土のII～IV群石器（米坂コレクション）（172～247）

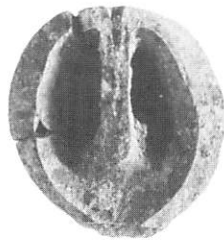


沢町遺跡出土の石斧・石棒（248～255米坂コレクション、7～19土野コレクション）



沢町遺跡より産出した主な花粉・胞子

1 *Abies* C-15 III-1, 2 *Juglans* C-15 II-3, 3 *Salix-Populus* C-15 II-2, 4 *Alnus* SH-2床,
 5 *Betula* SH-2床, 6 *Quercus* SH-2床, 7 *Ulmus* C-15 II-3, 8 *Tilia* SH-2床, 9 *Fagopyrum* F-22
 I-2, 10 Polygonaceae C-15 II-4, 11 Caryophyllaceae F-22 I-1, 12 Chenopobiaceae F-22
 I-2, 13 Umbelliferae C-15 III-1, 14 Cruciferae F-22 I-2, 15 *Artemisia* C-15 III-2, 16
 Cichorioideae F-22 I-2, 17 Gramineae F-22 I-2 (倍率は×750)



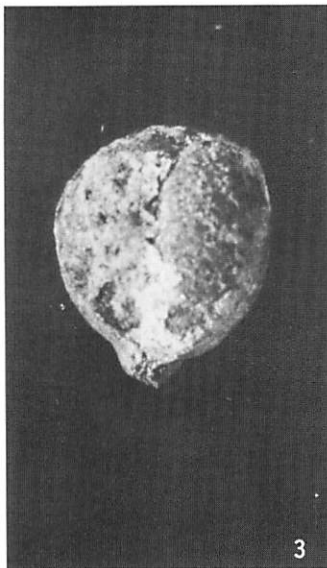
1

クルミ



2

ミズナラ



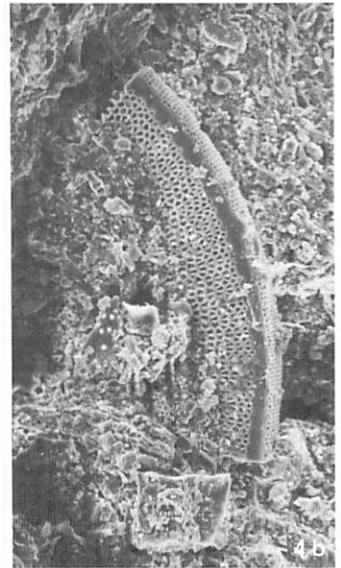
3

ヤマブドウ



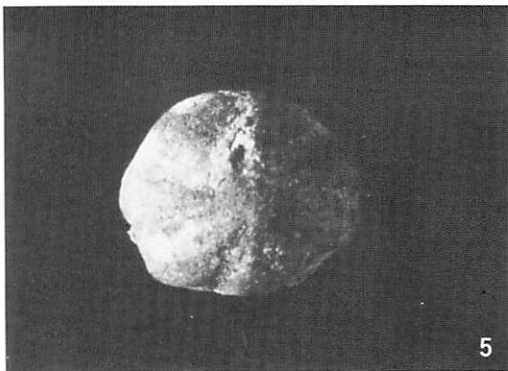
4 a

ヤマブドウ (×35)



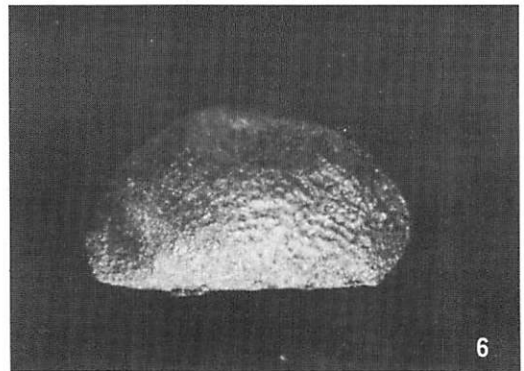
4 b

(×500)



5

ミズキ



6

キハダ



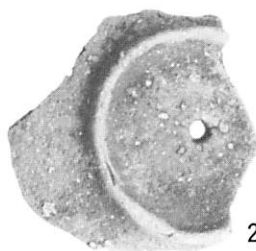
GP14



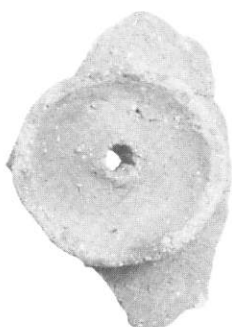
20



GP86



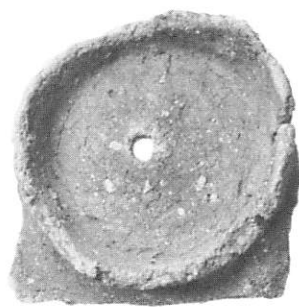
21



GP56



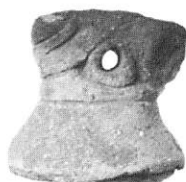
22



GP61



GP111



34



GP53



24



23

沢町遺跡出土の底部有孔土器と特殊土器破片 (20~24・34は遺構外出土)

沢 町 遺 跡

発行日 1989年 3月25日

発 行 北海道余市町教育委員会
北海道余市町朝日町26番地

印刷所 商工社 久留宮印刷
北海道余市町大川町4丁目98番地
